

# 2012年度 人間環境学部 講義概要 (シラバス)



# 科目一覽

〔発行日：2021/6/1〕最新版のシラバスは、法政大学 Web シラバス (<https://syllabus.hosei.ac.jp/>) で確認してください。

基幹	【C2001】	行政法の基礎 [後藤 彌彦] 後期授業	1
基幹	【C2002】	民法 I [花立 文子] 前期授業	1
基幹	【C2003】	民法 II [花立 文子] 後期授業	2
基幹	【C2004】	国際法 I [岡松 暁子] 前期授業	3
基幹	【C2005】	国際法 II [岡松 暁子] 後期授業	4
基幹	【C2006】	市民社会と政治 [谷本 有美子] 前期授業	4
基幹	【C2007】	行政学 [申 龍徹] 年間授業	5
基幹	【C2008】	国際関係論 [岡松 暁子] 前期授業	6
基幹	【C2009】	アメリカ法の基礎 [永野 秀雄] 前期授業	6
基幹	【C2010】	地方自治論 [小島 聡] 前期授業	7
基幹	【C2011】	憲法の基礎 [土屋 志穂] 後期授業	8
基幹	【C2012】	刑法の基礎 [渡辺 靖明] 前期授業	9
政策	【C2013】	環境法 I [後藤 彌彦] 前期授業	10
政策	【C2014】	環境法 II [永野 秀雄] 後期授業	10
政策	【C2015】	環境法 III [後藤 彌彦] 前期授業	11
政策	【C2016】	環境法 IV [長井 圓] 後期授業	11
政策	【C2017】	国際環境法 [岡松 暁子] 後期授業	12
政策	【C2018】	比較環境法 [後藤 彌彦] 後期授業	13
政策	【C2019】	労働環境法 [沼田 雅之] 前期授業	14
政策	【C2020】	自治体環境政策論 I [小島 聡] 前期授業	15
政策	【C2021】	自治体環境政策論 II [小島 聡] 後期授業	16
政策	【C2022】	日本公害史と法 [後藤 彌彦] 後期授業	17
政策	【C2023】	アメリカ環境法 [永野 秀雄] 後期授業	17
政策	【C2024】	エネルギー政策論 [菊地 昌廣] 前期授業	18
政策	【C2025】	地球環境政治論 [横田 匡紀] 前期授業	19
政策	【C2026】	地域協力・統合 [大中 一彌] 後期授業	20
政策	【C2027】	地方自治論 I [小島 聡] 前期授業	21
政策	【C2028】	地方自治論 II [小島 聡] 前期授業	22
政策	【C2029】	国際環境法 I [岡松 暁子] 後期授業	23
政策	【C2030】	国際環境法 II [後藤 彌彦] 後期授業	23
基幹	【C2100】	ミクロ経済学 I [中平 千彦] 前期授業	24
基幹	【C2101】	ミクロ経済学 I [金城 盛彦] 前期授業	25
基幹	【C2102】	ミクロ経済学 II [中平 千彦] 後期授業	26
基幹	【C2103】	ミクロ経済学 II [金城 盛彦] 後期授業	27
基幹	【C2104】	マクロ経済学 I [田中 茉莉子] 前期授業	28
基幹	【C2105】	マクロ経済学 II [田中 茉莉子] 後期授業	28
基幹	【C2106】	公共経済学 [小田 圭一郎] 後期授業	29
基幹	【C2107】	簿記入門 I・II [北田 皓嗣] 年間授業	29
基幹	【C2108】	現代企業論 [長谷川 直哉] 前期授業	30
政策	【C2109】	環境経済論 I [國則 守生] 前期授業	32
政策	【C2110】	環境経済論 II [國則 守生] 後期授業	32
政策	【C2111】	環境経営論 I [堀内 行蔵] 前期授業	33
政策	【C2112】	環境経営論 II [堀内 行蔵] 後期授業	33
政策	【C2113】	環境経営実践論 I [花田 正明] 前期授業	34
政策	【C2114】	環境経営実践論 II [花田 正明] 後期授業	35
政策	【C2115】	CSR 論 I [長谷川 直哉] 前期授業	37
政策	【C2116】	CSR 論 II [長谷川 直哉] 後期授業	38
政策	【C2117】	EMS 論 [長谷川 直哉] 後期授業	38
政策	【C2118】	国際環境政策 I [國則 守生] 前期授業	39
政策	【C2119】	国際環境政策 II [國則 守生] 後期授業	39
政策	【C2120】	途上国経済論 I [武貞 稔彦] 前期授業	40
政策	【C2121】	途上国経済論 II [武貞 稔彦] 後期授業	41
政策	【C2122】	国際経済協力論 I [武貞 稔彦] 前期授業	42

政策	【C2123】	国際経済協力論Ⅱ [武貞 稔彦] 後期授業	43
政策	【C2124】	環境評価論Ⅰ [金城 盛彦] 前期授業	44
政策	【C2125】	環境評価論Ⅱ [金城 盛彦] 後期授業	45
政策	【C2126】	環境ビジネス論 [竹ヶ原 啓介] 後期授業	46
政策	【C2127】	国際環境政策 [國則 守生] 前期授業	47
基幹	【C2200】	現代社会論Ⅰ [田中 勉] 前期授業	48
基幹	【C2201】	現代社会論Ⅱ [田中 勉] 前期授業	49
基幹	【C2202】	現代社会論Ⅲ [田中 勉] 後期授業	50
基幹	【C2203】	NPO・ボランティア論 [川崎 あや] 後期授業	51
基幹	【C2204】	フィールド調査論 [西城戸 誠] 前期授業	52
基幹	【C2205】	フィールド調査論 [田中 勉] 後期授業	53
基幹	【C2206】	フィールド調査論 [黒田 暁] 後期授業	54
基幹	【C2207】	社会統計論 [藤本 隆史] 後期授業	55
基幹	【C2208】	ファシリテーション論 [三田地 真実] 後期授業	56
基幹	【C2209】	グローバル・コミュニケーション [ESTHER STOCKWELL] 前期授業	57
政策	【C2210】	地域形成論 [後藤 純] 前期授業	58
政策	【C2211】	地域経済論 [松本 敦則] 後期授業	59
政策	【C2212】	地域福祉論 [宮脇 文恵] 前期授業	60
政策	【C2213】	地域コモンズ論 [平野 悠一郎] 後期授業	61
政策	【C2214】	都市環境論Ⅰ [石塚 義高] 前期授業	62
政策	【C2215】	都市環境論Ⅱ [石塚 義高] 後期授業	62
政策	【C2216】	都市デザイン論 [田中 大助] 前期授業	63
政策	【C2217】	環境社会論Ⅰ [西城戸 誠] 前期授業	64
政策	【C2218】	環境社会論Ⅱ [西城戸 誠] 後期授業	66
政策	【C2219】	環境社会論Ⅲ [西城戸 誠] 後期授業	67
政策	【C2220】	労働環境論Ⅰ [長峰 登記夫] 前期授業	68
政策	【C2221】	労働環境論Ⅱ [長峰 登記夫] 後期授業	69
政策	【C2222】	労働環境論Ⅲ [長峰 登記夫] 前期授業	70
政策	【C2223】	NGO活動論 [中村 玲子] 後期授業	71
政策	【C2225】	地域環境ケーススタディⅠ [川端 直志] 前期授業	72
政策	【C2226】	地域環境ケーススタディⅡ [川端 直志] 後期授業	73
政策	【C2227】	災害政策論 [鍵屋 一] 前期授業	73
政策	【C2228】	科学技術社会論 [野澤 聡] 前期授業	74
政策	【C2229】	社会開発論 [吉田 秀美] 後期授業	75
政策	【C2230】	グローバルコミュニティ [荒川 裕子] 後期授業	76
政策	【C2231】	開発教育 [福田 紀子] 前期授業	77
政策	【C2232】	人間環境特論 (ファシリテーションの基礎) [三田地 真実] 後期授業	78
政策	【C2233】	人間環境特論 (環境と地域の持続性を考える) [西城戸 誠] 後期授業	79
政策	【C2234】	人間環境特論 (農と食から考える現代日本社会) [船戸 修一] 後期授業	80
基幹	【C2300】	西欧近代批判の思想 [越部 良一] 後期授業	81
基幹	【C2301】	仏教思想 [関口 和男] 前期授業	81
基幹	【C2302】	日本詩歌の伝統 [日原 傳] 前期授業	82
基幹	【C2303】	比較演劇論Ⅰ [平野井 ちえ子] 前期授業	82
基幹	【C2304】	比較演劇論Ⅱ [平野井 ちえ子] 後期授業	83
基幹	【C2305】	伝統芸能論Ⅰ [安藤 俊次] 前期授業	84
基幹	【C2306】	伝統芸能論Ⅱ [安藤 俊次] 後期授業	85
基幹	【C2307】	日本美術史論 [豊田 和平] 後期授業	85
基幹	【C2308】	西洋美術史論 [板橋 美也] 前期授業	86
基幹	【C2309】	生命の現在と倫理 [鶴岡 健] 前期授業	87
基幹	【C2310】	環境倫理学 [鶴岡 健] 後期授業	88
政策	【C2311】	環境哲学基礎論 [関口 和男] 後期授業	89
政策	【C2312】	日本環境史論Ⅰ [根崎 光男] 前期授業	90
政策	【C2313】	日本環境史論Ⅱ [根崎 光男] 後期授業	90
政策	【C2314】	ヨーロッパ環境史論Ⅰ [辻 英史] 前期授業	91
政策	【C2315】	ヨーロッパ環境史論Ⅱ [辻 英史] 後期授業	92
政策	【C2316】	環境人類学Ⅰ [安田 章人] 前期授業	93
政策	【C2317】	環境人類学Ⅱ [目黒 紀夫] 後期授業	94

政策	【C2318】	人間環境特論（ヨーロッパ都市環境史論Ⅰ）	[辻 英史]	前期授業	95
政策	【C2319】	人間環境特論（ヨーロッパ都市環境史論Ⅱ）	[辻 英史]	後期授業	96
基幹	【C2320】	日本美術の系譜	[豊田 和平]	後期授業	97
基幹	【C2400】	自然環境科学の基礎（化学）	[石井 利典]	前期授業	98
基幹	【C2401】	自然環境科学の基礎（生物学）	[宮川 路子]	後期授業	98
基幹	【C2402】	自然環境科学の基礎（生態学）	[高田 雅之]	前期授業	99
基幹	【C2403】	自然環境論Ⅰ	[井上 奉生]	前期授業	99
基幹	【C2404】	自然環境論Ⅱ	[井上 奉生]	前期授業	100
基幹	【C2405】	自然環境論Ⅲ	[井上 奉生]	後期授業	100
基幹	【C2406】	エネルギー論Ⅰ	[北川 徹哉]	前期授業	101
基幹	【C2407】	地球科学史Ⅰ	[谷本 勉]	前期授業	101
基幹	【C2408】	地球科学史Ⅱ	[谷本 勉]	後期授業	102
基幹	【C2409】	環境健康論Ⅰ	[朝比奈 茂]	前期授業	102
基幹	【C2410】	環境健康論Ⅱ	[朝比奈 茂]	後期授業	103
基幹	【C2411】	気候変動論Ⅰ	[松本 倫明]	前期授業	104
基幹	【C2412】	気候変動論Ⅱ	[松本 倫明]	後期授業	105
政策	【C2413】	自然環境政策論Ⅰ	[高田 雅之]	前期授業	105
政策	【C2414】	自然環境政策論Ⅱ	[高田 雅之]	後期授業	106
政策	【C2415】	自然環境論Ⅴ	[宇野 真介]	後期授業	107
政策	【C2416】	環境科学Ⅰ	[藤倉 良]	前期授業	108
政策	【C2417】	環境科学Ⅱ	[藤倉 良]	後期授業	108
政策	【C2418】	環境科学Ⅲ	[藤倉 良]	前期授業	109
政策	【C2419】	衛生・公衆衛生学Ⅰ	[宮川 路子]	前期授業	109
政策	【C2420】	衛生・公衆衛生学Ⅱ	[宮川 路子]	後期授業	110
政策	【C2421】	衛生・公衆衛生学Ⅲ	[宮川 路子]	前期授業	110
政策	【C2422】	エネルギー論Ⅱ	[北川 徹哉]	後期授業	111
政策	【C2423】	大気と社会Ⅰ	[北川 徹哉]	前期授業	111
政策	【C2424】	大気と社会Ⅱ	[北川 徹哉]	後期授業	112
政策	【C2425】	自然環境政策論	[高田 雅之]	前期授業	112
政策	【C2426】	人間環境特論（天然資源の科学）	[藤倉 良]	前期授業	113
政策	【C2427】	人間環境特論（気流と社会環境Ⅰ）	[北川 徹哉]	前期授業	114
政策	【C2428】	人間環境特論（気流と社会環境Ⅱ）	[北川 徹哉]	後期授業	114
	【C2500】	公害防止管理論Ⅰ	[大岡 健三]	前期授業	115
	【C2501】	公害防止管理論Ⅱ	[大野 香代]	後期授業	116
	【C2502】	廃棄物・リサイクル論	[鎗木 儀郎]	後期授業	117
	【C2503】	環境教育論	[吉川 まみ]	後期授業	118
	【C2505】	食と農の環境学Ⅰ	[西川 邦夫]	前期授業	119
	【C2506】	食と農の環境学Ⅱ	[船戸 修一]	後期授業	120
	【C2507】	食と農の環境学Ⅲ	[吉田 岳志]	前期授業	121
	【C2508】	スポーツビジネス論Ⅰ	[千田 利史]	前期授業	122
	【C2509】	スポーツビジネス論Ⅱ	[千田 利史]	後期授業	122
	【C2510】	リサイクル論	[鎗木 儀郎]	後期授業	123
	【C2550】	人間環境特論（商社活動とCSR）	[小林 一夫]	前期授業	124
	【C2551】	人間環境特論（自然災害と防災）	[井上 奉生]	後期授業	125
	【C2552】	人間環境特論（交通モビリティと持続可能性）	[田中 勝昭]	後期授業	125
	【C2553】	人間環境特論（観光と地域振興）	[沓掛 博光]	前期授業	126
	【C2554】	人間環境特論（エコツーリズムの可能性）	[沓掛 博光]	後期授業	127
フレッシュマン	【C2600】	人間環境学への招待	[人間環境学部教員]	前期授業	128
フレッシュマン	【C2601】	人間環境学への招待	[人間環境学部教員]	前期授業	129
フレッシュマン	【C2603】	人間環境学入門	[人間環境学部教員]	前期授業	130
フレッシュマン	【C2604】	環境科学入門	[石井 利典]	前期授業	131
フレッシュマン	【C2605】	環境科学入門	[宮川 路子]	後期授業	131
フレッシュマン	【C2606】	環境科学入門	[高田 雅之]	前期授業	132
フレッシュマン	【C2607】	環境科学入門	[井上 奉生]	前期授業	132
フレッシュマン	【C2608】	環境科学入門	[北川 徹哉]	前期授業	133
フレッシュマン	【C2609】	環境科学入門	[谷本 勉]	前期授業	133
フレッシュマン	【C2610】	環境科学入門	[朝比奈 茂]	前期授業	134



フレッシュマン 【C2611】 環境科学入門 [松本 倫明] 前期授業	135
フレッシュマン 【C2700】 基礎演習 [人間環境学部教員] 後期授業	135
スキルアップ 【C2800】 情報処理基礎 [松本 倫明] 前期授業	136
スキルアップ 【C2801】 情報処理基礎 [松本 倫明] 後期授業	136
スキルアップ 【C2802】 情報処理基礎 [本郷 茂] 前期授業	137
スキルアップ 【C2803】 情報処理基礎 [本郷 茂] 後期授業	137
スキルアップ 【C2804】 情報処理基礎 [本郷 茂] 前期授業	138
スキルアップ 【C2805】 情報処理基礎 [本郷 茂] 後期授業	138
スキルアップ 【C2806】 情報処理基礎 [小林 信彦] 前期授業	139
スキルアップ 【C2807】 ネットワークとマルチメディア [松本 倫明] 前期授業	139
スキルアップ 【C2808】 ネットワークとマルチメディア [松本 倫明] 後期授業	140
スキルアップ 【C2809】 統計とデータ分析 [小林 信彦] 後期授業	141
基幹 【C2810】 統計概論 [小林 信彦] 後期授業	142
スキルアップ 【C2900】 英語Ⅰ (スキルアップ科目) [平野井 ちえ子] 前期授業	144
スキルアップ 【C2901】 英語Ⅰ (4群必修) [平野井 ちえ子] 前期授業	145
スキルアップ 【C2902】 英語Ⅰ (4群選択) [平野井 ちえ子] 前期授業	146
スキルアップ 【C2903】 英語Ⅰ (スキルアップ科目) [関口 奈津恵] 前期授業	147
スキルアップ 【C2904】 英語Ⅰ (4群必修) [関口 奈津恵] 前期授業	148
スキルアップ 【C2905】 英語Ⅰ (4群選択) [関口 奈津恵] 前期授業	149
スキルアップ 【C2906】 英語Ⅰ (スキルアップ科目) [R. G. ジェイムズ] 前期授業	150
スキルアップ 【C2907】 英語Ⅰ (4群必修) [R. G. ジェイムズ] 前期授業	150
スキルアップ 【C2908】 英語Ⅰ (4群選択) [R. G. ジェイムズ] 前期授業	151
スキルアップ 【C2909】 英語Ⅱ (スキルアップ科目) [磯部 芳恵] 後期授業	151
スキルアップ 【C2910】 英語Ⅱ (4群必修) [磯部 芳恵] 後期授業	152
スキルアップ 【C2911】 英語Ⅱ (4群選択) [磯部 芳恵] 後期授業	153
スキルアップ 【C2912】 英語Ⅱ (スキルアップ科目) [R. G. ジェイムズ] 後期授業	154
スキルアップ 【C2913】 英語Ⅱ (4群必修) [R. G. ジェイムズ] 後期授業	155
スキルアップ 【C2914】 英語Ⅱ (4群選択) [R. G. ジェイムズ] 後期授業	155
スキルアップ 【C2915】 英語Ⅲ (スキルアップ科目) [磯部 芳恵] 前期授業	156
スキルアップ 【C2916】 英語Ⅲ (4群必修) [磯部 芳恵] 前期授業	156
スキルアップ 【C2917】 英語Ⅲ (4群選択) [磯部 芳恵] 前期授業	157
スキルアップ 【C2918】 英語Ⅲ (スキルアップ科目) [R. G. ジェイムズ] 前期授業	157
スキルアップ 【C2919】 英語Ⅲ (4群必修) [R. G. ジェイムズ] 前期授業	158
スキルアップ 【C2920】 英語Ⅲ (4群選択) [R. G. ジェイムズ] 前期授業	158
スキルアップ 【C2921】 英語Ⅳ (スキルアップ科目) [磯部 芳恵] 後期授業	159
スキルアップ 【C2922】 英語Ⅳ (4群必修) [磯部 芳恵] 後期授業	159
スキルアップ 【C2923】 英語Ⅳ (4群選択) [磯部 芳恵] 後期授業	160
スキルアップ 【C2924】 英語Ⅳ (スキルアップ科目) [R. G. ジェイムズ] 後期授業	160
スキルアップ 【C2925】 英語Ⅳ (4群必修) [R. G. ジェイムズ] 後期授業	161
スキルアップ 【C2926】 英語Ⅳ (4群選択) [R. G. ジェイムズ] 後期授業	161
【C3000】 研究会 (A) [朝比奈 茂] 年間授業	162
【C3001】 研究会 (A) [安藤 俊次] 年間授業	163
【C3002】 研究会 (A) [鈴木 俊治] 年間授業	164
【C3003】 研究会 (A) [板橋 美也] 年間授業	165
【C3004】 研究会 (A) [井上 奉生] 年間授業	166
【C3005】 研究会 (A) [岡松 暁子] 年間授業	166
【C3006】 研究会 (A) [岡松 暁子] 年間授業	167
【C3007】 研究会 (A) [北川 徹哉] 年間授業	168
【C3008】 研究会 (A) [國則 守生] 年間授業	169
【C3009】 研究会 (A) [國則 守生] 年間授業	169
【C3010】 研究会 (A) [小島 聡] 年間授業	170
【C3011】 研究会 (A) [小島 聡] 年間授業	171
【C3012】 研究会 (A) [ESTHER STOCKWELL] 年間授業	172
【C3013】 研究会 (A) [後藤 彌彦] 年間授業	173
【C3014】 研究会 (A) [関口 和男] 年間授業	173
【C3015】 研究会 (A) [武貞 稔彦] 年間授業	174
【C3016】 研究会 (A) [田中 勉] 年間授業	175

【C3017】	研究会 (A)	[辻 英史] 年間授業	176
【C3018】	研究会 (A)	[永野 秀雄] 年間授業	177
【C3019】	研究会 (A)	[永野 秀雄] 年間授業	178
【C3020】	研究会 (A)	[長峰 登記夫] 年間授業	179
【C3021】	研究会 (A)	[西城戸 誠] 年間授業	180
【C3022】	研究会 (A)	[西城戸 誠] 年間授業	181
【C3023】	研究会 (A)	[根崎 光男] 年間授業	182
【C3024】	研究会 (A)	[長谷川 直哉] 年間授業	183
【C3025】	研究会 (A)	[日原 傳] 年間授業	184
【C3026】	研究会 (A)	[平野井 ちえ子] 年間授業	185
【C3027】	研究会 (A)	[藤倉 良] 年間授業	186
【C3028】	研究会 (A)	[堀内 行蔵] 年間授業	186
【C3029】	研究会 (A)	[松本 倫明] 年間授業	187
【C3030】	研究会 (A)	[宮川 路子] 年間授業	188
【C3031】	研究会 (A)	[宮川 路子] 年間授業	189
【C3032】	研究会 (A)	[安田 章人] 年間授業	190
【C3033】	研究会 (A)	[吉田 秀美] 年間授業	191
【C3034】	研究会 (A)	[松本 倫明] 年間授業	192
【C3035】	研究会 (A)	[高田 雅之] 年間授業	193
【C3036】	研究会 (B)	[井上 奉生] 年間授業	194
【C3037】	研究会 (B)	[岡松 暁子] 年間授業	194
【C3038】	研究会 (B)	[岡松 暁子] 年間授業	195
【C3039】	研究会 (B)	[北川 徹哉] 年間授業	196
【C3040】	研究会 (B)	[ESTHER STOCKWELL] 年間授業	197
【C3041】	研究会 (B)	[後藤 彌彦] 年間授業	198
【C3042】	研究会 (B)	[関口 和男] 年間授業	198
【C3043】	研究会 (B)	[武貞 稔彦] 年間授業	199
【C3044】	研究会 (B)	[田中 勉] 年間授業	200
【C3045】	研究会 (B)	[田中 勉] 年間授業	201
【C3046】	研究会 (B)	[谷本 勉] 年間授業	202
【C3047】	研究会 (B)	[長峰 登記夫] 年間授業	203
【C3048】	研究会 (B)	[根崎 光男] 年間授業	204
【C3049】	研究会 (B)	[長谷川 直哉] 年間授業	205
【C3050】	研究会 (B)	[堀内 行蔵] 年間授業	206
【C3051】	研究会 (B)	[吉田 秀美] 年間授業	206
【C3052】	研究会 (B)	[高田 雅之] 年間授業	207
【C3053】	研究会 (B)	[岡本 義行] 年間授業	208
【C3054】	研究会 (B)	[永野 秀雄] 前期授業	209
【C3055】	研究会 (B)	[日原 傳] 後期授業	209
【C3056】	研究会 (B)	[板橋 美也] 後期授業	210
【C3057】	研究会 (B)	[谷本 有美子、小島 聡] 後期授業	210
【C3100】	研究会修了論文 [人間環境学部教員]	後期授業	211
【C3200】	人間環境セミナー I	[長谷川 直哉、國則 守生、堀内 行蔵] 前期授業	212
【C3201】	人間環境セミナー II	[宮川 路子、朝比奈 茂] 後期授業	212
【C3202】	インターンシップ [人間環境学部教員]		213
【C3300】	フィールドスタディ [人間環境学部教員]		213



## 行政法の基礎

後藤 彌彦

カテゴリ：基幹 | 配当年次/単位：1～4年/2単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：金 4

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

### 【授業のテーマ】

国民生活が大きく行政に依存するようになった現代国家において、国民と行政との間の法律関係は行政法と呼ばれる。行政法では、私人間の利害調整に関する民事法とは異なった基礎原理の理解が必要となる。この行政法の基礎を学ぶ。

### 【授業の到達目標】

行政法の基礎原理、行為形式等を理解することにより、現代国家に生きるものとして今後行政と関わる際の基本的な仕組みが習得できる。

[]

### 【授業の概要と方法】

行政主体とその組織構造、法律による行政の原理と適正手続の確保等の基礎原理、行政の行為形式、行政との紛争の裁断など行政法の各分野を概観する。講義形式により行う。

[]

[]

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	現代行政の特徴 行政法とは何か 行政の担い手
第2回	行政の組織Ⅰ	①中央政府
第3回	行政の組織Ⅱ	行政の担い手 ②地方自治体
第4回	行政作用の一般理論Ⅰ	法律による行政の原理
第5回	行政作用の一般理論Ⅱ	適正手続きによる行政の透明性の確保
第6回	行政作用の一般理論Ⅲ	情報公開 個人情報保護
第7回	行政の行為形式Ⅰ	行政処分（行政行為）
第8回	行政の行為形式Ⅱ	行政の裁量
第9回	行政の行為形式Ⅲ	行政指導 要綱行政
第10回	行政の行為形式Ⅳ	行政立法 法規命令と行政規則
第11回	行政の行為形式Ⅴ	行政計画 行政契約 行政の義務履行の確保
第12回	行政活動の実現	行政不服審査法
第13回	行政救済法 1	行政事件訴訟法
第14回	行政救済法 2	国家賠償法 損失補償
第15回	まとめ	授業の総括

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

テキストを通読しておく。授業内容の復習に力を入れ、テキストに判例が紹介されている場合は判例を調べる等発展的な学習をする。

### 【テキスト】

開講時指定 行政法の改正が激しいため、最新のものを教科書とする。教科書によっては、授業計画の順序を変更することがある。

### 【参考書】

特に指定しない。

### 【成績評価基準】

定期試験による。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

具体的事例、条文をあげ、初めて法律に接するものにわかりやすくなるように努める。

### 【その他】

環境政策を実現する手段として環境法が重要ですが、今後環境法などの勉強を進める上でも、行政法の基礎知識が不可欠である。是非行政法に取り組んでほしい。

### 【関連の深いコース】

地域環境、環境経営

## 民事法Ⅰ

花立 文子

カテゴリ：基幹 | 配当年次/単位：1～4年/2単位

開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：月 5

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

### 【授業のテーマ】

テーマ:市民間の法律問題

### 【授業の到達目標】

到達目標:市民間の取り引きやトラブル等を解決するための法制度の理解

[]

### 【授業の概要と方法】

授業の概要

授業では、民法を中心に市民間の法律問題を考える。たとえば、お金を貸した返って来ない、貸した本を返してもらえない、買った物に傷があった、アルバイト代の遅配、等のトラブルがある。これは、普段なにげなく行っている取引から生じる問題である。また、自転車で人にぶつかって怪我をさせた、という事例もあろう。これは取引ではなく、市民間で生じたトラブルである。

このように、トラブルには様々なものがあり、法律問題となることも多い。このような法律問題をどのように解決されることになるのか、民法や民法関連法を用いて検討し、それを通じて法律的な考え方、法律の構造・全体を理解したい。

適宜、話題となっていることもテーマとして取り上げる。

授業の方法

(1) テーマごとに、法律条文や、裁判例、通常常識的に考えられていること等から、市民間の法律問題を、およびそれを社会問題として考えていく。また、授業の終わりに、法律問題をどう考えたか、また質問を書いていただき、次回に応えることで理解を深め、また関心を持っていただいたことを大切にしたい。(2) 授業では、六法を用いる。六法の見方、調べ方、条文の探し方や読み方等も勉強する。

(3) 授業では、適宜レジュメを配布しそれに沿って授業を進める。

(4) 適宜話題となっているテーマを取り上げたり、関心の強いテーマを掘り下げたり、進度をみることから、シラバスの進捗と異なることもあることをお断りしておく。

はじめに市民間のトラブルの例をあげ、それを通じて講義全体を示す。

[]

[]

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	民事法上の問題と司法制度	民法法とは何か、一般的な法律上のトラブルにどのような法律がかかわってくるのか等をみる。
第2回	トラブルの解決基準となる法の体系	解決に向けて手続がどのように行われるのか、裁判制度(民事)の全体像をみる。
第3回	裁判制度(刑事)	民事上の裁判制度をより理解するために、刑事法上の裁判制度を比較し概観し、裁判員制度も概観する。
第4回	人が民法上権利主体となる時期	民法上権利義務の主体となるのはいつか、人と法人および、出生問題をみる
第5回	人の権利義務消滅時期	民法上、主体として有する権利義務が消滅するのはいつかをみる(死亡・認定死亡)
第6回	人の死亡と法律効果	民法上、主体として有する権利義務が消滅するのはいつかをみる(死亡・認定死亡)
第7回	人が行方不明の場合について	人が行方不明になったときの財産はどうなるか、不在者の財産管理等についてみる。
第8回	取引における条件と取引期間について	取引において生じる権利義務と時間との関係はどうなっているかをみる(条件・期間・時効)
第9回	取引の対象について	取引の対象は、物権と債権であり、各々の違い、物とは何か、物権・債権の種類を整理する。
第10回	取引上の権利の確保方法①	権利を確保するための方法として、物の価値を利用する場合がある。その内容がどのようなものかを扱う。
第11回	取引上の権利の確保方法②	権利を確保するための方法として、保証、相続、債権譲渡等がある。それらの方法を概観する。
第12回	法律上の家族	法律上、家族とはどのように考えられているか、家族の成立、範囲等をみる(親子)



- 第13回 夫婦の問題 法律上、夫婦とはどのようにして成立するのか、各々どのような義務を負うのか等、夫婦に関する問題をみる。
- 第14回 死亡の際の家族の財産の行方 死亡した場合に、その財産がどのようになるのか、相続問題を考える
- 第15回 まとめ ここでは、全体のまとめをみる。

【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

日頃からニュースに接したり、機会があるときには幅広い年代の方々とお話をするようにしましょう。そのことが、法律問題を想像したり、考える基礎力になります。

【テキスト】

レジュメを配布する。  
コンパクト六法

【参考書】

開講時説明する。

【成績評価基準】

ミニテスト、法律問題について書いていただいたことと（平常点 40 点）、最後に行なわれる試験（60 点）で、総合評価する。

【学生による授業改善アンケートからの気づき】

授業で取り上げる法律問題について、これまでの生活体験から想像し考えられると、日常生活に活用できそうに感じられ、興味を持ってもらえる。しかし、自分の立場に置き換えられず、身近に感じられないと関心が低くなるようである。また、関心がもてると、難易度の高い問題でも、真剣に取り組めるようである。授業の目標は、問題を客観的にみて論理的に整理し、そして説明できる力を習得すること、と考えている。この習得のために、身近な問題を中心に、身近でない問題にもふれつつ、関心が途切れないよう工夫を重ねたい。

【関連の深いコース】

環境経営、地域環境

## 民法法Ⅱ

### 花立 文子

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4 年／2 単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：月 5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業のテーマ】

テーマ:市民間の法律問題

【授業の到達目標】

到達目標：市民間の取り引きやトラブル等に対応する法の全体の理解および、問題を法的に考え解決する力を習得する。

【】

【授業の概要と方法】

授業の概要

授業では、民法を中心に市民間の法律問題を考える。そして、具体的な問題を通して、自ら考えることをしていきたい。内容としては、民法に規定されている制度と契約法および不法行為法についてみるとともに、関連する法律問題をみる。たとえば、成年となる年齢とはどのような意味を有するのか、成年となる年齢はどのようにして決められたのか、今後変更の可能性はあるのか、未成年と成年とで法的にどのように違ってくるのか、未成年者の法律行為の問題、成年の法律行為の問題等のように、テーマごとに検討する。その過程で、法律の役割、法的な考え方を習得していきたい。市民間には、様々なトラブルがある。具体的にどのような点が法律問題となるのか、そのような法律問題をどのように解決すべきか、民法や民法関連法も含めてみていくことになる。

適宜、話題となっていることもテーマとして取り上げるため、シラバスと異なることもあることをお断りする。

授業の方法

(1) テーマごとに、法律条文や、裁判例、通常常識的に考えられていること等から、市民間の法律問題を、およびそれを社会問題として考える。また、授業の終わりに質問や感想を書いていただき、次回に答えることで理解を深め、また関心を持っていただいたことを大切にしたい。

(2) 授業では、六法を用いる。

(3) 授業では、適宜レジュメを配布しそれに沿って授業を進める。

(4) 適宜話題となっているテーマを取り上げたり、社会問題となっているテーマを掘り下げたり、進度をみることから、シラバスの進行と異なることもあることをお断りしておく。

【】

【】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	民法法の体系、法体系の概観	民法法の授業での対象、民法法とは何か、民法法の中の民法について、民法の基本原則を取り上げる。また日常行われる契約について概観する。
第2回	未成年者の契約問題について	未成年者の取引は法律上どのように考えられているかをみる。あわせて、成人年齢について考える（成人年齢決定の背景、成人年齢の変更の可能性、各種法律との関係）
第3回	成年の契約問題について	成年後見制度の概観をみる。あわせて、成年後見制度と高齢社会を考える
第4回	法律行為について	契約する際に予定したことと、異なる結果となった場合の契約について考える。
第5回	契約と代理について	契約は本人でなく誰かに代わってしてもらった場合に法律上どうなるかをみる。
第6回	契約を消滅させる場合について	賃貸借を通じて、解除と解約告知についてみる。
第7回	クーリングオフ制度について	特定商取引法等をみながら、悪質商法等の社会における問題点を考える。
第8回	リボルビング制度	リボルビング払いを通じて金銭消費貸借契約と利息について考える。
第9回	労働契約について	現代の多様な労働形態と、雇用契約、請負契約、および労働法の体系をみる。
第10回	不法行為制度①	自転車走行中の事故を通じてと不法行為制度をみる。
第11回	不法行為制度②	自動車事故の判例を読み、交通事故について考える。
第12回	近隣問題と法	具体的事例を通して、法が近隣問題にどうかかわるのかを検討する。
第13回	インターネットと法	現代の問題として、知的財産法について概観する。
第14回	現代の契約	民法13典型契約以外の現代の契約について概観する。

## 第 15 回 まとめ

ここでは、授業全体をまとめ、民事法の役割について考える。

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

日頃からニュースに接したり、機会があるときには幅広い年代の方々と話をするようにしましょう。そのことが、法律問題を想像したり、考える基礎力になります。

## 【テキスト】

レジュメを配布する。  
コンパクト六法

## 【参考書】

適宜指示する。

## 【成績評価基準】

平常点（ミニテスト、法律問題について考えたことを適宜書いていただく（40%）、および最後に行なわれる試験（60%）で総合評価する。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

授業で取り上げる法律問題について、これまでの生活体験から想像し考えられると、日常生活に応用できそうに感じられ、興味を持ってもらえる。しかし、自分の立場に置き換えられず、身近に感じられないと関心が低くなるようである。また、関心をもてると、難易度の高い問題でも、真剣に取り組めるようである。授業の目標は、問題を客観的にみて論理的に整理し、そして説明できる力を習得すること、と考えている。この習得のために、身近な問題を中心に、身近でない問題にもふれつつ、関心が途切れないよう工夫を重ねたい。

## 【関連の深いコース】

環境経営、地域環境

## 国際法 I

岡松 暁子

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：火 3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

国際法は、主として国家間関係を規律する法である。本講義では、その国際法の総論部分（国際法の基礎理論）を扱う。適宜事例を分析することにより、国際紛争においていかなる国際法の解釈問題が争点となっているかを検討し、国際秩序の形成および紛争解決における国際法の役割と意義を考察する。

## 【授業の到達目標】

国際秩序の基本的な法的枠組みを把握する。

[]

## 【授業の概要と方法】

国際法の総論（理論）部分についての講義を行う。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	本講義の対象範囲
第 2 回	国際法の基本原理	国際法の特徴、近代国際法の特徴
第 3 回	法源 (1)	条約、国際慣習法
第 4 回	法源 (2)	法の一般原則、補助法源としての判例、学説
第 5 回	国際法と国内法の関係	論理的关系、国際法における国内法、国内法における国際法
第 6 回	国家・国家機関 (1)	国家承認、政府承認
第 7 回	国家・国家機関 (2)	国家承継、国家機関
第 8 回	国家管轄権	国家管轄権の意義、国家管轄権の適用基準、国家管轄権の競合、国家免除
第 9 回	国際組織法 (1)	国際組織の要件・類型・分類、国際組織の歴史的発展
第 10 回	国際組織法 (2)	国際組織の構造、国際組織の意思決定、国際組織の機能、国際組織の法主体性
第 11 回	国家責任法 (1)	国家責任の概念、国際違法行為責任の基本構造
第 12 回	国家責任法 (2)	国家責任の発生要件、国家責任の解除、外交保護制度
第 13 回	国家領域 (1)	領域主権、領土保全原則、領域使用の管理責任
第 14 回	国家領域 (2)	領域権原の取得原因、日本の領域紛争
第 15 回	期末試験	筆記試験

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

教科書の該当部分を読んでおくこと。

## 【テキスト】

小寺彰・岩沢雄司・森田章夫編『講義国際法 [第 2 版]』有斐閣、2010 年。  
奥脇直也編『国際条約集』有斐閣。

## 【参考書】

小寺彰・森川幸一・西村弓編『国際法判例百選 [第 2 版]』有斐閣、2011 年。

## 【成績評価基準】

期末試験

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

これまでと同様のやり方で行います。

## 【関連の深いコース】

国際環境

## 国際法Ⅱ

岡松 暁子

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：火 3

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

### 【授業のテーマ】

本講義では、国際法の各論を扱う。第一に、国際関係の基本単位としての国家管轄権の発現態様である実体法に焦点を当て、個別分野における国際的な規制枠組を検討する。

第二に、国際法秩序の維持と国際法の履行確保のための方式や制度について考察する。

### 【授業の到達目標】

国際社会における具体的な事象を法的に分析する素地を身につける。

[]

### 【授業の概要と方法】

国際法の各論部分についての講義を行う。

[]

[]

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	本講義の対象
第2回	海洋法(1)	海洋法の歴史的発展、内水、領海
第3回	海洋法(2)	排他的経済水域、公海
第4回	海洋法(3)	大陸棚、深海底
第5回	南極、宇宙	南極の法的地位、宇宙空間の利用
第6回	個人の管轄(1)	国籍、犯罪人引渡し・庇護
第7回	個人の管轄(2)	国際犯罪、国際刑事裁判所
第8回	国際人権法	人権の国際的保障、人道的介入
第9回	紛争の平和的解決(1)	国際社会における紛争解決手続きの特徴、平和的解決と強制的解決
第10回	紛争の平和的解決(2)	非裁判的手続
第11回	紛争の平和的解決(3)	裁判的手続
第12回	国際安全保障	武力不行使原則、集団安全保障、自衛権、平和維持活動
第13回	武力紛争法規(国際人道法)(1)	武力紛争法規の適用対象、敵対行為の規制、軍事目標主義
第14回	武力紛争法規(国際人道法)(2)	戦争犠牲者の保護、武力紛争法規の履行確保、軍縮・軍備管理
第15回	期末試験	筆記試験

### 【授業外に行うべき学習活動(準備学習等)】

教科書の該当部分を読んでおくこと。

### 【テキスト】

小寺彰・岩沢雄司・森田章夫編『講義国際法[第2版]』有斐閣、2010年。  
奥脇直也編『国際条約集』有斐閣。

### 【参考書】

小寺彰・森川幸一・西村弓編『国際法判例百選[第2版]』有斐閣、2011年。

### 【成績評価基準】

期末試験

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

これまでと同様の方法で進めます。

### 【その他】

履修者は国際法Ⅰを履修済みであることが望ましい。

### 【関連の深いコース】

国際環境

## 市民社会と政治

谷本 有美子

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：火 4

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

### 【授業のテーマ】

「市民社会」の概念は極めて多義的ですが、本講座では1990年代に台頭してきた「現代の市民社会」を中心に扱います。政府・自治体の政策形成過程と市民の参加、及びNPO・NGO(市民セクター)と政府セクターとの協働ないし緊張関係に焦点を当てながら、日本の伝統的な統治の姿を具体的に理解することを第一の目的とします。その上で、政府・自治体の政策過程への市民セクターの関与のあり方について、多面的な統治(ガバナンス)という考え方を視野に入れつつ、実践的に考えていきます。

### 【授業の到達目標】

市民が政策形成に与える影響やその手法を学び、政治・行政に関して当事者意識を持った判断や行動ができるようになる。

[]

### 【授業の概要と方法】

「授業のテーマ及び到達目標」に記載

[]

[]

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義で扱う言葉を概説
第2回	市民セクターの活動と政府(1)	1990年代後半からの動向
第3回	市民セクターの活動と政府(2)	国内の動向
第4回	市民セクターの活動と政府(3)	国際的な動向
第5回	戦後日本の市民セクターと政治(1)	「運動」の変遷
第6回	戦後日本の市民セクターと政治(2)	「市民参加」の系譜
第7回	市民セクターと自治体の意思決定(1)	住民投票の動き
第8回	市民セクターと自治体の意思決定(2)	地域における意思決定の課題
第9回	市民セクターと自治体の意思決定(3)	国政との関係を考える
第10回	市民セクターの合意形成	市民参加の新たな取り組み
第11回	市民セクターと自治体議会	自治体議会における市民参加の試み
第12回	市民社会のガバナンスを考える(1)	事例検討
第13回	市民社会のガバナンスを考える(2)	事例検討
第14回	市民社会のガバナンスを考える(3)	事例検討
第15回	まとめ	全体の振り返り

### 【授業外に行うべき学習活動(準備学習等)】

自分の関心分野の中から、政府・自治体あるいは国際機関等との関わりのあるトピックを見つけ出し、常にウォッチする習慣を身につけてください。

### 【テキスト】

特定の教科書は特に使用しません。授業内にレジュメと資料を配付します。

### 【参考書】

授業内で必要に応じ、参考文献等を紹介します。

### 【成績評価基準】

期末の論述試験と出席状況を勘案し、総合的に評価します。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

ビデオ等を活用して、具体的事例をから考える機会を提供します。

### 【その他】

地方自治論Ⅰ、NPO・ボランティア論及びNGO活動論を履修済みか、同時に履修することで、本講義の理解をより深めます。

### 【関連の深いコース】

地域環境

## 行政学

### 申 龍徹

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：火 2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

#### 【授業のテーマ】

現代行政の基礎概念と行政システムの理解

#### 【授業の到達目標】

現代社会における民主主義の原理にもとづく政治と、機能的な合理主義のための行政との関係について、政治学的に考察できる視座を身につけること。

【】

#### 【授業の概要と方法】

行政学は、19世紀末のアメリカにおいて、現代政府の行政体制を整えるという課題に対応して誕生した学問である。その内容は、統治の制度、行政組織、行政の活動の三つの分野にまたがり、行政法学や経営組織論、政治過程論などの隣接領域の研究成果を取り入れながら展開されてきた。本講義では、上の3つの領域の全体にまたがって行政学の基礎的な内容をバランスよく紹介していきたい。

それとともに、行政改革の必要が強調され、新しい行政管理手法の導入が広がっている1980年代以降の行政の動向をどうとらえるかについて、とくに現代日本の行政を念頭におきながら、随時考察を加えていきたい。また、2009年の民主党政権成立以降の政治と行政（国会議員と官僚）の関係の変化についても行政学の観点から考察する。

行政学は政治学を学ぶ際の基礎的な科目であるため、1～2年生が積極的に受講することが望ましい。とくに地方自治や公共政策関係に学習の軸を置きたい場合や、国際政治学関係についても政策的な関心を中心に学習したい場合には、低学年での受講を勧める。

【】

【】

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	この授業のねらいと構成、授業の進め方などについて説明する。
第2回	行政学の誕生	ウッドロー・ウィルソンの記念碑的論文「行政の研究」を通して行政学の誕生を検討する。
第3回	現代国家の機能拡大	「小さな政府」の時代から、どのように政府の機能は拡大してきたのか。
第4回	行政国家の形成	「大きな政府」をどうとらえるか。ドワイト・ワルドの古典『行政国家』を検討する。
第5回	政治と行政の概念	初期行政学の政治行政分離論と戦後行政学の政治行政融合論を比較検証する。
第6回	政府体系と行政	権力分立制と議院内閣制のもとで、政治行政関係はどのように異なるのか。
第7回	行政と執政	行政府全体の活動としての行政と、政権中枢の活動としての執政の概念を検討する。
第8回	中央地方関係と行政	国の政府と地方政府の関係について、国際比較をまじえ、分権改革のもつ意義について考える。
第9回	近代公務員制度	かつての宮廷官僚制が、近代公務員制に転換してきた過程を通して、現代公務員について考える。
第10回	管理学としての行政学	大規模組織の合理的な管理運営手法の追求として展開した20世紀前半の行政学の成果を検討する。
第11回	官僚制の系譜	官僚制ということばはどのように誕生し、何を現してきたのか。初期の官僚制論からマックスウェーバーの立論までを紹介する。
第12回	官僚制の二面性	現代社会における大規模組織の合理的な運営のための必然的な現象としての官僚制化を考える。
第13回	官僚制と組織文化	官僚制がもつ独特な文化的属性としての行政文化について考える。
第14回	第一線組織論	「路上の官僚」研究が示した、単独で対象者に接する行政職員行動様式と管理上の課題を検討する。
第15回	組織内不服従と合理的選択論	本来合理的に目的達成できるように構成されている組織が、なぜ機能しないことがあるのか。

第16回	合理的選択論の功罪	近年の政治学の重要な方法論となっている合理的選択論の功罪を、政治行政関係と、官僚制の逆機能の文脈の下で検討する。
第17回	日本の官僚制1	日本の官僚制の特徴を歴史的な文脈の下で検討する。
第18回	日本の官僚制2	日本官僚制のボトムアップとセクショナリズム
第19回	日本の官僚制3	国際比較の中の日本官僚制の特徴について考える。
第20回	予算と財政1	予算決算のシステム全体をどうとらえるべきか。
第21回	予算と財政2	現代日本の政策形成と予算編成について
第22回	日本の財政状況	現代日本の財政状況について考える。
第23回	行政改革の論点	1980年代以降広がった新しい公共管理NPMについて考える。
第24回	日本の行政改革	政官関係の改革と新しい公共管理が並行する構図を検討する。
第25回	民営化・法人化と政府の役割	経営の自由と事後評価をセットにする行政改革手法は何を生み出したのか。
第26回	認証制度による組織統制	ISOなどによる認証評価による組織統制の意義と限界について考える。
第27回	行政責任	行政の裁量と行政の責任について考える。
第28回	合理性と民主制	行政に期待される政策の合理性の達成と、民主的な統制との両立をどのように実現できるかを考える。
第29回	現代日本政治の課題としての政官関係	現代日本が必要とする政官関係のあるべき姿を考える。
第30回	予備日	予備日

#### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

各回テーマについてのテキスト、参考書等での予習と、現実政治における政治と行政の関係に関する事象を、講義で取りあげた観点から検討すること。

#### 【テキスト】

西尾勝『行政学』（有斐閣）

#### 【参考書】

新藤宗幸『講義 現代日本の行政』（東京大学出版会）

今村都南雄編著『ホンブク行政学』（北樹出版）

森田朗編著『行政学の基礎』（有斐閣）

#### 【成績評価基準】

①出席（25%）、②授業参加度（25%）、③期末試験（50%、前期・後期各25%）による絶対評価

#### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

該当なし

#### 【学生が準備すべき機器他】

プロジェクターを使用する。

#### 【その他】

注：人間環境学部生は2年次より受講可能

#### 【関連の深いコース】

地域環境



## 国際関係論

岡松 暁子

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：月4

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

### 【授業のテーマ】

国際社会における平和の構築について考察する。

### 【授業の到達目標】

国際社会の諸問題について、基本的な事象とそれらの主要な分析枠組みを理解する。

[]

### 【授業の概要と方法】

国際社会における平和というものを考察するにあたり、まず、戦争と平和の歴史をたどり、特に第二次世界大戦後の超大国による国際秩序について分析する。さらに、冷戦後の国際社会における新たな紛争と秩序構築について、民族問題、環境問題、貧困問題等に焦点を当てて検討する。

[]

[]

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	序論：平和とは何か	平和の概念について
第2回	戦争と平和の歴史	戦争と平和の歴史につき、特に近現代を中心に概観する。
第3回	冷戦期の国際関係（1）	国際関係の分析枠組としての理論と現実
第4回	冷戦期の国際関係（2）	軍拡競争と軍縮
第5回	冷戦期の国際関係（3）	核兵器・原子力を巡る諸問題
第6回	冷戦後の国際関係	冷戦後の新たな国際問題の特徴
第7回	民族自決と紛争	脱植民地化と民族自決、民族紛争
第8回	国際安全保障	集団安全保障と日本
第9回	人間の安全保障	新たな平和の概念
第10回	南北問題の歴史の変遷	南北問題と南南問題
第11回	貧困と開発	途上国問題
第12回	人権	国際人権保障の困難性
第13回	地球環境問題	地球環境問題の特徴
第14回	国際協力と日本の役割	国際社会における日本の取り組み
第15回	国際社会における課題	国際社会における諸問題と今後の課題

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

復習

### 【テキスト】

開講時に指示する。

### 【参考書】

適宜紹介する。

### 【成績評価基準】

期末試験。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

新規科目につき、データなし。

### 【関連の深いコース】

国際環境

## アメリカ法の基礎

永野 秀雄

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：金2

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

### 【授業のテーマ】

この授業では、アメリカに興味のある方を対象に、その法制度の基本的な特徴を講義します。憲法上の問題を中心に、統治制度や人権保障のあり方などを検討していきます。それぞれのテーマでは、興味深い判例を紹介していきます。

### 【授業の到達目標】

学生が、この授業をとおして、アメリカ法の基本的な制度を理解できるようになるとともに、法律問題の解決策がひとつではなく、様々なアプローチがあることを理解できるようになることを目標とします。

[]

### 【授業の概要と方法】

この講義では、法学を専門としていない学生を対象に、アメリカ法の基礎を講義します。まず、導入部としてアメリカの歴史と法の発展を学びます。これに続いて、連邦制度と、独自の三権分立を学びます。その後、わが国の憲法にも大きな影響を与えて続けている人権法について、その代表的なトピックを学習します。そして、社会に出てからも役に立つ労働法、独占禁止法、契約法、不法行為法などを講義します。最後に、日本とアメリカ法の間を一緒に考えてみたいと思います。

[]

[]

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	アメリカ法の歴史	植民地時代、独立革命、連邦憲法の制定、英米法の特徴
第2回	連邦制度	特に憲法、軍隊等をもつ州政府について
第3回	連邦議会	連邦議会の特色、日本の議会との差異
第4回	大統領	大統領の権限、大統領府の組織
第5回	司法権	連邦裁判所、法曹、陪審制、州の司法権との関係
第6回	表現の自由	表現の自由の限界、報道の自由
第7回	集会・結社の自由、通信の秘密	これらの自由とその限界
第8回	信教の自由	信教の自由の限界と国教樹立の禁止
第9回	プライバシーの保護	個人、家族、ライフスタイルのプライバシー
第10回	法の下での平等（1）	人種差別の規制
第11回	法の下での平等（2）	男女差別等の規制
第12回	労働法・社会保障法	米国の社会労働法制の特徴
第13回	経済的自由とその限界	独占禁止法等の仕組み
第14回	契約法・不法行為法	米国の特色ある制度について
第15回	日本とアメリカ法	その関係性の検討

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

法律の勉強は積み重ねですので、前回までに配布されたプリントとノートで、基本的な用語や論理を勉強して下さい。

### 【テキスト】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布します。

### 【参考書】

松井茂記『アメリカ憲法入門（第6版）』（有斐閣、2008年）。

### 【成績評価基準】

定期試験により評価します。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

新規科目につき該当なし。

### 【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント、プロジェクター

### 【関連の深いコース】

環境経営、地域環境

## 地方自治論

小島 聡

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：月5

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

### 【授業のテーマ】

この講義では、自治体環境政策および自治体政策全般、さらに現代の地域社会を理解する前提として、地方自治の基本的考え方とともに、地方自治の制度と動向について検討する。

### 【授業の到達目標】

- ・地方自治の理論、制度、現在の動向に関する基礎知識の習得により、市民としての教養を身につける。
- ・報道や社会生活などを通して日常的に接する現代の地域社会に関する幅広い事象を理解する力を身につける。
- ・人間環境学部の地域環境に関する政策科目の履修の基礎となる知識、思考方法を身につける。
- ・地方自治や地域に関連した職業を志望する場合の基礎教養を身につける。

【】

### 【授業の概要と方法】

この講義では、まず地方自治の考え方について、基礎概念や歴史・理論を通して検討する。さらに自治体環境政策、自治体政策全般との関連性に留意しながら、地方自治の基本制度とその動向について検討する。次に国と自治体の政府関係の構造について、中央集権と地方分権を取り上げ、その論理と改革の構図をみていく。最後に、自治体が市民に対して責任を負い、地域社会において総合的かつ自主的にまちづくりを担う「市民の政府」になっていくという理念について、最新の動向とともに検討する。

【】

【】

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	「地方自治」とは何か	「地方自治」の概念について検討する。
第2回	地方自治の歴史と世界	地方自治の歴史について世界史的視野から再検討する。
第3回	地方自治の歴史と近代日本	近代日本の地方自治史について、地域環境の視点を交えて再検討する。
第4回	地方自治の基礎理論	地方自治の理論に関する基礎的な部分を取り上げる。
第5回	二層制と基礎自治体の再編	日本の地方自治の基本構造である二層制を説明した上で、市町村合併による基礎自治体の再編について検討する。
第6回	地域間格差と小規模自治体	「平成の大合併」とともに浮上した地域間格差と小規模自治体の現状と課題について、地域環境への影響とともに検討する。
第7回	都市特例制度	規模と能力に基づく都市特例制度について、指定都市を中心として検討する。
第8回	道州制と連邦制	都道府県の再編構想である道州制について、連邦制と対比しながら検討する。
第9回	広域行政の制度	複数の自治体にまたがる広域行政の重要性と制度について検討する。
第10回	二元代表制と地域政治	権力分立と機関対立主義の考え方、地域政治の歴史的推移の検討により、二元代表制における首長と議会の関係性を再考する。
第11回	二元代表制のこれから	二元代表制の現状と課題、展望について検討する。
第12回	直接民主主義の制度と市民参加	法律に基づく直接請求権と自治体の市民参加システムについて検討する。
第13回	政府間関係のモデルと中央集権システム	政府間関係と呼ばれる国と自治体の関係に関する理論とともに、明治時代以降形成にされてきた日本の中央集権システムについて検討する。
第14回	地方分権改革	中央集権型の政府間関係システムを転換する地方分権改革の構図と動向について検討する。
第15回	「市民の政府」に向けて	「分権型社会」における地域の総合的な政策主体であり、「市民の政府」でもある自治体の課題と自己改革について検討する。

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

- ・講義内容をより深く理解するために、配布資料を読むこと。
- ・配布資料を参照しながら自らのノートを整理すること。
- ・提示した参考文献、その他、自分で選んだ参考文献を読むこと。

・講義で言及した地方自治、現代の地域社会に関する報道などの情報収集に努めること。

### 【テキスト】

特定のテキストは使用しないが、毎回、講義のポイントを記したペーパーと関連資料を配布する。

### 【参考書】

- ・兼子仁『変革期の地方自治法』岩波新書、2012年。
  - ・『ホーンブック 地方自治（改訂版）』北樹出版、2011年。
  - ・『分権時代の地方自治』三省堂、2007年。
- 上記以外の参考文献は、開講時および授業中に適宜紹介する。

### 【成績評価基準】

成績は、論述試験（100％）で評価する。そのため、学生には、講義に常時出席し、配布する資料と話す内容に基づいて、自らのノートを作成することを期待する。このことにより、事実関係や学術用語の理解とともに地方自治に関する理論的な思考方法を習得すれば、試験において、一定水準以上の論述は十分可能である。また参考文献等による自己学習で講義を補完すれば、さらに質の高い論述が可能であろう。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

2011年度は、3月11日に東日本大震災が発生してちょうど2ヶ月後からこの授業を実施したため、被災地の状況について地方自治の視点からかなり言及しました。その結果、時事情報の読み方として役だったようです。このようなりアルタイムの情報を活用していくことが、地方自治のリテラシー教育として重要であると私も再認識しました。同時に学問の社会的関連性を考えさせられ、貴重な経験になりました。

### 【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、配付資料以外の情報をスクリーンで投影する。

### 【その他】

- ・2012年度から基幹科目として実施する「地方自治論」は、法学政治系の「自治体環境政策論Ⅰ」、「自治体環境政策論Ⅱ」だけではなく、広く「地域環境コース」に関連する政策科目の基礎という位置にある。
- また「地方自治論」と同じ役割を果たす関連科目として、市ヶ谷基礎科目の「政治学Ⅰ・Ⅱ」、専門科目の「市民社会と政治」、「行政法の基礎」、「行政学」などをあわせて履修することが望ましい。
- ・2011年度までに旧名称「地方自治論Ⅰ」を修得済の場合、本科目は履修できない。再履修者は「地方自治論Ⅰ」で登録すること。

### 【関連の深いコース】

地域環境

## 憲法の基礎

土屋 志穂

カテゴリ：基幹 | 配当年次/単位：2～4年 / 2単位

開講semester：後期授業 | 曜日・時限：水 3

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

### 【授業のテーマ】

憲法とはどのような法であるか、どのように成り立っているのかを学ぶ。憲法の基本的な構造・枠組みを理解する。

### 【授業の到達目標】

現実の具体的な社会問題がどのように憲法と関連付けられているかを学び、日本における法の支配について理解することを目的とする。憲法と関連して問題とされてきた社会問題についての理解を深めることにより、将来の社会問題を法的に分析する視点を持つことを目指す。

[]

### 【授業の概要と方法】

配布資料を使用しながらの講義形式による。  
場合によっては、映像などを取り入れることもある。

[]

[]

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス 憲法とは？	憲法とはどのような法律か。
第2回	日本国憲法の成り立ち	日本国憲法の成立過程 日本国憲法の概要
第3回	天皇の国事行為	天皇制について考える
第4回	平和主義①	日本国憲法と自衛隊
第5回	平和主義②	日本と国際社会
第6回	基本的人権の尊重①	基本的人権とは何か？ 平等権
第7回	基本的人権の尊重②	自由権について
第8回	基本的人権の尊重③	社会権とは？ 新しい人権
第9回	基本的人権の尊重④	人権の尊重とその限界
第10回	統治機構①	三権分立 選挙制度の問題点
第11回	統治機構②	国会
第12回	統治機構③	内閣制度
第13回	統治機構④	裁判所について
第14回	地方自治 まとめ	市町村合併、道州制、都構想について 考える
第15回	試験	学期末試験

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

新聞記事等で憲法問題に関係のある社会問題を常に意識しておくことのほかは、とくに必要ありません。  
(必要がある際には、授業のときに指示します)

### 【テキスト】

授業で資料を配布します。

### 【参考書】

芦部信喜『憲法【第5版】』（高橋和之補訂版、岩波書店、2011年）  
安念潤司・小山剛・青井美帆・宍戸常寿・山本龍彦編著『論点 日本国憲法』（東京法令出版、2010年）  
その他授業の際に指示します。

### 【成績評価基準】

学期末試験による。  
そのほか、学期中に一度任意提出の課題を課す可能性があります。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

2012年度より担当

### 【学生が準備すべき機器他】

パワーポイントや映像機器を使用する可能性があります。

### 【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目です。

## 刑法の基礎

渡辺 靖明

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：火 6

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

### 【授業のテーマ】

刑法は、「犯罪」として市民の生命・身体・自由・財産等を害する行為を処罰しながら、「刑罰」として市民の生命・身体・自由・財産等を侵害する。この二律背反をどのように正当化したらよいのだろうか。その基礎を学ぶ。

### 【授業の到達目標】

刑法と倫理・道徳との相違、刑法と民法等との関係および犯罪の成立要件の基礎等を理解し、刑法が私達の社会においていかなる役割を担っているかを説明することができる。また、後期開講科目である環境法Ⅳ（環境刑法）を履修するための基礎を理解できる。

[]

### 【授業の概要と方法】

本授業では、各回ごとにレジュメを配布し、判例などの具体的な事例について検討し理解をはかる。「刑法総論」として刑法の意義と役割、罪刑法定主義、犯罪論（構成要件・違法性・責任、未遂と共犯等）の基礎を、「刑法各論」として個人的法益、社会的法益、国家的法益に対する主要な犯罪を学ぶ。

[]

[]

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス 刑法と倫理・道徳	いかなる行為が犯罪として処罰されるべきか、例えば、ゴミ等の不法投棄を処罰すべき理由は何かなどを学ぶ。
第2回	刑罰の目的・役割	民事不法行為に対する損害賠償と犯罪に対する刑罰との違いは何か、刑罰の目的は応報か予防かなどを学ぶ。
第3回	罪刑法定主義 法律主義・刑罰法規の明確性の原則・類推解釈の禁止・遡及処罰の禁止	電気窃盗は財物の窃盗に当たるか、おからは「産業廃棄物」かなどを例にしながら、罪刑法定主義の基礎を学ぶ。
第4回	構成要件（1） 行為の主体	犯罪を処罰するには犯罪の意思のみならず行為が必要なのはなぜか、自然人のみならず法人も犯罪行為の主体として処罰されるかなどを学ぶ。
第5回	構成要件（2） 因果関係	有害物質の排出と死亡との因果関係が不明な場合に処罰できるのかなどを例にしながら、因果関係について学ぶ。
第6回	違法性阻却事由	廃棄物の不法投棄者を殺害することが許されるかなどを例にしながら、正当防衛について学ぶ。また、法令行為、緊急避難等についても学ぶ。
第7回	責任主義（1） 故意・過失と責任能力	故意・過失のない行為が犯罪とならないのはなぜか、精神障害者や少年の行為が処罰されないのはなぜか等を学ぶ。
第8回	責任主義（2） 故意・錯誤・過失	民事不法行為と異なり、犯罪は故意犯が原則なのはなぜか、過失と注意義務、事実の錯誤と違法性の錯誤等について学ぶ。
第9回	未遂と共犯	実行の着手、不能犯、中止未遂および共犯の種類（教唆、幫助、共同正犯、共謀共同正犯）等について学ぶ。
第10回	個人的法益に対する罪（1） 生命・身体に対する罪	殺人罪、自殺関与罪、暴行罪・傷害（致死傷）罪、過失傷害・致死罪等を学ぶ。
第11回	個人的法益に対する罪（2） 自由・人格に対する罪	脅迫罪、逮捕・監禁罪、強要罪、強姦罪、名誉棄損罪・侮辱罪、業務妨害罪等を学ぶ。
第12回	個人的法益に対する罪（3） 財産に対する罪①	保護法益としての財産、占有説と本権説、不法領得の意思などの財産犯罪の基礎および窃盗罪・強盗罪を学ぶ。
第13回	個人的法益に対する罪（4） 財産に対する罪②	詐欺罪・恐喝罪・背任罪および盗品関与罪、器物損壊罪を学ぶ。
第14回	社会的法益に対する罪	放火罪、偽造罪、わいせつ罪、騒乱罪などを学ぶ。
第15回	国家的法益に対する罪	内乱罪、公務執行妨害罪、犯人蔵匿罪、職権濫用罪、贈収賄罪などを学ぶ。

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

配布レジュメ等に基づく予習・復習を欠かさずに行ってください。

### 【テキスト】

なし。配布レジュメを使用する。

### 【参考書】

授業時に指示しますが、例えば「刑法基本講義」（佐久間修ほか・有斐閣・2009）は、1冊に刑法の総論・各論が収められています。

### 【成績評価基準】

定期試験では事例問題についての論述問題を出す予定です。その他に、小テストを実施します。成績評価は、定期試験7割、小テスト3割の合計で行います。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

2012年度からの新設科目

### 【関連の深いコース】

環境経営、地域環境



**環境法Ⅰ**

後藤 彌彦

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：金 4

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

**【授業のテーマ】**

有害物質、廃棄物、地球環境問題などわれわれのまわりには、解決をせまられている環境問題が山積する。我が国の公害・環境法の生成、現在の体系、環境法の特徴、基本理念などを学び、環境政策を考えるうえでの基礎的な到達点を把握する。

**【授業の到達目標】**

環境法政策の生成、体系等の基礎を学ぶことにより、持続可能な社会に生きていくための基本が習得できる。

[]

**【授業の概要と方法】**

高度経済成長のひずみとして現れてきた公害、自然破壊などの環境問題に対し、公害対策基本法などの公害法や自然保護法が生成した。さらに地球環境問題を迎え、環境基本法を中心とした法体系が完成した。また、大量生産大量消費から生じた廃棄物問題に対しては循環型社会の形成が要請される。歴史的視点に立ってこれらの環境法体系を俯瞰するとともに、環境法の基本原則・理念を学ばいわば、環境法の総論である。講義形式により行う。

[]

[]

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	授業の進め方と概要
第2回	公害法の萌芽	戦前の公害問題とその対応
第3回	戦後の復興と公害法	公害防止条例と水質二法
第4回	公害事例と法Ⅰ	イタイイタイ病と鉱業法 公害裁判
第5回	公害事例と法Ⅱ	水俣病と水質二法等 公害裁判
第6回	公害事例と法Ⅲ	四日市公害とばい煙規制法 公害裁判
第7回	公害対策基本法	全総計画 新産業都市 三島沼津コンビナート計画 公害対策基本法の制定
第8回	公害国会	公害14法の整備
第9回	自然保護法の歩み	国立公園制度、自然公園制度の整備
第10回	環境法の発展	都市生活型公害 地球環境問題
第11回	環境基本法	環境基本法の概要
第12回	循環型社会形成推進基本法	循環型社会形成推進基本法の概要、体系
第13回	生物多様性基本法	生物多様性基本法の概要、体系
第14回	近年の環境法	環境法の体系と新しい動き
第15回	まとめ	授業の総括

**【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】**

テキスト、プリントを学習する。興味をもった事例、制度を掘り下げて調べてみる。

**【テキスト】**

開講時に指定するテキストとプリントによる。

**【参考書】**

授業内で紹介。

**【成績評価基準】**

定期試験による

**【学生による授業改善アンケートからの気づき】**

ビデオなど映像により授業をわかりやすくする。

**【その他】**

この講義は、各論として環境法Ⅲ、国際環境法Ⅱへ発展する。

**【関連の深いコース】**

地域環境、環境経営

**環境法Ⅱ**

永野 秀雄

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：金 2

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

**【授業のテーマ】**

この授業では、われわれが直面する環境問題について、これを解決する法分野のひとつである環境私法を学びます。

**【授業の到達目標】**

環境問題に現実にかかわる上で必要な知識です。社会人として、この問題に直面したときに、法的な枠組みを用いて考えることができるようにすることを目標とします。

[]

**【授業の概要と方法】**

この講義では、まず、環境私法の基礎理論となっている不法行為法を学びます。次に、民事差止訴訟や国家賠償法等について、わかりやすく解説します。また、環境問題を裁判によらずに解決するための紛争処理制度について概観します。その後、大気、水質、騒音、土壌といった具体的な環境汚染に関する民事判例について、その特徴を確認しながら検討していきます。最後に、風評被害訴訟や、原子力施設をはじめとする嫌悪施設に関する訴訟とそのあり方を検証します。

[]

[]

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	環境問題と環境私法	環境問題と法の関係、環境法の中の環境私法の役割
第2回	不法行為法(1)	意味、成立要件、種類
第3回	不法行為法(2)	損害、請求権者、損害賠償の調整
第4回	不法行為法(3)	時効、共同不法行為
第5回	複合的大気汚染と共同不法行為	判例法の展開
第6回	民事差止訴訟等	環境問題における民事差止訴訟、消滅時効・除斥期間
第7回	土地工作物責任等	環境問題における土地工作物責任の応用、国家賠償法の適用
第8回	公害紛争処理制度等	公害紛争処理制度、協定による民事的紛争解決
第9回	大気汚染訴訟	大気汚染訴訟に関する判例理論の発展
第10回	水質汚濁・地下水関連訴訟	水質汚濁・地下水関連訴訟の具体例
第11回	騒音訴訟等	騒音訴訟、振動訴訟、悪臭訴訟、日照・通風・風害に関する訴訟の具体例
第12回	眺望権・景観権に関する訴訟	眺望権・景観権の具体例と限界
第13回	土壌汚染訴訟、企業資産における土壌汚染と情報開示	土壌汚染訴訟の具体例、企業資産における土壌汚染と情報開示の問題点
第14回	環境問題に起因する風評被害訴訟	環境問題に起因する風評被害訴訟における因果関係、損害評価の難しさ
第15回	原子力施設関連訴訟等	原子力損害賠償法とその関連法、その他の嫌悪施設に関する訴訟

**【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】**

法律の勉強は積み重ねですので、前回までに配布されたプリントとノートで、基本的な用語や論理を勉強して下さい。

**【テキスト】**

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布。

**【参考書】**

なし。

**【成績評価基準】**

定期試験により評価します。

**【学生による授業改善アンケートからの気づき】**

環境法の知識のない学生にも、そのレベルに幅があるので、学生の理解を確認しながら進めていきたいと思っています。

**【学生が準備すべき機器他】**

パワーポイント、プロジェクター。

**【関連の深いコース】**

地域環境、環境経営

## 環境法Ⅲ

後藤 彌彦

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：木 4

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

### 【授業のテーマ】

個別の公害法、廃棄物法などの国内環境法の内容を学び、環境汚染を防止するための仕組みや政策を把握する。

### 【授業の到達目標】

環境保全に関して社会で必要となる基礎的な制度に関する知識が習得できる。

[]

### 【授業の概要と方法】

公害、廃棄物、リサイクルに関連する主要な法律に関連して、これに対する法の仕組み（規制対象、規制基準、規制を遵守させる仕組み）などの概要を把握するとともに、大気汚染等の状況や廃棄物リサイクルの状況を学び、現行政策の内容と問題点を考える。講義形式により行う。

[]

[]

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	紛争処理と法	豊島の事例と公害紛争処理法
第2回	被害救済と法	公害被害救済法から公害健康被害補償法への発展
第3回	費用負担と法	補償法の費用負担 公害防止事業者負担法の費用負担
第4回	大気汚染防止法Ⅰ	固定発生源の規制
第5回	大気汚染防止法Ⅱ	移動発生源の規制
第6回	その他大気汚染諸法	自動車NOxPM法など
第7回	水質汚濁防止法Ⅰ	工場事業場規制
第8回	水質汚濁防止法Ⅱ	生活排水対策
第9回	その他水質汚濁諸法	瀬戸内法、湖沼法、下水道法など
第10回	地盤沈下、土壌汚染と法	地盤沈下二法 土壌汚染二法
第11回	感覚公害と法	騒音規制法 振動規制法 悪臭防止法
第12回	廃棄物処理法Ⅰ	一般廃棄物
第13回	廃棄物処理法Ⅱ	産業廃棄物
第14回	リサイクルと法	容器包装リサイクル法など
第15回	まとめ	授業の総括

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

テキスト、プリントを学習する。興味をもった制度を掘り下げて調べてみる。

### 【テキスト】

開講時に指定するテキストとプリントによる。

### 【参考書】

授業内で紹介。

### 【成績評価基準】

定期試験による。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

ビデオなど映像により授業をわかりやすくする。

### 【その他】

この講義は、環境法Ⅰの各論にあたる。

### 【関連の深いコース】

地域環境、環境経営

## 環境法Ⅳ

長井 圓

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：火 6

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

### 【授業のテーマ】

環境保護のための法体系は、環境民法・環境行政法および環境刑法に区別される。この授業では、環境刑法すなわち環境保護のために刑法がどのような犯罪に対して、どのような刑罰を科すべきかについて学ぶ。

### 【授業の到達目標】

環境に有害なあらゆる行為を犯罪として処罰するならば、私たちの生活自体が極めて困難になる。その適正な犯罪処罰の基本原則および限界を理解する。

[]

### 【授業の概要と方法】

特に、環境行政法と環境刑法との関係について理解するために、総論として、1. 公害刑法から環境刑法への発展、2. 環境刑法の保護法益、各論として、産業廃棄物処理法の判例について解説する。教科書『環境刑法の保護法益と基礎理論』（刊行予定）を使用してその理解を進める。

[]

[]

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス 環境倫理と環境刑法	罪刑法定主義・責任主義などの刑法の特色を学び、環境保護における倫理・道徳と刑法の役割を理解する。
第2回	環境の法的保護における刑法の役割	環境保護のための民法・行政法・刑法の果たすべき各法的役割を理解する。
第3回	公害刑法による生命・健康の保護	熊本水俣病事件刑事判決（環境判例百選 105 事件）における胎児性致死傷と公訴時効の問題点について学ぶ。
第4回	公害罪処罰法の危険犯と業務上過失傷害	日本アイロジル塩素ガス流出事件判決（環境判例百選 106 事件）における危険犯処罰・因果関係の推定を理解する。
第5回	環境刑法の歴史	四大公害事件の公害対策基本法と地球環境時代の環境基本法との理論的差異について学ぶ。
第6回	環境刑法の保護法益（未来世代法益）	リスク社会と近代刑法の危機に直面する環境刑法の保護法益と犯罪構成要件について学ぶ。
第7回	環境刑法の経済法則と最終手段性	水・空気・生態系等の日常的侵害を防止するには、外部不経済を内部化する犯罪規定が必要になることを理解する。
第8回	環境刑法の「保護法益」の「空洞化」の批判	環境行政法に従属する環境刑法の問題点について検討する。
第9回	産業廃棄物処理法の「廃棄物」概念の相対性（1）	「おから」は、食品（有用物）になることも、産業廃棄物になることもある（環境判例百選 49 事件）。
第10回	産業廃棄物処理法の「廃棄物」概念の相対性（2）	不要物として排出された「木くず」をリサイクルしても「廃棄物」にあたることがある（東京高判平成 20・4・24、同平成 20・5・19）。
第11回	産業廃棄物処理法の「不法投棄」概念の相対性（1）	産業廃棄物の「野積み」も不法投棄にあたることがある（最決平成 18・2・20 刑集 60 巻 2 号 182 頁）。
第12回	産業廃棄物処理法の「不法投棄」概念の相対性（2）（共罰的行為）	産業廃棄物の「野積み」後の「覆土」も不法投棄にあたる（東京高判 21・4・27）。
第13回	産業廃棄物処理法の「不法投棄」概念の相対性（3）	「し尿汚泥」の処理施設への投入も不法投棄にあたることがある（最決平成 18・2・28 刑集 60 巻 2 号 269 頁）。
第14回	産業廃棄物処理法の不法投棄の共謀共同正犯	硫酸ビッチの処理を委託しただけでも未必の故意による不法投棄罪の共謀共同正犯にあたる（最決平成 19・11・14 刑集 61 巻 8 号 757 頁）。
第15回	産業廃棄物処理法の「産業廃棄物の処理の委託」の意義	産業廃棄物を直接許可業者に委託する場合以外には委託処理違反の罪（25 条 4 号・12 条 3 項）が成立する（最決平成 18・1・16 刑集 60 巻 1 号 401 頁）。

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

教科書の特定項目を必ず予習して、課題レポートを提出する。

### 【テキスト】

長井 圓著『環境刑法の保護法益と基礎理論』（刊行予定）。

### 【参考書】

環境法判例百選（第2版・2011・有斐閣 別冊ジュリスト）。

**【成績評価基準】**

最終試験 70 %、課題レポート 30 %。

**【学生による授業改善アンケートからの気づき】**

2012 年度からの新設科目。

**【関連の深いコース】**

地域環境、環境経営

## 国際環境法

岡松 暁子

カテゴリ：政策 | 配当年次/単位：2~4 年 / 2 単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：月 4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業のテーマ】**

国際環境法は、国際環境問題の特質ゆえに、形成、発展、形態、内容、履行確保において様々な特徴がある。本講義では、個別条約や判例を題材として、国際環境諸条約に見られるそのような特徴を抽出し、検討していく。

**【授業の到達目標】**

国際環境問題に関する国際法の枠組みを理解する。

【】

**【授業の概要と方法】**

国際環境法の理論、判例についての講義を行う。

【】

【】

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	本講義の対象
第 2 回	国際環境法の対象と接近方法	アプローチ
第 3 回	国際環境法の形成 (1)	国際環境法の生成
第 4 回	国際環境法の形成 (2)	国際環境法の発展
第 5 回	国際環境法の展開	国際環境法の歴史的展開
第 6 回	国際環境法の性質 (1)	持続可能な発展
第 7 回	国際環境法の性質 (2)	世代間衡平、予防的アプローチ
第 8 回	国際環境法の性質 (3)	共通に有しているが差異ある責任、人類共通の関心事
第 9 回	国際環境法の定立形式	枠組条約と議定書
第 10 回	国際環境法の制度化	締約国会議、事務局、外部機関
第 11 回	国際環境法の手続的義務	事前通報・協議制度、報告・審査制度、情報交換、事前の情報に基づく同意、環境影響評価、モニタリング
第 12 回	国際環境法上の義務の履行確保	不遵守手続
第 13 回	貿易と環境	GATT/WTO と環境問題
第 14 回	企業活動と環境	多国籍企業の活動と責任
第 15 回	期末試験	筆記試験

**【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】**

教科書の該当部分を読んでおくこと。

**【テキスト】**

西井正弘編『地球環境条約』有斐閣、2005 年。  
奥脇直也編『国際条約集』有斐閣。

**【参考書】**

適宜指示する。

**【成績評価基準】**

期末試験による。授業内に任意で行うリアクションペーパーは、加点要素としてのみ考慮する。

**【学生による授業改善アンケートからの気づき】**

これまでと同様の方法で進める。

**【その他】**

2011 年度までに旧名称「国際環境法 I」を修得済の場合、本科目は履修できない。再履修者は「国際環境法 I」で登録すること。

**【関連の深いコース】**

国際環境

## 比較環境法

後藤 彌彦

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講semester：後期授業 | 曜日・時限：木 4

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

### 【授業のテーマ】

今日の環境問題の主要なテーマである自動車排出ガス、有害物質などについて、わが国と外国の取り組みを比較しつつ概観し、わが国の取り組みのあり方について別の角度から考える。

### 【授業の到達目標】

環境保全に関して社会で必要となる基礎的な制度に関する知識を習得するとともに地球社会の一員として国際的に協調して取り組む重要性を把握する。

[]

### 【授業の概要と方法】

世界的に取り組まれている環境問題の主要なテーマである、環境影響評価、自動車排出ガス、有害物質対策、地球環境問題について、わが国の取り組みの経緯と内容、同じ問題に対する外国の取り組みの差異などを比較考察する。講義形式により行う。

[]

[]

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	この講義の位置づけ、概要
第2回	国際的な環境保護の歩み	産業革命期の環境法の萌芽 国立公園制度とナショナルトラスト
第3回	国際的な環境保護の歩み I	原子力事故 国際会議
第4回	環境影響評価制度 I	わが国の制度とNEPA①
第5回	環境影響評価制度 II	わが国の制度とNEPA②
第6回	環境影響評価制度 III	SEA
第7回	自動車排出ガス規制	マスク規制
第8回	自動車排出ガス規制 2	ディーゼル規制
第9回	自動車問題に対する新しい動き	地球温暖化対策 混雑税
第10回	有害物質対策 I	DDT等の農薬 PCBと化審法
第11回	有害物質対策 II	外国の制度 ダイオキシン
第12回	有害物質対策 III	PRT
第13回	土壌汚染対策	スーパーファンド法とわが国の制度
第14回	地球環境問題 新エネルギー	温室効果ガス算定報告 RPS法など
第15回	むすび	授業の総括

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

プリント、参考書を学習する。興味を持った制度を掘り下げて調べてみる。

### 【テキスト】

プリント

### 【参考書】

授業内で紹介

### 【成績評価基準】

定期試験による。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

ビデオなど映像により授業をわかりやすくする。

### 【その他】

・この講義は、国内環境政策を考える一環として位置づけている。  
・2011年度までに旧名称「国際環境法Ⅱ」を修得済の場合、本科目の履修はできない。再履修者は「国際環境法Ⅱ」で登録すること。

### 【関連の深いコース】

環境経営、地域環境



## 労働環境法

沼田 雅之

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：金 1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

### 【授業のテーマ】

この講義では、労働するうえで、「人らしい扱い」をうけるために必要な法規制や裁判例の動向について取り扱います。

### 【授業の到達目標】

職場における労働環境問題について、基本的な知識が身につく。  
法的問題を通して、労働環境問題について、具体的なイメージをもって考察できる。  
さらに、これらの問題について、私見を述べられる。

【】

### 【授業の概要と方法】

2008年のリーマンショックを契機に、雇用問題についての関心が高まっています。その際によくいわれるのは、「人らしい扱いを。」というものです。このことをILOでは、「ディーセントワーク」といい、その確立を大きな課題としています。労働の現場では、人とモノが有機的に結合して何かを生み出すわけですが、だからといって人は「モノ」ではありません。現代の就労モデルを念頭におく限り、一日のうちの多くの時間が労働に割られます。であれば、労働の環境そのものも、「人らしい扱い」をうけるに相応しいものでなければなりません。

この講義では、労働するうえで、「人らしい扱い」をうけるために必要な法規制や裁判例の動向について取り扱います。

また、講義形式を基本とします。

講義では、パワーポイントを利用します。

【】

【】

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス、法学の基礎知識。	講義の進め方や評価方法の説明。簡単な法学全体の話し。
第2回	労働法の全体像と基本原則	「労働環境法」をとりまく講義上の概念である「労働法」の簡単な全体像の説明と基本原則を学習する。
第3回	労働環境と労働基準法上の規制(1)	労働基準法上の規制を守らせるための実効性確保手段を説明する。
第4回	労働環境と労働基準法上の規制(2)	労働時間規制を中心とした問題を扱う。
第5回	労働環境と労働基準法上の規制(3)	時間外労働について説明する。
第6回	職場の人間関係をめぐる問題(1) -セクシュアル・ハラスメント-	セクシュアル・ハラスメントの問題を扱う。
第7回	職場の人間関係をめぐる問題(2) -いじめ-	職場のいじめやパワーハラスメントの問題を扱う。
第8回	安全配慮義務(1)	職場環境の保持にとって、雇用者である使用者の安全に対する配慮は重要な要素となるので、その問題を説明する。
第9回	安全配慮義務(2)	職場環境の保持にとって、雇用者である使用者の安全に対する配慮は重要な要素となるので、その問題を説明する。
第10回	労働安全衛生法(1) 安全衛生管理体制ほか	労働者の安全や衛生を確保するため、法律によって細かく規制がなされているので、その点を説明する。
第11回	労働安全衛生法(2) 健康の維持・増進の措置、快適な職場環境の形成のための措置ほか	労働者の安全や衛生を確保するため、法律によって細かく規制がなされているので、その点を説明する。
第12回	労働者災害補償保険法(1) 保険関係ほか	実際に労働者が業務上げがをしたり、病気にかかった場合の補償について説明する。
第13回	労働者災害補償保険法(2) 業務上認定	実際に労働者が業務上げがをしたり、病気にかかった場合の補償について説明する。
第14回	過重労働、特別な疾病	いわゆる過労死の問題を扱う。
第15回	まとめ	講義のまとめをします。

### 【授業外に行うべき学習活動(準備学習等)】

配付するプリントを事前に見ておいてください。

### 【テキスト】

プリント教材を配布します。

プリント教材は、事前にホームページからダウンロードして、各自で準備をしてもらいます。ご協力をお願いします。

### 【参考書】

参考書が必要な場合は、講義中に適宜指示いたします。

### 【成績評価基準】

試験と平常点で評価します。

試験と平常点の割合は、9：1です。

試験は期末試験のみ実施します。

平常点は出席調査書に記載される質問内容等で評価します。

講義開始後10～15分後に出席調査票を配布しますので、それ以降の遅刻は正当な理由がない限り、欠席扱いします。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

より具体的な事例を配布プリントに記載するなどして、さらに具体的なイメージを持てるような講義としたい。

### 【関連の深いコース】

環境経営

## 自治体環境政策論 I

小島 聡

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：木 4

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業のテーマ】

基幹科目である「地方自治論」をベースとして、「自治体環境政策論 I」では、自治体環境政策の構造と過程、自治体環境政策の個別領域と政策実践、高度経済成長期から約半世紀にわたる自治体環境政策の政策開発の軌跡について検討し、今後を展望する。

## 【授業の到達目標】

- 自治体環境政策さらに自治体政策全般に関する行政学や公共政策学の見方を理解する。
- 市民として、さらに地方自治や地域に関する職業に限らない様々な立場の社会人にとって汎用性のある「政策型思考」を理解し涵養する。
- 自治体環境政策の政策開発の軌跡に関する知識を修得し、政策の歴史社会学的な見方を理解する。
- 自治体環境政策の動向と課題に関する知識を習得する。

I]

## 【授業の概要と方法】

今日、環境政策は、自治体政策において極めて重要な組織ドメインになっている。しかもここでいう環境政策は幅広い内容を有しており、自治体には総合的な政策展開がもたれている。この講義では、第1に、「政策型思考」を身につけるために、自治体環境政策を素材として、公共政策の基本的な構造や体系性・総合性、政策過程について検討する。第2に、環境政策の個別領域の動向、自治体の新たな政策実践について検討する。

第3に、高度経済成長期以降の自治体環境政策の政策開発の軌跡について歴史社会学的な視点を交え検討し、さらに現在の政策動向を確認しながら、これからの方向性や課題について検討する。取り上げる個別政策領域としては、ヒートアイランド対策、廃棄物や公害に関する環境規制、公園政策、景観政策、地球温暖化対策などである。

I]

I]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	「政策」とは何か	自治体環境政策が公共政策であることをふまえ、「政策」の概念と基本的な構造について検討し、この講義の導入とする。
第2回	自治体環境政策の体系性と総合性	自治体の政策体系と政策の総合性について、地域環境空間づくりを手がかりとしながら検討する。
第3回	政策過程とサイクル・モデル	公共政策としての自治体環境政策の動態を理解するために、政策過程のサイクルに関する理論をPDCAサイクルとも関連させながら検討する。
第4回	政策問題の定義とアジェンダ・セッティング	政策過程の初期的な局面として、公共問題の構造化、政策課題の設定について、ヒートアイランドなどの地域環境問題と自治体の政策的対応を手がかりとして検討する。
第5回	政策形成のメカニズム	政策過程における政策立案と政策決定の局面＝政策形成のメカニズムについて、自治体環境政策とのかわりで検討する。
第6回	自治体環境政策の特性	政策形成を政策選択としてとらえ、「政策資源」や「不確実性」などの視点から自治体環境政策の特性と論点について検討する。
第7回	政策実施と自治体の環境規制	政策過程における政策実施の局面の重要性を確認した上で、産業廃棄物や公害などに関する自治体の環境規制について検討する。
第8回	政策実施と地域の環境創造	地域の「環境創造」に関する政策実施について、公園政策を中心として検討する。
第9回	第1世代の自治体環境政策と現代	高度経済成長期において生活環境の防衛を主たる目的として登場した第1世代の自治体環境政策の政策開発について、当時の社会情勢を踏まえながら検討し、現代への示唆と継承についても言及する。

第10回	地域環境再生の時代	第1世代の自治体環境政策から半世紀が経過した現代の「環境再生」について、各地の動向を確認しながら「地域再生」とも関連させて政策論理を検討する。
第11回	第2世代の自治体環境政策と現代	1960年代後半から80年代において、地域環境空間の質の重視を目的として登場した第2世代の自治体環境政策の政策開発について、「環境政策の多次元化」という文脈で、当時の社会情勢を踏まえながら検討し、現代への示唆と継承について言及する。
第12回	景観政策の時代	第2世代の自治体環境政策の発展によって現在に至った地域景観に関する自治体環境政策の制度と動向、今後の展望について検討する。
第13回	第3世代の自治体環境政策の登場	地球環境問題への対応を目的として登場した第3世代の自治体環境政策に関する法制度、行政計画などについて、「環境政策の多次元化」の進展という文脈で、20世紀後半から現代に至る社会情勢をふまえながら検討する。
第14回	第3世代の自治体環境政策の動向と近未来	第3世代の自治体環境政策にかかわる政策実践の動向、地球温暖化問題に対する「緩和」と「適応」という政策類型をふまえた地域におけるこれからの政策課題について検討する。
第15回	自治体環境政策の展望	講義の最後に、自治体環境政策について総括的に展望し、さらに「自治体環境政策論II」へと橋渡しをする。

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

- 講義内容をより深く理解するために配布資料を読むこと。
- 配布資料を参照しながら自らのノートを整理すること。
- 提示した参考文献、その他、自分で選んだ参考文献を読むこと。
- 講義で言及した自治体環境政策や持続可能な地域社会に関連する報道などの情報収集に努めること。

## 【テキスト】

特定のテキストは使用しないが、毎回、講義のポイントを記したペーパーと関連資料を配付する。

## 【参考書】

- 『分権時代の地方自治』三省堂、2007年。
  - 『自治体環境行政の最前線～持続可能な地域社会の実現をめざして』ぎょうせい、2009年。
  - 『自治体環境行政法（第5版）』第一法規、2010年。
  - 『フィールドから考える地域環境』ミネルヴァ書房、2012年。
- 上記以外の参考文献は、開講時および授業中に適宜紹介する。

## 【成績評価基準】

成績は、論述試験（100%）で評価する。そのため、学生には、講義に常時出席し、配布する資料と話す内容に基づいて、自らのノートを作成することを期待する。このことにより、事実関係や学術用語の理解とともに自治体環境政策に関する理論的な思考方法を習得すれば、試験において一定水準以上の論述は十分可能である。また参考文献等による自己学習で講義を補充すれば、さらに質の高い論述が可能であろう。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

政策構造や政策過程に関する行政学や公共政策学の見方については、抽象的な部分もあるため理解が簡単ではないようですが、具体的な政策の内容については、他の授業と取り上げ方は異なりますが、いろいろなどこで言及されているので、比較的、理解しやすいようです。

## 【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、配付資料以外の情報をスクリーンで投影する。

## 【その他】

- 基幹科目の「地方自治論」は、同時に履修するか履修済みであること。さらに「地域環境コース」の関連科目をあわせて履修することが望ましい。なお「自治体環境政策論 I」から「自治体環境政策論 II」へと内容を連続させているので、前者から後者への順序で、両方、履修することが望ましい。
- 2011年度までに旧名称「地方自治論 II」を修得済の場合、本科目は履修できない。再履修者は「地方自治論 II」で登録すること。

## 【関連の深いコース】

地域環境

## 自治体環境政策論Ⅱ

小島 聡

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：木4

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業のテーマ】

「地方自治論」および「自治体環境政策論Ⅰ」の各論として、この講義では、「持続可能な地域社会」とは何かということを考えながら、そうした社会を構築するための自治体環境政策と自治体政策全体について、政策の推進メカニズムとともに検討する。

## 【授業の到達目標】

- ・「持続可能な地域社会」にかかわる概念と政策論理・政策規範を理解する。
- ・持続可能性からみた自治体政策の構図を理解する。
- ・自治体環境政策の動向と課題に関する知識を習得する。
- ・市民として、さらに地方自治や地域に関する職業に限らない様々な立場の社会人にとって汎用性のある「政策型思考」を理解し涵養する。

[]

## 【授業の概要と方法】

「自治体環境政策論Ⅰ」で提示する政策の歴史的發展モデルにあるように、今日の自治体環境政策は多次元化している。さらに「持続可能性」という概念をふまえるならば、「持続可能な地域社会」を構築するための自治体政策では、ほぼ全ての政策領域を含む包括性が重要であり、「持続可能な自治体政策」「持続可能な地域政策」といった視野の広さと言い換えが必要である。この講義では、第1に「持続可能な地域社会」の概念の構成と政策論理・政策規範について、「グローバルに考え、ローカルに行動する」という言説や都市的地域＝非都市的地域（農山村、漁村等）の関係性などを手がかりとしながら検討する。

第2に自治体環境政策の推進メカニズムとして、政策統合、政策手段、マネジメントツール、参加と協働、広域行政などを取り上げる。

第3に、具体的な政策展開として、「持続可能な地域社会」に関する都市的地域と非都市的地域のそれぞれの取り組みについて、海外と国内の動向を検討する。さらに自治体環境政策における個別テーマのうち循環型社会の構築と緑の保全を取り上げる。

最後に、政治学や行政学概念である「ガバナンス」という言葉が、1990年代から、公共政策の領域において世界的に広がっていき、「環境ガバナンス」という言葉も使われるようになってきたことをふまえて、この講義を総括し、さらにこれから自治体の課題や役割を展望する。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	「持続可能な地域社会」とは	はじめにこの講義の導入として、「持続可能性」の概念を確認しながら、「持続可能な地域社会」のイメージと政策課題を検討する。
第2回	「グローバルに考え、ローカルに行動する」の再考	「グローバルに考え、ローカルに行動する」という言説を再考しながら、地域間関係に関する政策論理・政策規範を検討する。
第3回	持続可能な地域社会と政策統合	「持続可能な地域社会」を構築するために多様な政策領域を視野に入れる「政策統合」の考え方と、具体的な政策実践を検討する。
第4回	持続可能な都市づくりをめぐる内外の動向	持続可能な都市づくりに関するヨーロッパの提唱と動向、国内の動向について検討する。
第5回	過疎地域の持続可能な発展	過疎地域の持続可能な発展について政策論理とケースを検討する。
第6回	自治体環境政策の手段	環境行政法学の政策手法の分類を修正・適用しながら行政学・公共政策学の視点による自治体環境政策の手段類型を検討する。
第7回	自治体環境政策のマネジメントツール	自治体環境政策のためのマネジメントツールとして、環境基本計画、EMS、環境アセスメントなどを整理する。
第8回	広域的環境政策の展開	一つの自治体の範囲をこえた環境課題に対応する自治体間の政策協力について検討する。
第9回	自治体環境政策における参加と協働	21世紀に入ってから自治体政策全般で重視されている「参加と協働」の環境政策における展開について検討する。
第10回	循環型社会と自治体	循環型社会への移行に関する自治体のガバナメントとしての政策責任について検討する。

第11回	循環型社会に関する政策実践	循環型社会に関する自治体環境政策のケースについて検討する。
第12回	緑の保全の制度と自治体環境政策	主に都市における緑の保全に関する制度と自治体環境政策について検討する。
第13回	緑の保全に関する政策実践	都市における緑の保全に関する自治体環境政策のケースについて検討する。
第14回	自治体環境政策とガバナンス	ガバナンス、環境ガバナンスという言葉を確認しながら自治体環境政策をとらえ直す。
第15回	持続可能な地域社会への自治体の課題	講義を総括しながら、「持続可能な地域社会」に向けた自治体の課題を再確認する。

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

- ・講義内容をより深く理解するために配布資料を読むこと。
- ・配布資料を参照しながら自らのノートを整理すること。
- ・提示した参考文献、その他、自分で選んだ参考文献を読むこと。
- ・講義で言及した自治体環境政策や持続可能な地域社会に関する報道などの情報収集に努めること。

## 【テキスト】

特定のテキストは使用しないが、毎回、講義のポイントを記したペーパーと関連資料を配付する。

## 【参考書】

- ・『分権時代の地方自治』三省堂、2007年。
  - ・『自治体環境行政の最前線～持続可能な地域社会の実現をめざして』ぎょうせい、2009年。
  - ・『自治体環境行政法（第5版）』第一法規、2010年。
  - ・『フィールドから考える地域環境』ミネルヴァ書房、2012年。
- 上記以外の参考文献は、開講時及び授業中に適宜紹介する。

## 【成績評価基準】

成績は、論述試験（100%）で評価する。そのため、学生には、講義に常時出席し、配布する資料と話す内容に基づいて、自らのノートを作成することを期待する。このことにより、事実関係や学術用語の理解とともに自治体環境政策に関する論理的な思考法を習得すれば、試験において一定水準以上の論述は可能である。また、参考文献等による自己学習で講義を補完すれば、さらに質の高い論述が可能であろう。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

新規科目/担当につき該当なし。

## 【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、配布資料以外の情報をスクリーンで投影する。

## 【その他】

基幹科目の「地方自治論」、政策科目の「自治体環境政策論Ⅰ」は履修済みであること。「地方自治論」、「自治体環境政策論Ⅰ」で講義した内容については理解している前提で進め、この講義では再論しない。また「自治体環境政策論Ⅰ」から「自治体環境政策論Ⅱ」へと内容が連続しているため、両方を履修することが望ましい。

さらに「地域環境コース」の関連科目をあわせて履修することが望ましい。

## 【関連の深いコース】

地域環境



## 日本公害史と法

後藤 彌彦

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：木 5

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

### 【授業のテーマ】

我が国は明治時代から現代に至るまで様々な公害に関する経験をしてきた。この経験を学び伝えることが、持続可能な社会の構築へ向けて生きる我々にとって重要である。また、この経験は他の分野の環境政策や今公害に苦しむ途上国に適用することも可能になる。

### 【授業の到達目標】

我が国は明治時代から現代に至るまで様々な公害に関する経験をしてきた。この経験を学び伝えることが、持続可能な社会の構築へ向けて生きる我々にとって重要である。また、この経験は他の分野の環境政策や今公害に苦しむ途上国に適用することも可能になる。

【】

### 【授業の概要と方法】

我が国が経験してきた鉱害や産業公害について具体的事例に関して企業の対応、行政の対応、法の生成、役割を学ぶ。その内容は単に公害環境法の歴史ではなく、日本公害史であるとともに産業史の側面を有している。この授業は環境法Ⅰの高次科目であり、講義ののち学生が参加した討論を行うことにより講義と研究会の中間形態を目指している。このため、受講者は環境法Ⅰを受講済みであるものに限り、かつ最大30人の人数制限を設ける。(多数の場合抽選)

【】

【】

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	この講義の位置づけ、概要
第2回	殖産興業政策	富岡製糸場等
第3回	鉱業と鉱害1	足尾銅山
第4回	鉱業と鉱害2	別子銅山
第5回	鉱業と鉱害3	日立銅山等
第6回	石炭と鉱害	筑豊炭田、三池炭坑
第7回	製鉄	八幡製鉄等
第8回	自動車	豊田自動車等
第9回	都市公害	大阪、東京
第10回	電気化学	野口遵等
第11回	公害病1	水俣病
第12回	公害病2	コンビナート公害
第13回	食品公害	カネミ油症等
第14回	自然保護	ナショナルトラスト等
第15回	まとめ	授業の総括

### 【授業外に行うべき学習活動(準備学習等)】

プリントを学習する。興味をもったテーマを掘り下げて調べてみる。

### 【テキスト】

プリント

### 【参考書】

全般にわたるものはない 個別テーマに関しては授業内で紹介

### 【成績評価基準】

授業への貢献度とレポート(公害事件とその対応に関するもの)

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

2012年度からの新設科目

### 【その他】

受講者多数の場合は、初回授業において受講者を抽選するので初回授業に出席すること。

### 【関連の深いコース】

地域環境、環境経営

## アメリカ環境法

永野 秀雄

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：金 4

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

### 【授業のテーマ】

この授業では、アメリカ環境法の基本を学びます。アメリカ環境法には、優れた環境影響評価、土壌汚染対策、自然保護に関する法制度があります。その一方で、大気汚染の防止については、世界的潮流から距離を置いています。このような特徴を学びます。

### 【授業の到達目標】

社会に出て、国際的な影響力のあるアメリカ環境法に関係する業務に向き合ったときのために、基本的な理解力をつけることを目指します。また、アメリカ環境法の特徴を学ぶことで、わが国の環境法を考えるとときに、比較して検討できるようになることを目標とします。

【】

### 【授業の概要と方法】

この講義では、法学を専門としない学生を対象に、アメリカ環境法を講義します。まず、その概要をみた後、アメリカが公害問題にどのように対応してきたかを学びます。これに続いて、環境影響評価、大気・水・土壌といった個別の法規制について検討していきます。そして、現在注目を集めている自然保護とエネルギーに関する法制度を学習します。また、特徴のある州法を例に挙げて議論します。最後に、軍に対する環境法規制を考えてみたいと思います。

【】

【】

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	アメリカ環境法の概要	連邦政府と州の環境法、政府機関や環境NGOの果たす役割 環境規制の始まりと現代的展開
第2回	アメリカ環境法の歴史	環境影響評価の仕組み
第3回	連邦環境政策法(1)	具体的事例の検討
第4回	連邦環境政策法(2)	規制内容と具体的訴訟
第5回	大気汚染防止法	規制内容と具体的訴訟
第6回	水質汚濁防止法	スーパーファンド法等
第7回	土壌汚染対策に関連する規制	
第8回	廃棄物・化学物質に関する規制	資源保護回復法等
第9回	自然保護(1)	海、河川、湿地等の保護
第10回	自然保護(2)	森林の保護・国立公園制度
第11回	自然保護(3)	絶滅危惧種等の保護
第12回	エネルギー法(1)	化石エネルギー、核エネルギーと法
第13回	エネルギー法(2)	自然エネルギーと法
第14回	コモンローと環境法	州法で特徴のある環境規制
第15回	軍と環境法	軍に対する国内外での環境規制

### 【授業外に行うべき学習活動(準備学習等)】

法律の勉強は積み重ねですので、前回までに配布されたプリントとノートで、基本的な用語や論理を勉強して下さい。

### 【テキスト】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布します。

### 【参考書】

諏訪雄三『アメリカは環境に優しいのかー環境意思決定とアメリカ型民主主義の功罪』(新評論、1996年)、畠山武道『アメリカの環境保護法』(北海道大学図書刊行会、1992年)。

### 【成績評価基準】

定期試験により評価します。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

新規科目につき該当なし。

### 【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント、プロジェクター

### 【関連の深いコース】

環境経営、地域環境



## エネルギー政策論

菊地 昌廣

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：水 6

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

### 【授業のテーマ】

社会問題と経済問題に関する国際的、国内的視野に立って我々の生活の基盤となるエネルギー問題を政策立案という視野に立って議論する。

### 【授業の到達目標】

- ①エネルギーの基本的技術構造の説明能力を習得する。
- ②社会構造とエネルギー利用の関連性の説明能力を習得する。
- ③国内政治とエネルギー利用の関連性の説明能力を習得する。
- ④エネルギー需給構造について国際的要因の説明能力を習得する。
- ⑤エネルギー政策立案時の視点や立案のポイントを理解する。
- ⑥質疑応答・討論によりエネルギー問題について理解を深める。

【】

### 【授業の概要と方法】

エネルギーに関する基本的な技術要素を理解した後、社会問題とエネルギー利用に関連した課題、国内政治とエネルギー需給に関連した課題、エネルギーの国内需要と供給に関連する国際的な課題を議論する。最後にエネルギー政策立案の考え方を理解する。

90分授業の最初の70分を講義に当て、残りの20分問受講生と質疑応答を行うことによって講義内容の理解を深める。講義はパワーポイントによる資料を使用して実施し、特にテキストは使用しない。

【】

【】

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	エネルギー政策論講義概観とエネルギー概論	授業のテーマと到達目標等本講義の意義について説明する。また、受講背景の基礎となるエネルギーとは何か？その種類は？用途としての特徴は？等の基本概念を解説する。
第2回	エネルギー資源、エネルギーの多様性と利用効率	エネルギーの需給バランスについて資源別に解説すると共に、エネルギーの特性に基づく利用方法のベストミックスの考え方や、利用時のエネルギー損失について解説する。
第3回	エネルギー消費と産業構造、エネルギー供給メカニズム	GDPとエネルギー消費の関係等、社会生活とエネルギーとの係わりについて解説すると共に資源から利用可能な状態までのエネルギーライフサイクルとエネルギー伝達のメカニズムについて解説する。
第4回	公共財としてのエネルギーとエネルギーコスト	公共財としてのエネルギーの特徴とエネルギー価格（コスト）を構成する要素を解説する。
第5回	エネルギー安定供給（エネルギーセキュリティ）	エネルギー政策の一つの要素であるエネルギーセキュリティ問題について、歴史的経緯や考慮すべき要素を解説する。
第6回	エネルギー供給体制（再生可能エネルギーと省エネルギー）	エネルギー供給体制の実態と課題、及び、利用効率向上のための省エネルギー対策について解説する。
第7回	エネルギー利用とリスク	エネルギーを国民に安心安全な環境で提供するために配慮すべきリスクのあり方について、食糧問題や環境問題にも敷衍して解説する。
第8回	エネルギー税制	エネルギー利用に付帯する各種税とその用途、活用法の実態を解説する。
第9回	エネルギー価格の変動と各国の需給戦略	資源小国である我が国は海外からの供給を前提としていることからエネルギー価格の変動に注視している状況にあり、世界のエネルギー戦略について解説する。
第10回	エネルギー消費と国際関係	エネルギー消費に付帯する需給問題や、温暖化問題に関連する国際関係について解説する。
第11回	エネルギー政策の歴史とエネルギー関連法令	近代産業発展に伴って採用されてきた我が国のエネルギー政策を解説すると共に現在のエネルギー関連法令について解説する。

第12回	エネルギー政策立案のメカニズムと政策の方向性	エネルギー基本計画策定、実施関連法令立案等具体的なエネルギー政策を立案するためのメカニズムを紹介すると共に今後の方向性について解説する。
第13回	エネルギー需給予測と将来展望	将来の内外のエネルギー需給予測を世界各国の経済発展との関連で解説すると共に、将来展望について紹介する。
第14回	講義内容のレビューと討論（質疑応答）	これまでの講義内容をレビューし質疑応答を行うことにより講義内容の理解を深める。
第15回	期末試験	筆記試験を行う。

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

事業日前に次回講義で使用する資料を配信する。受講日までにその内容をよく予習し、授業後半の質疑応答に応じられるように準備学習活動を行うを求める。

### 【テキスト】

講義はパワーポイントによる資料を使用して実施し、特にテキストは使用しない。

### 【参考書】

本講義を受講するに当たって、以下の文献を推奨する。

- 1) 十市 勉 (2005) 『21世紀のエネルギー地政学』（産経新聞出版）
- 2) 小池康郎 (2011) 『文系人のためのエネルギー入門』（勁草書房）
- 3) 三浦隆利、他 (2008) 『エネルギー・環境への考え方』（養賢堂）
- 4) 藤原淳一郎 (2010) 『エネルギー法研究』（松岳社）
- 5) エネルギー・経済統計要覧、日本エネルギー経済研究所 (2011)
- 6) その他、エネルギー白書等政府刊行物

### 【成績評価基準】

出席点：10点（ただし出席率70%以上）  
期末試験結果90点（論述式試験による）

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

「2012年度からの新設科目」

### 【学生が準備すべき機器他】

プロジェクター及びパソコン

### 【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目である。

## 地球環境政治論

横田 匡紀

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：月 6

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

### 【授業のテーマ】

この講義は地球環境問題をめぐるグローバルな合意形成のメカニズムを対象とし、グローバル・ガバナンス論の理論枠組みや京都議定書などの事例により理解して行くことを目的とする。学生には、地球環境政治をめぐる様々な問題を考え、グローバル市民社会の一員として持続可能な世界のあり方を考える視座を獲得してもらうことをめざす。

### 【授業の到達目標】

- ・ポスト京都議定書などを事例に、地球環境問題をめぐる合意形成のメカニズムを国際関係論の視点から理解できるようになる。
- ・地球環境問題をめぐる国際機構や環境 NGO、企業といった様々なアクターの活動が理解できるようになる。
- ・貿易と環境、環境と安全保障といった複合的な問題をめぐる合意形成のメカニズムを理解できるようになる。
- ・日本やアメリカの地球環境外交を理解できるようになる。
- ・ヨーロッパやアジアなど地域レベル多様な環境ガバナンスの現状を理解できるようになる。
- ・グローバル・ガバナンス、地球環境ガバナンスといった国際関係論の視点を理解できるようになる。

[]

### 【授業の概要と方法】

京都議定書の事例にも示されるように、なぜ地球環境問題をめぐるグローバルな合意形成は困難に直面するのでしょうか？地球環境問題への解決に向けて国際社会が合意し、持続可能な世界を構築するためには、合意形成のメカニズムを理解することが必要となります。この講義では、グローバル・ガバナンスの視点からこの問題にアプローチし、どのようなアクター（国際機構、NGO、企業など）がどのような手段（国際レジームなど）で、どのような問題（気候変動問題など）に取り組み、どのような成果と課題があるのかを確認していく。

[]

[]

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	地球環境政治論総論（1）	地球環境政治とは何か
第2回	地球環境政治論総論（2）	地球環境政治の歩み
第3回	地球環境政治へのアプローチ（1）	地球環境政治の見方
第4回	地球環境政治へのアプローチ（2）	グローバル・ガバナンスとは何か
第5回	地球環境政治のメカニズム（1）	地球環境レジーム形成のメカニズム
第6回	地球環境政治のメカニズム（2）	地球環境レジーム間の相互関係
第7回	地球環境政治のメカニズム（3）	地球環境政治のアクター
第8回	地球環境政治のメカニズム（4）	地球環境政治と国内政治
第9回	地球環境政治の 이슈（1）	グローバルとローカルとの相互関係
第10回	地球環境政治の 이슈（2）	環境リージョナリズムの動向
第11回	地球環境政治の 이슈（3）	安全保障の緑化
第12回	地球環境政治の 이슈（4）	地球環境政治とジェンダー
第13回	ポスト京都議定書の国際枠組み（1）	全体像の把握
第14回	ポスト京都議定書の国際枠組み（2）	グローバル・ガバナンスからみた問題点
第15回	地球環境政治の展望	地球環境政治の将来の方向性

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

講義の各項目について理解できるようにしておく

### 【テキスト】

宮脇昇・庄司真理子編『新グローバル公共政策』晃洋書房、2011年

### 【参考書】

亀山康子『新・地球環境政策』昭和堂、2010年

亀山康子・高村ゆかり編『気候変動と国際協調』慈学社、2011年

山田高敬・大矢根聡編『グローバル社会の国際関係論 新版』有斐閣、2011年

### 【成績評価基準】

レポート類の提出を前提とし、筆記試験の結果で評価する

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

今年度からの開講科目

### 【その他】

講義内容に関わるドキュメンタリービデオを随時用いています。進度により講義内容を変更することがあります。

### 【関連の深いコース】

国際環境

## 地域協力・統合

大中 一彌

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：月4

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

### 【授業のテーマ】

この授業では、ヨーロッパ大陸における国境を越えた各種の動きを水平的統合、地中海をはさみ南側に位置するアフリカ諸国との関係を垂直的な協力関係と捉え、これら2つの軸の重なりあいをつうじて、地域協力・統合の現状と問題点を学習する。

### 【授業の到達目標】

ユーロ圏危機などで時事問題として取り上げられることの多い地域統合の問題を、より長期的な視野において考える姿勢を身につける。

[]

### 【授業の概要と方法】

ヨーロッパ統合の歴史を、各種の映像資料などを交えつつ、講義していく。小テストなどをネット上で実施する。出席はとらない。詳細は下記「成績評価基準」を見ること。

[]

[]

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業内容の紹介と質疑（科目選択にあたって）。地域とは？ 経済統合の諸段階。統合をめぐる諸仮説
第2回	主権と帝国	地域統合や地域協力はなぜ必要なのか？ その必要性を理解するうえで前提となる概念や知識を学ぶ。
第3回	「ヨーロッパ」理念の浮沈(1)	古代における「ヨーロッパ」という用語の誕生から中世まで
第4回	「ヨーロッパ」理念の浮沈(2)	キリスト教中世～市民革命・産業革命によって生まれる近代ヨーロッパ
第5回	「ヨーロッパ」理念の浮沈(3)	19世紀以降、国民国家間の戦争と、植民地支配を展開したヨーロッパ
第6回	ヨーロッパ統合構想	第2次世界大戦終結時までの、国家主権という発想を超えるための思想的な営みを概観
第7回	第2次世界大戦直後のヨーロッパ 1947-50年	マーシャル・プラン、ドイツ問題（ザールラントおよびルールの地位）、欧州審議会（CoE）の設立
第8回	「不戦」と「冷戦」の間 1950-58年	石炭鉄鋼共同体の成立、およびその後の統合の複雑的な発展
第9回	脱植民地化とヨーロッパ 1958-69年	共通農業政策、独仏協調と空席危機、イギリス加盟問題、アフリカとの関係
第10回	通貨問題という茨の道 1969-79年	米ソ緊張緩和、ドル危機、「トンネルのなかの蛇」
第11回	冷戦の終焉に向かうヨーロッパ 1979-91年	アフガニスタンへのソ連軍介入以降の時期；日米による技術革新への対応（「ジャパン・アズ・ナンバーワン」の時代）
第12回	「連合市民権」の成立とヨーロッパの現実 1992-98年	マーストリヒト条約、東欧への拡大
第13回	ポスト 9/11 の時代におけるヨーロッパ 1998-2011年	統合の現況と諸課題について学ぶ。
第14回	個別の論点	ヨーロッパにおける移民のプレゼンス、「要塞ヨーロッパ」、東アジア共同体構想との比較、最適通貨圏理論
第15回	まとめ	学生発表（希望者のみ）含む。

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

・前半の授業回で取り上げるヨーロッパの概念の変遷についての説明は、文明論の古典的な素材からの抜粋からなっています。ぜひそうした古典のテキストに親しむ機会を作ってください。

・中盤以降の授業回で論ずる、第2次世界大戦以降のヨーロッパ統合については、今日の国際情勢の背景となっています。ぜひ新聞やニュースなどをつうじて最新のヨーロッパ情勢に触れるようにして下さい。

### 【テキスト】

遠藤乾編『原典 ヨーロッパ統合史 史料と解説』名古屋大学出版会、2008年。

### 【参考書】

金丸輝男『ヨーロッパ統合の政治史—人物を通して見たあゆみ』有斐閣、1996年。  
エティエンヌ・バリバル『ヨーロッパ、アメリカ、戦争』（大中訳）平凡社、2006年。

### 【成績評価基準】

- ・出席はとらない。
- ・小テストの受験【全員必須。ただし多くはネット上で授業外実施】
- ・学生による発表【希望者のみ】
- ・授業への参加の積極性【良い発言をした授業参加者に得点が加算される「ざぶとんコーナー」】
- ・期末試験
- ・毎回「授業支援システム」上で点数をつけるので、各自、自分の評価を「eカルテ」で見ることが出来る。
- ・評価項目ごとの比率については、授業開始後決定する。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

前半の授業回では、とくに高校や大学1年時の学習との橋渡しを意識しています。

### 【学生が準備すべき機器他】

- ・「授業支援システム」を利用するので、初回授業後、仮登録を各自行う。
- ・Twitter上で質問を受け付ける。@kazouille

### 【その他】

- ・シラバスを熟読してください。

### 【関連の深いコース】

国際環境

## 地方自治論Ⅰ

小島 聡

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：月5

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

### 【授業のテーマ】

この講義では、自治体環境政策および自治体政策全般、さらに現代の地域社会を理解する前提として、地方自治の基本的考え方とともに、地方自治の制度と動向について検討する。

### 【授業の到達目標】

- ・地方自治の理論、制度、現在の動向に関する基礎知識の習得により、市民としての教養を身につける。
- ・報道や社会生活などを通して日常的に接する現代の地域社会に関する幅広い事象を理解する力を身につける。
- ・人間環境学部の地域環境に関する政策科目の履修の基礎となる知識、思考方法を身につける。
- ・地方自治や地域に関連した職業を志望する場合の基礎教養を身につける。

[]

### 【授業の概要と方法】

この講義では、まず地方自治の考え方について、基礎概念や歴史・理論を通して検討する。さらに自治体環境政策、自治体政策全般との関連性に留意しながら、地方自治の基本制度とその動向について検討する。次に国と自治体の政府関係の構造について、中央集権と地方分権を取り上げ、その論理と改革の構図をみていく。最後に、自治体が市民に対して責任を負い、地域社会において総合的かつ自主的にまちづくりを担う「市民の政府」になっていくという理念について、最新の動向とともに検討する。

[]

[]

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	「地方自治」とは何か	「地方自治」の概念について検討する。
第2回	地方自治の歴史と世界	地方自治の歴史について世界史的視野から再検討する。
第3回	地方自治の歴史と近代日本	近代日本の地方自治史について、地域環境の視点を交えて再検討する。
第4回	地方自治の基礎理論	地方自治の理論に関する基礎的な部分を取り上げる。
第5回	二層制と基礎自治体の再編	日本の地方自治の基本構造である二層制を説明した上で、市町村合併による基礎自治体の再編について検討する。
第6回	地域間格差と小規模自治体	「平成の大合併」とともに浮上した地域間格差と小規模自治体の現状と課題について、地域環境への影響とともに検討する。
第7回	都市特例制度	規模と能力に基づく都市特例制度について、指定都市を中心として検討する。
第8回	道州制と連邦制	都道府県の再編構想である道州制について、連邦制と対比しながら検討する。
第9回	広域行政の制度	複数の自治体にまたがる広域行政の重要性と制度について検討する。
第10回	二元代表制と地域政治	権力分立と機関対立主義の考え方、地域政治の歴史的推移の検討により、二元代表制における首長と議会の関係性を再考する。
第11回	二元代表制のこれから	二元代表制の現状と課題、展望について検討する。
第12回	直接民主主義の制度と市民参加	法律に基づく直接請求権と自治体の市民参加システムについて検討する。
第13回	政府間関係のモデルと中央集権システム	政府間関係と呼ばれる国と自治体の関係に関する理論とともに、明治時代以降形成にされてきた日本の中央集権システムについて検討する。
第14回	地方分権改革	中央集権型の政府間関係システムを転換する地方分権改革の構図と動向について検討する。
第15回	「市民の政府」に向けて	「分権型社会」における地域の総合的な政策主体であり、「市民の政府」でもある自治体の課題と自己改革について検討する。

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

- ・講義内容をより深く理解するために、配布資料を読むこと。
- ・配布資料を参照しながら自らのノートを整理すること。
- ・提示した参考文献、その他、自分で選んだ参考文献を読むこと。

・講義で言及した地方自治、現代の地域社会に関する報道などの情報収集に努めること。

### 【テキスト】

特定のテキストは使用しないが、毎回、講義のポイントを記したペーパーと関連資料を配布する。

### 【参考書】

- ・兼子仁『変革期の地方自治法』岩波新書、2012年。
  - ・『ホーンブック 地方自治（改訂版）』北樹出版、2011年。
  - ・『分権時代の地方自治』三省堂、2007年。
- 上記以外の参考文献は、開講時および授業中に適宜紹介する。

### 【成績評価基準】

成績は、論述試験（100％）で評価する。そのため、学生には、講義に常時出席し、配布する資料と話す内容に基づいて、自らのノートを作成することを期待する。このことにより、事実関係や学術用語の理解とともに地方自治に関する理論的な思考方法を習得すれば、試験において、一定水準以上の論述は十分可能である。また参考文献等による自己学習で講義を補完すれば、さらに質の高い論述が可能であろう。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

2011年度は、3月11日に東日本大震災が発生してちょうど2ヶ月後からこの授業を実施したため、被災地の状況について地方自治の視点からかなり言及しました。その結果、時事情報の読み方として役だったようです。このようなりアルタイムの情報を活用していくことが、地方自治のリテラシー教育として重要であると私も再認識しました。同時に学問の社会的関連性を考えさせられ、貴重な経験になりました。

### 【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、配付資料以外の情報をスクリーンで投影する。

### 【その他】

2012年度から基幹科目として実施する「地方自治論Ⅰ」（新「地方自治論Ⅰ」）は、法学政治系の「地方自治論Ⅱ」（新「自治体環境政策論Ⅰ」）、「自治体環境政策論Ⅱ」だけではなく、広く「地域環境コース」に関連する政策科目の基礎という位置にある。

また「地方自治論Ⅰ」（新「地方自治論Ⅰ」）と同じ役割を果たす関連科目として、市ヶ谷基礎科目の「政治学Ⅰ・Ⅱ」、専門科目の「市民社会と政治」、「行政法の基礎」、「行政学」などをあわせて履修することが望ましい。

### 【関連の深いコース】

地域環境



## 地方自治論Ⅱ

小島 聡

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：木4

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

### 【授業のテーマ】

基幹科目である「地方自治論Ⅰ」（新「地方自治論」）をベースとして、「地方自治論Ⅱ」（新「自治体環境政策論Ⅰ」）では、自治体環境政策の構造と過程、自治体環境政策の個別領域と政策実践、高度経済成長期から約半世紀にわたる自治体環境政策の政策開発の軌跡について検討し、今後を展望する。

### 【授業の到達目標】

- ・自治体環境政策さらに自治体政策全般に関する行政学や公共政策学の見方を理解する。
- ・市民として、さらに地方自治や地域に関する職業に限らない様々な立場の社会人にとって汎用性のある「政策型思考」を理解し涵養する。
- ・自治体環境政策の政策開発の軌跡に関する知識を修得し、政策の歴史社会学的な見方を理解する。
- ・自治体環境政策の動向と課題に関する知識を習得する。

【】

### 【授業の概要と方法】

今日、環境政策は、自治体政策において極めて重要な組織ドメインになってきている。しかもここでいう環境政策は幅広い内容を有しており、自治体には総合的な政策展開がもたれている。この講義では、第1に、「政策型思考」を身につけるために、自治体環境政策を素材として、公共政策の基本的な構造や体系性・総合性、政策過程について検討する。第2に、環境政策の個別領域の動向、自治体の新たな政策実践について検討する。

第3に、高度経済成長期以降の自治体環境政策の政策開発の軌跡について歴史社会学的な視点を交え検討し、さらに現在の政策動向を確認しながら、これからの方向性や課題について検討する。取り上げる個別政策領域としては、ヒートアイランド対策、廃棄物や公害に関する環境規制、公園政策、景観政策、地球温暖化対策などである。

【】

【】

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	「政策」とは何か	自治体環境政策が公共政策であることをふまえ、「政策」の概念と基本的な構造について検討し、この講義の導入とする。
第2回	自治体環境政策の体系性と総合性	自治体の政策体系と政策の総合性について、地域環境空間づくりを手がかりとしながら検討する。
第3回	政策過程とサイクル・モデル	公共政策としての自治体環境政策の動態を理解するために、政策過程のサイクルに関する理論をPDCAサイクルとも関連させながら検討する。
第4回	政策問題の定義とアジェンダ・セッティング	政策過程の初期的な局面として、公共問題の構造化、政策課題の設定について、ヒートアイランドなどの地域環境問題と自治体の政策的対応を手がかりとして検討する。
第5回	政策形成のメカニズム	政策過程における政策立案と政策決定の局面＝政策形成のメカニズムについて、自治体環境政策とのかかわりで検討する。
第6回	自治体環境政策の特性	政策形成を政策選択としてとらえ、「政策資源」や「不確実性」などの視点から自治体環境政策の特性と論点について検討する。
第7回	政策実施と自治体の環境規制	政策過程における政策実施の局面の重要性を確認した上で、産業廃棄物や公害などに関する自治体の環境規制について検討する。
第8回	政策実施と地域の環境創造	地域の「環境創造」に関する政策実施について、公園政策を中心として検討する。
第9回	第1世代の自治体環境政策と現代	高度経済成長期において生活環境の防衛を主たる目的として登場した第1世代の自治体環境政策の政策開発について、当時の社会情勢を踏まえながら検討し、現代への示唆と継承についても言及する。

第10回	地域環境再生の時代	第1世代の自治体環境政策から半世紀が経過した現代の「環境再生」について、各地の動向を確認しながら「地域再生」とも関連させて政策論理を検討する。
第11回	第2世代の自治体環境政策と現代	1960年代後半から80年代において、地域環境空間の質の重視を目的として登場した第2世代の自治体環境政策の政策開発について、「環境政策の多次元化」という文脈で、当時の社会情勢を踏まえながら検討し、現代への示唆と継承について言及する。
第12回	景観政策の時代	第2世代の自治体環境政策の発展によって現在に至った地域景観に関する自治体環境政策の制度と動向、今後の展望について検討する。
第13回	第3世代の自治体環境政策の登場	地球環境問題への対応を目的として登場した第3世代の自治体環境政策に関する法制度、行政計画などについて、「環境政策の多次元化」の進展という文脈で、20世紀後半から現代に至る社会情勢をふまえながら検討する。
第14回	第3世代の自治体環境政策の動向と近未来	第3世代の自治体環境政策にかかわる政策実践の動向、地球温暖化問題に対する「緩和」と「適応」という政策類型をふまえた地域におけるこれからの政策課題について検討する。
第15回	自治体環境政策の展望	講義の最後に、自治体環境政策について総括的に展望し、さらに「自治体環境政策論Ⅱ」へと橋渡しをする。

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

- ・講義内容をより深く理解するために配布資料を読むこと。
- ・配布資料を参照しながら自らのノートを整理すること。
- ・提示した参考文献、その他、自分で選んだ参考文献を読むこと。
- ・講義で言及した自治体環境政策や持続可能な地域社会に関連する報道などの情報収集に努めること。

### 【テキスト】

特定のテキストは使用しないが、毎回、講義のポイントを記したペーパーと関連資料を配付する。

### 【参考書】

- ・『分権時代の地方自治』三省堂、2007年。
  - ・『自治体環境行政の最前線～持続可能な地域社会の実現をめざして』ぎょうせい、2009年。
  - ・『自治体環境行政法（第5版）』第一法規、2010年。
  - ・『フィールドから考える地域環境』ミネルヴァ書房、2012年。
- 上記以外の参考文献は、開講時および授業中に適宜紹介する。

### 【成績評価基準】

成績は、論述試験（100%）で評価する。そのため、学生には、講義に常時出席し、配布する資料と話す内容に基づいて、自らのノートを作成することを期待する。このことにより、事実関係や学術用語の理解とともに自治体環境政策に関する理論的な思考方法を習得すれば、試験において一定水準以上の論述は十分可能である。また参考文献による自己学習で講義を補完すれば、さらに質の高い論述が可能であろう。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

政策構造や政策過程に関する行政学や公共政策学の見方については、抽象的な部分もあるため理解が簡単ではないようですが、具体的な政策の内容については、他の授業と取り上げ方は異なりますが、いろいろなどこで言及されているので、比較的、理解しやすいようです。

### 【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、配付資料以外の情報をスクリーンで投影する。

### 【その他】

基幹科目の「地方自治論Ⅰ」（新「地方自治論」）は、同時に履修するか履修済みであること。さらに「地域環境コース」の関連科目をあわせて履修することが望ましい。なお「地方自治論Ⅱ」（新「自治体環境政策論Ⅰ」）から「自治体環境政策論Ⅱ」へと内容を連続させているので、前者から後者への順序で、両方、履修することが望ましい。

### 【関連の深いコース】

地域環境

## 国際環境法 I

岡松 暁子

カテゴリ：政策 | 配当年次/単位：2~4 年 / 2 単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：月 4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

国際環境法は、国際環境問題の特質ゆえに、形成、発展、形態、内容、履行確保において様々な特徴がある。本講義では、個別条約や判例を題材として、国際環境諸条約に見られるそのような特徴を抽出し、検討していく。

## 【授業の到達目標】

国際環境問題に関する国際法の枠組みを理解する。

[]

## 【授業の概要と方法】

国際環境法の理論、判例についての講義を行う。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	本講義の対象
第 2 回	国際環境法の対象と接近方法	アプローチ
第 3 回	国際環境法の形成 (1)	国際環境法の生成
第 4 回	国際環境法の形成 (2)	国際環境法の発展
第 5 回	国際環境法の展開	国際環境法の歴史的展開
第 6 回	国際環境法の性質 (1)	持続可能な発展
第 7 回	国際環境法の性質 (2)	世代間衡平、予防的アプローチ
第 8 回	国際環境法の性質 (3)	共通に有しているが差異ある責任、人類共通の関心事
第 9 回	国際環境法の定立形式	枠組条約と議定書
第 10 回	国際環境法の制度化	締約国会議、事務局、外部機関
第 11 回	国際環境法の手続的義務	事前通報・協議制度、報告・審査制度、情報交換、事前の情報に基づく同意、環境影響評価、モニタリング
第 12 回	国際環境法上の義務の履行確保	不遵守手続
第 13 回	貿易と環境	GATT/WTO と環境問題
第 14 回	企業活動と環境	多国籍企業の活動と責任
第 15 回	期末試験	筆記試験

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

教科書の該当部分を読んでおくこと。

## 【テキスト】

西井正弘編『地球環境条約』有斐閣、2005 年。  
奥脇直也編『国際条約集』有斐閣。

## 【参考書】

適宜指示する。

## 【成績評価基準】

期末試験による。授業内に任意で行うリアクションペーパーは、加点要素としてのみ考慮する。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

これまでと同様の方法で進める。

## 【その他】

再履修者のみ。

## 【関連の深いコース】

国際環境

## 国際環境法 II

後藤 彌彦

カテゴリ：政策 | 配当年次/単位：2~4 年 / 2 単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：木 4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

今日の環境問題の主要なテーマである自動車排出ガス、有害物質などについて、わが国と外国の取り組みを比較しつつ概観し、わが国の取り組みのあり方について別の角度から考える。

## 【授業の到達目標】

環境保全に関して社会で必要となる基礎的な制度に関する知識を習得するとともに地球社会の一員として国際的に協調して取り組む重要性を把握する。

[]

## 【授業の概要と方法】

世界的に取り組まれている環境問題の主要なテーマである、環境影響評価、自動車排出ガス、有害物質対策、地球環境問題について、わが国の取り組みの経緯と内容、同じ問題に対する外国の取り組みの差異などを比較考察する。講義形式により行う。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	この講義の位置づけ、概要
第 2 回	国際的な環境保護の歩み I	産業革命期の環境法の萌芽 国立公園制度とナショナルトラスト
第 3 回	国際的な環境保護の歩み II	原子力事故 国際会議
第 4 回	環境影響評価制度 I	わが国の制度と NEPA ①
第 5 回	環境影響評価制度 II	わが国の制度と NEPA ②
第 6 回	環境影響評価制度 III	SEA
第 7 回	自動車排出ガス規制	マスクー規制
第 8 回	自動車排出ガス規制 2	ディーゼル規制
第 9 回	自動車問題に対する新しい動き	地球温暖化対策 混雑税
第 10 回	有害物質対策 I	DDT 等の農薬 PCB と化審法
第 11 回	有害物質対策 II	外国の制度 ダイオキシン PRTTR
第 12 回	有害物質対策 III	スーパーファンド法とわが国の制度
第 13 回	土壌汚染対策	温室効果ガス算定報告
第 14 回	地球環境問題 新エネルギー	RPS 法など
第 15 回	むすび	授業の総括

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

プリント、参考書を学習する。興味を持った制度を掘り下げて調べてみる。

## 【テキスト】

プリント

## 【参考書】

授業内で紹介

## 【成績評価基準】

定期試験による。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

ビデオなど映像により授業をわかりやすくする。

## 【その他】

この講義は、国内環境政策を考える一環として位置づけている。

## 【関連の深いコース】

環境経営、地域環境

## ミクロ経済学 I

中平 千彦

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：金 4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

### 【授業のテーマ】

この講義は、前期開講『ミクロ経済学 I』です。この講義で学んだ内容は、後期開講『ミクロ経済学 II』に接続されます。是非、『ミクロ経済学 I』と『ミクロ経済学 II』を継続受講して、『ミクロ (マイクロ) 経済学』の基礎理論を体系的に習得してください。

経済学は、我々の形成する社会で観察される、経済主体の活動や相互依存関係によって導かれた多様な経済問題を分析し、その中に存在する経済法則を究明することによって、望ましい社会的経済厚生を研究する学問です。あるいは、希少性を有する財・サービスの最適な選択と配分を、相互に競合する目的に基づいて決定し、また、その決定を行うための方法を研究する学問です。この講義では、特に基礎的な「ミクロ (マイクロ) 経済学理論」の習得を目標とします。

### 【授業の到達目標】

この講義では、「ミクロ (マイクロ) 経済学」の基礎理論を、以下のような目標が到達できるように心がけて学んでください。

- ・ミクロ経済学の理論的基礎を説明できるようになる。
- ・ミクロ経済学に関する基本的問題を、社会理工学的に思考・表現することができるようになる。

【】

### 【授業の概要と方法】

受講生の皆さんは、「ミクロ (マイクロ) 経済学」に対してどのような印象を持っているでしょうか？

経済理論を 2 つに大別すると、「ミクロ (マイクロ) 経済学」と「マクロ経済学」に分類できます。「ミクロ (マイクロ) 経済学」は、個々の経済主体における最適化された行動を前提に、市場における経済主体間の相互関係、資源配分と所得配分の決定における市場機構の役割などを分析する、あるいは、いくつかの代表的な公理に依拠した最適化行動に基づき、個から市場、そして経済全体へとアプローチする研究分野です。一方、「マクロ経済学」は、消費者部門における消費、企業部門における投資と生産物供給、政府部門における財政支出と貨幣供給、貿易バランス、そして、それらの相互連関によって決定される国民所得、インフレーションと失業、景気変動などに着目し、経済全体についての集計変数における均衡水準と決定経路を分析する研究分野です。これらの 2 分野は相互補完的な関係にあります。例えば、「ミクロ (マイクロ) 経済学」において、個々の経済主体の最適な行動がマクロ経済にいかなる影響を与えるかを分析するには、「マクロ経済学」の理論が必要となります。また、「現代マクロ経済学」にとって「マクロ経済学のミクロ (マイクロ) 的基礎」は不可欠な要素となっています。

この講義では「ミクロ (マイクロ) 経済学」の基礎理論を学びますが、講義時間に余裕があれば、「ミクロ (マイクロ) 経済学」の理論と現実との関係、また、マクロ経済学や公共政策学のミクロ (マイクロ) 的基礎などのトピックも採り入れるよう努力します。

この講義では、テキスト前半部分の項目を解説します。後半部分は、後期開講『ミクロ経済学 II』で解説します。この講義で学んだ内容を、後期開講『ミクロ経済学 II』に接続し、知識の体系化を試みてください。

【】

【】

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション + 経済学の基礎概念	イントロダクション + 経済学の基礎概念を学ぶ
第 2 回	市場経済と貨幣の理論 + 経済学入門 (1)	市場経済と貨幣の理論と経済学入門 (1) を学ぶ
第 3 回	経済学入門 (2)	経済学入門 (2) を学ぶ
第 4 回	経済学入門 (3)	経済学入門 (3) を学ぶ
第 5 回	消費者行動理論 (1)	消費者行動理論 (1) を学ぶ
第 6 回	消費者行動理論 (2)	消費者行動理論 (2) を学ぶ
第 7 回	消費者行動理論 (3) + 生産者行動理論 (1)	消費者行動理論 (3) と生産者行動理論 (1) を学ぶ
第 8 回	生産者行動理論 (2)	生産者行動理論 (2) を学ぶ
第 9 回	生産者行動理論 (3)	生産者行動理論 (3) を学ぶ
第 10 回	生産者行動理論 (4)	生産者行動理論 (4) を学ぶ
第 11 回	生産者行動理論 (5) + 市場均衡理論 (1)	生産者行動理論 (5) と市場均衡理論 (1) を学ぶ
第 12 回	市場均衡理論 (2)	市場均衡理論 (2) を学ぶ
第 13 回	市場均衡理論 (3)	市場均衡理論 (3) を学ぶ
第 14 回	市場均衡理論 (4) + 前期総合演習 (1)	市場均衡理論 (4) を学ぶ + 前期総合演習 (1) を行う
第 15 回	前期総合演習 (2)	前期総合演習 (2) を行う

### 【授業外に行うべき学習活動 (準備学習等)】

受講後に、テキストやノートによって講義内容を復習してください。また、余裕があれば予習を行ってください。

### 【テキスト】

- ・林 直嗣 (著) 『ミクロ経済学入門』世界書院, 1992 年。
- ・林 直嗣 (著) 『問題演習ミクロ経済学 (再訂版)』, 2010 年。

### 【参考書】

- ・浅田 統一郎 (著) 『ミクロ経済学の基礎』中央経済社, 2002 年。
- ・Hirshleifer, Jack, Glazer, Amihai and David Hirshleifer, Price Theory and Applications: Decisions, Markets, and Information (7th. ed.) (pap.), Cambridge Univ. Press, 2005.
- ・Sexton, Robert L., Exploring Microeconomics (6th. ed.) (pap.), South-Western Publishing, 2011.
- ・Taylor, John and Akila Weerapana, Microeconomics (7th. ed.) (International Edition), Cengage Learning, 2011.

### 【成績評価基準】

- ・[前期試験 + 前期出席点] に基づいて評点配分を行い、成績評価を行います。ただし、得点分布の形状によっては、必要な調整を行った上で、最終的な評価を行います。
- ・各種行事などによる止むを得ない欠席で、申告があった場合は、出席扱いとすることがありますので、早期に講義担当者に相談してください。
- ・出席数が規定数を下回る場合は、単位を認定しません。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

受講生による講義アンケートの結果は、講義内容を改善するための参考資料とします。

### 【学生が準備すべき機器他】

教室では板書を行うとともに、必要に応じて教材をスクリーンに投影します。

### 【その他】

- ・不定期に出席確認を行いますので注意してください。
- ・上記のテキスト欄に示された『ミクロ経済学入門』と『問題演習ミクロ経済学 (再訂版)』は、必ず購入してください。参考文献の購入は、各自の必要性に応じて判断してください。
- ・講義は経済学の基礎理論を平易に解説することを目的としたものですが、公務員、国税専門官、公認会計士、不動産鑑定士、中小企業診断士、ファイナンシャル・プランナーなどの、各種就職・資格試験で経済学を受験科目として選択する受講生にも配慮した解説を行います。

### 【関連の深いコース】

環境経営

## ミクロ経済学Ⅰ

金城 盛彦

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：月 5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

### 【授業のテーマ】

完全競争市場下の「財の価格や取引量」の決定メカニズムの学習を通じ、家計や企業等、個別経済主体の合理的選択行動を理解する。

### 【授業の到達目標】

①需要関数の導出、②供給関数の導出、それぞれの過程を理解し、社会の効率性と個々人の権利を両立させる市場メカニズムの合理性を理解する。

[]

### 【授業の概要と方法】

配布資料や板書、講義中の質疑応答で授業を進める。環境経済学のテーマも織り交ぜる。中学レベルの数学（「線形関数・グラフ」等）を用いる。

[]

[]

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	プロローグ①	講義のガイダンスと、ミクロ経済学とは何かを中心に講じる。
第 2 回	プロローグ②	前回に続き、ミクロ経済学とは何かを中心に講じる。
第 3 回	家計の消費行動①	家計（消費者）の「効用最大化原理」について（家計の予算制約、効用と無差別曲線）を中心に講じる。
第 4 回	家計の消費行動②	前回に続き（最適消費の決定、所得と消費（「正常財」と「下級財」は除く））を中心に講じる。
第 5 回	家計の消費行動③	前回に続き（価格と消費（「ギッフェン財」、「交差効果」は除く））を中心に講じる。
第 6 回	環境経済学への応用①-1	「公共財の市場最適供給（制御）」を中心に講じる。
第 7 回	環境経済学への応用①-2	前回に続き「公共財の市場最適供給（制御）」を中心に講じる。
第 8 回	企業の供給行動①	生産者の「利潤最大化原理」について（インプットとアウトプット、生産要素の最適投入）を中心に講じる。
第 9 回	企業の供給行動②	前回に続き（短期・長期費用、利潤最大化と最適生産）を中心に講じる。
第 10 回	企業の供給行動③	前回に続き（短期供給曲線と長期供給曲線）を中心に講じる。
第 11 回	環境経済学への応用②	「共有地の悲劇」を中心に講じる。
第 12 回	完全競争市場の効率性①	完全競争市場の効率性について（完全競争市場の均衡、経済余剰と市場の効率性、合理的な経済人）を中心に講じる。
第 13 回	完全競争市場と効率性②	前回に続き（市場と需要・供給、市場の均衡、簡単な応用例）を中心に講じる。
第 14 回	完全競争市場と効率性③	前回に続き（効率性の基準：パレート最適、パレート最適な資源配分の条件（市場均衡の安定性）に関する説明は除く）を中心に講じる。
第 15 回	エピローグ	総括と「ミクロ経済学Ⅱ」等、発展学習について紹介。

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

自作資料の多くは【参考書】①を基に作成され、事前にアップ・ロードされるので、予習し疑問点等を予め明確にし講義に臨むとよい。

### 【テキスト】

自作資料（入手方法は後述）

### 【参考書】

①嶋村絃輝・佐々木宏夫編『入門ミクロ経済学』中央経済社（※ 参考文献は必ずしも必要ではない）。

### 【成績評価基準】

期末に定期試験を行う。レポートの可能性もある。問題の難易等を踏まえ、総合的に成績をつける。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

・経済系以外学生には難しいかもしれない。履修登録の前に授業に参加し、自身で履修の判断をして欲しい。

・板書が見えづらいのであれば、前列に来て欲しい。

・「環境学」を学ぶ関連情報の提供（留学等）は好評のようなので、講義の妨げとならない範囲で続けて行きたい。

### 【学生が準備すべき機器他】

適宜、プロジェクターなどを用いる。

### 【その他】

資料は、H'etudes に開設する授業用サイトを通じて行う。プリント・アウトの上で出席すること。閲覧 Password は、開講時に告知する。

### 【関連の深いコース】

環境経営



## ミクロ経済学Ⅱ

中平 千彦

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：金 4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

### 【授業のテーマ】

この講義は、後期開講「ミクロ経済学Ⅱ」です。講義内容は、前期開講「ミクロ経済学Ⅰ」からの接続関係に基づいて設定されています。「ミクロ経済学Ⅰ」と「ミクロ経済学Ⅱ」で学ぶ内容を接続し、「ミクロ経済学（マイクロ）」の基礎理論を体系的に習得してください。

経済学は、我々の形成する社会で観察される、経済主体の活動や相互依存関係によって導かれた多様な経済問題を分析し、その中に存在する経済法則を究明することによって、望ましい社会的経済厚生を研究する学問です。あるいは、希少性を有する財・サービスの最適な選択と配分を、相互に競合する目的に基づいて決定し、また、その決定を行うための方法を研究する学問です。この講義では、特に基礎的な「ミクロ（マイクロ）経済学理論」の習得を目標とします。

### 【授業の到達目標】

この講義では、「ミクロ（マイクロ）経済学」の基礎理論を、以下のような目標が到達できるように心がけて学んでください。

- ・ミクロ経済学の理論的基礎を説明できるようになる。
- ・ミクロ経済学に関する基本的問題を、社会理工学的に思考・表現することができるようになる。

### 【】

### 【授業の概要と方法】

この講義では、前期「ミクロ経済学Ⅰ」で学んだ内容に基づいて、テキスト後半部分の項目を解説します。

経済理論を2つに大別すると、「ミクロ（マイクロ）経済学」と「マクロ経済学」に分類できます。「ミクロ（マイクロ）経済学」は、個々の経済主体における最適化された行動を前提に、市場における経済主体間の相互関係、資源配分と所得配分の決定における市場機構の役割などを分析する、あるいは、いくつかの代表的な公理に依拠した最適化行動に基づき、個から市場、そして経済全体へとアプローチする研究分野です。一方、「マクロ経済学」は、消費者部門における消費、企業部門における投資と生産物供給、政府部門における財政支出と貨幣供給、貿易バランス、そして、それらの相互連関によって決定される国民所得、インフレーションと失業、景気変動などに着目し、経済全体についての集計変数における均衡水準と決定経路を分析する研究分野です。これらの2分野は相互補完的な関係にあります。例えば、「ミクロ（マイクロ）経済学」において、個々の経済主体の最適な行動がマクロ経済にいかなる影響を与えるかを分析するには、「マクロ経済学」の理論が必要となります。また、「現代マクロ経済学」にとって「マクロ経済学のミクロ（マイクロ）的基礎」は不可欠な要素となっています。

この講義では「ミクロ（マイクロ）経済学」の基礎理論を学びますが、講義時間に余裕があれば、「ミクロ（マイクロ）経済学」の理論と現実との関係、また、マクロ経済学や公共政策学のミクロ（マイクロ）的基礎などのトピックも採り入れるよう努力します。

この講義では、テキスト後半部分の項目を解説します。この講義で学ぶ内容と、前期「ミクロ経済学Ⅰ」の内容を上手に接続し、知識の体系化を試みてください。

### 【】

### 【】

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	不完全競争理論(1)	不完全競争理論(1)を学ぶ
第2回	不完全競争理論(2)	不完全競争理論(2)を学ぶ
第3回	不完全競争理論(3)	不完全競争理論(3)を学ぶ
第4回	所得分配理論(1)	所得分配理論(1)を学ぶ
第5回	所得分配理論(2) + 資本理論と利子決定理論(1)	所得分配理論(2) + 資本理論と利子決定理論(1)を学ぶ
第6回	資本理論と利子決定理論(2)	資本理論と利子決定理論(2)を学ぶ
第7回	厚生経済学と社会的選択理論(1)	厚生経済学と社会的選択理論(1)を学ぶ
第8回	厚生経済学と社会的選択理論(2)	厚生経済学と社会的選択理論(2)を学ぶ
第9回	厚生経済学と社会的選択理論(3)	厚生経済学と社会的選択理論(3)を学ぶ
第10回	国際貿易理論(1)	国際貿易理論(1)を学ぶ
第11回	国際貿易理論(2)	国際貿易理論(2)を学ぶ
第12回	不確実性と情報の経済理論(1)	不確実性と情報の経済理論(1)を学ぶ
第13回	不確実性と情報の経済理論(2)	不確実性と情報の経済理論(2)を学ぶ
第14回	不確実性と情報の経済理論(3) + 後期総合演習(1)	不確実性と情報の経済理論(3)を学ぶ + 後期総合演習(1)

第15回 後期総合演習(2) 後期総合演習(2)を行う

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

受講後に、テキストやノートによって講義内容を復習してください。また、余裕があれば予習を行ってください。

### 【テキスト】

\*テキストは、前期「ミクロ経済学Ⅰ」と共通です。  
 ・林 直嗣(著)『ミクロ経済学入門』世界書院、1992年。  
 ・林 直嗣(著)『問題演習ミクロ経済学(再訂版)』、2010年。

### 【参考書】

\*参考書は、前期「ミクロ経済学Ⅰ」と共通です。  
 ・浅田 統一郎(著)『ミクロ経済学の基礎』中央経済社、2002年。  
 ・Hirshleifer, Jack, Glazer, Amihai and David Hirshleifer, Price Theory and Applications: Decisions, Markets, and Information (7th. ed.) (pap.), Cambridge Univ. Press, 2005.  
 ・Sexton, Robert L., Exploring Microeconomics (6th. ed.) (pap.), South-Western Publishing, 2011.  
 ・Taylor, John and Akila Weerapana, Microeconomics (7th. ed.) (International Edition), Cengage Learning, 2011.

### 【成績評価基準】

・[後期試験+後期出席点]に基づいて評点配分を行い、成績評価を行います。ただし、得点分布の形状によっては、必要な調整を行った上で、最終的な評価を行います。  
 ・各種行事などによる止むを得ない欠席で、申告があった場合は、出席扱いとなることがありますので、早期に講義担当者に相談してください。  
 ・出席数が規定数を下回る場合は、単位を認定しません。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

受講生による講義アンケートの結果は、講義内容を改善するための参考資料とします。

### 【学生が準備すべき機器他】

教室では板書を行うとともに、必要に応じて教材をスクリーンに投影します。

### 【その他】

・不定期に出席確認を行いますので注意してください。  
 ・テキストは前期「ミクロ経済学Ⅰ」と共通ですので、前期にテキストを購入している場合は、新たに購入する必要はありません。参考文献も前期と共通ですが、購入は、各自の必要性に応じて判断してください。  
 ・講義は経済学の基礎理論を平易に解説することを目的としたものですが、公務員、国税専門官、公認会計士、不動産鑑定士、中小企業診断士、ファイナンシャル・プランナーなどの、各種就職・資格試験で経済学を受験科目として選択する受講生にも配慮した解説を行います。

### 【関連の深いコース】

環境経営

## ミクロ経済学Ⅱ

金城 盛彦

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講semester：後期授業 | 曜日・時限：月 5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

### 【授業のテーマ】

不完全競争市場下の「財の価格や取引量」の決定メカニズムの学習を通じ、「市場の失敗や不在」といった現象について学ぶ。

### 【授業の到達目標】

完全競争市場を前提とした「ミクロ経済学Ⅰ」に引き続き、より現実の経済に近い、不完全競争市場下での資源配分の歪みを理解し、同時に新しい不完全競争状態の説明ツールである、ゲーム理論や実験経済学にも触れてもらう。

[]

### 【授業の概要と方法】

配布資料や板書、講義中の質疑応答で授業を進める。環境経済学のテーマも織り交ぜる。中学レベルの数学（「線形関数・グラフ」等）を用いる。

[]

[]

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	プロローグ	(「ミクロ経済学Ⅰ」の総括と「ミクロ経済学Ⅱ」への展望、講義概要の説明)
第2回	「ミクロ経済学Ⅰ」の復習	完全競争市場の効率性の復習を通じミクロ経済学的思考も復習する。
第3回	環境経済学への応用①-1	「環境税・補助金による環境保全策」、「コースの定理」を中心に講じる。
第4回	環境経済学への応用①-2	前回に続き「環境税・補助金による環境保全策」、「コースの定理」を中心に講じる。
第5回	環境経済学への応用①-3	前回に続き「環境税・補助金による環境保全策」、「コースの定理」を中心に講じる。
第6回	不完全競争①	完全競争市場と不完全競争市場の相異を「供給独占」を中心に講じる。
第7回	不完全競争②	前回に続き「需要独占」、「双方独占」を中心に講じる。
第8回	不完全競争③	前回に続き「自然独占」、「参入阻止価格」を中心に講じる。
第9回	環境経済学への応用②-1	「排出権取引」を中心に講じる。
第10回	環境経済学への応用②-2	前回に続き「排出権取引」を中心に講じる。
第11回	ゲーム理論①	「ゲームの理論とは」、「戦略型ゲームとナッシュ均衡」を中心に講じます。
第12回	ゲーム理論②	「ゲームの木と展開型ゲーム」、「繰返しゲーム」を中心に講じます。
第13回	環境経済学への応用③-1	環境保全の制度設計への「ゲーム理論」の応用例を中心に講じます。
第14回	環境経済学への応用③-2	前回に続き、環境保全の制度設計への「ゲーム理論」の応用例を中心に講じます。
第15回	エピローグ	総括と「環境経済学」等への発展学習について紹介。

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

自作資料の多くは【参考書】①を基に作成され、事前にアップ・ロードされるので、予習し疑問点を予め明確にし講義に臨むとよい。

### 【テキスト】

自作資料（入手方法は後述）

### 【参考書】

①嶋村絃輝・佐々木宏夫編『入門ミクロ経済学』中央経済社（※ 参考文献は必ずしも必要ではない）。

### 【成績評価基準】

期末に定期試験を行う。レポートの可能性もある。問題の難易等を踏まえ、総合的に成績をつける。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

・経済系以外学生には難しいかもしれない。履修登録の前に授業に参加し、自身で履修の判断をして欲しい。  
・板書が見えづらいのであれば、前列に来て欲しい。  
・「環境学」を学ぶ関連情報の提供（留学等）は好評のようなので、講義の妨げとならない範囲で続けて行きたい。

### 【学生が準備すべき機器他】

適宜、プロジェクターなどを用いる。

### 【その他】

資料は、H'etudes に開設する授業用サイトを通じて行う。プリント・アウトの上で出席すること。閲覧 Password は、開講時に告知する。

### 【関連の深いコース】

環境経営

## マクロ経済学Ⅰ

田中 茉莉子

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：水4

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業のテーマ】

マクロ経済学の考え方を修得し、マクロ経済理論に基づいて経済ニュースを分析できるようにすること。

## 【授業の到達目標】

1. マクロ経済現象を理論に基づいて分析できるようになること。
2. グラフや表から経済環境の変化を読み取れるようになること。

[]

## 【授業の概要と方法】

経済学を初めて学習する人を対象に、下記テキストに沿って、マクロ経済学の理論的枠組みを修得するとともに、現代経済が直面している諸問題をマクロ経済理論に基づいて分析する。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	マクロ経済学とはどのような学問か、前期授業内容の紹介
第2回	GDPとは何だろうか(1)	GDPとは何か、三面等価の原則、GDPを計算するうえでの原則
第3回	GDPとは何だろうか(2)	「国内」概念と「国民」概念、名目と実質、景気循環の考え方
第4回	消費と貯蓄はどのようにして決まるか(1)	短期と長期の消費関数、消費の理論、借入の制約
第5回	消費と貯蓄はどのようにして決まるか(2)	日本の貯蓄率の推移と国際比較
第6回	設備投資と在庫投資(1)	設備投資とは何か、投資の決定要因、望ましい資本ストックの決定
第7回	設備投資と在庫投資(2)	投資の理論、在庫投資とは何か
第8回	金融と株債(1)	企業の資金調達、家計の資産選択、株債の決定理論
第9回	金融と株債(2)	トービンのq理論、投資理論の説明力、流動性制約
第10回	貨幣の需要と供給(1)	貨幣の機能、貨幣の概念、貨幣需要
第11回	貨幣の需要と供給(2)	貨幣供給、貨幣量のコントロール、利子率の決定理論
第12回	乗数理論とIS-LM分析(1)	ケインズ経済学、有効需要の原理、乗数理論
第13回	乗数理論とIS-LM分析(2)	IS-LM分析
第14回	乗数理論とIS-LM分析(3)、まとめ	財政政策と金融政策の効果、前期授業内容の確認
第15回	期末テスト	期末テストにより授業の理解を確認する。

## 【授業外に行うべき学習活動(準備学習等)】

適宜、授業内容に関連した練習問題を紹介するので、復習の際に活用してください。

## 【テキスト】

『マクロ経済学・入門』第4版、福田慎一・照山博司著、有斐閣、2011年。

## 【参考書】

必要に応じて授業中に紹介します。

## 【成績評価基準】

最終回に期末テスト(100点満点、60分)を実施します。A+(100-90点)、A(89-80点)、B(79-70点)、C(69-60点)、D(59点以下)、E(未受験)の6段階で評価します。ただし、A+の割合は、科目受講者数の20%以内とします。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

今年度は、初回の授業でマクロ経済学の全体像について説明します。

## 【関連の深いコース】

環境経営

## マクロ経済学Ⅱ

田中 茉莉子

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：水4

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業のテーマ】

マクロ経済学Ⅰに引き続き、マクロ経済学の考え方を修得し、マクロ経済理論に基づいて経済ニュースを分析できるようにすること。

## 【授業の到達目標】

1. マクロ経済現象を理論に基づいて分析できるようになること。
2. グラフや表から経済環境の変化を読み取れるようになること。

[]

## 【授業の概要と方法】

経済学を初めて学習する人を対象に、下記テキストに沿って、マクロ経済学の理論的枠組みを修得するとともに、現代経済が直面している諸問題をマクロ経済理論に基づいて分析する。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	前期授業内容の確認、後期授業内容の紹介
第2回	経済政策はなぜ必要か(1)	経済政策の必要性、トレンドの変動、IS-LM分析における経済政策の有効性
第3回	経済政策はなぜ必要か(2)	非伝統的金融政策、マクロ計量モデルの役割、ルールと裁量
第4回	財政赤字と国債(1)	政府支出拡大の便益とコスト、国債の役割と問題点、日本の財政赤字
第5回	財政赤字と国債(2)	国債の中立命題、課税平準化の理論、日本の国債市場の動向
第6回	インフレとデフレ(1)	日本の一般物価水準の推移、インフレの原因
第7回	インフレとデフレ(2)	インフレのコスト、ハイパー・インフレーション、デフレーション
第8回	失業(1)	失業の原因、インフレと失業の関係、自然失業率仮説
第9回	失業(2)	労働の部門間シフト、日本の失業率の推移
第10回	経済成長理論(1)	日本の経済成長、経済成長の源泉、経済成長理論
第11回	経済成長理論(2)	成長会計、成長会計の計測例
第12回	経済成長理論(3)	収束の概念、内生的経済成長理論
第13回	オープンマクロ経済(1)	国際収支表、為替レート、国際通貨制度の推移
第14回	オープンマクロ経済(2)、まとめ	為替レートの決定要因、経常収支の決定要因、後期授業内容の確認
第15回	期末テスト	期末テストにより授業の理解を確認する。

## 【授業外に行うべき学習活動(準備学習等)】

事前に、テキストの第1章から第6章までに目を通しておくことが望ましい。適宜、授業内容に関連した練習問題を紹介するので、復習の際に活用してください。

## 【テキスト】

『マクロ経済学・入門』第4版、福田慎一・照山博司著、有斐閣、2011年。

## 【参考書】

必要に応じて授業中に紹介します。

## 【成績評価基準】

最終回に期末テスト(100点満点、60分)を実施します。A+(100-90点)、A(89-80点)、B(79-70点)、C(69-60点)、D(59点以下)、E(未受験)の6段階で評価します。ただし、A+の割合は、科目受講者数の20%以内とします。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

今年度は、初回の授業でマクロ経済学Ⅰの学習内容を確認します。

## 【関連の深いコース】

環境経営

## 公共経済学

小田 圭一郎

カテゴリ：基幹 | 配当年次/単位：2~4年 / 2単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：水 5

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

### 【授業のテーマ】

ミクロ経済学の基礎的な理論に基づき、公共政策を分析するための基本的フレームワークを身につけること。

### 【授業の到達目標】

以下の事項の理解：

- ・厚生経済学の第一基本定理
- ・公共財の効率的配分
- ・外部性の市場的解決方法
- ・環境税と排出権取引の同等性
- ・逆選択モデルの基本

【】

### 【授業の概要と方法】

ミクロ経済学の復習を行った後、公共政策の必要要件（市場の失敗（公共財、外部性）、情報非対称性問題（逆選択）等）、及び、その解決方法（外部性の内部化、メカニズムデザインの初歩等）について学ぶ。またこれらに基づき、環境政策等の典型事例の分析を行う。（なお、授業計画は、参加学生のバックグラウンド、関心分野等に応じて適宜修正する。）

【】

【】

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	公共経済学の概観と授業の進め方
第2回	ミクロ経済学①	最適化問題の定式化
第3回	ミクロ経済学②	厚生経済学の基礎
第4回	ミクロ経済学③	市場の失敗
第5回	公共財①	定義・効率的配分条件
第6回	公共財②	リンダール均衡、クラークメカニズム
第7回	ゲーム理論	ゲーム理論の初歩
第8回	外部効果①	定義、コースの定理
第9回	外部効果②	市場的解決方法
第10回	環境政策①	環境問題の定式化
第11回	環境政策②	環境税と排出権取引
第12回	公的企業	自然独占と規制
第13回	情報非対称性問題①	情報非対称性問題の一般的考え方
第14回	情報非対称性問題②	環境政策における逆選択問題の定式化
第15回	全体の復習	重要論点のレビュー

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

ミクロ経済学とゲーム理論の初歩について配布資料の自習

### 【テキスト】

特になし

### 【参考書】

林貴志著「ミクロ経済学」（ミネルヴァ書房）；他は初回授業時に指示

### 【成績評価基準】

試験（必須）、及び、課題（optional）

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

公共経済学の基礎となるミクロ経済学について、基礎的なレベルから、より直観を重視した説明を行うようにする。

### 【関連の深いコース】

環境経営

## 簿記入門 I・II

北田 皓嗣

カテゴリ：基幹 | 配当年次/単位：2~4年 / 4単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：木 2

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

### 【授業のテーマ】

企業会計の基礎である複式簿記の基礎的な事項の学習が本講義の目的です。

### 【授業の到達目標】

講義や演習を通じて帳簿記帳および基礎となる会計理論の習得を目標とします。

【】

### 【授業の概要と方法】

講義形式で行います。また必要に応じて記帳・計算演習を交えながら習得していきます。

【】

【】

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義の内容と目的と説明、簿記の役割と簿記を学習する意義について解説します。
第2回	資産・負債・純資産 (1)	資産・負債・純資産の概念、貸借対照表の仕組みについて学習していきます。
第3回	資産・負債・純資産 (2)	資産・負債・純資産の概念、貸借対照表の仕組みについて学習していきます。
第4回	収益・費用	収益・費用の概念、損益計算書の仕組みについて学習していきます。
第5回	取引	簿記上の取引の意味、取引要素について学習していきます。
第6回	仕訳 (1)	仕訳の意味の学習し、仕訳帳への記入の練習します。
第7回	仕訳 (2)	仕訳の意味の学習し、仕訳帳への記入の練習します。
第8回	勘定記入	総勘定元帳の意味、総勘定元帳への転記の仕方について学習します。
第9回	帳簿	帳簿の種類と、伝票による処理について学習します。
第10回	試算表の作成	試算表の種類と作成の方法について学習します。
第11回	決算手続き (1)	決算の意義や精算表の仕組み、6桁精算表の作成の方法について学習します。
第12回	決算手続き (2)	総勘定元帳と仕訳帳の締切りと繰越試算表の作成の方法について学習します。
第13回	決算手続き (3)	損益計算書・貸借対照表の作成の方法について学習します。
第14回	現金・預金の記帳	現金、現金出納帳、現金過不足、当座預金について学習します。
第15回	まとめと復習問題	総合練習問題を行います。
第16回	商品売買の記帳 (1)	3分法と分記法と違いについて説明するとともに、仕訳帳と売上帳について学習します。
第17回	商品売買の記帳 (2)	商品有高帳の記帳を練習し、商品販売損益の計算の仕組みを学習します。
第18回	掛取引の記帳	売掛金・買掛金および貸倒れについて学習します。
第19回	手形取引の記帳 (1)	受取手形および支払手形について学習します。
第20回	手形取引の記帳 (2)	手形の意味や種類について説明するとともに、手形の処理について学習します。
第21回	その他の債権債務の記帳	貸付金・借入金、未収金・未払金、前払金・前受金、立替金・預り金、仮払金・仮受金、商品券について学習します。
第22回	有価証券の記帳	有価証券の処理および利息と配当金の処理について学習します。
第23回	固定資産の記帳 (1)	固定資産の取得および減価償却の処理について学習します。
第24回	固定資産の記帳 (2)、営業費の記帳	固定資産の売却時の処理および各種営業費の処理について学習します。
第25回	税金の記帳	税金の処理について学習します。
第26回	資本金と引出金	個人企業の資本金、引出金の処理について学習します。
第27回	決算手続き (1)	決算整理事項について学習します。
第28回	決算手続き (2)	8桁精算表の作成方法について学習します。



- 第 29 回 帳簿の締切り 仕訳帳の締切りや総勘定元帳の締切りについて学習します。
- 第 30 回 まとめと復習問題 総合練習問題を行います。

【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】  
講義後に復習として演習問題を解いてみてください。

【テキスト】  
大下勇二・福多裕志・神谷健司・筒井知彦著『簿記講義ノート』白桃書房。

【参考書】  
必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価基準】  
各期末の定期試験および講義中に行う小テスト（複数回）によって評価を行う。

【学生による授業改善アンケートからの気づき】  
初開講のため、特にありません。

【関連の深いコース】  
環境経営

## 現代企業論

長谷川 直哉

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4 年／2 単位  
開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：火 1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業のテーマ】  
経済社会システムにおける企業活動の意義・役割を理解することは経営学の基本です。本講義では、大量生産・大量消費時代の終焉、地球環境問題の深刻化、企業の社会的責任に対する関心の高まり、知識集約型社会への移行という外部環境の変化を踏まえ、企業を取り巻く様々な現代的課題を取り上げつつ、企業経営のあり方を概観します。

【授業の到達目標】  
ヒト・モノ・カネ・情報等の各要素を効率的に機能させる株式会社制度と様々な経営課題に立ち向かう企業の姿勢を理解し、社会的器官としての企業の役割に対する理解を深めることを目指します。

【】

【授業の概要と方法】  
株式会社の基本機能（経営管理、マーケティング、ファイナンス、人的資源管理）、株式会社の組織と戦略（経営組織、経営戦略、製品開発等）、現代企業が直面する諸課題（ナレッジマネジメント、コーポレートガバナンス等）に関する基本理論と事例を取り上げます。

【】

【】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス 経営とは何か	講義の進め方 講義の全体像
第 2 回	企業とは何か 企業家ケース①	株式会社の発展プロセス 阪急電鉄
第 3 回	製品・サービスの提供 企業家ケース②	市場における優位性の獲得 味の素
第 4 回	株式会社の仕組みと課題 企業家ケース③	株式会社は誰のものか ブリヂストン
第 5 回	大企業の機能と専門経営者 企業家ケース④	所有と経営の分離 パナソニック
第 6 回	企業の大規模化と組織の変革 企業家ケース⑤	規模の利益と効率化 企業統治のあり方 ソニー
第 7 回	経営管理の理念と機能 企業家ケース⑥	マネジメントの実際 トヨタ自動車
第 8 回	日本的経営の構造 企業家ケース⑦	日本的経営の成果と課題 アサヒビール
第 9 回	IT と企業競争力 企業家ケース⑧	IT 活用と経営変革 京セラ
第 10 回	マーケティング 企業家ケース⑨	市場・顧客の変化への対応 ダイエー
第 11 回	製品開発戦略 企業家ケース⑩	製品開発の実際 ヤマト運輸
第 12 回	コーポレート・ファイナンス 企業家ケース⑪	企業金融の手法 日立製作所
第 13 回	財務情報の開示 企業家ケース⑫	財務諸表の読み方 三井グループ
第 14 回	経営分析と企業価値 企業家ケース⑬	企業評価の手法 そごう
第 15 回	よい会社とは何か 企業家ケース⑭	企業価値の構成要素 損害保険ジャパン

【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】  
新聞等で報道される経済問題や企業動向のトピックを継続的にウォッチし、現代企業が生き残りをかけてどのような戦略的行動をとろうとしているのか考えてみましょう。

【テキスト】  
毎回、レジュメを配布します。  
宇田川勝・生島淳編著『企業家に学ぶ日本経営史-テーマとケースでとらえよう』有斐閣、2011 年

【参考書】  
井原久光『テキスト経営学—基礎から最新の理論まで第 3 版』ミネルヴァ書房、2008 年  
柴田和史『ビジュアル株式会社の基本（第 3 版）』日本経済新聞社、2006 年  
武藤泰明『ビジュアル経営の基本』日本経済新聞社、2002 年

【成績評価基準】  
中間レポート： 50 %  
期末試験： 50 %

講義で取り上げた内容に関する基礎的事項を理解し、課題に対して自己の見解を論理的に展開しているか等を評価します。

**【学生による授業改善アンケートからの気づき】**

ケーススタディを織り交ぜて、分かりやすい講義を行います。

**【関連の深いコース】**

環境経営

**環境経済論 I****國則 守生**

カテゴリ：政策 | 配当年次/単位：2~4年/2単位

開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：金 2

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

**【授業のテーマ】**

環境問題はさまざまな経済活動ともなっていて発生しており、経済活動と環境の関わりを体系的に理解する必要がある。そのうえで、いろいろな環境問題に対してどのように対処すればよいのかを考える。

**【授業の到達目標】**

環境経済学の側面から、環境問題を考える際に必要となる基礎的で重要な概念・考え方を修得すると同時に応用力を獲得することを目指す。とくに市場機構を補完する環境政策の基礎を修得する。

[]

**【授業の概要と方法】**

環境問題が過去、どうして市場経済で対処が難しかったのか、また対処するにはどのような枠組みが必要なのかを学ぶ。そのために、環境経済学で取り扱われる「外部性」、「公共財」などの概念や性質を理解するとともに、近年、注目を浴びようになってきた環境問題に対する経済的手段を理解するために必要とされる基礎的事項を講義する。

[]

[]

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	経済と環境問題の発生とその影響	環境の果たす役割の概観
第2回	日本を中心としたローカルな環境問題 I	1980年代までの公害問題について
第3回	日本を中心としたローカルな環境問題 II	1990年代以降に残された問題について
第4回	生産・消費の理論	限界概念、余剰概念などの紹介
第5回	市場の機能と役割 I	価格の役割について
第6回	市場の機能と役割 II	パレート効率性について
第7回	市場の機能と限界	市場の失敗について
第8回	環境と市場 I	公共財について
第9回	環境と市場 II	公共財供給に関するリンダール・メカニズムについて
第10回	環境と市場 III	外部性と環境について
第11回	環境と市場 IV	安全性基準と効率性基準について
第12回	価格コントロールによる環境対応 I	環境税一般の考え方
第13回	価格コントロールによる環境対応 II	排出税としての環境税の考え方
第14回	当事者交渉による環境対応	コースの定理について
第15回	環境問題と情報の問題	情報の非対称性について

**【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】**

重要な概念とその適用に関し、毎回、復習すること。また、配布印刷物などによく目を通し、その理解と問題意識の涵養につとめること。受講に当たっては、ミクロ経済学の履修が望ましい。

**【テキスト】**

作成した印刷物を授業にて配布。

**【参考書】**

とくに指定しないが、以下の書籍が概念等を学ぶ上で参考となる。

R. K. ターナー他『環境経済学入門』（大沼訳）東洋経済新報社  
栗山浩一・馬奈木俊介『環境経済学をつかむ』有斐閣

**【成績評価基準】**

期末試験に加え、授業中に行われるミニ・エクササイズ（出席調査）、授業への貢献度を考慮し、総合的に判断する。

**【学生による授業改善アンケートからの気づき】**

重要な概念については繰り返し、やさしく説明し、理解を深めるように配慮する。

**【関連の深いコース】**

環境経営

**環境経済論 II****國則 守生**

カテゴリ：政策 | 配当年次/単位：2~4年/2単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：金 2

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

**【授業のテーマ】**

環境経済論 I に引き続き、経済活動と環境問題の関わりを体系的に理解し、環境問題の解決に当たって必要なフレームワークを修得する。

**【授業の到達目標】**

環境経済学で基礎的かつ重要な考え方や概念等を引き続き学習し、それらを活用する力を身に付けることを目指す。その際、とくに持続的な資源利用、長期の環境問題、環境の評価などに注目して理解することを目指す。

[]

**【授業の概要と方法】**

環境経済論 II で学ぶのは、自然資源などの利用や環境改善のメリットとその対策費用負担との関係、環境評価の基礎的理解などを通じて、環境・資源問題の具体的な問題を考える際に必要な枠組を講義する。とくに、持続的な資源利用や時間が本質的に入ってくる長期の環境問題などに対して、どのような点がこれまでの共通理解となっているのか、また残された課題は何なのかなどに関して理解を深める学習とする。また市場が存在しない環境をどのように経済評価するのかに関して、いくつかの考え方などについても学ぶ。

[]

[]

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	環境とコモンズ I	ローカル・コモンズとグローバル・コモンズについて
第2回	環境とコモンズ II	コモンズの長期的な存立条件について
第3回	再生可能資源の利用 I	漁獲資源の例について
第4回	再生可能資源の利用 II	経済的な過剰収穫について
第5回	非再生可能資源の利用 I	ホテリング・ルールの考え方について
第6回	再生可能資源の利用 II	バックストップ技術について
第7回	環境とコスト・ベネフィット分析 I	潜在的パレート改善の考え方と限界について
第8回	環境とコスト・ベネフィット分析 II	その他の前提条件について
第9回	環境と割引率 I	割引率の考え方の背景について
第10回	環境と割引率 II	社会的割引率について
第11回	環境とリスク I	リスクの考え方
第12回	環境とリスク II	環境問題への応用
第13回	環境評価 I	顕示選好の伝統的トラベル・コスト法について
第14回	環境評価 II	顕示選好のヘドニック価格法について
第15回	環境評価 II	表明選好の CVM などについて

**【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】**

重要な概念とその適用に関し、毎回、復習すること。また、配布印刷物などによく目を通し、問題意識の涵養につとめること。講義は環境経済論 I の履修を前提として組み立てられている。

**【テキスト】**

作成した印刷物を授業にて配布。

**【参考書】**

とくに指定しないが、以下の書籍が概念などを学ぶうえで参考となる。

R. K. ターナー他『環境経済学入門』（大沼訳）東洋経済新報社  
栗山浩一・馬奈木俊介『環境経済学をつかむ』有斐閣

**【成績評価基準】**

期末試験に加え、授業中に行われるミニ・エクササイズ（出席調査）、授業への貢献度を考慮し、総合的に判断する。

**【学生による授業改善アンケートからの気づき】**

重要な概念については、いろいろな観点から、何度も説明することを心がける。

**【関連の深いコース】**

環境経営

## 環境経営論Ⅰ

## 堀内 行蔵

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：土2

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業のテーマ】

地球環境問題の根本は経済問題である。現代の企業は巨大化し、さまざまな影響を及ぼしている。一方、過去10年間、日本企業の環境経営は目覚ましく進化している。企業は、地球環境問題を解決するキープレイヤーである。テーマは「持続可能な社会」の構築である。

## 【授業の到達目標】

企業経営の基礎と持続可能性の原則を学習する。この結果、環境経営にとって基本的な事柄が理解できようになる。

[]

## 【授業の概要と方法】

地球環境問題は企業経営のあらゆる活動に関係している。まず、経営論の基礎である戦略、組織、リーダーシップ、組織文化、企業変革などのテーマについて学習する。つぎに、21世紀のビジョンである「持続可能な社会」について学習し、最後にビジョンと企業の環境経営との関連をまとめる。この授業は社会力養成の授業の一部である。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	授業の概略について説明する。
第2回	地球環境問題に対する経済・経営の問題	現在は経済成長の時代から経済発展の時代へと転換している。
第3回	企業、組織、経営とは何か	市場経済や企業経営などについて、基礎的な知識を得る。
第4回	競争戦略とドメインの決定	戦略やドメインなどを学び、差別化戦略について知識を得る。
第5回	企業成長と多角化戦略	企業の成長戦略として、事業を多角化させることを学ぶ。
第6回	事業部制と組織構造	企業が多角化する際の組織構造の変化について学ぶ。
第7回	企業統治（コーポレート・ガバナンス）	企業と利害関係者との調整問題を学習する。
第8回	インセンティブ・システム	企業活動を有効にするための誘因について知識を得る。
第9回	経営理念と組織文化の形成	経営者の理念がどのように企業活動に影響するかを学習する。
第10回	リーダーシップ	企業という組織を牽引する経営者のあり方や役割を学習する。
第11回	組織文化の転換と企業の脱成熟化	新たな飛躍のための企業のパラダイム転換について学習する。
第12回	21世紀のビジョン（定常状態の経済）	ゼロ成長の時代を認識し、その意味を学習する。
第13回	21世紀のビジョン（エコロジカル・フットプリント）	地球への環境負荷と地球の環境容量について学習し、世界経済の持続可能性を検討する。
第14回	21世紀のビジョン（ナチュラル・ステップ）	自然の循環法則をもとにして、持続可能性の基本条件を導く。
第15回	21世紀のビジョンと企業経営	持続可能な発展というビジョンを実現するための総合的な条件について、企業経営を中心に学習する。

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

テキスト（伊丹・加護野、堀内・向井）を読むこと。新聞や雑誌や企業のHPには、持続可能性について関連することが多いため、よく目を通しておくこと。

## 【テキスト】

伊丹敬之・加護野忠雄『ゼミナール経営学入門』（日本経済新聞社）  
堀内行蔵・向井常雄『実践環境経営論』（東洋経済新報社）

## 【参考書】

金原達夫『やさしい経営学』（文真堂）  
P. F. ドラッカー『マネジメント』（ダイヤモンド社）  
K = H・ロバール『ナチュラル・チャレンジ』（新評論）  
堀内行蔵『日本経済のビジョンと政策』（東洋経済新報社）

## 【成績評価基準】

論述を中心にした期末試験（参照不可）で評価する。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

実務経験のないことを前提に、わかりやすく説明する。社会に出て役に立つ基本的な考え方が身に着くように工夫する。

## 【関連の深いコース】

環境経営

## 環境経営論Ⅱ

## 堀内 行蔵

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：土2

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業のテーマ】

地球環境問題の根本は経済問題である。現代の企業は巨大化し、さまざまな影響を及ぼしている。一方、過去10年間、日本企業の環境経営は目覚ましく進化している。企業は、地球環境問題を解決するキープレイヤーである。テーマは「持続可能な社会」の構築である。

## 【授業の到達目標】

前期の授業をもとにして、環境経営の理論と実際を学習する。環境経営論の目的は、地球環境問題の解決に貢献する企業経営のあり方を学習し、産業界にあって、将来の変革のリーダーシップを発揮できるように、しっかりとした考えを身に着けることである。

[]

## 【授業の概要と方法】

環境経営論について専門的に学習する。環境経営の歴史的展開をふまえ、1990年代から始まった競争戦略としての環境経営や21世紀の持続可能経営についての特長を学習する。取り上げるテーマは、地球環境問題と企業の競争戦略、企業倫理と経営者の役割、企業の社会的責任など、これからの企業経営にとってもっとも重要な課題である。また、環境経営を実践するための手段であるISO14001、LCA、環境会計などについても学習する。この授業は社会力養成の授業の一部である。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	後期授業について説明する。
第2回	持続可能な社会	21世紀のビジョン、経済政策と環境経営の新展開を学習する。
第3回	競争的環境経営（1）	環境経営の進化を学習し、環境経営の戦略と組織を学ぶ。
第4回	競争的環境経営（2）	環境経営の型を明らかにし、エコ効率性、リサイクルなどの戦略性を学習する。
第5回	競争的環境経営（3）	企業のイノベーションを引き起こす環境規制について学習する。
第6回	理念重視の環境経営（1）	企業経営の歴史的変遷を明らかにし、新時代の企業理論を学習する。
第7回	理念重視の環境経営（2）	企業の社会的責任を学び、企業倫理について諸説を学習する。
第8回	理念重視の環境経営（3）	ビジョナリー・カンパニーなど、理念重視の事例を学習する。
第9回	投資決定の理論（1）	環境改善投資の収益性について経済分析を行う。
第10回	投資決定の理論（2）	環境投資の私的収益率と社会的収益率との違いを学習し、政府の役割を理解する。
第11回	EMSの手段（1）	ISO14001の概要を理解し、リスク管理の重要性を認識する。
第12回	EMSの手段（2）	環境適合設計、LCA、エコラベルなどを学習する。
第13回	EMSの手段（3）	環境コストを把握し、環境会計を学ぶ。
第14回	EMSの手段（4）	環境報告書の作成や国際的なガイドラインを学習する。
第15回	まとめ	持続可能性な社会の実現を目指す環境経営のあり方を認識する。

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

テキスト（堀内・向井）を読むこと。新聞や雑誌や企業のHPには、関連することが多いため、よく目を通しておくこと。とくに自分の興味のある業界や企業については、関連する会社のHPの環境セクションを見ておくこと。

## 【テキスト】

堀内行蔵・向井常雄『実践環境経営論』（東洋経済新報社）

## 【参考書】

L. デシモン、F. ボボフ『エコ・エフィシエンスへの挑戦』（日科技連）  
J. コリンズ、J. ポラス『ビジョナリー・カンパニー』（日経BP出版）  
I. シュイナード『社員をサーフィンに行かせよう』（東洋経済新報社）  
『日経エコロジー』日経BP

## 【成績評価基準】

論述を中心にした期末試験（参照不可）で評価する。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

企業経営の意味と環境対策とをわかりやすく説明する。



## 環境経営実践論 I

花田 正明

カテゴリ：政策 | 配当年次/単位：1～4年 / 2単位

開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：金 6

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

21世紀ゼロ成長時代の国際的循環型経済社会を指導的に支えて行くフレキシブルな人材育成を目的とし、経済社会活動における真の環境問題とは何か、経営上でエコバランス、エコエフィシエンシーを重視した継続的改善を伴った解決策をどのように推進して行ったらよいか等のあり方を考える。

## 【授業の到達目標】

1. 国際的基本ツール「ISO14001 環境マネジメントシステム」の意図と基本概念を理解し、環境配慮経営は持続可能な経済社会への貢献につながる背景・理由を説明できる。2. 環境影響評価と予防・継続的改善を実践的な PDCA の基礎的仕組に適用できる。3. 環境ラベル、環境コミュニケーション、コンプライアンス等が環境マネジメントシステムをどのように補完するか説明できる。

[]

## 【授業の概要と方法】

21世紀のゼロ成長時代の経済社会では健全な企業ビジョン・理念に基づき環境を確実にした経営を継続改善的に推進することが必要となり、循環型経済社会システムサイクルに合った経営活動が求められる。本講義では、持続可能な環境経営や「ISO14001 環境マネジメントシステム」を理解しやすく図表を多用し、講義・演習・討議を通じて上記目標に到達するような授業とする。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	環境経営の基本概念	環境配慮経営にサステナビリティ経営上の必要性及び位置づけを認識し、現代の経営では CSR が求められることを理解する。
第2回	地域的環境汚染問題（公害問題）と地球環境問題	循環型社会に国際的経済社会システム変換の必要性（地域的環境汚染問題と地球環境問題の原因と対策）を考える。
第3回	ISO14000 シリーズ規格の意図と基本概念	国際共通の環境経営基本ツールである ISO14000 シリーズ規格の意図と基本概念を理解する。
第4回	環境経営における基本原則	ISO14001 規格に基づき、環境経営における基本原則である「環境側面」「環境影響」「環境パフォーマンス」を考える。
第5回	演習1（基礎的グループ演習）	経営活動・社会活動を取り巻く環境中の土インセンティブを与える要素（原因）とインパクト（影響・結果）を実践的に考える。
第6回	演習1（結果発表と討議）	演習1の結果発表と討議
第7回	環境改善の内部監査及び ISO14000 シリーズ規格の要点	環境経営を継続的に改善するための内部監査及び補完・支援するための ISO14000 シリーズ規格の要点を認識する。
第8回	演習2（演習1の応用編）	経済社会活動から環境経営上の側面、環境影響及び重要な土影響の継続的改善的な「+向上」「-予防」のための対策を考える。
第9回	演習2の続き	演習2の続き
第10回	演習2の結果発表と討議	演習2の結果発表と討議
第11回	環境経営上のコンプライアンス	環境経営に係るコンプライアンス（法規制、条例、企業倫理に基づく自主的規制等）を考える。
第12回	環境ラベルと環境コミュニケーションの位置付け	産業界における環境ラベルと環境コミュニケーションの位置付けを考える。
第13回	環境経営システムの実効性と環境会計	環境経営システムの実効性と環境会計を考える。
第14回	環境経営システムとライフサイクルアセスメント	環境経営システムを補完するライフサイクルアセスメント（LCA）を考える。
第15回	経営に求められるコンピテンシー（力量）	経営には知識にとどまらずコンピテンシー（力量）が重要となるコンピテンシーマネジメントを理解し、考える力の重要性を認識する。

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

可能な限り新聞の経済社会記事を読む。新聞を読む習慣を持ち、それを活かして講義・演習・討議を通じて考える力を養う。

## 【テキスト】

テキストは各回授業時に資料プリントを配布する。

## 【参考書】

堀内行蔵・向井常雄「実践環境経営論」東洋経済新報社 2006 年

## 【成績評価基準】

最終授業終了時に、事前提示の環境経営課題に関するレポートを提出する。演習 1、2 における役割発揮・発表内容、授業中の観察評価によりレポート採点結果を補完する。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

2012 年度より担当

## 【関連の深いコース】

環境経営

## 環境経営実践論Ⅱ

花田 正明

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：1～4 年／2 単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：金 6

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

前期「環境経営実践論Ⅰ」に引続いて、その応用編として環境経営におけるリスクマネジメントの基礎を事例研究で学習する。

## 【授業の到達目標】

1. 環境経営の持続可能性と環境経営システムの必要性について再認識し、環境経営にプラス・マイナスのインセンティブをもたらす有益・有害な事業機会リスクのマネジメント手法を事例に基づき実践的に適用することができる。  
2. サプライチェーンマネジメントやコンピタンスマネジメントは、その重要性において環境経営システムとどのようにかかわってくるのか説明できる。

[]

## 【授業の概要と方法】

毎日変化する政治・経済社会問題と環境経営は相互関係にあり事業機会リスクをマネジメントすることは持続可能な経営を実現して行く上で重要な課題である。そのために、本講義では環境経営の事業機会リスクマネジメントの実践的分析・評価、有効性について理解しやすく図表を多用しながら、講義・演習・討議を通じて上記目標に到達するような授業とする。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	環境経営の基本概念	環境経営の基本概念及び国際的環境経営の基本ツールである規格 ISO14001 の意図と基本概念を考える（前期講義レビューと課題補完）。
第 2 回	環境経営の必要性	ゼロ成長時代に求められる健全な企業ビジョン・理念に基づく環境経営の必要性を考える（前期講義レビューと課題補完）。
第 3 回	環境経営リスクマネジメント概論 1	リスクマネジメントの基本と経営上の重要性、経営にマイナスインセンティブをもたらす有害リスクについて考える。
第 4 回	環境経営リスクマネジメント概論 2	経営にプラスインセンティブをもたらす有益な事業機会リスクについて考える。
第 5 回	演習 1（学業上のリスクの考え方と対応）	学業活動におけるリスク要素（環境側面/活動上の ± 諸要素・側面・課題）とその環境影響のリスク評価について考える。
第 6 回	演習 1 の続き	演習 1 の続き
第 7 回	演習 1 の発表と討議	演習 1 の結果の各グループ発表と討議
第 8 回	リスクマネジメントにおける分析・評価	演習結果を振り返り、リスクマネジメントにおける実践的な分析・評価のあり方を考える。
第 9 回	演習 2（リスクマネジメント事例演習）	経済社会活動実例から経営に ± インセンティブをもたらすリスク評価し、特定した重要課題の継続改善的な対策を実践的に考える。
第 10 回	演習 2 の続き	演習 2 の続き
第 11 回	演習 2 の結果の発表と討議	演習 2 の結果のグループ発表と討議
第 12 回	リスクマネジメントの実践的な有効性を考える。	リスクマネジメントの実践的な有効性を考える。
第 13 回	サプライチェーンマネジメントの考え方と重要性	経営におけるサプライチェーンマネジメントの位置付け、及び環境経営適合設計の重要性を考える。
第 14 回	コンピタンスマネジメント	これからの経営に必須となるコンピタンスマネジメント（実績・力量主義経営）の基本を考える。
第 15 回	実業界で求められる環境基礎知識	環境技術、環境関連法規の基本を習得する。

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

可能な限り新聞の経済社会記事を読む。新聞を読む習慣を持ち、それを活かして講義・演習・討議を通じて考える力を養う。

## 【テキスト】

テキストは各回授業時に資料プリントを配布する。

## 【参考書】

堀内行蔵・向井常雄「実践環境経営論」東洋経済新報社 2006 年

発行日：2021/6/1

**【成績評価基準】**

最終授業終了時に、事前課題の環境経営課題に関するレポートを提出する。演習1、2における役割発揮・発表内容、授業中の観察評価により、レポート採点結果を補完する。

**【学生による授業改善アンケートからの気づき】**

2012年度より担当

**【関連の深いコース】**

環境経営

## CSR 論 I

長谷川 直哉

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講semester：前期授業 | 曜日・時限：月 4

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業のテーマ】

CSR (Corporate Social Responsibility：企業の社会的責任) や Business Ethics (経営倫理) に関する基本的理論と世界的な潮流を理解し、サステイナブル (持続可能な) 社会において求められる企業の役割と企業に所属する個人の職業倫理のあり方について理解を深めることめざします。

## 【授業の到達目標】

企業や非営利組織の活動の視点から、現在社会における「公共性」にめぐって生じる諸問題に対する理解を深めめことを目指します。

[]

## 【授業の概要と方法】

本講義では、経営学・経済学・法政策等の視点から欧米諸国と日本の CSR および Business Ethics に関する基本理論や背景となる思想の展開を概観します。また、具体的事例や実践的課題を取り上げ、現代社会において進行している現象を通じて、企業と社会の相互関係や CSR および個人の職業倫理について検討していきます。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス 企業と社会の問題領域	講義の進め方 講義の全体像
第 2 回	企業の機能と役割	株式会社の発展プロセス
第 3 回	近代産業の勃興と経済倫理 I 公共する企業家①	見えざる手と道徳哲学 A. スミス 渋沢栄一 (日本資本主義の父)
第 4 回	近代産業の勃興と経済倫理 II 公共する企業家②	功利主義思想 J. ベンサム, J. ミル 大原孫三郎 (倉敷紡績)
第 5 回	近代産業の勃興と経済倫理 III 公共する企業家③	資本主義の精神と倫理 M. ウェーバー 波多野鶴吉 (ゲンゼ)
第 6 回	公共性と正義 公共する企業家④	義務と道徳 I. カント 武藤山治 (鐘紡)
第 7 回	企業社会の論理と倫理 I 公共する企業家⑤	経済的自由主義 M. フリードマン 矢野恒太 (第一生命)
第 8 回	企業社会の論理と倫理 II 公共する企業家⑥	市場の失敗 R. コース 金原明善 (天竜木材)
第 9 回	企業社会の論理と倫理 III 公共する企業家⑦	社会的責任のマネジメント P. ドラッカー 佐久間貞一 (大日本印刷)
第 10 回	日本社会の企業倫理と CSR I 公共する企業家⑧	明治～大正期 勤勉革命と企業倫理 森村市左衛門 (森村学園)
第 11 回	日本社会の企業倫理と CSR II 公共する企業家⑨	戦後・高度経済成長期 相馬愛蔵 (中村屋)
第 12 回	日本社会の企業倫理と CSR III 公共する企業家⑩	成熟化社会 問い直される企業倫理 伊庭貞剛 (住友財閥)
第 13 回	企業統治にみる企業倫理と CSR I 公共する企業家⑪	アメリカ・イギリスの企業観と CSR 留岡幸助 (社会的起業家)
第 14 回	企業統治にみる企業倫理と CSR II 公共する企業家⑫	日本の企業観と CSR 安田善次郎 (安田財閥)
第 15 回	試験	授業の理解を確認する

## 【授業外に行うべき学習活動 (準備学習等)】

関心のある企業の経営理念や CSR 報告書を読み、企業がどのような価値観を持って発展し CSR 活動を行っているのか調べて下さい。

## 【テキスト】

毎回、レジュメを配布します。

## 【参考書】

R.L. ハイルブローナー (松原隆一郎ほか訳) 『入門経済思想史』筑摩書房、2001 年

武田晴人『日本人の経済観念』岩波書店、1999 年

佐和隆光『成熟化社会の経済倫理』岩波書店、1993 年

宇田川勝・生島淳編著『企業家に学ぶ日本経営史-テーマとケースととらえよう』有斐閣、2011 年

## 【成績評価基準】

中間レポート：50 %

期末試験：50 %

講義で取り上げた内容に関する基礎的事項を理解し、課題に対して自己の見解を論理的に展開しているか等を評価します。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

ケーススタディを織り交ぜて、分かりやすい講義を行います。

## 【関連の深いコース】

環境経営、国際環境



## CSR 論Ⅱ

長谷川 直哉

カテゴリ：政策 | 配当年次/単位：2~4年/2単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：月 4

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業のテーマ】

CSR 論Ⅰで学んだことを踏まえ、現代社会において企業が直面する社会的課題について検討します。CSRに関心が高まっている背景には、社会が必ずしもよい方向に進んでいないという認識を人々が抱いているからにはかなりません。企業と社会の間に存在する様々な矛盾を解消するための仕組みとしてのCSRについて理解を深めることをめざします。

## 【授業の到達目標】

企業や非営利組織の活動の視点から、現在社会における「公共性」にをめぐって生じる諸問題に対する理解を深めめことを目指します。

[]

## 【授業の概要と方法】

サステイナブルという言葉が現代社会のキーワードとして提示され、様々な社会的課題の解決を目指すソーシャルビジネス（社会的企業）の活動も注目されています。本講義では、CSRに関する理論やケースを取り上げ、企業経営におけるCSRの意義とサステイナブル社会で求められる企業像を検討します。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス CSRとは何か	講義の進め方 講義の全体像
第2回	企業活動と公共性	わが国企業社会の価値観
第3回	CSRの潮流	欧州・米国におけるCSRの潮流
第4回	CSRの制度化	ISO26000規格の目的
第5回	CSRコミュニケーション	ステークホルダーとの対話 CSR報告書を読み解く
第6回	特別講義①	ゲストスピーカーによる講話
第7回	CSR金融Ⅰ Socially responsible investment	SRI：社会的責任投資とは何か
第8回	CSR金融Ⅱ CSR（環境）格付	非財務要素の評価と企業価値
第9回	CSR金融Ⅲ SRIファンド	SRIファンドを読み解く
第10回	CSR金融Ⅳ 環境融資	環境融資とは何か
第11回	特別講義②	ゲストスピーカーによる講話
第12回	企業とNPOの協働Ⅰ ケーススタディ	企業とNPOのパートナーシップ事例
第13回	企業とNPOの協働Ⅱ ケーススタディ	企業とNPOのパートナーシップ事例
第14回	ソーシャルビジネス	ソーシャルビジネスとは何か 社会的企業家の価値観
第15回	試験	授業の理解度を確認

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

国内では1,000社程度の企業がCSR報告書を発行しています。本講義で習得した知識を活かして、CSR報告書を読み解いてみましょう。

## 【テキスト】

毎回、レジュメを配布します。

岸田眞代編『NPO&企業協働評価』サンライズ出版、2011年

## 【参考書】

谷本寛治『CSR企業と社会を考える』NTT出版、2006年

谷本寛治『SRI社会的責任投資入門』日本経済新聞社、2003年

高嶺・日経CSRプロジェクト『CSR企業価値をどう高めるか』日本経済新聞社、2004年

## 【成績評価基準】

特別講義レポート：20%

期末試験：80%

講義で取り上げた内容に関する基礎的事項を理解し、課題に対して自己の見解を論理的に展開しているか等を評価します。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

ケーススタディを織り交ぜて、分かりやすい講義を行います。

## 【関連の深いコース】

環境経営、地域環境

## EMS 論

長谷川 直哉

カテゴリ：政策 | 配当年次/単位：2~4年/2単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：火 1

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業のテーマ】

低炭素社会の構築に向けて、世界的に新たな環境規制や環境政策の導入が進んでおり、企業活動にも重大な影響が生じています。本講義では、企業や社会を取り巻く環境問題の性質と影響を認識するとともに、その対応手法としての環境マネジメントシステム（EMS：Environmental Management System）の意義と機能について理解を深めることをめざします。

## 【授業の到達目標】

環境マネジメント、環境コミュニケーション、環境報告会計、環境管理会計に関する基礎的知識の習得を目指します。

[]

## 【授業の概要と方法】

20世紀型産業文明のキーワードは成長でしたが、21世紀型ポスト産業文明のキーワードは持続可能な成長（sustainable development）といわれています。本講義では様々な環境問題とその対応策を取り上げ、環境と調和した循環型経済システムへのパラダイム転換のあり方を社会科学的なアプローチから検討していきます。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方 環境経営を巡る諸課題 社会問題の発生と会計
第2回	生態会計 企業社会会計	環境経営とは何か
第3回	環境経営の進展と会計	環境コミュニケーション
第4回	持続可能性報告と会計	詳細はガイダンスで提示
第5回	ゲストスピーカーによる特別講義①	環境会計情報の拡大と利用
第6回	環境報告会計	資産除去債務の会計 排出量取引の会計
第7回	環境財務会計	環境経営と環境管理会計 マテリアルフローコスト会計
第8回	環境管理会計の体系	詳細はガイダンスで提示
第9回	環境管理会計の手法	エネルギー需給 電力会社の発電コスト
第10回	ゲストスピーカーによる特別講義②	企業の気候変動情報の開示
第11回	エネルギー資源と会計	排出量取引の動向
第12回	カーボンディスクロージャー	国内外の環境ビジネス動向
第13回	CO2排出量取引	授業の理解度を確認
第14回	環境ビジネス	
第15回	試験	

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

新聞等で報道される環境問題のトピックを継続的にウォッチして、企業を中心とする経済システムと環境問題との関係性について理解を深めてください。

## 【テキスト】

河野正男・八木裕之・千葉貴律（2010）『生態会計への招待』森山書店  
毎回、レジュメを配布します

## 【参考書】

鈴木幸毅・所伸之編著『環境経営学の扉』文眞堂、2008年  
諸富徹・鮎川ゆりか『脱炭素社会と排出量取引』日本評論社、2007年  
堀内行蔵・向井常雄『実践環境経営論』東洋経済新報社、2006年

## 【成績評価基準】

特別講義レポート：20%

期末試験：80%（出題範囲第1~14回）

講義で取り上げた内容に関する基礎的事項を理解し、課題に対して自己の見解を論理的に展開しているか等を評価します。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

事例などを使用して分かりやすい説明を心がけます。

## 【関連の深いコース】

環境経営

## 国際環境政策 I

### 國則 守生

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：火 2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

#### 【授業のテーマ】

本授業では環境問題を国際的な観点から議論する際に必要となる考え方を環境経済学の立場から紹介する。

#### 【授業の到達目標】

国際的な視点から、環境政策と経済との多様な繋がりを理解することを目指す。とくに、採用される政策手段のさまざまな課題を環境経済学の側面から検討することを目標とする。

[]

#### 【授業の概要と方法】

本授業は、環境問題の低減・解決を図るために採用されるさまざまな経済的手段を中心に規制的手段や自主的手段などの比較を含めて、講義する。そのために、各国で経済的手段がいかに利用されているかを概観するとともに、環境税・排出取引などの効果と課題等について学習する。同時に、環境問題と貿易の関連について考察する。

[]

[]

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	環境問題と経済成長の関連	環境クズネット曲線の議論について
第 2 回	環境問題の時代的変遷と特徴	国際的な観点からの概観
第 3 回	環境政策の多様性	環境政策手段の比較
第 4 回	OECD での環境に関わる経済的手段 I	課徴金について
第 5 回	OECD での環境に関わる経済的手段 II	排出取引の制度について
第 6 回	OECD での環境に関わる経済的手段 III	排出取引の課題について
第 7 回	OECD での環境に関わる経済的手段 IV	デポジット・リファンド制度について
第 8 回	OECD での環境に関わる経済的手段 V	責任支払について
第 9 回	OECD での環境に関わる経済的手段 VI	環境税について（その 1）
第 10 回	OECD での環境に関わる経済的手段 VII	環境税について（その 2）
第 11 回	OECD での環境に関わる経済的手段 VIII	拡大生産者責任について
第 12 回	不確実性下の経済的手段 I	ワイツマンの定理について
第 13 回	不確実性下の経済的手段 II	ロバーツ・スペンスの定理などについて
第 14 回	環境問題と貿易 I	国内環境問題に対する環境政策の選択問題について
第 15 回	環境問題と貿易 II	製品の国際競争力と環境問題について

#### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

各回とも復習に重点をおいて学習して欲しい。復習に当たっては、各回ごと、進出の概念とそのインプリケーションに注目し、まとめておくこと。受講に当たっては、環境経済論 I の履修が望ましい。

#### 【テキスト】

作成した印刷物を授業にて配布。

#### 【参考書】

とくに指定しないが、以下の書籍が概念等を学ぶ上で参考となる。  
R. K. ターナー他『環境経済学入門』（大沼あゆみ訳）東洋経済新報社  
C. D. コルスタッド（細江守紀他監訳）『環境経済学入門』有斐閣

#### 【成績評価基準】

期末試験に加え、授業中で行われるミニ・エクササイズ（出席調査）、授業への貢献度を考慮し、総合的に判断する。

#### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

重要概念の理解の定着をはかるため、ミニ・エクササイズなどを活用するとともに、繰り返し説明し、理解を深めるよう配慮する。

#### 【その他】

2011 年度までに旧名称「国際環境政策」を取得済の場合、本科目は履修できない。再履修者は「国際環境政策」で登録すること。

#### 【関連の深いコース】

環境経営、国際環境

## 国際環境政策 II

### 國則 守生

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：火 2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

#### 【授業のテーマ】

本授業ではさまざまな地球環境問題を議論する際に、必要となるフレームワークを紹介し、採用される政策手段の諸課題を経済学の側面から検討することを目的とする。

#### 【授業の到達目標】

越境・地球環境問題に対する経済的手段としての環境政策を理解するとともに、それらの背景にある技術政策や持続可能性の課題なども理解することを目標とする。

[]

#### 【授業の概要と方法】

国際環境政策 I に引き続き、環境問題の低減・解決を図るために採用されるさまざまな経済的手段を中心に、国際的な視点から講義する。とくに、酸性雨、オゾン層破壊、温暖化などの越境・地球環境問題や生物多様性などの環境問題を対象とする。また、それらに関連して技術開発や持続可能性の課題、社会的共通資本の視点などについても議論する。

[]

[]

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	越境環境問題としての酸性雨問題 I	酸性雨ゲームの視点
第 2 回	越境環境問題としての酸性雨問題 II	完全協力解の性質について
第 3 回	国際環境協定と可能性と制約 I	国際協調の難易度
第 4 回	国際環境協定の可能性と制約 II	自律的な国際協定について
第 5 回	地球環境問題としてのオゾン層破壊	オゾン層に対する国際協調について
第 6 回	地球温暖化問題 I	エネルギー消費との関連
第 7 回	地球温暖化問題 II	各国の対応、先進国とと同国の立場などについて
第 8 回	地球温暖化問題 III	対策手段と対策コストについて
第 9 回	地球温暖化問題 IV	森林等の役割について
第 10 回	地球温暖化問題 V	社会的割引率の観点
第 11 回	生物多様性 I	多様性と経済的価値
第 12 回	生物多様性 II	エコシステム・サービスへの支払について
第 13 回	環境問題と技術開発	R&D、技術波及等について
第 14 回	持続可能性	諸概念、指標等について
第 15 回	環境と社会的共通資本	視点等の紹介

#### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

各回とも復習に重点をおいて学習して欲しい。復習に当たっては、各回ごと、進出の概念とそのインプリケーションに注目し、まとめておくこと。本講義内容は、国際環境政策 I と連続したものを想定している。

#### 【テキスト】

作成した印刷物を授業にて配布。

#### 【参考書】

とくに指定しないが、以下の書籍が概念等を学ぶ上で参考となる。  
C. D. コルスタッド（細江守紀他監訳）『環境経済学入門』有斐閣  
諸富徹ほか『環境経済学講義』有斐閣、宇沢弘文『社会的共通資本』岩波新書

#### 【成績評価基準】

期末試験に加え、授業中で行われるミニ・エクササイズ（出席調査）、授業への貢献度を考慮し、総合的に判断する。

#### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

2012 年度よりの新設科目。

#### 【関連の深いコース】

国際環境、環境経営

## 途上国経済論 I

武貞 稔彦

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：月 2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

日本の経済は、様々な資源の供給元や市場として世界各国との相互依存を強めている。この講義は、世界人口の半数以上が暮らす、開発途上国と呼ばれる国や地域の経済と社会について、固有の歴史／文化的背景も含め日本とのかかわりを念頭におきながら基礎的な知識の習得をめざす。

## 【授業の到達目標】

本講義においては、ア) 途上国経済の分析枠組み、特徴、イ) 主要地域や主要国の経済・社会の特徴について学び、ウ) 日本社会や経済の世界における位置づけをよりよく理解し、エ) 将来社会に出た際に諸外国の人々と基礎的な知識に基づいた意味あるコミュニケーションができるようにする。

[]

## 【授業の概要と方法】

途上国経済論 I においては、途上国の社会と経済を見る際に使われる分析枠組み、主要地域ごとの歴史と社会の概要、日本と特に関係が深いアジア諸国の経済と社会を中心に学ぶ。

学生の将来に関わりの深い日本企業の活動や、新聞などでとりあげられる現実の出来事、ニュースと関連づけて講義を行うことにより、自らの日々の生活にひきつけた現実社会の理解を目指す。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション：開発途上国とは。途上国経済を見る目	開発途上国とよばれる国や地域はどのようなところか、概念を整理する。同時に、途上国を見る際に頻りに使われる分析枠組み（評価軸）を再考する。
第 2 回	経済成長の理論と途上国経済の位置づけ	経済学の世界では経済成長はどのようなものだと考えられているかを紹介し、途上国経済を扱う「開発経済学」の発展を概観する。
第 3 回	日本は途上国だったのか？：戦後日本の経済成長と現在の開発途上国経済	戦後日本は急速な経済成長をとげたが、現在の開発途上国にとって日本はどのような点で手本足り得るかを考える。
第 4 回	途上国社会・経済の概況 (1)：アジア地域	アジア地域の「途上国」と呼ばれる国や地域が「キャッチアップ」を果たす過程で、政府・国家がどのような役割を果たしたのか、東アジアと南アジアをとりあげ、歴史的な視点から概観する。特に、分析の視点として「植民地」について考える。
第 5 回	途上国社会・経済の概況 (2)：ラテンアメリカ地域	アジアと異なる「植民地」経験を持つラテンアメリカ地域が、その後どのように経済発展を遂げたか（または遂げられなかったか）を概観する。
第 6 回	途上国社会・経済の概況 (3)：アフリカ	アジアと異なる「植民地」経験を持つアフリカ地域が、その後どのように経済発展を遂げたか（または遂げられなかったか）を概観する。
第 7 回	途上国社会・経済の概況 (4)：映像でみる途上国社会経済	映像を通じて、途上国の社会と経済について知る。
第 8 回	主要国／地域の社会と経済 (1)：韓国－危機とその克服	韓国は、目覚ましい経済成長を遂げた NIES の代表である。一旦は先進国の仲間入りを果たした韓国への歩んだ道筋と 1997 年の IMF 危機以降の経済・社会の状況について理解する。
第 9 回	主要国／地域の社会と経済 (2)：台湾－その生い立ちと国際社会における立場	台湾も、韓国とならび目覚ましい経済成長を遂げた NIES の一つである。現在の台湾の国際社会・国際経済における地位はその特殊な生い立ちに影響されていることを理解する。
第 10 回	主要国／地域の社会と経済 (3)：香港およびシンガポール－小さな街の大きな経済	アジア NIES の一つである香港とシンガポールをとりあげ、資源のない国（都市）の経済成長について考える

第 11 回	主要国／地域の社会と経済 (5)：インドネシア－多様性の中の権威主義的開発体制	アセアン（Association of South East Asian Nations）の一員として NIES に続き経済成長を遂げたインドネシアをとりあげ、政治体制と経済成長（経済発展）の関係について考える。
第 12 回	主要国／地域の社会と経済 (6)：マレーシア－カリスマと経済成長	強力なリーダーによる経済成長戦略を通じて発展したマレーシア経済・社会を概観する。
第 13 回	民主主義と経済成長	アジア的価値がアジア諸国の経済成長をもたらしたのか。民主主義と経済成長の関係を、アジア諸国を例に考える
第 14 回	国際経済の中の域内協力	ASEAN（東南アジア諸国連合）を例に、グローバル化がすすむ国際社会における域内協力の重要性を概観する
第 15 回	まとめ：途上国経済（特にアジア経済）の発展と先進国経済（特に日本）との関わり	講義全般の復習を行うとともに、日本と途上国と呼ばれる国や地域との関係を確認する。

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

各回に指定される参考文献および参考図書の該当部分を講義の事前／事後に適宜参照し、講義内容の理解を深めることが必要である。

## 【テキスト】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布する

## 【参考書】

グラボウスキー他（2008 年）『経済発展の政治経済学』（日本評論社）  
渡辺利夫編（2007 年）『アジア経済読本（第 3 版）』（東洋経済新報社）

## 【成績評価基準】

中間レポートと期末試験による。成績配分は中間レポート 20%、期末試験 80%を予定する。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

個別の国の事例を可能なかぎり多く盛り込んだ講義を望む声が散見されたことから、個別国の紹介回数を増やし内容を深めることとした（なお、今年度からは後期に途上国経済論 II も担当するため、そちらもあわせて個別国の事情についての紹介時間を確保する予定である）。

## 【学生が準備すべき機器他】

講義ではスライドを主に利用する。講義資料として配布したもののスライドなどは、授業支援システム上に掲示する。

## 【関連の深いコース】

国際環境、環境経営



## 途上国経済論Ⅱ

武貞 稔彦

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：月2

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業のテーマ】

日本の経済は、様々な資源の供給元や市場として世界各国との相互依存を強めている。この講義は、世界人口の半数以上が暮らす、開発途上国と呼ばれる国や地域の経済と社会について、固有の歴史／文化的背景も含め日本とのかかわりを念頭におきながら基礎的な知識の習得をめざす。

## 【授業の到達目標】

本講義においては、途上国経済論Ⅰに引き続き、ア) 主要地域や主要国の経済・社会の特徴について学び、イ) 日本社会や経済の世界における位置づけをよりよく理解し ウ) 南北問題や世界貿易など、個々の国や地域が置かれている「構造」への理解を深めることで、エ) 将来社会に出た際に諸外国の人々と基礎的な知識に基づいた意味あるコミュニケーションができるようにする。

【】

## 【授業の概要と方法】

途上国経済論Ⅱにおいては、新興国と呼ばれる経済成長著しい国、今後の経済発展が見込まれる国などの歴史と社会の概要、国際経済の成り立ちなどを講義形式で学ぶ

学生の将来に関わりの深い日本企業の活動や、新聞などでとりあげられる現実の出来事、ニュースと関連づけて講義を行うことにより、自らの日々の生活にひきつけた現実社会の理解を目指す。

【】

【】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション：途上国経済を見る目	途上国経済論Ⅰの概要の復習とⅡの主題についての概観
第2回	世界経済の歴史	「経済」と呼ばれるものの誕生も含め、「世界経済」の成り立ち、発展について概観する
第3回	世界貿易の構造をめぐる議論	国際経済の主要な活動である貿易について、その理論、構造、課題を概観する
第4回	途上国社会・経済の概況(1)：中国(1) 社会主義と資本主義	中国は世界有数の大国であり、社会主義経済から資本主義経済へと緩やかに転換しつつ経済成長を続けている。議論の前提として社会主義／共産主義の考え方についての理解を深める
第5回	途上国社会・経済の概況(2)：中国(2) 持続的経済成長と大国としての復活	世界経済にインパクトを与える存在となった中国の社会と経済について概観する。
第6回	途上国社会・経済の概況(3)：インドー目覚めた大国	インドは、近年、経済成長著しいBRICsの一つ。イギリス植民地から独立した後のインドの長い経済停滞、1990年代以降の目覚ましい経済発展という大きな流れを理解する。
第7回	途上国社会・経済の概況(4)：映像でみる途上国社会経済	映像を通じて、途上国の社会と経済について知る。
第8回	主要国／地域の社会と経済(5)：タイー東南アジアの「先進国」	東南アジア諸国のなかでも NIES に続く目覚ましい経済発展を遂げたタイ。アジア通貨危機の発端となるなど途上国の中の「先進国」の経済社会を概観する
第9回	主要国／地域の社会と経済(6)：ベトナムー戦場から市場へ	1960年代にベトナム戦争で大きな傷を受けたベトナムが新興経済の一角として名乗りを挙げる過程を概観する
第10回	主要国／地域の社会と経済(7)：ブラジルー南米の大国	ブラジルはインドや中国とならび21世紀に入って新興国として台頭著しい。豊かな自然を抱える大国の姿を概観する
第11回	主要国／地域の社会と経済(8)：南アフリカーアパルトヘイト	アパルトヘイトという大きな問題を克服して以降の南アフリカ経済の新興国としての経済成長を概観する
第12回	主要国／地域の社会と経済(9)：ボツワナー資源の呪いを越えて	アフリカ大陸にありながら世界でも有数の高経済成長を続けたボツワナーの経済社会を概観する
第13回	世界経済を動かす「金融」	リーマンショックや通貨危機など、現代の世界経済に大きな影響を及ぼすのはモノではなく通貨である。「金融」という観点から世界経済の構造を概観する

第14回	経済成長、進歩と貧困	先進国、途上国いずれもが、経済成長を通じた社会の進歩、貧困の撲滅を目指してきた。現代の途上国は経済成長によって貧困を撲滅できるのか、という問いを概観する
第15回	まとめ：途上国経済および世界経済の未来	講義全般の復習を行うとともに、今後の世界経済、途上国経済の姿について想像する

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

各回に指定される参考文献および参考図書の該当部分を講義の事前／事後に適宜参照し、講義内容の理解を深めることが必要である。

## 【テキスト】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布する

## 【参考書】

グラボウスキー他（2008年）『経済発展の政治経済学』（日本評論社）  
渡辺利夫編（2007年）『アジア経済読本（第3版）』（東洋経済新報社）

## 【成績評価基準】

中間レポートと期末試験による。成績配分は中間レポート 20%、期末試験 80%を予定する。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

本講義は2012年度より担当するため、前年の該当アンケートはなし。

## 【学生が準備すべき機器他】

講義ではスライドを主に利用する。講義資料として配布したものとスライドなどは、授業支援システム上に掲示する。

## 【関連の深いコース】

国際環境、環境経営



## 国際経済協力論 I

武貞 稔彦

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：木3

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業のテーマ】

グローバル化が進化する世界において、国と国の間に所得だけでなく様々な格差が広がっている。経済協力は、そういった格差を是正し、新しい国や社会さらには世界を、共に築き上げていく手段の一つである。この講義では、国際経済協力に関する基礎的な知識の習得を目的とする。

## 【授業の到達目標】

本講義を通じて獲得を目指す基礎的な知識は、具体的には、経済協力の歴史、仕組み、その背景にある途上国開発の理論、これまでの経済協力の成果や影響、近年の新たな課題と取り組みを含む。これら基礎的な知識をもとに、日本が国際社会で果たす役割、一人ひとりがなし得ることについて、自分なりの意見や考えを持ち、人に伝えられるようになることが期待される。

[]

## 【授業の概要と方法】

国際経済協力論 I においては、講師の経済協力の実務経験の紹介も交えながら、日本の取り組みを中心に、経済協力の歴史や仕組みについての理解を深めるための講義を進める。必要に応じて映像教材を活用し、多くの学生にとってなじみのない開発途上国の人々の暮らしや問題について、言葉だけでは語りつくせないイメージを得る一助とする。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション：国際経済協力とは。	国際経済協力とはどのような取り組みか、またなぜそのような取り組みが必要とされているのかについて理解する。
第 2 回	国際社会と経済協力の歴史 (1) (1945 年～1960 年代)：戦後世界と南北問題	第二次世界大戦後の国際秩序形成の過程と南北問題の登場、初期の経済協力の取り組みについて概観する。
第 3 回	国際社会と経済協力の歴史 (2) (1970 年～1980 年代)：経済協力への失望と変化の兆し	経済協力の初期の取り組みへの反省と幻滅、その後の変化につながる新たな考え方の登場を概観する。
第 4 回	国際社会と経済協力の歴史 (3) (1990 年代～現在)：冷戦後の世界とグローバル化	冷戦終結後の国際秩序と、グローバル化における経済協力の位置づけを概観する。
第 5 回	日本の経済協力の歩み (1)：被援助国から援助国へ	第二次世界大戦後の日本は援助を受ける国であったこと、その経験がその後の日本の経済協力に与えた影響について理解する。
第 6 回	日本の経済協力の歩み (2)：援助国としてのスタート	日本の援助国としての取り組みについて、1950 年代～1970 年代までの社会経済の変化とあわせ概観する。
第 7 回	日本の経済協力の歩み (3)：援助大国と日本の責任	日本の援助国としての取り組みについて 1980 年代～2000 年以降の社会経済の変化とあわせ概観する。
第 8 回	経済協力の仕組みと方法 (1)：無償資金協力和技術協力を中心に	日本の経済協力の仕組みと現状 (特徴) につき、統計資料などをもとに理解する。特に無償資金協力和技術協力の概略と特徴を知る。
第 9 回	経済協力の仕組みと方法 (2)：円借款 (有償資金協力を) を中心に	日本の経済協力の仕組みと現状 (特徴) につき、統計資料などをもとに理解する。特に日本の経済協力の特色である、円借款 (有償資金協力的) の概略と特徴を知る。
第 10 回	経済協力の現場に関わる人々：政府、援助機関、企業、NGO(NPO)	日本の経済協力はどのような人々に担われているのかを理解する。特に政府 (「官」) ではなく、「民」の果たしている役割の大きさについて理解する。
第 11 回	経済協力をめぐる議論の大きな流れ (1)：経済成長と人間開発	経済協力の基本的な目標の変遷について大きな流れとして理解する。「経済」重視から「人間」重視に移り変わる様を、具体的な戦略 (アプローチ) の変遷を通じて理解する。
第 12 回	経済協力をめぐる議論の大きな流れ (2)：持続可能な開発と環境	環境をめぐる問題が経済協力の分野でとりあげられてきた経緯を知り、時代ごとに異なる環境問題の様相について理解する。

第 13 回 経済協力の評価と効果をめぐる議論 これまでの経済協力には効果はあったのか、という問いに対する答えを概観する。そのうえでこれからの経済協力について考えるための材料を得る。

第 14 回 日本が経済協力を行う理由 日本は途上国への経済協力を続けるべきか、そうだとすればその理由は何か、日本国民がそれらの問いをどう考えているかを知る。そのうえで自分なりの答えを考える。

第 15 回 まとめ 講義全般の復習を通じて、国際社会や日本の経済社会状況の変化と経済協力の関係をあらためて確認する。

## 【授業外に行うべき学習活動 (準備学習等)】

各回に指定される参考文献および参考図書該当部分を講義の事前／事後に適宜参照し、講義内容の理解を深めることが必要である。

## 【テキスト】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布する。

## 【参考書】

斎藤文彦 (2005 年) 『国際開発論』 (日本評論社)  
下村恭民他 (2009 年) 『国際協力 (新版)』 (有斐閣)  
外務省 (毎年発行) 『日本の国際協力』 (ODA 白書)

## 【成績評価基準】

中間レポートと期末試験による。成績配分は中間レポート 20%、期末試験 80%を予定する。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

講義に関連したリーディングの紹介を期待する声が散見されたため、予習／復習にも使える文献の紹介／授業支援システムへのアップを充実させる予定である。

## 【学生が準備すべき機器他】

講義ではスライドを主に利用する。講義資料として配布したものやスライドなどは、授業支援システム上に掲示する。

## 【関連の深いコース】

国際環境

## 国際経済協力論Ⅱ

武貞 稔彦

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：木3

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

### 【授業のテーマ】

グローバル化が進化する世界において、国と国の間に所得だけでなく様々な格差が広がっている。経済協力は、そうした格差を是正し、新しい国や社会さらには世界を、共に築き上げていく手段の一つである。この講義では、国際経済協力に関する基礎的な知識の習得を目的とする。

### 【授業の到達目標】

本講義を通じて獲得する基礎的な知識は、具体的には、経済協力の歴史、仕組み、その背景にある途上国開発の理論、これまでの経済協力の成果や影響、近年の新たな課題と取り組みを含む。これら基礎的な知識をもとに、日本が国際社会で果たす役割、一人ひとりがなし得ることについて、自分なりの意見や考えを持てるようになることが期待される。

【】

### 【授業の概要と方法】

国際経済協力論Ⅱにおいては、国際経済協力の取り組みにおいて近年注目を浴びているテーマについてより深く解説する。特に、誰が、なぜ経済協力をを行うのか、経済協力の目的とされている「開発」とは一体何を意味するのか、という点を中心に各テーマにアプローチする。必要に応じて映像教材を活用し、多くの学生にとってなじみのない開発途上国の人々の暮らしや問題について、言葉だけでは語りつくせないイメージを得る一助とする。

【】

【】

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション：国際経済協力論Ⅰの復習と国際経済協力をめぐる課題の俯瞰	前期講義の簡単な概括とあわせ、後期にとりあげるテーマについて全体像を紹介する。
第2回	開発と文化：経済協力の目的を問い直す視点	開発の目標がいかに歴史的に形作られてきたかを知り、多様な文化／社会と開発の関係を概観する。
第3回	新たな主体による経済協力(1) NGO(NPO)と市民社会	近年、経済協力において主たるアクターとなっている NGO(NPO) の活動について概観する。
第4回	新たな主体による経済協力(2) 民間企業	一般に営利を追求すると思われる民間企業が、経済協力の分野で行っている活動を紹介し、その背景を概観する。
第5回	新たな主体による経済協力(3) 南々協力および新たな援助国の登場	開発途上国同士の経済協力の取り組みや、従来の先進国(援助国)とは異なる新興援助国について紹介する。
第6回	開発とジェンダー／マイクロクレジットという試み	ノーベル平和賞を受賞したグラミン銀行(バングラデシュ)を事例に、開発とジェンダーの関係について概観する。
第7回	人間の安全保障と国連ミレニアム開発目標	近年注目される「人間の安全保障」という考え方を知り、国際社会による「人間の安全保障」実現に向けた行動を概観する。
第8回	紛争と平和構築：テロとの戦いと脆弱国家の復興支援	経済協力和紛争／平和の関係について、近年の新たな取り組みをもとに考える。
第9回	アフリカ(1)：アフリカの苦悩 激しい貧困と機能しない国家	アフリカ諸国とそこに暮らす人々がおかれている厳しい状況について概観する。
第10回	アフリカ(2)：アフリカに対して何ができるのか	これまでのアフリカ支援の評価と今後の課題について概観する。
第11回	フェア・トレード(1)：なぜ今、フェア・トレードが重要か？	フェア・トレードとよばれる取り組みがなぜ必要とされているのかについて理解する。
第12回	フェア・トレード(2)：フェア・トレードの試みとその評価	具体的なフェア・トレードの取り組みを紹介し、その課題や現状について概観する。
第13回	国際経済協力や開発による自然・社会環境への影響	開発による環境への影響はどのようなものか概観し、環境への影響を回避／最小限にするためにとられる対策について理解する。
第14回	地球環境問題と経済協力：気候変動(地球温暖化)を中心に	気候変動(地球温暖化)を事例に、国際社会における環境と開発のバランスの議論を概観する。

第15回 まとめ：なぜ国際経済協力が必要なのか 後期の講義でとりあげた各トピックをあらためて概観するとともに、様々な協力が必要とされる背景について理解を深める。

### 【授業外に行うべき学習活動(準備学習等)】

各回に指定される参考文献および参考図書該当部分を講義の事前／事後に適宜参照し、講義内容の理解を深めることが必要である。

### 【テキスト】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布する

### 【参考書】

斎藤文彦(2005年)『国際開発論』(日本評論社)  
下村恭民他(2009年)『国際協力(新版)』(有斐閣)  
外務省(毎年発行)『日本の国際協力』(ODA 白書)

### 【成績評価基準】

中間レポートと期末試験による。成績配分は中間レポート20%、期末試験80%を予定する。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

講義に関連したリーディングの紹介を期待する声が見られたため、予習／復習にも使える文献の紹介／授業支援システムへのアップを充実させる予定である。

### 【学生が準備すべき機器他】

講義ではスライドを主に利用する。講義資料として配布したものやスライドなどは、授業支援システム上に掲示する。

### 【関連の深いコース】

国際環境

## 環境評価論 I

金城 盛彦

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講semester：前期授業 | 曜日・時限：月 6

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

### 【授業のテーマ】

本講は水質測定などの自然科学系の「環境調査論」ではない。本講は「直交表」を用いたアンケート調査の負担を軽減すると同時に「表明選好法」による環境の経済的価値評価法への応用も図る。

### 【授業の到達目標】

講義を通じ、Excel や RCommander などを用いた回帰分析の技能、および重要な統計理論を習得し、アンケート調査で把握した被験者の意識に反映された環境の経済的価値の把握を試みます。

[]

### 【授業の概要と方法】

配布資料を中心に進める。「初等統計学」等に関する講義と、PC 実習が中心となる。単位取得には Excel ならびに初等統計学に精通していることが望ましい。

[]

[]

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	プロローグ	講義概要の説明や参考文献、履修要件などの説明。
第 2 回	環境価値評価法の理論	環境学の中で、環境価値評価法が占める位置や、意義について解説。
第 3 回	アンケート設計の理論	直交表を用いたアンケート設計とその理論を、「L8 直交表」を例に紹介。
第 4 回	アンケートの設計①	「L12 直交表」あるいは「L18 直交表」を用いたアンケートの設計実習を行う。
第 5 回	アンケートの設計②	第 4 回に引き続き、「L12 直交表」あるいは「L18 直交表」を用いたアンケートの設計実習を行う。
第 6 回	推測統計学の基礎理論①	回帰分析の基礎をなす、推測統計学の基礎を解説。
第 7 回	推測統計学の基礎理論② および実習①	第 6 回の回帰分析の基礎をなす、推測統計学の基礎理論の補足と、Excel あるいは RCommander を用いた実習。
第 8 回	推測統計学の实習②	第 7 回に引き続き、「直交実験計画」の多重回帰分析法の理論を解説。
第 9 回	回帰分析の理論①	回帰分析の理論的基礎について解説。
第 10 回	回帰分析の理論②および 実習①	第 8 回の回帰分析の理論的基礎についての補足と、Excel あるいは RCommander を用いた実習。
第 11 回	回帰分析の实習②	基本的な回帰分析手法を、Excel あるいは RCommander を用いて実習。
第 12 回	コンジョイント分析の理論①	直交表を用いて作成したアンケート票に基づく、コンジョイント分析の理論を解説。
第 13 回	コンジョイント分析の理論② および実習①	直交表を用いて作成したアンケート票に基づく調査結果の、コンジョイント分析を Excel や RCommander を用いて実習。
第 14 回	コンジョイント分析の实習②	直交表を用いて作成したアンケート票に基づく調査結果の、コンジョイント分析を通じた MWTP の推測。
第 15 回	予備日 or エピローグ	講義の総括および期末レポートの告知。

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

予習・復習は特に必要としないが、実習科目なので実際に手を動かし、試行錯誤を繰り返さない限り、技能の習得はない。また、内容が多いため、いちいち履修済みの内容の復習に時間はとれない。よって、欠席した場合の影響は大きい。

### 【テキスト】

自作資料（入手方法は後述）。

### 【参考書】

1. 菅民郎『Excel で学ぶ多変量解析入門第 2 版』オーム社、2007。等 ※ 他は講義で開示。参考書の購入は必ずしも必要ない。

### 【成績評価基準】

出席（20%）、実習を通じた小課題の実施状況（30%）、ならびに「最終調査レポート（50%点）を基に評価する予定。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

実践的な内容が概ね好評を得ている。

しかし、「統計学」や EXCEL 実習を伴う性格上、履修登録前の授業に参加し、自身の目で履修の可否を見極めて欲しい（Excel を用いた計算、統計学などが得意でなくとも、違和感がなければ、履修は可能だと思う）。

### 【学生が準備すべき機器他】

適宜、プロジェクターなどを用いる。

### 【その他】

実習科目のため計画には変更が有り得る。週 1 コマの授業のため、統計学や回帰分析の理論は概説となる。

授業で学んだ手法を実用する場合は、経験者のアドバイスが必要となる。自作資料やレポートの提出は、「H'etudes」に開設する授業用サイトを通じて行う。プリント・アウトの上出席すること、閲覧 Password などは、初回開講時に周知する。

### 【関連の深いコース】

環境経営

## 環境評価論Ⅱ

金城 盛彦

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講semester：後期授業 | 曜日・時限：月6

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

### 【授業のテーマ】

本講は水質測定などの自然科学系の「環境調査論」ではない。本講は統計解析の手法を用い環境の経済的価値を評価する「顕示選考法」の講義・実習です。

### 【授業の到達目標】

講義を通じ、Excel や RCommander などを用いた回帰分析の技能、および重要な統計理論を習得し、地価や旅費などに反映された環境の経済的価値の把握を試みます。

[]

### 【授業の概要と方法】

配布資料を中心に進める。「初等統計学」等に関する講義と、PC 実習が中心となる。

単位取得には Excel ならびに初等統計学に精通していることが望ましい。

[]

[]

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	プロローグ	講義概要の説明や参考文献、履修要件などの説明。
第2回	環境価値評価法の理論①	環境学の中で、環境価値評価法が占める位置や、意義について解説。
第3回	環境価値評価法の理論②	環境価値評価法のミクロ経済学的基礎について解説。
第4回	推測統計学の基礎理論①	回帰分析の基礎をなす、推測統計学の基礎を解説。
第5回	推測統計学の基礎理論② および実習①	第4回の回帰分析の基礎をなす、推測統計学の基礎理論の補足と、Excel あるいは RCommander を用いた実習。
第6回	推測統計学の实習②	回帰分析の基礎をなす、推測統計学の基礎を、Excel あるいは RCommander を用いて実習。
第7回	回帰分析の理論①	回帰分析の理論的基礎について解説。
第8回	回帰分析の理論②および 実習①	第7回の回帰分析の理論的基礎についての補足と、Excel あるいは RCommander を用いた実習。
第9回	回帰分析の实習②	基本的な回帰分析手法を、Excel あるいは RCommander を用いて実習。
第10回	顕示選好法の理論①	第2回を踏まえ、当該年に採用した顕示選好法の理論を解説。
第11回	顕示選好法の实習①	仮想例を用いて、採用した顕示選好法を、Excel あるいは RCommander を用いて実習。
第12回	顕示選好法の实習②	第11回を受け、誤差が非正規分布する場合や、多重共線性などの問題が起きた場合の対象法を、Excel あるいは RCommander を用いて実習。
第13回	顕示選好法の实習③	第12回に引き続き、仮想例を用いて、採用した顕示選好法を、Excel あるいは RCommander を用いて実習。
第14回	最終調査計画の立案	学生の最終調査計画のチェックと、改善指導。
第15回	予備日 or エピローグ	講義の総括あるいは最終調査計画の立案の続き。

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

予習・復習は特に必要としないが、実習科目なので実際に手を動かし、試行錯誤を繰り返さない限り、技能の習得はない。

また、内容が多いため、いちいち履修済みの内容の復習に時間はとれない。よって、欠席した場合の影響は大きい。

### 【テキスト】

自作資料（入手方法は後述）。

### 【参考書】

1. 大野栄治（2000）『環境経済評価の実務』勁草書房。
2. 森杉寿芳他（1996）『都市交通プロジェクトの評価—例題と演習』コロナ社。
3. 中山厚穂（2009）『Excel ソルバー多変量解析-ポジショニング編』日科技連出版社。
4. 舟尾暢男（2008）『R Commander ハンドブック』オーム社、など  
※他は講義で開示。参考書の購入は必ずしも必要ない。

### 【成績評価基準】

出席（20%）、実習を通じた小課題の実施状況（30%）、ならびに「最終調査レポート（50%点）」を基に評価する予定。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

今年度開講科目なので、授業改善アンケートはない。

しかし、「統計学」や EXCEL、RCommander などのアプリケーションを用いた実習を伴う性格上、履修登録前の授業に参加し、自身の目で履修の可否を見極めて欲しい（Excel を用いた計算、統計学などが得意でなくとも、違和感がなければ、履修は可能だと思う）。

### 【学生が準備すべき機器他】

適宜、プロジェクターなどを用いる。

### 【その他】

実習科目のため計画には変更が有り得る。

週1コマの授業のため、統計学や回帰分析の理論は概説となる。

授業で学んだ手法を実用する場合は、経験者のアドバイスが必要となろう。自作資料やレポートの提出は、「H'etudes」に開設する授業用サイトを通じて行う。プリント・アウトの上出席すること、閲覧 Password などは、初回開講時に周知する。

### 【関連の深いコース】

環境経営



## 環境ビジネス論

## 竹ヶ原 啓介

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：木 6

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業のテーマ】

環境問題と経済活動との関わりを具体的に考える素材として「環境ビジネス」を取り上げる。再生可能エネルギーや省エネ、資源リサイクル、環境リスク管理など、様々な分野で展開されるビジネス活動の観察を通じて環境問題を捉え直すことにより、複眼的な考察につなげることを目標とする。授業では、主要分野の環境ビジネスについて、内外の具体例を素材にファイナンスの基本的な考え方を交えて検討することで理解を深めていく。

## 【授業の到達目標】

環境ビジネスという企業活動について、総合的な理解を深めるとともに、主要な分野毎にビジネスモデルを分析し、その成長性やリスクについて具体的に議論が出来るようになる。また、各分野を徹底するファイナンスの視点を学ぶことで、様々なビジネスモデルを検証するに当たり、自然にファイナンス的な見方が出来るようになる。

[]

## 【授業の概要と方法】

環境ビジネスについて、その市場規模や構成、雇用などといった巨視的な視点を押さえると共に、エネルギー、資源リサイクル、リスク管理、生物多様性保全など主な各論テーマ毎に、ケーススタディ等を通じて具体的に分析することで学習する。特に、金融という視点を重視し、ファイナンスの考え方、基本的な分析ツールを習得することで、汎用性のある知識の習得を目指す。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	本授業で取り上げていくテーマを紹介し、受講後の到達点イメージを共有する。
第2回	環境ビジネス概論	環境ビジネスの基本的な性格と市場規模などを全体像の把握を行う。
第3回	環境と金融	近時注目を集める環境金融の考え方と理解するとともに、ファイナンスの基本的な考え方やツールについて学ぶことで、4回目以降の検討に向けた基礎を構築する。
第4回	ケース1：再生可能エネルギー	太陽光発電や風力、バイオマスを素材に、再生可能エネルギーの事業性、普及に向けた課題等を考える。
第5回	ケース2：省エネ支援ビジネス	再生可能エネルギーと並ぶ温暖化対策ビジネスである省エネについて考える。ESCO、HEMS／BEMSなどを学びながら、省エネがビジネスとして成立するポイントについて考える。
第6回	ケース3：リサイクルビジネス	リサイクルビジネスの基本構造を理解し、成功モデルを探る。
第7回	ケース4：環境リスク管理関連ビジネス	土壌・地下水汚染対策などのリスク管理を対象としたビジネスの基本構造を理解し、成功モデルを探る。
第8回	ケース5 生物多様性とビジネス	生物多様性という概念と、これをビジネスと接続することの難しさを確認しつつ、幾つかの優れた事例を通じて、生物多様性関連ビジネスについて考える。
第9回	海外事例研究1	エコロジカル産業政策を展開したドイツを素材に、環境政策と環境ビジネスの関連性を探る。初回は、再生可能エネルギーを巡る議論を中心に紹介する。
第10回	海外事例研究2	前回到続き、2回目では、リサイクルビジネス、土壌汚染対策などを取り上げ、日本との違いについて考える。
第11回	企業価値と環境経営1	環境ビジネスを展開する目的は、いうまでもなくそれが企業価値の増大をもたらすと期待されるからである。本業と一体となって展開される環境ビジネスの姿は、それゆえに多様である。ケーススタディ的に幾つかの企業を素材に、環境ビジネスの展開例を整理しておく。
第12回	企業価値と環境経営2	前回到続き、事例研究を行う。

## 第13回 CSRと環境

ISO26000 ガイドラインの導入に象徴されるように、CSRが注目されている。CSRとの関連性のなかで、環境ビジネスをどのように考えるかについて考える。紛争鉱物のように、環境だけでは整理できない論点が招いている点についても考える。

## 第14回 まとめ

これまでの議論を総合的に振り返り、再度、環境ビジネスの基本的な性格とこれに対するファイナンス的なアプローチをレビューする。

## 第15回 試験

本講義の理解度を確認するため記述式の試験を行う。

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

新聞、雑誌、企業のWebサイトなどを通じて、様々な形で展開されている環境ビジネスの実像との接点を常に持つように心がけ、問題意識を持って授業に臨むこと。

## 【テキスト】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布する。

## 【参考書】

環境省 環境経済情報ポータルサイト

[http://www.env.go.jp/policy/keizai\\_portal/index.html](http://www.env.go.jp/policy/keizai_portal/index.html)

竹ヶ原啓介、ラルフ・フェロップ「ドイツ環境都市モデルの教訓」（エネルギーフォーラム新書 NO.4）（2011）

野口 旭「グローバル経済を学ぶ」（ちくま新書）（2007）

## 【成績評価基準】

期末試験、授業中に行う小テスト、出席状況を考慮し、総合的に判断する。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

2012年度より担当

## 【学生が準備すべき機器他】

適宜パワーポイントを使用する。

## 【関連の深いコース】

環境経営

## 国際環境政策

### 國則 守生

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：火 2

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

#### 【授業のテーマ】

本授業では環境問題を国際的な観点から議論する際に必要となる考え方を環境経済学の立場から紹介する。

#### 【授業の到達目標】

国際的な視点から、環境政策と経済との多様な繋がりを理解することを目指す。とくに、採用される政策手段のさまざまな課題を環境経済学の側面から検討することを目標とする。

[]

#### 【授業の概要と方法】

本授業は、環境問題の低減・解決を図るために採用されるさまざまな経済的手段を中心に規制的手段や自主的手段などの比較を含めて、講義する。そのために、各国で経済的手段がいかに利用されているかを概観するとともに、環境税・排出取引などの効果と課題等について学習する。同時に、環境問題と貿易の関連について考察する。

[]

[]

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	環境問題と経済成長の関連	環境クズネツ曲線の議論について
第2回	環境問題の時代的変遷と特徴	国際的な観点からの概観
第3回	環境政策の多様性	環境政策手段の比較
第4回	OECDでの環境に関わる経済的手段Ⅰ	課徴金について
第5回	OECDでの環境に関わる経済的手段Ⅱ	排出取引の制度について
第6回	OECDでの環境に関わる経済的手段Ⅲ	排出取引の課題について
第7回	OECDでの環境に関わる経済的手段Ⅳ	デポジット・リファンド制度について
第8回	OECDでの環境に関わる経済的手段Ⅴ	責任支払について
第9回	OECDでの環境に関わる経済的手段Ⅵ	環境税について（その1）
第10回	OECDでの環境に関わる経済的手段Ⅶ	環境税について（その2）
第11回	OECDでの環境に関わる経済的手段Ⅷ	拡大生産者責任について
第12回	不確実性下の経済的手段Ⅰ	ワイツマンの定理について
第13回	不確実性下の経済的手段Ⅱ	ロバーツ・スペンスの定理などについて
第14回	環境問題と貿易Ⅰ	国内環境問題に対する環境政策の選択問題について
第15回	環境問題と貿易Ⅱ	製品の国際競争力と環境問題について

#### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

各回とも復習に重点をおいて学習して欲しい。復習に当たっては、各回ごと、進出の概念とそのインプリケーションに注目し、まとめておくこと。受講に当たっては、環境経済論Ⅰの履修が望ましい。

#### 【テキスト】

作成した印刷物を授業にて配布。

#### 【参考書】

とくに指定しないが、以下の書籍が概念等を学ぶ上で参考となる。  
 R. K. ターナー他『環境経済学入門』（大沼あゆみ訳）東洋経済新報社  
 C. D. コルスタッド（細江守紀他監訳）『環境経済学入門』有斐閣

#### 【成績評価基準】

期末試験に加え、授業中で行われるミニ・エクササイズ（出席調査）、授業への貢献度を考慮し、総合的に判断する。

#### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

重要概念の理解の定着をはかるため、ミニ・エクササイズなどを活用するとともに、繰り返し説明し、理解を深めるよう配慮する。

#### 【関連の深いコース】

環境経営

## 現代社会論 I

田中 勉

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：金 3

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業のテーマ】

テーマ「現代社会を人間行動の視点から考える」。人間の社会的行動がいかなる要因によって形づくられているか、行動の集積として出現する社会現象をどのように考察したらよいか、を社会学の知見から学ぶ。

## 【授業の到達目標】

この講義では人間の行動ないし行為のメカニズムについて理解し、現代社会の諸現象を分析する視点を身につけることを目標とする。

[]

## 【授業の概要と方法】

はじめに人間の行動を考えるための「枠組み」を取り上げ、いくつかの基礎概念について説明する。つぎに、人はなぜこのように行動しあるいは行動しないのか、を課題として行動をかたちづくる要因について、いくつかの研究を紹介しながら考える。さらに、環境問題や都市問題という現代社会の社会問題を行動の集積という視点からとりあげ、その生起してくるメカニズムを論じる。また、このような問題の解決はいかにして可能か、についても受講学生からアイデアを募集し、検討を加える。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	講義のねらい・形式等のガイダンス。「社会」とはなにか？	「人々の共同生活」としての社会を個人の行動というミクロな観点から考察する意図を説明する。
第2回	人間行動を考える枠組み(1) 欲求と規範	「欲求」「規範」概念を取りあげ説明、研究事例を紹介する。人間に行動を起こさせる動因とそれを規制するものとは何か。
第3回	人間行動を考える枠組み(2) 地位と役割	「地位・役割行動」概念を説明、研究事例を紹介する。人が行動をおこす場についてのとらえ方。
第4回	人間行動を考える枠組み(3) 社会関係と行動の文脈	「社会関係」概念を説明し、行動の生じる文脈の理解を深める。
第5回	行動と文化(1)「文化」とは何か	行動に形を与えるものとしての「文化」概念を、伝達・学習・共有の側面から解説する。
第6回	行動と文化(2) 文化の伝承と変化、文化のダイナミズム	文化を、動的なものとして考え、伝統の継承と文化の変容を取りあげる。
第7回	行動と文化(3) 文化相対主義とエスノセントリズム	文化を見る目を相対化することの意味を「自民族中心主義」的文化理解と対比して学ぶ。
第8回	情報と行動(1)「予言の自己成就」	情報とそれへの反応により「予期せざる結果」が生じるメカニズムについて取りあげる。
第9回	情報と行動(2)「予言の自己破壊」、情報は行動を変えるか	行動のコントロールは可能であるか、「警鐘を鳴らす」ことの有効性について解説する。
第10回	「社会的ジレンマ」(1)「共有地の悲劇」、私益と共益	合理的な個別利益追求行動がもたらす結果についてハーディンの「共有地の悲劇」を取りあげ説明する。
第11回	「社会的ジレンマ」(2)「社会的ジレンマ」のメカニズム	ジレンマゲームを紹介、行動主体間の選択とその結果について事例をあげながら説明する。
第12回	「社会的ジレンマ」(3)「囚人のジレンマ」と相互信頼	「囚人のジレンマ」研究を通して行動主体間の「信頼」の構築について考える。
第13回	環境配慮行動を考える、意識は行動を生み出すか	環境意識は環境行動につながるか？、という問題を提起。研究事例を紹介する。
第14回	環境配慮行動を促進する仕組みづくり	環境配慮行動を促す仕組み作りは可能かを考察する。
第15回	まとめ-人間の行動が社会をつくる	社会を人間の社会行動の集積として考える意義を取りあげ、講義の目標を確認する。

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

特定のテキストは用いないが、トピックスごとの参考文献のリストを配布するので関連箇所を読んでおくこと。また、講義時に課題を出すのできちんと提出すること。

## 【テキスト】

特定のテキストは用いない。

## 【参考書】

西澤・渋谷,2008,「社会学をつかむ」有斐閣  
井上・船津,2005,「自己と他者の社会学」有斐閣  
山岸俊男,2000,「社会的ジレンマ」PHP 研究所  
杉浦淳吉,2003,「環境配慮の社会心理学」ナカニシヤ出版  
このほか開講時に文献リストを配布する。

## 【成績評価基準】

定期試験による、また講義時に数回「スタディ・クエスチョン」を行い評価に加える。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

社会的ジレンマについて環境問題との関連について説明のための事例を増やし、理解しやすくする。

## 【その他】

あらゆる環境問題は「社会」の中で起こっています、私たちがどのような社会を作っているのか考えることはこの学部での学習の基礎となります、社会学の思考法を身につけよう。

## 【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目です。

## 現代社会論Ⅱ

田中 勉

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：金 1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

### 【授業のテーマ】

テーマ：「現代日本社会の変動をとらえる視点」

### 【授業の到達目標】

本講義の目標は、1960年代以降を中心に戦後日本社会の変動プロセスを各種社会統計によって跡づけ、社会諸領域の変動が相互に関連して生じていることを理解する、ことにある。また、講義を通して長期統計データの検索法・利用法および読解力を身につけることをめざす。

[]

### 【授業の概要と方法】

「社会の何が変化するのか？」という問いから始め、長期社会統計データを用いて変化の様相を知るやり方について説明した後、産業化・少子高齢化などいくつかの領域における変化を詳しく取り上げる。常識的に述べられる「社会の変化」を疑い、本当に変化しているのか、何が変化を促進し阻害する要因であるのか、ある領域における変化が別の領域における変化とどのように関連しているのか、などの問いに答えることを課題として進める。講義では統計資料を配付し、データがどのように得られたのか、データに見られる変化を読み取る方法について解説する。

[]

[]

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	講義のねらい・形式等のガイダンス。	講義ガイダンス。社会を変動という視点から考える意味を理解する。
第2回	社会変動とは何か	社会の何が変化するのか、変化を何によって捉えるか。 1960年代以降の日本社会の変動。
第3回	近代化・産業化	近代化とは何か。産業構造の変化。工業化と公害問題。産業社会の特質をとらえる
第4回	経済成長と豊かな社会	経済成長をとらえる指標とは。「豊かな社会」の成立とその帰結。
第5回	働き方の変化①	労働力率の変化を性別・年齢別に検討しその要因を考える。教育年数の長期化とその背景。
第6回	働き方の変化②	従業上の地位の変化。雇用労働者化とその背景。
第7回	働き方の変化③	女性労働の変化。M字型カーブを作り出す要因とは。
第8回	働き方の変化④	高齢化と産業社会。高齢者雇用の現状と効用延長の課題。
第9回	働き方の変化⑤	職業構造の変化。ホワイトカラー化とは何か。
第10回	人口の変化①	人口転換とは。人口数と構造の変化。
第11回	人口の変化②	少子化と高齢化。人口の年齢構成の変化とその要因。合計特殊出生率とは。未婚率の上昇の要因。
第12回	人口の変化③	出生率・死亡率の変化。自然増加率の推移。少子・高齢社会から人口減少社会へ。何が問題なのか。
第13回	人口の変化④	少子高齢化を国際比較から考える。産業化の程度と人口構造の関連について。
第14回	環境問題と社会の変化	我々はいかなる社会を作ってきたのか、作っていくのか。環境問題と社会。
第15回	まとめ	社会変動の相互連関。社会を見る目の重要性。

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

統計資料を配布するので、そこからどのような変化を読み取ることができるか、その変化がどのような要因と関連しているか、など事前に学習しておくこと。講義時にスタディクエスションとして文章化して提出を求めることがあります。

### 【テキスト】

特定のテキストは用いない。

### 【参考書】

友枝ほか,2007,「社会学のエッセンス」有斐閣。環境経済・政策学会編,2001,「経済発展と環境保全」東洋経済新報社。国立社会保障・人口問題研究所「人口の動向」,各年,厚生統計協会。この他開講時に文献リストを配布する

### 【成績評価基準】

定期試験による、また講義時に数回「スタディ・クエスション」を行い評価に加える。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

統計資料の読み取り方についてより詳しく説明する。

### 【その他】

ここで取りあげる変化は半ば常識的に語られている事柄です、でもそれはホントか証拠をあげて論じることが重要、「常識を疑う」「実証」を合い言葉に学びましょう。

### 【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目です。



## 現代社会論Ⅲ

田中 勉

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講semester：後期授業 | 曜日・時限：金 1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

### 【授業のテーマ】

「地域社会と家族の変動を考える」

### 【授業の到達目標】

この講義では、「地域社会」そしてそこに暮らす人々が作る「家族」のここ半世紀の変化に関して各種社会統計を用いて考察することを目標とする。マチとムラがどのように変動してきたか、なぜそのような変動が生じたのか、論理的・実証的に考える能力を身につけることをめざす。もちろん、基礎的な概念・枠組みの正確な理解を得ることも目標とする。

[]

### 【授業の概要と方法】

地域社会をどのような視点から考えるか、高度成長期にムラからマチへの人口移動が生じた経緯を長期社会統計によって跡づけ、その結果生じた過疎・過密の問題をとりあげる。また、そのプロセスの中で見られた生活スタイルの変化を家族のあり様を中心に取り上げる。

変化がなぜ生じ、その変化は社会の他の領域における変化といかなる関連を持つのか、社会統計についての解説を交え、変化を読み取る方法の理解を深める。

[]

[]

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	講義のねらい・形式等のガイダンス。「社会」を考える視点	「社会」とは何だろう。人々の共同生活としての社会。社会はどのようにとらえられてきたか。
第2回	「地域社会」という概念	地域社会という概念で何を考えようとしているか。地域を社会学的視点から見る意味。
第3回	産業化・工業化と都市化	産業構造の変動と人々の居住域の移動。都市化の進展をもたらす要因。
第4回	向都離村現象	都市への人口移動。非農化と工業化。社会移動率から考える。
第5回	過密と過疎、現代の「マチ」と「ムラ」	人口移動がもたらしたもの。都市の過密と農山漁村の過疎。移動を生む要因。
第6回	都市的生活様式とその拡大	都市的生活スタイルの登場と地域社会の変動。地方へ浸透する都市的生活様式。
第7回	事例から考える①農村	農業と農村。過疎と高齢化、後継者難。「限界集落」の実態と新たな動き。新潟県上越市の事例を検討。
第8回	事例から考える②都市	大都市東京の地域社会。千代田区の事例を検討。
第9回	地域社会と家族	個人・家族と地域社会。家族変動は地域にどのような変化をもたらしたか。
第10回	家族の変化をとらえる方法	世帯統計から見る家族の変化。世帯類型の変化。単独世帯の増加。
第11回	核家族化と小家族化	核家族とは何か。核家族化は普遍的か。世帯員数の減少とその要因。
第12回	少子・高齢化社会における家族	少子化・高齢化と家族生活の変化。高齢者単独世帯の増加。
第13回	家族機能の変容	家族機能の諸類型。家族は必要でなくなる社会集団か。機能喪失か機能純化か。
第14回	環境問題と地域社会の変化	過疎・過密と環境問題。人口移動がもたらした諸問題とその解決。
第15回	まとめ	地域社会と家族の変化の関連。地域と家族の将来像を探る。

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

統計資料を配付するので、そこから読み取れる事柄を整理しておく。

### 【テキスト】

特定のテキストは用いない。

### 【参考書】

進見編,2007,「講座社会学3 村落と地域」東大出版会、  
森岡編,2008,「地域の社会学」有斐閣、  
森岡・望月,1977,森岡ほか「新しい家族社会学」培風館、  
湯沢雅彦,2008,「データで読む家族問題」NHK プラス

\*このほか開講時に文献リストを配布する

### 【成績評価基準】

定期試験による、また講義時に数回「スタディ・クエスチョン」を行い評価に加える。

【学生による授業改善アンケートからの気づき】

本科目は2012年度からの新設科目である。

### 【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目です。

## NPO・ボランティア論

川崎 あや

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：水3

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

### 【授業のテーマ】

NPO（民間非営利組織）によって、これまで主に行政セクターが担うものだと考えられていた「公益」や「公共」を、市民セクターが担うようになりつつあります。市民は、NPOにボランティア等で参加することで、社会に働きかけ、市民的公共性を創出する担い手となります。

この授業では、現代社会の様々な課題と、その課題に取り組むNPOについて、さまざまな側面から理解を深め、市民社会のあり方や方向性について考えます。

### 【授業の到達目標】

- ・NPOとボランティアについて理解を深める。
- ・NPOの存在意義や、NPOが活動する上での課題について問題意識をもつ。
- ・今後の市民社会はどのような方向に進むべきか、また市民一人ひとりが、社会とどのように関わるべきかを考える。

[]

### 【授業の概要と方法】

- ・各回ごとに、テーマにそった講義を行います。
- ・毎回、感想・質問用紙を配布し、任意で提出してもらいます。質問については、次週の授業でコメントします。

[]

[]

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の目標、内容、進め方、受講者の関心調査
第2回	NPOとは何か	「NPO」の意味と意義、ボランティア・市民活動との関係、NPOとNGO
第3回	市民社会の変遷とNPO	日本における市民社会の歴史、NPO・市民活動の変遷
第4回	NPOの事例紹介①	NPO法人神奈川子ども未来ファンドをはじめ、子どもに関わるNPOを映像を交えて紹介する。
第5回	NPOの事例紹介②	困難を抱える人々に対するNPOの活動を紹介する。
第6回	NPO法人制度	NPO法の制定過程、他の法人制度との比較、NPO法人の要件、公益法人制度改革
第7回	NPOの組織運営	NPOの組織特性、組織の構成要素、企業等との違い
第8回	NPOとボランティア	NPOにおけるボランティアの役割、ボランティアとして参加することの意義
第9回	NPOの財政	NPOの財政規模、財源の多様性と特性
第10回	NPOと行政	自治体のNPO支援施策、行政とNPOの協働
第11回	働く場としてのNPO	雇用・就労の場としての可能性と課題、NPOの職域、NPOで働くことの意義と課題
第12回	社会変革の担い手としてのNPO	ニーズの社会化とNPOの役割、実証型政策提案と運動型政策提案
第13回	NPOに関わる昨今の動向	NPOと寄附税制、ソーシャルビジネスとNPO、等
第14回	補足とまとめ	授業の振り返りや補足
第15回	定期試験	論述を中心とした試験を実施。

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

事前に、テキストの関連する部分を読んでおくこと。  
授業後は、授業で説明したNPOの事例や法制度について、各自調べるなど補足学習を行うことが望ましい。

### 【テキスト】

知っておきたいNPOのこと（増補版） 日本NPOセンター発行 500円

### 【参考書】

特に指定しない。

### 【成績評価基準】

論述中心の定期試験を実施。論述では、①授業内容を的確に理解しているか、②自分自身の意見や問題意識が述べられているか、③考えを整理してわかりやすく論じられているか、を重視して評価する。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

特になし

### 【学生が準備すべき機器他】

DVD、PCプロジェクター（パワーポイント、インターネット接続）

### 【関連の深いコース】

地域環境

## フィールド調査論

西城戸 誠

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：水 2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

### 【授業のテーマ】

さまざまな社会調査の基本的な考え方、多様な方法について講義することで、社会調査を行うための基本的な知識、技術を修得を目指す。

### 【授業の到達目標】

この講義は、社会科学の基本的な考え方を学び、社会調査の一連の流れと、社会調査の課題、調査倫理について修得することを目的としている。また、同時にメディアリテラシーの基礎を学ぶことを目的としている。

[]

### 【授業の概要と方法】

社会調査に関する基本的な知識、技術についての講義が中心であるが、内容に応じて、受講者個人の作業、グループにおける作業も同時に実施する。最終的に、方法論の観点から実証研究を評価し、さらにリサーチデザインの設計を試みる。

[]

[]

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス（受講者の選抜等も含む）	本講義の内容についてのガイダンスと、受講者の選抜等を実施する。
第2回	社会調査とは何か（1）社会調査の概要	なぜ、社会調査が必要なのか、社会調査とは何か、その概要を講義する。
第3回	社会調査とは何か（2）問題関心と「問い」	社会調査前に考える、問題関心や「問い」の考え方を講義する。
第4回	社会調査とは何か（3）社会調査のための情報収集	先行研究や既存データのレビューを行うための情報収集の実習を行う。
第5回	社会科学の方法の基礎（1）- 「説明」「記述」	「説明」「記述」という社会調査によって得られる知見について講義する。
第6回	社会科学の方法の基礎（2）- 「因果関係」「仮説」	「因果関係」とは何か、仮説とは何か、について講義する。
第7回	量的調査入門（1）	サンプリング調査の原理について講義する。
第8回	量的調査入門（2）	調査票調査の一連の作業内容について講義する。
第9回	量的調査入門（3）	ワーディングの演習を実施し、仮説から調査票を作る作業を行う。
第10回	量的調査入門（4）	仮説と調査票の作成する作業を行う。
第11回	フィールドワーク入門（1）	フィールドワーク（質的調査）の概要を講義する。
第12回	フィールドワーク入門（2）	インタビューのさまざまな技法について講義する。
第13回	フィールドワーク入門（3）	聞き取りデータから論文を作成するまでの手法（KJ法による論文の構想）について講義する。
第14回	映像教材から方法論を学ぶ	映像教材から調査手法の実際について学ぶ。
第15回	2つの方法論の整理	量的、質的調査の方法論の整理し、社会調査の方法論のまとめを行う。

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

講義内容に関する復習を行い、次回の講義内容に備えること。また、課題に対して個人的な作業を求める。

### 【テキスト】

宮内泰介, 2004, 『自分で調べる技術 市民のための調査入門』岩波アクティブ新書.

高根正昭, 1979, 『創造の方法学』講談社現代新書.

佐久間充, 1984, 『ああダンプ街道』岩波新書.

### 【参考書】

山中連人編, 2002, 『マルチメディアでフィールドワーク』有斐閣

森岡清志編, 2007, 『ガイドブック社会調査 第2版』日本評論社.

佐藤郁哉, 2006, 『フィールドワーク 増訂版』新曜社.

大谷信介ほか, 2005, 『社会調査へのアプローチ 第2版』ミネルヴァ書房.

盛山和夫, 2004, 『社会調査法入門』有斐閣.

玉野和志, 2008, 『実践社会調査入門——今すぐ調査を始めたい人へ』世界思想社

### 【成績評価基準】

出席（20%）、講義中の課題提出（30%）、最終レポートの提出（50%）

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

教員の滑舌の悪さは先天的なものであり、なかなか改善しづらいが、改めてお詫びしておきたい。

### 【学生が準備すべき機器他】

場合によってはPCを用いることがある。その際には事前に貸し出しをしておくか、自前で準備しておくこと。

### 【その他】

本講義の定員は30名である。受講希望者は第1回目の講義で決定する。在学中に社会調査の実践を行う予定がある者を優先する。

### 【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目である。

## フィールド調査論

田中 勉

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：金 5

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

### 【授業のテーマ】

社会調査の方法を学ぶ

### 【授業の到達目標】

この講義の目標は、①「社会調査」の考え方、調査計画、調査法、報告作成法など、調査に必要とされる知識・技法を身につける、②調査結果の見方、調査の限界と問題点、調査における倫理などを学ぶ、である。

[]

### 【授業の概要と方法】

社会調査の考え方、調査で何が分かり何が分からないかなど「調査」することの意味や限界について論じ、社会調査の基礎的理解をはかる。調査法のいくつを取り上げ、各方法が持つ利点と欠点を検討する。調査計画の建て方の解説を行った後、①面接調査法、②調査票調査法について調査事例を紹介しながら、各調査法のプロセスを検討する。特に②については実際に「調査票」の作成を少人数グループで行う。また、調査には必ず「対象者」があり、その協力なくしては実施が不可能であることに触れ、調査と調査者の倫理に関して講義する。

[]

[]

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	講義のねらい・形式等のガイダンス	講義ガイダンス。「社会調査」とは何か、調査における妥当性と信頼性について。
第2回	社会調査の目的と意義－調査で何がわかるか	社会調査の定義と調査の前提。調査するとわかるのか、調査の限界。
第3回	調査の方法	課題を提示、調べ方のグループ討議（GW 1）を行う。
第4回	調査を計画する	社会調査のプロセス。調査デザイン、実査、分析、報告。（GW 2）
第5回	調査法の類型	参与観察法・面接調査法・質問紙調査法の解説。
第6回	参与観察法	参与観察による調査の事例、実施可能性、対象者（集団）の選定と技法。
第7回	面接調査法①	指示的面接法と非指示的面接法、調査事例に見る調査プロセスの実際。（GW 3）
第8回	面接調査法②	面接調査における留意点、メリットとデメリット。
第9回	質問紙調査法①	悉皆調査と標本抽出調査、サンプルサイズと抽出法。
第10回	質問紙調査法②	調査票の配布と回収方法の類型。各方法のメリットとデメリット。
第11回	質問紙調査法③	調査票の構成、フェイスシート、回答選択肢の作成法。
第12回	質問紙調査法④	質問文作成法、ワーディングの注意点。（GW 4）
第13回	質問紙調査法⑤	調査票作成実習。（GW 5）
第14回	質問紙調査法⑥	調査票作成実習。（GW 6）
第15回	よりよい調査を目指して－調査者の倫理－	GW 発表。集計法など残された課題。

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

講義中にグループワークを行います。課題を分担して授業前に準備してくることを求めます。

### 【テキスト】

特定のテキストは用いない。

### 【参考書】

宮内泰介,2004,「自分で調べる技術」岩波書店  
 新ほか編,2008,「社会調査ゼミナール」有斐閣、  
 玉野和志,2008,「実践社会調査入門」世界思想社  
 佐藤郁哉,2006,「フィールドワーク」新曜社  
 このほか開講時に文献リストを配布する

### 【成績評価基準】

①定期試験、②レポート（調査票の作成）、③講義時に行うグループ作業（GW）への参加度と作業成果物も評価の対象とする。出席も重視します。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

調査票作成の実習時間を増やします。

### 【その他】

受講者制限（30名まで）をします。受講希望者多数の場合は選抜を行う。グループ作業を行います、グループメンバーに迷惑をかけることになるので欠席しないことが受講条件です。

### 【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目です。



## フィールド調査論

黒田 暁

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：水2

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

### 【授業のテーマ】

この授業では、社会調査（フィールドワーク）に関する基本的な知識や技術、方法論を学ぶ。社会科学の「問い」を持ち、それを鍛え、調査を通じてかたちにしていく過程を身に付けることを到達目標とする。また、そのために必要なメディアリテラシーの基礎習得を目指す。

### 【授業の到達目標】

大きく分けて量的および質的な社会調査の方法論を学び、体得してほしいと考える。その際ただ技術的な習得だけではなく、「どうして社会調査（フィールドワーク）を行う必要があるのか、どんな意義や意味があるのか」という自問自答を繰り返しながら、自分なりの「問い」と「答え」を見つけていく過程を重視する。講師はそのための機会を提供する。

【

### 【授業の概要と方法】

授業は、社会調査（フィールドワーク）を実践するための方法論についてレクチャーをおこなう。履修者には、その内容を受け調査設計者となり、作業を個別にあるいはグループで取り組んでもらう。最終課題は、自らの研究のリサーチ・デザインを設計することとする。

【

【

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業がどのように構成されるか、見取り図を示す
第2回	社会調査とは何か(1)	社会調査とは、誰が、何のために、何をすることなのかについて考えていく
第3回	社会調査とは何か(2)	社会調査において「問い」を持ち、深めることの意味と意義を知る
第4回	社会調査のための情報・資料収集法について	社会調査を計画実行する際に必要不可欠な資料収集のあり方についてレクチャーを行う
第5回	社会科学の基礎的な方法論とは	「仮説」や「因果関係」、「説明」や「記述」といった社会科学の概念や発想を読み解いていく
第6回	社会調査を実践すること	量的調査と質的調査、それぞれの方法論を紹介し、どんな実践のカタチがあり得るか、認識する
第7回	量的調査基礎・設計(1)	量的調査において「仮説を構築する」とはどういうことで、どんな意味があるのか実際に行ってみる
第8回	量的調査基礎・設計(2)	実際に調査票を作成するプロセスを体感してみる
第9回	量的調査基礎・設計(3)	統計的手法がどのような考え方で、何を検証するのかについて知る
第10回	質的調査基礎・設計(1)	質的調査、「フィールドワーク」とは何をすることなのか、実例から学ぶ
第11回	質的調査基礎・設計(2)	フィールドワークにさまざまなカタチがあることを、具体的な方法論や事例から理解し、共有する
第12回	質的調査基礎・設計(3)	フィールドワークのもっとも基礎的な「聞き取り調査」の持つ意味と意義を掘り下げる

第13回 社会調査とメディアリテラシー  
社会調査をする側、その結果を受け止める側双方に求められるリテラシーとは何かについて探求する

第14回 リサーチ・デザインの試み  
これまで学んできた社会調査の方法論から、総合的なりサーチ・デザインの全体像を提示する

第15回 まとめ  
授業のまとめを行う

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

本講義は、授業内で「社会調査」を実施するものではないが、これから構想計画する具体的な予定がある者、近い将来に実行する意思がある者は、その構想をかたちにできるように、授業と同時進行で積極的に取り組んでほしい。

### 【テキスト】

宮内泰介,2004,『自分で調べる技術 市民のための調査入門』岩波アクティブ新書

### 【参考書】

佐藤郁哉,2002,『フィールドワークの技法』新曜社

佐久間充,1984,『あぁダンプ街道』岩波新書

大谷信介ら編,2003,『社会調査へのアプローチ——論理と方法【第二版】』ミネルヴァ書房

### 【成績評価基準】

授業への出席状況（20％）、授業中に出される課題への取り組み（30％）、中間レポート・最終レポート（50％）

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

とくになし

### 【その他】

実際に社会調査（フィールドワーク）をおこなう予定のある者は勿論、ある「問い」を持って社会の具体的な現象を解き明かそうとする営みに関心のある学生に受講してほしい。

本講義は、授業の性質上、履修者数は24人を上限とする。受講希望者が多数の場合、初回授業にて選抜または抽選を行うので、受講希望者は必ず初回の授業に出席すること。

## 社会統計論

藤本 隆史

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：火 6

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

### 【授業のテーマ】

社会では様々な統計調査が行われており、その結果が報告されているが、この講義では、そのような調査結果の読み方や利用の仕方とともに、実際に統計ソフトを使ってデータ集計の方法を学習する。

### 【授業の到達目標】

調査計画からデータ分析に至るまでの統計調査における一連のプロセスを理解する。データ分析においては、クロス集計の方法など基礎的な統計処理の手順を習得する。統計解析ソフトで集計していると、ただ手順に従って結果を出すだけになりがちだが、集計の目的（何を比べているのかなど）や集計の意味（どのようにしてその集計が行われているのかなど）を理解した上で適切な集計を行えるようになることを目標とする。

[]

### 【授業の概要と方法】

統計処理の仕組みの説明を行い、それに基づいてデータの集計を行う。データの集計には、主に統計解析ソフトの SPSS を用いるが、統計処理の過程を確かめるために、エクセルによる計算も行う。基礎的なデータ処理の方法を中心とし、高度な統計処理は行わない。

[]

[]

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	講義ガイダンス	授業概要の説明を行う
第 2 回	社会統計とは何か	社会統計の種類や、政府統計など既存の統計データの探し方や利用方法などを学ぶ
第 3 回	データとは何か	データの種類や、量的データの収集方法（手順）などを学ぶ
第 4 回	データセットの作成	データの入力方法や、SPSS で外部データを読み込む方法を学ぶ
第 5 回	基礎集計	平均値や標準偏差など記述統計の算出方法を学ぶ
第 6 回	データの加工	正規分布の考え方と、値の再割り当てなどデータの加工の方法を学ぶ
第 7 回	クロス集計表の作成	クロス集計の考え方と作成方法を学ぶ
第 8 回	統計的検定について	統計的検定の考え方を理解する
第 9 回	カイ 2 乗検定	クロス集計表を使った離散変数間の関連の測定方法を学ぶ
第 10 回	平均値の差の分析	分散分析など平均値の差の分析方法を学ぶ
第 11 回	相関係数と回帰分析	連続変数間の関連の測定と分析方法を学ぶ
第 12 回	エクセルによる統計処理	ピボットテーブルなどエクセルによる統計処理の方法を学ぶ
第 13 回	集計結果のまとめ方	SPSS の集計結果をワードやエクセルで利用・加工する方法を学ぶ
第 14 回	まとめ	統計データの収集から分析に関する手順などを整理する
第 15 回	試験	統計調査のプロセスや分析の手順に関するペーパーテストを行う（授業内試験）

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

SPSS やエクセルによる集計方法などを復習する。

### 【テキスト】

講義時に適宜紹介する。

### 【参考書】

講義時に適宜紹介する。

### 【成績評価基準】

パソコン実習を伴う授業なので、毎回の出席を重視する。授業内で作業した結果を提出してもらう。データ分析に関する複数の課題（統計処理の基礎的な計算・集計および結果の読み方）の提出を求める。また、学期末に統計調査のプロセスやデータ分析に関するペーパーテストを行う。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

分析手法の理解と習得のために、より多くの具体的な分析作業を行う。

### 【その他】

パソコンの基礎的な操作方法を習得していることを前提として授業を進める。また、受講希望者が多い場合には抽選となるので、第 1 回目の授業には必ず参加すること。

### 【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目である。

## ファシリテーション論

三田地 真実

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：火 3

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

### 【授業のテーマ】

- 話し合いを始め、様々な場をデザインし、マネジメントするためのノウハウである「ファシリテーション」についての基礎的な知識・技能を獲得すること。
- 実際にファシリテーションを行う、「ファシリテーター」として行動できること。

### 【授業の到達目標】

本演習を受講した後に習得できる具体的な行動目標は以下の通り：

- 「場づくり」のそもそもの意味を理解することができる（「意味」「意義」を考える）
- コミュニケーションの基礎を体得できる（言語・非言語行動の両方を含む）
- 場づくりの基本的な技法を実施することができる（準備、実施、フォローアップの各段階における基本的な技法）

Ⅰ

### 【授業の概要と方法】

環境問題に限らず、社会的な問題に関わろうとする際に、単独で問題を解決できることはほとんどなく、多くの場合、そこにかかわる多くの利害関係者（ステークホルダー）の間でいかにうまく話し合いを持ち、最適解を見出すための「合意形成」をもたらす必要性がある。

その際に、単に人が集えば「意味ある場」になるのではなく、綿密な準備とその場への適切な関わりが不可欠である。本授業では、「意味ある場」とは何か？ そういう「場」を作っていくためには、具体的にファシリテーターとしてどのような心構えと技が必要なのかについて学んでいく。そのため授業は講義と演習を織り交ぜながら進めていく。

Ⅰ

Ⅰ

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	・「意味ある場づくりとは何か？」 ・ファシリテーターとしての3つの行動キーワード ・「Why（根拠）」、「プロセス」、「安心・安全な場」
第2回	ワークショップ体験（自己紹介ワーク）	・何気なく行っている自己紹介という活動をファシリテーションの視点で見直す
第3回	ワークショップ体験（アイスブレイク）	・異なる複数の場を体験して、外で何が起きているか、自分の中で何が起きているのか「プロセスを見る」
第4回	コミュニケーションの基礎（1）	・ファシリテーターには必須のコミュニケーションの基礎について演習を行い、プロセスを振り返る
第5回	ファシリテーションの基礎	・ファシリテーションの基本の3つの段階、準備・本番・フォローアップについて学ぶ
第6回	ファシリテーションの準備（1）	・空間のデザインである場づくりと、基本の10ステップについて学ぶ
第7回	ファシリテーションの準備（2）	・時間のデザインである、プログラムデザインを「プログラムデザイン曼荼羅図」というツールを用いて行う演習をする
第8回	ファシリテーションの本番（1）	・10ステップ演習、ライブレコーディング他のスキルを学ぶ
第9回	ファシリテーションの本番（2）	・再度、一対一のコミュニケーションを見直す ・行動の基礎である、応用行動分析学（ABA）の概論について学ぶ
第10回	ファシリテーションのフォローアップの段階	・意味ある場とするためには、参加者の行動変容が図られるものでなければならぬことを理解する ・行動計画の書き方
第11回	ファシリテーションの応用編	・困ったケースについてどう対応するかの方法
第12回	グループプレゼンテーションに向けて	・最終プレゼンテーションに向けてのグループ活動
第13回	グループプレゼンテーション（1）	・グループ毎にテーマに基づいた発表を行う（第1回） ・発表しないグループは、発表のプロセスを観察・フィードバックする

第14回 グループプレゼンテーション（2）

- ・グループ毎にテーマに基づいた発表を行う（第2回）
- ・発表しないグループは、発表のプロセスを観察・フィードバックする
- ・グループ・プレゼンテーションのふり返り
- ・授業全体のふり返り「意味ある場づくりのために」

第15回 まとめ

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

- ・毎回の文献・資料講読（事前準備として）
- ・グループ・プレゼンテーションの事前準備として、グループで授業外に集まって話し合いや準備活動（相当数の時間を必要とする。必須）
- ・様々な場面の観察実習など

### 【テキスト】

- ・「ファシリテーターのための行動指図書」（三田地真実、ナカニシヤ出版、印刷中）

### 【参考書】

- ・「ファシリテーション革命」（中野民夫、岩波アクティブ新書、2003）
- ・「特別支援教育 連携づくりファシリテーション」（三田地真実、金子書房、2007）他

### 【成績評価基準】

- ・出席点：約 60 %（毎回、出席カードの代わりにふり返りシートへ記入する）
- ・最終グループプレゼンテーション：約 40 %（グループ、個人での提出物も含む）

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

講義と演習を交えた授業展開については、概ね好評であった。今後は、グループ演習の方法をさらに思考力・チーム力を必要なものに発展させ、学生の主体的な関わりを増やす予定である。

### 【学生が準備すべき機器他】

特になし

### 【その他】

ファシリテーションは、環境問題に留まらず、人間が集う場をどのようにして意味あるもの、つまりそこに参加している人にとって「参加してよかった」と思えるような場にしていくかについての具体的なノウハウを提供してくれるものです。

職場内、あるいは家庭内の人間関係を見直すことにも十分役立つ内容と思えます。

なお、本講義は、受講希望者が多数の場合、初回授業に選抜または抽選を行います。受講を希望する方は、必ず初回授業に出席してください。

2011年度までに旧名称「人間環境特論（ファシリテーションの基礎）」を修得済の場合、本科目は履修できません。再履修者は「人間環境特論（ファシリテーションの基礎）」で登録してください。

### 【関連するコース】

全てのコースのベースとなる科目です。

## グローバル・コミュニケーション

ESTHER STOCKWELL

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：水2

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業のテーマ】

This course focuses on basic communication skills in personal and social environments (local), as well as in international and multicultural environments (global). Cultural constructs are analysed in an individual's culture of origin and in a range of other similar and dissimilar cultures. The cultural roots of reality are seen as deriving from the effects of religious, family and historical world views. Language, non-verbal communication, social customs and expected patterns of relationships are examined in relation to interpersonal, business, educational and political situations. This course has been designed to give students an overview of intercultural communication and to stimulate further independent learning.

## 【授業の到達目標】

The aims of the course are:

- ・ to give students opportunities to better know themselves, their values and biases, and to develop an awareness of how these factors influence intercultural environment.
- ・ to enable students to identify culturally learned assumptions and behaviours.
- ・ to enable students to explore specific cultural group information and relate that knowledge to culturally learned awareness.
- ・ to enable students to understand theoretical issues relevant to the study of intercultural communication.
- ・ to develop the process of cultural adaptation.
- ・ to promote positive attitudes towards the culturally different and to develop intercultural communication competence.

Through this course, students will be able to prepare for their professional lives not only in their domestic society but also in an international society. Students entering the fields of business, teaching, social services and tourism will have opportunities to apply their skills in daily contacts with culturally different client groups.

[]

## 【授業の概要と方法】

Classes will consist of lectures followed by group and class discussions on the concepts covered in the lectures. In addition, students will be required to prepare for class by reading assigned articles on the topics that will be discussed in the following class. Classes will consist of a series of short lectures and other video materials, followed by group and class discussions on the concepts covered in the lectures and videos. In addition, students will also gain skills in academic writing including research techniques and oral presentation skills.

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	Orientation	Overview of the course, online activities, and overview of global and local (glocal) communication
第2回	Essentials of Human Communication: What and how	Definition of communication / Types of communication / Models of communication / The goal of studying communication
第3回	The Challenge of Intercultural Communication I: Culture and Communication	Why we study intercultural communication / What is culture? / Characteristics of culture
第4回	The Challenge of Intercultural Communication II: Culture and Communication	Culture and our perceptions, values, attitudes, beliefs / Problems in intercultural communication
第5回	Understanding Diverse Cultures	Various different cultural patterns / Hofstede's characteristics of culture / Hall's theory of low and high context cultures
第6回	Language and Culture: Words and Meaning	Language and intercultural communication / Language and culture

第7回	Non-verbal Communication: The Messages of Action, Space, Time, and Silence	Functions of non-verbal communication / Definition and types of non-verbal communication / Non-verbal communication and culture
第8回	Academic Writing Activity	Planning & writing academic papers
第9回	Presentation Activity	Planning & preparing oral presentations / Presentation techniques
第10回	Culture Shock	Definition of culture shock / The stages of culture shock / Effects of culture shock
第11回	Cultural Influence on Context I: The Business Setting & the Educational Setting	Culture and context / Communication and context / Intercultural communication and the business context
第12回	Cultural Influence on Context II: The Business Setting & the Educational Setting	The multinational business context - cultural views toward management
第13回	Intercultural Changes: Recognizing and Dealing with Differences	Becoming intercultural competent / The future of intercultural communication
第14回	Class Presentations	Students give presentations on their selected topics
第15回	Written Assignment / Take Home Exam / Class Evaluation	Students submit their written assignment and are instructed on how to do their take home exam

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

Students are expected to read reference materials for the next class. In addition, they need to write online forum postings after each class for review purposes.

## 【テキスト】

There is no specified textbook for this course. Handouts will be provided in class

## 【参考書】

Griffin, E. (2006). A First Look at Communication Theory. Boston: McGraw Hill.

Pearson, J., Nelson, P., Titsworth, S., & Harter, L. (2006). Human Communication (2nd Edition). Boston: McGraw Hill.

## 【成績評価基準】

Assessment will consist of in-class participation, a presentation, a written assignment, and a take-home exam.

\* Note that students who miss 4 classes or more cannot pass this subject.

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

There were no particular requirements about this course from students. However, I would like this course to enable students to apply what they learnt in class to their daily lives through questioning general phenomena in their lives.

## 【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目です。



## 地域形成論

後藤 純

カテゴリ：政策 | 配当年次/単位：1～4年/2単位

開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：火 5

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

### 【成績評価基準】

- ・出席点 30% 毎回出欠をとります。
- ・中間レポート 20% 小テーマについてレポートを書いてもらいます。A4 × 1枚
- ・レポート 50% A4 × 4枚以内

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

受講のモチベーションが維持できるように、わかりやすく進めていきます。

### 【関連の深いコース】

地域環境

### 【授業のテーマ】

この授業では、地域形成のさまざまな要素について、基礎的知識を習得することをテーマとします。

### 【授業の到達目標】

地域形成に係わる技術的な手法の内容、その背景や意味について空間的、社会制度的仕組みについて総合的に習得し、それを元にレポートを書いて習得したことを発信することを狙いとします。

[]

### 【授業の概要と方法】

もはやゼロから地域を形成していくことは不可能です。既に先人が創りこんできた制度及び空間の上に、現在の地域が形成されており、これを再び地域に住む人々が解釈・再解釈して次の時代の制度及び空間を構築しています。本授業では 2030 年の超高齢社会を念頭におきながら、都市計画、まちづくり、住民自治、コミュニティ、ガバナンスなどをテーマとして取り上げ、基本的な考え方や手法について考えたいと思います。

これからの社会を支える皆さんに、まず(1)基礎的な制度や空間を読み解くポイントを学んでいただき、次に(2)市民・住民の地域に対する意思やニーズを把握するポイントについて学んでいただきます。そして、これらを踏まえ(3)課題解決・地域形成のためにどのような社会経済的実現方法が考えうるのか、具体ケースをみながら、考えて行きます。

授業は講義中心ですが、小レポートとレポートを出します。講義で学んだことを踏まえつつ、(1)～(3)に注意して、自ら問いを立てて、自ら解決策を検討する地域形成の基礎力を養ってもらおうと思います。

[]

[]

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方、授業の受け方、レポートのこと
第 2 回	高齢社会の基礎知識 (1)	超高齢社会が日本に与える影響
第 3 回	高齢社会の基礎知識 (2)	超高齢社会を乗り切るための地域形成手法
第 4 回	ゼロから考える地域形成	東日本大震災からの普及について
第 5 回	都市計画の基礎 (1)	日本の近代都市計画の歴史と展開
第 6 回	都市計画の基礎 (2)	英・米との比較による日本の都市計画
第 7 回	地域形成を考える (1)	地域を形成している制度及び空間について考える
第 8 回	都市計画とまちづくり	行政、企業、市民社会組織の協働によるまちづくり
第 9 回	市民参加、協働の技術	住民参加・協働の理論と技術
第 10 回	地域課題とまちづくり (1)	高齢化する郊外都市の行方
第 11 回	地域課題とまちづくり (2)	地方都市の活性化とコミュニティの維持・再生
第 12 回	地域課題とまちづくり (3)	東日本震災からの復興について
第 13 回	自治基本条例	自治基本条例について考える
第 14 回	地域形成を考える (2)	レポートの講評と、地域形成の成果と課題
第 15 回	これからの地域づくり	地域形成を行う市民社会組織の育成

### 【授業外に行うべき学習活動 (準備学習等)】

- ・初回に全体の流れ及び講義の進め方について説明します。
- ・都市、地域、まちに興味を持っていただき、それが自然に「成った」わけではなく、様々な社会的技術によって創られていることに興味を持ってください。
- ・地域形成についてはこれといった教科書がありませんので、上記のことに興味をもちつつ自分で問いを立てて自分で答えを導き、様々な人と議論を通して合理的な判断をしていく力を身につけてください。
- ・そのための手段として、小レポートとレポートを出しますので、地域形成について試行錯誤してください。

### 【テキスト】

- ・なし
- ・講義時にはパワーポイントを使用し、このプリントを授業レジュメとして配布します。

### 【参考書】

- ・2030年 超高齢未来、東洋新報社
- ・住民主体の都市計画—まちづくりへの役立て方、学芸出版社
- ・新時代の都市計画- 市民社会とまちづくり、ぎょうせい
- その他、授業中に指示します。

## 地域経済論

松本 敦則

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：火 5

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

### 【授業のテーマ】

地域経済に関する個々のトピックスを「地域産業」や「地域づくり」という視点から検討していく。まず基本的な理論を整理し、その後地域の具体的な事例を学んでいく。その他、地域に関わる企業、政策担当者、地域産業支援機関、金融機関、大学など地域を取りまく様々な機関や組織の役割も検討する。

### 【授業の到達目標】

地域経済に関する基本的な理論、現実の課題、政策についての理解を深めることを目標とする。また具体的な企画能力を身につけることも一つの目標とする。

[]

### 【授業の概要と方法】

講義を主体とするが、地域経済に関わる仕事をされている方（役所や商工会議所等）をゲストスピーカーとしてお呼びし現場の話をしてもらおう機会も考えている。毎回、テーマに応じた簡単なレポートを提出してもらおう。

[]

[]

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	地域経済とは何か、地域経済論の学び方
第2回	地域経済の分析1	地域産業立地、産業集積論、産業クラスターの理論の整理
第3回	地域経済の分析2	地域を理解するための調査、統計、データの利用やその分析の手法を学ぶ
第4回	海外の地域産業	イタリアやシリコンバレーなど海外の分析
第5回	地域と観光	温泉街等の事例研究
第6回	地域と町づくり1	新たな地域資源を掘り起こした町づくりの事例研究
第7回	地域と町づくり2	昔からある地域資源を活用した町づくりの事例研究
第8回	地域と大学	産・官・学連携における大学の役割、技術移転、産業支援
第9回	地域商店街の現状	地域における商店街の空洞化と再生について
第10回	地域ブランド1	繊維、焼き物、家具などのブランド作りの事例研究
第11回	地域ブランド2	食を中心としたブランド作りの事例研究
第12回	地域の金融機関	地方銀行や信用金庫、信用保証協会等の役割
第13回	地域の産業支援機関	商工会議所、商工会、組合、観光協会等の役割
第14回	地域の経済波及効果	プロ野球、Jリーグ、NHK大河ドラマなどの経済波及効果と産業連関表
第15回	まとめ	これまでのテーマの整理と今後の地域経済について検討する

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

テーマに応じた自主的な調査や見聞を推奨する。特に自分の出身地域や住んでいる地域を調べてみることを。

### 【テキスト】

特になし。適宜、講義時にプリントを配布する。

### 【参考書】

中村剛治朗（編）（2008）『基本ケースで学ぶ地域経済学』有斐閣ブックス  
その他は、第1回目に基本的な参考書を紹介する。

### 【成績評価基準】

定期試験（持ち込み不可）70%、平常点（授業内でのミニペーパーの提出ほか）30%

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

新規担当

### 【関連の深いコース】

地域環境、環境経営

## 地域福祉論

### 宮脇 文恵

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：月3

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

#### 【授業のテーマ】

1. 地域福祉の歴史を学び、理念とその展開について修得する。
2. 自らが「地域住民」として、地域を「暮らしたい場所」とするための、住民参画と主体形成について学ぶ。
3. 地域において、誰もが仲間はづれにされないための、コミュニティソーシャルワークとソーシャルサポートネットワークについて学ぶ。

#### 【授業の到達目標】

人が、自分が暮らしたい地域において、自分らしく生きるためにどのように支え合ったらよいか、地域福祉の理念とその援助方法について学び、履修者自らが地域住民として、援助職として、ボランティア活動者として地域において活動を主体的に展開していくための基礎的な力を身につける。

【】

#### 【授業の概要と方法】

これまで日本の福祉施策は、課題を抱えた人を福祉施設に入居させてきたが、今後は、専門的なサービスを利用しつつ、地域において、家族や地域住民に支えられながら暮らしていくことの実現が目指されている。本講義では、そのために、地域福祉とは何か、地域の様々な社会資源の活用とその開発について理解し、地域においてお互いを支え合っていくための方法を学び、自らも社会資源として地域福祉に参画していく基盤を身につける。

【】

【】

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス～講義の概要とポイント～	講義の概要・予定と授業におけるルールの確認
第2回	地域福祉とは何か	地域福祉に関する論を解説し、現代社会における地域福祉の理念を学ぶ
第3回	地域福祉の歴史(1)	欧米における地域福祉の源流と、戦後復興期までの歴史をとりあげる
第4回	地域福祉の歴史(2)	高度経済成長期～超少子高齢時代の到来までの歴史をとりあげる
第5回	地域福祉の主体形成と福祉教育(1)～地域福祉の推進と福祉教育～	住民の福祉意識、在宅福祉サービスの構造、地域福祉の主体形成
第6回	地域福祉の主体形成と福祉教育(2)～福祉教育の内容～	福祉教育と教育福祉、福祉教育の展開における留意点
第7回	地域福祉の推進主体(1)～社会福祉協議会、社会福祉法人～	地域福祉を推進する中心的な団体について、学ぶ
第8回	地域福祉の推進主体(2)～NPO、民生委員・児童委員、保護司～	地域福祉を推進するNPO、地域の期待される人材について学ぶ
第9回	地域福祉計画	地域福祉の主体形成、見通しを立てて地域を作る計画のあり方を学ぶ
第10回	コミュニティソーシャルワーク(1)～考え方、展開とシステム～	個人を大切にすることを出発点に、地域において援助するあり方を学ぶ
第11回	コミュニティソーシャルワーク(2)～方法、チームアプローチ～	コミュニティソーシャルワークの実践事例についてとりあげる
第12回	地域福祉推進における住民参画(1)～意義と目的～	地域はそこに住む住民自らがつくるもので、その参画の方法、留意点を学ぶ
第13回	地域福祉推進における住民参画(2)	地域福祉における住民参画の事例を取り上げる
第14回	ソーシャルサポートネットワーク	地域に暮らす個人を支え合う社会資源のつながりについて学ぶ
第15回	まとめ	総括、テスト

#### 【授業外に行うべき学習活動(準備学習等)】

高齢者、子ども連れの親子、障害のある人など、社会の中で居づらさを感じる人たちがいます。通学、生活の中で、関心を抱いて、目を向けてみてください。

#### 【テキスト】

新・社会福祉士養成講座『地域福祉の理論と方法』(中央法規)

#### 【参考書】

授業内で指示する

#### 【成績評価基準】

出席率(遅刻は授業開始後20分まで受付、退室は欠席とみなす)30%、テスト30%、課題提出(正当な理由のない遅延は受け付けない。応相談)20%、授業態度(飲食・携帯電話操作を含む内職は不可とし、発見し次第減点とする)20%

#### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

さらに新しい視聴覚教材を使用すると共に、不変の古典的な教材も合わせて活用する。

#### 【学生が準備すべき機器他】

DVD、ビデオなど

#### 【その他】

皆さんが学習主体です。今後、どう暮らしたいか、どんな地域社会にしたいか、ということと共に考え、より良い方法を模索していければと思います。

授業運営の関係上、申し訳ありませんが、受講希望者多数の場合は選抜を行います。希望者は必ず初回の授業に出席して下さい。

#### 【関連の深いコース】

地域環境

## 地域コモンズ論

平野 悠一郎

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：金 6

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

### 【成績評価基準】

出席 40 %（授業時の質問用紙の提出をもって出席とみなす）、問題提起・議論参加 20 %、期末試験 40 %の割合で評価する。但し、期末試験の受験は必須とする。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

2012 年度より担当。

### 【関連の深いコース】

地域環境

### 【授業のテーマ】

コモンズ論、所有論を軸に、地域における森林資源管理を持続的かつ効果的に行うための方法論を学ぶ。

### 【授業の到達目標】

森林資源をめぐる多様なアクター・価値・便益の存在を前提とした上で、その持続可能かつ有効な利用を行っていくためには、どのような所有・管理形態が望ましいのかを、政治的・経済的・社会的な観点から個別事例に応じて検証する。この作業を通じて、環境・開発・資源問題を解決に導く上での幅広い視座を養う。

[]

### 【授業の概要と方法】

基本的にテキストや資料に沿った講義形式で進めるが、受講者には、毎回の授業で内容に関する質問用紙の提出を求める。提出された質問に対しては、次の授業の冒頭でフィードバックを行い、理解の深化を図る。

[]

[]

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	世界各地の森林資源をめぐる諸問題を紹介し、「所有」から考える意味を概説する。
第 2 回	コモンズの悲劇	G. ハーディンによって喚起されたコモンズ（共有地）をめぐる論争を検証する。
第 3 回	コモンズ論の発展	E. オストロムの提示した資源共同管理の合理性等を紹介・検証する。
第 4 回	「前近代的」所有の内実	近代的所有権が確立される以前の地域における資源管理形態を把握する。
第 5 回	「近代的」所有の内実	近代的所有権の内容とその資源管理における特徴を検証し、世界各地への普及過程を把握する。
第 6 回	グローバル時代の所有論の射程	今日におけるグローバルなヒト・モノ・カネの移動を踏まえて、持続的な資源管理に向けた新たな所有のあり方を模索する議論を紹介する。
第 7 回	事例：日本の入会林野問題	近現代の入会権闘争を軸に、日本の森林をめぐるどのような所有・管理形態が模索され、どのような結果をもたらしてきたのかを検証する。
第 8 回	事例：日本の入会林野問題	同上。
第 9 回	事例：東南アジアの森林破壊の所有論的側面	近現代の東南アジアにおいて生じた森林の開発・破壊が、どのような所有形態の下で生じたのかを検証する。
第 10 回	事例：東南アジアにおける住民参加型林業の模索	現代の東南アジアにおいて、なぜ地域住民の権利を保障する森林経営が必要とされているのかを検証する。
第 11 回	事例：社会主義体制下の中国における森林所有の激変	中国における社会主義公有制の成立とその後の政治・社会変動が、地域の森林資源管理に与えた影響を検証する。
第 12 回	事例：改革・開放以降の中国の森林所有の再編	改革・開放以降、民間アクターへの権限移譲が進む中国の森林所有の現状と展望を紹介する。
第 13 回	事例：アメリカ林業における所有と経営の分離	近年のアメリカにおける林地投資型経営の発展と意味を検証する。
第 14 回	事例：アメリカ林業における所有と経営の分離	同上。
第 15 回	総括	授業の総括を行う。

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

特定の授業回においては、事前に参考となるテキストの講読を求める。その場合のテキストは、前の授業までに教員側で用意する。

### 【テキスト】

授業の進み具合を見て適時指定する。

### 【参考書】

井上真・宮内泰介編『コモンズの社会学：森・川・海の資源共同管理を考える』新曜社、2001年



## 都市環境論Ⅰ

石塚 義高

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：木 5

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業のテーマ】

都市環境論Ⅰでは、人々の生活の基盤である都市環境の形成を基礎的な学問形成から幅広く総合的に考える。

## 【授業の到達目標】

持続可能性を中心に、人口問題またエネルギー問題を含めて、人間と環境の時代の新しいプランナーとして方向感覚を身につけることを目標とする。

[]

## 【授業の概要と方法】

都市環境の形成を中心として都市空間と地球空間の形成を含め、地方開発、都市開発、まちづくりを対象とし、基本的な考え方、具体的な課題、具体的な対応策について論ずる。授業は、問題発見、問題提起、様々なソリューションを考えていく上での、思考の訓練に重きを置く。授業内演習として、問題提起に対する自分の考え方をまとめるミニペーパーを作成して提出することとする。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	都市・地域環境の問題提起とガイダンス
第2回	持続可能性の都市・地域のあり方	都市・地域のあり方を持続可能性から広く学ぶ
第3回	持続可能性の都市・地域における消費のあり方	都市・地域における消費のあり方を持続可能性から広く学ぶ
第4回	持続可能性の温暖化と都市・地域	温暖化による都市・地域における影響について持続可能性から広く学ぶ
第5回	持続可能性の水資源と都市・地域	都市・地域における水資源の課題を持続可能性から広く学ぶ
第6回	持続可能性の都市憲章	都市・地域における今後のあり方について憲章のスタイルで広く学ぶ
第7回	都市・地域人口の地球的長期予測	都市・地域人口が、今までと今後について地球的に長期的に広く学ぶ
第8回	都市・地域人口の抑制計画	都市・地域人口の世界的な人口爆発をどう抑制していくかを広く学ぶ
第9回	都市・地域人口の過疎化と対策	都市・地域人口の過疎地における過疎化とその対策を広く学ぶ
第10回	都市・地域エネルギーの地球的長期予測	都市・地域エネルギーの今後について地球的に長期的に広く学ぶ
第11回	都市・地域エネルギーの課題	都市・地域エネルギーのそれぞれの課題を広く学ぶ
第12回	都市・地域エネルギーの政策	都市・地域エネルギーのそれぞれの対策を広く学ぶ
第13回	人類課題としての海面上昇(英米中)	人類的課題となる海面上昇の被害予測(イギリス・アメリカ・中国の各都市)
第14回	人類課題としての海面上昇(日本)	人類的課題となる海面上昇の被害予測(日本の各都市)
第15回	全体のとりまとめと将来のあり方	総集編と補足と都市・地域環境の将来のあり方

## 【授業外に行うべき学習活動(準備学習等)】

初回に全体の流れと学習の仕方を説明する。毎回の最後に次回のテーマを話す。毎回とも予習としてテーマの下調べをしておくこと。

## 【テキスト】

特になし。講義時にプリントを配布する。

## 【参考書】

参考となるものを紹介する。

## 【成績評価基準】

定期試験(持ち込み不可) 70%、平常点(授業内でミニペーパーの提出) 30%

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

(2012年度より担当のため該当なし)

## 【その他】

・2011年度までに旧名称「都市環境論」を修得済の場合、本科目は履修できない。

## 【関連の深いコース】

地域環境

## 都市環境論Ⅱ

石塚 義高

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：木 5

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業のテーマ】

都市環境論Ⅱでは、人々の生活の基盤である都市環境の形成を具体的な課題に基づいて幅広く総合的に考える。

## 【授業の到達目標】

前半は主にサステイナブル都市・地域について、後半は都市・地域防災について、広く考え方を学び、人間と環境の時代の新しいプランナーとして方向感覚を身につけることを目標とする。

[]

## 【授業の概要と方法】

都市環境を中心として、前半は主にサステイナブル都市・地域について、具体的事例、大都市圏の人口動態、コンパクトシティの要件、コンパクトシティの具体的な検討を中心に、後半は都市・地域防災について、都市・地域災害の歴史、都市・地域防災の考え方、木造密集地域の防災の考え方を中心に、基本的な考え方、具体的な課題、具体的な対応策について論ずる。授業は、問題発見、問題提起、様々なソリューションを考えていく上での、思考の訓練に重きを置く。授業内演習として、問題提起に対する自分の考え方をまとめるミニペーパーを作成して提出することとする。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	都市・地域環境の問題提起とガイダンス
第2回	サステイナブル都市とコンパクトシティ	サステイナブル都市のあり方とコンパクトシティのあり方を学ぶ
第3回	サステイナブル都市の具体的事例	サステイナブル都市の具体的事例(青森市と富山市)を学ぶ
第4回	サステイナブル都市の人口動態(日英)	サステイナブル大都市圏の人口動態(首都圏と大ロンドン都市圏)を学ぶ
第5回	コンパクトシティの要件(欧州とアジア)	コンパクトシティの要件(ロンドンとケンブリッジ、東京と上海)を学ぶ
第6回	コンパクトシティの交通移動量からみた比較	コンパクトシティの自動車交通と鉄道交通の量的比較による特質を学ぶ
第7回	コンパクトシティの施設利用量からみた比較	コンパクトシティの施設利用とエネルギー使用の量的比較による特質を学ぶ
第8回	都市・地域災害の歴史	都市・地域の地震災害、火災災害、その他の災害の歴史と課題を学ぶ
第9回	都市・地域防災の考え方	都市・地域の防災の考え方(長期経済性と短期経済性の比較)を学ぶ
第10回	都市・地域の水道施設防災の考え方	都市・地域の水道施設防災の考え方(ネットワークシステムと冗長性の比較)を学ぶ
第11回	都市・地域の木造密集地域の防災の考え方	都市・地域の木造密集地域の防災の考え方(災害危険度による比較)を学ぶ
第12回	都市・地域防災の再開発事例の考え方	都市・地域の木造密集地域の再開発事例の考え方(墨田区・新宿区・荒川区)を学ぶ
第13回	都市・地域LCMの考え方	都市・地域のライフサイクルマネジメント手法による防災の考え方を学ぶ
第14回	ゼロメートル地帯の問題と対策	東京のゼロメートル地帯の危険度と問題と対策を広く学ぶ
第15回	全体のとりまとめと将来のあり方	総集編と補足と都市・地域環境の将来のあり方

## 【授業外に行うべき学習活動(準備学習等)】

初回に全体の流れと学習の仕方を説明する。毎回の最後に次回のテーマを話す。毎回とも予習としてテーマの下調べをしておくこと。

## 【テキスト】

特になし。講義時にプリントを配布する。

## 【参考書】

参考となるものを紹介する。

## 【成績評価基準】

定期試験(持ち込み不可) 70%、平常点(授業内でミニペーパーの提出) 30%

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

(2012年度より担当のため該当なし)

## 【その他】

2011年度までに旧名称「都市環境論」を修得済の場合、本科目は履修できない。

【関連の深いコース】  
地域環境

## 都市デザイン論

田中 大助

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：月1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

### 【授業のテーマ】

都市を形成する建築物の最小単位は住宅である。その住宅の設計を授業のテーマに都市環境や住環境の要素を理解し、都市デザインに対する主観をひとりひとりに自覚してもらうことを目標とする。

### 【授業の到達目標】

自分の考える住宅がイメージできて表現できるようになることを授業の到達目標とする。

【】

### 【授業の概要と方法】

講義を中心に行うが、講義を元に学生がテーマを決めて作品（住宅の設計）を残すものである。

講義中の課題と最後の作品は文字のみによる表現でなく、図版・絵・グラフなど視覚言語を多用する表現が要求されるため、プレゼンテーション能力も養われる。

【】

【】

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション：都市デザインと建築デザイン	都市を構成する建築・土木建造物の紹介と、授業で行う住宅の位置づけを行う
第2回	「棲む」と「住む」の違い	生息する（渠）ことと生活する（家）ことの違いを説明し、人間社会にのみ存在する住宅文化について認識する
第3回	住宅設計における建築家（アーキテクト）と建築技師の違い	建築家と建築技師の違いについて説明し、建築家の役割の中で人文系の内容の多いことを理解してもらう
第4回	建築と空間・動線	住宅の中の人間の行動パターンとその行動に伴う必要最小空間を理解する
第5回	住空間の単位空間（1）（玄関）	玄関の日本の住宅文化に果たす役割を理解してもらう 第2回目の課題を出題する
第6回	住空間の単位空間（2）（居間・食堂・寝室・書斎・子供部屋）	居間などの日常生活空間について説明する
第7回	住空間の単位空間（3）（台所・風呂・便所・階段）	台所など水場について説明する 第3回目の課題を出題する
第8回	住環境の物理要素（熱・光・水・風）	住宅の外部環境の要素が建物や生活とどのように関わっているのか説明する
第9回	住空間の構成要素（基礎・床・壁・屋根など）	住宅を形作る要素と外部環境・内部環境との関係を説明する 第4回目の課題を出題する
第10回	ユニバーサルデザインについて	これからの社会でユニバーサルデザインの必要性などについて説明する 第5回目の課題を出題する
第11回	住宅事例の紹介（1）	プロの建築家による実際に建てられた住宅の紹介
第12回	住宅事例の紹介（2）	前年までの学生の作品を紹介する
第13回	課題質疑応答	各人の決めた課題テーマに対する取り組み方の指導をオープンで行う
第14回	作品提出	作品の発表と講評を学生全員で行う
第15回	総括	習得事項の整理および確認

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

テーマが住宅の設計なので普段の日常生活を観察するだけで、授業の内容が十分に復習できるし、授業終了後も人間の日常生活を観察する癖をつけることによって、それぞれの人々に最適な生活空間はどんなものであるか考えるようになることを希望する。

### 【テキスト】

講義時に資料を配布する。

### 【参考書】

「建築設計基礎編－建築デザインの製図法から簡単な設計まで－」「建築設計応用編－独立住居から集合住宅まで－」武者英二ほか著 彰国社

### 【成績評価基準】

授業中の課題と最後に提出する住宅設計による総合評価。出席点・ペーパーテストなどはない。出席して講義を聴かないと課題に取り組めないで、課題と作品によって全て判断できる。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

配布資料が多すぎるとの指摘が毎年あるので、適宜最小限必要なものに留めて配布する。

### 【その他】

課題の量は多く、課外でかなりの時間を必要とするので、かなり大変であるがやる気があれば充実した授業になる。

### 【関連の深いコース】

地域環境

## 環境社会論 I

西城戸 誠

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：火 4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

### 【授業のテーマ】

環境社会学は、「環境問題の社会学」と「環境共存の社会学」に大別されるが、両者を概観しながら、環境／環境問題を調査研究するための理論と方法論を習得し、「理論」と「実証」の往復という環境社会学の基本的なスタイルを学ぶ。

### 【授業の到達目標】

本講義では、社会学的な視点から人間の行動と「環境」との関係のあり方について学び、環境社会学の基本的なアプローチを習得することを目的とする。

【】

### 【授業の概要と方法】

社会学的なアプローチの特徴を紹介した後、環境社会学の諸アプローチを概観する。戦後日本の環境問題の歴史を振り返りながら、環境問題の構造を把握することによって、「加害－被害構造論」「受益圏・受苦圏」「社会的ジレンマ論」について講義する。続いて、人々の生活と水とのかかわりという点に着目しながら、「生活環境主義」「近い水・遠い水」「河川管理の変遷と生活と水との関わり」「技術と災害、災害文化の形成と伝承」といったトピックスについて講義する。最後に環境社会学の方法論と環境社会学の意義について述べ、「理論と実証の往復」という環境社会学のスタイルを学ぶ。

【】

【】

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	社会学／環境社会学とは何か？ (1)	社会学的なアプローチの概要について講義する。
第 2 回	社会学／環境社会学とは何か？ (2)	環境社会学の 2 つのアプローチに関する概要を講義する。
第 3 回	日本の環境問題の歴史とその構造 (1)	人間社会と環境の関係の変化を把握した後、第二次世界大戦以前までの日本の環境問題の歴史について概説する。
第 4 回	日本の環境問題の歴史とその構造 (2)	戦後日本の環境問題の歴史について、環境問題の加害者、被害者とその運動、行政の対応について概説する。
第 5 回	日本の環境問題の歴史とその構造 (3)	日本の環境問題の歴史を踏まえて、加害－被害論と、被害構造論について講義する。
第 6 回	受益圏と受苦圏 (1)：概念の定義とその適用	受益圏と受苦圏という概念とその適用について講義する。
第 7 回	受益圏と受苦圏 (2)：事例研究	受益圏と受苦圏概念の適用について、具体的な事例を用いて講義する。
第 8 回	環境破壊と社会的ジレンマ (1)～社会的ジレンマ論	社会的ジレンマという概念を用いて、環境破壊のメカニズムについて講義する。
第 9 回	環境破壊と社会的ジレンマ (2)～事例から社会的ジレンマを考える	事例を通じて社会的ジレンマについて講義する。
第 10 回	環境破壊と社会的ジレンマ (3)～社会的ジレンマの類型化と解決策の条件	社会的ジレンマの解決策について、事例を通じて考える。
第 11 回	「水」と生活文化 (1)～生活環境主義とは？	生活環境論、生活環境主義について講義する。
第 12 回	「水」と生活文化 (2)～「遠い水」「近い水」	「近い水・遠い水」、水の総有という点から、人と水のかかわりとその変化について講義する。
第 13 回	「水」と生活文化 (3)～河川管理の変遷	日本の河川行政、河川管理の変遷から人と水のかかわりの変化について講義する。
第 14 回	「水」と生活文化 (4)～技術と災害、災害文化の形成と伝承	水害および水害教育という観点から、災害文化の形成と伝承を考え、今後の人と水のかかわりの方向性を考える。
第 15 回	環境社会学の方法論	理論と実証の往復という作業と、実践の志向性を持つ環境社会学の方法論を整理する。

### 【授業外に行うべき学習活動 (準備学習等)】

それぞれの講義の復習として、テキストや参考文献を各自で入手し、講読する。

### 【テキスト】

鳥越皓之・帯谷博明編著『よくわかる環境社会学』ミネルヴァ書房  
その他、適宜、指示をする。

### 【参考書】

同上。

**【成績評価基準】**

論述式の試験（70%：持ち込み可）+出席点、講義中に行うコメントペーパーなど（30%）

**【学生による授業改善アンケートからの気づき】**

教員の滑舌の悪さは先天的なものであるため、改善しづらいのであるが、改めてお詫びしたい。また、話し方が早口になってしまうことも、講義内容を厳選することで可能な限り対処したい。

**【関連の深いコース】**

地域環境



## 環境社会論Ⅱ

西城戸 誠

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：火 4

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業のテーマ】

本講義では、環境問題の解決に重要な市民運動、NPO・NGO、ボランティア団体の活動を「社会運動」という視点から捉え直し、社会運動から見える現代社会や社会問題（環境問題）について理解する。

## 【授業の到達目標】

環境問題に関わる社会運動の多様なかたちや活動の条件、活動の意味などを理解することを目的とする。環境問題に対して住民、市民がどのように関わることが可能なのかという実践的な課題にアプローチするために、環境問題や地域問題の解決を担う新たな動きを、国家・行政が独占してきた公共性の再編と捉えた上で、地域的な共同性・公共性を構築するための市民参加の制度設計について考える。

[]

## 【授業の概要と方法】

はじめに「社会運動」に注目して「社会」を捉える視点について、社会学と社会運動論の関係を紐解きながら講義する。次に、リスク社会である現代社会における社会運動の意義、可能性について述べる。続いて社会運動が社会問題を立ち上げるといった側面を議論した後、なぜ人々が社会運動に参加するのか（運動の承認論）、どのように社会運動を展開するのか（資源動員論、フレーミング論）という点を解説し、さらに社会運動のさまざまな形とその変化を捉える視点を提示しながら、「社会運動とは何か」という根本的な問いに応える。最後に戦後日本の社会運動のマクロな動態を、政治体との関連が議論した後、反原発運動、脱原発運動を事例として、環境運動の新たな展開と市民参加、地域的公共性に関する議論を展開し、現代社会の構造変動と社会運動の潜勢力について考えたい。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	社会運動から社会が見える	講義のガイダンスとともに、なぜ、今、「社会運動」を議論する必要があるのかという点について講義する。
第2回	社会学と社会運動	社会学の歴史を、社会運動の観点から、その概略を講義する。
第3回	リスク社会と現代の環境問題と環境運動（1）	「リスク（社会）」をキーワードに、現代の環境問題と環境運動を位置づけについて講義する。
第4回	リスク社会と現代の環境問題と環境運動（2）	チェルノブイリ原発事故と反原発運動を事例として、リスク社会における環境運動について講義する。
第5回	環境問題の設定者としての環境運動：社会問題の構築論	社会構築主義に依拠しながら、環境（社会）問題の設定者としての環境（社会）運動の役割について講義する。
第6回	なぜ環境運動に関わるのか－運動参加の承認論（1）	水俣病を巡る社会運動を事例に、運動参加の承認論について講義する。
第7回	なぜ環境運動に関わるのか－運動参加の承認論（2）	水俣病を巡る社会運動を事例に、運動参加の承認論について講義する。
第8回	運動のさまざまな形とその変化（1）	社会運動のさまざまな形態を紹介し、社会（環境）運動の外延を広げることによって、現代社会の運動への理解を深める。
第9回	運動のさまざまな形とその変化（2）	さまざまな形態の社会（環境）運動とその形態の変化について、生活クラブ生協を事例にして論じる。
第10回	どのように環境運動を展開するのか（1）：資源動員論	どのように運動を展開するのかという点について、資源動員論を紹介しながら講義する。
第11回	どのように環境運動を展開するのか（2）：フレーミング	「フレーミング」という観点から、運動への潜在的な参加者を集める方法について議論する。
第12回	環境運動と政治	イベントデータを用いたマクロ分析によって、戦後日本の社会（環境）運動と政治との関連について講義する。
第13回	再生可能エネルギーの促進と環境運動の新たな展開（1）	日本における再生可能エネルギーの導入、普及と環境運動の展開について講義する。
第14回	再生可能エネルギーの促進と環境運動の新たな展開（2）	市民風車運動・事業を事例として、再生可能エネルギーの普及と環境運動の可能性について論じる。

第15回 現代社会の構造変動と社会運動の潜勢力 講義のまとめとして、現代社会における社会運動の潜勢力と可能性について論じる。

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

講義中に参照した文献の講読。

## 【テキスト】

大畑裕嗣・成元哲・道場親信・樋口直人（編著）『社会運動の社会学』有斐閣（2004年）

## 【参考書】

西城戸誠『抗いの条件－社会運動の文化的アプローチ』人文書院（2008年）（できれば教科書として購入することが望ましい）

## 【成績評価基準】

期末試験と、コメントシートもしくは追加レポートで評価する

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

教員の滑舌の悪さは先天的なものであるため、改善しづらいのであるが、改めてお詫びしたい。また、話し方が早口になってしまうことも、講義内容を厳選することで可能な限り対処したい。

## 【関連の深いコース】

地域環境

## 環境社会論Ⅲ

西城戸 誠

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：火 2

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

### 【授業のテーマ】

映像資料を用いて具体的な事例を提示し、環境（自然）と地域の持続性に関する「環境と社会」の社会的な議論（応用編）を展開する。

### 【授業の到達目標】

本講義の目的は、日本国内の事例を中心に取り上げながら、環境（自然）と地域の持続性に関する議論について、合意形成・レジティマシー・生業・半栽培・順応的管理・適正技術・負の遺産と地域再生といったキーワードへの理解を深める。

□

### 【授業の概要と方法】

理論的な論点の提示と事例検討を繰り返し、合意形成・レジティマシー・生業・半栽培・順応的管理・適正技術・負の遺産と地域再生といったキーワードへの理解を深める。なお、映像資料を用いるが、映像資料に対しては要約、コメント等をその都度求める

□

□

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・環境と地域の持続性を考える視点(1)	環境社会論Ⅰ、Ⅱの内容を振り返りながら、環境・地域の持続性を考えるための論点を提示する。
第2回	合意形成とレジティマシー(1)：「海は誰のものか」	人と自然がかかわる際の、自然環境をめぐる価値や意味の共有を巡る課題を、合意形成とレジティマシーという観点から講義する。
第3回	合意形成とレジティマシー(2)：市民参加とレジティマシー	合意形成やそのレジティマシーを巡る、市民参加のあり方について講義する。
第4回	生業・半栽培・資源管理(1)：コンブの森から考える	生業とそれを支える伝統的な生態学的な知識に着目し、昆布漁を事例として資源管理のあり方を考える。
第5回	生業・半栽培・資源管理(2)：半栽培から資源管理へ	生業および半栽培という観点から資源管理のあり方について講義する。
第6回	生業・半栽培・資源管理(3)：生態系サービス	生態系サービスという概念から、人と自然のかかわりについて講義する。
第7回	自然再生と順応的管理(1)：コウノトリと地域再生	兵庫県豊岡市におけるコウノトリをめぐる自然再生
第8回	自然再生と順応的管理(2)：獣害問題と順応的管理	サルの「獣害問題」を事例に、サルの順応的管理および地域再生の方向性について講義する。
第9回	過疎問題と地域社会(1)：過疎と「核」の受容	北海道幌延町の核廃棄物処理施設の誘致問題を事例として、過疎地域における核の受容の背景について講義する。
第10回	過疎問題と地域社会(2)：「核」への抗議と運動文化	核廃棄物処理施設誘致の反対運動の展開を見ながら、過疎地域の地域再生や、地域の持続性に関して議論する。
第11回	再生可能エネルギーと地域社会(1)	再生可能エネルギーの地域社会への普及のための、さまざまな「社会的しかけ」に関して講義する。
第12回	再生可能エネルギーと地域社会(2)	風力発電に対する反対運動も含めて、再生可能エネルギーの地域社会への受容性について講義する。
第13回	負の遺産と地域再生(1)：炭鉱社会の盛衰・夕張を事例として	財政破綻した北海道夕張市の背景と、炭鉱社会の盛衰に関する概要を講義する。
第14回	負の遺産と地域再生(2)：炭鉱遺産によるまちづくりの展開	「負の遺産」をどのように地域再生に結びつけるべきかという点を、炭鉱遺産によるまちづくりの事例から考える。
第15回	環境・地域社会のサステイナビリティと「当事者性」を考える	環境・地域社会のサステイナビリティについてまとめながら、「当事者性」という観点から環境・地域の持続性を考える。

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

各回の講義内容の復習と、環境社会論Ⅰ、Ⅱの内容の関連づけを随時、行ってほしい。また、映像教材に対するコメントを求める。

### 【テキスト】

特定のテキストは用いない。

### 【参考書】

関礼子・中澤秀雄・丸山康司・田中求『環境の社会学』有斐閣（2009年）  
西城戸誠『抗いの条件－社会運動の文化的アプローチ』人文書院（2008年）  
宮内泰介編『半栽培の環境社会学』昭和堂（2009年）

### 【成績評価基準】

講義中に映像資料等に対するリアクションペーパー（小レポート）の提出を求める。また、学期末に筆記試験（受講者数によってはレポート）を課す。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

教員の滑舌の悪さは先天的なものであるため、改善しづらいのであるが、改めてお詫びしたい。また、話し方が早口になってしまうことも、講義内容を厳選することで可能な限り対処したい。

### 【その他】

本講義は、環境社会論Ⅰ、Ⅱの履修後の受講を想定している。履修制限は行わないが、環境社会論Ⅰ、Ⅱの応用編としての位置づけであることを前提に履修されたい。なお、前年度までに「人間環境特論－環境と地域の持続性を考える」を修得した者は、履修できない。再履修者は「人間環境特論－環境と地域の持続性を考える」で登録すること。

### 【関連の深いコース】

地域環境

## 労働環境論 I

長峰 登記夫

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：火 2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

### 【授業のテーマ】

「労働環境を考える」

### 【授業の到達目標】

仕事や雇用に関連した基礎的知識の習得をめざす。労働環境を考える前提としての基本的な雇用問題、すなわち就職から入社後の教育訓練、昇進、昇給、退職、転職、労働組合など、仕事や雇用に関する基本的な概念や現象を理解できるようにすることをめざす。

II

### 【授業の概要と方法】

就職、教育訓練、昇進、失業、退職といった、ライフステージに沿った雇用に関する様々なトピックを取りあげる。雇用の一般理論や労働組合、雇用とジェンダー、非正規雇用等の個別具体的なトピックも取り上げる。また、新聞記事などを利用して、その時々話題になっているアプットアップデートな諸問題をも随時紹介しつつ、現実への理解を深める。

II

II

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	雇用・処遇システム	日本の雇用システムの特徴と諸外国との違いについて基本的な知識を得る。
第2回	学校から職場へ	大学生の就職に焦点を当て、それがどう変化してきたのかを見ながら、現在の問題を考える。
第3回	能力開発とキャリア	日本企業の教育訓練の特徴は何か、諸外国とどう違い、どう変わってきたのかについて学ぶ。
第4回	ライフスタイルと就業意識	労働者のライフスタイルや就業意識が、戦後初期から高度経済成長期、バブル期を経てどう変わってきたのか学ぶ。
第5回	生活時間配分	私たちの生活のなかで、仕事とプライベートな生活がどう構成され、変化してきたのかについてみていく。
第6回	技術革新と仕事・職場の変化	技術は仕事の遂行方法に大きく影響する。それが時代とともにどう変化してきたのかをみる。
第7回	賃金システム	労働条件の基本をなし、かつきわめて複雑な日本の賃金システムについてその基本を学習する（『産業と労使』第8章）。
第8回	企業と労働組合	労働条件設定について特別な地位を認められている労働組合の機能や役割について学ぶ。
第9回	失業と転職	市場経済で失業は避けられない現象である。失業と転職、国の失業対策等について学ぶ。
第10回	仕事からの引退過程	私たちは一定の年齢に達すると仕事から引退する。その過程について学び、その後の人生設計について考える。
第11回	性別職域分離	多くの場合、男女間で担当する仕事は異なる。その現状と近年の変化について学ぶ。
第12回	非典型雇用	派遣やパート等非正規雇用の増加の現状や問題点について考える。
第13回	高齢化社会と雇用	少子高齢化の進行とともに高齢者の働き方が注目されている。その現状と今後について考える（『産業と労使』第13章）。
第14回	日本的雇用慣行	日本的雇用慣行の特徴は何かについて、メリット、デメリットを含め総合的に評価する（『産業と労使』第11章）。
第15回	試験	試験によって本講義の理解を確認する。

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

より効率的に講義が受講できるよう、事前にテキストの関連する章を読み、理解できなかった箇所を再度読み返し、疑問点を確認する。

### 【テキスト】

佐藤博樹・佐藤厚編著『仕事の社会学 変貌する働き方』有斐閣ブックス、2004年。

### 【参考書】

神代和欣著『産業と労使』放送大学教育振興会、2003年（第7回、第13回、第14回については主教材として使う）。

### 【成績評価基準】

論述式の試験により、特定のテーマについて基本的な理解ができているか、説明できているか等を評価の基準にする。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

できる限り、初学者にもわかりやすいことばで説明することを心がける。

### 【その他】

ここで扱うテーマは、卒業して就職する限りだれもが必ず経験するようなものばかりです。そのことを念頭に学んでほしい。

### 【関連の深いコース】

環境経営

## 労働環境論Ⅱ

長峰 登記夫

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時間：火 2

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

### 【授業のテーマ】

労働環境への理解を深める。

### 【授業の到達目標】

労働環境論Ⅰで学んだことを前提に、仕事や雇用に関するより深い知識の習得をめざす。より具体的かつ時事的なテーマについて考え、仕事や雇用に関する理解を深め、コンプライアンスに基づいた円滑な仕事遂行に役立つ知識の習得をめざす。

[]

### 【授業の概要と方法】

就職、昇進、退職といった、ライフステージに沿った雇用に関する種々のテーマについて、時事的なできごとにも触れながら学ぶ。1テーマ1～3回で授業を進める。

[]

[]

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	労働環境論とは何か	労働環境論とは何かについて広く考える。
第2回	大学生の就職	過去に大学生の就職のあり方がどう変化し、いま何が問題になっているのか考える。
第3回	日本的雇用慣行 1	種々の統計、図表を見ながら、日本的雇用慣行の特徴を概観する。
第4回	日本的雇用慣行 2	前週に続いて、日本的雇用慣行をどう理解すればよいのか、近年の変化もふまえて学習する。
第5回	労働環境と安全衛生 1	職場における安全衛生の問題について、歴史的な変遷もふまえて見ていく。
第6回	労働環境と安全衛生 2	前週の学習に基づいて、近年大きな問題となっている働く人々のメンタルヘルスを中心に考える。
第7回	労働環境と労働時間 1 (労働時間の見方、考え方)	全体的な労働時間の短縮の背後で進んでいる労働時間の二極化を中心に、労働時間について考える。
第8回	労働環境と労働時間 2 (裁量労働制と変形労働時間制)	労働の規制緩和の一環として進められてきた裁量労働制と変形労働時間制を中心に学ぶ。
第9回	労働環境と労働時間 3 (長時間労働をめぐる諸問題)	メンタルヘルスや過労死等、労働時間をもたらす影響について考える。
第10回	労働環境とジェンダー 1	日本は雇用に関する女性の地位の低さについて国際機関から指摘されている。その現状について学ぶ。
第11回	労働環境とジェンダー 2	前週の学習に基づいて、女性管理職を取り上げ、問題点と課題について学習する。
第12回	労働環境と差別(年齢差別禁止を中心に)	年齢差別を一例として、雇用における差別問題について考える。
第13回	企業の社会的責任(CSR)	企業の社会的責任(CSR)とは何か、とくに労働の領域におけるCSRについて考える。
第14回	震災と雇用	阪神淡路大震災、東日本大震災で、一瞬のうちに多くの雇用が失われることになった。こういったことが起こり、当事者や行政等はそれにどう対処したのかについてみていく。
第15回	試験	14回の学習の到達度をみるために試験を行う。

### 【授業外に行うべき学習活動(準備学習等)】

毎回、テキストを指示する。授業はテキストを読んでいることを前提に進めるので、事前に学習と事後の復習を必須とする。

### 【テキスト】

学期はじめに関係するテキストを指示するが、いろいろな資料を使うので、特定の本をテキストとして使うことはしない。

### 【参考書】

佐藤博樹・佐藤厚編著『仕事の社会学 変貌する働き方』有斐閣ブックス、2004年、および神代和欣著『産業と労使』放送大学教育振興会、2003年。

### 【成績評価基準】

論述式の試験により、それぞれのテーマについてどの程度理解し、説明できているか、文章表現は適切か等を基準に評価する。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

職場でのできごとをイメージできるように、わかりやすい説明を心がける。

### 【その他】

労働環境論Ⅰで学んだ内容をもう少し掘り下げて勉強します。長時間労働や過労死、メンタルヘルス、女性差別など、ふだん新聞等でも取り上げられている問題を扱います。

### 【関連の深いコース】

環境経営



## 労働環境論Ⅲ

長峰 登記夫

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：火 5

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

### 【参考書】

田端博邦『グローバルゼーションと労働世界の変容（労使関係の国際比較）』旬報社、2007年。

### 【成績評価基準】

評価は論文式設問を基本にした論述試験によって行う。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

新規科目のためとくになし。

### 【関連の深いコース】

環境経営

### 【授業のテーマ】

日本と西欧諸国との比較労働環境。日本の雇用・労使関係制度、それに基づいた労働環境への知識を基本に、比較論で一つのモデルとされている代表的な諸外国の雇用・労使関係制度および労働環境との比較を行う。

### 【授業の到達目標】

日本の労働環境は、長時間労働やメンタルヘルスなどで問題が多い。海外諸国との比較によって、それらの問題を考えるための基礎知識を養う。海外諸国の制度や慣行を勉強し、日本はそれから何を学ぶことができるのか考えられるようになることをめざす。

II

### 【授業の概要と方法】

まず、最初に、なぜ国際比較をするのかについて基本的なことを学ぶ。つづいて労働環境論 I、II で学んだことをベースに、日本の雇用や労使関係をめぐる制度や慣行の基本を復習し、海外諸国との比較の基軸を確認する。それに基づいて、以下のような海外諸国の制度や慣行との比較を試みる。そうするなかで、同じ雇用や労使関係に関連したことで国によって制度や慣行が異なり、労働環境も異なることを学ぶ。そのような学習から雇用や労働環境に関係する日本の慣行や制度を考え、改善していくヒントを得、新しい見方を養う。

II

II

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	国際比較入門	なぜ、海外諸国と比較するのか、それにはどんなメリットがあるのかについて学ぶ。
第 2 回	比較労働環境のモデル論	ここでは欧米諸国との比較を中心に行う。なぜ、英米、大陸ヨーロッパとの比較をするのかについて確認する。
第 3 回	日本の労働環境 1	終身雇用や年功賃金、企業別組合に代表される、伝統的な日本の雇用システムとされてきた制度や慣行について、3回にわけて学ぶ。
第 4 回	日本の労働環境 2	第 3 回の続き。
第 5 回	日本の労働環境 3	近年の変化について学ぶ。
第 6 回	英米モデル 1	イギリスの労働環境。いち早く産業革命を達成し、雇用問題を最も早くから経験してきたイギリスの事情について学ぶ。
第 7 回	英米モデル 2	アメリカの労働環境。いま世界に対して最も影響力があるアメリカの雇用・労使関係、労働環境について学ぶ。
第 8 回	もう一つの英米モデル 1	オーストラリアの労働環境 1。オーストラリアは英語圏のなかでもユニークな雇用システムの発展を遂げてきた。それについて 2 回にわけて学ぶ。
第 9 回	もう一つの英米モデル 2	オーストラリアの労働環境 2。第 8 回の続き。
第 10 回	大陸ヨーロッパモデル 1	ドイツの労働環境。他の地域、諸国に比較して、ヨーロッパ大陸の中心的な国々は相対的に優れた労働環境を実現してきた。4カ国について学ぶ。
第 11 回	大陸ヨーロッパモデル 2	フランスの労働環境。
第 12 回	大陸ヨーロッパモデル 3	スウェーデンの労働環境。現代資本主義国家のなかでモデルとされ、理想とされるのはなぜか、それを労働環境の視点から見ていく。
第 13 回	大陸ヨーロッパモデル 4	オランダの労働環境。1980 年代以降オランダの制度はオランダモデルとして世界中から注目された。それはなぜかについて学ぶ。
第 14 回	まとめ	以上の各国比較のなかからなにを学ぶことができるのか振り返る。
第 15 回	試験	試験によって理解度を試す。

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

より効率的に講義が受講できるよう、事前にテキストの関連する章を読み、理解できなかった箇所を再度読み返し、疑問点を確認しておくこと。

### 【テキスト】

指定のテキストはなく、授業で随時使用テキストを指示する。

## NGO活動論

中村 玲子

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講semester：後期授業 | 曜日・時限：水4

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

### 【成績評価基準】

出席率とレポート提出を合わせて評価する。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

事前に参考資料等をできるだけ配布する。

### 【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント、DVD など。

### 【関連の深いコース】

国際環境

### 【授業のテーマ】

NGO (Non-governmental organization) は、GO(Government) の対極にあり、安定性、公平性、持続性などに基礎をおく GO の手の届きにくい社会のすきま（ニッチ）を、先取的に発見・発信し、必要な対策を実現していくために重要な役割を担っている。

NGO 活動の核は「参加」である。活動の現場は世界中にあり、その内容や手法もさまざまだ。NGO 活動に主体的に参加する人が増えれば、社会を変えてゆくことができる。

しかし、日本ではこのところ、NGO 活動はあまり活発でない。社会の流れやルールを変えていくほどの元気な NGO が少なくなってしまった。それはなぜか。どうすれば NGO 活動を活性化できるだろうか。

講師自らが環境 NGO を創設・運営し、アジアの湿地を舞台にシンポジウムの開催や子ども環境教育を実践してきた経験をもとにした、実践的 NGO 論。

### 【授業の到達目標】

受講者が、NGO 活動の役割、意義、その効果や楽しさを理解し、参加する NGO 活動をみつけたし、あるいは自分で新しい NGO 活動を創造することを目標としている。

[]

### 【授業の概要と方法】

講義のほか、NGO の現場から外部講師を招いての事例研究とディスカッションを活用する。

[]

[]

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業のねらい、内容、進め方。 NGO とは。NGO と NPO。なぜ NGO 活動が必要か。
第 2 回	国際 NGO とローカル NGO	種類、使命、活動分野、役割分担と連携。
第 3 回	活動事例研究（国際 NGO）	国際的に活躍する主要な環境 NGO の活動について。
第 4 回	活動事例研究（国際 NGO）	開発 NGO と環境 NGO。 国際的に活躍する主要な開発 NGO の活動について。
第 5 回	活動事例研究（日本の NGO）	日本に基盤をおきながら、国際的に活動する NGO について。ラムサールセンターの活動を中心に。
第 6 回	活動事例研究（日本の NGO）	日本に基盤をおきながら、国際的に活動する NGO について紹介。
第 7 回	活動事例研究（途上国の NGO）	インド、バングラデシュ、ネパールなどの現状と NGO 活動の事例。
第 8 回	活動事例研究（途上国の NGO）	中国、韓国、タイ、マレーシアなどの現状と NGO 活動の事例。
第 9 回	国際条約と NGO	ラムサール条約 COP11(ルーマニア) CBD_COP10 (インド) における NGO での活動について。
第 10 回	NGO と企業	これからの企業との協力のかたち。パートナーシップ、CSR など。
第 11 回	NGO のマネジメント	ボランティア、会員、理事会、サポーター、スポンサーなどのマネジメントについて。
第 12 回	NGO の活動資金	多様な助成金の存在。地球環境基金、経団連自然保護基金、GEF、企業の基金などの紹介と活用。
第 13 回	NGO 活動と ODA	開発途上国支援における NGO と政府の協働について。JICA、KOICA、SIDA など事例に。
第 14 回	NGO のつくりかた	自分で NGO を創るにはどうするか。
第 15 回	補足とまとめ。	これまでの授業の補足、まとめ。レポート提出期限。

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

事前に参考資料を配布し、十行までに読んできてもらうことがある。

### 【テキスト】

授業内で適宜、紹介。場合によっては配布する。

### 【参考書】

授業内で適宜、紹介。

## 地域環境ケーススタディ I

川端 直志

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：月 5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

### 【授業のテーマ】

テーマは「都市の余剰価値を活かすまちづくり」です。都市の中ではものづくりやサービス業などの経済活動、買い物や子育てなどの市民生活、ボランティア活動や宗教活動、余暇などの社会・文化活動があり、それらが具体的に都市を舞台にして繰り広げられています。「まちづくり」とはそうした諸活動と舞台である都市の物的な整備の両者をつなげ、人々の生き方や価値観の変化への対応を事前に察知し、計画化していくことです。これまでこうした様々な機能を最大化するためにインフラ（社会基盤）、財政（カネ）、人材、空間を整備することが「まちづくり」と考えられてきました。拡大する都市空間をいかに効率的に整備するかでした。しかし、その過程で「都市の魅力」や「目に見えない豊かさ」を破壊し、埋もれさせてしまい、「つまらない都市」「情緒のない都市」になってしまった事例が多くあります。「都市の余剰価値のまちづくり」とは都市や市民が歴史的、社会的に時間をかけて育ててきた、都市の魅力、豊かさの価値を再び顕在化するまちづくりです。似た概念としては、近年、創造都市（アートと都市）政策やクリエイティブ・クラス論などが国内外で喧伝されていますが、欧米都市からの輸入概念の域をでていません。「都市の余剰価値」は地に足の付いた都市の現場からの発見と分析を基にして都市（地域）の再構成を図るための政策立案作業であり、過去 6 年間、「川端ゼミ」で追求してきたこのテーマで多くの成果を生み出してきました。切り口は様々です。これまで実施してきた「土地区画整理できれいに整備された」郊外都市の中に潜む原風景を探し、新しいライフスタイルとの結合を目指す「田園都市線沿線調査」。千年以上の歴史をもつ銭湯が現代的に復活する途を考える「銭湯調査」。都市の中の神社や寺院の役割を考える「社寺調査」。多民族、多文化が混在する街の余剰価値と課題を探る「多文化社会調査」。「都市内農業」や「都市とスポーツ」もあります。切り口は様々ですが共通するのは生きている都市の中でデータに基づいた魅力要素や課題を抽出し、まちづくりに活かす方策を明らかにすることが本授業のテーマです。

### 【授業の到達目標】

授業を受ける学生一人一人が都市の面白さを実感し、その上で都市を分析し計画するための基本的なスキル。「・・・と思う」や「・・・感じる」といった曖昧な感覚に終わらず、データに基づく仮説立証（感覚から確信）のプロセスを身につけること。

【】

### 【授業の概要と方法】

授業は教室内の授業とフィールドスタディを併せたものとなる。教室授業は「都市の余剰価値」に関する基本的な授業をする。また授業期間を通じて全員で実施する共同研究は研究テーマを定め、フィールド調査を実施する。これとは別に数人単位でそれぞれテーマを設定するグループ研究を実施する。また授業内で、まちづくりや都市の余剰価値に関わる専門家ヒアリングを実施する。

【】

【】

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	プレゼンテーション	授業のテーマ説明、共同研究のテーマ説明と進め方説明およびその準備
第 2 回	フィールドスタディ調査	共同研究のフィールドスタディ調査実施
第 3 回	同上	同上
第 4 回	グループ研究のテーマ	グループ研究のテーマの発表と討議
第 5 回	フィールドスタディ調査のまとめ	第 2、3 回授業での調査結果のまとめと分析。ワークショップ形式。
第 6 回	専門家ヒアリング	都市の余剰価値に関連する専門家（行政、民間）へのヒアリング（教室内か現地）
第 7 回	都市の余剰価値論	都市の余剰価値に関する授業
第 8 回	同上	同上
第 9 回	同上	同上
第 10 回	専門家ヒアリング	都市の余剰価値に関連する専門家（行政、民間）へのヒアリング（教室内か現地）
第 11 回	都市の余剰価値論	都市の余剰価値に関する授業
第 12 回	共同研究のまとめ	ワークショップ
第 13 回	都市の余剰価値論	都市の余剰価値に関する授業
第 14 回	共同研究発表	共同研究の各人のレポート発表
第 15 回	グループ研究発表	グループ研究の成果発表

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

共同研究のためのフィールド調査とまとめ作業は授業時間内でも実施するが、授業外でも各人で実施する。グループ研究も授業内だけでなくグループ毎に時間を調整して授業外でも実施する。また関連する参考図書等の基本文献購読は各人が行う。

### 【テキスト】

特にテキストは使わない。

### 【参考書】

参考図書、論文等は適宜、授業開始前（参加者決定時）と授業中に紹介する。

### 【成績評価基準】

評価基準は①レポート（共同研究、グループ研究）の評価②フィールド調査、取りまとめ作業への貢献③その他、特記すべき成果や授業への貢献、の 3 点。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

最初の年度であるため何ものなし。

### 【その他】

参加希望者が多い時には事前に面接等で参加者を決める場合がある。その場合は掲示板に掲示する。

### 【関連の深いコース】

地域環境

## 地域環境ケーススタディⅡ

川端 直志

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：月5

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

### 【授業のテーマ】

地域環境ケーススタディⅠと同じ。

### 【授業の到達目標】

地域環境ケーススタディⅠと同じ。分析スキルやプレゼンテーション能力のさらなる向上も目標とする。

【】

### 【授業の概要と方法】

地域環境ケーススタディⅠと同じであるが、新しい共同研究テーマで進める。グループ研究はそのまま継続する。

【】

【】

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	共同研究のテーマ	Ⅱの共同研究のテーマの説明
第2回	フィールド調査の準備 (ワークショップ)	共同研究フィールドスタディの準備 (資料の解説と討議)
第3回	フィールド調査	フィールド調査の実施
第4回	同上	同上
第5回	フィールド調査結果の分析 (ワークショップ)	収集したデータの整理とそれをもとにした分析をワークショップ形式で行う
第6回	都市の余剰価値論	都市の余剰価値に関する授業
第7回	同上	同上
第8回	都市の余剰価値専門家ヒアリング	現場で活動している専門家にヒアリング
第9回	都市の余剰価値論	都市の余剰価値に関する授業
第10回	同上	同上
第11回	フィールドスタディ調査	都市の余剰価値に関連するフィールドスタディ
第12回	都市の余剰価値論	第11回のフィールドスタディの成果発表とワークショップ
第13回	共同研究発表	共同研究成果の発表と討議
第14回	都市の余剰価値論	都市の余剰価値に関する授業
第15回	グループ研究発表	グループ研究のグループ別発表と討議

### 【授業外に行うべき学習活動(準備学習等)】

地域環境ケーススタディⅠと同じ。

### 【テキスト】

特になし。

### 【参考書】

授業内で紹介する。

### 【成績評価基準】

地域環境ケーススタディⅠと同じ。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

最初の年度であるため何ものなし。

### 【その他】

受講者資格は地域環境ケーススタディⅠの受講を条件とする。また、地域環境ケーススタディⅠで著しく参加意欲や成果が劣ると判断される場合には受講できない場合がある。

### 【関連の深いコース】

地域環境

## 災害政策論

鍵屋 一

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：木6

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

### 【授業のテーマ】

自治体を中心とした災害政策の現状と今後の方向性

### 【授業の到達目標】

- ①日本の国・自治体の災害政策の現状と課題を理解する。
- ②現状の政策と被害軽減の具体例を考える。
- ③今後の国・自治体の災害政策のあるべき姿を考える。
- ④大学生自身の危機対応力を高める。

【】

### 【授業の概要と方法】

東日本大震災の発生に伴い、災害政策の充実が叫ばれている。現代は大規模災害の時代であり、災害対策は、市民、行政、団体、企業にとって避けて通れないテーマとなっている。

授業では、自然災害を中心に防災対策の現状と課題、現実的な解決政策を講義する。その際、わが国の防災文化、法制度、行政構造、市民意識を念頭において政策的アプローチを重視した講義を行う。

災害イメージを涵養し、現場感覚をつかむため、国・自治体職員、NPO・ボランティアなどのゲストスピーカーから実践的な講義も受ける予定である。

【】

【】

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	講師の自己紹介、防災危機管理の講義の狙い、概要の説明。
第2回	災害政策の全体像	PPT および中央防災会議資料を使用して国、自治体の災害政策の全体像を説明する。
第3回	大災害時の市民、行政の行動(1)	阪神淡路大震災時のもっとも厳しい行政対応の生々しい記録を読む。その後、グループワークでKJ法を使用しながら大災害の市民、行政の行動の実態を理解し、課題を抽出する。
第4回	大災害時の市民、行政の行動(2)	阪神淡路大震災時の地域対応の生々しい記録を読む。その後、グループワークでKJ法を使用しながら大災害の市民、行政の行動の実態を理解し、課題を抽出する。
第5回	防災教育	東日本大震災では、防災教育に取り組んだ岩手県沿岸地域の子どもの生存率が極めて高かった。防災教育の内容と効果を考える。
第6回	防災ボランティア	被災地においてボランティアの存在感が高まっている。ボランティアがどのように進化したかを講義する。
第7回	建物耐震化政策(1)	地震防災の最重要課題である建物耐震化の政策の変遷について解説する。
第8回	建物耐震化政策(2)	建物耐震化を現場で進める専門家や地域の取り組みを紹介しながら、今後の推進方策を検討する。
第9回	災害時要援護者支援(1)	高齢者や障害者は、災害時には特別な支援が必要である。自治体の支援対策を講義する。
第10回	災害時要援護者支援(2)	要援護者は、事前にどのような準備が必要かを説明し、それが日常生活の延長上にあり、また地域コミュニティの絆を高めた事例を講義する。
第11回	新たな地域防災計画のあり方	東日本大震災を受けて地域防災計画の見直しが進んでいる。その具体例を講義する。
第12回	防災条例と政策評価	防災条例の制定過程とその効果について議論する。防災の政策評価のあり方と活用について講義する。
第13回	企業の事業継続計画(BCP)	企業は災害時に災害対応するだけでなく、自らの事業を継続していかなければならない。その計画がBCPであり、その内容と効果について講義する。
第14回	福祉事業者、行政の事業継続計画(BCP)	福祉事業者や行政における災害対応及び通常業務の継続について講義する。



第 15 回 地域継続計画への展望 地方部は高齢化が進み、地域全体の持続可能性が危ぶまれている。地域全体が持続可能な計画を作成する可能性について講義する。

【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

災害政策は生きているものであり、最新の状況を把握することが重要である。内閣府「防災情報のページ」を事前に見ておいていただきたい。また、ボランティアなどの活動体験があれば望ましい。

【テキスト】

教科書は使用しない。授業では、PPT や論文を使用するが、その資料を毎回配付する。

【参考書】

内閣府防災情報のページ、自治体のホームページ  
鍵屋一著「図解 よくわかる自治体の防災危機管理のしくみ」学陽書房

【成績評価基準】

出席点 40 %（12 回以上の出席をしたものを高く評価する）  
質疑への参加 40 %（講義中の質疑、意見表明などを積極的に行ったものを高く評価する）  
レポート（1000 字以上） 20 %

【学生による授業改善アンケートからの気づき】

初年度なので特にない。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン、プロジェクタ、コピー

【関連の深いコース】

地域環境

## 科学技術社会論

野澤 聡

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：水 3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業のテーマ】

私たちは科学・技術に囲まれて生きています。科学・技術は宇宙や生命の謎を解き明かしたり、新しい治療薬や画期的な通信手段を作り出したりして私たちの人生や生活を豊かにしてくれます。その一方で、科学・技術が戦争や環境破壊に使われると、私たちの健康や生存に大きな災厄をもたらす可能性があります。東日本大震災と福島原子力発電所事故は、私たちが科学・技術と社会との関係を真剣に考えなければならないことを示しています。この講義では、具体的な事例を通じて科学・技術と社会との関わりを学ぶことによって、科学・技術を社会の中で生かす方法を考えていきます。

【授業の到達目標】

- ・科学・技術と社会との関わりを示す代表的な事例の内容とその意義を理解すること
- ・科学技術社会論の基本的な概念とその背景にある理論を理解すること

【】

【授業の概要と方法】

科学・技術が社会の中でどのように働いているかを理解するために、図表入りのパワーポイントを用いて説明するとともに、DVD で具体的な事例を鑑賞していただきます。また、毎回、出席カードに感想・意見・質問を書いてもらい、次の時間の冒頭でいくつか紹介することにしていただいています。

【】

【】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	科学とは？ 技術とは？ 社会とは？	授業のガイダンスをおこなうとともに、小惑星探査機「はやぶさ」を例に、科学と技術と社会との関わりを考える。
第 2 回	科学、技術、科学技術	産業革命やイノベーションを例に「科学」「技術」と「科学技術」について考える。
第 3 回	公害問題	水俣病などを例に、企業の社会的責任を考える。
第 4 回	地球環境問題	地球温暖化について、エネルギー、持続可能性、不確実性の観点から考察する。
第 5 回	戦争と科学・技術	科学・技術が兵器開発とどう関わってきたかを考える。
第 6 回	事故と科学・技術	スペースシャトル・チャレンジャー号の事故などを例に、技術者倫理や科学・技術の失敗について考える。
第 7 回	科学・技術と安全	化学物質などを例に、科学・技術と安全の問題を考える。
第 8 回	科学・技術とリスク	遺伝子組み換え食品（GMO）などを例に、リスク・アセスメント、リスク・マネジメント、リスク・コミュニケーションについて考える。
第 9 回	科学技術基本計画とは？	日本や各国の科学技術政策について考える。
第 10 回	科学・技術と知的財産権	青色 LED 特許裁判や Winny 事件などを例に、科学・技術の商業化について考える。
第 11 回	巨大科学技術と社会	原子力発電などを例に、巨大科学技術が社会に及ぼす影響について考える。
第 12 回	研究者と社会	論文捏造など研究者の不正事件を例に、研究者と社会との関わりを考える。
第 13 回	先端の科学・技術と社会	理科離れについても併せて考察する。再生医療などを例に、最先端の科学・技術が社会に及ぼす影響を考える。
第 14 回	専門家と市民との関係	これまで取り上げた事例を振り返りながら、科学・技術の専門家と非専門家とのコミュニケーションのあり方について考える。
第 15 回	期末試験	授業での理解を確認するため、期末試験を実施する。

【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

- ・中間レポート（文章の要約）を提出してもらう（1 回）。
- ・授業では、その時々事故や話題を取り上げるので、ニュースやインターネット、図書館等で積極的に情報収集をしてほしい。

【テキスト】

- ・教科書は使用しない。
- ・毎回資料を配布する。

・必要に応じて参考になる文献や Web 資料などを紹介する。

#### 【参考書】

・平川秀幸『科学は誰のものなのか 社会の側から問い直す』, NHK 出版生  
活人新書, 2010 年  
・小林信一・小林傳司・藤垣裕子編著『社会技術概論』, 放送大学教育振興会,  
2007 年  
・藤垣裕子編『科学技術社会論の技法』, 東京大学出版会, 2005 年

#### 【成績評価基準】

・出席点 30%、中間レポート 30%、期末試験 40%  
・代表的な事例とその意義、およびその背景にある概念や学説の理解度により  
評価する。

#### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

(前年度は開講していません)

#### 【学生が準備すべき機器他】

・授業で使用するパワーポイントは、毎回の授業終了後に授業支援システムに  
アップロードする。  
・中間レポートは Web 提出も可。  
・中間レポートの評価とコメントを授業支援システムで行う。

#### 【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目である。

## 社会開発論

吉田 秀美

カテゴリ：政策 | 配当年次/単位：2~4 年 / 2 単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：水 4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

#### 【授業のテーマ】

途上国の環境問題を考える上で、貧困問題は避けて通れない。本講義では、日本や先進国とは異なる途上国の環境問題の背景を理解するための切り口として、国際開発のキーワードとなっている社会開発・貧困削減を概説する。

#### 【授業の到達目標】

発展途上国の社会開発や貧困削減への取り組みについて、基本的な考え方を学び、古典的なアプローチや新しいアプローチの知識を得る。関連する資料や指標の読み方に慣れると同時に、自分なりの視点で批判的かつ建設的に見る目を培う。

【】

#### 【授業の概要と方法】

最初の数回で途上国の貧困問題について解説する。その後、各回で生計向上や保健などのテーマを取り上げ、各分野の課題や具体的な取り組み事例を紹介する。講義中心。必要に応じて、プリントや視聴覚教材を用いる。学期中にレポートの提出を義務付ける。

【】

【】

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	社会開発論が対象にする範囲や課題について紹介する
第 2 回	途上国の人々の暮らし	生計アプローチ
第 3 回	貧困問題 (1)	国際開発で使われている貧困の定義や指標、貧困削減に向けた取り組み
第 4 回	貧困問題 (2)	同上
第 5 回	豊かな国と貧しい国	日本が発展した歴史的背景
第 6 回	分野別課題：生計向上 (1)	インクルーシブ・ビジネスの事例 (ココテック社)
第 7 回	分野別課題：生計向上 (2)	マイクロファイナンスの事例 (グラミン銀行、近年の進展)
第 8 回	分野別課題：生計向上 (3)	日本企業の事例 (ゲストスピーカー)
第 9 回	分野別課題：教育	課題と取り組み：NGO や援助機関の事例
第 10 回	分野別課題：保健衛生 (1) 子どもの健康	課題と取り組み：NGO や国際機関の事例 (BRAC、UNICEF)
第 11 回	分野別課題：保健衛生 (2) 女性の健康	複合的な要因 (文化・歴史) と解決への取り組み
第 12 回	分野別課題：保健衛生 (3) マラリア、エイズ	課題と取り組み：各アクターの事例 (住友化学、サノフィアヴェンティス、WHO、MSF)
第 13 回	分野別課題：水と衛生	課題と取り組み：各アクターの事例 (ecotact 他)
第 14 回	各アクターの役割	援助機関と被援助国、NGO、企業の事例
第 15 回	まとめ	途上国の環境問題と貧困問題の接点

#### 【授業外に行うべき学習活動 (準備学習等)】

授業に関連する文献を幅広く紹介するので、是非読んでみてください。

#### 【テキスト】

テキスト国際開発論——貧困をなくすミレニアム開発目標へのアプローチ』(ミネルヴァ書房, 2012 年 2 月刊行予定)

#### 【参考書】

国連開発計画編、吉田秀美訳『世界とつながるビジネス』  
このほか、授業中に適宜紹介。

#### 【成績評価基準】

定期試験：40%  
レポート：40%  
出席：20%

#### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

参考文献を読むと受講者の理解が深まります。本年度も学期中の課題として、文献を読んでレポートを提出してもらいます。

#### 【学生が準備すべき機器他】

内容に応じて、ビデオ・写真等を活用する。

#### 【関連の深いコース】

国際環境

## グローバルコミュニティ

荒川 裕子

カテゴリ：政策 | 配当年次/単位：2~4年/2単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：木3

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

### 【授業のテーマ】

社会のグローバル化が一段と進むなか、世界のさまざまな情報をキャッチしたり多様な人々とのコミュニケーションを図るうえで、英語の使用はもはや不可欠のものとなっています。この授業では、アイデンティティ、文化、コミュニティ、まちづくり等、ライフキャリアに関わるトピックスをもとに、英語で情報を検索する・文献を読む・自己を表現する、といったスキルを身につけます。

### 【授業の到達目標】

インターネットの広がりによって、わたしたちは無限大の情報にアクセスすることが可能になりましたが、そのなかで日本語で表記されているものはごく一部にすぎません。世界でどのようなことが起こっているのか、人々はどういうようなことを考えているのか、自分が知りたいことをどこで、どのように探せばよいのかなど、英語というツールを用いて皆さんの視野を広げ、キャリア形成に役立てることを目指します。

[]

### 【授業の概要と方法】

外国語の習得には自己の強い関心と積極的な参加が必要です。この授業では、受講生自身の問題意識に即して英文の文献を探し、それを読み込む、自分の考えを英語で表現する、他の学生たちとディスカッションする、といったプロセスを通して、外国語を身近なものにしていきます。受講生は、特に優れた語学力は必要としませんが、授業への積極的な参加と予復習のたゆまぬ積み重ねが求められます。なお、授業ではときおりパソコンを使用する予定です。

[]

[]

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方、必要な辞書等について説明する。
第2回	英語による自己紹介	自身が関心のある領域やテーマを英語で説明する。
第3回	情報検索①	英文のHPやデータベースの活用方法を身につける
第4回	情報検索②	英文のHPやデータベースの活用方法を身につける
第5回	情報検索③	英文のHPやデータベースの活用方法を身につける
第6回	情報検索④	英文のHPやデータベースの活用方法を身につける
第7回	テーマの設定①	自分が抱えている問題意識を英文で表現・説明する
第8回	テーマの設定②	自分が抱えている問題意識を英文で表現・説明する
第9回	テーマの設定③	自分が抱えている問題意識を英文で表現・説明する
第10回	英語によるスピーチ①	各自のテーマに基づいて短いスピーチを行う
第11回	英語によるスピーチ②	各自のテーマに基づいて短いスピーチを行う
第12回	英語によるスピーチ③	各自のテーマに基づいて短いスピーチを行う
第13回	英語によるスピーチ④	各自のテーマに基づいて短いスピーチを行う
第14回	ディスカッション	スピーチの内容を基に英語で議論を行う
第15回	まとめと振り返り	学習の成果と課題について検証する

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

語学の学習は時間を要します。授業外においても、課題文献の講読の予習や短い英文エッセイの執筆などのホームワークが適宜課されます。

### 【テキスト】

特に定めませんが、適宜プリントを配布します。原則として毎時間、英和・和英辞書を持参してください。

### 【参考書】

授業中に適宜紹介します。

### 【成績評価基準】

授業への参加度（出席状況、発言、ディスカッションなど）60%  
課題の提出状況 40%

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

特になし

### 【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目です。

## 開発教育

福田 紀子

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：前期授業 | 曜日・時間：火 5

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

### 【授業のテーマ】

開発や人権の問題に取り組む教育は、それを抱えた人々の中で実践を重ねられてきました。その中で創られてきた視点、考え方や、“参加型”手法を紹介します。

### 【授業の到達目標】

- 1) アジアや国際社会で積み上げられてきた合意文書、ガイドブック、学習活動マニュアル等から、参加者主体の学習、エンパワーメントとしての学習に関する歴史や経緯、基本概念を理解する。
- 2) さまざまな問題に主体的に、他者とともに取り組むことをめざした参加型学習の学び方（手法、概念、進行）を経験し、実践する。

【】

### 【授業の概要と方法】

基本的に読んでおく英文資料、当日配布の資料、ワークシートを元に進めます。資料の翻訳あるいは解説を分担していただく回もあります。授業は参加型学習／活動で進めていきます。その中でのディスカッションは適宜英語／日本語で行います。何をどのような枠組で思考するのか、そのことから何を学んだのかを重視します。

【】

【】

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	Orientation	この授業の進め方、参加型学習のとエンパワーメントについて
第2回	History & Background ① Why Education for Empowerment?	ユネスコの教育の流れや開発途上国での実践について概観します。英語基礎資料を読んでいます。
第3回	History & Background ② Why Participatory Learning?	成人教育関連のテキストから開発の課題を抱えた状況を知り、学び変化する解決プロセスとしての教育についての考えます。
第4回	Popular Education ①	フィリピンの Popular Education のテキストからに途上国の実践を Activity を実践しながら学びます。 Act:Mapping
第5回	Popular Education ②	Popular Education のテキストから facilitator の役割やグループダイナミクスについて学びます。
第6回	Popular Education ③	Pop.Ed. と同時期に様々な領域で展開した英文教材から多様な教育／学習のニーズに対応を知ります。
第7回	Current Agenda for Future-MDGs & Education	ミレニアム開発目標と教育についての関連文書、映像等からその意味を考えます。
第8回	Current Agenda for Future-Gender, VAW & HRs	途上国の実践で開発されたワークからジェンダー、女性への暴力、人権の課題を学びます。
第9回	Participatory Learning & Action / REFLECT Mother Manual - Theory and practice ①	途上国の開発の場で実践された学習の理念と手法（ツール）を学びます。
第10回	Planning for Program Facilitation-Setting and Communication	ファシリテータの役割、良いコミュニケーションや場づくりについて考えます。
第11回	Planning for Program Facilitation-tools & semi-structural interview	手法（ツール）の整理と応用の可能性を考え、半構造的な問いかけ等、実践に向けて準備します。
第12回	Participatory Learning & Action - practice ①	英文テキストを元に参加型のツールを用いたグループインタビュー活動を実践します。
第13回	Participatory Learning & Action - practice ②	関係図、地図づくり 英文テキストを元に参加型のツールを用いたグループインタビュー活動を実践します。 季節暦、ステイクホルダー分析

- 第14回 Participatory Learning & Action - practice ③ 英文テキストを元に参加型のツールを用いたグループインタビュー活動を実践します。
- 第15回 Participatory evaluation マトリクス分析、トランセクト  
この授業のふりかえり、評価も参加型で行います

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

事前に配布された資料は必ず読んでおいてください。特に事前に分担を指示された箇所については必要に応じた整理しておいてください。日常に起こる国際的な出来事や身近な社会の課題に関心を持って情報を得ておくこと。プログラム実践の際には資料を読み込みチームで進行準備することもあります。

### 【テキスト】

Participatory Learning & Action-A Trainers Guide/IIED,  
THE REFLECT Mother Manual-a new approach to adult literacy/Action Aid, Basic Popular Education training Manual/PEPE

### 【参考書】

『ワールドスタディーズ-教養方学び方ハンドブック』『いっしょに学ぼう learning together』『わたし、あなた、そしてみんな一人間形成のためのグループ活動ハンドブック』『参加型で考える12のものの見方、考え方』（以上、国際理解教育センター発行）『参加型ワークショップ入門』（ロバート・チェンバース著）、『フィリピンの人権教育』（阿久澤麻理子著）

### 【成績評価基準】

毎回の授業でのふりかえりシート、授業への参加の様子、個人／グループでの成果物（模造紙作業やワークシート）、レポート

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

アンケート対象外科目のため非実施

### 【関連の深いコース】

国際環境



## 人間環境特論（ファシリテーションの基礎）

三田地 真実

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時間：火 3

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業のテーマ】

- 話し合いを始め、様々な場をデザインし、マネジメントするためのノウハウである「ファシリテーション」についての基礎的な知識・技能を獲得すること。
- 実際にファシリテーションを行う、「ファシリテーター」として行動できること。

## 【授業の到達目標】

本演習を受講した後に習得できる具体的な行動目標は以下の通り：

- 「場づくり」のそもそもの意味を理解することができる（「意味」「意義」を考える）
- コミュニケーションの基礎を体得できる（言語・非言語行動の両方を含む）
- 場づくりの基本的な技法を実施することができる（準備、実施、フォローアップの各段階における基本的な技法）

[]

## 【授業の概要と方法】

環境問題に限らず、社会的な問題に関わろうとする際に、単独で問題を解決できることはほとんどなく、多くの場合、そこにかかわる多くの利害関係者（ステークホルダー）の間でいかにうまく話し合いを持ち、最適解を見出すための「合意形成」をもたらす必要がある。

その際に、単に人が集えば「意味ある場」になるのではなく、綿密な準備とその場への適切な関わりが不可欠である。本授業では、「意味ある場」とは何か？ そういう「場」を作っていくためには、具体的にファシリテーターとしてどのような構えと技が必要なのかについて学んでいく。そのため授業は講義と演習を織り交ぜながら進めていく。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	・「意味ある場づくりとは何か？」 ・ファシリテーターとしての3つの行動キーワード ・「Why（根拠）」、「プロセス」、「安心・安全な場」
第2回	ワークショップ体験（自己紹介ワーク）	・何気なく行っている自己紹介という活動をファシリテーションの視点で見直す
第3回	ワークショップ体験（アイスブレイク）	・異なる複数の場を体験して、外で何が起きているか、自分の中で何が起きているのか「プロセスを見る」
第4回	コミュニケーションの基礎（1）	・ファシリテーターには必須のコミュニケーションの基礎について演習を行い、プロセスを振り返る
第5回	ファシリテーションの基礎	・ファシリテーションの基本の3つの段階、準備・本番・フォローアップについて学ぶ
第6回	ファシリテーションの準備（1）	・空間のデザインである場づくりと、基本の10ステップについて学ぶ
第7回	ファシリテーションの準備（2）	・時間のデザインである、プログラムデザインを「プログラムデザイン曼荼羅図」というツールを用いて行う演習をする
第8回	ファシリテーションの本番（1）	・10ステップ演習、ライブレコーディング他のスキルを学ぶ
第9回	ファシリテーションの本番（2）	・再度、一対一のコミュニケーションを見直す ・行動の基礎である、応用行動分析学（ABA）の概論について学ぶ
第10回	ファシリテーションのフォローアップの段階	・意味ある場とするためには、参加者の行動変容が図られるものでなければならぬことを理解する ・行動計画の書き方
第11回	ファシリテーションの応用編	・困ったケースについてどう対応するかの方法
第12回	グループプレゼンテーションに向けて	・最終プレゼンテーションに向けてのグループ活動
第13回	グループプレゼンテーション（1）	・グループ毎にテーマに基づいた発表を行う（第1回） ・発表しないグループは、発表のプロセスを観察・フィードバックする

第14回 グループプレゼンテーション（2）  
・グループ毎にテーマに基づいた発表を行う（第2回）  
・発表しないグループは、発表のプロセスを観察・フィードバックする

第15回 まとめ  
・グループ・プレゼンテーションのふり返り  
・授業全体のふり返り「意味ある場づくりのために」

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

- ・毎回の文献・資料講読（事前準備として）
- ・グループ・プレゼンテーションの事前準備として、グループで授業外に集まっての話し合いや準備活動（相当数の時間を必要とする。必須）
- ・様々な場面の観察実習など

## 【テキスト】

- ・「ファシリテーターのための行動指南書」（三田地真実、ナカニシヤ出版、印刷中）

## 【参考書】

- ・「ファシリテーション革命」（中野民夫、岩波アクティブ新書、2003）
- ・「特別支援教育 連携づくりファシリテーション」（三田地真実、金子書房、2007）他

## 【成績評価基準】

- ・出席点：約 60 %（毎回、出席カードの代わりにのふり返りシートへ記入する）
- ・最終グループプレゼンテーション：約 40 %（グループ、個人での提出物も含む）

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

講義と演習を交えた授業展開については、概ね好評であった。今後は、グループ演習の方法をさらに思考力・チーム力を必要なものに発展させ、学生の主体的な関わりを増やす予定である。

## 【学生が準備すべき機器他】

特になし

## 【その他】

ファシリテーションは、環境問題に留まらず、人間が集う場をどのようにして意味あるもの、つまりそこに参加している人にとって「参加してよかった」と思えるような場にしていくかについての具体的なノウハウを提供してくれるものです。

職場内、あるいは家庭内の人間関係を見直すことにも十分役立つ内容と思えます。

なお、本講義は、受講希望者が多数の場合、初回授業に選抜または抽選を行います。受講を希望する方は、必ず初回授業に出席してください。

## 【関連するコース】

全てのコースのベースとなる科目です。

## 人間環境特論（環境と地域の持続性を考える）

西城戸 誠

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：火 2

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

### 【授業のテーマ】

映像資料を用いて具体的な事例を提示し、環境（自然）と地域の持続性に関する「環境と社会」の社会的な議論（応用編）を展開する。

### 【授業の到達目標】

本講義の目的は、日本国内の事例を中心に取り上げながら、環境（自然）と地域の持続性に関する議論について、合意形成・レジティマシー・生業・半栽培・順応的管理・適正技術・負の遺産と地域再生といったキーワードへの理解を深める。

□

### 【授業の概要と方法】

理論的な論点の提示と事例検討を繰り返し、合意形成・レジティマシー・生業・半栽培・順応的管理・適正技術・負の遺産と地域再生といったキーワードへの理解を深める。なお、映像資料を用いるが、映像資料に対しては要約、コメント等をその都度求める

□

□

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・環境と地域の持続性を考える視点(1)	環境社会論Ⅰ、Ⅱの内容を振り返りながら、環境・地域の持続性を考えるための論点を提示する。
第2回	合意形成とレジティマシー(1)：「海は誰のものか」	人と自然がかかわる際の、自然環境をめぐる価値や意味の共有を巡る課題を、合意形成とレジティマシーという観点から講義する。
第3回	合意形成とレジティマシー(2)：市民参加とレジティマシー	合意形成やそのレジティマシーを巡る、市民参加のあり方について講義する。
第4回	生業・半栽培・資源管理(1)：コンブの森から考える	生業とそれを支える伝統的な生態学的な知識に着目し、昆布漁を事例として資源管理のあり方を考える。
第5回	生業・半栽培・資源管理(2)：半栽培から資源管理へ	生業および半栽培という観点から資源管理のあり方について講義する。
第6回	生業・半栽培・資源管理(3)：生態系サービス	生態系サービスという概念から、人と自然のかかわりについて講義する。
第7回	自然再生と順応的管理(1)：コウノトリと地域再生	兵庫県豊岡市におけるコウノトリをめぐる自然再生
第8回	自然再生と順応的管理(2)：獣害問題と順応的管理	サルの「獣害問題」を事例に、サルの順応的管理および地域再生の方向性について講義する。
第9回	過疎問題と地域社会(1)：過疎と「核」の受容	北海道幌延町の核廃棄物処理施設の誘致問題を事例として、過疎地域における核の受容の背景について講義する。
第10回	過疎問題と地域社会(2)：「核」への抗議と運動文化	核廃棄物処理施設誘致の反対運動の展開を見ながら、過疎地域の地域再生や、地域の持続性に関して議論する。
第11回	再生可能エネルギーと地域社会(1)	再生可能エネルギーの地域社会への普及のための、さまざまな「社会的しかけ」に関して講義する。
第12回	再生可能エネルギーと地域社会(2)	風力発電に対する反対運動も含めて、再生可能エネルギーの地域社会への受容性について講義する。
第13回	負の遺産と地域再生(1)：炭鉱社会の盛衰・夕張を事例として	財政破綻した北海道夕張市の背景と、炭鉱社会の盛衰に関する概要を講義する。
第14回	負の遺産と地域再生(2)：炭鉱遺産によるまちづくりの展開	「負の遺産」をどのように地域再生に結びつけるべきかという点を、炭鉱遺産によるまちづくりの事例から考える。
第15回	環境・地域社会のサステイナビリティと「当事者性」を考える	環境・地域社会のサステイナビリティについてまとめながら、「当事者性」という観点から環境・地域の持続性を考える。

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

各回の講義内容の復習と、環境社会論Ⅰ、Ⅱの内容の関連づけを随時、行ってほしい。また、映像教材に対するコメントを求める。

### 【テキスト】

特定のテキストは用いない。

### 【参考書】

関礼子・中澤秀雄・丸山康司・田中求『環境の社会学』有斐閣（2009年）  
西城戸誠『抗いの条件－社会運動の文化的アプローチ』人文書院（2008年）  
宮内泰介編『半栽培の環境社会学』昭和堂（2009年）

### 【成績評価基準】

講義中に映像資料等に対するリアクションペーパー（小レポート）の提出を求める。また、学期末に筆記試験（受講者数によってはレポート）を課す。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

教員の滑舌の悪さは先天的なものであるため、改善しづらいのであるが、改めてお詫びしたい。また、話し方が早口になってしまうことも、講義内容を厳選することで可能な限り対処したい。

### 【その他】

本講義は、環境社会論Ⅰ、Ⅱの履修後の受講を想定している。履修制限は行わないが、環境社会論Ⅰ、Ⅱの応用編としての位置づけであることを前提に履修されたい。なお、本講義を履修し、単位を取得したは、次年度以降、同一教員・同一サブタイトルの人間環境特論の履修は認められない。

### 【関連の深いコース】

地域環境

## 人間環境特論（農と食から考える現代日本社会）

船戸 修一

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：水 6

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業のテーマ】

「農」や「食」を自然環境の仕組みや環境問題から考えます。

## 【授業の到達目標】

「農」や「食」が現代の自然環境の仕組みや環境問題と密接にかかわっていることを理解する。

[]

## 【授業の概要と方法】

そもそも農業は、人間の「いのち」を支える「生命産業」です。また農産物は動植物の「いのち」そのものです。しかし「近代社会＝資本主義社会」においては、農業は「金儲け」の手段となり、農産物は「金銭的価値」として見なされます。こうして「市場原理＝経済的な効率性」を求めがゆえに、農業は自然環境への負荷を高め、環境問題を引き起こしてしまうのです。そこで、この授業では、農業・農村にかかわる諸問題をとりあげるだけでなく、私たちの生命の源であり、暮らしの根幹である「食」の現場からも考察を深め、「農＝食」という立場から自然環境や環境問題を理解し、現代日本社会を考えていきます。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	「農」から「現代日本社会」が見えてくる～まずは農業・農村に興味をもうけよう！	現代社会において農業や農村を考える意義について学習します。
第2回	高度経済成長と戦後の農業・農村社会～『ALWAYS 三丁目の夕日』は「美しい日本」なのか？	戦後の日本農業や農村社会の変容を高度経済成長との関連で学習します。
第3回	「過疎」問題と「限界集落」の出現～『田舎に泊まろう！』では伝わらない現実とは？	過疎や限界集落の成立背景やその課題について学習します。
第4回	戦後農政と農業・化学肥料の登場～なぜレイチェル・カーソンは「春は沈黙する」と言ったのか？	戦後の農業現場で普及していった農業や化学肥料の功罪について学習します。
第5回	「WTO体制」と農業・農村の「多面的価値」～田んぼはコメだけでなく自然環境も生産している！	市場経済で取り引きされない農業や農村の価値について学習します。
第6回	食生活の欧米化と食料自給率の低下～いつから「牛丼」は国民食になったのか？	戦後の日本人の食生活の変化を高度経済成長との関連で学習します。
第7回	日本人の食生活と環境破壊～エビからアジアが見えてくる！	海外に依存する日本人の食生活が途上国の自然環境の破壊につながっていることを学習します。
第8回	ファストフード批判と「スローフード」運動～マクドナルドは食文化を破壊しているのか？	食のグローバル化に対する社会運動の意義について学習します。
第9回	農業とバイオテクノロジー～「GM（遺伝子組換え）」作物は良いの？悪いの？	遺伝子組み換え作物の普及背景やその功罪について学習します。
第10回	「BSE」の発生と食品行政の転換～なぜ食に「自己責任」を求めるのか？	BSE問題から食の安全・安心やリスクについての考え方を学習します。
第11回	「有機農業」運動の始まり～都市の消費者が農家を支える関係とは？	有機農業運動の目的や意図を理解することによって消費者の農業・農村に対する役割について学習します。
第12回	「グリーン・ツーリズム（都市農村交流事業）」の登場～「棚田オーナー制」は最先端の観光！	都市住民による農村滞在や農業体験の意義について学習します。
第13回	「生身の自然」から「切り身の自然」へ～バック詰めの鶏肉に「いのち」を実感できるのか？	自分で育てた家畜を自ら解体する活動によって現代日本の食事情について学習します。

第14回 「循環」型社会をめざして～生ゴミのリサイクルで野菜を作って地域をつなげる！

生命・物質が循環する自然生態系のように農業の営みを埋め戻す意義について学習します。

第15回 まとめ～「食」が変われば「農」は変わる！

日本の食や日本農業・農村をめぐる諸問題を理解したうえで農業や農村の意義について再度考えます。

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

授業後は、授業内容や配布プリントの内容について復習しておいてください。そのうえで、授業で紹介した参考書や授業内容に関する文献を読むなど自主的な学習をお願いします。

## 【テキスト】

テキストは指定しません。毎回、プリントを配布します。

## 【参考書】

参考文献は、授業で適宜紹介します。

## 【成績評価基準】

学期末に提出するレポートの内容を90%、授業後に課すリアクションペーパーの内容を10%として評価します。なお受講者の人数次第では、評価方法を変更することがあります。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

これまでの授業では出席をとらなかつたため、授業を欠席する学生がいたようでした。そこで積極的な授業参加を促すために、毎回ではありませんが、授業後にリアクションペーパーを課したいと思います。

## 【関連の深いコース】

地域環境

## 西欧近代批判の思想

越部 良一

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：水 4

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

### 【授業のテーマ】

この講義は、西欧の近代とその思想に批判的に対峙する西洋の哲学思想をテーマとする。授業の中心となる視点は、西洋近代批判の視点を、人間を超えた存在（イデア、神など）の尊重と、人間中心主義に対する批判として把握することである。

### 【授業の到達目標】

西欧近代のいくつかの哲学思想を把握し、それへの批判がいかなる考え方によるのかを理解し、説明できること。

[]

### 【授業の概要と方法】

授業は講義形式で行い、思想家の言葉を見ながら、その意味を把握していくことを中心とする。まず、西欧思想の源泉であり、古典であって、近代西欧批判の視点を提供するものとして、古代ギリシャのプラトンの哲学と聖書（キリスト教）の思想を取り上げ、次に近代西洋の代表的思想として、デカルト、功利主義、ヘーゲル、マルクス主義などをみていく。そのうえで、そうした近代思想と批判的に対峙するものとして、キルケゴール、ニーチェなどの思想をみてゆきたい。

[]

[]

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	西欧近代思想の特徴とその批判	西洋近代の特徴など、この講義の全体を概観する。
第2回	プラトンの思想Ⅰ	プラトンの魂と正義の考え方について。
第3回	プラトンの思想Ⅱ	プラトンの民衆制批判の考え方について。
第4回	聖書の思想	イエスにおける人間と神の関係について。
第5回	功利主義の思想	ベンサム、ミルの功利主義の基本的な考え方。
第6回	デカルトの思想Ⅰ	デカルトの「我思う、ゆえに我あり」について。
第7回	デカルトの思想Ⅱ	デカルトの人間中心主義的な思考について。
第8回	ヘーゲルの思想Ⅰ	絶対者と人間精神の一致について。
第9回	ヘーゲルの思想Ⅱ	ヘーゲルの歴史観について。
第10回	マルクス主義の思想	マルクス主義の人間中心主義について。
第11回	キルケゴールの思想Ⅰ	キルケゴールのヘーゲル批判。
第12回	キルケゴールの思想Ⅱ	キルケゴールの現代への批判。
第13回	ニーチェの思想Ⅰ	ニーチェのニヒリズム論について。
第14回	ニーチェの思想Ⅱ	ニーチェの大衆批判。
第15回	試験	筆記（論述）試験を行う予定である。定期試験期間内に行う場合もあるので、掲示等に注意すること。

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

解説書や概論ではなく、自分で興味を持った授業でとりあげる思想家の実際の著作（むろん翻訳でよい）に少しでも接することが望ましい。

### 【テキスト】

特に指定しない。必要に応じて、思想家の言葉を引用したプリントを配布する。

### 【参考書】

授業中に適宜紹介する。

### 【成績評価基準】

出席状況と期末試験によって成績を評価する予定である。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

近代日本は西欧近代の影響を大きく受けているのだから、学生諸君は、授業では取り上げないとはいえ、今の日本の思想や状況などと照らし合わせる視点を持つとよい。

### 【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目である。

## 仏教思想

関口 和男

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：金 5

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

### 【授業のテーマ】

インド初期仏教の思想を概観して、仏教的な考え方の特徴をじっくり学び、それによって、東西の思惟形態の相違を認識する。

### 【授業の到達目標】

西欧的思考法とは異なる東洋的な思考を身につけることによって、自分を直す力を養い、複眼的な視点を身につけ、身の回りの諸問題に対して様々なアプローチができるようになることを目指す。

[]

### 【授業の概要と方法】

授業計画にある通り、インド初期仏教の成立から密教への道を中心に授業を行います。学生諸君との質疑応答をできるだけ入れて、ユニークな講義形式をとっていくつもりです。

[]

[]

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	仏教思想を学ぶ今日の意義	西洋的な思考とは全く異なる仏教の思想がもたらす新たな視点について考える。
第2回	初期仏教思想史の概観とゴータマ・ブッダの生涯	巷にあふれる誤った仏教史・仏教思想史を正し、初期インド仏教史を概観する。
第3回	ゴータマ・ブッダの思想（Ⅰ）四諦説	四諦（四つの真理）について学び、それらを「無明」という視点から総括する。
第4回	ゴータマ・ブッダの思想（Ⅱ）五蘊説	西洋的な主観や自我の観念との相違を明らかにする。
第5回	初期仏教の基本概念－苦・無我・無常－	アーガマ經典類が説く苦・無我・無常について考える。
第6回	説一切有部の教説の意義	いわゆる有部の思想を概観し、それが仏教思想史において果たした役割を考える。
第7回	大乘仏教の興起（Ⅰ）仏塔崇拜集団・アショーカ王の事績	いわゆる大乘仏教とは、何かをその形成過程から考える。
第8回	大乘仏教の興起（Ⅱ）十方世界観の形成と諸仏・菩薩論	同上
第9回	大乘仏教の理論的展開（Ⅰ）中観の思想	ナーガルジュナの中観の思想を概観する。とくに、「空」の観念を徹底的に考える。
第10回	大乘仏教の理論的展開（Ⅱ）唯識の思想	唯識の内容とその現代性について考える。
第11回	大乘仏教の理論的展開（Ⅲ）如来蔵の思想	いわゆる大乘仏教の思想的な柱である「如来蔵」思想の意味と意義を明らかにする。
第12回	インド密教の形成とその特質	密教についての正しい理解のために、その形成過程を学ぶ。
第13回	チベット仏教の史的概観	チベット仏教とは、そもそも何か、史的側面から学ぶ。
第14回	チベット仏教の思想	チベット仏教の思想的特質を考える。
第15回	中国・日本の仏教の特質	とくに、日本の仏教とは何か、上記の講義を振り返りつつ考える。

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

今まで皆さんが、当たり前として受け取ってきた仏教行事や説法などを整理して、授業に臨むこと。新聞の文化思想芸術関係の記事を精読し、そこに現れてくる現代社会の精神的な病巣を認識しておくこと。

### 【テキスト】

原則として用いません。

### 【参考書】

授業時に適宜指示します。

### 【成績評価基準】

期末に実施されるテストの結果によります。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

もっと積極的に質問することを望みます。

### 【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目である。



## 日本詩歌の伝統

## 日原 傳

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：金 2

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業のテーマ】

定型詩の実作をする授業である。実作に関しては「俳句」を主とするが、「短歌」「漢詩」の実作を試みる機会も設ける。

## 【授業の到達目標】

- ・定型詩の創作を通して言葉に関する感覚を磨く。
- ・「切字」「取り合わせ」といった俳句に関する技法について理解し、実作に応用する。
- ・日本の詩歌の伝統のなかではぐくまれてきた季語の豊かさを認識する。

[]

## 【授業の概要と方法】

毎回テーマを設けて、日本の詩歌の作品を紹介し、鑑賞する。同時に参加者にはほぼ毎回定型詩の実作を提出してもらう。提出してもらった作品のなかの秀作、問題作も鑑賞の対象とする。また、「色」「数字」「食べ物」といった切り口から先人の作品を鑑賞する機会も設け、実作の参考に供したい。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	俳句と俳諧	俳句の約束事～定型・季語・切字
第2回	季語と季題	歳時記の世界／実作（俳句）
第3回	切字と取り合わせ	切字のはたらき、「一物仕立て」と「取り合わせ」／実作（俳句）
第4回	座の文学	松尾芭蕉の場合／実作（俳句）
第5回	青春俳句	青春俳句鑑賞／実作（俳句）
第6回	短歌と俳句	短歌と俳句の違い／実作（短歌）
第7回	漢詩の格律	押韻、二四不同、粘法、起承転結などの説明／実作（漢詩）
第8回	漢詩を作る	漢詩鑑賞／実作（漢詩）
第9回	正岡子規の俳句革新	「写生」について／実作（俳句）
第10回	高濱虚子とその弟子たちⅠ	鑑賞（ホトトギスの俳人たち）／実作（俳句）
第11回	高濱虚子とその弟子たちⅡ	鑑賞（ホトトギスの俳人たち）／実作（俳句）
第12回	新傾向俳句・新興俳句	鑑賞（新傾向俳句・新興俳句）／実作（俳句）
第13回	前衛俳句	鑑賞（前衛俳句）／実作（俳句）
第14回	現代俳句	鑑賞（現代俳句）／実作（俳句）
第15回	国際俳句	鑑賞（国際俳句）／実作（俳句）

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

・自作の俳句（毎回3句ほど）を作り、持参する。

## 【テキスト】

テキストは使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

## 【参考書】

小林恭二『俳句という遊び』『俳句という愉しみ』（以上、岩波新書）  
 山本健吉『新版 現代俳句（上・下）』（角川選書）  
 俵万智『短歌をよむ』（岩波新書）  
 石川忠久『漢詩を作る』（大修館書店）

## 【成績評価基準】

平常点（出席状況・提出作品）50%

期末試験50%

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

2011年度在外研究につき該当なし

## 【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目である。

## 比較演劇論 I

## 平野井 ちえ子

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：木 3

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業のテーマ】

本講座の目的は、日本と海外とを等距離から比較して、それぞれの舞台芸術の底流をなす文化や美意識を探ることである。「演劇」とは何か？「伝統」とは何か？「日本的なるもの」とは何か？ 比較の視野からこれらのテーマを考えることで、われわれ自身の美意識のありようが浮かびあがってくることだろう。他文化を学ぶことの意義は、ここにある。受講希望者多数の場合、選抜を行なう可能性もあるので、第1回目の授業には必ず出席すること。

## 【授業の到達目標】

演劇の各ジャンルについて基本的な教養を養う。

[]

## 【授業の概要と方法】

基本用語の解説もしながら、東西のさまざまな演劇ジャンルを考察するので、非常に密度の濃い講義形式となる。比較考察の軸は、つねに日本の伝統芸能である。毎回学生の関心や理解度を確認するためのジャーナルを書いてもらう。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	シラバスに基づいて講座概要を説明し、受講希望者多数の場合、選抜を行なう。受講を希望する人は、必ず出席すること。尚、この回のみ、通常とは別の教室で授業を行なう可能性があるため、掲示（学部掲示板・BT24階平野井掲示板）には十分注意すること。
第2回	歌舞伎海外公演	歌舞伎海外公演の歴史とその効果について考える。
第3回	何もない空間	能やギリシャ悲劇の舞台づくりを対象として、観客の想像力について考える。
第4回	歌舞伎舞台の大仕掛け	回り舞台、花道、せり、屋体くずしなど、歌舞伎舞台の仕掛けを学ぶ。
第5回	歌舞伎の音	歌舞伎の音楽、効果音、間について考える。
第6回	歌舞伎のせりふ	間かせどころのせりふを例として、歌舞伎のせりふの特徴を学ぶ。
第7回	歌舞伎と能の視覚効果	歌舞伎と能を、演技の型、舞台構造、衣裳 vs. 装束、化粧 vs. 面などの観点から、対照的に考察する。
第8回	古今東西の劇的葛藤と情感	論理性 vs. 感性という観点から、東西の伝統演劇を考察する。
第9回	日本人の主情性 一家庭悲劇のドラマツルギー	歌舞伎の『熊谷陣屋』と能の『敦盛』を比較し、それぞれのジャンルにおけるドラマツルギーの核について考える。
第10回	日本人の余情と旅情 一道の美学	日本の伝統芸能における「旅」の表現について考える。
第11回	日本人と自然	歌舞伎の季節感を学ぶ。庭園や盆栽など、人口の自然美についても考える。
第12回	東西の残酷シーン	歌舞伎の「殺し場」について考える。
第13回	歌舞伎の理想美	歌舞伎を対象として、演劇におけるリアリズムとフィクションについて考える。
第14回	伝統とは何か	東西の伝統演劇の比較考察のまとめ。
第15回	期末試験（記述式）	14回までの講義内容について理解度・知識定着度を確認する。

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

次週の講義範囲については、必ず下読みをして参加すること。また、日頃から舞台芸術に親しむ姿勢が必要である。

## 【テキスト】

プリント配布。加えてテキストを指定する場合、授業内で指示する。

## 【参考書】

河竹登志夫著 『舞台の奥の日本 ー日本人の美意識ー』 TBS ブリタニカ野間正二著 『比較文化的に見た日本の演劇』 大阪教育図書

## 【成績評価基準】

出席状況

ジャーナル（毎回授業の最後にその日の講義内容について考えたことをその場で簡潔にまとめて提出する）

期末試験（記述式）

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

2011年度までは半期だったので、かなり詰め込みの授業だった。通年科目となることで、受講者がより舞台芸術への鑑賞眼を磨くことができると期待している。

## 【学生が準備すべき機器他】

BT0309教室使用。

## 【その他】

- ・まず、芝居をたのしんで下さい。授業でも舞台情報を提供します。
- ・2011年度までに「比較演劇論」を修得済の場合、本科目は履修できません。

## 【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目である。

## 比較演劇論Ⅱ

平野井 ちえ子

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：木3

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業のテーマ】

本講座の目的は、日本と海外とを等距離から比較して、それぞれの舞台芸術の底流をなす文化や美意識を探ることである。「演劇」とは何か？「伝統」とは何か？「日本的なるもの」とは何か？比較の視野からこれらのテーマを考えることで、われわれ自身の美意識のありようが浮かびあがってくることだろう。他文化を学ぶことの意義は、ここにある。受講希望者多数の場合、選抜を行なう可能性もあるので、第1回目の授業には必ず出席すること。

## 【授業の到達目標】

前期授業「比較演劇論Ⅰ」で学んだ理論的枠組みを土台に、さまざまな演劇作品への鑑賞眼を養う。

【】

## 【授業の概要と方法】

演劇各ジャンルの代表的な作品について鑑賞・討論・解説し、受講者の鑑賞眼を養う。毎回学生の関心や理解度を確認するためのジャーナルを書いてもらう。

【】

【】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	シラバスに基づいて講座概要を説明し、受講希望者多数の場合、選抜を行なう。受講を希望する人は、必ず出席すること。尚、この回のみ、通常とは別の教室で授業を行なう可能性があるため、掲示（学部掲示板・BT24階平野井掲示板）には十分注意すること。
第2回	歌舞伎海外公演	「京鹿子娘道成寺」・「春興鏡獅子」・「俊寛」・「仮名手本忠臣蔵」について
第3回	何もない空間：劇場とは何か	「オイディプス王」（ギリシャ悲劇）・「船弁慶」（能）について
第4回	スペクタクルの役割：歌舞伎を中心として	「白浪五人男」（河竹黙阿弥）・「東海道四谷怪談」（四世鶴屋南北）の見せ場について
第5回	総合芸術としての演劇1	歌舞伎・能・文楽の場合
第6回	総合芸術としての演劇2	オペラ・ミュージカルの場合
第7回	台詞の役割1	歌舞伎の名せりふについて
第8回	台詞の役割2	シェイクスピアのレトリックについて
第9回	語り手の役割	東西の演劇における語り手（舞台進行役）の諸相について
第10回	舞台の異化効果	プレヒトの場合と歌舞伎の場合
第11回	歴史はどう描かれるか	歌舞伎の時代物とシェイクスピアの歴史劇について
第12回	現代劇とは何か	歌舞伎の世話物の現代性について
第13回	演劇の季節感	歌舞伎の「芝居年中行事」について、代表的な作品の考察
第14回	伝統とは何か	東西の伝統演劇の比較考察のまとめ。
第15回	期末試験（記述式）	14回までの講義内容について理解度・知識定着度を確認する。

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

次週の講義範囲については、必ず下読みをして参加すること。また、日頃から舞台芸術に親しむ姿勢が必要である。

## 【テキスト】

プリント配布。加えてテキストを指定する場合、授業内で指示する。

## 【参考書】

河竹登志夫著 『舞台の奥の日本 一日本人の美意識―』 TBS プリタニカ  
野間正二著 『比較文化的に見た日本の演劇』 大阪教育図書

## 【成績評価基準】

出席状況

ジャーナル（毎回授業の最後にその日の講義内容について考えたことをその場で簡潔にまとめて提出する）

期末試験（記述式）

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

これまでは半期だったので、かなり詰め込みの授業だった。通年科目となることで、受講者がより舞台芸術への鑑賞眼を磨くことができると期待している。

## 【学生が準備すべき機器他】

BT0309教室使用。

#### 【その他】

- ・まず、芝居をたのしんで下さい。授業でも舞台情報を提供します。
- ・2011年度までに「比較演劇論」を修得済の場合、本科目は履修できません。

#### 【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目である。

## 伝統芸能論 I

安藤 俊次

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：火 3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

#### 【授業のテーマ】

日本（江戸）の伝統芸能（三味線音楽、歌舞伎、文楽、落語など）は、庶民の、庶民による、庶民のための娯楽だった。その特徴を探る。

#### 【授業の到達目標】

日本（江戸）の伝統芸能（三味線音楽、歌舞伎、文楽、落語など）の特徴を理解し、説明できること。

【】

#### 【授業の概要と方法】

プリント、CD、映像等を利用しての講義となるが、質疑応答の時間をできるだけ取るようにしたい。

【】

【】

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーションと概説	授業の進め方と日本（江戸）の伝統芸能の概説
第2回	日本（江戸）の伝統芸能と芸術	芸能と芸術の概念（日本と西洋）についての講義と質疑応答
第3回	日本（江戸）の伝統芸能	日本（江戸）の伝統芸能の種類とその特徴についての講義と質疑応答
第4回	日本（江戸）の伝統音楽（1）	日本（江戸）の伝統音楽の種類その特徴についての講義と質疑応答
第5回	日本（江戸）の伝統音楽（2）	日本（江戸）の伝統音楽に使われる楽器
第6回	日本（江戸）の伝統音楽（3）	日本の伝統音楽の鑑賞①と質疑応答
第7回	日本（江戸）の伝統音楽（4）	日本（江戸）の伝統音楽の鑑賞②と質疑応答
第8回	日本（江戸）の伝統音楽（5）	日本（江戸）の伝統音楽の鑑賞③と質疑応答
第9回	日本（江戸）の伝統演劇、歌舞伎（1）	日本（江戸）の伝統演劇の種類とその特徴についての講義と質疑応答
第10回	日本（江戸）の伝統演劇、歌舞伎（2）	歌舞伎の概説、その特徴についての講義①と質疑応答
第11回	日本（江戸）の伝統演劇、歌舞伎（3）	歌舞伎音楽の概説、その特徴についての講義②と質疑応答
第12回	日本（江戸）の伝統演劇、歌舞伎（4）	歌舞伎の鑑賞①と質疑応答
第13回	日本（江戸）の伝統演劇、歌舞伎（5）	歌舞伎の鑑賞②と質疑応答
第14回	日本（江戸）の伝統演劇、歌舞伎（6）	歌舞伎の鑑賞③と質疑応答
第15回	まとめ	前期学習のまとめ

#### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

事前に配布されたプリント等の内容については、予めよく調べておくこと。また、各種メディアを通してでもできる限り実際に触れてみる。授業で質問できるように、疑問点を整理しておくこと。

#### 【テキスト】

必要に応じてプリントを配布する。

#### 【参考書】

「古典芸能 楽々読本」井上 由里子、アートダイジェスト。「こんなにも面白い古典芸能入門」河出書房新社、KAWADE 夢文庫。「歌舞伎ハンドブック」藤田 洋 著、三省堂。「文楽ハンドブック」藤田 洋 著、三省堂。「落語ハンドブック」三遊亭 円楽 監修、山本 洋 編、三省堂。

#### 【成績評価基準】

出席状況、レポート（1回予定）、期末試験等、総合的に評価する。

#### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

新規科目につき該当なし

#### 【その他】

現在余り接触する機会が少ない古典芸能であるが、今まで伝承されてきたものの底に流れる遊びの精神に触れてもらいたい。古典芸能は、分かる、分からないのレベルではなく、分からなくともよい。とにかく、触れて感じる事が大切。できれば、何らかの方法で体験する機会も持ちたい。

※ 授業計画は、進度によって予定変更もあり得る。

※ 2011年度までに「古典芸能の現在」を修得済の学生は履修することができない。

#### 【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目である。

## 伝統芸能論Ⅱ

安藤 俊次

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：火3

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

### 【授業のテーマ】

日本（江戸）の伝統芸能（三味線音楽、歌舞伎、文楽、落語など）は、庶民の、庶民による、庶民のための娯楽だった。その特徴を探る。

### 【授業の到達目標】

日本（江戸）の伝統芸能（三味線音楽、歌舞伎、文楽、落語など）の特徴を理解し、説明できること。

【】

### 【授業の概要と方法】

プリント、CD、映像等を利用しての講義となるが、質疑応答の時間をできるだけ取るようにしたい。

【】

【】

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーションと概説	授業の進め方、「伝統芸能論Ⅰ」の総括と「伝統芸能論Ⅱ」の概説
第2回	日本（江戸）の伝統演劇、文楽（1）	人形芝居（日本と西洋）の特徴についての講義と質疑応答
第3回	日本（江戸）の伝統演劇、文楽（2）	文楽の概説、その特徴についての講義と質疑応答
第4回	日本（江戸）の伝統演劇、文楽（3）	文楽の音楽、その特徴についての講義と質疑応答
第5回	日本（江戸）の伝統演劇、文楽（4）	文楽の鑑賞①と質疑応答
第6回	日本（江戸）の伝統演劇、文楽（5）	文楽の鑑賞②と質疑応答
第7回	日本（江戸）の伝統演劇、文楽（6）	文楽の鑑賞③と質疑応答
第8回	日本（江戸）の伝統話芸	講談・落語と寄席の成立、講義と質疑応答
第9回	日本（江戸）の伝統話芸、講談（1）	講談、その特徴についての講義と質疑応答
第10回	日本（江戸）の伝統話芸、講談（2）	講談の鑑賞①と質疑応答
第11回	日本（江戸）の伝統話芸、講談（3）	講談の鑑賞②と質疑応答
第12回	日本（江戸）の伝統話芸、落語（1）	落語、その特徴についての講義と質疑応答
第13回	日本（江戸）の伝統話芸、落語（2）	落語の鑑賞①と質疑応答
第14回	日本（江戸）の伝統話芸、落語（3）	落語の鑑賞②と質疑応答
第15回	まとめ	前期学習のまとめ

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

事前に配布されたプリント等の内容については、予めよく調べておくこと。また、各種メディアを通してでもできる限り実際に触れてみる。授業で質問できるように、疑問点を整理しておくこと。

### 【テキスト】

必要に応じてプリントを配布する。

### 【参考書】

「古典芸能 楽々読本」井上 由里子、アートダイジェスト。「こんなにも面白い古典芸能入門」河出書房新社、KAWADE 夢文庫。「歌舞伎ハンドブック」藤田 洋著、三省堂。「文楽ハンドブック」藤田 洋著、三省堂。「落語ハンドブック」三遊亭 円楽 監修、山本 洋編、三省堂。

### 【成績評価基準】

出席状況、レポート（1回予定）、期末試験等、総合的に評価する。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

新規科目につき該当なし

### 【その他】

現在余り接触する機会が多くない古典芸能であるが、今まで伝承されてきたものの底に流れる遊びの精神に触れてもらいたい。古典芸能は、分かる、分らないのレベルではなく、分からなくともよい。とにかく、触れて感じることが大切。できれば、何らかの方法で体験する機会も持ちたい。

※ 授業計画は、進度によって予定変更もあり得る。

※ 2011年度までに「古典芸能の現在」を修得済の学生は履修することができない。

### 【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目である。

## 日本美術史論

豊田 和平

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：火4

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

### 【授業のテーマ】

本講義では、日本美術史全体の流れを念頭におきつつ、その中で特に近代日本画に焦点をあわせる。各時代の美術を学び摂取することで新日本画の創造を目指した近代日本画壇の発展の歴史をたどり、近代日本画の美術史的な意義を考察するとともに、絵画に対する読解力を養う。「日本画」という、時代的、地域的に極めて限定的な絵画のジャンルが、日本美術史上どのような意義を持っているのかということ、人々の暮らしおよび社会との関係を考慮にいれつつ考察していく。

### 【授業の到達目標】

史料講読などを通じて、近代日本画に関するさまざまな用語の意味を理解し、その発展の歴史に関する基礎的知識を身につけることを目指す。さらに、講義でとりあげる絵画に関する意見を表現するトレーニング（アンケート方式、数回程度実施予定）などを通して、近代日本画の読解力を養うことを到達目標とする。

【】

### 【授業の概要と方法】

授業では、近代における「日本画」の成立とその歴史的経過をふまえ、近代日本画の承襲が、日本美術史上どのような意義をもっているのかを検討する。その際、多数の近代日本画作品の画像を紹介する。さらに絵画のほかにも、美術史上の出来事、作者の履歴や制作態度などを探る手がかりとなる史料も利用する。最低限の素養として、絵画に関する事項を手念に調べる姿勢とともに、史料読解に積極的に取り組む姿勢が必要となる。

【】

【】

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	日本美術のながれ	講義の導入として、日本美術史の全体像を概観する。
第2回	日本美術の一系譜としての近代日本画	講義の導入として、日本美術史の中で、近代日本画の占める位置、定義や概略を学習する。
第3回	近代日本画のイメージ	引き続き導入として、現代の私たちと、近代日本画との接点を考察する。
第4回	近代日本画のすがた、かたち	作品制作の際に用いられる材料や、作品の装丁方法など、近代日本画作品についての基礎的知識を共有する。
第5回	近代日本画の誕生	明治初期における「日本画」の誕生の経緯を概観する。
第6回	懐古趣味の醸成と日本画	「日本画」誕生の経緯に関連して、明治10年代における文化史、美術史の動向について考察する。
第7回	東京美術学校の開校	東京美術学校開校前後の画壇の状況を概観する。
第8回	近代日本画壇の勢力～東京画壇の新派と旧派	明治末、とりわけ明治40年の文展開設の前後における、東京画壇の状況を概観する。
第9回	近代日本画壇の勢力～京都画壇	明治末、とりわけ明治40年の文展開設の前後における、京都画壇の状況を概観する。
第10回	大正期の日本画壇	大正期の近代日本画壇の状況を概観し、その意義について考察する。
第11回	法政大学と再興院展	日本美術院の再興に焦点をあわせ、大正期の近代日本画壇の新しい動きについて考察する。
第12回	金鈴社と国画創作協会	金鈴社と国画創作協会に焦点をあわせ、大正期の近代日本画壇の新しい動きについて考察する。
第13回	文、帝展の佳作	大正期の官展の変容と画壇の発展について概観する。
第14回	近代日本画と洋画	近代美術史上、近代日本画と言わば表裏の関係にあった近代洋画の歴史を概観し、大正末から昭和初期にかけての両者の関係を考察する。
第15回	近代日本画と美術のパトロンたち／まとめ	近代日本画の発展の歴史を、その後援者たちが果たした役割をもとに概観する。まとめとして、日本美術史上における近代日本画の意義を考察する。



**【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】**

講義において、必要に応じて配布されるプリントの内容を理解することが必要となる。準備学習としては、プリントに引用されている史料等を読み、聞き覚えのない用語の有無を把握し、出来る限り意味を調べておくことが必要となる。

**【テキスト】**

テキストは、特に用いない。必要に応じて、プリント等を配付する。

**【参考書】**

小林忠『原色現代日本の美術 第2巻 日本美術院』1979年、小学館／内山武夫『原色現代日本の美術 第3巻 京都画壇』1978年、小学館／細野正信『原色現代日本の美術 第4巻 東京画壇』1978年、小学館／高階秀爾、陰里鉄郎、田中日佐夫・編『日本美術全集 第22巻 洋画と日本画』1992年、講談社／根崎光男・監、講談社野間記念館、財団法人野間文化財団・編『美のながれ — 講談社野間記念館名品図録』2005年、財団法人野間文化財団。このほか、講義に関連のある美術展覧会等の情報とともに、講義の中で随時紹介する。

**【成績評価基準】**

期末試験（試験期間中）の成績による。期末試験では、近代日本画に関する基礎的知識と、近代日本画作品を解説するための読解力との、それぞれの修得の到達度を問うこととなる。

**【学生による授業改善アンケートからの気づき】**

講義の各回において、できるだけ多くの近代日本画作品の画像を紹介していきます。

**【その他】**

・講義では、場合によっては、聞き覚えのない美術用語、歴史用語などが飛び交うことにもなるかと思いますが、せっかく受講する以上は、それら用語も丹念に調べるなど、積極的に参加することを期待します。

・2011年度までに旧名称「日本美術の系譜」を修得済の場合、本科目は履修できません。再履修者は「日本美術の系譜」で登録して下さい。

**【関連の深いコース】**

全てのコースのベースとなる科目である。

**西洋美術史論****板橋 美也**

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：月3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業のテーマ】**

イギリスのジャポニスム—日本がどのように眺められてきたのか

**【授業の到達目標】**

近年、日本のアニメや食べ物、ファッションなどが海外で大きな注目を集めています。こうした海外での日本の物事に対する高い関心は、19世紀半ばの日本の開国直後にも、ジャポニスムという形をとって存在していました。この時期、様々な欧米諸国との通商関係の成立とともに、多くの人や物が日本から流れ出し、特に日本の美術工芸品が欧米で大きな注目を集めました。そして、欧米諸国の芸術家たちは、自分たちの創作活動のインスピレーションの源の一つとして日本の美術工芸品を眺め、また、その時々自分の支持する美術思想を正当化するべく日本の美術工芸品について論じたのです。本講義は、このジャポニスムという現象が1860年代から1930年代までのイギリスでどのような変遷を遂げ、その中で日本がどのように眺められてきたのかを考えます。そうすることで、1860年代から1930年代のイギリス美術・デザインの諸潮流とジャポニスムの変遷について理解すること、ある文化が他文化の諸要素を取り入れるときに生じる異文化間交流のあり方について自分の考えを述べるができるようになることを目指します。

【】

**【授業の概要と方法】**

まず、「日本美術」の諸要素をイギリスの芸術家たちが取り入れた際に前提としていたイギリス側の背景（美術潮流）を解説します。そのうえで、その美術潮流に身を置いていた芸術家・批評家による「日本美術」観を、彼らの発表した文章や作品を通して考えます。

【】

【】

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	ジャポニスム前史	シノワズリからジャポネズリ、そしてジャポニスムへ
第2回	デザイン改革運動におけるジャポニスム（1）	デザイン改革運動の背景説明
第3回	デザイン改革運動におけるジャポニスム（2）	Christopher Dresser その他の「日本美術」観を分析
第4回	ゴシック・リヴァイヴァルにおけるジャポニスム（1）	ゴシック・リヴァイヴァルの背景説明
第5回	ゴシック・リヴァイヴァルにおけるジャポニスム（2）	William Burges その他の「日本美術」観を分析
第6回	唯美主義運動におけるジャポニスム（1）	唯美主義運動の背景説明
第7回	唯美主義運動におけるジャポニスム（2）	James McNeill Whistler その他の「日本美術」観を分析
第8回	アーツ・アンド・クラフツ運動におけるジャポニスム（1）	アーツ・アンド・クラフツ運動の背景説明
第9回	アーツ・アンド・クラフツ運動におけるジャポニスム（2）	Frank Morley Fletcher その他の「日本美術」観を分析
第10回	1910年日英博覧会（1）	日本政府による「日本美術」の表象
第11回	1910年日英博覧会（2）	日英博覧会の「日本美術」展に関する当時の批評家たちの文章を分析
第12回	モダニズムにおけるジャポニスム（1）	モダニズムの背景説明
第13回	モダニズムにおけるジャポニスム（2）	Roger Fry その他の「日本美術」観を分析
第14回	民芸運動をめぐる日英交流（1）	民芸運動の背景説明
第15回	民芸運動をめぐる日英交流（2）	Bernard Leach その他の「日本美術」観を分析

**【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】**

配布したプリントと授業中にとったノートをもとに、毎回授業後によく復習をしてください。

**【テキスト】**

プリントを適宜配布します。

**【参考書】**

世田谷美術館編、『JAPANと英吉利西（いざりす）日英美術の交流 1850-1930展』、世田谷美術館、1992年  
谷田博幸、『唯美主義とジャパニズム』、名古屋大学出版会、2004年

小野文子、『美の交流—イギリスのジャポニスム』、技報堂出版、2008年

#### 【成績評価基準】

出席状況、授業への取り組み、試験の成績から総合的に判断します。

#### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

新規担当につき該当なし

#### 【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目です。

## 生命の現在と倫理

鶴岡 健

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：木 6

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

#### 【授業のテーマ】

本講義は、「生きること」「いのち」を最優先のキーワードとして成立する応用倫理学（生命倫理学・環境倫理学）を中心に据えて展開する。そこで、「ただ生きること」と「よく生きること」の乖離が、先鋭なかたちで顕著になりつつある現代社会の現状（環境汚染・遺伝子操作・脳死・安楽死・生殖補助医療技術など）に対して、プラトンの生命論という原理的地平から考察する。現代倫理学の基本的概念（人格・自律・自己決定・ケア）の論議を素材にして「主体的に生きるとは、いかなることか」を学ぶ。

#### 【授業の到達目標】

生命倫理学における基礎的概念を正しく理解し、自分でも使えるようにする。インフォームド・コンセント・クオリティ・オブ・ライフ・出生前診断、生殖補助医療について技術面、法律面における現状を正しく理解する。それらがいかなる倫理的問題を生じるかについて問題を抽出する。

【】

#### 【授業の概要と方法】

最初に「いのち」とは、どのようなものなのかを、プラトンの生命観から原理的考察をします。その上で bio(生命)ethics(倫理学)の成立と歴史を学ぶことにします。その後は、生命倫理学で取り扱う問題群を、個別に授業計画に沿って講義します。

この分野の技術革新は日進月歩で進むので、その都度、資料をプリントして配布し、VTR・DVD・NIE などを用いて学ぶことにします。人数によってはグループで議論を、また大教室の場合は意見の記述(レポート)を実施します。

【】

【】

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の内容と学び方
第2回	「生命とは何か」	プラトンの生命観から遡源
第3回	「bioethicsの歴史」	米国における bioethics の成立と日本への輸入と現状
第4回	「健康と病気」	健康の定義をめぐる議論と病気の定義をめぐる議論
第5回	「エイジング」	高齢者介護の問題
第6回	「高齢社会と生命の質」	クオリティ・オブ・ライフとサンクティティ・オブ・ライフ
第7回	「パーソン(人格)論」	パーソン論の内容とそれに伴う問題点
第8回	「自己決定権の限界」	インフォームド・コンセントと患者の自己決定権
第9回	「自律(autonomy)の倫理」	自律と弱いパターナリズムの共存の可能性
第10回	「生殖補助医療技術をめぐる倫理的問題」	生殖補助医療技術の原則とは何か
第11回	「脳死と臓器移植」	臓器移植の現実的諸問題
第12回	「積極的安楽死と消極的安楽死」	安楽死の分類と治療停止問題
第13回	「ケアの倫理」	ターミナル・ケアの現実とその意味
第14回	「応用倫理学の(生命倫理学・環境倫理学)の課題」	その現状とそれへの要請
第15回	期末試験	論述試験

#### 【授業外に行うべき学習活動(準備学習等)】

授業では、今、現実社会で起きている生命倫理問題を提題して、受講者一人ひとりがどのように対処すべきかを自分で考える必要があります。そのためさまざまな事例研究の課題を出すので、そのレポートの提出が義務づけられます。

#### 【テキスト】

テキストは使用しません。講義時に資料プリントを配布します。

#### 【参考書】

参考書は、その都度の授業時に紹介します。

#### 【成績評価基準】

積極的な授業参加を重視します。出席は最低でも8回以上が必要です。試験は、期末試験を1回を、レポートは、1～2回を課します。それぞれを総合して判定します。

#### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

学生の私語についての苦情の意見がありました。極力注意します。それでも授業妨害をする少数の私語をする学生は、授業の出席を禁じます。

#### 【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目です。

## 環境倫理学

鶴岡 健

カテゴリ：基幹 | 配当年次/単位：1～4年 / 2単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：木 4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

### 【授業のテーマ】

現代倫理学の基本的な学説の流れを学ぶ。そこで環境倫理学が、どの立場に立脚しているのかを明らかにする。そして環境倫理思想がどのように成立し、発展していったのかを、さまざまな思想家の環境倫理思想を取り上げて検証する。

### 【授業の到達目標】

さまざまな環境倫理学の思想内容や立場を理解することによって、偏在した一方的な環境倫理思想に捕らわれることなく、広範で総合的な環境倫理思想の視野を形成し、環境倫理を考える上での理論的支柱の陶冶をめざす。

[]

### 【授業の概要と方法】

環境倫理学は、「人間中心主義と人間非中心主義」という二項対立図式のなかで成立した。そして人間中心主義からの脱却と人間非中心主義の主張とその検討により、人間以外の生命（生物）や生態系に対する配慮とそれらの権利（自然権）付与へと議論が展開する。この授業では、環境倫理思想の歴史を学び、その学説史の把握に努める。その基盤に立ち環境倫理をダイナミックに広範に捕えて、新たな「環境倫理」を展望する。

[]

[]

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	哲学的な倫理学について学ぶ	規範倫理学・記述倫理学・メタ倫理学の概要
第2回	持続可能な社会を追求する環境倫理学	環境倫理学の基本概念
第3回	人間中心主義の立場に立つ環境倫理学	自然保護から環境主義へ
第4回	人間中心主義克服の潮流	人間非中心主義の環境倫理
第5回	パトス中心主義	自然中心主義における感覚・感受性の意義
第6回	生命中心主義	あらゆる生命の内在的価値とそれへの倫理的配慮
第7回	生態系中心主義	生態系全体の道徳的価値の保護
第8回	環境プラグマティズム	環境倫理の実践的な公共哲学への志向
第9回	環境正義の思想	環境正義による公平な分配と社会的弱者の救済
第10回	環境倫理における動物解放論	シンガーとレーガンの「動物の権利」論
第11回	土地倫理	レオポルドの「土地倫理」思想における全体主義
第12回	ディープ・エコロジー	生命圏の中での全生命体平等主義の思想
第13回	エコフェミニズム	「リベラル・カルチュラル・ソーシャル・ソシヤリスト」のエコフェミニズムの思想
第14回	道徳的多元論と道徳的一元論	価値一元論と価値多元論の対立点とその批判根拠
第15回	現代環境倫理は何をめざすべきか	エコロジー的な持続可能な環境社会システムの構築

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

各授業で取り扱う環境倫理思想の基本文献を授業時に提示します。それを読み込んでおくことが、必要です。

### 【テキスト】

テキストは使用しません。講義時に適宜、資料を配布します。

### 【参考書】

参考書は、その都度の授業時に紹介します。

### 【成績評価基準】

積極的な授業参加を重視します。出席は最低でも8回以上が必要です。試験は、期末試験を1回、レポートは、1～2回を課します。それぞれを総合して判定します。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

「2012年度からの新設科目」

### 【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目です。

## 環境哲学基礎論

関口 和男

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：金 5

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

### 【授業のテーマ】

環境哲学とは、文字通り、環境について哲学すること、日常生活の中で疑問に感じないことに目を向けて、考え抜くことである。

### 【授業の到達目標】

現実の環境問題なるものは、その強い倫理的要請のゆえに、環境そのものについて考え抜くことをなかなか許さない状況にある。だがこのままでは、3・11以降の社会の現状に対応することができず、環境に関する論議はいつまでたっても、うわべだけの皮相的なものにとどまらざるを得ないと思われる。そこで当講義では、あえて環境政策的思考を避けて、環境そのものを徹底的に考え、そこに何を見出すことができるのか、受講生の諸君と体験していきたい。

[]

### 【授業の概要と方法】

双方向的な質疑応答を重視するので、一方的な講義にはしない。

[]

[]

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	現在の環境問題のおかれている思想状況について	3・11以降の環境運動の在るべき姿とは何かを考える意味を明確にする
第2回	「考える・哲学する」とはどうか。	思惟・判断・行為について説明し、「考える」ことの重要性を理解する。
第3回	環境哲学とは何か。	従来の様々な環境思想の長所・短所を明らかにし、これからの環境哲学の意味を明かにする。
第4回	基礎作業Ⅰ 意識と環境① 環境の仮説的定義づけと人間の観念	まず、環境という観念は何を意味するのかを考える。
第5回	基礎作業Ⅰ 意識と環境② 「わたし」と環境の相互作用	環境という意識が、どのように「わたし」に由来するか、そのプロセスを考える。
第6回	基礎作業Ⅰ 意識と環境③ 「わたしたち」と環境の相互作用	同上
第7回	基礎作業Ⅱ 空間と環境世界① 空間とは何か。	環境という観念の持つ空間性とは何かを考える。
第8回	基礎作業Ⅱ 空間と環境世界② 環境世界の仮想実在性について	仮想実在性という観念を通じて、環境世界の世界性を明らかにする
第9回	基礎作業Ⅲ 時間と環境世界① 時間とはなにか。	人間存在を根源的に規定する時間意識について考える。
第10回	基礎作業Ⅲ 時間と環境世界② 時間の世界性とは何か。	時間意識と環境世界との関係を、哲学的な観点から考える。
第11回	基礎作業Ⅳ 社会と環境世界① 共同体とは何か。	共同体と環境世界との関係を考える。
第12回	基礎作業Ⅳ 社会と環境世界② 正義とは何か。	共同体の正義と環境世界の正義と相異性について、昨今の「正義論」を参考にしつつ考える。
第13回	環境哲学がはらむ哲学的諸問題①	なぜ、いま、環境哲学なのか、という視点から諸問題を抽出する
第14回	環境哲学がはらむ哲学的諸問題②	同上
第15回	総括：環境とは何か。	人間環境学における環境哲学の位置について。

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

特に重要なのは、新聞の政治・経済・国際を毎日読んでおくこと。そのほか、哲学史関係の本を読むこと。

### 【テキスト】

テキストはありません。毎回、プリントを配布します。

### 【参考書】

講義中に適宜指示します。

### 【成績評価基準】

出席率と学期末のテストによる。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

質問はなるべく、授業時間中にするように。

### 【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目です。



## 日本環境史論 I

根崎 光男

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：月 3

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業のテーマ】

テーマ：近世日本の人間社会と自然環境

この講義は、人間と自然とのかかわりを、歴史的な視点から考えていきます。対象とする時代・地域は近世の日本です。このなかで、歴史史料の読解力や分析力を養い、人間社会が自然とどう向き合ってきたのかを、持続可能性という視点から考えていきます。

## 【授業の到達目標】

この講義は、日本の環境史を理解するのに必要なさまざまな学習スキルの習得と、歴史史料の読解などによって得られた歴史事実を論理的に組み立てる思考力を養います。これにより、現在の環境問題解決に資する歴史的教養を身につけます。また、情報源の把握や情報の価値判断の知識・技術の習得により、情報収集・分析力に関する就業力を育成します。

[]

## 【授業の概要と方法】

授業は講義形式で行います。

人間は自然とどのような関係を築いてきたのかを、主として日本の近世社会と、特に農村・漁村・山村の地域を事例としながら、開発と自然破壊、資源管理と利用、動物の保護と駆除、公害などの事例から考えていきます。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	日本環境史を学ぶ手法と方法、そしてその役割と意義を学習する
第2回	人の暮らしと山林利用	人の暮らしと山林との多様な関係を学習する
第3回	山林荒廃とその影響（1）	山林荒廃の要因を史料読解を通じて学習する
第4回	山林荒廃とその影響（2）	環境思想は山林荒廃の論理をどのように説いていたのかを学習する
第5回	山林保護政策の諸相（1）	幕府・諸藩などによる山林保護政策の地域的特色を学習する
第6回	山林保護政策の諸相（2）	長い歴史のなかで培われた山林保護の多様なあり方を学習する
第7回	植林政策の諸相と問題点	諸地域の植林政策を比較検討し、その地域差の特質を学習する
第8回	共有資源の所有と利用（1）	山野河海への訴訟における幕府の裁定基準を学習する
第9回	共有資源の所有と利用（2）	山野河海の入会地利用のあり方を学習する
第10回	狩猟と環境保全（1）	鷹狩りにみられる鷹場環境保全のあり方を学習する
第11回	狩猟と環境保全（2）	鷹狩りにみられる鳥類保護の諸相を学習する
第12回	鳥獣害とその対策（1）	鳥獣害の実態と「鳥獣威し」のあり方を学習する
第13回	鳥獣害とその対策（2）	鳥獣害対策および人間と鳥獣との共生関係を学習する
第14回	公害の発生とその対策（1）	公害の種類とその発生要因を学習する
第15回	公害の発生とその対策（2）	公害対策とその補償のあり方を学習する

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

前回の復習と次回の予習。特に、テキストの環境史料を読解しておくこと。

## 【テキスト】

『日本近世環境史料演習 改訂版』（根崎光男編、同成社、2011年）

## 【参考書】

必要に応じて随時紹介します。

## 【成績評価基準】

期末試験（100%）

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

歴史史料の読解が難しいという意見が寄せられています。確かに、これまでの学習で近世史料を読解する経験を持たなかった学生からすれば難しいといえるでしょう。ゆっくり読み、わかりやすく解説することを心がけていきます。

## 【学生が準備すべき機器他】

OHP

## 【関連の深いコース】

地域環境

## 日本環境史論 II

根崎 光男

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：月 3

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業のテーマ】

テーマ：江戸の都市環境

この講義は、大都市江戸の環境問題を歴史的に考えながら、その取り組みを検証し、江戸の都市環境の基礎的な知識を理解していきます。また、現在の東京の都市環境整備に資する歴史的教養を身につけます。

## 【授業の到達目標】

この講義は、日本の環境史を理解するのに必要なさまざまな学習スキルの習得と、歴史史料の読解などによって得られた歴史事実を論理的に組み立てる思考力を養います。これにより、現在の環境問題解決に資する歴史的教養を身につけます。また、情報源の把握や情報の価値判断の知識・技術の習得により、情報収集・分析力に関する就業力を育成します。

[]

## 【授業の概要と方法】

授業は講義形式で行います。

江戸時代になって將軍の城下町となったことにより発展していく江戸の町を、環境という視点から見ていきます。江戸の行政組織とコミュニティ、江戸の都市化と衣食住環境、物の再利用・再活用の特質、ゴミ問題・防災のシステム、癒やし空間の創出など、江戸の町での環境問題への取り組みを考えます。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	江戸の範囲、江戸の都市としての特質を学習する
第2回	將軍の城下町と江戸の地域構造（1）	江戸の都市化を城下町の建設、人口増大などの側面から学習する
第3回	將軍の城下町と江戸の地域構造（2）	江戸の都市計画を、環境思想との関連で学習する
第4回	行政と地域社会（1）	江戸の行政組織とその役割を学習する
第5回	行政と地域社会（2）	江戸の地域コミュニティのあり方を学習する
第6回	住民生活と衣食住環境（1）	住環境を身分という視点から学習する
第7回	住民生活と衣食住環境（2）	衣食住環境の特質や周辺地域との関連を学習する
第8回	物直し産業の発達（1）	物直し産業の業態とその発達理由・歴史評価を学習する
第9回	物直し産業の発達（2）	下肥の利用と近郊農業との関係、特に物質循環の視点から学習する
第10回	ゴミ問題とその対策（1）	ゴミの実態とゴミ問題への対策を、身分という観点から学習する
第11回	ゴミ問題とその対策（2）	町人地のゴミ処理システムを学習し、現在との連続性を理解する
第12回	火事と防災対策（1）	火災都市としての江戸における幕府の消防組織を学習する
第13回	火事と防災対策（2）	江戸の町における多様な防災対策を学習する
第14回	信仰・娯楽と癒やし空間（1）	江戸の生活と信仰・娯楽との関係性を学習する
第15回	信仰・娯楽と癒やし空間（2）	江戸の癒やし空間としての名所のあり方を学習する

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

前回の復習と次回の予習。特に、テキストの環境史料を読解しておくこと。

## 【テキスト】

『日本近世環境史料演習 改訂版』（根崎光男編、同成社、2011年）

## 【参考書】

『「環境」都市の真実』（根崎光男著、講談社+a新書、2008年）

その他、必要に応じて随時紹介します。

## 【成績評価基準】

期末試験（100%）

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

歴史史料の読解が難しいという意見が寄せられています。確かに、これまでの学習で近世史料を読解する経験を持たなかった学生からすれば難しいといえるでしょう。ゆっくり読み、わかりやすく解説することを心がけていきます。

## 【学生が準備すべき機器他】

OHP

## 【関連の深いコース】

地域環境

## ヨーロッパ環境史論 I

## 辻 英史

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：金 3

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業のテーマ】

ヨーロッパにおける人間の移動と社会環境の変化

## 【授業の到達目標】

近代社会の成立以来、人、モノ、情報などの移動する速度は加速の一途をたどり、現在では世界の至る所でかつてない規模でさまざまな「境界」の流動化をもたらしている。

本講義では、ヨーロッパを舞台に、この人間の大規模かつ急速な移動という現象を歴史学的に考察する。とくに、人間の移動が社会にどのような変化をもたらしたのか、また移動によって人間はどのように変わっていったのか、という問題について考えてみたい。

【】

## 【授業の概要と方法】

前期は、前・後半2つのセクションからなる。まず前半のセクションで前近代のさまざまな人間の移動の形態を考察し、続いて後半では近代に話を進め、19世紀の都市を中心にした人間の移動を扱う。さらに、補説としてヨーロッパからアメリカへの人の移動について論じる。

各セクションでは、最初に各時代のヨーロッパ社会の様子について概説をおこなったのち、人の移動に関するいくつかのトピックを提示し、それに沿って社会史・日常史研究の立場から解説する。毎回同時代の重要な文献（日本語訳を使用する）・図像・写真・映像などの史料を紹介する。また、それぞれのトピックに関係の深い文学・絵画・映画・音楽・建築といった芸術作品をとりあげて紹介していく。

【】

【】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	序論：人間と環境の交流史	なぜ歴史を学ぶのか？ 歴史学の基礎と「環境史」の目指すものについて。
第2回	中・近世の社会と人の移動①：概説	封建制・自治都市・キリスト教といった要素を手がかりに、中世と近世の時代を通観する。
第3回	中・近世の社会と人の移動②：巡礼	サンティアゴ巡礼とローマ巡礼などキリスト教世界における巡礼の盛衰をあつかう。
第4回	中・近世の社会と人の移動③：遍歴	中世の職人遍歴とその実態について。
第5回	中・近世の社会と人の移動④：放浪	飢い／ライ病患者／乞食／ジプシーなど、非定住の下層民たちの生活をさぐる。
第6回	近代のはじまりと人の移動①：概説	近代とは何か？ どのようにして始まったのか、について考える。
第7回	近代のはじまりと人の移動②：探検と探求	ヨーロッパの海外発展と啓蒙主義の出現について。
第8回	近代のはじまりと人の移動③：二重革命の時代	市民革命と産業革命によってもヨーロッパ社会における人の移動はどのように変化したか、を扱う。
第9回	近代ヨーロッパをめぐる人の移動①：概説	19世紀のヨーロッパの政治・経済・社会の発展について。
第10回	近代ヨーロッパをめぐる人の移動②：都市の発展	近代ヨーロッパにおける急速な工業化と都市への人口集中について。
第11回	近代ヨーロッパをめぐる人の移動③：都市社会問題の発生	都市における生活環境の急激な変化を経験した人々は、それにどのように対応したか、について。
第12回	近代ヨーロッパをめぐる人の移動④：世紀末のヨーロッパ社会	19世紀末から姿を現しはじめた大衆社会と、ヨーロッパ文化と世界の諸文化の交流について。
第13回	補説①：アメリカへの海外移住	19世紀までのあいだにヨーロッパから新大陸にわたった人々と、建国初期のアメリカ合衆国社会について。
第14回	補説②：新天地アメリカ	19世紀半ばにおこったヨーロッパからアメリカへの大量の人口移動について。
第15回	補説③：「旧移民」と「新移民」	19世紀の間にアメリカ社会における移民の形態はどのように変化したのか。

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

授業の進度に応じて、『世界の歴史』（中央公論新社）、『興亡の世界史』（講談社）、『世界史リブレット』（山川出版社）などの概説書の該当巻を読むと、授業内容への理解が深まるであろう。

## 【テキスト】

レジュメを配布する。

## 【参考書】

上記のほか、授業中に適宜指示する。

## 【成績評価基準】

授業への参加（30%）のほか、学期末の筆記試験（70%）による。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

特になし

## 【学生が準備すべき機器他】

プロジェクターにより画像・映像を見せる。

## 【その他】

・高校世界史の授業程度の知識を前提として授業を進めるが、高校で世界史を選択していなかった人や苦手だった人でも聴講は可能である。

・2011年度までに旧名称「人間環境特論（ヨーロッパ都市環境史論 I）」を修得済の場合、本科目は履修できない。再履修者は旧名称で登録すること。

## 【関連の深いコース】

地域環境、国際環境

## ヨーロッパ環境史論Ⅱ

### 辻 英史

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：金 3

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

#### 【授業のテーマ】

ヨーロッパにおける人間の移動と社会環境の変化

#### 【授業の到達目標】

近代社会の成立以来、人、モノ、情報などの移動する速度は加速の一途をたどり、現在では世界の至る所であってない規模でさまざまな「境界」の流動化をもたらしている。

本講義では、ヨーロッパを舞台に、この人間の大規模かつ急速な移動という現象を歴史学的に考察する。とくに、人間の移動が社会にどのような変化をもたらしたのか、また移動によって人間はどのように変わっていったのか、という問題について考えていく。

【】

#### 【授業の概要と方法】

後期では、主として 20 世紀以降のヨーロッパ社会における人の移動を扱う。2 つのセクションでそれぞれ 20 世紀の前・後半を扱う。前半では 2 つの世界大戦が、後半では冷戦が中心となる。最後に、冷戦が終結し 21 世紀を迎えた現代の社会や、そこでの人の移動のあり方についても論じてみたい。

各セクションでは、最初に各時代のヨーロッパ社会の様子について概説をおこなったのち、人の移動に関するいくつかのトピックを提示し、それに沿って社会史・日常史研究の立場から解説する。毎回同時代の重要な文献（日本語訳を使用する）・図像・写真・映像などの史料を紹介する。また、それぞれのトピックに関係の深い文学・絵画・映画・音楽・建築といった芸術作品をとりあげて紹介していく。

【】

【】

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	序論	近代以後のヨーロッパ社会における人の移動を考えるための諸前提について。
第 2 回	20 世紀の人の移動①：概説	20 世紀のヨーロッパ社会について概観する。
第 3 回	20 世紀の人の移動②：大都市からの脱出	自然の再発見と賛美、農村へのあこがれについて、ヴァンダーフォージェル運動と田園都市運動をとりあげて紹介する。
第 4 回	20 世紀の人の移動③：ユダヤ人問題 1	ユダヤ人とは？ ディアスポラから解放までの歴史を振り返る。
第 5 回	20 世紀の人の移動④：ユダヤ人問題 2	ユダヤ人と近代ヨーロッパ社会の共生と差別、流入と脱出の動き、シオニズム運動について。
第 6 回	世界大戦の時代と人の移動①：第一次世界大戦	大戦がもたらした社会の変化と、それに巻き込まれた人々の生活をさぐる。
第 7 回	世界大戦の時代と人の移動②：戦間期のヨーロッパ社会	大戦後のヨーロッパは不安定な危機の時代を迎えると同時に、社会は大きく変化し始めた。その様子を概観する。
第 8 回	世界大戦の時代と人の移動③：第二次世界大戦	世界規模での総力戦・絶滅戦争の展開について。
第 9 回	世界大戦の時代と人の移動④：ホロコースト	ナチ・ドイツによるユダヤ人殺害について。
第 10 回	世界大戦の時代と人の移動⑤：第二次世界大戦の終結	大戦末期から戦後初期の混乱するヨーロッパのなかで、人々はいかに行動したかを扱う。
第 11 回	20 世紀後半の人の移動①：ベルリンの壁の建設	米ソの対立、東西ドイツの分裂とベルリンの壁建設について。
第 12 回	20 世紀後半の人の移動②：東西冷戦の時代	西側自由主義社会の繁栄と、外国人移民問題の発生について。
第 13 回	20 世紀後半の人の移動③：東西冷戦の終結と人の移動	ベルリンの壁崩壊とドイツ統一、冷戦の終結とその帰結について。
第 14 回	20 世紀後半の人の移動④：多文化共生社会の行方	欧州統合の進展する中で、多様化する社会をヨーロッパ各国はいかに統合しようとしているのか。
第 15 回	まとめ：21 世紀の展望	現在のヨーロッパでは、グローバル化が進み自由な移動が可能になる一方で、テロリズムが広がり安全が脅かされるようにもなった。「リスク社会」は今後どこに向かうのだろうか。

#### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

授業の進度に応じて、『世界の歴史』（中央公論新社）、『興亡の世界史』（講談社）、『世界史リブレット』（山川出版社）などの概説書の該当巻を読むと、授業内容への理解が深まるであろう。

#### 【テキスト】

レジュメを配布する。

#### 【参考書】

上記のほか、授業中に適宜指示する。

#### 【成績評価基準】

授業への参加 (30%) のほか、学期末の筆記試験 (70 %) による。

#### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

特になし

#### 【学生が準備すべき機器他】

プロジェクターにより画像・映像を見せる。

#### 【その他】

・高校世界史の授業程度の知識を前提として授業を進めるが、高校で世界史を選択していなかった人や苦手だった人でも聴講は可能である。

・2011 年度までに旧名称「人間環境特論（ヨーロッパ都市環境史論Ⅱ）」を修得済の場合、本科目は履修できない。再履修者は旧名称で登録すること。

#### 【関連の深いコース】

地域環境、国際環境

## 環境人類学 I

安田 章人

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：金 5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

われわれ人類は、生態系および自然環境とともに進化し、食料を生産し、技術を発展させてきた。しかし、現代において、このような人類の活動は、地球がもつキャパシティを超えてしまうことが危惧されている。これに対し、本講義では、今日の喫緊の課題である地球環境問題を人類学の観点から分析、理解することをテーマとする。

## 【授業の到達目標】

本講義の到達目標は、地球環境問題を人類学に分析、理解するための 2 つの視座を身につけることにある。それは、第一に、人間社会と生態環境との関係史を理解するためのマクロな視座、第二に、地域生態系との具体的な関係のなかで営まれてきた人々の「日常的な生活実践」に注目したミクロな視座である。本講義では、マクロおよびミクロな視座から、人類学および環境学の基礎的な概念と知識を身につけることが到達目標となる。

I

## 【授業の概要と方法】

<一>われわれ人類の生物的側面・進化的特徴に焦点をあてるとともに、生態系・生物多様性のしくみを説明し、生態系におけるヒトとその他の生物との関係を解説する。<二>狩猟採集、農耕、牧畜、漁労といった生業活動を基盤としている社会とその文化をとりあげ、人間社会の多様性について解説する。<三>物質文明や技術の発展、食料生産などについてとりあげ、人類と（野生）生物の関係の歴史および今日的課題を解説する。講義は、基本的にプレゼンテーション形式でおこない、適宜、映像資料などを用いておこなう。講義で使用するパワーポイントのデータは、授業支援システムに事前にアップロードするので、各自、配付資料をプリントアウトし、持参すること。

I

I

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスおよび導入	当講義の日程および事務的連絡をおこなう。その後、講義の導入として、環境問題について概説する。
第 2 回	人類学と「環境学」	当講義の出発点として、環境学および人類学の研究史についての説明をおこなう。
第 3 回	人類進化と環境	人類進化と環境について説明し、生態系の中にヒトを位置づける基礎的情報を解説する
第 4 回	生態系と生物多様性	生態系と生物多様性に関する基礎的情報を解説し、環境問題との関係性について概説する。
第 5 回	狩猟採集社会の生活と環境問題	アフリカなどに生活する狩猟採集民の生活と彼らを取り巻く環境について解説する
第 6 回	栽培化と農耕化	我々人類はいかにして野生植物を栽培化し、農耕を発展させてきたのか、その人類史を解説する
第 7 回	農耕社会と環境	世界各地に分布する農耕民の生活と彼らを取り巻く環境について解説する
第 8 回	現代の農業と環境問題	現代における集約的な農業と環境問題について解説する
第 9 回	家畜化	食料生産において、農耕化と並んで重要な事項である家畜化の歴史について解説する
第 10 回	牧畜社会と環境	多様な自然環境に適応している牧畜民の生活と彼らを取り巻く環境について解説する
第 11 回	現代の畜産業と環境問題	現代における集約的な畜産業と環境問題について解説する
第 12 回	漁労社会と現代の漁業における環境問題	海洋および河川環境で漁労を生計の基盤としている人々の生活と、現代漁業と環境問題について解説する
第 13 回	都市社会と環境問題	現代の我々の多くが生活している都市における生活と、特に食料のグローバルゼーションについて解説する
第 14 回	結論	上記の講義内容を通して、ヒトと生態系、人類と地球環境の関係を人類学および環境学的視座から総括する。
第 15 回	試験	これまでの講義内容をもとにした論述試験をおこなう

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

自然科学、社会科学を問わず、地球環境問題に関する文献を渉猟すること。また、普段から新聞などに目を通し、メディアで取り上げられる地球環境問題に関する話題に精通しておくこと。広義に人と自然、人と野生生物の問題に関する研究集会に参加し、知見を広めること。

## 【テキスト】

特定の教科書はなし。参考文献は多数あるため、講義中に適宜提示する。

## 【参考書】

特定の教科書はなし。参考文献は多数あるため、講義中に適宜提示する。

## 【成績評価基準】

期末試験（70 点）

出席および毎回授業後に提出するコメントカード（30 点）

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

前年度のアンケートに書かれたコメントを参照にして、  
・コメントカードに書かれた質問やコメントには、時間の許す限り極力すべて答えます。  
・周りに迷惑をかける私語をおこなう学生には即時退室してもらいます。  
・前年度、最終回におこなった環境問題に関する概説を初回におこないます。

## 【学生が準備すべき機器他】

パソコン、パワーポイント、プロジェクター

## 【その他】

履修対象は 2～4 年とし、ひきつづき環境人類学 II を履修することを想定している。高校の地理・世界史・生物の知識をもち、さらに市ヶ谷基礎科目のうち本講義の内容と関連のあるもの（文化人類学、地理学、社会学、西洋史など）を履修しておくか、並行して履修することが望ましい。

## 【関連の深いコース】

国際環境



## 環境人類学Ⅱ

目黒 紀夫

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：金 5

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業のテーマ】

人間社会と生態環境との関係を理解するための人類学的な視座を身につける。具体的には、全地球的スケールの生態環境を舞台としてくりひろげられてきた「人類の自然史」というマクロな視座と、地域生態系との具体的な関係のなかで営まれている人々の「日常的な生活実践」というミクロな視座を獲得すること。

## 【授業の到達目標】

グローバル化が進展する今日において、自然保護・環境保全が具体的に展開されるミクロ（＝ローカル）な現場における人間社会と生態環境とのかわりがあり、いかにマクロ（＝ナショナルまたはグローバル）な政治政策や経済活動、社会変化の影響を受けながら実践されているのかを理解したうえで、さまざまな人・組織が協働して環境問題の解決を目指す環境ガバナンスのあり方について基本的な考えを理解すること。

[]

## 【授業の概要と方法】

(1) 地域社会が自然とのあいだに歴史的に培ってきた関係を「コモンズ＝みんなのもの」という切り口から紹介し、人びとがいかにして共同体的に自然資源の管理や生物多様性の保全を果たしてきたかを説明する。(2) コモンズを支える人と人の関係、人と自然とのかわりがどのように変容してきたのかについて、変容の理由と具体的な内容、変容後の現在における人びととコモンズの多様な関係のあり方を説明する。(3) コモンズをめぐる人と人、人と自然とのかわりが開発や保全によって破壊されてきた経緯を説明する。(4) 複数の国や地域におけるコモンズのあり方とその変容を具体的な事例として、さまざまな人・組織が協働しあって環境保全を進めていく「環境ガバナンス」の基本的な考え方を説明する。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	当講義の進め方の説明と教員の研究紹介
第2回	コモンズと「コモンズの悲劇」	今日の自然保護・環境保全を考えるうえで重要な「コモンズ＝みんなのもの」という考え方について説明
第3回	日本のコモンズ(1)：コモンズの利用	日本の農山村において山野や村の土地がコモンズとして共同体的に管理されてきた実態を説明
第4回	日本のコモンズ(2)：コモンズの変容	戦後日本の農山村においてコモンズとしての自然資源の利用がどのように変容してきたかを説明
第5回	日本のコモンズ(3)：現代のコモンズ	経済的価値が失われたコモンズにたいして現在でもかわりを持ちつづける人びとの動機やかわり方を説明
第6回	日本のコモンズ(4)：コモンズと開発	コモンズとしての自然環境が開発されることをめぐって生じる人・組織の対立について説明
第7回	日本のコモンズ(5)：コモンズと保全	外部者によってコモンズが環境保全の対象とされることで生じるローカルな問題を説明
第8回	熱帯のコモンズ(1)：熱帯林と焼畑	焼畑が熱帯林を破壊するというかつてのイメージの誤りと実際のコモンズとしての利用のされ方をインドネシアを事例に説明
第9回	熱帯のコモンズ(2)：焼畑農耕民と経済開発	熱帯林をコモンズとして共同体的に管理してきた焼畑農耕民の社会の変容・開発の経緯を説明
第10回	熱帯のコモンズ(3)：熱帯林とグローバル経済	焼畑農耕民にとつてのコモンズである熱帯林の開発がグローバルな商品経済の影響を強く受けてきたことを説明
第11回	サバンナのコモンズ(1)：グローバル・コモンズとしての野生動物	アフリカの野生動物を対象とするグローバルな保全の歴史と現在の取り組みについて説明
第12回	サバンナのコモンズ(2)：野生動物保全と地域社会	野生動物と共存してきたとされる地域社会が保全政策の影響をどのように受けているのかを説明
第13回	環境ガバナンス	複雑化・多様化・重層化する環境問題の解決を目指す環境ガバナンスの概念と実際の状況を説明
第14回	まとめ	本講義の内容を振り返るとともに環境人類学の視点・考え方について説明

## 第15回 試験

講義中で説明した基礎的な語句や事実関係を問う問題プラス特定の環境問題にかんする記述問題を問う

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

期末試験では、講義で学習した環境人類学的な視点から特定の環境問題を総合的に分析・考察する記述問題を提出する。この問題に回答するためには、講義で取り上げた内容を丸暗記するだけでは十分な回答は不可能と思われるので、講義内で紹介する参考文献や関係するテレビ番組・映画（DVD）を用いて授業時間外に自主的に情報を収集し覚えておくことが求められる。

## 【テキスト】

特定の教科書はなし。

## 【参考書】

参考文献は多数あるため、講義中に適宜提示する。

## 【成績評価基準】

期末試験（100点）

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

地域社会と生態環境の関係、コモンズのあり方は地域や環境が異なれば大きく変わってくるものだが、そのいっぽうで、自然に依存して暮らす人びとの価値観や歴史的なコモンズとのかかわりの変化については、違う国・地域であっても意外と共通点が多かったりもする。一見するとまったく異なる文化や環境のもとで暮らしているように見える人びとのあいだに存在する異同について、より説明を充実させていく方針である。

## 【学生が準備すべき機器】

プロジェクター、DVD再生機

## 【その他】

履修対象は2～4年とするが、3年次以降での履修を推奨する。環境人類学Ⅰを履修していることを前提として講義をすすめる。高校の地理・世界史・生物の知識をもち、さらに市ヶ谷基礎科目のうち本講義の内容と関連のあるもの（文化人類学、社会学、西洋史・東洋史など）を履修しておくか、並行して履修することが望ましい。

## 【関連の深いコース】

国際環境

## 人間環境特論（ヨーロッパ都市環境史論Ⅰ）

## 辻 英史

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：金 3

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業のテーマ】

ヨーロッパにおける人間の移動と社会環境の変化

## 【授業の到達目標】

近代社会の成立以来、人、モノ、情報などの移動する速度は加速の一途をたどり、現在では世界の至る所であつてない規模でさまざまな「境界」の流動化をもたらしている。

本講義では、ヨーロッパを舞台に、この人間の大規模かつ急速な移動という現象を歴史学的に考察する。とくに、人間の移動が社会にどのような変化をもたらしたのか、また移動によって人間はどのように変わっていったのか、という問題について考えてみたい。

[]

## 【授業の概要と方法】

前期は、前・後半2つのセクションからなる。まず前半のセクションで前近代のさまざまな人間の移動の形態を考察し、続いて後半では近代に話を進め、19世紀の都市を中心にした人間の移動を扱う。さらに、補説としてヨーロッパからアメリカへの人の移動について論じる。

各セクションでは、最初に各時代のヨーロッパ社会の様子について概説をおこなったのち、人の移動に関するいくつかのトピックを提示し、それに沿って社会史・日常史研究の立場から解説する。毎回同時代の重要な文献（日本語訳を使用する）・図像・写真・映像などの史料を紹介する。また、それぞれのトピックに関係の深い文学・絵画・映画・音楽・建築といった芸術作品をとりあげて紹介していく。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	序論：人間と環境の交流史	なぜ歴史を学ぶのか？ 歴史学の基礎と「環境史」の目指すものについて。
第2回	中・近世の社会と人の移動①：概説	封建制・自治都市・キリスト教といった要素を手がかりに、中世と近世の時代を通観する。
第3回	中・近世の社会と人の移動②：巡礼	サンティアゴ巡礼とローマ巡礼などキリスト教世界における巡礼の盛衰をあつかう。
第4回	中・近世の社会と人の移動③：遍歴	中世の職人遍歴とその実態について。
第5回	中・近世の社会と人の移動④：放浪	飢い／ライ病患者／乞食／ジプシーなど、非定住の下層民たちの生活をさぐる。
第6回	近代のはじまりと人の移動①：概説	近代とは何か？ どのようにして始まったのか、について考える。
第7回	近代のはじまりと人の移動②：探検と探求	ヨーロッパの海外発展と啓蒙主義の出現について。
第8回	近代のはじまりと人の移動③：二重革命の時代	市民革命と産業革命によってもヨーロッパ社会における人の移動はどのように変化したか、を扱う。
第9回	近代ヨーロッパをめぐる人の移動①：概説	19世紀のヨーロッパの政治・経済・社会の発展について。
第10回	近代ヨーロッパをめぐる人の移動②：都市の発展	近代ヨーロッパにおける急速な工業化と都市への人口集中について。
第11回	近代ヨーロッパをめぐる人の移動③：都市社会問題の発生	都市における生活環境の急激な変化を経験した人々は、それにどのように対応したか、について。
第12回	近代ヨーロッパをめぐる人の移動④：世紀末のヨーロッパ社会	19世紀末から姿を現しはじめた大衆社会と、ヨーロッパ文化と世界の諸文化の交流について。
第13回	補説①：アメリカへの海外移住	19世紀までのあいだにヨーロッパから新大陸にわたった人々と、建国初期のアメリカ合衆国社会について。
第14回	補説②：新天地アメリカ	19世紀半ばにおこったヨーロッパからアメリカへの大量の人口移動について。
第15回	補説③：「旧移民」と「新移民」	19世紀の間にアメリカ社会における移民の形態はどのように変化したのか。

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

授業の進度に応じて、『世界の歴史』（中央公論新社）、『興亡の世界史』（講談社）、『世界史リブレット』（山川出版社）などの概説書の該当巻を読むと、授業内容への理解が深まるであろう。

## 【テキスト】

レジュメを配布する。

## 【参考書】

上記のほか、授業中に適宜指示する。

## 【成績評価基準】

授業への参加（30%）のほか、学期末の筆記試験（70%）による。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

特になし

## 【学生が準備すべき機器他】

プロジェクターにより画像・映像を見せる。

## 【その他】

高校世界史の授業程度の知識を前提として授業を進めるが、高校で世界史を選択していなかった人や苦手だった人でも聴講は可能である。

## 【関連の深いコース】

地域環境、国際環境

## 人間環境特論（ヨーロッパ都市環境史論Ⅱ）

### 辻 英史

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：金 3

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

#### 【授業のテーマ】

ヨーロッパにおける人間の移動と社会環境の変化

#### 【授業の到達目標】

近代社会の成立以来、人、モノ、情報などの移動する速度は加速の一途をたどり、現在では世界の至る所でかつてない規模でさまざまな「境界」の流動化をもたらしている。

本講義では、ヨーロッパを舞台に、この人間の大規模かつ急速な移動という現象を歴史学的に考察する。とくに、人間の移動が社会にどのような変化をもたらしたのか、また移動によって人間はどのように変わっていったのか、という問題について考えていく。

【】

#### 【授業の概要と方法】

後期では、主として 20 世紀以降のヨーロッパ社会における人の移動を扱う。2 つのセッションでそれぞれ 20 世紀の前・後半を扱う。前半では 2 つの世界大戦が、後半では冷戦が中心となる。最後に、冷戦が終結し 21 世紀を迎えた現代の社会や、そこでの人の移動のあり方についても論じてみたい。

各セッションでは、最初に各時代のヨーロッパ社会の様子について概説をおこなったのち、人の移動に関するいくつかのトピックを提示し、それに沿って社会史・日常史研究の立場から解説する。毎回同時代の重要な文献（日本語訳を使用する）・図像・写真・映像などの史料を紹介する。また、それぞれのトピックに関係の深い文学・絵画・映画・音楽・建築といった芸術作品をとりあげて紹介していく。

【】

【】

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	序論	近代以後のヨーロッパ社会における人の移動を考えるための諸前提について。
第 2 回	20 世紀の人の移動①：概説	20 世紀のヨーロッパ社会について概観する。
第 3 回	20 世紀の人の移動②：大都市からの脱出	自然の再発見と賛美、農村へのおこがれについて、ヴァンダーフォージェル運動と田園都市運動をとりあげて紹介する。
第 4 回	20 世紀の人の移動③：ユダヤ人問題 1	ユダヤ人とは？ ディアスポラから解放までの歴史を振り返る。
第 5 回	20 世紀の人の移動④：ユダヤ人問題 2	ユダヤ人と近代ヨーロッパ社会の共生と差別、流入と脱出の動き、シオニズム運動について。
第 6 回	世界大戦の時代と人の移動①：第一次世界大戦	大戦がもたらした社会の変化と、それに巻き込まれた人々の生活をさぐる。
第 7 回	世界大戦の時代と人の移動②：戦間期のヨーロッパ社会	大戦後のヨーロッパは不安定な危機の時代を迎えると同時に、社会は大きく変化し始めた。その様子を概観する。
第 8 回	世界大戦の時代と人の移動③：第二次世界大戦	世界規模での総力戦・絶滅戦争の展開について。
第 9 回	世界大戦の時代と人の移動④：ホロコースト	ナチ・ドイツによるユダヤ人殺害について。
第 10 回	世界大戦の時代と人の移動⑤：第二次世界大戦の終結	大戦末期から戦後初期の混乱するヨーロッパのなかで、人々はいかに行動したかを扱う。
第 11 回	20 世紀後半の人の移動①：ベルリンの壁の建設	米ソの対立、東西ドイツの分裂とベルリンの壁建設について。
第 12 回	20 世紀後半の人の移動②：東西冷戦の時代	西側自由主義社会の繁栄と、外国人移民問題の発生について。
第 13 回	20 世紀後半の人の移動③：東西冷戦の終結と人の移動	ベルリンの壁崩壊とドイツ統一、冷戦の終結とその帰結について。
第 14 回	20 世紀後半の人の移動④：多文化共生社会の行方	欧州統合の進展する中で、多様化する社会をヨーロッパ各国はいかに統合しようとしているのか。
第 15 回	まとめ：21 世紀の展望	現在のヨーロッパでは、グローバル化が進み自由な移動が可能になる一方で、テロリズムが広がり安全が脅かされるようにもなった。「リスク社会」は今後どこに向かうのだろうか。

#### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

授業の進度に応じて、『世界の歴史』（中央公論新社）、『興亡の世界史』（講談社）、『世界史リブレット』（山川出版社）などの概説書の該当巻を読むと、授業内容への理解が深まるであろう。

#### 【テキスト】

レジュメを配布する。

#### 【参考書】

上記のほか、授業中に適宜指示する。

#### 【成績評価基準】

授業への参加（30%）のほか、学期末の筆記試験（70%）による。

#### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

特になし

#### 【学生が準備すべき機器他】

プロジェクターにより画像・映像を見せる。

#### 【その他】

高校世界史の授業程度の知識を前提として授業を進めるが、高校で世界史を選択していなかった人や苦手だった人でも聴講は可能である。

#### 【関連の深いコース】

地域環境、国際環境

## 日本美術の系譜

豊田 和乎

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：火 4

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

### 【授業のテーマ】

本講義では、日本美術史全体の流れを念頭におきつつ、その中で特に近代日本画に焦点をあわせる。各時代の美術を学び摂取することで新日本画の創造を目指した近代日本画壇の発展の歴史をたどり、近代日本画の美術史的な意義を考察するとともに、絵画に対する読解力を養う。「日本画」という、時代的、地域的に極めて限定的な絵画のジャンルが、日本美術史上どのような意義を持っているのかということ、人々の暮らしおよび社会との関係に考慮にいれつつ考察していく。

### 【授業の到達目標】

史料講読などを通じて、近代日本画に関するさまざまな用語の意味を理解し、その発展の歴史に関する基礎的知識を身につけることを目指す。さらに、講義でとりあげる絵画に関する意見を表現するトレーニング（アンケート方式、数回程度実施予定）などを通して、近代日本画の読解力を養うことを到達目標とする。

【】

### 【授業の概要と方法】

授業では、近代における「日本画」の成立とその歴史的経過をふまえ、近代日本画の系譜が、日本美術史上どのような意義をもっているのかを検討する。その際、多数の近代日本画作品の画像を紹介する。さらに絵画のほかにも、美術史上の出来事、作者の履歴や制作態度などを探る手がかりとなる史料も利用する。最低限の素養として、絵画に関する事項を丹念に調べる姿勢とともに、史料読解に積極的に取り組む姿勢が必要となる。

【】

【】

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	日本美術のながれ	講義の導入として、日本美術史の全体像を概観する。
第2回	日本美術の一系譜としての近代日本画	講義の導入として、日本美術史の中で、近代日本画の占める位置、定義や概略を学習する。
第3回	近代日本画のイメージ	引き続き導入として、現代の私たちと、近代日本画との接点を考察する。
第4回	近代日本画のすがた、かたち	作品制作の際に用いられる材料や、作品の装丁方法など、近代日本画作品についての基礎的知識を共有する。
第5回	近代日本画の誕生	明治初期における「日本画」の誕生の経緯を概観する。
第6回	懐古趣味の醸成と日本画	「日本画」誕生の経緯に関連して、明治10年代における文化史、美術史の動向について考察する。
第7回	東京美術学校の開校	東京美術学校開校前後の画壇の状況を概観する。
第8回	近代日本画壇の勢力～東京画壇の新派と旧派	明治末、とりわけ明治40年の文展開設の前後における、東京画壇の状況を概観する。
第9回	近代日本画壇の勢力～京都画壇	明治末、とりわけ明治40年の文展開設の前後における、京都画壇の状況を概観する。
第10回	大正期の日本画壇	大正期の近代日本画壇の状況を概観し、その意義について考察する。
第11回	法政大学と再興院展	日本美術院の再興に焦点をあわせ、大正期の近代日本画壇の新しい動きについて考察する。
第12回	金鈴社と国画創作協会	金鈴社と国画創作協会に焦点をあわせ、大正期の近代日本画壇の新しい動きについて考察する。
第13回	文、帝展の佳作	大正期の官展の変容と画壇の発展について概観する。
第14回	近代日本画と洋画	近代美術史上、近代日本画と言わば表裏の関係にあった近代洋画の歴史を概観し、大正末から昭和初期にかけての両者の関係を考察する。
第15回	近代日本画と美術のパトロンたち／まとめ	近代日本画の発展の歴史を、その後援者たちが果たした役割をもとに概観する。まとめとして、日本美術史における近代日本画の意義を考察する。

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

講義において、必要に応じて配布されるプリントの内容を理解することが必要となる。準備学習としては、プリントに引用されている史料等を読み、聞き覚えのない用語の有無を把握し、出来る限り意味を調べておくことなどが必要となる。

### 【テキスト】

テキストは、特に用いない。必要に応じて、プリント等を配付する。

### 【参考書】

小林忠『原色現代日本の美術 第2巻 日本美術院』1979年、小学館／内山武夫『原色現代日本の美術 第3巻 京都画壇』1978年、小学館／細野正信『原色現代日本の美術 第4巻 東京画壇』1978年、小学館／高階秀爾、陰里鉄郎、田中日佐夫・編『日本美術全集 第22巻 洋画と日本画』1992年、講談社／根崎光男・監、講談社野間記念館、財団法人野間文化財団・編『美のながれ — 講談社野間記念館名品図録』2005年、財団法人野間文化財団。このほか、講義に関連のある美術展覧会等の情報とともに、講義の中で随時紹介する。

### 【成績評価基準】

期末試験（試験期間中）の成績による。期末試験では、近代日本画に関する基礎的知識と、近代日本画作品を解説するための読解力との、それぞれの修得の到達度を問うこととなる。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

講義の各回において、できるだけ多くの近代日本画作品の画像を紹介していきます。

### 【その他】

講義では、場合によっては、聞き覚えのない美術用語、歴史用語などが飛び交うことにもなるかと思いますが、せっかく受講する以上は、それら用語も丹念に調べるなど、積極的に参加することを期待します。

### 【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目である。



## 自然環境科学の基礎（化学）

石井 利典

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：土2

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

### 【授業のテーマ】

自然環境科学を今後より高度により専門的に学ぶためには、化学理論や化学計算方法の理解と習得が必須となります。物質計算や溶液濃度計算などの基礎的内容から溶液の緩衝作用やDO（溶存酸素量）、COD（化学的酸素要求量）の測定原理などの応用例までを問題演習形式で解説してゆきます。

### 【授業の到達目標】

高等学校で履修する「化学Ⅰ」および「化学Ⅱ」を大学受験科目にしていなかった受講者が、「環境科学Ⅰ」「環境科学Ⅱ」「環境科学Ⅲ」などの科目を受講するときに必要とする、基礎化学理論や基本化学計算を習得することを旨とします。

[]

### 【授業の概要と方法】

自然環境科学をより専門的に学ぶために必要な、化学理論や計算法を問題演習を中心に解説します。

[]

[]

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	自然環境科学の基礎（化学）の内容説明	授業内容、授業の進め方、評価方法など説明
第2回	物質の構成（1）	物質の成分、物質の構成元素
第3回	物質の構成（2）	原子の構造、元素の周期律
第4回	物質の構成（3）	化学結合の種類
第5回	物質の構成（4）	物質計算、溶液濃度計算
第6回	物質の変化（1）	化学反応式と量的関係
第7回	物質の変化（2）	反応熱と熱化学方程式、ヘスの法則を利用した反応熱計算
第8回	物質の変化（3）	反応速度と活性化エネルギー
第9回	物質の変化（4）	化学平衡
第10回	物質の変化（5）	酸と塩基、pH、中和滴定
第11回	物質の変化（6）	弱酸、弱塩基の電離平衡
第12回	物質の変化（7）	緩衝溶液、塩の加水分解反応
第13回	物質の変化（8）	酸化と還元
第14回	物質の変化（9）	酸化還元滴定
第15回	まとめ	期末試験対策問題演習、質疑応答

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

前回授業の内容に関する簡単な確認テスト（10分程度）を毎授業時に実施します。前回授業の内容を簡単に復習しておいてください。

### 【テキスト】

特にテキストは指定しません。授業時に配布するプリントを使用します。

### 【参考書】

第1回授業時に紹介します。

### 【成績評価基準】

期末試験および毎授業時に実施する確認テスト（10分程度）の総合点で評価します。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

2012年度より担当

### 【その他】

本科目は「環境科学入門」の代替科目として再履修可能です。

### 【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目です。

## 自然環境科学の基礎（生物学）

宮川 路子

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：木6

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

### 【授業のテーマ】

本講義では、高校の生物学の知識を基本とし、生命とはなにかを大きなテーマとして、幅広い知識を学習し、生物と自然環境との関わりを理解していく。

### 【授業の到達目標】

学生は、幅広い基礎知識を身に付けることにより、新聞やニュースにより提供される科学情報を適切に理解することが可能となる。

また、自分自身の身体の構造、仕組みを理解し、健康を保つうえで必要となる事柄を習得する。

健康の保持増進、疾病の予防を最終目標とする。

[]

### 【授業の概要と方法】

生命とその探究をキーワードに、細胞と個体の成り立ち、進化、生殖、遺伝、恒常性、植物、感覚・知覚などの古典的知識から、再生医療など最新の話題まで幅広いテーマを取り上げる。

[]

[]

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1回目	講義ガイダンス：	科目テーマ・授業の進め方・テキスト・評価方法の解説
2回目	細胞と個体の成り立ち	生命の単位、細胞のはたらき
3回目	生殖と発生	動物と植物の生殖
4回目	生命の設計図	遺伝子（DNAとRNA）
5回目	遺伝	遺伝の法則
6回目	発がんの仕組み	DNAの自己複製メカニズム
7回目	刺激の受容と反応	感覚器と受容器
8回目	内部環境の恒常性	体液、自律神経系とホルモンの働き
9回目	植物	植物の成長と生活
10回目	生体の機能	生体のタンパク質と化学反応、酵素
11回目	進化について	進化学説
12回目	発達	発達の成り立ち
13回目	学習	学習の成り立ち
14回目	バイオテクノロジー	再生医療（幹細胞・ES細胞・IPS細胞）
15回目	試験	授業内試験

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

新聞・ニュース等の科学関連の記事を読むこと。

### 【テキスト】

毎回授業内にてテーマに沿ったプリントを配布する。

### 【参考書】

参考図書は授業内にて紹介する。

### 【成績評価基準】

学期末に授業内試験を行う。持ち込み不可。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

本年度からの講義のため、次年度以降記載する。

### 【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント

### 【その他】

本科目は「環境科学入門」の代替科目として再履修可能である。

### 【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目である。

## 自然環境科学の基礎（生態学）

高田 雅之

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：木 5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

### 【授業のテーマ】

生態学とは、生物の暮らし方や、生物と環境との関係を理解する学問です。生態学の基礎を学ぶことで、人間の生存基盤である自然環境との向き合い方を考え、ひいては持続的な社会を築く方策を探る能力を養うことにつながっていきます。本講義では、生き物を中心とした自然の仕組みについて基本的な知識を身に付けることをテーマとします。

### 【授業の到達目標】

以下の3点について知識と理解を深め、その要点を説明できることを目標とします。

- ①主な動植物種および群集の生態
- ②様々な生態系の特徴と取り巻く課題
- ③生態学の応用による新たな学問分野

【】

### 【授業の概要と方法】

「主な動物（鳥類と哺乳類を中心に）と植物に関する種および群集生態」、「進化と適応」、「主な生態系の特徴と構造・機能」「生態系をめぐる課題」「生態学の応用と発展」について学びます。国内外の研究事例やエピソードを交えたプレゼンテーションにより、基礎的な知識を積み重ねていきます。

【】

【】

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスと序論	講義の進め方、生態学とは何か、生態学の歴史と役割
第2回	鳥類の生態	日本の鳥類相、生息環境に応じた生態の特徴、水鳥の鉛中毒問題
第3回	動物の行動生態（1）	日本の動物相、動物と植物の関係、食物連鎖
第4回	動物の行動生態（2）	なわばり行動、社会行動、共生とすみわけ
第5回	植物の生態	日本の植物相、生活型と生存戦略、種子の散布
第6回	進化と適応	進化と絶滅史、生物の分類、種の分化、適応進化
第7回	森林生態系	森林の仕組みと機能、森の生物、物質の循環
第8回	河川・湖沼生態系	日本の水生生物相、湖沼型と栄養、ため池、河川の落下昆虫
第9回	湿地・草地生態系	日本の主な湿地と草原、生態系を支える仕組み、特異な生物相
第10回	海洋・沿岸生態系	海棲哺乳類、魚類と資源、海鳥の生態、サンゴ礁と海藻・海草
第11回	島嶼生態系	固有の生物相、小笠原諸島・南西諸島などの事例
第12回	都市・里山・農地生態系	都市内緑地の生物相、里山の自然、ヨシの利用、水田の生物
第13回	貴重種と外来種	レッドリストとブルーリスト、種の絶滅、外来種による生態系攪乱
第14回	生態学の応用と発展	景観生態学、応用生態工学、保全生態学、自然再生
第15回	まとめ	生物多様性、地球という生態系

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

日頃接するメディアでの自然環境に関する話題や、身の回りで目にする生き物に関心を払うよう努めてください。

### 【テキスト】

特定のものはありません。講義において適宜資料を配布します。

### 【参考書】

講義において随時紹介します。

### 【成績評価基準】

期末試験により評価します。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

知識の詰め込みとまらないよう、具体的な事例や挿話を交えながら、できる限り丁寧に説明し理解を促していきます。

### 【その他】

- ・講義改善の目的で、時々感想などを記述してもらうことがあります。
- ・本科目は「環境科学入門」の代替科目として再履修可能です。

### 【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目です。

## 自然環境論 I

井上 奉生

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：木 3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

### 【授業のテーマ】

地球の自然環境を構成する要素のうち以下の授業計画い示す各項目について解説することをテーマとする。

### 【授業の到達目標】

自然環境の諸要素の基礎的知識を習得することにある。

【】

### 【授業の概要と方法】

自然環境の諸要素は個々バラバラにあるのではなく、相互に密接な関連を持ちながら地球上に様々な自然環境地域をつくりだしていることを平易に解説する。なお、各回の授業は複数回にまたがる場合もある。

【】

【】

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	地球について	地球に関する諸元、地球観の変遷
第2回	大気について（1）	大気の組成、大気の鉛道分布、気圧、気団、前線 等
第3回	大気について（2）	大気の大循環、様々な風、日本および世界の気候、温暖化の影響
第4回	地形をつくる作用（1）	内的営力（地殻変動）等
第5回	地形をつくる作用（2）	外的営力（河川、湖沼、地下水、氷河、風）等
第6回	火山	地球上の分布、噴出物、形態、火山前線 等
第7回	地震	P波、S波、マグニチュード、震度、活断層 等
第8回	地質・岩石	日本の地質、堆積岩、火成岩、深成岩、石英の含有量による分類 等
第9回	土壌	世界および日本の土壌、土壌の生成過程、生成因子 等
第10回	植生	世界および日本の植生分布、自然植生、代償植生、植生遷移 等
第11回	動物	地理的分布、日本の外来種、絶滅種 等
第12回	自然と生活（1）	開発と自然環境の変貌
第13回	自然と生活（2）	災害と防災
第14回	総括（1）	第1回～第7回までの総括
第15回	総括（2）	第8回～第13回までの総括

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

適宜、授業において指示する。

### 【テキスト】

特定せず。進行回の内容についてプリントを配布する。

### 【参考書】

適宜、参考書は紹介する。

### 【成績評価基準】

期末試験

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

特になし

### 【その他】

- ・各項目に関係するトピック的ニュースがあった場合には内容を変更することもある。
- ・地図帳を持参すること。
- ・配布したプリントはファイルして忘れず必ず持参すること。
- ・本科目は「環境科学入門」の代替科目として再履修可能である。ただし、本科目を修得済の場合、「環境科学入門」の代替として履修することはできない。

### 【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目である。

## 自然環境論Ⅱ

### 井上 奉生

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：金 4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

#### 【授業のテーマ】

河川・湖沼・地下水・氷雪等いわゆる「陸水」について解説することをテーマとする。

#### 【授業の到達目標】

「陸水」の諸項目の基礎的知識を習得することにある。

[]

#### 【授業の概要と方法】

「陸水」の物理、化学、生物的性状等の基礎的側面および利水、治水、親水機能や環境問題等応用的側面について歴史性、地域性をふまえて調査事例とともに平易に解説する。

[]

[]

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	陸水学とは	水の惑星地球、生物と水、人間と水の係り方
第2回	河川（1）	水質（日本と世界の比較）、流量、物質の流送、洪水等
第3回	河川（2）	塩水遡上およびその実態、酸性河川の実態
第4回	湖沼	成因別分類、熱的・生産力的分類、水温、水質
第5回	地下水（1）	地下水の基本的性格、地形と地下水、植生と地下水
第6回	地下水（2）	地下水の開発、利用と障害（地盤沈下等）、地下水保全
第7回	温泉	泉質、地質と温泉、日本人と温泉、海外の温泉、効能等
第8回	氷雪、永久凍土	現在と過去の氷雪分布、永久凍土の分布
第9回	陸水の生態系	食物連鎖、プランクトン、底生生物、淡水魚類等
第10回	人為による陸水の変化（1）	鉱業活動、農林・畜産・水産業等
第11回	人為による陸水の変化（2）	農業
第12回	人為による陸水の変化（3）	工業活動、都市活動、観光 その他
第13回	人為による陸水の変化（4）	水質汚染（自浄作用）等
第14回	総括（1）	第1回～第7回までの総括
第15回	総括（2）	第8回～第13回までの総括

#### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

適宜、授業において指示する。

#### 【テキスト】

特定せず。進行回の内容についてプリントを配布する。

#### 【参考書】

適宜、参考書を紹介する。

#### 【成績評価基準】

期末試験

#### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

特になし

#### 【その他】

各項目に関係するトピック的ニュースがあった場合には内容を変更することもある。

地図帳を持参すること。

配布したプリントはファイルして忘れず必ず持参すること。

#### 【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目である。

## 自然環境論Ⅲ

### 井上 奉生

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：木 3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

#### 【授業のテーマ】

地球表面の約7割は海洋で覆われている。深さを平均すると約3800mにも達する。その体積は13.72 km<sup>3</sup>である。このような膨大な海洋に関する知識はごくわずかである。また、日本人にとって海洋は極めて身近な存在である。このような意味で、「海洋環境」をテーマとする。

#### 【授業の到達目標】

現在までに理解および認識されている範囲で「海洋環境」の基礎知識を習得することにある。

[]

#### 【授業の概要と方法】

以下の授業計画にある各項目について平易に解説する。なお、各回の授業は複数回にまたがる場合もある。

[]

[]

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	海洋研究史	ヨーロッパ、地中海、大西洋、インド洋、太平洋
第2回	海図（1）	海図の歴史、海図の見方、海図の記号、基準水位等
第3回	海図（2）	等深線作図作業
第4回	海岸地形	各種の海岸地形
第5回	海底地形	干潟、大陸棚、大陸斜面、大洋底、海底火山等
第6回	プレートテクトニクス	海嶺、海溝、ホットスポット、エルニーニョ等
第7回	海水の性質	水温、水質（塩分濃度）等
第8回	海流	世界の海流、黒潮、親潮等
第9回	波	波浪、潮汐、津波等
第10回	海洋の生物	生態系（食物連鎖、栄養段階）、プランクトン、ネクトン、ベントスの説明
第11回	海洋の生産力（水産資源含む）	沿岸域、外洋域、湧昇域、TAC等
第12回	鉱物資源	石油、天然ガス、熱水鉱床、マンガン団塊、メタンハイドレード等
第13回	海洋汚染	汚染物質の種類およびその移動
第14回	海洋開発	日本および諸外国（特にアメリカ）
第15回	総括	第1回～第14回の総括

#### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

適宜、授業において指示する。

#### 【テキスト】

特定せず。進行回の内容についてプリントを配布する。

#### 【参考書】

適宜、参考書を紹介する。

#### 【成績評価基準】

期末試験

#### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

特になし。

#### 【その他】

各項目に関係するトピック的ニュースがあった場合には内容を変更することもある。

地図帳を持参すること。

配布したプリントはファイルして忘れず必ず持参すること。

#### 【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目である。

## エネルギー論 I

北川 徹哉

カテゴリ：基幹 | 配当年次/単位：1～4年/2単位

開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：火 2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

エネルギーの基礎ならびにエネルギーと社会との関係がテーマである。

## 【授業の到達目標】

1. エネルギーと人間生活、社会との結びつきを説明できる。
2. 各種エネルギー資源の特徴とその利用方法、原理について説明できる。
3. 現代のエネルギーの利用状況と国際的な動向を説明できる。

[]

## 【授業の概要と方法】

エネルギーは私たちの生活や社会、経済と密接にリンクしているとともに、近年の環境への配慮の重要性の高まりを背景に、エネルギー開発・利用のあり方がより一層注目されている。本講義においては、エネルギーの資源の特徴や流れ、エネルギー関連の基礎原理、発電形態を学ぶとともに、我が国および諸外国のエネルギーの現状について知る。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	エネルギーとは	エネルギーの定義と歴史、世界のエネルギー情勢
第2回	エネルギーの資源、流通、消費	1次エネルギーと2次エネルギー、各種資源の輸入と流通、各種エネルギーの消費動向
第3回	エネルギーに関連する量、単位	熱量、仕事、パワー、電力量などの意味と表現
第4回	熱とエネルギー	エネルギー保存とジュールの実験
第5回	熱力学の法則	サイクルとは何か、熱力学第1・第2・第3法則
第6回	カルノーサイクルと熱効率	カルノーサイクルの構成、サイクルがする仕事と効率
第7回	エントロピー	エントロピーとは何か
第8回	熱エネルギーの移動	エントロピーと熱との関係、エントロピー増大の法則
第9回	熱から電力への変換	水の性質、発電のためのサイクル
第10回	電力の需要と供給	送電・配電、電力の需給バランス
第11回	火力発電所の仕組み	火力発電の種類、火力発電所の構造
第12回	原子力とは	原子の構造、核分裂、核燃料
第13回	原子力発電所の仕組み	原子炉の種類、原子力発電所の構造
第14回	核燃料サイクル、放射性廃棄物	プルサーマル、高速増殖炉、使用済核燃料の処分
第15回	原子力発電の安全性と国際組織	多重防護、スクラム、原子力安全委員会、国際原子力機関

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

次の内容を事前に学習しておく和良好的。第1～3回：エネルギー・資源の用語と単位、第4回：ジュールの実績、第5～8回：前回の講義内容の見直し、第9回：水の性質、第10～13回：我が国の電力会社と発電所、第14回：原子力の時事問題、第15回：我が国の地震

## 【テキスト】

使用しない。

## 【参考書】

必要に応じて紹介する。

## 【成績評価基準】

レポート（50%）：各種エネルギーの特性に関する課題により、主として到達目標2の達成度を評価する。  
試験（50%）：各種資源とエネルギー利用形態、エネルギーと社会との関係などの知識を問うものであり、到達目標1～3全般の習得度を評価する。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

パワーポイントを使うとよいとの意見がありました。本講義ではパワーポイントは状況に応じて適宜使っています。また、配布資料もスクリーンに映しますし、板書もしています。

## 【その他】

エネルギー分野は広範囲な内容を含み、楽しく学べます。物理・数学的な内容もありますが、焦点を絞って取り上げます。わからないところは、どんどん質問しましょう。

本科目は「環境科学入門」の代替科目として再履修可能です。ただし、本科目を修得済の場合、「環境科学入門」の代替として履修することはできません。

## 【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目である。

## 地球科学史 I

谷本 勉

カテゴリ：基幹 | 配当年次/単位：1～4年/2単位

開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：火 4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

近代の科学的地球観（地質学）の登場以前の略画的地球観の歴史を概観する。

## 【授業の到達目標】

略画的地球観を非科学的として否定的に取り扱うのではなく、今日の我々の日常的な地球に対する見方・考え方に大きな影響を与えているものとして理解することをめざす。

[]

## 【授業の概要と方法】

神話的世界の自然観を概観し、古代ギリシアの自然哲学的な地球観・自然観から、キリスト教的な世界観を経て、中世・ルネサンス期の西欧世界の地球観を明らかにし、17世紀の科学革命期から18世紀の地球像を評述することによって、略画的地球観の重要性を明らかにする。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	授業の全体計画	何をどのように勉強して行くかを説明する
第2回	古代世界の自然観	天地創造神話
第3回	古代ギリシアの地球観(1)	ミレトス学派からプラトン
第4回	古代ギリシアの地球観(2)	アリストテレスとリュケイオンの弟子たち
第5回	ヨーロッパ古代・中世前半の地球観	キリスト教世界の教父たち
第6回	中世・ルネサンス期の地球観	大航海時代と世界地図の製作
第7回	科学革命期の地球観(1)	デカルトの『哲学原理』(1644)の地球論
第8回	科学革命期の地球観(2)	ステノの『プロドロムス』(1669)の科学的地球観
第9回	科学革命期の地球観(3)	ライブニッツの『プロトガイア』(1691)啓蒙主義の時代の地球観
第10回	18世紀の地球観(1)	ビュフォン：デカルト的地球論から近代地質学への移行期
第11回	18世紀の地球観(2)	ヴェルナー：近代地質学誕生前夜の水成説
第12回	18世紀の地球観(3)	ハットン：近代地質学誕生前夜の火成説
第13回	地質学と聖書	火成説対水成説：玄武岩論争
第14回	授業の総括	全体の概説史的説明
第15回	補遺	日本の地球観の歴史

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

授業の中で随時指示する。

## 【テキスト】

使用しない。

## 【参考書】

授業の進行に応じて適宜紹介する。

## 【成績評価基準】

学期末の試験を主に、レポートと出席を加味して、総合的に評価する。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

授業のレジュメのさらなる充実をめざす。

## 【その他】

本科目は「環境科学入門」の代替科目として再履修可能である。ただし、本科目を修得済の場合、「環境科学入門」の代替として履修することはできない。

## 【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目である。



## 地球科学史Ⅱ

谷本 勉

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：火 4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

地質学の誕生から地球科学・地球惑星科学へ至る道を検証して、地球科学の現状を明らかにする。

## 【授業の到達目標】

地震学を含めて地球科学の可能性と限界を歴史的観点から理解することをめざす。

【】

## 【授業の概要と方法】

18世紀末からプレートテクトニクス誕生までの200年間、それぞれの時代の人々が地球表層の岩石圏というもとも基本的な自然環境をどのように理解しようとしてきたのかを、人が本当に地球をかけがえのない星として理解するために必要な科学のあるべき姿とは何かを念頭に置きながら説明していく。

【】

【】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	授業の全体計画	何をどのように勉強して行くかを説明する
第2回	地層と化石	スミスとキュヴィエ：岩相層序学から生（化石）層序学へ
第3回	地質学の原理	ライエルとバックランド：洪水主義対河川主義：激変主義と斉一主義
第4回	地層と時代	Dinosaurius（恐竜）の発見と時間の発見
第5回	地質学と進化論	地質学者ダーウィンの『種の起源』（1859）
第6回	地球の年齢	ダーウィンとケルビン卿：地球年代論争：地質学対物理学
第7回	19世紀末の地質学	ジュース：地球冷縮説：先駆的なグローバル・テクトニクスの登場
第8回	20世紀前半の地質学	シュティレ：地相斜造山論：グローバル・テクトニクスの完成
第9回	地球科学の誕生	地質学と物理学と化学：アイソスタシー説と地震学
第10回	大陸移動説（1）	生物地理学と地質学
第11回	大陸移動説（2）	ヴェーゲナーの大陸移動説
第12回	ニュー・グローバル・テクトニクス革命（1）	大陸移動説の復活：海洋底拡大説
第13回	ニュー・グローバル・テクトニクス革命（2）	プレート・テクトニクスの登場
第14回	授業の総括	全体の概説史的説明
第15回	補遺	日本の地球科学

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

授業の中で随時指示する。

## 【テキスト】

使用しない。

## 【参考書】

授業の進行に応じて適宜紹介する。

## 【成績評価基準】

学期末の試験を主に、レポートと出席を加味して、総合的に評価する。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

授業のレジュメのさらなる充実をめざす。

## 【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目である。

## 環境健康論Ⅰ

朝比奈 茂

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：金 5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

近代西洋医学の発展にともない、人類は多くの恩恵を受けてきた。その一つに、寿命の延長がある。一方で細かい部分（臓器、細胞、遺伝子レベル）に視点が行きすぎた結果、からだ全体を統一的な視点で観ることが失われていることも否めない。近年、NCCAM（アメリカ国立補完代替医療センター）では、環境全体を視野に入れたエコロジカルな健康観を基礎として、生命の特徴である多様性、個別性、一回性を重視する補完代替医療分野に多大の研究費を費やしはじめた。本講義では、補完代替医療について、その概要を把握し、現代社会における役割や位置づけ、将来への可能性など検討する。また人間に備わっている自然治癒力について、免疫力の観点から検討する。

## 【授業の到達目標】

1. 「持続可能な環境重視の社会」を構築するために、環境と健康の対応関係を理解できる。
2. 本来からだに備わった働きの一つである自然治癒力を説明できる。
3. 創傷の治癒過程について説明できる。
4. 免疫の働きについて説明できる。
5. 治癒を妨げるもの、治癒を促進する食品が説明できる。
6. ところが治癒に果たす役割などについて説明できる。
7. 自らの健康感を述べることができる。

【】

## 【授業の概要と方法】

講義は、常に人の生命活動を意識して展開する。生命活動について、多方面（毎回のテーマ）からアプローチし、到達目標を達成していく。授業は講義形式で行い、スライド、DVDを用いて視覚的に効率よい知識の伝達を行う。

【】

【】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス;講義の概要、ねらい、進め方の紹介	半年間の講義の概要、到達目標などを説明する。
第2回	環境と健康：自然が与える生命力、森林と自然治癒力	環境の問題についての意識を高めるために誰もが入りやすい題材として森林と自然治癒力の関係を取りあげる。
第3回	エコロジカルな健康観：地球の健康なくして、人間の健康はない	環境に優しい医学として、世界各地で発展してきた伝統医学を取りあげ、その特徴、健康観について説明する。
第4回	治療(cure, treatment)と治癒(healing)：ホメオパシー的思考、基本概念	欧米やインド、南米などに広く普及している、ホメオパシーを例に挙げ、本来からだに備わっている自然治癒力について説明する。
第5回	治癒の本質：治癒の3局面（反応・再生・適応）	創傷の治癒を例にあげ、人間に備わっている治す能力（自然治癒力）について解説し、治癒のプロセスである反応・再生・適応について説明する。
第6回	創傷の治癒：線維の増殖、瘢痕の成熟、組織修復による合併症	組織損傷の治癒過程について、炎症が果たす役割および組織修復にかかわる一連の流れ、修復時に起こる合併症などを説明する。
第7回	病気になる人、ならない人：人はどうして病気になるのだろうか？	本来生まれながら人間に備わっている免疫について、その種類、役割などを関連するDVDを視聴しながら解説する。
第8回	食べることの重要性：なぜ人は食べ続けるのだろうか？	人は食物を材料としてエネルギーを作り出し、それによって生命活動を維持している。人間が行う消化と吸収について説明する。
第9回	治癒を促進する食生活：免疫力をあげる食品類	食生活が健康にとって如何に重要であるかを述べ、総カロリー、脂肪、たんぱく質、野菜と果物、食物繊維と治癒との関連性を説明する。
第10回	摂取と排出：排出不足が病気を招く	人の生活は日々摂取と排出を繰り返している。摂取には呼吸による空気の摂取、目や耳などの感覚器からの摂取などがある。一方、排出に対してはあまり意識されていない。排出の重要性を述べ、病気との関連性を解説する。
第11回	治癒力を妨げるもの：人間が作った化学物質	自然治癒力を妨げるものに、エネルギー不足、循環不足、有害物質、老化などがある。これらの要因と免疫力の関連性について解説する。

第 12 回	有害物質から身を守る	水質汚染、空気汚染、有害食品、その他の有害物質は、からだ備わっている治癒力を低下させ、病気の発生因子となる。これらの要因をさげ上手に生活をおくる方法を検討する。
第 13 回	こころが治癒に果たす役割：治癒とこころの相関関係	精神的および感情的な出来事と治癒反応との間に相関関係があることを示し、これまでに起こった事例をあげ、こころが治癒系に与える影響について解説する。
第 14 回	成熟した患者になるために：治癒は外から、治癒は内から	治療 (cure, treatment) と治癒 (healing) の相違点を示し、もし病気になっても治療者に依存するのではなく、内から治癒が生じるようなプログラムに取り組み、行動をとるよう解説する。
第 15 回	総括	これまで授業で行った内容やその関連項目について、質問や意見交換を行い総括とする。

#### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

講義の前日までに、授業支援システム上に資料を掲載する。受講者は各自ダウンロードし、資料に基づき事前学習を行う。

#### 【テキスト】

テキストは使用しない。必要に応じて配布する

#### 【参考書】

健康・体づくりハンドブック 名取 礼二 監修 大修館書店  
人はなぜ治るのか アンドルー・ワイル著 上野圭一訳 日本文化社  
癒す心、治る力 アンドルー・ワイル著 上野圭一訳 角川文庫  
補完代替医療入門 上野圭一著 岩波アクティブ新書  
ホメオパシー医学への招待 松本丈二著 フレグランスジャーナル社  
東洋医学のしくみ 兵頭明著 新星出版社

#### 【成績評価基準】

期末試験（100 %）により評価を行う。

#### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

1. 毎回の講義はじめに、その日のスケジュールおよびポイントをを明示することで、明確な目標をもって、講義に臨めるように工夫を行う。
2. 常に受講生の反応を確認しながら、講義内容を柔軟に変化させることにより、集中力を持続させる工夫を行う。

#### 【学生が準備すべき機器他】

パソコン、DVD、プロジェクターなど

#### 【その他】

本科目は「環境科学入門」の代替科目として再履修可能である。ただし、本科目を修得済の場合、「環境科学入門」の代替として履修することはできない。

#### 【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目である。

## 環境健康論 II

朝比奈 茂

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：金 5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

#### 【授業のテーマ】

補完代替医療とは、一言で説明すると「現代西洋医学領域外の医学・医療体系の総称」である。近年、アメリカ、ヨーロッパ諸国を中心として、世界各国の伝統医療の見直しがなされ、多くの人が日常的にとりいれ、その効果を実感している。本講義では、世界におよそ 600 種あると言われている補完代替医療のうち、代表であるいくつかの伝統医療を取り上げ、その特徴や功罪などを説明する。また、必要に応じて現代西洋医学と融合または使い分けできる思考、姿勢を身につけることで、幅広い視点から環境と健康問題に取り組む可能性を追及する。

#### 【授業の到達目標】

1. 補完代替医療の健康観について説明できる。
2. 世界の伝統医療についてその特徴を説明できる。
3. 代表的な補完代替医療を列挙でき、その内容を概説できる。
4. 代表的な補完代替医療の特徴、長所および短所を説明できる。
5. 現代西洋医学と補完代替医療を比較し、それぞれの特徴を説明できる。

【】

#### 【授業の概要と方法】

講義は、常に人の生命活動を意識して展開する。生命活動について、多方面（毎回のテーマ）からアプローチし、到達目標を達成していく。授業は講義形式で行い、スライド、DVD を用いて視覚的に効率よい知識の伝達を行う。

【】

【】

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス：講義の概要、ねらい、進め方の紹介	半年間の講義の概要、到達目標などを説明する。
第 2 回	補完代替医療の健康観 (1)	NCCAM (アメリカ国立補完代替医療センター) の研究、取組、世界の現状などを紹介する。
第 3 回	補完代替医療の健康観 (2)	ドイツのがん治療の現状を DVD を視聴しながら解説する。
第 4 回	補完代替医療システム:中国伝統医学 (1)	中国伝統医療である東洋医学について、発祥と発展、健康観や哲学などを解説する。また現代西洋医学との相違を提示し、検討する。
第 5 回	補完代替医療システム:中国伝統医学 (2)	東洋医学の基本概念である陰陽五行論、経穴と経絡、気血水 (津液) について説明する。
第 6 回	補完代替医療システム:中国伝統医学 (3)	東洋医学分野の内系医学に属する鍼・灸療法の特徴、効果、用い方について説明し、実際に鍼・灸治療を行いその効果を体験する。
第 7 回	補完代替医療システム:中国伝統医学 (4)	東洋医学分野の寒傷系医学に属する湯液療法の特徴、効果、用い方について説明する。具体例として 7 種類の生薬を使用する葛根湯を実際に調合、煎じてそれを服用する実習を行う。
第 8 回	補完代替医療システム：ホメオパシー	欧米やインド、南米などに広く普及している、ホメオパシーについて、発祥と発展、健康観や哲学などをのべる。またそれらの長所と短所を説明する。
第 9 回	補完代替医療システム：インド伝統医学 (アーユルヴェーダ医学)	5000 年の歴史があるアーユルヴェーダ医学について、発祥と発展、健康観や哲学などをのべる。またそれらの長所と短所を説明する。
第 10 回	精神・身体相互介入による医療 (1)：瞑想・リラクゼーション法	精神および身体相互介入による医療に位置付けられている瞑想について、科学的な視点から捉えるとともに、日本の「禅」との関連性を解説する。
第 11 回	生物学的療法：マクロビオティック、ハーブなど	世界の多くの著名人、有名人などが行っていると言われている、「マクロビオティック」について、健康観や哲学、長所や短所などを概説し、実際にその調理方法を解説する。
第 12 回	手技および身体を介する療法：按摩・指圧・マッサージ (1)	按摩・指圧・マッサージについて、その発祥と発展、施術の法則と方法、特徴的な手技、長所と短所などを説明する。

発行日：2021/6/1

- 第13回 手技および身体を介する療法：按摩・指圧・マッサージ（2）
- 第14回 手技および身体を介する療法およびエネルギー療法
- 第15回 総括
- 按摩・指圧・マッサージについて、それぞれの理論に基づき、実際に体験学習する。
- カイロプラクティック、オステオパシー、セラピューティックタッチについて、その発祥と発展、健康観や哲学、長所と短所などを説明する。
- これまで授業で行った内容やその関連項目について、質問や意見交換を行い総括とする。

#### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

講義の前日までに、授業支援システム上に資料を掲載する。受講者は各自ダウンロードし、資料に基づき事前学習を行う。

#### 【テキスト】

テキストは使用しない。必要に応じて配布する。

#### 【参考書】

健康・体づくりハンドブック 名取 礼二 監修 大修館書店  
人はなぜ治るのか アンドルー・ワイル著 上野圭一訳 日本文化社  
癒す心、治る力 アンドルー・ワイル著 上野圭一訳 角川文庫  
補完代替医療入門 上野圭一著 岩波アクティブ新書  
ホメオパシー医学への招待 松本丈二著 フレグランスジャーナル社  
東洋医学のしくみ 兵頭明著 新星出版社

#### 【成績評価基準】

期末試験（100%）により評価を行う。

#### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

1. 毎回の講義はじめに、その日のスケジュールおよびポイントを示すことで、明確な目標をもって、講義に臨めるように工夫を行う。
2. 常に受講生の反応を確認しながら、講義内容を柔軟に変化させることにより、集中力を持続させる工夫を行う。

#### 【学生が準備すべき機器他】

パソコン、DVD、プロジェクターなど

#### 【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目である。

## 気候変動論 I

松本 倫明

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：月2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

#### 【授業のテーマ】

この授業では気候変動の自然科学的な知見をわかりやすく解説する。前期では、現在進行中の気候変動である地球温暖化に焦点を当てる。気候変動を駆動するメカニズム、気候変動にもなる現象、気候変動の予測を中心に解説する。

#### 【授業の到達目標】

この授業を通じて、気候変動の科学的なりテラシーを身につけることができる。

【】

#### 【授業の概要と方法】

講義形式で授業を進める。プロジェクターを用いて最新の観測結果を紹介し、わかりやすい授業にする予定である。また、この授業を受講するにあたり特別な予備知識を必要としない。

【】

【】

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方のロードマップを示す。
第2回	地球温暖化の概要	気候変動の概要を示す。
第3回	近年の気候変動（1）	近年の気候変動である地球温暖化について学ぶ。気温の変化・温室効果ガス濃度の変化・氷床面積の変化・異常気象について解説する。またそれらの観測方法と統計処理の方法についても解説する。
第4回	近年の気候変動（2）	同上。
第5回	近年の気候変動（3）	同上。
第6回	近年の気候変動（4）	同上。
第7回	気候変動のしくみ（1）	温室効果のしくみについて学ぶ。温室効果ガス・大気窓・黒体輻射・太陽活動・アルベド・雲・火山・氷床・炭素循環を学ぶ。
第8回	気候変動のしくみ（2）	同上。
第9回	気候変動のしくみ（3）	同上。
第10回	気候変動の予測（1）	気候変動の予測の結果を学ぶ。気温・降水量・海面上昇・水リスクなどの予測結果を解説する。
第11回	気候変動の予測（2）	同上。
第12回	気候変動の予測（3）	気候変動の予測の方法について学ぶ。
第13回	気候変動をとりまく動き（1）	気候変動の周辺について学ぶ。IPCCの動向・エネルギー問題・国内外の状況・気候変動パッシングなどの状況を学ぶ。
第14回	気候変動をとりまく動き（2）	同上。
第15回	まとめ	授業をまとめる。

#### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

授業のなかで指示をする。

#### 【テキスト】

テキストを使用せず、授業中に資料としてプリントを随時配布する。

#### 【参考書】

なし。

#### 【成績評価基準】

期末試験を行う。また授業中にクイズ形式のミニテストを行うことがある。これらを総合的に評価する。

#### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

なし。

#### 【その他】

本科目は「環境科学入門」の代替科目として再履修可能である。ただし、本科目を修得済の場合、「環境科学入門」の代替として履修することはできない。

#### 【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目である。



## 気候変動論Ⅱ

松本 倫明

カテゴリ：基幹 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：月 2

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

### 【授業のテーマ】

この授業では気候変動の自然科学的な知見をわかりやすく解説する。後期では、地球の歴史における気候変動に焦点をあて、現在起きている 100 年スケール気候変動である地球温暖化の理解を深める。

### 【授業の到達目標】

この授業を通じて、気候変動の科学的なりテラシーを身につけることができる。

[]

### 【授業の概要と方法】

講義形式で授業を進める。プロジェクターを用いて最新の観測結果を紹介し、わかりやすい授業にする予定である。

この授業を受講するにあたり特別な予備知識を必要としないが、気候変動Ⅰを履修した後にこの授業を履修することを推奨する。

[]

[]

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方のロードマップを示す。
第 2 回	気候変動の歴史	地球の誕生から現在までの気候変動を概観する。
第 3 回	過去 100 年スケールの気候変動 (1)	過去 100 年スケールの気候変動を学ぶ。
第 4 回	過去 100 年スケールの気候変動 (2)	同上。
第 5 回	過去 1000 年スケールの気候変動 (1)	過去 1000 年スケールの気候変動を学ぶ。中世の温暖期・マウンダー極小期における火山活動・太陽活動の影響を解説する。
第 6 回	過去 1000 年スケールの気候変動 (2)	同上。
第 7 回	過去 1 万年スケールの気候変動 (1)	過去 1 万年スケールの気候変動を学ぶ。縄文海進について学ぶ。
第 8 回	過去 1 万年スケールの気候変動 (2)	同上。
第 9 回	過去 10 万年スケールの気候変動 (1)	過去 10 万年スケールの気候変動を学ぶ。地球軌道要素の変化・氷期・間氷期・外力と気候システムの応答について学ぶ。
第 10 回	過去 10 万年スケールの気候変動 (2)	同上。
第 11 回	数億年スケールの気候変動 (1)	数億年スケールの気候変動を学ぶ。原始大気形成と変化・海洋形成・氷河期のリズムについて学ぶ。また太陽系外からの影響についても学ぶ。
第 12 回	数億年スケールの気候変動 (2)	同上。
第 13 回	懐疑論 (1)	気候変動に対する懐疑論の状況について学ぶ。懐疑論の傾向を分類し、様々な懐疑論に対する反論を紹介する。
第 14 回	懐疑論 (2)	同上。
第 15 回	まとめ	授業をまとめる。

### 【授業外に行うべき学習活動 (準備学習等)】

授業のなかで指示をする。

### 【テキスト】

テキストを使用せず、授業中に資料としてプリントを随時配布する。

### 【参考書】

なし。

### 【成績評価基準】

期末試験を行う。また授業中にクイズ形式のミニテストを行うことがある。これらを総合的に評価する。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

なし。

### 【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目である。

## 自然環境政策論Ⅰ

高田 雅之

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：金 1

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

### 【授業のテーマ】

自然環境と人間との調和・共生を実現するためには、社会の様々な取り組みが互いに効果を及ぼし合いながら、望ましい状態を目指していけるような環境政策を進めなければなりません。自然環境政策論Ⅰ(前期)では、人間活動と自然環境の軋轢に対する直接的で科学的な手立てを中心に、また自然環境政策論Ⅱ(後期)では、これまで取り組まれてきた様々な社会的・国際的な手立てと、今後の新たな政策の可能性について考究することをテーマとします。

### 【授業の到達目標】

以下の 2 点について知識と理解を深め、その要点を説明できることを目標とします。

①保全対象となる自然環境の特性と、人間活動によって引き起こされた問題の現状と課題

②人間による影響を減らすために取り組まれてきた主な保全対策

[]

### 【授業の概要と方法】

「保全の対象となる生物や生態系の特徴」、「人間活動によって引き起こされる諸問題」、「外来種や種の絶滅という難題」、「日本における主な自然環境保全制度」、「科学的調査に基づく保全対策」、「新たな課題である里山問題と生物多様性」について学びます。国内外の実例やエピソードを交えたプレゼンテーションにより、知識と問題意識を積み重ね到達目標に向かいます。

[]

[]

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスと序論	講義の進め方、保全すべき自然環境、政策の概観
第 2 回	森林をめぐる諸課題	森林の構造と機能、森林の管理、中大野生動物との軋轢
第 3 回	陸水・海域をめぐる諸課題	河川・湖沼・海域生態系の特性、利水と治水、水生生物と水鳥類
第 4 回	湿地と草原をめぐる諸課題	成立過程と固有の生物相、脆弱性、人による維持管理
第 5 回	都市・農地をめぐる諸課題	人為攪乱下の生物相、水田と棚田、都市内緑地、ビオトープ
第 6 回	外来種問題	様々な導入と影響の事例、対策の難しさを取り組み事例
第 7 回	種の絶滅と貴重種	絶滅を招く原因、レッドリストによるリスク評価、保護の難しさと取り組み事例
第 8 回	日本の自然環境保全政策 (1)	自然公園、自然環境保全地域
第 9 回	日本の自然環境保全政策 (2)	文化財保護、森林法、河川法、都市緑地保全制度
第 10 回	日本の自然環境保全政策 (3)	狩猟制度と鳥獣保護区、種の保護法、野生生物の保護管理
第 11 回	自然環境の調査と情報	自然環境保全基礎調査、物理化学環境の現地調査、空中写真判読
第 12 回	自然の修復と再生	植生の復元、蛇行の復元、順応的な管理
第 13 回	里地・里山・里海	伝統的な人と自然の関係、資源の循環、森-川-海のつながり
第 14 回	生物多様性	生物多様性とは、ミレニアム生態系評価、劣化損失の原因と実態
第 15 回	まとめ	問題解決の難しさ、政策の果たす役割、科学的保全と社会的保全

### 【授業外に行うべき学習活動 (準備学習等)】

日頃接するメディアや、時折訪ねる公園緑地などで、自然環境に対する関心を払うよう努めてください。

### 【テキスト】

特定のものは使用しません。講義において適宜資料を配布します。

### 【参考書】

講義において随時紹介します。

### 【成績評価基準】

期末試験により評価します。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

知識の詰め込みとならないよう、具体的な事例や挿話を交えながら、できる限り丁寧に説明し理解を促していきます。



## 【その他】

・自然環境政策論Ⅰ（前期）とⅡ（後期）は内容と視点が異なり、両方で自然環境政策を網羅するものとしていますので、併せて受講することを勧めます。また講義改善の目的で、時々感想や解決へのアイデアを記述してもらうことがあります。

・2011年度までに旧名称「自然環境政策論」を修得済の場合、本科目は履修できません。再履修者は「自然環境政策論」で登録してください。

## 【関連の深いコース】

国際環境、地域環境

## 自然環境政策論Ⅱ

高田 雅之

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：金 1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

自然環境と人間との調和・共生を実現するためには、社会の様々な取り組みが互いに効果を及ぼし合いながら、望ましい状態を目指していけるような環境政策を進めなければなりません。自然環境政策論Ⅰ（前期）では、人間活動と自然環境の軋轢に対する直接的で科学的な手立てを中心に、また自然環境政策論Ⅱ（後期）では、これまで取り組まれてきた様々な社会的・国際的な手立てと、今後の新たな政策の可能性について考究することをテーマとします。

## 【授業の到達目標】

以下の2点について知識と理解を深め、その要点を説明できることを目標とします。

- ①自然環境保全につながる様々な社会的・国際的取り組みとその意義
- ②生物多様性保全に向けて提起されている新たな取り組みの視点

【】

## 【授業の概要と方法】

「日本に見る人と自然との関わり」、「計画的・社会的な保全の事例」、「自然体験とおとした保全」、「国際的な枠組みによる保全」、「生物多様性保全に向けた新たな取り組み」について学びます。国内外の実例やエピソードを交えたプレゼンテーションにより、知識と解決意識を積み重ね到達目標に向かいます。

【】

【】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスと序論	講義の進め方、文明の盛衰と自然環境、多様な環境政策
第2回	日本人と自然	日本の自然の特徴、湿地を例にした人と自然との関わり
第3回	計画・指針による自然環境保全	環境基本計画、生物多様性国家戦略、自然環境保全指針、環境計画例
第4回	環境影響評価	仕組みと事例、戦略的アセスメント、ミティゲーション
第5回	海外の自然環境政策に学ぶ(1)	英のナショナルトラスト、仏のエコミュゼ、欧州農業の環境支払
第6回	海外の自然環境政策に学ぶ(2)	米のエコシステムマネジメント・湿地インベントリ
第7回	様々なセクターによる取組	NPOや企業による取組事例、協定等の自発的手法
第8回	自然体験の取組(1)	環境教育、自然観察、自然歩道、インタープリテーション
第9回	自然体験の取組(2)	エコツーリズムに関する国内外の事例
第10回	自然を生かした地域政策	自然景観と文化的景観、野生生物を生かした取組事例
第11回	国際的な取り組み(1)	地球規模の自然環境問題と課題、地球サミットと持続可能な開発
第12回	国際的な取り組み(2)	ラムサール条約、ワシントン条約、生物多様性条約、世界遺産条約
第13回	アジアにおける環境問題	インドネシア熱帯泥炭地の事例
第14回	生物多様性の保全	ホットスポット、企業活動・貿易との関わり、生態系サービス
第15回	まとめ	ポリシーミックス、総合的視点にたった政策ガバナンス

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

日頃接するメディアや、時折訪ねる公園緑地などで、自然環境に対する関心を払うよう努めてください。

## 【テキスト】

特定のものは使用しません。講義において適宜資料を配布します。

## 【参考書】

講義において随時紹介します。

## 【成績評価基準】

期末試験により評価します。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

知識の詰め込みとならないよう、具体的な事例や挿話を交えながら、できる限り丁寧に説明し理解を促していきます。

## 【その他】

自然環境政策論Ⅰ（前期）とⅡ（後期）は内容と視点が異なり、両方で自然環境政策を網羅するものとしていますので、併せて受講することを勧めます。また講義改善の目的で、時々感想や解決へのアイデアを記述してもらうことがあります。

【関連の深いコース】  
国際環境、地域環境

## 自然環境論V

宇野 真介

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：水 6

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

### 【授業のテーマ】

本授業では、生物学的発展によってもたらされた科学技術とその影響を、バイオテクノロジーを例として学びます。より具体的には、近代農業のもたらした環境問題や食糧問題の解決策として注目される遺伝子組み換え作物（GM作物）に焦点をあて、社会問題の解決策としての科学技術について学習します。

### 【授業の到達目標】

身近な「食」の問題と関連する科学技術を理解するため基礎知識の取得を目標とします。

【】

### 【授業の概要と方法】

GM作物の生産は、1990年代半ばに商業栽培が開始されて以来急速に拡大しており、この新技術は「食」という面で私たちの生活に密接な関わりをもっています。GM作物の普及が人間社会や生態系にもたらす影響について、1)生物学的・技術的側面、2)食品面・環境面での安全性、3)本科学技術の社会的受容、の3点について講義形式で解説します。

【】

【】

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	本授業の全体像、評価方法などの説明
第2回	食糧生産と農業技術1	遺伝子組み換え技術が利用されている「育種」とはどのようなものか、その歴史的概要
第3回	食糧生産と農業技術2	「近代農業」の成果とそれによってもたらされた環境問題
第4回	遺伝子組み換え技術の発展1	遺伝子組み換え技術の生物学的基盤の発展、ゲノム・DNA・遺伝とは
第5回	遺伝子組み換え技術の発展2	生物学的理解から技術利用への展開、遺伝子組み換え技術の基礎
第6回	遺伝子組み換え技術の発展3	遺伝子組み換え技術の実用化と農業分野での実用例
第7回	GM作物の食品利用1	GM作物の食品利用におけるリスクと食品事故
第8回	GM作物の食品利用2	GM作物の食品利用における安全評価・安全確保の取り組み
第9回	GM作物の環境インパクト1	環境インパクトを考えるための生態系の基礎理解
第10回	GM作物の環境インパクト2	GM作物の屋外利用におけるリスク
第11回	GM作物の環境インパクト3	GM作物の屋外利用における安全評価・安全確保の取り組み
第12回	GM作物の社会的受容1	GM作物の広がりや農業技術としての効果、遺伝子組み換え技術の商業利用の影響
第13回	GM作物の社会的受容2	経済政策の一環としての遺伝子組み換え技術、遺伝子組み換え技術に対する市民社会の反応
第14回	科学技術の社会的位置づけ／まとめ	社会問題の解決策という観点から見た科学技術の役割、期末試験へ向けてのまとめ
第15回	授業内試験	期末試験の実施

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

指示の無い限りは特になし。ただし、欠席時等の授業内容・連絡事項については、授業支援システムを利用して各自把握すること。

### 【テキスト】

教科書はなし。  
各講義で資料を配布。

### 【参考書】

必要に応じて参考書、参考 Web サイトを授業中に指示。

### 【成績評価基準】

授業内で提示される課題および期末試験による評価

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

特になし

### 【関連の深いコース】

環境経営、地域環境

**環境科学 I**

藤倉 良

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：水 2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業のテーマ】**

環境問題とは人間活動が自然生態系に及ぼす物理的、化学的、生物的な作用とその反作用です。「何がおきているのか」を理解し、「どうすればよいのか」を考えるためには、科学知識が欠かせません。環境科学 I（前期）では、比較的狭い地域に発生する問題について、環境科学 II（後期）では、地球規模や国境を超える問題について論じ、受講生諸君が環境問題の発生メカニズムと対処法に関する科学の基礎を習得することを目指します。I と II のどちらか片方だけを履修してもかまいません。

**【授業の到達目標】**

環境問題の発生メカニズムと対策技術の基礎を理解することを目標とします。

[]

**【授業の概要と方法】**

テキスト（下記参照）とパワーポイントを用いて講義を行います。テキストに記載していない事項については資料を配布します。配布資料は、原則として授業支援システムにアップします。

[]

[]

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション（序章）	環境問題とはどのようなものか、どうすればよいか、環境科学の役割
第 2 回	大気汚染・その 1（第 1 章）	大気汚染の歴史、ばいじん、硫酸酸化物
第 3 回	大気汚染・その 2（第 1 章）	窒素酸化物、自動車排ガス、アスベスト
第 4 回	上水道（第 2 章）	浄水場のしくみ、水質の維持と費用
第 5 回	下水道と浄化槽（第 2 章）	下水道の構造、下水処理場のしくみ、浄化槽
第 6 回	水質汚濁（第 3 章）	水質の指標、有機汚濁、富栄養化
第 7 回	工場排水と土壌汚染（第 3 章）	工場排水の処理、土壌汚染の特徴と対策、地下水汚染
第 8 回	悪臭（第 4 章）	感覚公害、悪臭の測定法、悪臭対策技術
第 9 回	騒音（第 4 章）	音とは、騒音の測定法、騒音対策
第 10 回	廃棄物・その 1（第 5 章）	廃棄物の定義、一般廃棄物
第 11 回	廃棄物・その 2（第 5 章）	産業廃棄物
第 12 回	リサイクル（第 5 章）	リサイクルの種類、リサイクル関連法
第 13 回	有害物質とリスク（第 6 章）	有害の意味、リスクの意味と大小
第 14 回	基準の決め方（第 6 章）	環境基準と排出基準
第 15 回	まとめ	全体のまとめ

**【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】**

授業計画、テーマにカッコ内でテキストの該当する章を示しました。これをあらかじめ読んでから受講してください。

**【テキスト】**

藤倉良・藤倉まなみ 『文系のための環境科学入門』 有斐閣コンパクト

**【参考書】**

講義中に指定します。

**【成績評価基準】**

期末試験のみで評価します。受講生がおおむね 100 名未満であれば記述式、それ以上であれば択一式（マークシート）で行う予定です。

**【学生による授業改善アンケートからの気づき】**

中学卒業程度の理科の知識を前提として講義しますが、高校程度の化学の知識が必要な場合もあります。

**【学生が準備すべき機器他】**

プロジェクター

**【関連の深いコース】**

地域環境

**環境科学 II**

藤倉 良

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：水 2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業のテーマ】**

環境問題とは人間活動が自然生態系に及ぼす物理的、化学的、生物的な作用とその反作用です。「何がおきているのか」を理解し、「どうすればよいのか」を考えるためには、科学知識が欠かせません。環境科学 I（前期）では、比較的狭い地域に発生する問題について、環境科学 II（後期）では、地球規模や国境を超える問題について論じ、受講生諸君が環境問題の発生メカニズムと対処法に関する科学の基礎を習得することを目指します。I と II のどちらか片方だけを履修してもかまいません。

**【授業の到達目標】**

環境問題の発生メカニズムと対策技術の基礎を理解することを目標とします。

[]

**【授業の概要と方法】**

テキスト（下記参照）とパワーポイントを用いて講義を行います。テキストに記載していない事項については資料を配布します。配布資料は、原則として授業支援システムにアップします。

[]

[]

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション、人口	国際環境政策の難しさ、人口増加のメカニズム、都市人口
第 2 回	オゾン層・その 1（第 7 章）	紫外線、フロンガス
第 3 回	オゾン層・その 2（第 7 章）	オゾン層破壊のメカニズム、オゾン層保護対策
第 4 回	気候変動・その 1（第 8 章）	I P C C、二酸化炭素の温室効果
第 5 回	気候変動・その 2（第 8 章）	二酸化炭素の循環、気候予測、温暖化の影響、国際交渉
第 6 回	気候変動・その 3（第 8 章）	京都議定書、京都メカニズム
第 7 回	気候変動・その 4（第 8 章）	緩和策
第 8 回	気候変動・その 5（第 8 章）	適応策
第 9 回	越境大気汚染（第 9 章）	酸性雨の化学、影響、光化学オキシダント
第 10 回	中国の環境と資源・その 1（第 1 1 章）	人口、食料と水資源
第 11 回	中国の環境と資源・その 2（第 1 1 章）	エネルギー、公害、政策
第 12 回	環境の評価（第 1 2 章）	環境アセスメント、L C A、環境ラベル
第 13 回	環境と貿易	貿易は環境に悪影響を及ぼすか？ G A T T、W T O
第 14 回	国際環境協力	開発援助の環境配慮、環境 O D A
第 15 回	まとめ	全体のとりまとめ

**【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】**

授業計画、テーマにカッコ内でテキストの該当する章を示しました。これをあらかじめ読んでから受講してください。

**【テキスト】**

藤倉良・藤倉まなみ 『文系のための環境科学入門』 有斐閣コンパクト

**【参考書】**

講義中に指定します。

**【成績評価基準】**

期末試験のみで評価します。受講生がおおむね 100 名未満であれば記述式、それ以上であれば択一式（マークシート）で行う予定です。

**【学生による授業改善アンケートからの気づき】**

中学卒業程度の理科の知識を前提に講義しますが、高校卒業以上の物理の知識が必要となる講義もあります。その場合にも、極力、平易な解説を試みます。

**【学生が準備すべき機器他】**

プロジェクター

**【関連の深いコース】**

国際環境

## 環境科学Ⅲ

藤倉 良

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：金 6

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

資源の歴史的意味に始まり、さまざまな資源の性質や利用などについて学習します。

## 【授業の到達目標】

資源の科学的性質や利用の見通しについての基礎知識を習得する。

[]

## 【授業の概要と方法】

パワーポイントとレジュメを用いて講義を行います。配布資料は、原則として授業支援システムにアップします。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	資源論の社会科学	資源とは何か、「資源」の概念の歴史、資源の呪い
第2回	淡水（1）	水の循環、淡水資源
第3回	淡水（2）	ダム開発、国際河川
第4回	エネルギー（1）	エネルギーとは何か、様々なエネルギー
第5回	エネルギー（2）	埋蔵量、石油と天然ガス
第6回	エネルギー（3）	石炭、水力
第7回	エネルギー（4）	原子力、新エネルギー
第8回	土壌（1）	土壌の構造
第9回	土壌（2）	土壌の機能
第10回	リンと窒素	循環、機能、存在
第11回	遺伝資源	遺伝子の多様性、名古屋議定書
第12回	金属（1）	銅、鉄、アルミニウム、鉛
第13回	金属（2）	レアアース、レアメタル
第14回	世界の資源消費	人口増加、経済発展と資源消費
第15回	まとめ	今後の資源利用のあり方

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

毎回配布するレジュメを使って復習してください。

## 【テキスト】

特にありません。

## 【参考書】

講義中に指定します。

## 【成績評価基準】

期末試験のみで評価します。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

図を多く使用して、わかりやすい講義を行うこととします。

## 【その他】

2011年度に開講した「人間環境特論（天然資源の科学）」（前期月曜日7時限）を修得済の場合、本科目は履修できません。再履修者は「人間環境特論（天然資源の科学）」で登録してください。

## 【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目です。

## 衛生・公衆衛生学Ⅰ

宮川 路子

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：木 4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

衛生公衆衛生学は予防医学であり、疾病の予防、健康の保持増進をはかる科学技術である。歴史的には伝染病の予防に始まり、現在では循環器疾患、心疾患、がん、糖尿病などの生活習慣病の予防から環境と疾病の関係を迫り、さらに健康の疫学へと進み、健康の保持増進をはかるための方策を探索するところまで進んでいる。本講座においては、予防医学の基礎となる考え方を学ぶとともに、現代社会に潜むさまざまな健康関連問題を取り上げる。健康意識の提起を行い、個人として自己健康管理を行ううえで必要な知識を習得することを目的としている。

## 【授業の到達目標】

各種の健康問題の実情を学び、取るべき健康行動について考えていく。たとえば、学生生活においてしばしば問題となる飲酒行動について、何が問題なのかを知り、どのような飲酒習慣を身につけていくべきかを考える。これらの学びの積み重ねによって、学生は、将来の疾病を予防し、健康寿命を延長していくことが可能となる。

[]

## 【授業の概要と方法】

少子化、超高齢化社会において問題となっている医療関連の話題について学ぶ。また、シラバス上のテーマ以外でも、優先順位を考慮し、重要と思われる話題について、積極的に取り上げていく。衛生・公衆衛生学Ⅰ～Ⅲの内容は若干重複することがある。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義を受けるにあたっての心構え
第2回	予防医学の基本的概念	予防医学の基礎について
第3回	ライフスタイルと生活習慣病①	生活習慣病の概念、病気の種類
第4回	ライフスタイルと生活習慣病②	主要死因とその関連疾患 生活習慣病の予防について ビデオ鑑賞
第5回	喫煙の健康影響	タバコの害、法的規制、社会の取り組み、禁煙について
第6回	アルコールの健康影響	アルコールの健康被害について ビデオ鑑賞
第7回	少子・高齢社会における健康問題①	少子・高齢化社会 健康問題
第8回	少子・高齢社会における健康問題②	介護問題について
第9回	児童虐待	児童虐待の現状と対策
第10回	生命倫理①	安楽死、尊厳死
第11回	生命倫理②	臓器移植
第12回	生命倫理③	医療訴訟
第13回	遺伝子関連問題	遺伝病、色覚異常
第14回	感染症	性感染症・食中毒
第15回	授業内試験	試験実施

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

講義後に復習をする。

## 【テキスト】

テキストは指定しない。参考資料を適宜配布する。

## 【参考書】

開講時に指定する

## 【成績評価基準】

期末試験を最終講義日に授業内で行う。持ち込みは不可。原則として出席はとらないが、感想文などを求めることがある。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

大人数のため、おしゃべりがうるさいことがあるが、適宜注意をして静かに講義が進められるように配慮する。

## 【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント

## 【関連の深いコース】

地域環境



## 衛生・公衆衛生学Ⅱ

宮川 路子

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：木 4

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業のテーマ】

衛生公衆衛生学の目的は、人々を疾病から守り、健康を保持増進し、人々に十分な発育を上げさせて肉体的、精神的能力を完全に発揮させることである。これは、医学から発達した社会学であり、保健、医療、福祉がその3本柱となっている。公衆衛生の実践活動のためには、絶え間ない教育と組織化された地域社会の努力が必要である。

## 【授業の到達目標】

本講座では、疫学、保健衛生統計学的手法、社会学的手法を用いて問題調査、提起を行い、さらには対策を講じていく過程を学習する。これにより、実際の健康情報を評価し、取捨選択を行い、適切な健康行動を取ることが可能となる。

[]

## 【授業の概要と方法】

衛生・公衆衛生学Ⅰに引き続き、各種健康問題について、特に近年社会において注目されている各種保健の問題点について学習する。

さらに、疫学の基礎、疫学調査、スクリーニングについての知識を得る。また、シラバス上のテーマ以外でも、優先順位を考慮し、重要と思われる話題について、積極的に取り上げていく。衛生・公衆衛生学Ⅰ～Ⅲの内容は若干重複することがある。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	衛生公衆衛生学概論	ガイダンス
第2回	職場におけるヘルスケア	過労労働、過労死
第3回	職場におけるメンタルヘルスケア	過労自殺
第4回	社会保障	社会保障制度について
第5回	母子保健・学校保健	母子保健・学校保健
第6回	就労女性の母性保護	ワークライフバランスを考えるために
第7回	成人保健・老人保健	成人保健・老人保健の課題と施策
第8回	環境保健	環境と健康
第9回	疫学の基礎①	疫学の歴史、各種指標
第10回	疫学の基礎②	バイアス・因果関係
第11回	疫学演習	肺がんと喫煙について、因果関係を考える
第12回	水俣病について	ビデオ鑑賞
第13回	スクリーニング プログラム①	スクリーニングプログラムの条件
第14回	スクリーニング プログラム②	スクリーニングにおける問題点、バイアス
第15回	授業内試験	試験の実施

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

授業後に復習を行う。

## 【テキスト】

テキストは指定しない。参考資料を適宜配布する。

## 【参考書】

開講時に指定する

## 【成績評価基準】

授業内試験を最終講義日に行う。持ち込み不可。原則として出席はとらないが、講義への参加確認として、アンケート、感想文などの提出を求めることがある。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

大人数の講義のため、騒がしいことがあったが、適宜注意を促して静粛な環境で講義を進められるように努力する。

## 【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント

## 【その他】

基本的に衛生・公衆衛生学Ⅰと継続した内容であるため、衛生・公衆衛生学Ⅰをあらかじめ受講していることが履修の条件となる。

## 【関連の深いコース】

地域環境

## 衛生・公衆衛生学Ⅲ

宮川 路子

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：木 6

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業のテーマ】

衛生公衆衛生学の目的は、人々を疾病から守り、健康を保持増進し、人々に十分な発育を上げさせて肉体的、精神的能力を完全に発揮させることである。公衆衛生の実践活動のためには、人間の教育および組織化された地域社会の努力が必要である。

本講座では、罹患率・有病率の高い各種疾病について、将来の予防へつなげていくことが可能となるよう、知識をつける。

## 【授業の到達目標】

五大疾病（がん、心疾患、脳血管疾患、糖尿病、精神病）をはじめ、疾病について学び、知識を習得することにより、予防行動を取ることが可能となる。また、日本の医療の現状について学び、患者としての受療行動を考える。

[]

## 【授業の概要と方法】

各種疾病について細かく学んでいく。また、シラバス上のテーマ以外でも、優先順位を考慮し、重要と思われる話題について、積極的に取り上げていく。また、衛生・公衆衛生学Ⅰ～Ⅲの内容は若干重複することがある。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	衛生公衆衛生学概論	ガイダンス
第2回	生活習慣病	がんの疫学
第3回	生活習慣病	脳血管疾患
第4回	生活習慣病	心疾患・高血圧など
第5回	眼疾患	VDT作業と眼疾患
第6回	皮膚科疾患	日光、アレルギー
第7回	産婦人科関連の話題①	不妊治療の現状
第8回	産婦人科関連の話題②	更年期障害
第9回	精神障害	三大精神病①
第10回	精神障害	三大精神病②
第11回	精神障害	三大精神病③
第12回	精神障害	心身症、摂食障害
第13回	精神保健	精神保健福祉とその対策
第14回	日本の医療制度について	現代医療の問題点 映画鑑賞
第15回	授業内試験	試験の実施

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

授業後に復習を行う。新聞をよく読む。

## 【テキスト】

テキストは指定しない。参考資料を適宜配布する。

## 【参考書】

開講時に指定する

## 【成績評価基準】

授業内試験を最終講義日に行う。持ち込み不可。原則として出席はとらないが、講義への参加確認として、アンケート、感想文などの提出を求めることがある。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

他人数の講義のため、騒がしいことがあるが、適宜注意を促し、静粛な環境で講義を進めるよう努力する。

## 【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント

## 【その他】

基本的に衛生・公衆衛生学Ⅰ・Ⅱと継続した内容であるため、衛生・公衆衛生学Ⅰ・Ⅱをあらかじめ受講していることが履修の条件となる。

## 【関連の深いコース】

地域環境

## エネルギー論Ⅱ

## 北川 徹哉

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：火 2

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業のテーマ】

エネルギーと環境問題がテーマである。

## 【授業の到達目標】

1. エネルギーと環境問題との結びつきを説明できる。
2. 各種再生可能エネルギーの仕組みを説明できる。
3. 再生可能エネルギーの効率、環境負荷低減効果、課題を説明できる。

【】

## 【授業の概要と方法】

元来、エネルギーは自然を源として自然に帰ってゆくという循環の輪の中にあった。再生可能エネルギーという言葉が脚光を浴びるようになったのは、環境問題がクローズアップされ始めた近年のことである。本講義ではエネルギーを環境問題の視点から眺めつつ、開発と導入が進みつつある再生可能エネルギーの仕組みや特徴について、我が国と諸外国での導入状況を比較しながら理解してゆく。

【】

【】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	環境問題とエネルギー	エネルギーの環境対策（電力を中心に）
第2回	再生可能エネルギーの定義と分類	再生可能エネルギーとは、新エネルギーの種類
第3回	水資源	水資源の循環、河川の性質
第4回	水力発電	水力発電の種類と仕組み、中小水力発電
第5回	海水の動きを利用する発電	波力、潮力、潮流・海流による発電
第6回	風と風車	風車の種類と性能、風がもつエネルギー、発電用風車の仕組み
第7回	風力発電	風況、パワーカーブ、発電量予測、風車と音
第8回	太陽光の特性、太陽光発電に適した物質	太陽光がもつエネルギー、太陽電池セルとシリコン
第9回	太陽光発電の発電量	太陽光発電の仕組みと種類、フィード・イン・タリフ
第10回	太陽光の熱、太陽熱発電	太陽熱の熱利用、太陽熱発電の種類と仕組み
第11回	バイオマス	バイオマスの種類と分類、バイオマスの賦存量
第12回	バイオマスエネルギー	バイオマスエネルギーの利用技術と課題、バイオマスエネルギーの利用事例
第13回	自然の温度を利用したエネルギー	地熱発電、海洋温度差発電
第14回	燃料電池	EVとFCV、燃料電池の仕組みと種類、家庭用燃料電池、水素インフラ
第15回	エネルギー貯蔵	エネルギー貯蔵方法の種類と特徴

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

次の内容を事前に学習しておく和良好的。第1回：エネルギーのCO<sub>2</sub>換算、第2回：再生可能エネルギーの種類、第3～5回：水の高さ・速さとエネルギーの関係、第6～7回：風力発電の時事問題、第8～10回：太陽光・太陽熱利用の時事問題、第11～12回：バイオマス利用の時事問題、第13回：地球内部と海洋の構造、第14回：エコカーの時事問題、第15回：回生と蓄電

## 【テキスト】

使用しない。

## 【参考書】

必要に応じて紹介する。

## 【成績評価基準】

レポート（50％）：各種再生可能エネルギーの利用方法に関する課題により、主として到達目標2の達成度を評価する。試験（50％）：各種再生可能エネルギーの仕組みや原理、環境問題への貢献などに関する知識を問うものであり、到達目標1～3全般の習得度を評価する。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

皆さんからは、おおむね好評でした。

## 【その他】

再生可能エネルギーには話題が豊富です。また、再生可能エネルギーのほとんどは、実は昔からあったということを実感して欲しいと思います。

## 【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目である。

## 大気と社会Ⅰ

## 北川 徹哉

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：金 2

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業のテーマ】

大気の動きと社会、人間生活との関係がテーマである。

## 【授業の到達目標】

1. 大気運動現象の性質を説明できる。
2. 大気もたらす社会リスクを説明できる。
3. 人間生活圏における気流の流れ方を説明できる。

【】

## 【授業の概要と方法】

地球を覆っている大気は地球の規模から見ると、薄い膜のようなものである。その薄い膜の中で大気は動き、人は生活している。人にとって大気は生存するために必要なものであると同時に、時には強い気流となって襲いかかってくる存在であり、またある時は心地良さをもたらすものでもある。大気と社会Ⅰ、Ⅱにおいては、大気の動きと人間、社会、都市との関係について多角的に学ぶ。大気と社会Ⅰにおいては、気流の性質と社会への影響を中心に講義する。

【】

【】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	社会にとっての大気	大規模大気循環、人の生活圏の気流、強風の要因
第2回	台風	台風のエネルギー、台風の発生と移動
第3回	局地風	陸海風、オロシ、ダシ、フェーン
第4回	竜巻、ダウンバースト	竜巻の構造、フジタスケール、マイクロバースト
第5回	気流による社会の被害	強風による都市、交通、インフラ、文化財などの損壊
第6回	大気観測	大気の観測方法
第7回	気流の統計的性質（1）	平均風速、瞬間最大風速、最大風速
第8回	気流の統計的性質（2）	再現期間、風速の超過確率・非超過確率
第9回	気流の統計的性質（3）	再現期待値、T年最大値
第10回	地表面性状と気流	地表面の粗度、風速の高度分布
第11回	気流の周期性と評価時間	風速のスペクトル、風速の長周期変動、10分間平均
第12回	気流の乱れ	風速の短周期変動
第13回	渦、風の息	カルマン渦の性質、風速変動と渦の重なり
第14回	騒音と大気	音の強さ、風騒音、空振
第15回	生活と大気	強風による生活障害、高層建物とビル風

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

次の内容を事前に学習しておく和良好的。第1～4回：大気・天候・強風に関する時事問題、第5回：気流災害の事例、第6回：風向風速計、第7～9回：確率統計の基礎的な用語、第10回：べき乗、第11～13回：周期あるいは周波数、第14回：音の大小・高低、第15回：ビル風

## 【テキスト】

使用しない。

## 【参考書】

必要に応じて紹介する。

## 【成績評価基準】

レポート（100％）：知識を得るためだけでなく、作業を経て身につけるような内容を含むレポート課題を通じ、到達目標1～3の習得度を総合的に評価する。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

スクリーンに映す文字がやや小さいとの指摘がありました。できるだけ大きい文字サイズにしてゆきます。

## 【その他】

大気の動きと社会に関する話題を分野横断的に取り上げます。本講義を受講することにより、気象や都市の見方が変わると思います。

(注意)「人間環境特論（気流と社会環境Ⅰ）」の単位修得者は本講義を受講できません。再履修者は「人間環境特論（気流と社会環境Ⅰ）」で登録すること。

## 【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目である。

## 大気と社会Ⅱ

北川 徹哉

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：金 2

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

### 【授業のテーマ】

大気の動きと社会および環境との関係がテーマである。

### 【授業の到達目標】

1. 大気運動による物質輸送と社会との関係について説明できる。
2. 都市独特の気象と大気の動きとの関係を説明できる。
3. 人間生活で利用している気流について説明できる。

【】

### 【授業の概要と方法】

大気と社会Ⅰに引き続き、大気と人間、社会、都市との関係について網羅的に学ぶ。大気と社会Ⅱにおいては、大気と人の生活環境との関わりに重点をおいて講義する。

【】

【】

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	大気と人間環境	人の暮らしと大気
第2回	汚染物質の大気拡散	大気汚染物質の種類、広域大気汚染、気温と大気汚染
第3回	ストリートキャニオン	沿道大気汚染、大気汚染の環境基準
第4回	ヒートアイランド	ヒートアイランドの性質
第5回	クリマアトラスと風の道	気候情報に基づく都市の環境計画、風の道をつくるには
第6回	飛砂、風食	地表層土砂の挙動、風紋、飛砂対策、砂漠の拡大
第7回	黄砂の飛来	ダストストーム、黄砂の発生源、黄砂の飛来性状
第8回	スギ花粉の飛散	スギ花粉の性質、花粉の観測方法、スギ花粉飛散状況と天候
第9回	住居環境と気流（1）	室内の汚染物質、換気
第10回	住居環境と気流（2）	通風、温冷感
第11回	火災と大気	延焼と市街地火災、火災旋風、火災の熱と大気
第12回	鉄道・自動車と大気	車両の転覆限界、強風による交通マヒ・事故、鉄道の運行規制
第13回	スポーツと大気	スポーツエアロダイナミクス、スポーツにおける気流対策
第14回	農作物と大気	受粉と気流、光合成と大気、農作物の倒伏、塩害
第15回	損害保険と大気	自然と損害保険、天候デリバティブ

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

次の内容を事前に学習しておくが良い。第1～3回：大気汚染物質の種類、第3～5回：都市の気候、第6～8回：砂粒子の大きさや形、第9～10回：屋内の空気管理、第11回：地震の2次災害の種類、第12回：列車や自動車の形状・構造、第13回：揚力、第14回：受粉、第15回：大気関連災害の損害保険額の規模

### 【テキスト】

使用しない。

### 【参考書】

必要に応じて紹介する。

### 【成績評価基準】

レポート（100%）：知識を得るためだけでなく、作業を経て身につけるような内容を含むレポート課題を通じ、到達目標1～3の習得度を総合的に評価する。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

学生さんからは、おおむね好評でした。

### 【その他】

大気と人の生活に関する様々な話題を取り上げますので、楽しんで受講してください。

（注意）「人間環境特論（気流と社会環境Ⅱ）」の単位修得者は本講義を受講できません。再履修者は「人間環境特論（気流と社会環境Ⅱ）」で登録すること。

### 【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目である。

## 自然環境政策論

高田 雅之

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：金 1

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

### 【授業のテーマ】

自然環境と人間との調和・共生を実現するためには、社会の様々な取り組みが互いに効果を及ぼし合いながら、望ましい状態を目指していけるような環境政策を進めなければなりません。自然環境政策論Ⅰ（前期）では、人間活動と自然環境の軋轢に対する直接的で科学的な手立てを中心に、また自然環境政策論Ⅱ（後期）では、これまで取り組まれてきた様々な社会的・国際的な手立てと、今後の新たな政策の可能性について考究することをテーマとします。

### 【授業の到達目標】

以下の2点について知識と理解を深め、その要点を説明できることを目標とします。

- ①保全対象となる自然環境の特性と、人間活動によって引き起こされた問題の現状と課題
- ②人間による影響を減らすために取り組まれてきた主な保全対策

【】

### 【授業の概要と方法】

「保全の対象となる生物や生態系の特徴」、「人間活動によって引き起こされる諸問題」、「外来種や種の絶滅という難題」、「日本における主な自然環境保全制度」、「科学的調査に基づく保全対策」、「新たな課題である里山問題と生物多様性」について学びます。国内外の実例やエピソードを交えたプレゼンテーションにより、知識と問題意識を積み重ね到達目標に向かいます。

【】

【】

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスと序論	講義の進め方、保全すべき自然環境、政策の概観
第2回	森林をめぐる諸課題	森林の構造と機能、森林の管理、中大野生動物との軋轢
第3回	陸水・海域をめぐる諸課題	河川・湖沼・海域生態系の特性、利水と治水、水生生物と水鳥類
第4回	湿地と草原をめぐる諸課題	成立過程と固有の生物相、脆弱性、人による維持管理
第5回	都市・農地をめぐる諸課題	人為攪乱下の生物相、水田と棚田、都市内緑地、ビオトープ
第6回	外来種問題	様々な導入と影響の事例、対策の難しさ取り組み事例
第7回	種の絶滅と貴重種	絶滅を招く原因、レッドリストによるリスク評価、保護の難しさ取り組み事例
第8回	日本の自然環境保全政策（1）	自然公園、自然環境保全地域
第9回	日本の自然環境保全政策（2）	文化財保護、森林法、河川法、都市緑地保全制度
第10回	日本の自然環境保全政策（3）	狩猟制度と鳥獣保護区、種の保護法、野生生物の保護管理
第11回	自然環境の調査と情報	自然環境保全基礎調査、物理化学環境の現地調査、空中写真判読
第12回	自然の修復と再生	植生の復元、蛇行の復元、順応的な管理
第13回	里地・里山・里海	伝統的な人と自然の関係、資源の循環、森-川-海のつながり
第14回	生物多様性	生物多様性とは、ミレニアム生態系評価、劣化損失の原因と実態
第15回	まとめ	問題解決の難しさ、政策の果たす役割、科学的保全と社会的保全

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

日頃接するメディアや、時折訪ねる公園緑地などで、自然環境に対する関心を払うよう努めてください。

### 【テキスト】

特定のものは使用しません。講義において適宜資料を配布します。

### 【参考書】

講義において随時紹介します。

### 【成績評価基準】

期末試験により評価します。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

知識の詰め込みとならないよう、具体的な事例や挿話を交えながら、できる限り丁寧に説明し理解を促していきます。

## 【その他】

自然環境政策論Ⅰ（前期）とⅡ（後期）は内容と視点が異なり、両方で自然環境政策を網羅するものとしていますので、併せて受講することを勧めます。また講義改善の目的で、時々感想や解決へのアイデアを記述してもらおうことがあります。

## 【関連の深いコース】

国際環境、地域環境

## 人間環境特論（天然資源の科学）

藤倉 良

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：金 6

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

資源の歴史的意味に始まり、さまざまな資源の性質や利用などについて学習します。

## 【授業の到達目標】

資源の科学的性質や利用の見通しについての基礎知識を習得する。

【】

## 【授業の概要と方法】

パワーポイントとレジュメを用いて講義を行います。配布資料は、原則として授業支援システムにアップします。

【】

【】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	資源論の社会科学	資源とは何か、「資源」の概念の歴史、資源の呪い
第2回	淡水（1）	水の循環、淡水資源
第3回	淡水（2）	ダム開発、国際河川
第4回	エネルギー（1）	エネルギーとは何か、様々なエネルギー
第5回	エネルギー（2）	埋蔵量、石油と天然ガス
第6回	エネルギー（3）	石炭、水力
第7回	エネルギー（4）	原子力、新エネルギー
第8回	土壌（1）	土壌の構造
第9回	土壌（2）	土壌の機能
第10回	リンと窒素	循環、機能、存在
第11回	遺伝資源	遺伝子の多様性、名古屋議定書
第12回	金属（1）	銅、鉄、アルミニウム、鉛
第13回	金属（2）	レアアース、レアメタル
第14回	世界の資源消費	人口増加、経済発展と資源消費
第15回	まとめ	今後の資源利用のあり方

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

毎回配布するレジュメを使って復習してください。

## 【テキスト】

特にありません。

## 【参考書】

講義中に指定します。

## 【成績評価基準】

期末試験のみで評価します。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

図を多く使用して、わかりやすい講義を行うこととします。

## 【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目です。



## 人間環境特論（気流と社会環境Ⅰ）

北川 徹哉

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：金 2

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業のテーマ】

大気の動きと社会、人間生活との関係がテーマである。

## 【授業の到達目標】

1. 大気運動現象の性質を説明できる。
2. 大気をもたらす社会リスクを説明できる。
3. 人間生活圏における気流の流れ方を説明できる。

[]

## 【授業の概要と方法】

地球を覆っている大気は地球の規模から見ると、薄い膜のようなものである。その薄い膜の中で大気は動き、人は生活している。人にとって大気は生存するために必要なものであると同時に、時には強い気流となって襲いかかってくる存在であり、またある時は心地良さをもたらすものでもある。大気と社会Ⅰ、Ⅱにおいては、大気の動きと人間、社会、都市との関係について多角的に学ぶ。大気と社会Ⅰにおいては、気流の性質と社会への影響を中心に講義する。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	社会にとっての大気	大規模大気循環、人の生活圏の気流、強風の要因
第2回	台風	台風のエネルギー、台風の発生と移動
第3回	局地風	陸海風、オロシ、ダシ、フェーン
第4回	竜巻、ダウンバースト	竜巻の構造、フジタスケール、マクロ・マイクロバースト
第5回	気流による社会の被害	強風による都市、交通、インフラ、文化財などの損壊
第6回	大気観測	大気の観測方法
第7回	気流の統計的性質（1）	平均風速、瞬間最大風速、最大風速
第8回	気流の統計的性質（2）	再現期間、風速の超過確率・非超過確率
第9回	気流の統計的性質（3）	再現期待値、T年最大値
第10回	地表面性状と気流	地表面の粗度、風速の高度分布
第11回	気流の周期性と評価時間	風速のスペクトル、風速の長周期変動、10分間平均
第12回	気流の乱れ	風速の短周期変動
第13回	渦、風の息	カルマン渦の性質、風速変動と渦の重なり
第14回	騒音と大気	音の強さ、風騒音、空振
第15回	生活と大気	強風による生活障害、高層建物とビル風

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

次の内容を事前に学習しておくが良い。第1～4回：大気・天候・強風に関する時事問題、第5回：気流災害の事例、第6回：風向風速計、第7～9回：確率統計の基礎的な用語、第10回：べき乗、第11～13回：周期あるいは周波数、第14回：音の大小・高低、第15回：ビル風

## 【テキスト】

使用しない。

## 【参考書】

必要に応じて紹介する。

## 【成績評価基準】

レポート（100％）：知識を得るためだけでなく、作業を経て身につけるような内容を含むレポート課題を通じ、到達目標1～3の習得度を総合的に評価する。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

スクリーンに映す文字がやや小さいとの指摘がありました。できるだけ大きい文字サイズにしてゆきます。

## 【その他】

大気の動きと社会に関する話題を分野横断的に取り上げます。本講義を受講することにより、気象や都市の見方が変わると思います。

## 【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目である。

## 人間環境特論（気流と社会環境Ⅱ）

北川 徹哉

カテゴリ：政策 | 配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：金 2

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業のテーマ】

大気の動きと社会および環境との関係がテーマである。

## 【授業の到達目標】

1. 大気運動による物質輸送と社会との関係について説明できる。
2. 都市独特の気象と大気の動きとの関係を説明できる。
3. 人間生活で利用している気流について説明できる。

[]

## 【授業の概要と方法】

大気と社会Ⅰに引き続き、大気と人間、社会、都市との関係について網羅的に学ぶ。大気と社会Ⅱにおいては、大気と人の生活環境との関わりに重点を置いて講義する。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	大気と人間環境	人の暮らしと大気
第2回	汚染物質の大気拡散	大気汚染物質の種類、広域大気汚染、気温と大気汚染
第3回	ストリートキャニオン	沿道大気汚染、大気汚染の環境基準
第4回	ヒートアイランド	ヒートアイランドの性質
第5回	クリマアトラスと風の道	気候情報に基づく都市の環境計画、風の道をつくるには
第6回	飛砂、風食	地表層土砂の挙動、風紋、飛砂対策、砂漠の拡大
第7回	黄砂の飛来	ダストストーム、黄砂の発生源、黄砂の飛来性状
第8回	スギ花粉の飛散	スギ花粉の性質、花粉の観測方法、スギ花粉飛散状況と天候
第9回	住居環境と気流（1）	室内の汚染物質、換気
第10回	住居環境と気流（2）	通風、温冷感
第11回	火災と大気	延焼と市街地火災、火災旋風、火災の熱と大気
第12回	鉄道・自動車と大気	車両の転覆限界、強風による交通マヒ・事故、鉄道の運行規制
第13回	スポーツと大気	スポーツエアロダイナミクス、スポーツにおける気流対策
第14回	農作物と大気	受粉と気流、光合成と大気、農作物の倒伏、塩害
第15回	損害保険と大気	自然と損害保険、天候デリバティブ

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

次の内容を事前に学習しておくが良い。第1～3回：大気汚染物質の種類、第3～5回：都市の気候、第6～8回：砂粒子の大きさや形、第9～10回：屋内の空気管理、第11回：地震の2次災害の種類、第12回：列車や自動車の形状・構造、第13回：揚力、第14回：受粉、第15回：大気関連災害の損害保険額の規模

## 【テキスト】

使用しない。

## 【参考書】

必要に応じて紹介する。

## 【成績評価基準】

レポート（100％）：知識を得るためだけでなく、作業を経て身につけるような内容を含むレポート課題を通じ、到達目標1～3の習得度を総合的に評価する。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

学生さんからは、おおむね好評でした。

## 【その他】

大気と人の生活に関する様々な話題を取り上げますので、楽しんで受講してください。

## 【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目である。

## 公害防止管理論 I

大岡 健三

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：月 6

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【学生による授業改善アンケートからの気づき】

なし

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイントによる映像を利用

【関連の深いコース】

環境経営

### 【授業のテーマ】

多くの企業は ISO14001 等を採用し、環境対策を経営の柱にしている。環境ビジネスの起業や海外展開においても環境知識が必須となっており、行政職含め環境保全で国際協力に貢献する機会も増えている。当講座では水環境と産業公害の実務知識をビジュアル中心で学び、基本的な水質管理が理解できる人材の育成をめざす。同時に、公害防止管理者国家資格の取得準備のための知識を習得する。

### 【授業の到達目標】

環境系学部卒にふさわしい、社会に出てから使える水環境の基礎知識をマスターする。海外のテーマも交えて国際レベルの環境情報も学ぶことができ、専門分野や実社会において有効かつ有益な環境スキルの理解を深めることもできる。

Ⅰ

### 【授業の概要と方法】

水環境の事例から実践知識を学ぶ。各論では、産業公害の実際、汚染物質、汚染メカニズム、環境法等を理解して、環境に関係する問題解決の基礎を学ぶ。また、水質浄化技術・測定技術の基礎も学ぶことによって水に関する環境保全方法を習得する。講師が作成した外国政府向け教材も国際レベルの知識を得るために時々使用する。

Ⅱ

Ⅲ

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	現場でみた水俣病からネパール砒素汚染まで	現地取材した汚染実態と公害防止の側面からの分析。国内の水質汚濁状況の現状。
第 2 回	水質汚濁のメカニズム	大気や土壌・廃棄物由来の水質汚濁はどのようなメカニズムで起こるのか、事例研究。
第 3 回	水質汚濁の種類と発生源	水質汚濁には、生活上問題になる物質と健康に有害な物質がある。これらの発生源はどこか。
第 4 回	環境法概論	環境基本法、水質汚濁防止法、土壌汚染対策法、公害防止者管理法等の概論。
第 5 回	環境法各論	水質汚濁防止法、土壌汚染対策法、廃棄物処理法の各論。
第 6 回	物理化学的処理法 1	排水を浄化するための凝集沈殿など物理化学的処理法。
第 7 回	物理化学的処理法 2	排水を浄化するための浮上、ろ過、化学処理等物理化学的処理法。
第 8 回	生物学的処理法 1	排水を浄化するための好気性微生物を利用する処理法。
第 9 回	生物学的処理法 2	排水を浄化するための嫌気性微生物を利用する処理法。
第 10 回	高度処理法	排水を浄化するための活性炭利用等高度な処理法。
第 11 回	有害物質処理法 1	健康に有害な金属物質を含む排水を浄化するための処理法。
第 12 回	有害物質処理法 2	健康に有害な有機化合物質を含む排水を浄化するための処理法。
第 13 回	水質測定法	水質測定の基礎知識と水質汚濁物質についての測定方法。
第 14 回	公害防止の実践	事業所における実例、ビジュアル利用による実践事例の研究。
第 15 回	総括	総括前期習得事項の整理と練習問題。

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

特定テーマに関して、インターネット検索により予習復習を課すことがある。

### 【テキスト】

毎回プリントを配布予定

### 【参考書】

「新・公害防止の技術と法規 水質編」

発行所 (社) 産業環境管理協会

「公害防止管理者等国家試験問題 正解とヒント 水質」

発行所 (社) 産業環境管理協会

### 【成績評価基準】

授業内で筆記試験を行い、総合点で判定する。

A + : 100-90 A : 89-80 B : 79-70

C : 69-60 D : 59 点以下で不合格。

## 公害防止管理論Ⅱ

【関連の深いコース】  
環境経営

大野 香代

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：月 6

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

人の健康や生活環境保全のためには、企業の生産現場における公害防止技術が必要不可欠である。

我が国は1960年代の高度経済成長期に深刻な公害問題を抱え、1970年代に環境法規の整備、環境設備への投資、処理技術開発、企業努力によってそれを克服した経緯がある。本講座では大気保全の歴史や法規制、排ガス処理技術、測定技術について基礎的知識を習得し、企業の環境管理について学ぶ。

## 【授業の到達目標】

大気保全の歴史や法規制、排ガス処理技術、測定技術について基礎的知識を習得し、企業の環境管理を担う、公害防止管理者の国家資格取得を目標とする。

[]

## 【授業の概要と方法】

前半は大気汚染の歴史、現在の大気汚染問題や汚染メカニズム、大気汚染防止法等の環境法規などの環境保全の知識を学び、後半は燃焼管理方法、排ガス処理技術、測定法等の排ガス管理・処理技術を学ぶ。授業は基本的事項を学んだ後に、例題を解く方式で理解を深める。定期試験ではなく、授業内に行う2回の試験と出席率で成績評価を行う。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	大気汚染の歴史と現状	わが国及び海外の大気汚染のエピソード及びわが国の大気汚染の現状。
第2回	大気汚染のメカニズム、地球環境問題	大気汚染の発生メカニズムと地球環境問題の概要
第3回	大気汚染物質の発生源と大気拡散	大気汚染物質の発生源の種類と発生源から排出された大気汚染物質がどのように拡散して我々の健康に影響を及ぼすのか。
第4回	大気汚染による影響	大気汚染物質による人への健康及び植物への影響について。
第5回	燃料の種類と燃焼管理方法	発生源から排出される大気汚染物質の量は、燃料の種類と燃焼管理方法によってどのように異なるか。
第6回	中間試験	1回～6回までの授業内容についての試験を実施する。
第7回	硫黄酸化物及び窒素酸化物処理技術	排ガス中の硫黄酸化物及び窒素酸化物の排出低減及び処理技術。
第8回	有害物質処理技術	ふっ素、塩素等の健康に有害な物質についての排出処理技術。
第9回	ダストの粒径分布と集じん性能	排出ガスに含まれる粒子（すず）を除去する技術を習得するための基礎知識。
第10回	ダストの粒径分布と集じん性能	重力や水等を利用して排出ガスから粒子を除く技術。フィルターや電気を利用して排出ガスから粒子を除く技術。
第11回	除じん・集じん技術	重力や水等を利用して排出ガスから粒子を除く技術。フィルターや電気を利用して排出ガスから粒子を除く技術。
第12回	硫黄酸化物及び窒素酸化物の測定法	排ガス中の硫黄酸化物及び窒素酸化物の測定法について。
第13回	有害ガス測定方法	排出ガスに含まれる有害ガスについての測定技術。
第14回	ばいじん測定方法	排出ガスに含まれる粒子についての測定技術。
第15回	総括試験	8回～14回までの内容を中心に本講座の内容を総括した試験を実施する。

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

新・公害防止の技術と法規 大気編の関連箇所を事前に読んでおくこと。

## 【テキスト】

特に指定しない。毎回の授業に補助資料を配付する。

## 【参考書】

新・公害防止の技術と法規 大気編  
発行所 (社)産業環境管理協会

## 【成績評価基準】

授業内で筆記試験を行い、総合点で判定する。

A+：100-90 A：89-80 B：79-70 C：69-60 D：59点以下で不合格

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

アンケート結果が出ていなので、記述できない。

## 廃棄物・リサイクル論

楠木 儀郎

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時間：土 1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

### 【授業のテーマ】

「リサイクル」には廃棄物問題の解決、資源・エネルギー有効活用の決めるような強いポジティブイメージがある。しかし、現実の廃棄物問題は複雑で多様で簡単には片付かない。

本科目では、「廃棄物」、リサイクルの意義、今後の対策のあり方等を考えるための知識と考える力を身につけることを目標とする。

### 【授業の到達目標】

廃棄物と有価物の差異を知ることで廃棄物及びその処理の意義を各自の生活体験に照らして考えられるようになる。自分の排出した廃棄物がどこに運ばれどのように処理されるかを知り、処理方法のうちリサイクルはどのように位置づけられるか理解する。各種リサイクル法規の考え方を知り、各自が都市の特性に応じてリサイクルの推進を組み込んだ都市計画を策定する際の考え方を身につけることを目標とする。

[]

### 【授業の概要と方法】

講義資料と参考図書をもとにして、日常生活、歴史と文化、法律、経済、技術などの様々な側面から廃棄物問題の基礎知識を学ぶ。それらを基にして、自らが廃棄物問題に悩む市長となった事態を想定し、廃棄物のリサイクルを進める計画について考察する。廃棄物のリサイクルと社会との関係についての考察力を深める。

[]

[]

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	全体構成と進め方  まず知っておくべき廃棄物の基本的な事実と知識（1）	講義の全体像を説明したのち廃棄物とは何かという概念整理を行い廃棄物と有価物の違いについての基礎知識を得る。
第2回	廃棄物の基本的な事実と知識（2）	自分が日常排出しているごみの処理方法について考えることを通じて廃棄物処理方法の多様さについての知識を得る。
第3回	廃棄物の基本的な事実と知識（3）	明治時代の東京、大阪や中世のバリなどの廃棄物再生利用を学びリサイクルの価値観の変化について知識を得る。
第4回	廃棄物処理の法制度の基本	廃棄物処理法の仕組みと基本的な考え方について知識を得る。
第5回	廃棄物処理はみんなの責任	国民、事業者、自治体、国がそれぞれどのような法的責任を有しているかについて知識を得る。
第6回	一般廃棄物処理の体系	一般廃棄物処理と産業廃棄物処理との制度上の違いとその背景や実態などについて知識を得る。
第7回	産業廃棄物処理の体系	産業廃棄物処理の制度などについての知識を得る。
第8回	特別管理廃棄物の処理体系の考え方	PCB廃棄物などの特別管理廃棄物制度の創設の背景や現状についての知識を得る。
第9回	廃棄物処理の技術の基本的原則	安定化、無害化、減量化という過去から現在まで継続して重要である基本的原則の背景や必要性を知る。
第10回	中間処理技術	焼却などの中間処理技術について知識を得る。
第11回	エコタウン	エコタウンと呼ばれるリサイクル団地などについて知識を得る。
第12回	最終処分技術	埋め立て技術についてその考え方や技術的背景の知識を得る。
第13回	リサイクル推進等による廃棄物の処理計画立案、レポート出題	仮定の都市の現状・将来の姿などの考察の前提条件を説明し、レポートを出題する。
第14回	まとめとレポートの作成・提出	講義全体の内容をまとめるとともに、レポートの作成と提出を指導する。（この時間内にレポート提出）
第15回	小テスト（理解度の確認）	講義の理解度を確認するための小テストを行う。

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

より効果的に講義が受講できるように、事前に下の参考書を読んでおくとよい。

### 【テキスト】

講義の際に資料を配布する

### 【参考書】

「新・廃棄物学入門」（田中勝著 中央法規出版株式会社）

### 【成績評価基準】

①出席の状況、②提出レポートの内容、③小テストの結果により、講義の理解度と、廃棄物とリサイクルについて考える力がついているかどうか等を評価の基準とする。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

各講義時間の終了時に提出してもらう出席表を使って各自が感想、疑問を述べられるようにし、双方向の講義の実施を図る。

### 【学生が準備すべき機器他】

携帯電話、スマホ等を含めたすべての情報機器について講義時間中の使用は認めない。

### 【その他】

・小テストにおいては配布する資料の持込を可とする。

・2011年度までに旧名称「リサイクル論」を修得済の場合、本科目は履修できない。再履修者は「リサイクル論」で登録すること。

### 【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目である。



## 環境教育論

吉川 まみ

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：火 5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

### 【授業のテーマ】

環境教育の成立とあゆみ、展開や、さまざまな環境教育実践を学び、安心・安全で持続可能な社会の構築に向けて、3.11以降の環境教育の在り方を考える。

### 【授業の到達目標】

1975年、世界で初めて環境教育をテーマにした国際会議がバオグラードで開催され、「環境教育」の目的は「人と人との関係性、人と自然との関係性の再構築」であるとされました。この講義を通じて、一人一人が、あるべき持続可能な社会像や新たな関係性を再考し、それぞれがこれからの環境教育の在り方を考えることをねらいとする。

[]

### 【授業の概要と方法】

毎回、理論的な説明だけでなく、具体的に身近な事例を用いて理解を深める。

[]

[]

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	環境教育とは	・環境教育を学ぶ意義 ・環境教育のはじまり（自然保護思想と公害教育）
第2回	環境教育の展開とESD 持続可能な開発のための教育	・日本と主な国々の環境教育のあゆみ ・主要な国際会議における環境教育の位置づけの変遷 ・先進国と途上国の開発教育と環境教育
第3回	環境教育の方法と実践	・国連ESDの10年とESD実践 ・環境教育の多様な主体とアプローチ
第4回	環境思想と環境教育	・環境教育のIn・About・For ・エコロジー、ディープエコロジー、エコフェミニズム
第5回	環境行政と環境教育	・日本の環境思想とバイオリージョン ・地球温暖化をめぐる国内外の取組みと日本の環境政策 ・3.11以降の環境教育（エネルギー環境教育・防災教育）
第6回	国際教育協力と環境教育	・途上国支援と環境教育 ・世界遺産と環境教育
第7回	学校を中心とした環境教育	・ESDの取組みとユネスコスクール ・環境教育推進法、新環境教育指導資料、「総合的な学習の時間」と環境教育
第8回	生涯学習としての環境教育	・学校におけるESD実践 ・幼児の環境教育、子どもと自然体験、感性と環境教育
第9回	地域の多様性を尊重した環境教育 ～生活知と科学知の統合～	・学びの変遷と体験型・参加型環境教育 ・エコツーリズム ・農山漁村と環境教育
第10回	大都市圏の環境教育 ～環境・産業・経済～	・生活知・暗黙知・伝統知と科学知の統合 ・環境と経済の好循環
第11回	環境教育における連携・協働～市民・企業・行政・NGO/NPO～	・社会的責任と環境報告書 ・多様なステークホルダーの連携・協働 ・新しい社会の関係性
第12回	消費者と環境教育 ～生産と持続可能な消費～	・生産と消費 ・エココンシューマー、消費者教育と環境教育
第13回	暮らしと環境教育 ～衣食住と環境教育～	・衣生活と環境教育 ・食育と環境教育 ・住生活と住環境教育
第14回	安心・安全で持続可能な社会の構築と環境教育	・さまざまな社会課題と環境教育 ・まちづくり（都市計画）、防災とバリアフリー
第15回	持続可能な地域づくり、その担い手づくりとしての環境教育	・持続可能なコミュニティと意識形成 ・関係性の再考とThink Globally, Act Locally

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

地域の環境活動に参加するなど、いろいろな体験を心がけてください。

### 【テキスト】

講義ごとに配布する。

### 【参考書】

講義ごとに紹介する。

### 【成績評価基準】

出席状況・態度 30%、リアクションペーパー 25%、課題レポート 20%、テスト 25%

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

2012年度より担当

### 【学生が準備すべき機器他】

プロジェクター、DVD

### 【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目である。

## 食と農の環境学 I

西川 邦夫

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：水 5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

### 【授業のテーマ】

経済発展段階が先進国段階に到達した日本の農業及び農業政策について、農業経済学の立場から検討する。

### 【授業の到達目標】

農業経済学の基本的な知識を身につけるとともに、日本農業が抱える問題点、今後日本農業が向かうべき進路について自分の考えを持つことができる。

[]

### 【授業の概要と方法】

日本農業及び農業政策が現在置かれている状況について、国際交渉、国内市場、農業構造、環境問題等との関係から検討する。また、農業の現場で何が起きているのか、実例を踏まえて解説する。

[]

[]

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	プロローグ—現代日本における農業問題の枠組み—	先進国段階に到達した日本農業が直面している問題について、理論的に解説する。
第 2 回	ガット・ウルグアイラウンドと世界の農政改革	90 年代以降の世界農業を規定したガット・ウルグアイラウンドの成果と、先進各国の農政改革を解説する。
第 3 回	WTO 農業交渉と農産物貿易交渉の重層化	現在も継続中の WTO ドーハラウンドの状況と、FTA・EPA 等の二国間交渉出現の背景を解説する。
第 4 回	「TPP」と「東アジア共同体構想」	日本が参加を検討する経済連携の代表的な構想として、「TPP」と「東アジア共同体構想」を取り上げて検討する。
第 5 回	日本経済の構造転換と米政策	日本農業の中で最も重要な米市場と米政策について、経済一般の状況と関わらせて検討する。
第 6 回	農業労働力の脆弱化と就農ルートの多様化	農家家族による経営継承の行き詰まりと、農家以外の労働力の農業参入の実態について解説する。
第 7 回	自作農体制の解体と農地政策改革	自作農を念頭に設計されてきた農地法の構造と、近年の農地政策改革について解説する。
第 8 回	多様な担い手の形成と農業経営政策	家族経営のみでは日本農業を支えることができない事実と、それ以外の多様な経営体をサポートする政策の在り方を検討する。
第 9 回	農業と環境	農業と環境問題を捉える理論的な枠組みと実例を解説する。
第 10 回	食品の安全性と産直運動	消費者の食品の安全性に対する不安の高まりと、それに応えるはずである産直運動の理念と現実について検討する。
第 11 回	農業協同組合の機能と課題	日本農業において大きな存在感を示す農協について、果たしている機能と課題を検討する。
第 12 回	自民政権の農業政策—品目横断的経営安定対策を中心に—	自民政権時代の農業政策について、主に 2000 年代以降に焦点を当てて検討する。
第 13 回	民主党政権の農業政策—戸別所得補償制度を中心に—	民主党政権の農業政策について、自民党時代との連続性と断絶性に注目して検討する。
第 14 回	東日本大震災と農業	東日本大震災による農業の被災状況と、今後直面するであろう課題を整理する。
第 15 回	エピローグ—現代日本の農業問題—	これまでの講義の内容を総括する。

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

新聞で農業関係の記事があったら、読んでおくことをお勧めします。

### 【テキスト】

生源寺眞一『日本農業の真実』（ちくま新書 902）、筑摩書房、2011 年、756 円。

### 【参考書】

速水佑次郎・神門善久『農業経済論 新版』、岩波書店、2002 年、4,200 円。

### 【成績評価基準】

レポート課題：30 点

【評価基準】事実を的確に整理すること。論理的に書かれていること。自分の意見があること。課題内容については授業中に指示。

期末試験：70 点

【評価基準】穴埋め、語句解説、論述等を検討している。

【学生による授業改善アンケートからの気づき】

今年度に新設。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイントを使用する予定。

【その他】

特になし。

【関連の深いコース】

地域環境

## 食と農の環境学Ⅱ

船戸 修一

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：水 6

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

### 【授業のテーマ】

「農」や「食」を自然環境の仕組みや環境問題から考えます。

### 【授業の到達目標】

「農」や「食」が現代の自然環境の仕組みや環境問題と密接にかかわっていることを理解する。

【】

### 【授業の概要と方法】

そもそも農業は、人間の「いのち」を支える「生命産業」です。また農産物は動植物の「いのち」そのものです。しかし「近代社会＝資本主義社会」においては、農業は「金儲け」の手段となり、農産物は「金銭的価値」として見なされます。こうして「市場原理＝経済的な効率性」を求めるがゆえに、農業は自然環境への負荷を高め、環境問題を引き起こしてしまうのです。そこで、この授業では、農業・農村にかかわる諸問題を取りあげるだけでなく、私たちの生命の源であり、暮らしの根幹である「食」の現場からも考察を深め、「農＝食」という立場から自然環境や環境問題を理解し、現代日本社会を考えていきます。

【】

【】

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	「農」から「現代日本社会」が見えてくる～まずは農業・農村に興味をもうごう！	まずは農業・農村に興味をもとう！・・・現代社会において農業や農村を考える意義について学習します。
第2回	高度経済成長と戦後の農業・農村社会～『ALWAYS 三丁目の夕日』は「美しい日本」なのか？	戦後の日本農業や農村社会の変容を高度経済成長との関連で学習します。
第3回	「過疎」問題と「限界集落」の出現～『田舎に泊まろう！』では伝わらない現実とは？	過疎や限界集落の成立背景やその課題について学習します。
第4回	戦後農政と農業・化学肥料の登場～なぜレイチェル・カーソンは「春は沈黙する」と言ったのか？	戦後の農業現場で普及していった農業や化学肥料の功罪について学習します。
第5回	第5回 「WTO体制」と農業・農村の「多面的価値」～田んぼはコメだけでなく自然環境も生産している！	市場経済で取り引きされない農業や農村の価値について学習します。
第6回	食生活の欧米化と食料自給率の低下～いつから「牛丼」は国民食になったのか？	戦後の日本人の食生活の変化を高度経済成長との関連で学習します。
第7回	日本人の食生活と環境破壊～エビからアジアが見えてくる！	海外に依存する日本人の食生活が途上国の自然環境の破壊につながっていることを学習します。
第8回	ファストフード批判と「スローフード」運動～マクドナルドは食文化を破壊しているのか？	食のグローバル化に対する社会運動の意義について学習します。
第9回	農業とバイオテクノロジー～「GM（遺伝子組換え）」作物は良いの？悪いの？	遺伝子組み換え作物の普及背景やその功罪について学習します。
第10回	「BSE」の発生と食品行政の転換～なぜ食に「自己責任」を求めるのか？	BSE問題から食の安全・安心やリスクについての考え方を学習します。
第11回	「有機農業」運動の始まり～都市の消費者が農家を支える関係とは？	有機農業運動の目的や意図を理解することによって消費者の農業・農村に対する役割について学習します。
第12回	「グリーン・ツーリズム（都市農村交流事業）」の登場～「棚田オーナー制」は最先端の観光！	都市住民による農村滞在や農業体験の意義について学習します。

- 第13回 「生身の自然」から「切り身の自然」へ～バック詰めの鶏肉に「いのち」を実感できるのか？
- 自分で育てた家畜を自ら解体する活動によって現代日本の食事情について学習します。
- 第14回 「循環」型社会をめざして～生ゴミのリサイクルで野菜を作って地域をつなげる！
- 生命・物質が循環する自然生態系の中に農業の営みを埋め戻す意義について学習します。
- 第15回 まとめ～「食」が変われば「農」は変わる！
- 日本の食や日本農業・農村をめぐる諸問題を理解したうえで農業や農村の意義について再度考えます。

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

授業後は、授業内容や配布プリントの内容について復習しておいてください。そのうえで、授業で紹介した参考書や授業内容に関する文献を読むなど自主的な学習をお願いします。

### 【テキスト】

テキストは指定しません。毎回、プリントを配布します。

### 【参考書】

参考文献は、授業で適宜紹介します。

### 【成績評価基準】

学期末に提出するレポートの内容を90%、授業後に課すリアクションペーパーの内容を10%として評価します。なお受講者の人数次第では、評価方法を変更することがあります。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

これまでの授業では出席をとらなかつたため、授業を欠席する学生がいたようでした。そこで積極的な授業参加を促すために、毎回ではありませんが、授業後にリアクションペーパーを課したいと思います。

### 【その他】

2011年度までに旧名称「人間環境特論（農と食から考える現代日本社会）」を修得済の場合、本科目は履修できません。再履修者は旧名称で登録してください。

### 【関連の深いコース】

国際環境、地域環境

## 食と農の環境学Ⅲ

吉田 岳志

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：水 6

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

### 【授業のテーマ】

農業問題を考える

### 【授業の到達目標】

食料生産を担う農業・農村の現状を理解するとともに①食料自給率や食品の安全性確保の現状と課題②農業生産を支える技術の発展と課題③産業としての農業生産活動と環境保全機能の関係④地球環境問題に対応した農業生産⑤新たな農業生産の展望、等についての知識を取得し、農業問題について多面的なものを見方を身につける。

Ⅰ

### 【授業の概要と方法】

(概要)

食料自給率や世界の食料問題について紹介するとともに、これまでの我が国の農業生産の推移を技術や政策の転換に着目しながら講義します。その上で、現在の農業の主な課題である①環境保全型農業②食の安全問題（リスク分析の考え方）③遺伝子組み換え技術をはじめとしたバイオテクノロジーやITの農業への応用④地球温暖化と農業⑤生物多様性と農業等について現状と課題を講義します。

(方法)

パワーポイントを使った講義を行います。

Ⅰ

Ⅰ

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	日本の農業	わが国で行われているさまざまな農業の形態を紹介します。
第2回	食料自給率	世界の食料問題、食料自給率の推移、海外との比較、食料自給率が低い要因、食料自給率向上に向けた取組等について講義します。
第3回	農業生産の推移Ⅰ	戦後60年の農業生産の推移を技術の発展や政策の推移に着目しながら講義します。
第4回	農業生産の推移Ⅱ	第3回の続き。特に農業生産資材をめぐる状況について講義します。
第5回	農村の現状	農村の多面的機能、それが損なわれている現状、鳥獣害対策等について講義します。
第6回	食の安全問題	BSE、口蹄疫、鳥インフルエンザ、残留農薬問題等と食の安全性との関係、リスク分析の考え方を講義します。
第7回	持続的農業生産	環境保全型農業、有機農業等持続的農業生産方式の現状と課題について講義します。
第8回	バイオテクノロジーと農業Ⅰ	遺伝子組み換え技術の農業分野での活用について講義します。
第9回	バイオテクノロジーと農業Ⅱ	遺伝子組み換え技術以外のバイオテクノロジーの農業分野での活用について講義します。
第10回	地球温暖化と農業	農業生産活動による温室効果ガス発生状況、地球温暖化防止、温暖化適用技術等について講義します。
第11回	生物多様性と農業	農業生産活動が生物多様性に与える負荷と生物多様性を保全する役割について講義します。
第12回	技術開発・普及と知的財産の保護・活用	農業部門における技術開発・普及及び新品種等知的財産の保護・活用の仕組みと課題、IT化やロボット化等新しい農業技術について講義します。
第13回	震災対応問題	津波や放射能汚染の被害への対応の現状と課題について講義します。
第14回	農業・農村の展望	農業・農村の現場で起きている新しい取り組みを紹介しながら、今後の農業の展望について講義します。
第15回	まとめ	必要に応じて14回までの講義の補足を行うとともに、全体を総括します。

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

新聞や雑誌、テレビ等で報じられる農業問題を見たり聞いたりしながら、疑問点や気づいた点をメモしておいてください。

### 【テキスト】

毎回、講義する主な項目を列記したレジュメを配り、パワーポイントを使って講義しますので、テキストは使いません。

### 【参考書】

農業白書（平成22年度食料・農業・農村の動向）

### 【成績評価基準】

出席点40%、期末試験60%

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

2012年度からの新設科目

### 【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目である。



## スポーツビジネス論Ⅰ

千田 利史

配当年次／単位：3～4年／2単位

開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：金 2

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業のテーマ】

現代社会におけるスポーツを、ビジネスの側面から総合的に解説したい。

## 【授業の到達目標】

ビジネスとしてのスポーツを成立させている、歴史的な要因や、現在のメカニズム、及び今後の展望に着いての体系的な知識の取得を目指す。

[]

## 【授業の概要と方法】

スポーツマーケティングの実務経験を持つ講師が、ケーススタディを紹介しつつ、最新の理論体系をわかりやすく解説する。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	現代社会とスポーツ	見るスポーツ、するスポーツ
第2回	マーケティングとスポーツ	理論
第3回	スポーツマーケティングの実際	ケーススタディ
第4回	スポーツ団体の仕組み	各種競技団体
第5回	オリンピックの運営の仕組み	ビジネスとしてのオリンピック
第6回	ワールドカップサッカーの仕組み	ビジネスとしてのワールドカップ
第7回	競技団体とスポンサー	企業のスポンサーシップ
第8回	広告会社の役割	広告会社のスポーツ部門の仕事
第9回	人気スポーツと財政基盤	野球、すもう、バレーボール、スケート
第10回	テレビとスポーツ	放映権とスポーツ番組
第11回	報道とスポーツ	ニュースとスポーツの関係
第12回	インターネット状況とスポーツ	新しいメディアとスポーツ
第13回	スポーツと消費者	理論、消費者類型
第14回	現代社会にとってのスポーツの意味	総論
第15回	現代のスポーツビジネスの課題と可能性（まとめ）	スポーツビジネスのさらなる成長には、何が必要か

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

試合結果だけではなく、新聞、雑誌、テレビ、ネットなどでスポーツビジネスに関する記事に多く目を通しておくこと

## 【テキスト】

各テーマに応じ配布

## 【参考書】

特に指定しない

## 【成績評価基準】

レポートの評価

および出席状況を加味する

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

ビジュアル素材などもより積極的に活用する。

最新のスポーツ界の動向を解説し、紹介する。

## 【学生が準備すべき機器他】

ビデオ、スライドなどを活用

## 【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目である。

## スポーツビジネス論Ⅱ

千田 利史

配当年次／単位：3～4年／2単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：金 2

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業のテーマ】

スポーツビジネス上の課題を発見し、その解決策を考案する。

チームでのプレゼンテーションを行い、チームごとに競う。

## 【授業の到達目標】

課題の発見と、その解決策を、グループ学習も加えて学ぶ機会とする。

[]

## 【授業の概要と方法】

スポーツビジネスの応用編として、グループごとに選択した課題をもとに、ソリューションを発見し、発表する実践的な授業を行う。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	課題の設定	①スポーツチームの経営 ②メディアとのよりよい関係づくり ③スポンサーシップ
第2回	課題の解説①	チームの運営と役割分担をどう行うか
第3回	課題の解説②	メディアリレーション
第4回	課題の解説③	スポンサーシップ
第5回	グループ分け	編成とリーダーの決定
第6回	プレゼンテーションの仕方	発表形式
第7回	グループ発表①	質疑 コメント
第8回	グループ発表②	質疑 コメント
第9回	中間総括	プレゼンテーションのテクニックと必要なポイント
第10回	グループ発表③	質疑 コメント
第11回	グループ発表④	質疑 コメント
第12回	優秀プレゼンの発表	選考基準 コメント
第13回	スポーツビジネスとは何か	理論の整理
第14回	職業としてのスポーツの可能性	スポーツに関わる職業
第15回	グループ発表への総評とアドバイス	スポーツビジネスの発展に、具体的なアイデアをどう活用していくべきか（まとめの議論）

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

授業時間以外に、グループでの簡単な調整準備会議が必要

## 【テキスト】

各回の講義で配布

## 【参考書】

特になし

## 【成績評価基準】

発表内容

グループ作業への貢献

出席

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

学生諸君の積極的な参加と発表を期待します。

## 【学生が準備すべき機器他】

各自が PPT で発表資料作成

## 【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目である。

## リサイクル論

楠木 儀郎

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：土 1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

### 【授業のテーマ】

「リサイクル」には廃棄物問題の解決、資源・エネルギー有効活用の決めるような強いポジティブイメージがある。しかし、現実の廃棄物問題は複雑で多様で簡単には片付かない。

本科目では、「廃棄物」、リサイクルの意義、今後の対策のあり方等を考えるための知識と考える力を身につけることを目標とする。

### 【授業の到達目標】

廃棄物と有価物の差異を知ることで廃棄物及びその処理の意義を各自の生活体験に照らして考えられるようになる。自分の排出した廃棄物がどこに運ばれどのように処理されるかを知り、処理方法のうちリサイクルはどのように位置づけられるか理解する。各種リサイクル法規の考え方を知り、各自が都市の特性に応じてリサイクルの推進を組み込んだ都市計画を策定する際の考え方を身につけることを目標とする。

[]

### 【授業の概要と方法】

講義資料と参考図書をもとにして、日常生活、歴史と文化、法律、経済、技術などの様々な側面から廃棄物問題の基礎的知識を学ぶ。それらを基にして、自らが廃棄物問題に悩む市長となった事態を想定し、廃棄物のリサイクルを進める計画について考察する。廃棄物のリサイクルと社会との関係についての考察力を深める。

[]

[]

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	全体構成と進め方  まず知っておくべき廃棄物の基本的な事実と知識（1）	講義の全体像を説明したのち廃棄物とは何かという概念整理を行い廃棄物と有価物の違いについての基礎知識を得る。
第2回	廃棄物の基本的な事実と知識（2）	自分が日常排出しているごみの処理方法について考えることを通じて廃棄物処理方法の多様さについての知識を得る。
第3回	廃棄物の基本的な事実と知識（3）	明治時代の東京、大阪や中世のバリなどの廃棄物再生利用を学びリサイクルの価値観の変化について知識を得る。
第4回	廃棄物処理の法制度の基本	廃棄物処理法の仕組みと基本的な考え方について知識を得る。
第5回	廃棄物処理はみんなの責任	国民、事業者、自治体、国がそれぞれどのような法的責任を有しているかについて知識を得る。
第6回	一般廃棄物処理の体系	一般廃棄物処理と産業廃棄物処理との制度上の違いとその背景や実態などについて知識を得る。
第7回	産業廃棄物処理の体系	産業廃棄物処理の制度などについての知識を得る。
第8回	特別管理廃棄物の処理体系の考え方	PCB廃棄物などの特別管理廃棄物制度の創設の背景や現状についての知識を得る。
第9回	廃棄物処理の技術の基本的原則	安定化、無害化、減量化という過去から現在まで継続して重要である基本的原則の背景や必要性を知る。
第10回	中間処理技術	焼却などの中間処理技術について知識を得る。
第11回	エコタウン	エコタウンと呼ばれるリサイクル団地などについて知識を得る。
第12回	最終処分技術	埋め立て技術についてその考え方や技術的背景の知識を得る。
第13回	リサイクル推進等による廃棄物の処理計画立案、レポート出題	仮定の都市の現状・将来の姿などの考察の前提条件を説明し、レポートを出題する。
第14回	まとめとレポートの作成・提出	講義全体の内容をまとめるとともに、レポートの作成と提出を指導する。（この時間内にレポート提出）
第15回	小テスト（理解度の確認）	講義の理解度を確認するための小テストを行う。

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

より効果的に講義が受講できるように、事前に下の参考書を読んでおくとよい。

### 【テキスト】

講義の際に資料を配布する

### 【参考書】

「新・廃棄物学入門」（田中勝著 中央法規出版株式会社）

### 【成績評価基準】

①出席の状況、②提出レポートの内容、③小テストの結果により、講義の理解度と、廃棄物とリサイクルについて考える力がついているかどうか等を評価の基準とする。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

各講義時間の終了時に提出してもらう出席表を使って各自が感想、疑問を述べられるようにし、双方向の講義の実施を図る。

### 【学生が準備すべき機器他】

携帯電話、スマホ等を含めたすべての情報機器について講義時間中の使用は認めない。

### 【その他】

小テストにおいては配布する資料の持込を可とする。

### 【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目である。

## 人間環境特論（商社活動と CSR）

小林 一夫

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：月 5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

商社活動と CSR（企業の社会的責任）

21 世紀の経済社会においては、環境リスクへの対応と CSR を機軸のおいた健全なビジョンに基づく事業運営を継続的に推進することが持続的成長を担う企業経営には必須です。CSR と企業経営との観点から、企業とは・会社とはなにかにつき整理し、次にグローバルを前提とした総合社における環境対応等の具体的事例を紹介しつつ、基本的な見方とあるべき問題意識の一端について学習します。

## 【授業の到達目標】

企業とは・会社とはなにかにつき、基本的な知識を得ると共に理解します。企業経営と CSR（企業の社会的責任）について概要の把握と理解が深められるようにします。グローバルを舞台とする商社等企業活動の現場における環境リスク対応について理解を深められるようにします。

[]

## 【授業の概要と方法】

おもに講義を主体として進めていきますが、事例研究として初回は三井物産の 136 年の歴史と経営をテーマとした DVD を使います。また、第 2 回目と 3 回目は、三井物産 CSR レポート等を参照します。双方向のコミュニケーションを図り基本的理解を深めるため、その日の授業の内容について短い感想の提出をもとめることがあります。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	総合社社の企業経営と CSR（企業の社会的責任）、イントロダクション	講義内容のガイダンス
第 2 回	総合社社と CSR（企業の社会的責任）〔その 1〕	企業とは何かにつき、本邦企業の実業の観点からの見方と、企業の社会的責任について基本的知識を得る。
第 3 回	総合社社と CSR（企業の社会的責任）〔その 2〕	三井物産の CSR レポートを題材として、総合社社のとらえる企業の社会的責任について基本的知識を得る。
第 4 回	総合社社と CSR（企業の社会的責任）〔その 3〕	産業界は CSR をどのように位置付けているかにつき基本的知識を得る。又、総合社社の本業とのかかわりから CSR をとらえる。CSR の視点からの環境対応。
第 5 回	コーポレート・ガバナンスと内部統制	CSR 経営を支えるコーポレート・ガバナンスと内部統制の概念の基本的知識を得る。企業経営の仕組みについての基本的知識を得る。
第 6 回	内部統制の構築	実際に内部統制の確立と浸透をどのように図っているか、実際の例をあげ基本的知識を得る。
第 7 回	コンプライアンス〔その 1〕	コンプライアンスとはなにか、総合社社の現場における対応について基本的知識を得る。
第 8 回	コンプライアンス〔その 2〕	コンプライアンスの概念についての基本的な知識を得る。
第 9 回	リスクマネジメント、事業リスク、環境・CSR リスク等への対応	環境リスク、事業リスク等総合社社の現場でのリスク管理の考え方と、対応について。リスクとは何かの基本的知識を得る。
第 10 回	マネジメントシステムとは	ISO14001 環境、OHSAS18001 労働安全衛生、ISO26000 社会的責任ガイダンス規格などのマネジメントシステムについて基本的知識を得る。
第 11 回	内部監査概論	事業全般を対象とした業務監査の一環として内部監査の実施がいわゆる大企業では必須とされる。内部監査について基本的知識を得る。
第 12 回	CSR の観点からの地球温暖化問題への対応、CDM（Clean Development Mechanism）基本的な知識を得る〔その 1〕	地球温暖化問題への基本的知識を得る。

第 13 回	CSR の観点からの地球温暖化問題への対応、CDM（Clean Development Mechanism）基本的な知識を得る〔その 2〕	年末 COP18 が南アフリカで開催される。地球温暖化問題への総合社社の対応と考え方への基本的知識を得る。
第 14 回	総合社社の企業経営と CSR（企業の社会的責任）〔まとめ、その 1〕	まとめ、その 1
第 15 回	総合社社の企業経営と CSR（企業の社会的責任）〔まとめ、その 2〕	まとめ、その 2

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

より効果的に講義を受講できるよう、授業支援システムに事前アップ・ロードするレジュメ・参考資料等を読みこむこと。理解し難い箇所については再度読み直し、疑問点を確認しておくこと。

## 【テキスト】

事前に授業支援システムにアップ・ロードしているレジュメ・参考資料等。

## 【参考書】

実践環境経営論堀内行蔵他著）東洋経済新報社、及びその他必要に応じて、講義時に適宜指示します。

## 【成績評価基準】

期末試験：60%

出席：40%

但し、出席点については 4 年生に限り就職活動等やむを得ない事情で出席できなかった場合は考慮します。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

講義当日の資料配布は極力避け、事前参照できるようにしています。

## 【学生が準備すべき機器他】

主に Power Point を使い講義を進めていきます。

## 【その他】

受講者は新聞を丹念に読み、経済社会情勢をできる限り把握しておくことを推奨します。

## 【関連の深いコース】

環境経営

## 人間環境特論（自然災害と防災）

井上 奉生

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：金 4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

わが国は災害の多い国だということはだれでも知っている。なぜ災害が多いのか。台風常襲地帯、地震国、国土の2/3が急峻な山地であるための斜面崩壊、火山の活動等の特異な自然現象が続発している。それに起因して人々の生活等の安全がおびやかされている。この授業ではこれらの自然災害とそれに対する防災についてをテーマとする。

## 【授業の到達目標】

災害現象は多くの側面をもっており、相互にもつれあい、からみあっている。すなわち災害現象を知ることはまさに総合科学の領域であることを認識しなければならない。この授業では構造的な面からとらえ、素因、誘因として自然災害を展開し、および防災についての基礎知識を習得することを目標とする。

[]

## 【授業の概要と方法】

自然災害現象を分類し、それぞれの防災対策について解説する（阪神・淡路震災、東日本震災、紀伊半島の土砂ダム等を加味して）。なお各回のテーマは複数回にまたがる場合もある。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	災害の分類	自然災害・人為災害
第2回	気象災害（降雨災害）	洪水、内水、土砂流出（土石流等）、山地崩壊、等、干ばつ
第3回	気象災害（雪害）	積雪、融雪、なだれ、吹雪、着雪、着氷
第4回	気象災害（気温災害）	冷害、凍結（洪湾の結氷、路盤の破壊等）膨張破壊、等
第5回	気象災害（風害）	風力、大潮、波浪、フェーン現象（自然発火）、竜巻（ダウンバースト）等
第6回	気象災害（その他の気象災害）	霜、雷、霧、湿度害、等
第7回	地変災害（地震災害）	震動、津波、山地崩壊、液状化
第8回	地変災害（火山災害）	熔岩流（火砕流）、降灰
第9回	地変災害（その他の地変災害）	地すべり等
第10回	動物災害	虫害、鳥害、獣害、病原菌、等
第11回	災害危険度評価、被害予測	ハザードマップ、土地条件と管理、土地利用と災害
第12回	地震防災、津波対策	地震予知、地盤と耐震性、津波予報とは
第13回	火山防災	火山予知、予報
第14回	河川防災	築堤、土地利用規制、調整池等
第15回	総括	前期のまとめ

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

適宜、授業において指示する。

## 【テキスト】

特定せず。進行回の内容についてプリントを配布する。

## 【参考書】

適宜、参考書を紹介する。

## 【成績評価基準】

期末試験

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

2012年度からの新設科目

## 【その他】

担当者（井上）による本科目の講義は2012年度のみ開講となる。

## 【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目である。

## 人間環境特論（交通モビリティと持続可能性）

田中 勝昭

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：金 3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

本講義の目的は環境に多大な影響を与えている自動車を中心とした交通システムをどのように再構築し、持続可能な社会を達成していくかを推論していくことである。カーシェアリングシステムなどの最新のシステムについても紹介する。また現在までの世界や日本の自動車産業の歴史、生産システム、企業形態、環境対策についても学習する。また具体的な事例に入っていく前に社会科学とは何か、社会科学の方法論についても学び、社会に対しての分析、知識の体系化、研究方法についても習得していく。経営学からはピータードラッカーの理論なども紹介する。

## 【授業の到達目標】

自動車産業の歴史や生産システム、環境対策についての知識、および新しい交通システムへの理解を深める。また、科学的、論理的思考方法についても学び、将来的に学究的な研究をするための基礎知識、就職活動にも役立つ論理性や知識も習得する。

[]

## 【授業の概要と方法】

最初の段階では講義全体を把握するための科学的思考、知識について学習し、体系的知識の習得方法について学習する。その後具体的に自動車産業の歴史、生産システム、経営について学び、カーシェアリングシステムなどを導入した交通システム全体の再構築および将来的なビジョンの構築について紹介していく。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	全体の講義の進め方や、講義を受けるにあたっての取り組み方などの説明を行う。
第2回	社会科学とは何か？	社会科学とは何かについての基本的な理解を深める。
第3回	社会科学の研究手法と・ビジョンの構築	社会科学を学習するにあたっての方法論と考え方を習得する。また、その後のビジョンの持ち方についても学ぶ。
第4回	社会科学分析のための経営諸理論の紹介	環境や社会を分析するためにピータードラッカーなどの経営学の諸理論を学ぶ。
第5回	環境問題の全般的分析と環境対策における交通システムの重要性	これまでに学んだ社会科学の理論、経営学の理論を応用して体系的に環境問題全般を把握し、その中でも交通システムの果たす役割の重要性について考察する。
第6回	世界の自動車産業の歴史	世界の自動車産業の発達史（概略）を学習する。
第7回	世界の自動車産業のシステムと経営	GMやフォードなど世界の自動車産業の生産システムや経営形態の変遷を紹介する。
第8回	日本の自動車産業の歴史	日本の自動車産業の歴史（概略）を学習する。
第9回	日本の自動車産業のシステムと経営	日本の自動車産業の生産システムや経営形態の変遷を紹介する。トヨタのカンバン方式や最新のシステムについても紹介する。
第10回	自動車産業における環境対策	自動車産業における環境対策全般を紹介する。
第11回	世界の交通システムの紹介	世界全体で発達してきている新しい交通システムについて学ぶ。
第12回	日本における交通システムの状況と問題点	現在の日本における交通システムを分析し、道路や自転車問題などを含めた考察を行う。
第13回	ヨーロッパの交通システムの変遷	ヨーロッパ、とくにスイスやドイツを中心とした交通システムの紹介、分析を行う。
第14回	新しい交通システムと体系的ビジョンの構築	ここまでの講義の内容を踏まえ、体系的に持続可能な社会を達成するための自動車産業、交通システムに対してのビジョンを構築する。
第15回	定期試験	一定の知識に対するの確認および論述による試験を行う。



【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

普段から新聞やニュースの記事も含め、関連する話題について敏感に接しておくようにする。社会科学の入門書や簡単な哲学についての紹介本なども読んでおくことが望ましい。自動車産業は経済や経営と無関係ではないので、関連した知識を身につけておくことで就職活動などにも必ず役に立つ。頭を柔軟にし、自らの発想を持つことができるように常に訓練しておくこと。

【テキスト】

講義の前に随時紹介する。

【参考書】

講義の内容にあわせて逐次紹介するが、ピータードラッカーや哲学全般に関する基礎的な文献などに目を通しておくとよい。

【成績評価基準】

出席およびレポート、テストの総合で判断する。特に授業の内容を踏まえた上での独自の視点、発想、ビジョンについては重視する。

【学生による授業改善アンケートからの気づき】

2012年度からのスタートであるが、授業内でも学生と積極的にディスカッションを行いたい。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント等

【関連の深いコース】

環境経営、地域環境

## 人間環境特論（観光と地域振興）

### 沓掛 博光

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：火 3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業のテーマ】

観光を取り巻く環境は大きく変わろうとしている。この講義では一般生活に定着した観光をプリンシプルに見直し、ここから発生する観光の様々な事象を広く認識し、観光が何故、地域社会の創造と再生に役立つのかを学ぶ。観光は狭義には楽しみを求める旅であり、広義には観光事業全般を含めて指し、意味するところは広い。21世紀に求められている価値観や生活のあり様なども視野に入れながら考察する。

【授業の到達目標】

時代と共に変遷する旅の姿や観光の楽しみ方を歴史的に追いながら、観光のもつ意義を今日的に理解する。現在わが国の市、町、村において官民一体となって観光に取り組むのは何故なのかを事例を挙げながら認識し、地域において観光が観光関係者のみの範疇から出て、広く一般の生活者のレベルにまでひろがりを見せている現状を理解する。

【】

【授業の概要と方法】

授業は講義形式で行う。国内外の観光の実際を紹介しながら、観光を多面的にとらえ、受動的な観光から主体的な観光のあり方を考察する。

【】

【】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	観光についての導入的な説明と授業の進め方について
第2回	観光の定義とは？	観光は広く解釈されている。その定義はどんなものがあるのか。言葉の意味から国際比較までを学習
第3回	観光を構成する要因	観光には自然と文化の2つの資源がある。それらの構成要因を分析
第4回	観光の自然資源	何故、多くの人は観光を楽しむのか。その資源的要因を探る
第5回	温泉の魅力	日本人の観光に不可欠な温泉の魅力とは何かを、全国の事例から検証する
第6回	観光の文化資源	各地に残る歴史的建造物や町並み、伝統芸能、祭事など観光の文化資源を検証する
第7回	旅の変遷Ⅰ	古代から近世までわが国の旅の変遷をとらえ、旅と社会生活とのかかわりを見る
第8回	旅の変遷Ⅱ	近代から現代までの旅の変遷をとらえ、今日の旅がどのようにして登場してきたかを知る
第9回	様々なツーリズム	時代を経て変遷した旅が現在は色々な形で発展してきている。その実態を分析
第10回	観光は何故地域振興とつながるのか	観光の持つ多面的な力を事例を見ながら学習
第11回	観光を通した町おこしⅠ	観光を町おこしに生かしている事例を研究
第12回	着地型観光と町おこし	ここ2、3年の間に各地で始まった着地型観光の実際を学習
第13回	着地型観光の課題と可能性	新しい観光故に可能性と共に課題も残る。このことについて学習
第14回	まとめ	1回から13回までのまとめ
第15回	期末テスト	理解の確認

【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

日常的に観光地や観光施設など観光に関する情報をマスコミ等を通じて収集すること。前回の復習。

【テキスト】

特になし。

【参考書】

授業の中で紹介する。

【成績評価基準】

期末試験。日頃の授業態度。

【学生による授業改善アンケートからの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント及びプロジェクター

【関連の深いコース】  
地域環境

## 人間環境特論（エコツーリズムの可能性）

沓掛 博光

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：火 3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

### 【授業のテーマ】

前期に引き続き、地域に根ざし、地域振興につながる視点で観光をとらえ、今期はエコツーリズムを主たるテーマにして講義を進める。21世紀の観光と呼ばれるエコツーリズムが生まれた背景をさぐりながら、現代において求められている観光とは何かを考察。エコツーリズムの持つ可能性と課題を国内外の事例などを通じて検証する。

### 【授業の到達目標】

エコツーリズムは地域の自然・文化資源を活かし、地域の参画と経済的貢献に配慮した観光の考え方である。従来の観光の概念では捉えきれないこの新しい観光を世界遺産に登録された比較的規模の大きい資源から1つの集落単位で進めている事象まで幅広く分析。エコツーリズムという考え方とそれを具体的に実行するエコツアーを検証しながらエコツーリズムの可能性を理解する。

【】

### 【授業の概要と方法】

授業は講義形式で行う。前期と同様に各地で取り組んでいるエコツアーの実態を理解しながら学習する。

【】

【】

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の概要及び進め方の説明
第2回	持続ある開発と世界の潮流	開発か自然破壊かという選択から持続性のある開発が求められている。そのポイントとなるものは何かを検証
第3回	エコツーリズムの定義	様々に解釈されるエコツーリズムの定義を解析する
第4回	今、何故エコツーリズムなのか	エコツーリズムは世界各地で展開されている。その汎用性を検証
第5回	エコツーリズムの推進体制	エコツーリズムの実践には何が必要か。そのシステムを説明する
第6回	エコツーリズムと着地型観光	前期で学んだ着地型観光はエコツーリズムになりうるのか。その可能性を探る
第7回	エコツーリズムの実際Ⅰ	琵琶湖畔・針江と長野県信濃町の事例研究
第8回	エコツーリズムの実際Ⅱ	世界遺産に登録されている知床と小笠原を事例研究
第9回	エコツーリズムの実際Ⅲ	兵庫県豊岡市を事例研究
第10回	エコツーリズムと地域づくり	エコツーリズムを活かして振興を図る地域の事例研究
第11回	資源管理とガイドライン	エコツーリズムの推進に不可欠な資源管理の考え方とガイドラインの実際を検証
第12回	ガラパゴスのエコツーリズム	エコツーリズムのルーツとも云われるガラパゴスを検証
第13回	エコツーリズムの評価と課題	新しい観光の概念であるエコツーリズムはどう評価され、課題は何かを分析
第14回	まとめ	1回から13回のまとめ
第15回	期末テスト	理解の確認

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

自然資源や地域の文化資源に関係する観光情報について積極的に収集。前回の復習。

### 【テキスト】

特になし

### 【参考書】

授業の中で紹介する。

### 【成績評価基準】

期末試験。日頃の授業態度。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

特になし

### 【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント及びプロジェクター

### 【関連の深いコース】

地域環境、国際環境

## 人間環境学への招待

### 人間環境学部教員

カテゴリ：フレッシュマン | 配当年次／単位：1年／2単位

開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：水1

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

#### 【授業のテーマ】

「人間環境学」とは何か－多様な視点を学ぶ－

#### 【授業の到達目標】

この授業は、①人間環境学部での勉学の方向づけ、②環境問題の基礎を学びアプローチの多様性を知ること、を目標とする。「学際性」すなわち、既存の学問分野の成果を活かしながら、分野の枠を超える総合的な思考とは何かを各分野の教員の講義を通して理解する。多様なアプローチを学ぶ中で、学生が自分の関心を明確にし、以後の本学部での科目選択のガイドとなる情報を得ることめざす。

[]

#### 【授業の概要と方法】

まず学部の専門カリキュラム構成とそのねらい、履修方法、教育システムの特色などについて説明を行う。次に、大学生としての学びの作法について、その基本を学ぶ。その後、オムニバス形式（複数教員による講義）により、各学問領域のアプローチの基本について学ぶ。なお、以下の【授業計画】の詳細については開講時に資料を配付し説明する。

[]

[]

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	人間環境学とは何か	社会問題としての「環境問題」をどうとらえるか。学部カリキュラムのねらいと構成について説明する。
第2回	人間と環境についての多様なアプローチ	なぜ幅広く学ぶ必要があるのか、常識にとらわれない柔軟な思考の重要性について、事例を取りあげ解説する。
第3回	経済・経営領域から考える(1)	各領域の担当教員による、導入講義。その領域からのアプローチの特色と基本的視点を紹介する。
第4回	経済・経営領域から考える(2)	同上
第5回	法律・政治領域から考える(1)	同上
第6回	法律・政治領域から考える(2)	同上
第7回	地域・社会領域から考える(1)	同上
第8回	地域・社会領域から考える(2)	同上
第9回	人文科学領域から考える(1)	同上
第10回	人文科学領域から考える(2)	同上
第11回	自然科学領域から考える(1)	同上
第12回	自然科学領域から考える(2)	同上
第13回	大学と環境問題	法政大学における環境問題への取り組みをとりあげ、環境マネジメントシステムについて解説する。
第14回	環境問題と協働	環境問題解決への協働の仕組みを事例を交えて解説、学生が協働の主体となる環境活動への理解を深める。
第15回	人間と環境	全体を総括し、学部理念の再確認をする。

#### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

各担当者が課す課題に対して、関連文献・資料を読みアクションペーパーを作成する。

#### 【テキスト】

特定のテキストは用いない。

#### 【参考書】

基礎文献のリストを開講時に配布する。各領域の講義において、関連する文献を紹介する。

#### 【成績評価基準】

各領域の担当者が課す課題の提出および期末試験による。

#### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

非実施科目につき該当なし。この科目独自のアンケートを実施します。

#### 【その他】

本科目は、一年次の必修科目でありクラス指定をします。A～Fクラスは1時限目に、G～Lクラスは6時限目に登録・履修すること。なお「人間環境学入門」の再履修者は6時限目に登録・履修すること。

## 人間環境学への招待

### 人間環境学部教員

カテゴリ：フレッシュマン | 配当年次／単位：1年／2単位

開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：水6

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

#### 【授業のテーマ】

「人間環境学」とは何か－多様な視点を学ぶ－

#### 【授業の到達目標】

この授業は、①人間環境学部での勉学の方向づけ、②環境問題の基礎を学びアプローチの多様性を知ること、を目標とする。「学際性」すなわち、既存の学問分野の成果を活かしながら、分野の枠を超える総合的な思考とは何かを各分野の教員の講義を通して理解する。多様なアプローチを学ぶ中で、学生が自分の関心を明確にし、以後の本学部での科目選択のガイドとなる情報を得ることもめざす。

[]

#### 【授業の概要と方法】

まず学部の専門カリキュラム構成とそのねらい、履修方法、教育システムの特色などについて説明を行う。次に、大学生としての学びの作法について、その基本を学ぶ。その後、オムニバス形式（複数教員による講義）により、各学問領域のアプローチの基本について学ぶ。なお、以下の【授業計画】の詳細については開講時に資料を配付し説明する。

[]

[]

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	人間環境学とは何か	社会問題としての「環境問題」をどうとらえるか。学部カリキュラムのねらいと構成について説明する。
第2回	人間と環境についての多様なアプローチ	なぜ幅広く学ぶ必要があるのか、常識にとらわれない柔軟な思考の重要性について、事例を取りあげ解説する。
第3回	経済・経営領域から考える(1)	各領域の担当教員による、導入講義。その領域からのアプローチの特色と基本的視点を紹介する。
第4回	経済・経営領域から考える(2)	同上
第5回	法律・政治領域から考える(1)	同上
第6回	法律・政治領域から考える(2)	同上
第7回	地域・社会領域から考える(1)	同上
第8回	地域・社会領域から考える(2)	同上
第9回	人文科学領域から考える(1)	同上
第10回	人文科学領域から考える(2)	同上
第11回	自然科学領域から考える(1)	同上
第12回	自然科学領域から考える(2)	同上
第13回	大学と環境問題	法政大学における環境問題への取り組みをとりあげ、環境マネジメントシステムについて解説する。
第14回	環境問題と協働	環境問題解決への協働の仕組みを事例を交えて解説、学生が協働の主体となる環境活動への理解を深める。
第15回	人間と環境	全体を総括し、学部理念の再確認をする。

#### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

各担当者が課す課題に対して、関連文献・資料を読みアクションペーパーを作成する。

#### 【テキスト】

特定のテキストは用いない。

#### 【参考書】

基礎文献のリストを開講時に配布する。各領域の講義において、関連する文献を紹介する。

#### 【成績評価基準】

各領域の担当者が課す課題の提出および期末試験による。

#### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

非実施科目につき該当なし。この科目独自のアンケートを実施します。

#### 【その他】

本科目は、一年次の必修科目でありクラス指定をします。A～Fクラスは1時限目に、G～Lクラスは6時限目に登録・履修すること。なお「人間環境学入門」の再履修者は6時限目に登録・履修すること。



## 人間環境学入門

### 人間環境学部教員

カテゴリ：フレッシュマン | 配当年次／単位：1・2年／2単位

開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：水6

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

#### 【授業のテーマ】

「人間環境学」とは何か－多様な視点を学ぶ－

#### 【授業の到達目標】

この授業は、①人間環境学部での勉学の方向づけ、②環境問題の基礎を学びアプローチの多様性を知ること、を目標とする。「学際性」すなわち、既存の学問分野の成果を活かしながら、分野の枠を超える総合的な思考とは何かを各分野の教員の講義を通して理解する。多様なアプローチを学ぶ中で、学生が自分の関心を明確にし、以後の本学部での科目選択のガイドとなる情報を得ることもめざす。

[]

#### 【授業の概要と方法】

まず学部の専門カリキュラム構成とそのねらい、履修方法、教育システムの特色などについて説明を行う。次に、大学生としての学びの作法について、その基本を学ぶ。その後、オムニバス形式（複数教員による講義）により、各学問領域のアプローチの基本について学ぶ。なお、以下の【授業計画】の詳細については開講時に資料を配付し説明する。

[]

[]

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	人間環境学とは何か	社会問題としての「環境問題」をどうとらえるか。学部カリキュラムのねらいと構成について説明する。
第2回	人間と環境についての多様なアプローチ	なぜ幅広く学ぶ必要があるのか、常識にとらわれない柔軟な思考の重要性について、事例を取りあげ解説する。
第3回	経済・経営領域から考える(1)	各領域の担当教員による、導入講義。その領域からのアプローチの特色と基本的視点を紹介する。
第4回	経済・経営領域から考える(2)	同上
第5回	法律・政治領域から考える(1)	同上
第6回	法律・政治領域から考える(2)	同上
第7回	地域・社会領域から考える(1)	同上
第8回	地域・社会領域から考える(2)	同上
第9回	人文科学領域から考える(1)	同上
第10回	人文科学領域から考える(2)	同上
第11回	自然科学領域から考える(1)	同上
第12回	自然科学領域から考える(2)	同上
第13回	大学と環境問題	法政大学における環境問題への取り組みをとりあげ、環境マネジメントシステムについて解説する。
第14回	環境問題と協働	環境問題解決への協働の仕組みを事例を交えて解説、学生が協働の主体となる環境活動への理解を深める。
第15回	人間と環境	全体を総括し、学部理念の再確認をする。

#### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

各担当者が課す課題に対して、関連文献・資料を読みりアクションペーパーを作成する。

#### 【テキスト】

特定のテキストは用いない。

#### 【参考書】

基礎文献のリストを開講時に配布する。各領域の講義において、関連する文献を紹介する。

#### 【成績評価基準】

各領域の担当者が課す課題の提出および期末試験による。

#### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

非実施科目につき該当なし。この科目独自のアンケートを実施します。

#### 【その他】

本科目は、一年次の必修科目でありクラス指定をします。A～Fクラスは1時限目に、G～Lクラスは6時限目に登録・履修すること。なお再履修者は自分のクラスの時に登録・履修すること。

## 環境科学入門

石井 利典

カテゴリ：フレッシュマン | 配当年次／単位：1・2年／2単位  
開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：土2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

### 【授業のテーマ】

自然環境科学を今後より高度により専門的に学ぶためには、化学理論や化学計算方法の理解と習得が必須となります。物質計算や溶液濃度計算などの基礎的内容から溶液の緩衝作用やDO（溶存酸素量）、COD（化学的酸素要求量）の測定原理などの応用例までを問題演習形式で解説してゆきます。

### 【授業の到達目標】

高等学校で履修する「化学Ⅰ」および「化学Ⅱ」を大学受験科目にしていなかった受講者が、「環境科学Ⅰ」「環境科学Ⅱ」「環境科学Ⅲ」などの科目を受講するときに必要とする、基礎化学理論や基本化学計算を習得することを旨とします。

[]

### 【授業の概要と方法】

自然環境科学をより専門的に学ぶために必要な、化学理論や計算法を問題演習を中心に解説します。

[]

[]

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	自然環境科学の基礎（化学）の内容説明	授業内容、授業の進め方、評価方法など説明
第2回	物質の構成（1）	物質の成分、物質の構成元素
第3回	物質の構成（2）	原子の構造、元素の周期律
第4回	物質の構成（3）	化学結合の種類
第5回	物質の構成（4）	物質計算、溶液濃度計算
第6回	物質の変化（1）	化学反応式と量的関係
第7回	物質の変化（2）	反応熱と熱化学方程式、ヘスの法則を利用した反応熱計算
第8回	物質の変化（3）	反応速度と活性化エネルギー
第9回	物質の変化（4）	化学平衡
第10回	物質の変化（5）	酸と塩基、pH、中和滴定
第11回	物質の変化（6）	弱酸、弱塩基の電離平衡
第12回	物質の変化（7）	緩衝溶液、塩の加水分解反応
第13回	物質の変化（8）	酸化と還元
第14回	物質の変化（9）	酸化還元滴定
第15回	まとめ	期末試験対策問題演習、質疑応答

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

前回授業の内容に関する簡単な確認テスト（10分程度）を毎授業時に実施します。前回授業の内容を簡単に復習しておいてください。

### 【テキスト】

特にテキストは指定しません。授業時に配布するプリントを使用します。

### 【参考書】

第1回授業時に紹介します。

### 【成績評価基準】

期末試験および毎授業時に実施する確認テスト（10分程度）の総合点で評価します。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

2012年度より担当

### 【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目です。

## 環境科学入門

宮川 路子

カテゴリ：フレッシュマン | 配当年次／単位：1・2年／2単位  
開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：木6

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

### 【授業のテーマ】

本講義では、高校の生物学の知識を基本とし、生命とはなにかを大きなテーマとして、幅広い知識を学習し、生物と自然環境との関わりを理解していく。

### 【授業の到達目標】

学生は、幅広い基礎知識を身に着けることにより、新聞やニュースにより提供される科学情報を適切に理解することが可能となる。

また、自分自身の身体の構造、仕組みを理解し、健康を保つうえで必要となる事柄を習得する。

健康の保持増進、疾病の予防を最終目標とする。

[]

### 【授業の概要と方法】

生命とその探究をキーワードに、細胞と個体の成り立ち、進化、生殖、遺伝、恒常性、植物、感覚・知覚などの古典的知識から、再生医療など最新の話題まで幅広いテーマを取り上げる。

[]

[]

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1回目	講義ガイダンス：	科目テーマ・授業の進め方・テキスト・評価方法の解説
2回目	細胞と個体の成り立ち	生命の単位、細胞のはたらき
3回目	生殖と発生	動物と植物の生殖
4回目	生命の設計図	遺伝子（DNAとRNA）
5回目	遺伝	遺伝の法則
6回目	発がんの仕組み	DNAの自己複製メカニズム
7回目	刺激の受容と反応	感覚器と受容器
8回目	内部環境の恒常性	体液、自律神経系とホルモンの働き
9回目	植物	植物の成長と生活
10回目	生体の機能	生体のタンパク質と化学反応、酵素
11回目	進化について	進化学説
12回目	発達	発達の成り立ち
13回目	学習	学習の成り立ち
14回目	バイオテクノロジー	再生医療（幹細胞・ES細胞・IPS細胞）
15回目	試験	授業内試験

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

新聞・ニュース等の科学関連の記事を読むこと。

### 【テキスト】

毎回授業内にてテーマに沿ったプリントを配布する。

### 【参考書】

参考図書は授業内にて紹介する。

### 【成績評価基準】

学期末に授業内試験を行う。持ち込み不可。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

本年度からの講義のため、次年度以降記載する。

### 【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント

### 【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目である。

## 環境科学入門

高田 雅之

カテゴリ：フレッシュマン | 配当年次／単位：1・2年／2単位  
 開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：木 5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

生態学とは、生物の暮らし方や、生物と環境との関係を理解する学問です。生態学の基礎を学ぶことで、人間の生存基盤である自然環境との向き合い方を考え、ひいては持続的な社会を築く方策を探る能力を養うことにつながっていきます。本講義では、生き物を中心とした自然の仕組みについて基本的な知識を身に付けることをテーマとします。

## 【授業の到達目標】

以下の3点について知識と理解を深め、その要点を説明できることを目標とします。

- ①主な動植物種および群集の生態
- ②様々な生態系の特徴と取り巻く課題
- ③生態学の応用による新たな学問分野

[]

## 【授業の概要と方法】

「主な動物（鳥類と哺乳類を中心に）と植物に関する種および群集生態」、「進化と適応」、「主な生態系の特徴と構造・機能」「生態系をめぐる課題」「生態学の応用と発展」について学びます。国内外の研究事例やエピソードを交えたプレゼンテーションにより、基礎的な知識を積み重ねていきます。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスと序論	講義の進め方、生態学とは何か、生態学の歴史と役割
第2回	鳥類の生態	日本の鳥類相、生息環境に応じた生態の特徴、水鳥の鉛中毒問題
第3回	動物の行動生態(1)	日本の動物相、動物と植物の関係、食物連鎖
第4回	動物の行動生態(2)	なわばり行動、社会行動、共生とすみわけ
第5回	植物の生態	日本の植物相、生活型と生存戦略、種子の散布
第6回	進化と適応	進化と絶滅史、生物の分類、種の分化、適応進化
第7回	森林生態系	森林の仕組みと機能、森の生物、物質の循環
第8回	河川・湖沼生態系	日本の水生生物相、湖沼型と栄養、ため池、河川の落下昆虫
第9回	湿地・草地生態系	日本の主な湿地と草原、生態系を支える仕組み、特異な生物相
第10回	海洋・沿岸生態系	海棲哺乳類、魚類と資源、海鳥の生態、サンゴ礁と海藻・海草
第11回	島嶼生態系	固有の生物相、小笠原諸島・南西諸島などの事例
第12回	都市・里山・農地生態系	都市内緑地の生物相、里山の自然、ヨシの利用、水田の生物
第13回	貴重種と外来種	リッドリストとブルーリスト、種の絶滅、外来種による生態系攪乱
第14回	生態学の応用と発展	景観生態学、応用生態工学、保全生態学、自然再生
第15回	まとめ	生物多様性、地球という生態系

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

日頃接するメディアでの自然環境に関する話題や、身の回りで目にする生き物に関心を払うよう努めてください。

## 【テキスト】

特定のものはありません。講義において適宜資料を配布します。

## 【参考書】

講義において随時紹介します。

## 【成績評価基準】

期末試験により評価します。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

知識の詰め込みとまらないよう、具体的な事例や挿話を交えながら、できる限り丁寧に説明し理解を促していきます。

## 【その他】

講義改善の目的で、時々感想などを記述してもらうことがあります。

## 【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目です。

## 環境科学入門

井上 奉生

カテゴリ：フレッシュマン | 配当年次／単位：1・2年／2単位  
 開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：木 3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

地球の自然環境を構成する要素のうち以下の授業計画い示す各項目について解説することをテーマとする。

## 【授業の到達目標】

自然環境の諸要素の基礎的知識を習得することにある。

[]

## 【授業の概要と方法】

自然環境の諸要素は個々バラバラにあるのではなく、相互に密接な関連を持ちながら地球上に様々な自然環境地域をつくりだしていることを平易に解説する。なお、各回の授業は複数回にまたがる場合もある。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	地球について	地球に関する諸元、地球観の変遷
第2回	大気について(1)	大気の組成、大気の鉛道分布、気圧、気団、前線 等
第3回	大気について(2)	大気の大循環、様々な風、日本および世界の気候、温暖化の影響
第4回	地形をつくる作用(1)	内的営力(地殻変動)等
第5回	地形をつくる作用(2)	外的営力(河川、湖沼、地下水、氷河、風)等
第6回	火山	地球上の分布、噴出物、形態、火山前線 等
第7回	地震	P波、S波、マグニチュード、震度、活断層 等
第8回	地質・岩石	日本の地質、堆積岩、火成岩、深成岩、石英の含有量による分類 等
第9回	土壌	世界および日本の土壌、土壌の生成過程、生成因子 等
第10回	植生	世界および日本の植生分布、自然植生、代償植生、植生遷移 等
第11回	動物	地理的分布、日本の外来種、絶滅種 等
第12回	自然と生活(1)	開発と自然環境の変貌
第13回	自然と生活(2)	災害と防災
第14回	総括(1)	第1回～第7回までの総括
第15回	総括(2)	第8回～第13回までの総括

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

適宜、授業において指示する。

## 【テキスト】

特定せず。進行回の内容についてプリントを配布する。

## 【参考書】

適宜、参考書を紹介する。

## 【成績評価基準】

期末試験

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

特になし

## 【その他】

- ・各項目に関係するトピック的ニュースがあった場合には内容を変更することもある。
- ・地図帳を持参すること。
- ・配布したプリントはファイルして忘れず必ず持参すること。
- ・「自然環境論Ⅰ」を修得済の場合、「環境科学入門」の代替として履修することはできない。

## 【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目である。

## 環境科学入門

北川 徹哉

カテゴリ：フレッシュマン | 配当年次／単位：1・2年／2単位  
開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：火 2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

### 【授業のテーマ】

エネルギーの基礎ならびにエネルギーと社会との関係がテーマである。

### 【授業の到達目標】

1. エネルギーと人間生活、社会との結びつきを説明できる。
2. 各種エネルギー資源の特徴とその利用方法、原理について説明できる。
3. 現代のエネルギーの利用状況と国際的な動向を説明できる。

【】

### 【授業の概要と方法】

エネルギーは私たちの生活や社会、経済と密接にリンクしているとともに、近年の環境への配慮の重要性の高まりを背景に、エネルギー開発・利用のあり方がより一層注目されている。本講義においては、エネルギーの資源の特徴や流れ、エネルギー関連の基礎原理、発電形態を学ぶとともに、我が国および諸外国のエネルギーの現状について知る。

【】

【】

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	エネルギーとは	エネルギーの定義と歴史、世界のエネルギー情勢
第2回	エネルギーの資源、流通、消費	1次エネルギーと2次エネルギー、各種資源の輸入と流通、各種エネルギーの消費動向
第3回	エネルギーに関連する量、単位	熱量、仕事、パワー、電力量などの意味と表現
第4回	熱とエネルギー	エネルギー保存とジュールの実験
第5回	熱力学の法則	サイクルとは何か、熱力学第1・第2・第3法則
第6回	カルノーサイクルと熱効率	カルノーサイクルの構成、サイクルがする仕事と効率
第7回	エントロピー	エントロピーとは何か
第8回	熱エネルギーの移動	エントロピーと熱との関係、エントロピー増大の法則
第9回	熱から電力への変換	水の性質、発電のためのサイクル
第10回	電力の需要と供給	送電・配電、電力の需給バランス
第11回	火力発電所の仕組み	火力発電の種類、火力発電所の構造
第12回	原子力とは	原子の構造、核分裂、核燃料
第13回	原子力発電所の仕組み	原子炉の種類、原子力発電所の構造
第14回	核燃料サイクル、放射性廃棄物	プルサーマル、高速増殖炉、使用済核燃料の処分
第15回	原子力発電の安全性と国際組織	多重防護、スクラム、原子力安全委員会、国際原子力機関

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

次の内容を事前に学習しておく和良好的。第1～3回：エネルギー・資源の用語と単位、第4回：ジュールの実績、第5～8回：前回の講義内容の見直し、第9回：水の性質、第10～13回：我が国の電力会社と発電所、第14回：原子力の時事問題、第15回：我が国の地震

### 【テキスト】

使用しない。

### 【参考書】

必要に応じて紹介する。

### 【成績評価基準】

レポート（50％）：各種エネルギーの特性に関する課題により、主として到達目標2の達成度を評価する。  
試験（50％）：各種資源とエネルギー利用形態、エネルギーと社会との関係などの知識を問うものであり、到達目標1～3全般の習得度を評価する。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

パワーポイントを使うとよいとの意見がありました。本講義ではパワーポイントは状況に応じて適宜使っています。また、配布資料もスクリーンに映しますし、板書もしています。

### 【その他】

エネルギー分野は広範囲な内容を含み、楽しく学べます。物理・数学的な内容もありますが、焦点を絞って取り上げます。わからないところは、どんどん質問しましょう。「エネルギー論Ⅰ」を修得済の場合、「環境科学入門」の代替として履修することはできません。

### 【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目である。

## 環境科学入門

谷本 勉

カテゴリ：フレッシュマン | 配当年次／単位：1・2年／2単位  
開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：火 4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

### 【授業のテーマ】

近代の科学的地球観（地質学）の登場以前の略画的地球観の歴史を概観する。

### 【授業の到達目標】

略画的地球観を非科学的として否定的に取り扱うのではなく、今日の我々の日常的な地球に対する見方・考え方に大きな影響を与えているものとして理解することをめざす。

【】

### 【授業の概要と方法】

神話的世界の自然観を概観し、古代ギリシアの自然哲学的な地球観・自然観から、キリスト教的な世界観を経て、中世・ルネサンス期の西欧世界の地球観を明らかにし、17世紀の科学革命期から18世紀の地球像を評述することによって、略画的地球観の重要性を明らかにする。

【】

【】

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	授業の全体計画	何をどのように勉強して行くかを説明する
第2回	古代世界の自然観	天地創造神話
第3回	古代ギリシアの地球観（1）	ミレトス学派からプラトン
第4回	古代ギリシアの地球観（2）	アリストテレスとリュケイオンの弟子たち
第5回	ヨーロッパ古代・中世前半の地球観	キリスト教世界の教父たち
第6回	中世・ルネサンス期の地球観	大航海時代と世界地図の製作
第7回	科学革命期の地球観（1）	デカルトの『哲学原理』（1644）の地球論
第8回	科学革命期の地球観（2）	ステノの『プロドロムス』（1669）の科学的地球観
第9回	科学革命期の地球観（3）	ライブニッツの『プロトガイア』（1691）啓蒙主義の時代の地球観
第10回	18世紀の地球観（1）	ビュフォン：デカルト的地球論から近代地質学への移行期
第11回	18世紀の地球観（2）	ヴェルナー：近代地質学誕生前夜の水成説
第12回	18世紀の地球観（3）	ハットン：近代地質学誕生前夜の火成説
第13回	地質学と聖書	火成説対水成説：玄武岩論争
第14回	授業の総括	全体の概説史的説明
第15回	補遺	日本の地球観の歴史

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

授業の中で随時指示する。

### 【テキスト】

使用しない。

### 【参考書】

授業の進行に応じて適宜紹介する。

### 【成績評価基準】

学期末の試験を主に、レポートと出席を加味して、総合的に評価する。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

授業のレジュメのさらなる充実をめざす。

### 【その他】

「地球科学史Ⅰ」を修得済の場合、「環境科学入門」の代替として履修することはできない。

### 【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目である。



## 環境科学入門

朝比奈 茂

カテゴリ：フレッシュマン | 配当年次／単位：1・2年／2単位  
 開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：金 5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

近代西洋医学の発展にともない、人類は多くの恩恵を受けてきた。その一つに、寿命の延長がある。一方で細かい部分（臓器、細胞、遺伝子レベル）に視点が行きすぎた結果、からだ全体を統一的な視点で観ることが失われていることも否めない。近年、NCCAM（アメリカ国立補完代替医療センター）では、環境全体を視野に入れたエコロジカルな健康観を基礎として、生命の特徴である多様性、個性、一回性を重視する補完代替医療分野に多大の研究費を費やしはじめた。本講義では、補完代替医療について、その概要を把握し、現代社会における役割や位置づけ、将来への可能性など検討する。また人間に備わっている自然治癒力について、免疫力の観点から検討する。

## 【授業の到達目標】

1. 「持続可能な環境重視の社会」を構築するために、環境と健康の対応関係を理解できる。
2. 本来からだに備わった働きの一つである自然治癒力を説明できる。
3. 創傷の治癒過程について説明できる。
4. 免疫の働きについて説明できる。
5. 治癒を妨げるもの、治癒を促進する食品が説明できる。
6. ところが治癒に果たす役割などについて説明できる。
7. 自らの健康感を述べることができる。

[]

## 【授業の概要と方法】

講義は、常に人の生命活動を意識して展開する。生命活動について、多方面（毎回のテーマ）からアプローチし、到達目標を達成していく。授業は講義形式で行い、スライド、DVD を用いて視覚的に効率よい知識の伝達を行う。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス:講義の概要、ねらい、進め方の紹介	半年間の講義の概要、到達目標などを説明する。
第 2 回	環境と健康：自然が与える生命力、森林と自然治癒力	環境の問題についての意識を高めるために誰もが入りやすい題材として森林と自然治癒力の関係を取りあげる。
第 3 回	エコロジカルな健康観：地球の健康なくして、人間の健康はない	環境に優しい医学として、世界各地で発展してきた伝統医学を取りあげ、その特徴、健康観について説明する。
第 4 回	治療 (cure, treatment) と治癒 (healing) : ホメオパシー的思考、基本概念	欧米やインド、南米などに広く普及している、ホメオパシーを例に挙げ、本来からだに備わっている自然治癒力について説明する。
第 5 回	治癒の本質：治癒の 3 局面 (反応・再生・適応)	創傷の治癒を例にあげ、人間に備わっている治す能力 (自然治癒力) について解説し、治癒のプロセスである反応・再生・適応について説明する。
第 6 回	創傷の治癒：線維の増殖、癒痕の成熟、組織修復による合併症	組織損傷の治癒過程について、炎症が果たす役割および組織修復にかかわる一連の流れ、修復時に起こる合併症などを説明する。
第 7 回	病気になる人、ならない人：人はどうして病気になるのだろうか？	本来生まれながら人間に備わっている免疫について、その種類、役割などを関連する DVD を視聴しながら解説する。
第 8 回	食べることの重要性：なぜ人は食べ続けるのだろうか？	人は食物を材料としてエネルギーを作り出し、それによって生命活動を維持している。人間が行う消化と吸収について説明する。
第 9 回	治癒を促進する食生活：免疫力をあげる食品類	食生活が健康にとって如何に重要であるかを述べ、総カロリー、脂肪、たんぱく質、野菜と果物、食物繊維と治癒との関連性をを説明する。
第 10 回	摂取と排出：排出不足が病気を招く	人の生活は日々摂取と排出を繰り返している。摂取には呼吸による空気の摂取、目や耳などの感覚器からの摂取などがある。一方、排出に対してはあまり意識されていない。排出の重要性を述べ、病気との関連性を解説する。
第 11 回	治癒力を妨げるもの：人間が作った化学物質	自然治癒力を妨げるものに、エネルギー不足、循環不足、有害物質、老化などがある。これらの要因と免疫力の関連性について解説する。

- 第 12 回 有害物質から身を守る 水質汚染、空気汚染、有害食品、その他の有害物質は、からだ備わっている治癒力を低下させ、病気の発生因子となる。これらの要因をさげ上手に生活をおくる方法を検討する。
- 第 13 回 ところが治癒に果たす役割：治癒とところの相関関係 精神のおよび感情的な出来事と治癒反応との間に相関関係があることを示し、これまでに起こった事例をあげ、ところが治癒系に与える影響について解説する。
- 第 14 回 成熟した患者になるために：治療は外から、治癒は内から 治療 (cure, treatment) と治癒 (healing) の相違点を示し、もし病気になっても治療者に依存するのではなく、内から治癒が生じるようなプログラムに取り組み、行動をとるよう解説する。
- 第 15 回 総括 これまで授業で行った内容やその関連項目について、質問や意見交換を行い総括とする。

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

講義の前日までに、授業支援システム上に資料を掲載する。受講者は各自ダウンロードし、資料に基づき事前学習を行う。

## 【テキスト】

テキストは使用しない。必要に応じて配布する

## 【参考書】

健康・体力づくりハンドブック 名取 礼二 監修 大修館書店  
 人はなぜ治るのか アンドルー・ワイル著 上野圭一訳 日本文化社  
 癒す心、治る力 アンドルー・ワイル著 上野圭一訳 角川文庫  
 補完代替医療入門 上野圭一著 岩波アクティブ新書  
 ホメオパシー医学への招待 松本文二著 フレグランスジャーナル社  
 東洋医学のしくみ 兵頭明著 新星出版社

## 【成績評価基準】

期末試験 (100 %) により評価を行う。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

1. 毎回の講義はじめに、その日のスケジュールおよびポイントをを示すことで、明確な目標をもって、講義に臨めるように工夫を行う。
2. 常に受講生の反応を確認しながら、講義内容を柔軟に変化させることにより、集中力を持続させる工夫を行う。

## 【学生が準備すべき機器他】

パソコン、DVD、プロジェクターなど

## 【その他】

「環境健康論 I」を修得済の場合、「環境科学入門」の代替として履修することはできない。

## 【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目である。

## 環境科学入門

松本 倫明

カテゴリ：フレッシュマン | 配当年次／単位：1・2年／2単位  
開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：月2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

### 【授業のテーマ】

この授業では気候変動の自然科学的な知見をわかりやすく解説する。前期では、現在進行中の気候変動である地球温暖化に焦点を当てる。気候変動を駆動するメカニズム、気候変動にもなる現象、気候変動の予測を中心に解説する。

### 【授業の到達目標】

この授業を通じて、気候変動の科学的なりテラシーを身につけることができる。

[]

### 【授業の概要と方法】

講義形式で授業を進める。プロジェクターを用いて最新の観測結果を紹介し、わかりやすい授業にする予定である。また、この授業を受講するにあたり特別な予備知識を必要としない。

[]

[]

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方のロードマップを示す。
第2回	地球温暖化の概要	気候変動の概要を示す。
第3回	近年の気候変動（1）	近年の気候変動である地球温暖化について学ぶ。気温の変化・温室効果ガス濃度の変化・氷床面積の変化・異常気象について解説する。またそれらの観測方法と統計処理の方法についても解説する。
第4回	近年の気候変動（2）	同上。
第5回	近年の気候変動（3）	同上。
第6回	近年の気候変動（4）	同上。
第7回	気候変動のしくみ（1）	温室効果のしくみについて学ぶ。温室効果ガス・大気窓・黒体放射・太陽活動・アルベド・雲・火山・氷床・炭素循環を学ぶ。
第8回	気候変動のしくみ（2）	同上。
第9回	気候変動のしくみ（3）	同上。
第10回	気候変動の予測（1）	気候変動の予測の結果を学ぶ。気温・降水量・海面上昇・水リスクなどの予測結果を解説する。
第11回	気候変動の予測（2）	同上。
第12回	気候変動の予測（3）	気候変動の予測の方法について学ぶ。
第13回	気候変動をとりまく動き（1）	気候変動の周辺について学ぶ。IPCCの動向・エネルギー問題・国内外の状況・気候変動バッシングなどの状況を学ぶ。
第14回	気候変動をとりまく動き（2）	同上。
第15回	まとめ	授業をまとめる。

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

授業のなかで指示をする。

### 【テキスト】

テキストを使用せず、授業中に資料としてプリントを随時配布する。

### 【参考書】

なし。

### 【成績評価基準】

期末試験を行う。また授業中にクイズ形式のミニテストを行うことがある。これらを総合的に評価する。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

なし。

### 【関連の深いコース】

全てのコースのベースとなる科目である。

## 基礎演習

人間環境学部教員

カテゴリ：フレッシュマン | 配当年次／単位：1年／2単位  
開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

### 【授業のテーマ】

「人間環境学への招待」で習得した本学部の勉強内容についての知見をもとに、アカデミックに学ぶための基本的な心得とスキルを実践を通して身に付ける。また各自、2年次からの勉強に備えて、学部の4コースの中で自分の興味関心に適うコースや志望研究会（ゼミ）を、後期中に選べるよう意識を高める。

### 【授業の到達目標】

文献や資料の検索法、プレゼンテーションや論文作成の方法、レジュメの作成法等を身につける。

[]

### 【授業の概要と方法】

授業は、学部専任教員が担当する20名前後の少人数クラスで行われる。少人数の利点を生かして、学生と教員、学生同士のコミュニケーションを図り、互いに刺激し合う双方向性の対話・議論の時間を多く採り入れる。なお【授業計画】の項は一例であり、担当教員により内容は異なる。演習の具体的なテーマやテキストには担当教員の専門分野が反映される場合が多い。

[]

[]

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション、レポート・論文・発表の心得（1）	当演習の内容とスケジュールの説明。「わかりやすさ」のために必要な心得（バラグラフ単位）。
第2回	自己紹介	文章構成・主題に配慮した、プレゼンテーションの練習として。
第3回	図書館ガイダンス	OPAC、オンラインデータベースの利用法、検索法等。
第4回	レポート・論文・発表の心得（2）	第1回の続き。論文（発表）全体の構成。タイトル、主題、序論・本論・結論等。
第5回	レポート・論文・発表の心得（3）	「オリジナリティー」をめざして。文献、資料検索のしかた補遺。
第6回	共通テーマの説明と研究発表のグループ分け	各自の興味関心分野を述べ合うグループ作業により1班2～4人程度の班に分類。
第7回	発表グループ毎の意見交換、発表準備	必要に応じて図書館等に出かける。
第8回	グループ発表・討論1	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第9回	グループ発表・討論2	同上。発表時は受講生はグループに分かれて着席。
第10回	グループ発表・討論3	同上
第11回	グループ発表・討論4	同上
第12回	グループ発表・討論5	同上
第13回	グループ発表・討論6	同上
第14回	小フィールドスタディ（街歩き）	90分以内で学べる大学近辺のフィールドを選ぶ。
第15回	総括のグループワーク	レポート、コース制仮登録用紙提出。

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

演習なので、毎回または随時宿題が出る。リサーチや発表のための共同研究、レジュメ作成等。

### 【テキスト】

担当教員が初回に指示する。特定のテキストを使用する場合は、教員側でコピーを用意するケースが多い。

### 【参考書】

担当教員が授業時に適宜指示する。

### 【成績評価基準】

原則として毎回要出席。欠席が多いと単位取得できない。学びの成績は、発表等の課題作業・討論の積極性・学年末レポートなどをみて総合的に評価する。担当教員により評価基準は異なる場合があるので、初回授業時に確認すること。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

希望者の多いクラスは、抽選となるため、第1希望のクラスに入れるとは限らないことを了承されたい。

### 【その他】

5～6月に参加希望の調査を行う。具体的な応募方法や募集期間については掲示する。

## 情報処理基礎

### 松本 倫明

カテゴリ：スキルアップ | 配当年次／単位：1～4年／2単位  
開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：月4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

#### 【授業のテーマ】

パソコンを用いた基本的な情報処理を学ぶ。とくに大学生活に必要な情報処理技術の習得に重点を置く。

#### 【授業の到達目標】

この授業を通じて習得される情報処理技術は次のとおりである。

1. Microsoft Office Word を用いて学術的なレポートを執筆する技術を身につけることができる。
2. Microsoft Office Excel を用いてデータの集計とデータの可視化の技術を身につけることができる。
3. Microsoft Office PowerPoint を用いてプレゼンテーション資料を作成することができる。
4. Web の情報検索を効率的に行うことができる。

【】

#### 【授業の概要と方法】

実習形式で授業を進める。例題にもとづいて操作方法を学び、つぎに課題を行なって操作方法の理解を確認する。

【】

【】

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方に関する説明をする。
第2回	パソコン操作の基礎のおさらい	パソコンの基本的な操作を確認する。キーボードとマウスを用いた入力など。
第3回	ファイル・フォルダ・木構造	ファイル・フォルダ・木構造の基本を学ぶ。
第4回	Excel の基本	Excel の基本的な操作方法を学ぶ。簡単な表を作成する。
第5回	Excel の応用：表計算(1)	Excel を用いて表計算を行う。例題に沿って操作方法を学ぶ。
第6回	Excel の応用：表計算(2)	表計算の技術を応用して、課題を行う。
第7回	Excel の応用：グラフによる可視化	Excel を用いてグラフを作成し、データを可視化することを学ぶ。
第8回	Word の基本	Word の基本的な操作方法を学ぶ。
第9回	Word によるレポートライティング：基本	Word によるレポートライティングの基本を学ぶ。
第10回	Word によるレポートライティング：図と表の活用と相互参照	レポートライティングにおける図と表の活用方法と、相互参照の操作方法について学ぶ。
第11回	Word によるレポートライティング：課題	レポートライティングの技術を用いて、課題を行う。
第12回	PowerPoint の基本	PowerPoint によるプレゼンテーション資料作成の基本を学ぶ。
第13回	PowerPoint によるプレゼンテーション資料の作成	PowerPoint によるプレゼンテーション資料作成の課題を行う。
第14回	WWW による情報検索	WWW における効率的な情報検索を学ぶ。
第15回	まとめ	授業のまとめをする。

#### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

課題を行う時間を授業中に設けるが、ひとつによってはその時間で足りないかもしれない。その場合には授業時間外で課題を行う。

#### 【テキスト】

WWW を通じて教材を配布する。

#### 【参考書】

なし。

#### 【成績評価基準】

授業内で複数の課題を提示する。これらの課題と出席回数ならびに平常点を総合的に評価する。

#### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

なし。

#### 【学生が準備すべき機器他】

情報処理教室を使用する。大学から配布された ID とパスワードを用意すること。

#### 【その他】

初心者・初級者を対象に授業を進める。毎回の授業の積み重ねにより、徐々に高度な事柄を学習するため、欠席すると授業についてこれなくなるので注意すること。

## 情報処理基礎

### 松本 倫明

カテゴリ：スキルアップ | 配当年次／単位：1～4年／2単位  
開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：月4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

#### 【授業のテーマ】

パソコンを用いた基本的な情報処理を学ぶ。とくに大学生活に必要な情報処理技術の習得に重点を置く。

#### 【授業の到達目標】

この授業を通じて習得される情報処理技術は次のとおりである。

1. Microsoft Office Word を用いて学術的なレポートを執筆する技術を身につけることができる。
2. Microsoft Office Excel を用いてデータの集計とデータの可視化の技術を身につけることができる。
3. Microsoft Office PowerPoint を用いてプレゼンテーション資料を作成することができる。
4. Web の情報検索を効率的に行うことができる。

【】

#### 【授業の概要と方法】

実習形式で授業を進める。例題にもとづいて操作方法を学び、つぎに課題を行なって操作方法の理解を確認する。

【】

【】

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方に関する説明をする。
第2回	パソコン操作の基礎のおさらい	パソコンの基本的な操作を確認する。キーボードとマウスを用いた入力など。
第3回	ファイル・フォルダ・木構造	ファイル・フォルダ・木構造の基本を学ぶ。
第4回	Excel の基本	Excel の基本的な操作方法を学ぶ。簡単な表を作成する。
第5回	Excel の応用：表計算(1)	Excel を用いて表計算を行う。例題に沿って操作方法を学ぶ。
第6回	Excel の応用：表計算(2)	表計算の技術を応用して、課題を行う。
第7回	Excel の応用：グラフによる可視化	Excel を用いてグラフを作成し、データを可視化することを学ぶ。
第8回	Word の基本	Word の基本的な操作方法を学ぶ。
第9回	Word によるレポートライティング：基本	Word によるレポートライティングの基本を学ぶ。
第10回	Word によるレポートライティング：図と表の活用と相互参照	レポートライティングにおける図と表の活用方法と、相互参照の操作方法について学ぶ。
第11回	Word によるレポートライティング：課題	レポートライティングの技術を用いて、課題を行う。
第12回	PowerPoint の基本	PowerPoint によるプレゼンテーション資料作成の基本を学ぶ。
第13回	PowerPoint によるプレゼンテーション資料の作成	PowerPoint によるプレゼンテーション資料作成の課題を行う。
第14回	WWW による情報検索	WWW における効率的な情報検索を学ぶ。
第15回	まとめ	授業のまとめをする。

#### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

課題を行う時間を授業中に設けるが、ひとつによってはその時間で足りないかもしれない。その場合には授業時間外で課題を行う。

#### 【テキスト】

WWW を通じて教材を配布する。

#### 【参考書】

なし。

#### 【成績評価基準】

授業内で複数の課題を提示する。これらの課題と出席回数ならびに平常点を総合的に評価する。

#### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

なし。

#### 【学生が準備すべき機器他】

情報処理教室を使用する。大学から配布された ID とパスワードを用意すること。

#### 【その他】

初心者・初級者を対象に授業を進める。毎回の授業の積み重ねにより、徐々に高度な事柄を学習するため、欠席すると授業についてこれなくなるので注意すること。



## 情報処理基礎

本郷 茂

カテゴリ：スキルアップ | 配当年次／単位：1～4年／2単位  
開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：月5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

### 【授業のテーマ】

パソコンと基本的なソフトウェアの操作方法について学ぶ。

### 【授業の到達目標】

本授業では、パソコンと基本的なソフトウェアの操作方法と基礎について学び、大学において今後の学習に役立つ技術を習得することを目標とする。

【】

### 【授業の概要と方法】

ここでの目標は、第1に、学生がレポートなどをワープロで仕上げられるようコンピュータ操作に習熟すること、第2に、そのための実践的なコンピュータ知識を習得すること、第3に、インターネットなどを利用して情報検索するための操作技術とそのための基礎知識を習得すること、の3点である。コンピュータの理論的な理解は他の科目に委ねることとし、ここではとりあえず実践的なコンピュータ操作への習熟を主要な課題とする。なお、授業は電算室を使用する。

【】

【】

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	コンピュータ操作	パソコンの基本操作（パソコンと周辺機器、Windows環境、マウスの操作、文字の入力、キーボード練習、日本語の入力）
第2回	第1回の続き<1>	提示課題ファイルを作成する。
第3回	第1回の続き<2>	提示課題ファイルを作成する。
第4回	基本的なコンピュータ操作(1)	日本語文書処理（ワードプロセッサ）の操作と活用（日常使用される文章の作成、文章の飾付け）
第5回	第4回の続き<1>	提示課題ファイルを作成する。
第6回	第4回の続き<2>	提示課題ファイルを作成する。
第7回	基本的なコンピュータ操作(2)	表計算ソフトの操作と応用（データを用いて表とグラフの作成、簡単なデータベースの操作）
第8回	第7回の続き<1>	提示課題ファイルを作成する。
第9回	第7回の続き<2>	提示課題ファイルを作成する。
第10回	インターネットを利用した情報検索の操作技術と基礎知識	インターネット（インターネットの概要とインターネット上でのマナー、電子メール、ホームページ（検索、ダウンロード））
第11回	第10回の続き<1>	提示課題ファイルを作成する。
第12回	第10回の続き<2>	提示課題ファイルを作成する。
第13回	実践的なコンピュータ操作	プレゼンテーション用の資料の作成、パソコン通信、コンピュータ利用にまつわる話題
第14回	第13回の続き<1>	提示課題ファイルを作成する。
第15回	第13回の続き<2>	総合課題ファイルを作成する。

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

より効率的に講義・実習が受講できるように、参考教材等でコンピュータ操作を自学習しておくこと。また、授業中に提示された課題等を授業時間外でも作成し、提出準備をしておくこと。

### 【テキスト】

授業開始の時に教科書・参考書等を提示する。

### 【参考書】

授業開始の時に教科書・参考書等を提示する。

### 【成績評価基準】

コンピュータ実習を伴う授業なので、毎回の出席を重視し、授業時間内での毎回の課題提出など平常時の成績を評価する。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

受講生の情報スキルと各自の学習進捗状況を考慮しながら授業を進めていく。

## 情報処理基礎

本郷 茂

カテゴリ：スキルアップ | 配当年次／単位：1～4年／2単位  
開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：月5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

### 【授業のテーマ】

パソコンと基本的なソフトウェアの操作方法について学ぶ。

### 【授業の到達目標】

本授業では、パソコンと基本的なソフトウェアの操作方法と基礎について学び、大学において今後の学習に役立つ技術を習得することを目標とする。

【】

### 【授業の概要と方法】

ここでの目標は、第1に、学生がレポートなどをワープロで仕上げられるようコンピュータ操作に習熟すること、第2に、そのための実践的なコンピュータ知識を習得すること、第3に、インターネットなどを利用して情報検索するための操作技術とそのための基礎知識を習得すること、の3点である。コンピュータの理論的な理解は他の科目に委ねることとし、ここではとりあえず実践的なコンピュータ操作への習熟を主要な課題とする。なお、授業は電算室を使用する。

【】

【】

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	コンピュータ操作	パソコンの基本操作（パソコンと周辺機器、Windows環境、マウスの操作、文字の入力、キーボード練習、日本語の入力）
第2回	第1回の続き<1>	提示課題ファイルを作成する。
第3回	第1回の続き<2>	提示課題ファイルを作成する。
第4回	基本的なコンピュータ操作(1)	日本語文書処理（ワードプロセッサ）の操作と活用（日常使用される文章の作成、文章の飾付け）
第5回	第4回の続き<1>	提示課題ファイルを作成する。
第6回	第4回の続き<2>	提示課題ファイルを作成する。
第7回	基本的なコンピュータ操作(2)	表計算ソフトの操作と応用（データを用いて表とグラフの作成、簡単なデータベースの操作）
第8回	第7回の続き<1>	提示課題ファイルを作成する。
第9回	第7回の続き<2>	提示課題ファイルを作成する。
第10回	インターネットを利用した情報検索の操作技術と基礎知識	インターネット（インターネットの概要とインターネット上でのマナー、電子メール、ホームページ（検索、ダウンロード））
第11回	第10回の続き<1>	提示課題ファイルを作成する。
第12回	第10回の続き<2>	提示課題ファイルを作成する。
第13回	実践的なコンピュータ操作	プレゼンテーション用の資料の作成、パソコン通信、コンピュータ利用にまつわる話題
第14回	第13回の続き<1>	提示課題ファイルを作成する。
第15回	第13回の続き<2>	総合課題ファイルを作成する。

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

より効率的に講義・実習が受講できるように、参考教材等でコンピュータ操作を自学習しておくこと。また、授業中に提示された課題等を授業時間外でも作成し、提出準備をしておくこと。

### 【テキスト】

授業開始の時に教科書・参考書等を提示する。

### 【参考書】

授業開始の時に教科書・参考書等を提示する。

### 【成績評価基準】

コンピュータ実習を伴う授業なので、毎回の出席を重視し、授業時間内での毎回の課題提出など平常時の成績を評価する。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

受講生の情報スキルと各自の学習進捗状況を考慮しながら授業を進めていく。



## 情報処理基礎

本郷 茂

カテゴリ：スキルアップ | 配当年次／単位：1～4年／2単位  
開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：月6

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

### 【授業のテーマ】

パソコンと基本的なソフトウェアの操作方法について学ぶ。

### 【授業の到達目標】

本授業では、パソコンと基本的なソフトウェアの操作方法と基礎について学び、大学において今後の学習に役立つ技術を習得することを目標とする。

【】

### 【授業の概要と方法】

ここでの目標は、第1に、学生がレポートなどをワープロで仕上げられるようコンピュータ操作に習熟すること、第2に、そのための実践的なコンピュータ知識を習得すること、第3に、インターネットなどを利用して情報検索するための操作技術とそのための基礎知識を習得すること、の3点である。コンピュータの理論的な理解は他の科目に委ねることとし、ここではとりあえず実践的なコンピュータ操作への習熟を主要な課題とする。なお、授業は電算室を使用する。

【】

【】

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	コンピュータ操作	パソコンの基本操作（パソコンと周辺機器、Windows環境、マウスの操作、文字の入力、キーボード練習、日本語の入力）
第2回	第1回の続き<1>	提示課題ファイルを作成する。
第3回	第1回の続き<2>	提示課題ファイルを作成する。
第4回	基本的なコンピュータ操作(1)	日本語文書処理（ワードプロセッサ）の操作と活用（日常使用される文章の作成、文章の飾付け）
第5回	第4回の続き<1>	提示課題ファイルを作成する。
第6回	第4回の続き<2>	提示課題ファイルを作成する。
第7回	基本的なコンピュータ操作(2)	表計算ソフトの操作と応用（データを用いて表とグラフの作成、簡単なデータベースの操作）
第8回	第7回の続き<1>	提示課題ファイルを作成する。
第9回	第7回の続き<2>	提示課題ファイルを作成する。
第10回	インターネットを利用した情報検索の操作技術と基礎知識	インターネット（インターネットの概要とインターネット上でのマナー、電子メール、ホームページ（検索、ダウンロード））
第11回	第10回の続き<1>	提示課題ファイルを作成する。
第12回	第10回の続き<2>	提示課題ファイルを作成する。
第13回	実践的なコンピュータ操作	プレゼンテーション用の資料の作成、パソコン通信、コンピュータ利用にまつわる話題
第14回	第13回の続き<1>	提示課題ファイルを作成する。
第15回	第13回の続き<2>	総合課題ファイルを作成する。

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

より効率的に講義・実習が受講できるように、参考教材等でコンピュータ操作を自学習しておくこと。また、授業中に提示された課題等を授業時間外でも作成し、提出準備をしておくこと。

### 【テキスト】

授業開始の時に教科書・参考書等を提示する。

### 【参考書】

授業開始の時に教科書・参考書等を提示する。

### 【成績評価基準】

コンピュータ実習を伴う授業なので、毎回の出席を重視し、授業時間内での毎回の課題提出など平常時の成績を評価する。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

受講生の情報スキルと各自の学習進捗状況を考慮しながら授業を進めていく。

## 情報処理基礎

本郷 茂

カテゴリ：スキルアップ | 配当年次／単位：1～4年／2単位  
開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：月6

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

### 【授業のテーマ】

パソコンと基本的なソフトウェアの操作方法について学ぶ。

### 【授業の到達目標】

本授業では、パソコンと基本的なソフトウェアの操作方法と基礎について学び、大学において今後の学習に役立つ技術を習得することを目標とする。

【】

### 【授業の概要と方法】

ここでの目標は、第1に、学生がレポートなどをワープロで仕上げられるようコンピュータ操作に習熟すること、第2に、そのための実践的なコンピュータ知識を習得すること、第3に、インターネットなどを利用して情報検索するための操作技術とそのための基礎知識を習得すること、の3点である。コンピュータの理論的な理解は他の科目に委ねることとし、ここではとりあえず実践的なコンピュータ操作への習熟を主要な課題とする。なお、授業は電算室を使用する。

【】

【】

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	コンピュータ操作	パソコンの基本操作（パソコンと周辺機器、Windows環境、マウスの操作、文字の入力、キーボード練習、日本語の入力）
第2回	第1回の続き<1>	提示課題ファイルを作成する。
第3回	第1回の続き<2>	提示課題ファイルを作成する。
第4回	基本的なコンピュータ操作(1)	日本語文書処理（ワードプロセッサ）の操作と活用（日常使用される文章の作成、文章の飾付け）
第5回	第4回の続き<1>	提示課題ファイルを作成する。
第6回	第4回の続き<2>	提示課題ファイルを作成する。
第7回	基本的なコンピュータ操作(2)	表計算ソフトの操作と応用（データを用いて表とグラフの作成、簡単なデータベースの操作）
第8回	第7回の続き<1>	提示課題ファイルを作成する。
第9回	第7回の続き<2>	提示課題ファイルを作成する。
第10回	インターネットを利用した情報検索の操作技術と基礎知識	インターネット（インターネットの概要とインターネット上でのマナー、電子メール、ホームページ（検索、ダウンロード））
第11回	第10回の続き<1>	提示課題ファイルを作成する。
第12回	第10回の続き<2>	提示課題ファイルを作成する。
第13回	実践的なコンピュータ操作	プレゼンテーション用の資料の作成、パソコン通信、コンピュータ利用にまつわる話題
第14回	第13回の続き<1>	提示課題ファイルを作成する。
第15回	第13回の続き<2>	総合課題ファイルを作成する。

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

より効率的に講義・実習が受講できるように、参考教材等でコンピュータ操作を自学習しておくこと。また、授業中に提示された課題等を授業時間外でも作成し、提出準備をしておくこと。

### 【テキスト】

授業開始の時に教科書・参考書等を提示する。

### 【参考書】

授業開始の時に教科書・参考書等を提示する。

### 【成績評価基準】

コンピュータ実習を伴う授業なので、毎回の出席を重視し、授業時間内での毎回の課題提出など平常時の成績を評価する。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

受講生の情報スキルと各自の学習進捗状況を考慮しながら授業を進めていく。

## 情報処理基礎

小林 信彦

カテゴリ：スキルアップ | 配当年次／単位：1～4年／2単位  
開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：土3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

### 【授業のテーマ】

基本的には初心者を対象とし、より高度なレベルでの使いこなしをしていくための基本となる部分を重視して講義・演習を行う。  
多くの授業の中で必要になるレポート作成のための Word/Excel、ゼミ発表などで必要となる Powerpoint の基本を演習する。

### 【授業の到達目標】

本科目では、ネットワークの活用、文書作成、表計算処理をはじめとした大学生として最低限身につけておくべきコンピュータリテラシーの習得を目標とする。

[]

### 【授業の概要と方法】

基本操作の他、インターネットの活用、文書作成、表計算、統計データの活用、プレゼンテーション資料作成といったレポート作成に必要な技術について演習を行う。なお、授業は電算室を使用する。  
3～4回の講義と演習の後、その内容をまとめるレポートの作成を行っていく。

[]

[]

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	実習環境の解説／スキルの確認／情報系の資格について／コンピュータおよびネットワークの歴史と基礎知識
第2回	ネットワークの活用	学内のネットワーク・インターネットの活用／電子メールの活用
第3回	情報検索と活用 1	インターネットを利用した情報の検索と活用
第4回	情報検索と活用 2	インターネットを利用した情報の検索と活用
第5回	文書作成演習	word を利用した文書作成の基礎
第6回	文書作成演習	word を利用した文書作成の基礎
第7回	文書作成演習	word を利用した文書作成の応用
第8回	文書作成演習まとめ	ここまでのまとめとしてレポートの作成を行う
第9回	表計算演習	excel を利用した表計算処理の基礎
第10回	表計算演習	excel を利用した表計算処理の基礎
第11回	表計算演習	excel を利用した表計算処理の基礎
第12回	表計算演習	excel を利用した表計算処理の応用
第13回	表計算演習まとめ	ここまでのまとめとしてレポート作成を行う
第14回	プレゼン資料作成	powerpoint を利用したプレゼン資料作成の基礎
第15回	プレゼン資料作成	powerpoint を利用したプレゼン資料作成の基礎

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

実習の内容が確実に身につくように必要に応じて復習・練習を繰り返すこと。

### 【テキスト】

講義時に参考資料をデータの形で配布する。

### 【参考書】

講義時に内容に合わせて参考書を紹介する。

### 【成績評価基準】

出席の状況と授業内で作成する3つ程度のレポートにより成績評価を行う。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

受講生のコンピュータ利用状況、知識レベルの把握のためのアンケート調査を初回に行う。

### 【学生が準備すべき機器他】

情報処理教室のパソコンを利用する。

### 【その他】

データの保存等は基本的に学内ネットワーク上に行う。USBメモリ等を用意・活用しても良いだろう（任意）。  
初回講義時にユーザID、パスワードが利用できるようにしておくこと（1年生はガイダンス時に配布されたプリント、2年生以上は不明な場合は情報カフェテリアで確認しておくこと）。

## ネットワークとマルチメディア

松本 倫明

カテゴリ：スキルアップ | 配当年次／単位：1～4年／2単位  
開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：月3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

### 【授業のテーマ】

インターネットとマルチメディアの基礎と応用を学ぶ。  
近年、インターネットを用いた情報交換が活発に行われている。それにもない、画像・音声・動画などのマルチメディアに触れる機会も多くなった。この授業では、インターネットとマルチメディアの基礎と応用について学ぶ。さらに、インターネットの光と影の部分にも焦点を当て、情報倫理についても触れる。

### 【授業の到達目標】

この授業を通じて習得される情報処理技術は次のとおりである。

1. 画像処理の基本的な技術を習得することができる。
2. 模式図を自作することができる。
3. ウェブページを制作することができる。
4. インターネットにおける情報発信の技術を習得することができる。

[]

### 【授業の概要と方法】

実習形式で授業を進める。例題にもとづいて操作方法を学び、つぎに課題を行なって操作方法の理解を確認する。

[]

[]

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・基本操作 法のおさらい	授業の進め方に関する説明をする。パソコンの基本的な操作を確認する。キーボードとマウスを用いた入力など。
第2回	ファイル・フォルダ・木構造	ファイル・フォルダ・木構造の基本を学ぶ。
第3回	ペイント系画像処理： Photoshopによる実習	Photoshopによる写真や画像の処理方法を学ぶ。
第4回	ドロー系画像処理：基本	ドロー系画像処理ソフトを用いた、画像処理の基本を学ぶ。
第5回	ドロー系画像処理：自由 課題	ドロー系画像処理ソフトを用いて自由課題を制作する。
第6回	Web ページ製作： HTMLの基本	Web ページ作成の基本を学ぶ。HTMLについて重点的に学ぶ。
第7回	Web ページ製作：CSS の基本 (1)	CSSについて学ぶ。
第8回	Web ページ製作：CSS の基本 (2)	CSSについて学ぶ。
第9回	Web ページ製作：課題 ページの作成 (1)	Web ページの自由課題を作成する。
第10回	Web ページ製作：課題 ページの作成 (2)	Web ページの自由課題を作成する。
第11回	Web ページ製作：課題 ページのまとめ。	自由課題のまとめと評価を行う。
第12回	WWWの仕組み	WWWの仕組みを学習し、情報発信と受信の仕組みを理解する。
第13回	情報検索のコツと練習	WWWにおける効率的な情報検索の方法を学ぶ。
第14回	インターネットの光と影： 情報倫理	インターネットにおける情報倫理を学ぶ。様々な事例を取り上げ、インターネットの利用における問題点や注意点を理解する。
第15回	まとめ	授業をまとめる。

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

課題を行う時間を授業中に設けるが、ひとによってはその時間で足りないかもしれない。その場合には授業時間外で課題を行う。

### 【テキスト】

WWWを通じて教材を配布する。  
また、授業のなかで、テキストを紹介する。

### 【参考書】

なし。

### 【成績評価基準】

出席回数・平常点・課題提出を総合的に評価する。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

なし。

### 【学生が準備すべき機器他】

情報実習室を使用する。大学から配布されたIDとパスワードを用意すること。

【その他】

受講生はパソコンの基本的な操作（キー入力やファイルの保存）を既に修得していることが望まれる。

## ネットワークとマルチメディア

松本 倫明

カテゴリ：スキルアップ | 配当年次／単位：1～4 年／2 単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：月 3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

### 【授業のテーマ】

インターネットとマルチメディアの基礎と応用を学ぶ。  
近年、インターネットを用いた情報交換が活発に行われている。それにと  
もない、画像・音声・動画などのマルチメディアに触れる機会も多くなった。  
この授業では、インターネットとマルチメディアの基礎と応用について学  
ぶ。さらに、インターネットの光と影の部分にも焦点を当て、情報倫理につ  
いても触れる。

### 【授業の到達目標】

- この授業を通じて習得される情報処理技術は次のとおりである。
1. 画像処理の基本的な技術を習得することができる。
  2. 模式図を自作することができる。
  3. ウェブページを制作することができる。
  4. インターネットにおける情報発信の技術を習得することができる。

【】

### 【授業の概要と方法】

実習形式で授業を進める。例題にもとづいて操作方法を学び、つぎに課題を行なって操作方法の理解を確認する。

【】

【】

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス・基本操作方 法のおさらい	授業の進め方に関する説明をする。パ ソコンの基本的な操作を確認する。 キーボードとマウスを用いた入力など。
第 2 回	ファイル・フォルダ・木 構造	ファイル・フォルダ・木構造の基本を 学ぶ。
第 3 回	ペイント系画像処理： Photoshop による実習	Photoshop による写真や画像の処理 方法を学ぶ。
第 4 回	ドロー系画像処理：基本	ドロー系画像処理ソフトを用いた、画 像処理の基本を学ぶ。
第 5 回	ドロー系画像処理：自由 課題	ドロー系画像処理ソフトを用いて自由 課題を制作する。
第 6 回	Web ページ製作： HTML の基本	Web ページ作成の基本を学ぶ。 HTML について重点的に学ぶ。
第 7 回	Web ページ製作：CSS の基本 (1)	CSS について学ぶ。
第 8 回	Web ページ製作：CSS の基本 (2)	CSS について学ぶ。
第 9 回	Web ページ製作：課題 ページの作成 (1)	Web ページの自由課題を作成する。
第 10 回	Web ページ製作：課題 ページの作成 (2)	Web ページの自由課題を作成する。
第 11 回	Web ページ製作：課題 ページのまとめ。	自由課題のまとめと評価を行う。
第 12 回	WWW の仕組み	WWW の仕組みを学習し、情報発信 と受信の仕組みを理解する。
第 13 回	情報検索のコツと練習	WWW における効率的な情報検索の 方法を学ぶ。
第 14 回	インターネットの光と影 ：情報倫理	インターネットにおける情報倫理を学 ぶ。様々な事例を取り上げ、インター ネットの利用における問題点や注意 点を理解する。
第 15 回	まとめ	授業をまとめる。

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

課題を行う時間を授業中に設けるが、ひとによってはその時間で足りないか  
もしれない。その場合には授業時間外で課題を行う。

### 【テキスト】

WWW を通じて教材を配布する。  
また、授業のなかで、テキストを紹介する。

### 【参考書】

なし。

### 【成績評価基準】

出席回数・平常点・課題提出を総合的に評価する。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

なし。

### 【学生が準備すべき機器他】

情報実習室を使用する。大学から配布された ID とパスワードを用意すること。

## 【その他】

受講生はパソコンの基本的な操作（キー入力やファイルの保存）を既に修得していることが望まれる。

## 統計とデータ分析

小林 信彦

カテゴリ：スキルアップ | 配当年次/単位：1～4年 / 2単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：土 3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

統計は様々な分野において基礎資料として、あるいは意志決定のための重要な武器として活用されている。近年のコンピュータやネットワークの発展によりデータの取得も容易になってきている。本科目では表計算アプリケーションを使用し、統計処理/データ分析を具体的なサンプルを利用しながら解説・実習していく。

## 【授業の到達目標】

Excel を活用し、計算処理・統計処理を行い、またグラフ作成・ピボットテーブルなどを用いたデータ分析の基礎を身につける。また、学内のネットワークの利用や Excel で処理したデータを文書化/プレゼン資料化できるよう基本的な Office ソフトウェアの操作を身につける。

【】

## 【授業の概要と方法】

情報処理教室を利用し、解説と Excel を中心とした演習を行う。Excel/Word/Powerpoint の基礎的な部分の演習も行うので、あまり経験が無くとも問題ない。受講者の数学・統計学的な予備知識も想定していない。

【】

【】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容の説明、スキルの確認、実習環境について
第 2 回	ネットワークの活用	学内ネットワークの活用、情報の検索と活用
第 3 回	文書作成	word を利用した文書作成の基礎
第 4 回	プレゼン資料作成	powerpoint を利用したプレゼン資料作成の基礎
第 5 回	表計算基礎 1	excel の基礎的な操作の確認と計算処理
第 6 回	表計算基礎 2	基礎的な統計関数による計算処理とグラフ表現
第 7 回	データ分析 1	インターネット等の活用によるデータの取得と加工 データのソート、抽出などによるデータの分析
第 8 回	データ分析 2	ピボットテーブルを利用したデータ分析
第 9 回	演習	ここまでの内容についてまとめを行う
第 10 回	統計基礎 1	代表値 (平均、最頻値、中央値など) について学習する。サンプルデータから excel による計算処理演習を行う。
第 11 回	統計基礎 2	散布度 (分散、偏差など) について学習する。サンプルデータから excel による計算処理演習を行う。
第 12 回	統計基礎 3	相関分析と回帰分析について学習する。サンプルデータから excel による計算処理演習を行う。
第 13 回	統計演習 1	実際のデータに基づき、これまでのまとめとして統計処理・データ分析演習を行う。
第 14 回	統計演習 2	実際のデータに基づき、これまでのまとめとして統計処理・データ分析演習を行う。
第 15 回	統計演習 3	実際のデータに基づき、これまでのまとめとして統計処理・データ分析演習を行う。

## 【授業外に行うべき学習活動 (準備学習等)】

授業後の内容確認、復習を行うこと。

## 【テキスト】

開講時に指示する。

## 【参考書】

開講時/授業内で紹介する。

## 【成績評価基準】

出席状況とレポートの内容から評価を行う。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

2012 年度担当。



**【学生が準備すべき機器他】**

情報処理教室に設置されているパソコンを使用。また、各自必要に応じて情報カフェテリア等を使用。

**【その他】**

- ・データの保存等は基本的に学内ネットワーク上に行う。必要に応じて USB メモリ等を用意（任意）。
- ・初回講義時にユーザ ID、パスワードが利用できるようにしておくこと。
- ・2011 年度までに「統計概論」を修得済の場合、本科目は履修できない。再履修者は「統計概論」（展開科目）で登録すること。

## 統計概論

小林 信彦

カテゴリ：基幹 | 配当年次/単位：1~4 年 / 2 単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：土 3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業のテーマ】**

統計は様々な分野において基礎資料として、あるいは意志決定のための重要な武器として活用されている。近年のコンピュータやネットワークの発展によりデータの取得も容易になってきている。本科目では表計算アプリケーションを使用し、統計処理/データ分析を具体的なサンプルを利用しながら解説・実習していく。

**【授業の到達目標】**

Excel を活用し、計算処理・統計処理を行い、またグラフ作成・ピボットテーブルなどを用いたデータ分析の基礎を身につける。また、学内のネットワークの利用や Excel で処理したデータを文書化/プレゼン資料化できるよう基本的な Office ソフトウェアの操作を身につける。

【】

**【授業の概要と方法】**

情報処理教室を利用し、解説と Excel を中心とした演習を行う。Excel/Word/Powerpoint の基礎的な部分の演習も行うので、あまり経験が無くとも問題ない。受講者の数学・統計学的な予備知識も想定していない。

【】

【】

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容の説明、スキルの確認、実習環境について
第 2 回	ネットワークの活用	学内ネットワークの活用、情報の検索と活用
第 3 回	文書作成	word を利用した文書作成の基礎
第 4 回	プレゼン資料作成	powerpoint を利用したプレゼン資料作成の基礎
第 5 回	表計算基礎 1	excel の基礎的な操作の確認と計算処理
第 6 回	表計算基礎 2	基礎的な統計関数による計算処理とグラフ表現
第 7 回	データ分析 1	インターネット等の活用によるデータの取得と加工 データのソート、抽出などによるデータの分析
第 8 回	データ分析 2	ピボットテーブルを利用したデータ分析
第 9 回	演習	ここまでの内容についてまとめを行う
第 10 回	統計基礎 1	代表値 (平均、最頻値、中央値など) について学習する。サンプルデータから excel による計算処理演習を行う。
第 11 回	統計基礎 2	散布度 (分散、偏差など) について学習する。サンプルデータから excel による計算処理演習を行う。
第 12 回	統計基礎 3	相関分析と回帰分析について学習する。サンプルデータから excel による計算処理演習を行う。
第 13 回	統計演習 1	実際のデータに基づき、これまでのまとめとして統計処理・データ分析演習を行う。
第 14 回	統計演習 2	実際のデータに基づき、これまでのまとめとして統計処理・データ分析演習を行う。
第 15 回	統計演習 3	実際のデータに基づき、これまでのまとめとして統計処理・データ分析演習を行う。

**【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】**

授業後の内容確認、復習を行うこと。

**【テキスト】**

開講時に指示する。

**【参考書】**

開講時/授業内で紹介する。

**【成績評価基準】**

出席状況とレポートの内容から評価を行う。

**【学生による授業改善アンケートからの気づき】**

2012 年度担当。

**【学生が準備すべき機器他】**

情報処理教室に設置されているパソコンを使用。また、各自必要に応じて情報カフェテリア等を使用。

**【その他】**

データの保存等は基本的に学内ネットワーク上に行う。必要に応じて USB メモリ等を用意（任意）。

初回講義時にユーザ ID、パスワードが利用できるようにしておくこと。

## 英語 I（スキルアップ科目）

平野井 ちえ子

カテゴリ：スキルアップ | 配当年次／単位：1～4 年／1 単位

開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：火 4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

大人の初級レベルのコミュニケーションに親しみをもてるよう、CALL(Computer Assisted Language Learning)を含めたさまざまな学習方法を体験してもらいたい。たとえば、英語による発話の基礎をつくるためには、双方向性英会話ソフト Native World Pro. を用い、教材ではない Authentic な英語になじむためには、映画やドラマを用いたリスニングやアフレコ・チャットなどのアクティビティを行なう。

受講希望者が多数の場合、選抜を行なうので、第 1 回目の授業には必ず出席すること。第 1 回目の授業に欠席の場合、受講資格は無い。

## 【授業の到達目標】

英語でのコミュニケーションに親しみを持つことが第一である。厳しいステップであるが、教材の英語と生の英語の違いを知ることも重要である。

[]

## 【授業の概要と方法】

最初は、双方向性の英会話ソフトである Native World Pro. による個別学習で、自分のペースでリスニング・スピーキングを練習し、恥ずかしがらずに英語を話す基礎をつくる。慣れてきたら、Native World Pro. で練習した表現を用いて、ペアやグループでの応用アクティビティを行なう。インプットとアウトプットのバラエティを豊かにするため、随時映画やドラマの断片も教材とする。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	シラバスに基づく講座概要の説明と Native World Pro. のデモンストレーション。受講者選抜を行なうので、希望者は必ず出席のこと。
第 2 回	Native World Pro. の使用説明と実践	Native World Pro. の使い方を詳しく説明する。受講者の個別学習への導入。
第 3 回	「休日エンジョイ編」 Going Shopping at a Mall	現地の知人に買い物の相談をする際の表現を学ぶ。
第 4 回	「休日エンジョイ編」 Exchanging a Purchased Item	購入店に不良品への対応を求める際の表現を学ぶ。
第 5 回	「休日エンジョイ編」 Deciding on a Movie	映画のジャンルやレーティングに関する表現を学ぶ。レーティングとはどのようなものか、具体例を挙げて説明する。
第 6 回	「休日エンジョイ編」 Making Reservation for a Musical	コンシエルジュに劇場のチケット手配を頼むときの表現を学ぶ。英語圏のミュージカルを数例紹介する。
第 7 回	「海外赴任編」 Looking for an Apartment	現地での不動産賃貸契約に関する表現を学ぶ。物件の探し方や内容を数例紹介する。
第 8 回	「海外赴任編」 Having a Home Doctor	かかりつけの医者になってもらうことを頼む面談での表現を学ぶ。
第 9 回	Native World Pro. のモニターテスト	これまでに学習したシーンのうちの 1 つについて、本番（会話）ステージをモニター・評価する。
第 10 回	応用アクティビティ 1	映画を教材とするリスニング練習。（ラブコメ編）
第 11 回	応用アクティビティ 2	映画を教材とするリスニング練習。（ミュージカル編）
第 12 回	応用アクティビティ 3	映画のアフレコシュミレーション。（邦画編）
第 13 回	応用アクティビティ 4	映画についての感想をチャットで交換する。自分の好きな映画について短いエッセイをまとめる。
第 14 回	期末試験	13 回分の学習の定着度を確認するため、リスニングを含む筆記試験を行なう。この試験では、正確さを重視する。
第 15 回	復習	期末試験を返却し、これに基づくフィードバックと学習アドバイスを行なう。

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

インストールソフトを有効活用するため、文法や口語表現などで自信のないところは、教室での発話練習に入る前に予習し、解決できない場合は自主的に質問することが必要。授業で使用する映画については、より関心をもって学習するため、全編を通して観ておくことを勧める。授業内で配布する関連リーディング資料は、予習を前提に授業を進める。とくに応用アクティビティのアフレコ・チャット・ショートエッセイには、授業前に下準備が必要。

## 【テキスト】

Native World Pro. 「休日エンジョイ編」・「海外赴任編」ほか、テキストはプリント配布。

## 【参考書】

URL

<http://www.mpa.org/><http://www.ox.ac.uk/gazette/><http://www.londontheatre.co.uk/> など。

## 【成績評価基準】

出席状況（遅刻や欠席の多い人は、周囲に迷惑をかけ、授業の進行にも支障をきたす原因となるので、出席・参加態度をととても重視する。）

参加内容（初級なので、全体として正確さよりも積極性を重視する。個別学習もモニターして評価する。また、ペアやグループでのアクティビティで周囲と協力的に参加できるかどうかも大切である。）

期末試験（リスニングを含む筆記試験）

以上を総合的に評価する。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

基本的にかなり好評なので、これまでの方針で継続したい。ただ、CALL システムの音声認識については、より改善できるよう、技術者と相談している。

## 【学生が準備すべき機器他】

CALL 教室

## 英語 I（4群必修）

平野井 ちえ子

カテゴリ：スキルアップ | 配当年次／単位：1～4年／1単位

開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：火 4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

大人の初級レベルのコミュニケーションに親しみをもてるよう、CALL(Computer Assisted Language Learning)を含めたさまざまな学習方法を体験してもらいたい。たとえば、英語による発話の基礎をつくるためには、双方向性英会話ソフト Native World Pro. を用い、教材ではない Authentic な英語になじむためには、映画やドラマを用いたりリスニングやアフレコ・チャットなどのアクティビティを行なう。

受講希望者が多数の場合、選抜を行なうので、第 1 回目の授業には必ず出席すること。第 1 回目の授業に欠席の場合、受講資格は無い。

## 【授業の到達目標】

英語でのコミュニケーションに親しみを持つことが第一である。厳しいステップであるが、教材の英語と生の英語の違いを知ることも重要である。

[]

## 【授業の概要と方法】

最初は、双方向性の英会話ソフトである Native World Pro. による個別学習で、自分のペースでリスニング・スピーキングを練習し、恥ずかしがらずに英語を話す基礎をつくる。慣れてきたら、Native World Pro. で練習した表現を用いて、ペアやグループでの応用アクティビティを行なう。インプットとアウトプットのバラエティを豊かにするため、随時映画やドラマの断片も教材とする。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	シラバスに基づく講座概要の説明と Native World Pro. のデモンストレーション。受講者選抜を行なうので、希望者は必ず出席のこと。
第 2 回	Native World Pro. の使用説明と実践	Native World Pro. の使い方を詳しく説明する。受講者の個別学習への導入。
第 3 回	「休日エンジョイ編」 Going Shopping at a Mall	現地の知人に買い物の相談をする際の表現を学ぶ。
第 4 回	「休日エンジョイ編」 Exchanging a Purchased Item	購入店に不良品への対応を求める際の表現を学ぶ。
第 5 回	「休日エンジョイ編」 Deciding on a Movie	映画のジャンルやレーティングに関する表現を学ぶ。レーティングとはどのようなものか、具体例を挙げて説明する。
第 6 回	「休日エンジョイ編」 Making Reservation for a Musical	コンシエルジュに劇場のチケット手配を頼むときの表現を学ぶ。英語圏のミュージカルを数例紹介する。
第 7 回	「海外赴任編」 Looking for an Apartment	現地での不動産賃貸契約に関する表現を学ぶ。物件の探し方や内容を数例紹介する。
第 8 回	「海外赴任編」 Having a Home Doctor	かかりつけの医者になってもらうことを頼む面談での表現を学ぶ。
第 9 回	Native World Pro. のモニターテスト	これまでに学習したシーンのうちの 1 つについて、本番（会話）ステージをモニター・評価する。
第 10 回	応用アクティビティ 1	映画を教材とするリスニング練習。（ラブコメ編）
第 11 回	応用アクティビティ 2	映画を教材とするリスニング練習。（ミュージカル編）
第 12 回	応用アクティビティ 3	映画のアフレコ・シュミレーション。（邦画編）
第 13 回	応用アクティビティ 4	映画についての感想をチャットで交換する。自分の好きな映画について短いエッセイをまとめる。
第 14 回	期末試験	13 回分の学習の定着度を確認するため、リスニングを含む筆記試験を行なう。この試験では、正確さを重視する。
第 15 回	復習	期末試験を返却し、これに基づくフィードバックと学習アドバイスを行なう。

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

インストールソフトを有効活用するため、文法や口語表現などで自信のないところは、教室での発話練習に入る前に予習し、解決できない場合は自主的に質問することが必要。授業で使用する映画については、より関心をもって学習するため、全編を通して観ておくことを勧める。授業内で配布する関連リーディング資料は、予習を前提に授業を進める。とくに応用アクティビティのアフレコ・チャット・ショートエッセイには、授業前に下準備が必要。

## 【テキスト】

Native World Pro. 「休日エンジョイ編」・「海外赴任編」ほか、テキストはプリント配布。

## 【参考書】

URL

<http://www.mpa.org/><http://www.ox.ac.uk/gazette/><http://www.londontheatre.co.uk/> など。

## 【成績評価基準】

出席状況（遅刻や欠席の多い人は、周囲に迷惑をかけ、授業の進行にも支障をきたす原因となるので、出席・参加態度をととても重視する。）

参加内容（初級なので、全体として正確さよりも積極性を重視する。個別学習もモニターして評価する。また、ペアやグループでのアクティビティで周囲と協力的に参加できるかどうかも大切である。）

期末試験（リスニングを含む筆記試験）

以上を総合的に評価する。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

基本的にかなり好評なので、これまでの方針で継続したい。ただ、CALLシステムの音声認識については、より改善できるよう、技術者と相談している。

## 【学生が準備すべき機器他】

CALL 教室



## 英語 I（4 群選択）

平野井 ちえ子

カテゴリ：スキルアップ | 配当年次／単位：1～4 年／1 単位

開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：火 4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

大人の初級レベルのコミュニケーションに親しみをもてるよう、CALL(Computer Assisted Language Learning)を含めたさまざまな学習方法を体験してもらいたい。たとえば、英語による発話の基礎をつくるためには、双方向性英会話ソフト Native World Pro. を用い、教材ではない Authentic な英語になじむためには、映画やドラマを用いたリスニングやアフレコ・チャットなどのアクティビティを行なう。

受講希望者が多数の場合、選抜を行なうので、第 1 回目の授業には必ず出席すること。第 1 回目の授業に欠席の場合、受講資格は無い。

## 【授業の到達目標】

英語でのコミュニケーションに親しみを持つことが第一である。厳しいステップであるが、教材の英語と生の英語の違いを知ることも重要である。

[]

## 【授業の概要と方法】

最初は、双方向性の英会話ソフトである Native World Pro. による個別学習で、自分のペースでリスニング・スピーキングを練習し、恥ずかしがらずに英語を話す基礎をつくる。慣れてきたら、Native World Pro. で練習した表現を用いて、ペアやグループでの応用アクティビティを行なう。インプットとアウトプットのバラエティを豊かにするため、随時映画やドラマの断片も教材とする。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	シラバスに基づく講座概要の説明と Native World Pro. のデモンストレーション。受講者選抜を行なうので、希望者は必ず出席のこと。
第 2 回	Native World Pro. の使用説明と実践	Native World Pro. の使い方を詳しく説明する。受講者の個別学習への導入。
第 3 回	「休日エンジョイ編」 Going Shopping at a Mall	現地の知人に買い物の相談をする際の表現を学ぶ。
第 4 回	「休日エンジョイ編」 Exchanging a Purchased Item	購入店に不良品への対応を求める際の表現を学ぶ。
第 5 回	「休日エンジョイ編」 Deciding on a Movie	映画のジャンルやレーティングに関する表現を学ぶ。レーティングとはどのようなものか、具体例を挙げて説明する。
第 6 回	「休日エンジョイ編」 Making Reservation for a Musical	コンシエルジュに劇場のチケット手配を頼むときの表現を学ぶ。英語圏のミュージカルを数例紹介する。
第 7 回	「海外赴任編」 Looking for an Apartment	現地での不動産賃貸契約に関する表現を学ぶ。物件の探し方や内容を数例紹介する。
第 8 回	「海外赴任編」 Having a Home Doctor	かかりつけの医者になってもらうことを頼む面談での表現を学ぶ。
第 9 回	Native World Pro. のモニターテスト	これまでに学習したシーンのうちの 1 つについて、本番（会話）ステージをモニター・評価する。
第 10 回	応用アクティビティ 1	映画を教材とするリスニング練習。（ラブコメ編）
第 11 回	応用アクティビティ 2	映画を教材とするリスニング練習。（ミュージカル編）
第 12 回	応用アクティビティ 3	映画のアフレコシュミレーション。（邦画編）
第 13 回	応用アクティビティ 4	映画についての感想をチャットで交換する。自分の好きな映画について短いエッセイをまとめる。
第 14 回	期末試験	13 回分の学習の定着度を確認するため、リスニングを含む筆記試験を行なう。この試験では、正確さを重視する。
第 15 回	復習	期末試験を返却し、これに基づくフィードバックと学習アドバイスを行なう。

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

インストールソフトを有効活用するため、文法や口語表現などで自信のないところは、教室での発話練習に入る前に予習し、解決できない場合は自主的に質問することが必要。授業で使用する映画については、より関心をもって学習するため、全編を通して観ておくことを勧める。授業内で配布する関連リーディング資料は、予習を前提に授業を進める。とくに応用アクティビティのアフレコ・チャット・ショートエッセイには、授業前に下準備が必要。

## 【テキスト】

Native World Pro. 「休日エンジョイ編」・「海外赴任編」ほか、テキストはプリント配布。

## 【参考書】

URL

<http://www.mpa.org/><http://www.ox.ac.uk/gazette/><http://www.londontheatre.co.uk/> など。

## 【成績評価基準】

出席状況（遅刻や欠席の多い人は、周囲に迷惑をかけ、授業の進行にも支障をきたす原因となるので、出席・参加態度をととても重視する。）

参加内容（初級なので、全体として正確さよりも積極性を重視する。個別学習もモニターして評価する。また、ペアやグループでのアクティビティで周囲と協力的に参加できるかどうかも大切である。）

期末試験（リスニングを含む筆記試験）

以上を総合的に評価する。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

基本的にかなり好評なので、これまでの方針で継続したい。ただ、CALL システムの音声認識については、より改善できるよう、技術者と相談している。

## 【学生が準備すべき機器他】

CALL 教室

## 英語 I（スキルアップ科目）

## 関口 奈津恵

カテゴリ：スキルアップ | 配当年次／単位：1～4年／1単位

開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：木 5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

英語を使った初級レベルのコミュニケーションに親しむ。CALL 教室で、シャドーイングの練習、および英会話ソフトを用いた発話の練習を行う。個人練習の他にペアやグループでの練習も取り入れ、英語に能動的にかかわる場を提供したい。

受講希望者が予定人数（30名）を超えた場合は選抜を行うので、第1回目の授業には必ず出席すること。

## 【授業の到達目標】

リスニング力：シャドーイングの練習を通して英語の音声をより正確に聞き取り、頭から順に理解できるようになる。

スピーキング力：双方向性英会話ソフト「iStudy Native World」を使い、シーンにあった反応ができるようになり、発音も改善する。

[]

## 【授業の概要と方法】

毎回授業の前半はテキストと CD を用いたシャドーイングの練習などを行い、後半は英会話ソフトで会話の練習を行う。また、その日の活動に関連した教材も随時紹介する。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	シラバスに基づいた授業の説明。受講希望者多数の場合は選抜を行う
第 2 回	・シャドーイングの説明 ・Native World の使用	・Unit 1 を使ってシャドーイングの実践
第 3 回	・Unit 2 ・「海外渡航編」 Mealtime on the plane	・英会話ソフトの使い方説明と実践 ・強弱のリズム ・機内食を頼む表現を学ぶ
第 4 回	・Unit 3 ・「海外渡航編」 Taking a taxi	・強勢の位置 ・タクシーに乗る際の表現を学ぶ
第 5 回	・Unit 4 ・「海外渡航編」 Checking in at a hotel	・大きな数字の読み方 ・ホテルにチェックインする際の表現を学ぶ
第 6 回	・Unit 5 ・単語小テスト (1)	・音の連結 ・単語の定着度を確認する小テスト
第 7 回	・Unit 6 ・「日常会話編」 Buying a ticket	・子音の脱落 ・旅行代理店でチケットを買う際の表現を学ぶ
第 8 回	・Unit 7 ・「日常会話編」 Introducing oneself at a party	・弱く発音される音 ・パーティで使う表現を学ぶ
第 9 回	・Unit 8 ・「休日をエンジョイ編」 Exchanging a purchased item	・破裂音 ・購入店に返品を求める際の表現を学ぶ
第 10 回	・Unit 9 ・「休日をエンジョイ編」 Deciding on a movie	・弱くなる音 ・映画のジャンルやレーティングについて学ぶ
第 11 回	・Unit 10 ・「休日をエンジョイ編」 Asking about museums	・イントネーション ・美術館について尋ねる際の表現を学ぶ
第 12 回	・Unit 11 ・単語小テスト (2)	・音の脱落 ・単語の定着度を確認する小テスト
第 13 回	・Unit 12 ・「海外赴任編」 Looking for an apartment	・t の音の変化 ・アパートを探し、契約する際の表現を学ぶ
第 14 回	・Unit 13 ・「海外赴任編」 Asking about grocery stores	・腹式呼吸 ・隣人に近くの食料品店について尋ねる際の表現を学ぶ
第 15 回	期末試験	これまでの学習の定着度を確認するためリスニングを含む筆記試験を実施する

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

授業で発話の練習に集中できるよう、その日に使う予定の教材は、単語や文法を調べ、意味を把握しておくこと。分からなかった部分は、授業中に質問し、疑問の解消につとめること。

## 【テキスト】

- Shadowing Starter: A Practical Approach to Fluency（開ける、話せる シャドーイング入門）、マクミラン・ランゲージハウス、2,400 円。
- 英会話に関してはプリントを配布する。

## 【参考書】

随時紹介する。

## 【成績評価基準】

- 出席状況・参加態度 40%
- 単語小テスト 10%
- 期末試験 50%

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

2012 年度より担当

## 【学生が準備すべき機器他】

CALL 教室

## 英語 I（4群必修）

関口 奈津恵

カテゴリ：スキルアップ | 配当年次/単位：1～4年 / 1単位

開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：木 5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

英語を使った初級レベルのコミュニケーションに親しむ。CALL 教室で、シャドーイングの練習、および英会話ソフトを用いた発話の練習を行う。個人練習の他にペアやグループでの練習も取り入れ、英語に能動的にかかわる場を提供したい。

受講希望者が予定人数（30名）を超えた場合は選抜を行うので、第1回目の授業には必ず出席すること。

## 【授業の到達目標】

リスニング力：シャドーイングの練習を通して英語の音声をより正確に聞き取り、頭から順に理解できるようになる。

スピーキング力：双方向性英会話ソフト「iStudy Native World」を使い、シーンにあった反応ができるようになり、発音も改善する。

[]

## 【授業の概要と方法】

毎回授業の前半はテキストと CD を用いたシャドーイングの練習などを行い、後半は英会話ソフトで会話の練習を行う。また、その日の活動に関連した教材も随時紹介する。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	シラバスに基づいた授業の説明。受講希望者多数の場合は選抜を行う
第 2 回	・シャドーイングの説明 ・Native World の使用	・Unit 1 を使ってシャドーイングの実践
第 3 回	・Unit 2 ・「海外渡航編」	・英会話ソフトの使い方説明と実践 ・強弱のリズム ・機内食を頼む表現を学ぶ
第 4 回	Mealtime on the plane ・Unit 3 ・「海外渡航編」 Taking a taxi	・強勢の位置 ・タクシーに乗る際の表現を学ぶ
第 5 回	・Unit 4 ・「海外渡航編」	・大きな数字の読み方 ・ホテルにチェックインする際の表現を学ぶ
第 6 回	Checking in at a hotel ・Unit 5	・音の連結 ・単語の定着度を確認する小テスト
第 7 回	・単語小テスト (1) ・Unit 6	・子音の脱落 ・旅行代理店でチケットを買う際の表現を学ぶ
第 8 回	・「日常会話編」 Buying a ticket ・Unit 7 ・「日常会話編」	・弱く発音される音 ・パーティで使う表現を学ぶ
第 9 回	Introducing oneself at a party ・Unit 8 ・「休日を楽しもう編」	・破裂音 ・購入店に返品を求める際の表現を学ぶ
第 10 回	Exchanging a purchased item ・Unit 9 ・「休日を楽しもう編」	・弱くなる音 ・映画のジャンルやレーティングについて学ぶ
第 11 回	Deciding on a movie ・Unit 10 ・「休日を楽しもう編」	・イントネーション ・美術館について尋ねる際の表現を学ぶ
第 12 回	Asking about museums ・Unit 11	・音の脱落 ・単語の定着度を確認する小テスト
第 13 回	・単語小テスト (2) ・Unit 12 ・「海外赴任編」 Looking for an apartment	・t の音の変化 ・アパートを探し、契約する際の表現を学ぶ
第 14 回	・Unit 13 ・「海外赴任編」 Asking about grocery stores	・隣人に近くの食料品店について尋ねる際の表現を学ぶ
第 15 回	期末試験	これまでの学習の定着度を確認するためリスニングを含む筆記試験を実施する

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

授業で発話の練習に集中できるよう、その日に使う予定の教材は、単語や文法を調べ、意味を把握しておくこと。分からなかった部分は、授業中に質問し、疑問の解消につとめること。

## 【テキスト】

1. Shadowing Starter: A Practical Approach to Fluency（開ける、話せる シャドーイング入門）、マクミラン・ランゲージハウス、2,400 円。

2. 英会話に関してはプリントを配布する。

## 【参考書】

随時紹介する。

## 【成績評価基準】

1. 出席状況・参加態度 40 %  
2. 単語小テスト 10 %  
3. 期末試験 50 %

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

2012 年度より担当

## 【学生が準備すべき機器他】

CALL 教室

## 英語 I（4 群選択）

## 関口 奈津恵

カテゴリ：スキルアップ | 配当年次／単位：1～4 年／1 単位

開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：木 5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

英語を使った初級レベルのコミュニケーションに親しむ。CALL 教室で、シャドーイングの練習、および英会話ソフトを用いた発話の練習を行う。個人練習の他にペアやグループでの練習も取り入れ、英語に能動的にかかわる場を提供したい。

受講希望者が予定人数（30 名）を超えた場合は選抜を行うので、第 1 回目の授業には必ず出席すること

## 【授業の到達目標】

リスニング力：シャドーイングの練習を通して英語の音声をより正確に聞き取り、頭から順に理解できるようになる。

スピーキング力：双方向性英会話ソフト「iStudy Native World」を使い、シーンにあった反応ができるようになり、発音も改善する。

[]

## 【授業の概要と方法】

毎回授業の前半はテキストと CD を用いたシャドーイングの練習などを行い、後半は英会話ソフトで会話の練習を行う。また、その日の活動に関連した教材も随時紹介する。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	シラバスに基づいた授業の説明。受講希望者多数の場合は選抜を行う
第 2 回	・シャドーイングの説明 ・Native World の使用	・Unit 1 を使ってシャドーイングの 実践
第 3 回	・Unit 2 ・「海外渡航編」	・英会話ソフトの使い方説明と実践 ・強弱のリズム ・機内食を頼む表現を学ぶ
第 4 回	Mealtime on the plane ・Unit 3 ・「海外渡航編」 Taking a taxi	・強勢の位置 ・タクシーに乗る際の表現を学ぶ
第 5 回	・Unit 4 ・「海外渡航編」	・大きな数字の読み方 ・ホテルにチェックインする際の表現 を学ぶ
第 6 回	Checking in at a hotel ・Unit 5	・音の連結 ・単語の定着度を確認する小テスト
第 7 回	・Unit 6 ・「日常会話編」 Buying a ticket	・子音の脱落 ・旅行代理店でチケットを買う際の表現を学ぶ
第 8 回	・Unit 7 ・「日常会話編」	・弱く発音される音 ・パーティで使う表現を学ぶ
第 9 回	Introducing oneself at a party ・Unit 8 ・「休日をエンジョイ編」	・破裂音 ・購入店に返品を求める際の表現を学ぶ
第 10 回	Exchanging a purchased item ・Unit 9 ・「休日をエンジョイ編」	・弱くなる音 ・映画のジャンルやレーティングについて学ぶ
第 11 回	Deciding on a movie ・Unit 10 ・「休日をエンジョイ編」	・イントネーション ・美術館について尋ねる際の表現を学ぶ
第 12 回	Asking about museums ・Unit 11	・音の脱落 ・単語の定着度を確認する小テスト
第 13 回	・Unit 12 ・「海外赴任編」 Looking for an apartment	・t の音の変化 ・アパートを探し、契約する際の表現を学ぶ
第 14 回	・Unit 13 ・「海外赴任編」 Asking about grocery stores	・腹式呼吸 ・隣人に近くの食料品店について尋ねる際の表現を学ぶ
第 15 回	期末試験	これまでの学習の定着度を確認するためリスニングを含む筆記試験を実施する

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

授業で発話の練習に集中できるよう、その日に使う予定の教材は、単語や文法を調べ、意味を把握しておくこと。分からなかった部分は、授業中に質問し、疑問の解消につとめること。

## 【テキスト】

- Shadowing Starter: A Practical Approach to Fluency（開ける、話せる シャドーイング入門）、マクミラン・ランゲージハウス、2,400 円。
- 英会話に関してはプリントを配布する。

## 【参考書】

随時紹介する。

## 【成績評価基準】

- 出席状況・参加態度 40%
- 単語小テスト 10%
- 期末試験 50%

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

2012 年度より担当

## 【学生が準備すべき機器他】

CALL 教室



## 英語 I（スキルアップ科目）

R. G. ジェイムズ

カテゴリ：スキルアップ | 配当年次／単位：1～4 年／1 単位  
 開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：土 1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

Active English I is a course in the skills required for communicating in English about non-specialized topics.

## 【授業の到達目標】

To provide students with the opportunity to use English to communicate with each other and the teacher about non-specialized topics of interest to them.

[]

## 【授業の概要と方法】

The focus will be on speaking practice. Students will spend most of the lesson interviewing other students to get their opinions, brainstorming ideas and reporting their ideas to other groups.

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Course description and student selection	Lecture and placement test
第 2 回	Personal Information	Student interviews and discussion
第 3 回	Family	Student interviews and discussion
第 4 回	Friends	Student interviews and discussion
第 5 回	ouse and home	Student interviews and discussion
第 6 回	Food and diet	Student interviews and discussion
第 7 回	Speech writing	Writing and feedback
第 8 回	Speech practice and performance	Speech performances
第 9 回	School life	Student interviews and discussion
第 10 回	Books and reading	Student interviews and discussion
第 11 回	Money and spending	Student interviews and discussion
第 12 回	Transportation	Student interviews and discussion
第 13 回	Holidays	Student interviews and discussion
第 14 回	Speech writing	Writing and feedback
第 15 回	Speech practice and performance	Speech performances

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

Further exploration of topics (optional).

## 【テキスト】

None. Teacher will provide worksheets for each lesson.

## 【参考書】

None. Teacher will provide worksheets for each lesson.

## 【成績評価基準】

Based on two informal speeches prepared by the student, attendance and class participation.

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

We will spend more time talking and less time writing our ideas first.

## 【学生が準備すべき機器他】

None

## 【その他】

Class size will be limited to 40 students chosen in the first lesson. Since attendance is used for grading, students should be able to attend every class.

## 英語 I（4 群必修）

R. G. ジェイムズ

カテゴリ：スキルアップ | 配当年次／単位：1～4 年／1 単位  
 開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：土 1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

Active English I is a course in the skills required for communicating in English about non-specialized topics.

## 【授業の到達目標】

To provide students with the opportunity to use English to communicate with each other and the teacher about non-specialized topics of interest to them.

[]

## 【授業の概要と方法】

The focus will be on speaking practice. Students will spend most of the lesson interviewing other students to get their opinions, brainstorming ideas and reporting their ideas to other groups.

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Course description and student selection	Lecture and placement test
第 2 回	Personal Information	Student interviews and discussion
第 3 回	Family	Student interviews and discussion
第 4 回	Friends	Student interviews and discussion
第 5 回	ouse and home	Student interviews and discussion
第 6 回	Food and diet	Student interviews and discussion
第 7 回	Speech writing	Writing and feedback
第 8 回	Speech practice and performance	Speech performances
第 9 回	School life	Student interviews and discussion
第 10 回	Books and reading	Student interviews and discussion
第 11 回	Money and spending	Student interviews and discussion
第 12 回	Transportation	Student interviews and discussion
第 13 回	Holidays	Student interviews and discussion
第 14 回	Speech writing	Writing and feedback
第 15 回	Speech practice and performance	Speech performances

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

Further exploration of topics (optional).

## 【テキスト】

None. Teacher will provide worksheets for each lesson.

## 【参考書】

None. Teacher will provide worksheets for each lesson.

## 【成績評価基準】

Based on two informal speeches prepared by the student, attendance and class participation.

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

We will spend more time talking and less time writing our ideas first.

## 【学生が準備すべき機器他】

None

## 【その他】

Class size will be limited to 40 students chosen in the first lesson. Since attendance is used for grading, students should be able to attend every class.

## 英語Ⅰ（4群選択）

R. G. ジェイムズ

カテゴリ：スキルアップ | 配当年次／単位：1～4年／1単位  
 開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：土1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

Active English I is a course in the skills required for communicating in English about non-specialized topics.

## 【授業の到達目標】

To provide students with the opportunity to use English to communicate with each other and the teacher about non-specialized topics of interest to them.

[]

## 【授業の概要と方法】

The focus will be on speaking practice. Students will spend most of the lesson interviewing other students to get their opinions, brainstorming ideas and reporting their ideas to other groups.

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	Course description and student selection	Lecture and placement test
第2回	Personal Information	Student interviews and discussion
第3回	Family	Student interviews and discussion
第4回	Friends	Student interviews and discussion
第5回	House and home	Student interviews and discussion
第6回	Food and diet	Student interviews and discussion
第7回	Speech writing	Writing and feedback
第8回	Speech practice and performance	Speech performances
第9回	School life	Student interviews and discussion
第10回	Books and reading	Student interviews and discussion
第11回	Money and spending	Student interviews and discussion
第12回	Transportation	Student interviews and discussion
第13回	Holidays	Student interviews and discussion
第14回	Speech writing	Writing and feedback
第15回	Speech practice and performance	Speech performances

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

Further exploration of topics (optional).

## 【テキスト】

None. Teacher will provide worksheets for each lesson.

## 【参考書】

None. Teacher will provide worksheets for each lesson.

## 【成績評価基準】

Based on two informal speeches prepared by the student, attendance and class participation.

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

We will spend more time talking and less time writing our ideas first.

## 【学生が準備すべき機器他】

None

## 【その他】

Class size will be limited to 40 students chosen in the first lesson. Since attendance is used for grading, students should be able to attend every class.

## 英語Ⅱ（スキルアップ科目）

磯部 芳恵

カテゴリ：スキルアップ | 配当年次／単位：1～4年／1単位  
 開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：木4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

The aim of this course is to improve the ability of speaking and listening by using the video.

Through guided conversation practice and pair work you will learn the expressions of everyday English and be able to express yourself.

## 【授業の到達目標】

To be able to communicate with people freely

[]

## 【授業の概要と方法】

The number of students will be limited and they must attend the first class to take an entrance quiz. If they are accepted into the course and may register for the course.

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	Entrance quiz and Course Introduction	Students are given a written test for about forty minutes and the top 24 students will be accepted.
第2回	Unit 1 Andy Meets Miranda	Words & phrases, first viewing, listening exercise
第3回	Unit 2 Andy's First Day at Runway	The rest of Unit 1 (second viewing, comprehension questions and Words in context) Unit 2 words & phrases, first viewing
第4回	Unit 3 Miranda, the Almighty	The rest of Unit 2(second viewing, comprehension questions and words in context) Unit 3 words & phrases, first viewing
第5回	Unit 4 Andy's Metamorphosis	The rest of Unit 3 (second viewing, comprehension questions and words in context) Unit 4 words & phrases, first viewing
第6回	Unit 5 Andy Performs a Miracle	The rest of Unit 4 (second viewing, comprehension questions and words in context) Unit 5 words & phrases first viewing, listening exercise
第7回	Unit 6 Andy's Stock Goes Up	The rest of Unit 5 (Second viewing, comprehension questions, words in context) Unit 6 words & phrases first viewing, listening exercise
第8回	Unit 7 Andy's Dilemma	The rest of Unit 6 (Second viewing, comprehension questions, words in context) Unit 7 words & phrases, first viewing, listening exercise
第9回	Unit 8 A Night in Paris	The rest of Unit 7 (second viewing, comprehension questions, words in context) Unit 8 words & phrases, first viewing, listening exercise
第10回	Unit 9 A Plot against Miranda	The rest of Unit 8 (second viewing, comprehension questions, words in context) Unit 9 words & phrases, first viewing, listening exercise

第 11 回	Unit 10 Andy's Final Choice	The rest of Unit 9 (second viewing, comprehension questions, words in context) Unit 10 words & phrases, first viewing, listening exercise
第 12 回	Unit 10 Andy's Final Choice- Discussion	The rest of Unit 10 (second viewing, comprehension questions, words in context)
第 13 回	Wrap up	The rest of Unit 10 and discussion
第 14 回	Acting out of the scene	Students choose one of the listening exercises and remember the dialog and act out in a pair.
第 15 回	Test	Students are given a 60-minute written test.

**【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】**  
Reading the script and summarize each unit.  
Writing down their favorite line.  
Studying the new words and phrases in advance.

**【テキスト】**  
*The Devil Wears Prada* (松柏社、2,200 円)

**【参考書】**  
必要に応じて講義で指示する。

**【成績評価基準】**  
Test (60%) , Attendance and Assignments (40%)

**【学生による授業改善アンケートからの気づき】**  
to give students more chance to have a discussion

**【学生が準備すべき機器他】**  
DVD, CD

## 英語Ⅱ（4群必修）

磯部 芳恵

カテゴリ：スキルアップ | 配当年次／単位：1～4年／1単位  
開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：木 4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

### 【授業のテーマ】

The aim of this course is to improve the ability of speaking and listening by using the video.  
Through guided conversation practice and pair work you will learn the expressions of everyday English and be able to express yourself.

### 【授業の到達目標】

To be able to communicate with people freely

【】

### 【授業の概要と方法】

The number of students will be limited and they must attend the first class to take an entrance quiz. If they are accepted into the course and may register for the course.

【】

【】

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Entrance quiz and Course Introduction	Students are given a written test for about forty minutes and the top 24 students will be accepted.
第 2 回	Unit 1 Andy Meets Miranda	Words & phrases, first viewing, listening exercise
第 3 回	Unit 2 Andy's First Day at Runway	The rest of Unit 1 (second viewing, comprehension questions and Words in context) Unit 2 words & phrases, first viewing
第 4 回	Unit 3 Miranda, the Almighty	The rest of Unit 2(second viewing, comprehension questions and words in context) Unit 3 words & phrases, first viewing
第 5 回	Unit 4 Andy's Metamorphosis	The rest of Unit 3 (second viewing, comprehension questions and words in context) Unit 4 words & phrases, first viewing
第 6 回	Unit 5 Andy Performs a Miracle	The rest of Unit 4 (second viewing, comprehension questions and words in context) Unit 5 words & phrases first viewing, listening exercise
第 7 回	Unit 6 Andy's Stock Goes Up	The rest of Unit 5 (Second viewing, comprehension questions, words in context) Unit 6 words & phrases first viewing, listening exercise
第 8 回	Unit 7 Andy's Dilemma	The rest of Unit 6 (Second viewing, comprehension questions, words in context) Unit 7 words & phrases, first viewing, listening exercise
第 9 回	Unit 8 A Night in Paris	The rest of Unit 7 (second viewing, comprehension questions, words in context) Unit 8 words & phrases, first viewing, listening exercise
第 10 回	Unit 9 A Plot against Miranda	The rest of Unit 8 (second viewing, comprehension questions, words in context) Unit 9 words & phrases, first viewing, listening exercise

第 11 回	Unit 10 Andy's Final Choice	The rest of Unit 9 (second viewing, comprehension questions, words in context) Unit 10 words & phrases, first viewing, listening exercise
第 12 回	Unit 10 Andy's Final Choice- Discussion	The rest of Unit 10 (second viewing, comprehension questions, words in context)
第 13 回	Wrap up	The rest of Unit 10 and discussion
第 14 回	Acting out of the scene	Students choose one of the listening exercises and remember the dialog and act out in a pair.
第 15 回	Test	Students are given a 60-minute written test.

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

Reading the script and summarize each unit.  
Writing down their favorite line.  
Studying the new words and phrases in advance.

## 【テキスト】

*The Devil Wears Prada* (松柏社、2,200 円)

## 【参考書】

必要に応じて講義で指示する。

## 【成績評価基準】

Test (60%), Attendance and Assignments (40%)

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

to give students more chance to have a discussion

## 【学生が準備すべき機器他】

DVD, CD

## 英語Ⅱ（4群選択）

## 磯部 芳恵

カテゴリ：スキルアップ | 配当年次／単位：1～4 年／1 単位  
開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：木 4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

The aim of this course is to improve the ability of speaking and listening by using the video.

Through guided conversation practice and pair work you will learn the expressions of everyday English and be able to express yourself.

## 【授業の到達目標】

To be able to communicate with people freely

[]

## 【授業の概要と方法】

The number of students will be limited and they must attend the first class to take an entrance quiz. If they are accepted into the course and may register for the course.

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Entrance quiz and Course Introduction	Students are given a written test for about forty minutes and the top 24 students will be accepted.
第 2 回	Unit 1 Andy Meets Miranda	Words & phrases, first viewing, listening exercise
第 3 回	Unit 2 Andy's First Day at Runway	The rest of Unit 1 (second viewing, comprehension questions and Words in context) Unit 2 words & phrases, first viewing
第 4 回	Unit 3 Miranda, the Almighty	The rest of Unit 2(second viewing, comprehension questions and words in context) Unit 3 words & phrases, first viewing
第 5 回	Unit 4 Andy's Metamorphosis	The rest of Unit 3 (second viewing, comprehension questions and words in context) Unit 4 words & phrases, first viewing
第 6 回	Unit 5 Andy Performs a Miracle	The rest of Unit 4 (second viewing, comprehension questions and words in context) Unit 5 words & phrases first viewing, listening exercise
第 7 回	Unit 6 Andy's Stock Goes Up	The rest of Unit 5 (Second viewing, comprehension questions, words in context) Unit 6 words & phrases first viewing, listening exercise
第 8 回	Unit 7 Andy's Dilemma	The rest of Unit 6 (Second viewing, comprehension questions, words in context) Unit 7 words & phrases, first viewing, listening exercise
第 9 回	Unit 8 A Night in Paris	The rest of Unit 7 (second viewing, comprehension questions, words in context) Unit 8 words & phrases, first viewing, listening exercise
第 10 回	Unit 9 A Plot against Miranda	The rest of Unit 8 (second viewing, comprehension questions, words in context) Unit 9 words & phrases, first viewing, listening exercise



第 11 回	Unit 10 Andy's Final Choice	The rest of Unit 9 (second viewing, comprehension questions, words in context)
第 12 回	Unit 10 Andy's Final Choice- Discussion	Unit 10 words & phrases, first viewing, listening exercise
第 13 回	Wrap up	The rest of Unit 10 (second viewing, comprehension questions, words in context)
第 14 回	Acting out of the scene	The rest of Unit 10 and discussion
第 15 回	Test	Students choose one of the listening exercises and remember the dialog and act out in a pair. Students are given a 60-minute written test.

**【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】**

Reading the script and summarize each unit.  
Writing down their favorite line.  
Studying the new words and phrases in advance.

**【テキスト】**

*The Devil Wears Prada* (松柏社、2,200 円)

**【参考書】**

必要に応じて講義で指示する。

**【成績評価基準】**

Test (60%), Attendance and Assignments (40%)

**【学生による授業改善アンケートからの気づき】**

to give students more chance to have a discussion

**【学生が準備すべき機器他】**

DVD, CD

## 英語Ⅱ（スキルアップ科目）

### R. G. ジェイムズ

カテゴリ：スキルアップ | 配当年次／単位：1～4 年／1 単位  
開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：土 1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業のテーマ】**

Active English II is a second course in the skills required for communicating in English about non-specialized topics.

**【授業の到達目標】**

To provide students with the opportunity to use English to communicate with each other and the teacher about non-specialized topics of interest to them.

【】

**【授業の概要と方法】**

The focus will be on speaking practice. Students will spend most of the lesson interviewing other students to get their opinions, brainstorming ideas and reporting their ideas to other groups.

【】

【】

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	Course description and student selection	Lecture and English test
第 2 回	Personal information 2	Student interviews and discussion
第 3 回	Sports and hobbies	Student interviews and discussion
第 4 回	TV and pastimes	Student interviews and discussion
第 5 回	Travel	Student interviews and discussion
第 6 回	Shopping	Student interviews and discussion
第 7 回	Speech writing	Writing and feedback
第 8 回	Speech practice and performance	Speech performances
第 9 回	Movies	Student interviews and discussion
第 10 回	Music	Student interviews and discussion
第 11 回	Restaurants	Student interviews and discussion
第 12 回	Part-time jobs and work	Student interviews and discussion
第 13 回	Fashion	Student interviews and discussion
第 14 回	Speech writing	Writing and feedback
第 15 回	Speech practice and performance	Speech performances

**【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】**

Further exploration of topics (optional).

**【テキスト】**

None. Teacher will provide worksheets for each lesson.

**【参考書】**

None.

**【成績評価基準】**

Based on two informal speeches prepared by the student, attendance and class participation.

**【学生による授業改善アンケートからの気づき】**

We will spend more time talking and less time writing our ideas first.

**【学生が準備すべき機器他】**

None.

**【その他】**

Class size will be limited to 40 students chosen in the first lesson. Since attendance is used for grading, students should be able to attend every class.

## 英語Ⅱ（4群必修）

R. G. ジェイムズ

カテゴリ：スキルアップ | 配当年次／単位：1～4年／1単位  
開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：土1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

Active English II is a second course in the skills required for communicating in English about non-specialized topics.

## 【授業の到達目標】

To provide students with the opportunity to use English to communicate with each other and the teacher about non-specialized topics of interest to them.

[]

## 【授業の概要と方法】

The focus will be on speaking practice. Students will spend most of the lesson interviewing other students to get their opinions, brainstorming ideas and reporting their ideas to other groups.

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	Course description and student selection	Lecture and English test
第2回	Personal information 2	Student interviews and discussion
第3回	Sports and hobbies	Student interviews and discussion
第4回	TV and pastimes	Student interviews and discussion
第5回	Travel	Student interviews and discussion
第6回	Shopping	Student interviews and discussion
第7回	Speech writing	Writing and feedback
第8回	Speech practice and performance	Speech performances
第9回	Movies	Student interviews and discussion
第10回	Music	Student interviews and discussion
第11回	Restaurants	Student interviews and discussion
第12回	Part-time jobs and work	Student interviews and discussion
第13回	Fashion	Student interviews and discussion
第14回	Speech writing	Writing and feedback
第15回	Speech practice and performance	Speech performances

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

Further exploration of topics (optional).

## 【テキスト】

None. Teacher will provide worksheets for each lesson.

## 【参考書】

None.

## 【成績評価基準】

Based on two informal speeches prepared by the student, attendance and class participation.

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

We will spend more time talking and less time writing our ideas first.

## 【学生が準備すべき機器他】

None.

## 【その他】

Class size will be limited to 40 students chosen in the first lesson. Since attendance is used for grading, students should be able to attend every class.

## 英語Ⅱ（4群選択）

R. G. ジェイムズ

カテゴリ：スキルアップ | 配当年次／単位：1～4年／1単位  
開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：土1

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

Active English II is a second course in the skills required for communicating in English about non-specialized topics.

## 【授業の到達目標】

To provide students with the opportunity to use English to communicate with each other and the teacher about non-specialized topics of interest to them.

[]

## 【授業の概要と方法】

The focus will be on speaking practice. Students will spend most of the lesson interviewing other students to get their opinions, brainstorming ideas and reporting their ideas to other groups.

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	Course description and student selection	Lecture and English test
第2回	Personal information 2	Student interviews and discussion
第3回	Sports and hobbies	Student interviews and discussion
第4回	TV and pastimes	Student interviews and discussion
第5回	Travel	Student interviews and discussion
第6回	Shopping	Student interviews and discussion
第7回	Speech writing	Writing and feedback
第8回	Speech practice and performance	Speech performances
第9回	Movies	Student interviews and discussion
第10回	Music	Student interviews and discussion
第11回	Restaurants	Student interviews and discussion
第12回	Part-time jobs and work	Student interviews and discussion
第13回	Fashion	Student interviews and discussion
第14回	Speech writing	Writing and feedback
第15回	Speech practice and performance	Speech performances

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

Further exploration of topics (optional).

## 【テキスト】

None. Teacher will provide worksheets for each lesson.

## 【参考書】

None.

## 【成績評価基準】

Based on two informal speeches prepared by the student, attendance and class participation.

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

We will spend more time talking and less time writing our ideas first.

## 【学生が準備すべき機器他】

None.

## 【その他】

Class size will be limited to 40 students chosen in the first lesson. Since attendance is used for grading, students should be able to attend every class.

## 英語Ⅲ（スキルアップ科目）

磯部 芳恵

カテゴリ：スキルアップ | 配当年次／単位：1～4年／1単位  
 開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：水4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

This is an advanced level class for highly motivated students. The goal of this course is to develop students' abilities to communicate confidently in English.

## 【授業の到達目標】

to be able to make a presentation which is logical and persuasive

[]

## 【授業の概要と方法】

The number of students will be limited and they must attend the first class to take an entrance quiz. If they are accepted into the course and may register for the course.

Students make a recitation of three pages from Obama Speeches and give a presentation based on their essay at the end of the course.

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	Entrance quiz, Course introduction	Students will be given a listening test.
第2回	Chapter 1 Artists Reading 1	Pre-Reading and discussion Reading 1 and exercises
第3回	Chapter 1 Reading 2	Reading 2 and exercises discussion
第4回	Chapter 1 Writing	Organizing: The Essay
第5回	Chapter 2 Language Reading 1	Pre-Reading and discussion Reading 1 and exercises
第6回	Chapter 2 Reading 2	Reading 2 and exercises discussion
第7回	Chapter 2 Writing	Organizing: The Process Essay
第8回	Chapter 3 Hygiene	Pre-Reading and discussion Reading 1 and exercises
第9回	Chapter 3 Reading 2	Reading 2 and exercises discussion
第10回	Chapter 3 Writing	Literal and Extended Definitions
第11回	Chapter 4 Groups, Organizations, and Societies	Pre-Reading and discussion Reading 1 and exercises
第12回	Chapter 4 Reading 2	Reading 2 and exercises discussion
第13回	Chapter 4 Writing	Description
第14回	Chapter 4 Writing	Writing practice
第15回	Presentation	Students give a presentation based on their essay.

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

Preparation for each unit, reading and writing a summary and doing the exercises. They will submit it every week.

## 【テキスト】

Weaving It Together 4(Cengage Learning)2,730 円  
 『オバマ演説集』(朝日出版社) 1,000 円

## 【参考書】

必要に応じて講義中に指示する。

## 【成績評価基準】

Attendance and participation 40%, Assignments and Presentation 60%

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

To give students more chance to make a presentation

## 【学生が準備すべき機器他】

DVD, CD

## 【その他】

Attendance is important and this attendance policy will be explained in the first class.

## 英語Ⅲ（4群必修）

磯部 芳恵

カテゴリ：スキルアップ | 配当年次／単位：1～4年／1単位  
 開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：水4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

This is an advanced level class for highly motivated students. The goal of this course is to develop students' abilities to communicate confidently in English.

## 【授業の到達目標】

to be able to make a presentation which is logical and persuasive

[]

## 【授業の概要と方法】

The number of students will be limited and they must attend the first class to take an entrance quiz. If they are accepted into the course and may register for the course.

Students make a recitation of three pages from Obama Speeches and give a presentation based on their essay at the end of the course.

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	Entrance quiz, Course introduction	Students will be given a listening test.
第2回	Chapter 1 Artists Reading 1	Pre-Reading and discussion Reading 1 and exercises
第3回	Chapter 1 Reading 2	Reading 2 and exercises discussion
第4回	Chapter 1 Writing	Organizing: The Essay
第5回	Chapter 2 Language Reading 1	Pre-Reading and discussion Reading 1 and exercises
第6回	Chapter 2 Reading 2	Reading 2 and exercises discussion
第7回	Chapter 2 Writing	Organizing: The Process Essay
第8回	Chapter 3 Hygiene	Pre-Reading and discussion Reading 1 and exercises
第9回	Chapter 3 Reading 2	Reading 2 and exercises discussion
第10回	Chapter 3 Writing	Literal and Extended Definitions
第11回	Chapter 4 Groups, Organizations, and Societies	Pre-Reading and discussion Reading 1 and exercises
第12回	Chapter 4 Reading 2	Reading 2 and exercises discussion
第13回	Chapter 4 Writing	Description
第14回	Chapter 4 Writing	Writing practice
第15回	Presentation	Students give a presentation based on their essay.

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

Preparation for each unit, reading and writing a summary and doing the exercises. They will submit it every week.

## 【テキスト】

Weaving It Together 4(Cengage Learning)2,730 円  
 『オバマ演説集』(朝日出版社) 1,000 円

## 【参考書】

必要に応じて講義中に指示する。

## 【成績評価基準】

Attendance and participation 40%, Assignments and Presentation 60%

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

To give students more chance to make a presentation

## 【学生が準備すべき機器他】

DVD, CD

## 【その他】

Attendance is important and this attendance policy will be explained in the first class.

## 英語Ⅲ（4群選択）

磯部 芳恵

カテゴリ：スキルアップ | 配当年次／単位：1～4年／1単位  
 開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：水4

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業のテーマ】

This is an advanced level class for highly motivated students. The goal of this course is to develop students' abilities to communicate confidently in English.

## 【授業の到達目標】

to be able to make a presentation which is logical and persuasive

[]

## 【授業の概要と方法】

The number of students will be limited and they must attend the first class to take an entrance quiz. If they are accepted into the course and may register for the course.

Students make a recitation of three pages from Obama Speeches and give a presentation based on their essay at the end of the course.

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	Entrance quiz, Course introduction	Students will be given a listening test.
第2回	Chapter 1 Artists	Pre-Reading and discussion Reading 1 and exercises
第3回	Chapter 1 Reading 1	Reading 2 and exercises discussion
第4回	Chapter 1 Writing	Organizing: The Essay
第5回	Chapter 2 Language	Pre-Reading and discussion Reading 1 and exercises
第6回	Chapter 2 Reading 2	Reading 2 and exercises discussion
第7回	Chapter 2 Writing	Organizing: The Process Essay
第8回	Chapter 3 Hygiene	Pre-Reading and discussion Reading 1 and exercises
第9回	Chapter 3 Reading 2	Reading 2 and exercises discussion
第10回	Chapter 3 Writing	Literal and Extended Definitions
第11回	Chapter 4 Groups, Organizations, and Societies	Pre-Reading and discussion Reading 1 and exercises
第12回	Chapter 4 Reading 2	Reading 2 and exercises discussion
第13回	Chapter 4 Writing	Description
第14回	Chapter 4 Writing	Writing practice
第15回	Presentation	Students give a presentation based on their essay.

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

Preparation for each unit, reading and writing a summary and doing the exercises. They will submit it every week.

## 【テキスト】

Weaving It Together 4(Cengage Learning)2,730円  
『オバマ演説集』（朝日出版社）1,000円

## 【参考書】

必要に応じて講義中に指示する。

## 【成績評価基準】

Attendance and participation 40%, Assignments and Presentation 60%

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

To give students more chance to make a presentation

## 【学生が準備すべき機器他】

DVD, CD

## 【その他】

Attendance is important and this attendance policy will be explained in the first class.

## 英語Ⅲ（スキルアップ科目）

R. G. ジェイムズ

カテゴリ：スキルアップ | 配当年次／単位：1～4年／1単位  
 開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：土2

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業のテーマ】

Active English III is a course that extends the skills required for communicating in English about non-specialized topics.

## 【授業の到達目標】

To provide students with the opportunity to use English to communicate with each other and the teacher about non-specialized topics of interest to them.

[]

## 【授業の概要と方法】

The focus will be on speaking practice. Students will spend most of the lesson interviewing other students to get their opinions, brainstorming ideas and reporting their ideas to other groups.

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	Course description and student selection	Lecture and placement test
第2回	Self- and partner introductions	Student interviews and discussion
第3回	Ice-breakers and conversation starters	Student interviews and discussion
第4回	Making friends	Student interviews and discussion
第5回	Free time and leisure	Student interviews and discussion
第6回	Jobs and Careers	Student interviews and discussion
第7回	Speech writing	Writing and feedback
第8回	Speech practice and performance	Speech performances
第9回	Living independently	Student interviews and discussion
第10回	Travel	Student interviews and discussion
第11回	The film industry	Student interviews and discussion
第12回	Describing objects	Student interviews and discussion
第13回	Health talk	Student interviews and discussion
第14回	Speech writing	Writing and feedback
第15回	Speech practice and performance	Speech performances

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

Further exploration of topics (optional).

## 【テキスト】

None. Teacher will provide worksheets for each lesson.

## 【参考書】

None.

## 【成績評価基準】

Based on two informal speeches prepared by the student, attendance and class participation.

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

We will spend more time talking and less time writing our ideas first.

## 【学生が準備すべき機器他】

None.

## 【その他】

Class size will be limited to 40 students chosen in the first lesson. Since attendance is used for grading, students should be able to attend every class.



## 英語Ⅲ（4群必修）

R. G. ジェイムズ

カテゴリ：スキルアップ | 配当年次／単位：1～4年／1単位  
開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：土2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

Active English III is a course that extends the skills required for communicating in English about non-specialized topics.

## 【授業の到達目標】

To provide students with the opportunity to use English to communicate with each other and the teacher about non-specialized topics of interest to them.

[]

## 【授業の概要と方法】

The focus will be on speaking practice. Students will spend most of the lesson interviewing other students to get their opinions, brainstorming ideas and reporting their ideas to other groups.

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	Course description and student selection	Lecture and placement test
第2回	Self- and partner introductions	Student interviews and discussion
第3回	Ice-breakers and conversation starters	Student interviews and discussion
第4回	Making friends	Student interviews and discussion
第5回	Free time and leisure	Student interviews and discussion
第6回	Jobs and Careers	Student interviews and discussion
第7回	Speech writing	Writing and feedback
第8回	Speech practice and performance	Speech performances
第9回	Living independently	Student interviews and discussion
第10回	Travel	Student interviews and discussion
第11回	The film industry	Student interviews and discussion
第12回	Describing objects	Student interviews and discussion
第13回	Health talk	Student interviews and discussion
第14回	Speech writing	Writing and feedback
第15回	Speech practice and performance	Speech performances

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

Further exploration of topics (optional).

## 【テキスト】

None. Teacher will provide worksheets for each lesson.

## 【参考書】

None.

## 【成績評価基準】

Based on two informal speeches prepared by the student, attendance and class participation.

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

We will spend more time talking and less time writing our ideas first.

## 【学生が準備すべき機器他】

None.

## 【その他】

Class size will be limited to 40 students chosen in the first lesson. Since attendance is used for grading, students should be able to attend every class.

## 英語Ⅲ（4群選択）

R. G. ジェイムズ

カテゴリ：スキルアップ | 配当年次／単位：1～4年／1単位  
開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：土2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

Active English III is a course that extends the skills required for communicating in English about non-specialized topics.

## 【授業の到達目標】

To provide students with the opportunity to use English to communicate with each other and the teacher about non-specialized topics of interest to them.

[]

## 【授業の概要と方法】

The focus will be on speaking practice. Students will spend most of the lesson interviewing other students to get their opinions, brainstorming ideas and reporting their ideas to other groups.

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	Course description and student selection	Lecture and placement test
第2回	Self- and partner introductions	Student interviews and discussion
第3回	Ice-breakers and conversation starters	Student interviews and discussion
第4回	Making friends	Student interviews and discussion
第5回	Free time and leisure	Student interviews and discussion
第6回	Jobs and Careers	Student interviews and discussion
第7回	Speech writing	Writing and feedback
第8回	Speech practice and performance	Speech performances
第9回	Living independently	Student interviews and discussion
第10回	Travel	Student interviews and discussion
第11回	The film industry	Student interviews and discussion
第12回	Describing objects	Student interviews and discussion
第13回	Health talk	Student interviews and discussion
第14回	Speech writing	Writing and feedback
第15回	Speech practice and performance	Speech performances

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

Further exploration of topics (optional).

## 【テキスト】

None. Teacher will provide worksheets for each lesson.

## 【参考書】

None.

## 【成績評価基準】

Based on two informal speeches prepared by the student, attendance and class participation.

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

We will spend more time talking and less time writing our ideas first.

## 【学生が準備すべき機器他】

None.

## 【その他】

Class size will be limited to 40 students chosen in the first lesson. Since attendance is used for grading, students should be able to attend every class.

## 英語Ⅳ（スキルアップ科目）

磯部 芳恵

カテゴリ：スキルアップ | 配当年次／単位：1～4年／1単位  
開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：水 4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

This course aims to develop business communication skills that will help learners to interact in a business context.

## 【授業の到達目標】

To be able to acquire basic skills in business scenes

[]

## 【授業の概要と方法】

The number of the students will be limited so they must attend the first class and take an entrance quiz.

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Entrance quiz and Course introduction	Students will take a written test.
第 2 回	Unit 1 A Common Language	Talking business, listening & reading
第 3 回	Unit 1 A Common Language	Language in use Writing
第 4 回	Unit 1 A Common Language	Case study
第 5 回	Unit 2 Work to live, live to work	Talking business Listening
第 6 回	Unit 2 Work to live, live to work	Language in use & Speaking
第 7 回	Unit 2 Work to live, live to work	Writing
第 8 回	Unit 3 Transitions	Talking business & listening
第 9 回	Unit 3 Transitions	Language in use & speaking
第 10 回	Unit 3 Transitions	Writing
第 11 回	Unit 4 Company culture	Talking business & listening
第 12 回	Unit 4 Company culture	Language in use & speaking
第 13 回	Unit 4 Company culture	Writing
第 14 回	Unit 5 Free to trade	Talking business & listening
第 15 回	Test	students will take a test.

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

Students will do the reading part at home and submit it the following week.

## 【テキスト】

Head for Business Intermediate(Oxford University Press)2,941 円

## 【参考書】

必要に応じて講義中に指示する。

## 【成績評価基準】

Attendance & Participation 40%, Assignments 30%, Test30%

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

to give students more chance to study current news

## 【その他】

Attendance is important and the attendance policy will be explained in the first class in September.

## 英語Ⅳ（4群必修）

磯部 芳恵

カテゴリ：スキルアップ | 配当年次／単位：1～4年／1単位  
開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：水 4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

This course aims to develop business communication skills that will help learners to interact in a business context.

## 【授業の到達目標】

To be able to acquire basic skills in business scenes

[]

## 【授業の概要と方法】

The number of the students will be limited so they must attend the first class and take an entrance quiz.

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Entrance quiz and Course introduction	Students will take a written test.
第 2 回	Unit 1 A Common Language	Talking business, listening & reading
第 3 回	Unit 1 A Common Language	Language in use Writing
第 4 回	Unit 1 A Common Language	Case study
第 5 回	Unit 2 Work to live, live to work	Talking business Listening
第 6 回	Unit 2 Work to live, live to work	Language in use & Speaking
第 7 回	Unit 2 Work to live, live to work	Writing
第 8 回	Unit 3 Transitions	Talking business & listening
第 9 回	Unit 3 Transitions	Language in use & speaking
第 10 回	Unit 3 Transitions	Writing
第 11 回	Unit 4 Company culture	Talking business & listening
第 12 回	Unit 4 Company culture	Language in use & speaking
第 13 回	Unit 4 Company culture	Writing
第 14 回	Unit 5 Free to trade	Talking business & listening
第 15 回	Test	students will take a test.

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

Students will do the reading part at home and submit it the following week.

## 【テキスト】

Head for Business Intermediate(Oxford University Press)2,941 円

## 【参考書】

必要に応じて講義中に指示する。

## 【成績評価基準】

Attendance & Participation 40%, Assignments 30%, Test30%

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

to give students more chance to study current news

## 【その他】

Attendance is important and the attendance policy will be explained in the first class in September.

## 英語Ⅳ（4群選択）

磯部 芳恵

カテゴリ：スキルアップ | 配当年次／単位：1～4年／1単位  
開講semester：後期授業 | 曜日・時限：水 4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

This course aims to develop business communication skills that will help learners to interact in a business context.

## 【授業の到達目標】

To be able to acquire basic skills in business scenes

[]

## 【授業の概要と方法】

The number of the students will be limited so they must attend the first class and take an entrance quiz.

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	Entrance quiz and Course introduction	Students will take a written test.
第2回	Unit 1 A Common Language	Talking business, listening & reading
第3回	Unit 1 A Common Language	Language in use Writing
第4回	Unit 1 A Common Language	Case study
第5回	Unit 2 Work to live, live to work	Talking business Listening
第6回	Unit 2 Work to live, live to work	Language in use & Speaking
第7回	Unit 2 Work to live, live to work	Writing
第8回	Unit 3 Transitions	Talking business & listening
第9回	Unit 3 Transitions	Language in use & speaking
第10回	Unit 3 Transitions	Writing
第11回	Unit 4 Company culture	Talking business & listening
第12回	Unit 4 Company culture	Language in use & speaking
第13回	Unit 4 Company culture	Writing
第14回	Unit 5 Free trade	Talking business & listening
第15回	Test	students will take a test.

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

Students will do the reading part at home and submit it the following week.

## 【テキスト】

Head for Business Intermediate(Oxford University Press)2,941円

## 【参考書】

必要に応じて講義中に指示する。

## 【成績評価基準】

Attendance & Participation 40%, Assignments 30%, Test30%

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

to give students more chance to study current news

## 【その他】

Attendance is important and the attendance policy will be explained in the first class in September.

## 英語Ⅳ（スキルアップ科目）

R. G. ジェイムズ

カテゴリ：スキルアップ | 配当年次／単位：1～4年／1単位  
開講semester：後期授業 | 曜日・時限：土 2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

Introduction to Business English. The course will explore non-specialized uses of English in business settings.

## 【授業の到達目標】

By the end of the course, students should be able to talk about a variety of non-specialized topics relating to their own experience and opinions about business and careers.

[]

## 【授業の概要と方法】

Students will work in pairs and groups practice talking about business topics, listen to business negotiations and presentations, and discuss business problems and decisions.

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	Course description and student selection	Lecture and placement test
第2回	Telephoning	Leaving and taking messages
第3回	Schedules	Making and changing appointments
第4回	Graphs and charts	Interpreting business data
第5回	Review	Revision exercises: both written and spoken
第6回	Products and services	Describing products and their purpose
第7回	Business decisions	Explaining reasons, cause and effect
第8回	Customer problems	Dealing with problem situations
第9回	Business processes	Explaining plans and operations
第10回	Review	Revision exercises: both written and spoken
第11回	Forecasting	Discussing trends and future events
第12回	Advice and suggestions	Discuss travel and company regulations
第13回	Meetings and conferences	Discussion in groups; reaching concensus
第14回	Business presentations	How to structure a business or event speech
第15回	Review	Revision exercises: both written and spoken

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

Further exploration of topics (optional).

## 【テキスト】

None. Teacher will provide worksheets for each lesson.

## 【参考書】

None.

## 【成績評価基準】

Based on two informal speeches prepared by the student, attendance and class participation.

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

Classes will contain more opportunities for students to discuss their own ideas.

## 【学生が準備すべき機器他】

None.

## 【その他】

Class size will be limited to 40 students chosen in the first lesson. Since attendance is used for grading, students should be able to attend every class.

## 英語Ⅳ（４群必修）

R. G. ジェイムズ

カテゴリ：スキルアップ | 配当年次／単位：1～4年／1単位  
開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：土2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

Introduction to Business English. The course will explore non-specialized uses of English in business settings.

## 【授業の到達目標】

By the end of the course, students should be able to talk about a variety of non-specialized topics relating to their own experience and opinions about business and careers.

[]

## 【授業の概要と方法】

Students will work in pairs and groups practice talking about business topics, listen to business negotiations and presentations, and discuss business problems and decisions.

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	Course description and student selection	Lecture and placement test
第2回	Telephoning	Leaving and taking messages
第3回	Schedules	Making and changing appointments
第4回	Graphs and charts	Interpreting business data
第5回	Review	Revision exercises: both written and spoken
第6回	Products and services	Describing products and their purpose
第7回	Business decisions	Explaining reasons, cause and effect
第8回	Customer problems	Dealing with problem situations
第9回	Business processes	Explaining plans and operations
第10回	Review	Revision exercises: both written and spoken
第11回	Forecasting	Discussing trends and future events
第12回	Advice and suggestions	Discuss travel and company regulations
第13回	Meetings and conferences	Discussion in groups; reaching concensus
第14回	Business presentations	How to structure a business or event speech
第15回	Review	Revision exercises: both written and spoken

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

Further exploration of topics (optional).

## 【テキスト】

None. Teacher will provide worksheets for each lesson.

## 【参考書】

None.

## 【成績評価基準】

Based on two informal speeches prepared by the student, attendance and class participation.

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

Classes will contain more opportunities for students to discuss their own ideas.

## 【学生が準備すべき機器他】

None.

## 【その他】

Class size will be limited to 40 students chosen in the first lesson. Since attendance is used for grading, students should be able to attend every class.

## 英語Ⅳ（４群選択）

R. G. ジェイムズ

カテゴリ：スキルアップ | 配当年次／単位：1～4年／1単位  
開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：土2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

Introduction to Business English. The course will explore non-specialized uses of English in business settings.

## 【授業の到達目標】

By the end of the course, students should be able to talk about a variety of non-specialized topics relating to their own experience and opinions about business and careers.

[]

## 【授業の概要と方法】

Students will work in pairs and groups practice talking about business topics, listen to business negotiations and presentations, and discuss business problems and decisions.

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	Course description and student selection	Lecture and placement test
第2回	Telephoning	Leaving and taking messages
第3回	Schedules	Making and changing appointments
第4回	Graphs and charts	Interpreting business data
第5回	Review	Revision exercises: both written and spoken
第6回	Products and services	Describing products and their purpose
第7回	Business decisions	Explaining reasons, cause and effect
第8回	Customer problems	Dealing with problem situations
第9回	Business processes	Explaining plans and operations
第10回	Review	Revision exercises: both written and spoken
第11回	Forecasting	Discussing trends and future events
第12回	Advice and suggestions	Discuss travel and company regulations
第13回	Meetings and conferences	Discussion in groups; reaching concensus
第14回	Business presentations	How to structure a business or event speech
第15回	Review	Revision exercises: both written and spoken

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

Further exploration of topics (optional).

## 【テキスト】

None. Teacher will provide worksheets for each lesson.

## 【参考書】

None.

## 【成績評価基準】

Based on two informal speeches prepared by the student, attendance and class participation.

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

Classes will contain more opportunities for students to discuss their own ideas.

## 【学生が準備すべき機器他】

None.

## 【その他】

Class size will be limited to 40 students chosen in the first lesson. Since attendance is used for grading, students should be able to attend every class.



## 研究会 (A)

朝比奈 茂

配当年次/単位：2～4年/4単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時間：月5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

「なぜヒトは病気になるのだろうか?」「病気になるにくい身体は作れるのだろうか?」など、素朴な疑問から始まり、体の構造や働きを学び、さらには「こころ」についても考えていく。

## 【授業の到達目標】

1. 病気になるにくい体づくりを実践できる。
2. 食習慣、生活習慣の重要性を説明できる。
3. 鍼・灸などの補完代替医療 (CAM) について説明できる。
4. 自分に合った方法でセルフメディケーションを実践できる。
5. 研究テーマを選定し、レポート内にて自分の意見を述べるができる。
6. 文献購読をし、ゼミ員に対して発表できる。
7. 指定図書を読んでその内容をまとめ、発表できる。
8. グループ内で、ディスカッションができる。

[]

## 【授業の概要と方法】

指定した図書を全員が読むことで、一定の共通理解を得ながら各自の研究テーマを決定する。授業は主に SGD (スモールグループディスカッション) 形式を用いて行う。全体では毎回一人ずつ、皆の前で文献 (日本語、英語どちらでも良い) 講読を行い、発表の技術を身につける。学年ごとに目標やテーマを決め、調査および討論を行う。各学年の最終段階にはレポートを提出、特に4年生においては、研究会終了論文の提出を行う。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	研究会の概要、ねらい、到達目標を明示し、年間スケジュールの確認を行う。また自己紹介を通じてゼミ員相互の理解を深める。
第2回	補完代替医療の概要	補完代替医療の概要について紹介する。
第3回	補完代替医療関連のDVD鑑賞	ドイツで行われている補完代替医療を用いたガン治療をDVDにて紹介する。
第4回	文献講読、指定図書の講読、意見交換	テキスト (補完代替医療入門 上野圭一著 岩波7タイプ新書) を講読し、意見交換を行う。
第5回	文献講読 テキストの講読	テキスト (補完代替医療入門 上野圭一著 岩波7タイプ新書) を講読し、意見交換を行う。
第6回	文献講読 テキストの講読	テキスト (補完代替医療入門 上野圭一著 岩波7タイプ新書) を講読し、意見交換を行う。
第7回	文献講読 テキストの講読	テキスト (補完代替医療入門 上野圭一著 岩波7タイプ新書) を講読し、意見交換を行う。
第8回	文献講読 テキストの講読	テキスト (東洋医学のしくみ 兵頭明著 新星出版) を講読し、意見交換を行う。
第9回	文献講読 テキストの講読	テキスト (東洋医学のしくみ 兵頭明著 新星出版) を講読し、意見交換を行う。
第10回	文献講読 テキストの講読	テキスト (東洋医学のしくみ 兵頭明著 新星出版) を講読し、意見交換を行う。
第11回	文献講読 テキストの講読	テキスト (東洋医学のしくみ 兵頭明著 新星出版) を講読し、意見交換を行う。
第12回	文献講読 免疫について	本来生まれながら人間に備わっている免疫について、その種類、役割などを関連するDVDを視聴しながら解説する。
第13回	文献講読 ホメオパシーについて	欧米やインド、南米などに広く普及している、ホメオパシーについて、発祥と発展、健康観や哲学などをのべる。またそれらの長所と短所を説明する。
第14回	文献講読 アーユルバーダについて	インド地域を中心として発達した5000年の歴史があるアーユルヴェーダ医学について、発祥と発展、健康観や哲学などをのべる。またそれらの長所と短所を説明する。

第15回	総括	これまで授業で行った内容やその関連項目について、質問や意見交換を行い総括とする。
第16回	ガイダンス	後期のスケジュール確認を行うとともに、夏季休暇中に提示した課題の発表を行う。
第17回	文献講読、テーマの選別	各自で興味がある分野を検討し、研究課題に向けた準備を行う。
第18回	文献講読、テーマの決定	各自で興味がある分野を検討し、研究課題を決定する。
第19回	文献講読、レポート作成(1)	レポートの作成方法に関するDVDを鑑賞し、要点をまとめ、全員で共有する。
第20回	文献講読、レポート作成(2)	レポートの作成方法に関するDVDを鑑賞し、要点をまとめ、全員で共有する。
第21回	文献講読、文献検索	文献講読の後、各自テーマに沿った文献検索を行う。
第22回	文献講読、文献検索	文献講読の後、各自テーマに沿った文献検索を行う。
第23回	中間研究報告	今までに調査収集した文献について、途中経過を発表する。
第24回	文献講読、レポート作成	文献講読の後、各自テーマに沿ったレポート作成を行う。
第25回	文献講読、レポート作成	文献講読の後、各自テーマに沿ったレポート作成を行う。
第26回	文献講読、レポート作成	文献講読の後、各自テーマに沿ったレポート作成を行う。
第27回	中間研究報告	今までに作成したレポートについて、途中経過を発表する。
第28回	文献講読、レポート作成	文献講読の後、各自テーマに沿ったレポート作成を行う。
第29回	研究発表会	研究成果の発表を行った後に、ディスカッションを行う。
第30回	研究発表会、レポート提出	研究成果の発表を行った後に、ディスカッションを行う。

## 【授業外に行うべき学習活動 (準備学習等)】

- ・補完代替医療についての概要を図書館、WEBを活用して調べておく。
- ・テキスト、参考図書の購読を事前に行う。
- ・各自興味のあるテーマを決め、文献収集を行う。
- ・普段から健康を意識した生活習慣を行う。

## 【テキスト】

補完代替医療入門 上野圭一著 岩波7タイプ新書

## 【参考書】

- ・入門漢方医学 社団法人東洋医学会 高南堂
- ・人はなぜ治るのか アンドルー・ワイル 日本教文社
- ・東洋医学のしくみ 兵頭明著 新星出版
- ・動的平衡 福岡伸一 木楽舎

## 【成績評価基準】

出席 (50%)、報告 (25%)、レポート (25%) を総合して判断する

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

1. 毎回の講義はじめに、その日のスケジュールおよびポイントを示すことで、明確な目標をもって、講義に臨めるように工夫を行う。
2. 常に受講生の反応を確認しながら、講義内容を柔軟に変化させることにより、集中力を持続させる工夫を行う。

## 【関連の深いコース】

環境教養

**研究会 (A)**

安藤 俊次

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：火 6

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業のテーマ】**江戸庶民の娯楽  
-遊びの精神を探る-**【授業の到達目標】**

江戸時代の庶民の娯楽にはどんなものがあり、それがいかに形成され、またどのように享受されてきたのか、また、その特徴は何かを探り、理解する。

[]

**【授業の概要と方法】**

まずは、江戸時代に形成された庶民の娯楽にどのようなものがあるかを広く知る。その上で、研究の対象を個々に絞り、適宜研究課程、研究結果の報告、発表を行う。活発な質疑応答を期待する。

[]

[]

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方と江戸庶民の娯楽の概説
第 2 回	江戸庶民の娯楽を知る、 文芸・美術 (1)	江戸時代の文芸・美術について各自報告、質疑応答
第 3 回	江戸庶民の娯楽を知る、 文芸・美術 (2)	江戸時代の文芸・美術について各自報告、質疑応答
第 4 回	ことば遊びについて	ことば遊びの概説と質疑応答
第 5 回	川柳に挑戦 (1)	各自が課題の川柳を発表、質疑応答
第 6 回	川柳に挑戦 (2)	各自が課題の川柳を発表、質疑応答
第 7 回	江戸庶民の娯楽を知る、 音曲 (1)	江戸時代の音曲について各自報告、質疑応答
第 8 回	江戸庶民の娯楽を知る、 音曲 (2)	江戸時代の音曲について各自報告、質疑応答
第 9 回	川柳に挑戦 (3)	各自が課題の川柳を発表、質疑応答
第 10 回	川柳に挑戦 (4)	各自が課題の川柳を発表、質疑応答
第 11 回	江戸庶民の娯楽を知る、 歌舞伎 (1)	歌舞伎について各自報告、質疑応答
第 12 回	江戸庶民の娯楽を知る、 歌舞伎 (2)	歌舞伎について各自報告、質疑応答
第 13 回	川柳に挑戦 (5)	各自が課題の川柳を発表、質疑応答
第 14 回	川柳に挑戦 (6)	各自が課題の川柳を発表、質疑応答
第 15 回	前期まとめ	前期のまとめ
第 16 回	江戸庶民の娯楽を知る、 人形芝居 (文楽) (1)	人形芝居 (文楽) について各自報告、質疑応答
第 17 回	江戸庶民の娯楽を知る、 人形芝居 (文楽) (2)	人形芝居 (文楽) について各自報告、質疑応答
第 18 回	川柳に挑戦 (7)	各自が課題の川柳を発表、質疑応答
第 19 回	川柳に挑戦 (8)	各自が課題の川柳を発表、質疑応答
第 20 回	江戸庶民の娯楽を知る、 講談 (1)	講談について各自報告、質疑応答
第 21 回	江戸庶民の娯楽を知る、 講談 (2)	講談について各自報告、質疑応答
第 22 回	川柳に挑戦 (9)	各自が課題の川柳を発表、質疑応答
第 23 回	川柳に挑戦 (10)	各自が課題の川柳を発表、質疑応答
第 24 回	江戸庶民の娯楽を知る、 落語 (1)	落語について各自報告、質疑応答
第 25 回	江戸庶民の娯楽を知る、 落語 (2)	落語について各自報告、質疑応答
第 26 回	研究報告 (1)	各自が選んだ課題について研究報告
第 27 回	研究報告 (2)	各自が選んだ課題について研究報告
第 28 回	研究報告 (3)	各自が選んだ課題について研究報告
第 29 回	研究報告 (4)	各自が選んだ課題について研究報告
第 30 回	まとめ	1 年間のまとめ

**【授業外に行うべき学習活動 (準備学習等)】**

個々の芸能等については、一定の予備知識を持っておくこと。また、各種メディアを通してでも、できるだけ実際に触れること。

**【テキスト】**

なし。適宜プリント等配布。

**【参考書】**

授業で適宜、紹介する。

**【成績評価基準】**

授業への積極的な貢献と、発表、レポートを重視する。

**【学生による授業改善アンケートからの気づき】**

新規科目につき該当なし。

**【その他】**

江戸時代に形成された芸能、文芸 (川柳、狂歌などを含む)、美術などの文化は、江戸以前の文化に比べ、際立った特徴を持つ。それは庶民の側から生まれ、庶民が支えてきた文化です。研究するだけでなく、是非とも五感で触れて欲しい。

**【関連の深いコース】**

環境教養

**研究会 (A)**【関連の深いコース】  
地域環境**鈴木 俊治**

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：火 6

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業のテーマ】**

「サステイナブルなまちづくり」

都市環境および地域形成に関する事例研究型のゼミナール。

**【授業の到達目標】**

定めた個別テーマについて探求することにより、現実社会を深く理解、研究のおもしろさを体得し、調査研究能力とともに、様々な企画能力をも涵養する。

[]

**【授業の概要と方法】**

都市環境および地域形成について、歴史、環境、生活、経済などの視点から、国内・海外の都市や地域を対象に、事例研究を行う。

ゼミ全体の基本的な年間テーマは、年度始めにいくつか提案し、皆で議論して決める。そのテーマのうち、グループあるいは個人のテーマおよび対象地域を個別に設定し、自主的に研究を進めていく。

ゼミでは、①基本文献の輪読と議論、②共通フィールドスタディ、③グループ研究、④個人研究を進める。グループ研究はサブゼミとして自主的に進め、中間成果を逐次、本ゼミで発表・議論し、最終的には印刷物として完成させる。4年生は卒業論文(別途単位)、2・3年生は、タムペーパーを作成し、年度末に発表し提出する。

[]

[]

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	各自の活動紹介ほか
第2回	全体のテーマ設定	基本方向設定のための議論
第3回	同上	テーマ別グループ分け
第4回	共通フィールドスタディ	都内・近郊の現地見学ほか
第5回	文献購読と議論	主にグループごとの議論
第6回	同上	同上
第7回	同上	同上
第8回	構想発表会	各グループの研究構想発表
第9回	共通フィールドスタディ	都内・近郊の現地見学ほか
第10回	文献購読と議論	主にグループごとの研究
第11回	同上	同上
第12回	同上	同上
第13回	同上	同上
第14回	第1回中間発表会	各グループの発表・討論
第15回	共通フィールドスタディ	都内・近郊の現地見学ほか
第16回	研究作業と議論	主にグループごとの研究
第17回	同上、中間レポート作成	主にグループごとの研究
第18回	同上	同上
第19回	同上	同上
第20回	第2回中間発表会	各グループの発表・討論
第21回	共通フィールドスタディ	都内・近郊の現地見学ほか
第22回	研究レポート作成	主にグループごとの研究
第23回	同上	同上
第24回	同上	同上
第25回	第3回中間発表会	各グループの発表・討論
第26回	共通フィールドスタディ	都内・近郊の現地見学ほか
第27回	研究レポート作成	主にグループごとの研究
第28回	同上	同上
第29回	最終発表会	各グループの成果発表・討論
第30回	総括的ディスカッション	年間の研究会活動の振り返り

**【授業外に行うべき学習活動(準備学習等)】**

各グループ毎に、自主的にサブゼミおよびテーマ研究の現地調査を実施する。また、文献や資料の購読・研究は、個人・グループベースで常時行っていく。なお、全体として、逐次、討論会やミニフィールドスタディを実施する。

**【テキスト】**

年度テーマの設定によっては、共通テキストを設定する場合がある。このほか、逐次、輪読のための共通資料を使用する予定である。

**【参考書】**

個別の内容により、必要に応じて逐次紹介する。

**【成績評価基準】**

平常点(出席および準備、議論への参加状況)50%、成果物(グループ研究および個人研究)評価50%。

**【学生による授業改善アンケートからの気づき】**

学生により基礎知識の不足がある。これを補うため、基本的な事項につき、講義する機会を逐次もっていくと同時に、自主学習を課する予定である。

## 研究会 (A)

## 板橋 美也

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時間：木 3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

「展示」を通して異文化間交渉について考えよう

## 【授業の到達目標】

「展示」という行為は、私たち人間が作りだした生活環境のあらゆる領域にあふれています。実は、美術館・博物館、デパートやテーマ・パークの「展示」など、現在の私たちの身の回りにある様々な「展示」のあり方を形作るのに、博覧会の「展示」が大きな影響を及ぼしました。近年も 2005 年の愛・地球博や 2010 年の上海万博などの例がありますが、博覧会は 2 世紀以上の歴史を持っています。特に、ロンドンで万国博覧会が開かれた 1851 年以降、世界各地で頻りに開かれた博覧会は、近代的な「展示」空間を広範な大衆にとって馴染みのあるものにし、社会に浸透させていきました。同時に、博覧会は、様々な「異文化」が接触する場でもあり、「西洋」と「東洋」、日本の中の「中央」と「周縁」など、様々な領域からのまなざしが交差する場でもありました。そこで、本研究会は、博覧会での「展示」やそこから派生した様々な「展示」の歴史を見ていくことを通じて、(1) 近代的な「展示」行為がどのように生じたのか、それと同時に様々な異文化間交渉が「展示」を通してどのように行われてきたのか、その歴史的経緯を理解すること、そして、(2) その理解に基づいて、自分が関心をもつ「展示」や異文化間交渉について分析できるようにすることを目指します。

[]

## 【授業の概要と方法】

博覧会をテーマとした指定の本を輪読し、ディスカッションを行いながら、「展示」と異文化間交渉の歴史を理解していきます。年度の終わりには、その理解に基づいて、各自が関心をもつトピックについて調べた内容を発表します。場合によっては、教室の外に出て、何らかの「展示」を見に行く機会を設けたいと思います。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	研究会の内容と進め方について話し合います
第 2 回	文献精読	文献精読とそれに基づいたディスカッション
第 3 回	文献精読	文献精読とそれに基づいたディスカッション
第 4 回	文献精読	文献精読とそれに基づいたディスカッション
第 5 回	文献精読	文献精読とそれに基づいたディスカッション
第 6 回	文献精読	文献精読とそれに基づいたディスカッション
第 7 回	文献精読	文献精読とそれに基づいたディスカッション
第 8 回	文献精読	文献精読とそれに基づいたディスカッション
第 9 回	文献精読	文献精読とそれに基づいたディスカッション
第 10 回	文献精読	文献精読とそれに基づいたディスカッション
第 11 回	文献精読	文献精読とそれに基づいたディスカッション
第 12 回	文献精読	文献精読とそれに基づいたディスカッション
第 13 回	文献精読	文献精読とそれに基づいたディスカッション
第 14 回	文献精読	文献精読とそれに基づいたディスカッション
第 15 回	前期のまとめ	前期で学んだことを復習・総括します
第 16 回	後期へのガイダンス	後期の内容と進め方について話し合います
第 17 回	文献精読	文献精読とそれに基づいたディスカッション
第 18 回	文献精読	文献精読とそれに基づいたディスカッション
第 19 回	文献精読	文献精読とそれに基づいたディスカッション
第 20 回	文献精読	文献精読とそれに基づいたディスカッション

第 21 回	文献精読	文献精読とそれに基づいたディスカッション
第 22 回	文献精読	文献精読とそれに基づいたディスカッション
第 23 回	文献精読	文献精読とそれに基づいたディスカッション
第 24 回	文献精読	文献精読とそれに基づいたディスカッション
第 25 回	研究発表	各自の関心に基づいて調べたことを発表し、皆で意見交換します
第 26 回	研究発表	各自の関心に基づいて調べたことを発表し、皆で意見交換します
第 27 回	研究発表	各自の関心に基づいて調べたことを発表し、皆で意見交換します
第 28 回	研究発表	各自の関心に基づいて調べたことを発表し、皆で意見交換します
第 29 回	研究発表	各自の関心に基づいて調べたことを発表し、皆で意見交換します
第 30 回	1 年間のまとめ	1 年間で学んだことを復習・総括します

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

文献精読の期間は、全員それぞれの週に指定されたテキストの範囲をよく読んでおき、授業中のディスカッションで自分の考えを述べる準備をしておいてください。また、後期には、研究発表に備えて、それぞれ自分の選んだトピックについて調べます。

## 【テキスト】

吉見俊哉、『博覧会の政治学—まなざしの近代』、中公新書、1992 年  
 福岡良明・難波功士・谷本奈穂編著、『博覧の世紀—消費/ナショナリティ/メディア』、粹出版社、2009 年

## 【参考書】

授業中に随時指示します。

## 【成績評価基準】

出席と研究会への貢献度（発表の内容、授業中の発言、参加態度など）から総合的に判断します。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

新規担当につき該当なし

## 【その他】

この研究会は本年度から始まるので、本年度は 2 年生・3 年生のみを募集します。

## 【関連の深いコース】

国際環境、環境教養



**研究会 (A)**

井上 奉生

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：木 4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業のテーマ】**

陸水について学ぶ。

**【授業の到達目標】**

この研究会では河川、湖沼、地下水、雪氷等の「陸水」についての環境問題を取り扱い最終的には研究会修了論文作成まで実施する（4 年次生のみ）。

[]

**【授業の概要と方法】**

5 月初めまでに各自でテーマを設定する。その場合、目的、方法等を受講者全員でレポート作成まで進行可能か否かを徹底討議する（現 3 年次生は研究会修了論文作成）。現地調査や文献資料収集は夏季休暇中に集中して実施し、レポート作成完了は 1 2 月最終日を目処として提出する。なお、各回では発表者各自それぞれ当日の発表分についてレジュメを作成し、一週間前までに全員に配布のこと。活発な質疑応答を望む。

[]

[]

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	研究会活動概要の説明
第 2 回	討議 (1)	テーマ設定の討議
第 3 回	討議 (2)	テーマ設定の討議
第 4 回	発表 (1)	各自のテーマ発表・質疑応答
第 5 回	発表 (2)	各自のテーマ発表・質疑応答
第 6 回	発表 (3)	各自のテーマ発表・質疑応答
第 7 回	発表 (4)	各自のテーマ発表・質疑応答
第 8 回	発表 (5)	各自のテーマ発表・質疑応答
第 9 回	発表 (6)	各自のテーマ発表・質疑応答
第 10 回	発表 (7)	各自のテーマ発表・質疑応答
第 11 回	発表 (8)	各自のテーマ発表・質疑応答
第 12 回	発表 (9)	各自のテーマ発表・質疑応答
第 13 回	発表 (10)	各自のテーマ発表・質疑応答
第 14 回	発表 (11)	各自のテーマ発表・質疑応答
第 15 回	前期の総括	前期のまとめ・合宿のテーマ等
第 16 回	発表 (12)	各自の夏季休暇中の達成度発表
第 17 回	発表 (13)	各自の夏季休暇中の達成度発表
第 18 回	発表 (14)	各自のテーマ発表・質疑応答
第 19 回	発表 (15)	各自のテーマ発表・質疑応答
第 20 回	発表 (16)	各自のテーマ発表・質疑応答
第 21 回	発表 (17)	各自のテーマ発表・質疑応答
第 22 回	発表 (18)	各自のテーマ発表・質疑応答
第 23 回	発表 (19)	各自のテーマ発表・質疑応答
第 24 回	発表 (20)	各自のテーマ発表・質疑応答
第 25 回	発表 (21)	各自のテーマ発表・質疑応答
第 26 回	発表 (22)	研究会修了論文達成度発表・質疑応答
第 27 回	発表 (22)	研究会修了論文達成度発表・質疑応答
第 28 回	論文発表 (1)	研究会論文発表
第 29 回	論文発表 (2)	研究会論文発表
第 30 回	総括	一年間のまとめ

**【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】**

夏季休暇中にグループ毎の共通テーマを決めて合宿を実施する。

**【テキスト】**

特になし。

**【参考書】**

各自で学会誌等を検索し参考にする。教員が指示する場合もある。

**【成績評価基準】**

研究会という性格上、出席（8 割以上）、レジュメの質、討論、会の運営に対する貢献等は単位取得の重要なポイントとなる。

**【学生による授業改善アンケートからの気づき】**

特になし。

**【その他】**

現在までに学んだ地球自然環境の基礎を復習すること。この研究会は学生主体で実施するのでコンパ等のイベントはその都度決定する。この研究会は通年（前・後期セメスター継続）で実施するので前期あるいは後期のみの受講は認めない。

**【関連の深いコース】**

地域環境

**研究会 (A)**

岡松 暁子

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：火 5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業のテーマ】**

国際法・国際環境法の研究を通して、国際平和（国際紛争の解決、環境問題の改善、よりよい社会の実現）について考える。

**【授業の到達目標】**

1. 自分で設定したテーマについて、徹底的に調べ、研究し、発表し、議論する。
2. 卒業時には、研究会修了論文を提出する。

[]

**【授業の概要と方法】**

1. 国際法および国際環境法に関連する文献講読、判例研究
  2. 個人の研究報告
  3. その他（時事問題に関する討論、ディベート等）
- \* 受講者の関心に応じ、下記の計画通りに進行しないこともある。  
\* 校外授業及び合宿を行う（場所、内容等は受講者の希望を考慮して決める）。  
\* サブゼミで、読書会、映画鑑賞会、講演会等を行う。

[]

[]

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスおよび打ち合わせ	年間計画
第 2 回	報告および討論 (1)	グループ報告と討論
第 3 回	報告および討論 (2)	グループ報告と討論
第 4 回	報告および討論 (3)	グループ報告と討論
第 5 回	報告および討論 (4)	グループ報告と討論
第 6 回	報告および討論 (5)	グループ報告と討論
第 7 回	報告および討論 (6)	グループ報告と討論
第 8 回	報告および討論 (7)	グループ報告と討論
第 9 回	報告および討論 (8)	グループ報告と討論
第 10 回	報告および討論 (9)	グループ報告と討論
第 11 回	報告および討論 (10)	グループ報告と討論
第 12 回	報告および討論 (11)	グループ報告と討論
第 13 回	報告および討論 (12)	グループ報告と討論
第 14 回	報告および討論 (13)	グループ報告と討論
第 15 回	ゼミ合宿	研究会修了論文中間報告、ディベート、ディスカッション
第 16 回	打ち合わせ	後期の研究計画
第 17 回	研究報告 (1)	個別報告と討論
第 18 回	研究報告 (2)	個別報告と討論
第 19 回	研究報告 (3)	個別報告と討論
第 20 回	研究報告 (4)	個別報告と討論
第 21 回	研究報告 (5)	個別報告と討論
第 22 回	研究報告 (6)	個別報告と討論
第 23 回	研究報告 (7)	個別報告と討論
第 24 回	研究報告 (8)	個別報告と討論
第 25 回	研究報告 (9)	個別報告と討論
第 26 回	研究報告 (10)	個別報告と討論
第 27 回	研究報告 (11)	個別報告と討論
第 28 回	研究報告 (12)	個別報告と討論
第 29 回	校外授業	個別報告と討論
第 30 回	研究会修了論文発表会	研究会修了論文発表会

**【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】**

毎回の十分な予習

**【テキスト】**

開講時に指示

**【参考書】**

適宜指示

**【成績評価基準】**

平常点、レポート

**【学生による授業改善アンケートからの気づき】**

諸々、さらに厳しくいたします。

**【関連の深いコース】**

国際環境

## 研究会 (A)

岡松 暁子

配当年次/単位：2～4年/4単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：金 5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

「文化的景観」とエコツーリズム：「文化的景観」という考え方をベースに、地域固有の自然・文化資産を活かしたエコな地域形成・人間形成の可能性について、広義のエコツーリズムや「観光文化」、エコミュージアムなどの視点と結びつけながら、個別の現地訪問を通じて事例研究をおこなう。

## 【授業の到達目標】

「五感尊重の環境教育やまちづくり」「無形の（目に見えない）宝物」などのキーワードを意識しながら、「よい（美しい）景観」とは何か、エコツーリズムとは何か、といったことについて、世間一般の表面的なイメージを越えて、旅の実地調査を通じて考察し、どんな地域でも潜在的に可能性をもつことを実感的につかめること。また、「環境」というテーマと関係が薄そうな事柄も、大いにエコにかかわるという柔軟な視野を養えること。

[]

## 【授業の概要と方法】

一年の流れは授業計画参照。現地訪問（各自の関心によりフィールドを決め、ヒアリング調査を必ず含んで自主的に企画する。グループ研究も可）は、都会も含めて身近な地域を選んでも構わないし、特定の地域に限定されないテーマ（例えば、日本人とある動物との関わり など）も想定可。訪問期は、夏休み他、通年設定可能。教室では、各自の調査についての発表・披露が中心になるが、「五感」「無形のもの」「目に見えないもの」など、重要なキーワードをめぐって、随時グループワークも行う。例年夏休みに、個別の旅とは別に、親睦をはかるゼミ合宿が企画されている。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス、自己紹介	年間スケジュールの説明等
第2回	昨年度の研究成果発表 ①、意見交換	研究発表は1人10～15分程度、1回につき1～2名。
第3回	①に関連するグループワーク（GW）	前回発表の中でのポイントに沿ったテーマ設定。
第4回	昨年度の研究成果発表 ②、意見交換	第2回に同じ。
第5回	②に関連するGW、現地訪問の個別構想情報交換（1）	第3回に同じ。
第6回	昨年度の研究成果発表 ③、意見交換	第2回に同じ。
第7回	③に関連するGW	第3回に同じ。
第8回	昨年度の研究成果発表 ④、意見交換	第2回に同じ。
第9回	④に関連するGW、現地訪問の個別構想情報交換（2）	第3回に同じ。
第10回	昨年度の研究成果発表 ⑤、意見交換	第2回に同じ。
第11回	⑤に関連するGW	第3回に同じ。
第12回	昨年度の研究成果発表 ⑥、意見交換	第2回に同じ。
第13回	現地訪問の個別構想情報交換（3）	テーマやフィールドの性格に共通性がある学生同士は互いに協力することを考える。
第14回	小フィールドスタディ（神楽坂等の夏の祭事）	90分以内で学べるフィールドを選ぶ。
第15回	ゼミ合宿	個別の現地訪問計画書提出
第16回	現地訪問成果の中間報告 ①、意見交換	研究発表は1人10～15分程度、1回につき1～2名。
第17回	①に関連するGW	第3回に同じ
第18回	現地訪問成果の中間報告 ②、意見交換	第16回に同じ
第19回	②に関連するGW	第3回に同じ
第20回	現地訪問成果の中間報告 ③、意見交換	第16回に同じ
第21回	③に関連するGW	第3回に同じ
第22回	現地訪問成果の中間報告 ④、意見交換	第16回に同じ
第23回	④に関連するGW	第3回に同じ
第24回	現地訪問成果の中間報告 ⑤、意見交換	第16回に同じ
第25回	⑤に関連するGW	第3回に同じ

第26回	現地訪問成果の中間報告 ⑥、意見交換	第16回に同じ
第27回	⑥に関連するGW、4年生による自主就活セミナー	第3回に同じ
第28回	学年末論文の構想発表 (タイトル・要旨・仮目次等)	論文に使用する参考文献リストも合わせて提出。
第29回	小フィールドスタディ (年末の街のイベント)	第14回に同じ。
第30回	一年の総括と年始街歩き	論文作成の最終アドバイス

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

各自、現地訪問の準備にあたる予備知識や現地情報の収集（主に前期）。授業内（教室）以外でのゼミ生相互の有益な情報交換。近場の自主的訪問等。

## 【テキスト】

特に指定なし。

## 【参考書】

授業のなかで紹介しします。

## 【成績評価基準】

出席、発表内容、学年末論文、ゼミという組織の中での協調性・貢献度、等々の総合評価。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

特になし。

## 【関連の深いコース】

地域環境、環境教養

## 研究会 (A)

## 北川 徹哉

配当年次/単位：2～4 年 / 4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：火 4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

本研究会のテーマは社会環境とエネルギーである。

## 【授業の到達目標】

1. 我が国におけるエネルギー政策の重要性を説明できる。
2. エネルギーと環境負荷軽減、人の暮らしとの関係を説明できる。
3. 交通・運輸、居住空間などにおけるエネルギーの現状と課題について説明できる。

【】

## 【授業の概要と方法】

社会とエネルギーとのかかわりは、ほぼ永遠に考え続けなければならない重要な課題である。本研究会においては、国内外のエネルギー政策や技術の過去・現在、エネルギーと人間とのかかわり、エネルギーの未来像について勉強してゆく。前半は、指定したテキストあるいは資料を用いて各自の担当部分を決めて輪講してゆく。各回の担当者は自分の担当部分の内容を理解して、その他の文献も参照しながら内容をまとめ、発表に臨む。後半には、前期の輪講で得た知識をベースに個人あるいはグループごとにテーマを設定して課題に取り組む。

【】

【】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	テキスト・資料の内容	輪読するテキスト・資料の内容と社会・エネルギーとの関連性、輪読担当部分の取り決め
第 2 回	担当部分の発表・質疑応答	1 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 3 回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	2 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 4 回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	3 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 5 回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	4 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 6 回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	5 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 7 回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	6 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 8 回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	7 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 9 回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	8 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 10 回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	1 0 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 11 回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	1 0 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 12 回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	1 1 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 13 回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	1 2 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 14 回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	1 3 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 15 回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	1 4 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 16 回	調査テーマの選定	調査グループの決定、前半の輪読をヒントに調査テーマを考案、構想発表の準備
第 17 回	調査テーマの構想発表・討論 (その 1)	各自あるいは各グループによる調査テーマの構想発表と討論 (第 1 回)
第 18 回	調査テーマの構想発表・討論 (その 2)	各自あるいは各グループによる調査テーマの構想発表と討論 (第 2 回)
第 19 回	調査と分析 (その 1)	調査の方向性の修正、各自あるいは各グループによる調査・情報収集と分析の作業
第 20 回	調査と分析 (その 2)	各自あるいは各グループによる調査・情報収集と分析の作業、中間発表の準備
第 21 回	調査と分析 (その 3)	各自あるいは各グループによる調査・情報収集と分析の作業、中間発表の準備
第 22 回	中間発表・討論 (その 1)	各自あるいは各グループによる調査の進捗状況の発表と討論 (第 1 回)

第 23 回	中間発表・討論 (その 2)	各自あるいは各グループによる調査の進捗状況の発表と討論 (第 2 回)
第 24 回	調査と分析 (その 4)	調査の方向性の修正、各自あるいは各グループによる調査・情報収集と分析の作業
第 25 回	調査と分析 (その 5)	各自あるいは各グループによる調査・情報収集と分析の作業
第 26 回	調査概要書の作成について	調査概要書のフォーマットと注意事項の説明
第 27 回	調査概要書の執筆	各自あるいは各グループによるデータのとりまとめ、調査概要書の執筆
第 28 回	調査概要書の執筆・最終発表の準備	各自あるいは各グループによるデータのとりまとめ、調査概要書の執筆、最終発表の準備
第 29 回	最終発表・討論 (その 1)	各自あるいは各グループによる最終発表と討論 (第 1 回)、調査概要書の提出
第 30 回	最終発表・討論 (その 2)	各自あるいは各グループによる最終発表と討論 (第 2 回)、調査概要書の提出

## 【授業外に行うべき学習活動 (準備学習等)】

- 第 1～15 回：輪読箇所の精読と不明箇所の事前調査、発表用スライドなどの作成、発表の練習  
 第 16 回：エネルギーと社会に関する時事問題・課題の抽出  
 第 17～18、22～23 回：発表用スライドなどの作成、発表の練習  
 第 19～21、24～26 回：各種文献・レポート・インタビューなどによる調査と分析  
 第 27～28 回：調査概要書の執筆・データ整理  
 第 29～30 回：発表用スライドなどの作成、発表の練習、調査概要書のレビュー

## 【テキスト】

授業時に指定する。

## 【参考書】

適宜、紹介する。

## 【成績評価基準】

レポート (調査概要書) (30 % : 論述の適切さ、到達目標 1～3 への到達度)、発表 (40 % : スライドなどの良好度、説明の正確さ、質疑応答の適切さ、到達目標 1～3 への到達度)、議論 (30 % : 説明の正確さ、質疑応答の適切さ、到達目標 1～3 への到達度) により評価する。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

該当なし。

## 【その他】

楽しく、じっくりと勉強しましょう。

## 【関連の深いコース】

全てのコース



**研究会 (A)****國則 守生**

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：火 3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業のテーマ】**

環境経済学の基礎であるミクロ経済学などの考え方の理解・修得（自分の言葉で理解・判断する能力を獲得する）とその発展。

**【授業の到達目標】**

本研究会は環境経済学の観点から、環境政策や対処方法を考える際に必要な素養を基礎レベルから獲得することを旨とする。

[]

**【授業の概要と方法】**

研究会では、ミクロ経済学などの文献を全員で輪読し、それに関してディスカッションを行う。環境経済に関するベシクで重要な考え方、捉え方を基礎からしっかりと身につけるため、お互いの意見交換を重視する。そのあと、各参加者の知見をまとめた報告書を各期末に提出する。また、毎週サブゼミを実施することとし、ゼミの先輩などと意見交換を行う。ゼミ合宿では統一テーマを設定し、議論を行う。

[]

[]

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	ゼミの進め方について討議
第 2 回	課題発表	指定された課題図書講読後の発表
第 3 回	文献講読 (1)	報告および討論
第 4 回	文献講読 (2)	報告および討論
第 5 回	文献講読 (3)	報告および討論
第 6 回	文献講読 (4)	報告および討論
第 7 回	文献講読 (5)	報告および討論
第 8 回	文献講読 (6)	報告および討論
第 9 回	文献講読 (7)	報告および討論
第 10 回	文献講読 (8)	報告および討論
第 11 回	文献講読 (9)	報告および討論
第 12 回	文献講読 (10)	報告および討論
第 13 回	文献講読 (11)	報告および討論
第 14 回	文献講読 (12)	報告および討論
第 15 回	前期総括	前期学習のまとめ
第 16 回	課題発表	指定された課題図書講読後の発表
第 17 回	文献講読 (13)	報告および討論
第 18 回	文献講読 (14)	報告および討論
第 19 回	文献講読 (15)	報告および討論
第 20 回	文献講読 (16)	報告および討論
第 21 回	文献講読 (17)	報告および討論
第 22 回	文献講読 (18)	報告および討論
第 23 回	文献講読 (19)	報告および討論
第 24 回	文献講読 (20)	報告および討論
第 25 回	文献講読 (21)	報告および討論
第 26 回	文献講読 (22)	報告および討論
第 27 回	文献講読 (23)	報告および討論
第 28 回	校外授業	ヒアリング等
第 29 回	後期総括	後期学習のまとめ
第 30 回	修了論文発表会	発表会への参加と発表・討議

**【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】**

- 1) 毎週、決められた範囲の課題の予習・復習を行う。
- 2) サブゼミに出席する。
- 3) ゼミ合宿に参加する。
- 4) 各種課題を提出する。

**【テキスト】**

ミクロ経済学のテキスト（授業時に指示する）

**【参考書】**

必要に応じて、適宜紹介する。

**【成績評価基準】**

研究会への参加・プレゼンテーション・ディスカッションおよび提出されたレポート等に関して総合判断する。無断で研究会を欠席することは厳禁とする。

**【学生による授業改善アンケートからの気づき】**

プレゼンテーションが一層、円滑となるよう、工夫をしたいと思います。

**【関連の深いコース】**

環境経営

**研究会 (A)****國則 守生**

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：火 4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業のテーマ】**

環境経済学の手法の理解・定着および批判・発展をはかるとともに現実の環境問題への適用を考えること。

**【授業の到達目標】**

地球環境問題などのさまざまな環境問題に関して、環境経済学の観点から、どのように対処してゆけばよいかを身につけることを目標とする。

[]

**【授業の概要と方法】**

研究会では、問題意識の涵養をはかるため、環境経済学等の輪読を中心に、ディスカッションを重点的に行う。サブゼミ（後輩のサブゼミでの指導も含む）、ゼミ合宿なども行い、総合力の獲得を目指す。特定テーマに関しては実際の環境政策実施部署などを訪問し、意見交換などを行う。4 年生は論文作成のための経過報告なども追加的に行う。

[]

[]

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	ゼミの進め方について討議
第 2 回	課題発表	指定された課題図書講読後の発表
第 3 回	文献講読 (1)	報告および討論
第 4 回	文献講読 (2)	報告および討論
第 5 回	文献講読 (3)	報告および討論
第 6 回	文献講読 (4)	報告および討論
第 7 回	文献講読 (5)	報告および討論
第 8 回	文献講読 (6)	報告および討論
第 9 回	文献講読 (7)	報告および討論
第 10 回	文献講読 (8)	報告および討論
第 11 回	文献講読 (9)	報告および討論
第 12 回	文献講読 (10)	報告および討論
第 13 回	文献講読 (11)	報告および討論
第 14 回	文献講読 (12)	報告および討論
第 15 回	前期総括	前期学習のまとめ
第 16 回	課題発表	指定された課題図書講読後の発表
第 17 回	文献講読 (13)	報告および討論
第 18 回	文献講読 (14)	報告および討論
第 19 回	文献講読 (15)	報告および討論
第 20 回	文献講読 (16)	報告および討論
第 21 回	文献講読 (17)	報告および討論
第 22 回	文献講読 (18)	報告および討論
第 23 回	文献講読 (19)	報告および討論
第 24 回	文献講読 (20)	報告および討論
第 25 回	文献講読 (21)	報告および討論
第 26 回	文献講読 (22)	報告および討論
第 27 回	文献講読 (23)	報告および討論
第 28 回	校外授業	ヒアリング等
第 29 回	後期総括	後期学習のまとめ
第 30 回	修了論文発表会	発表会への参加と発表・討議

**【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】**

- 1) 毎週、決められた範囲の課題の予習・復習を行う。
- 2) サブゼミに出席する。
- 3) ゼミ合宿に参加する。
- 4) 各種課題を提出する。
- 5) 4 年生は、研究会修了論文の執筆を必須とする。

**【テキスト】**

環境経済学のテキスト（授業時に指示する）。

**【参考書】**

必要に応じて、適宜紹介する。

**【成績評価基準】**

研究会への参加・プレゼンテーション・ディスカッションおよび提出されたレポート等に関して総合判断する。無断で研究会を欠席することは厳禁とする。

**【学生による授業改善アンケートからの気づき】**

終了論文執筆に関し、参考となる事項も研究会のなかで適宜紹介する。

**【関連の深いコース】**

環境経営



## 研究会 (A)

小島 聡

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：金 3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

この研究会では、「持続可能な地域社会に向けた公共政策（まちづくり）」をテーマとして、地域環境に直接または間接的にかかわる多様な政策領域を統合的に検討する。また自治体以外にも、市民、NPO、企業などの参加・協働を展望する。

## 【授業の到達目標】

日常の研究会における学習、共通テーマと個人テーマの調査研究、地域実践を通して、以下の点を重視した大学生としての総合的な能力を構築することが目標である。

- ・共通テーマ、個人テーマに関する知識の獲得、知見の涵養
- ・時事問題に関する知識の獲得、知見の涵養
- ・問題発見力及び対応策の立案能力の涵養
- ・地域実践に関する企画運営能力、チームとしての協働力の涵養
- ・文章力、プレゼンテーションや討論をはじめとするコミュニケーション能力の涵養

[]

## 【授業の概要と方法】

この研究会では、都市的地域と非都市的地域では異なる持続可能な地域社会の多様な姿、具体的課題や実践について地域再生、環境再生、文化創造などの視点から検討する。また共通テーマでは、PBL（問題発見・解決型学習）として、特定地域との連携による実践・交流を通じた調査研究、政策提言を行い報告書にまとめ、個人研究では、各人が地域社会に関する任意のテーマを設定して研究論文を作成する。研究会は、文献講読、グループワーク、ワークショップなどを組み合わせて進めていく。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	研究会の運営方針、テーマ、1年間のスケジュールなどを確認する。
第 2 回	前年度の共通テーマの成果に関する報告と共有	前年度の共通テーマの成果について報告、質疑応答により共有する。
第 3 回	本年度の共通テーマの確認	本年度の共通テーマについて、背景と目的、想定される調査研究課題などを確認する。
第 4 回	文献講読 (1)	共通テーマに関する文献について、担当グループによる報告、議論を行う。
第 5 回	文献講読 (2)	同上。
第 6 回	文献講読 (3)	同上。
第 7 回	文献講読 (4)	同上。
第 8 回	文献講読 (5)	同上。
第 9 回	文献講読 (6)	同上。
第 10 回	文献の総括と後期の方向性の検討	文献全体を総括しながら、共通テーマに関する知見を整理し、後期の調査研究課題への視点を共有する。
第 11 回	個人テーマの報告 (1)	個人テーマの調査研究計画と前期の進捗状況に関する報告、質疑応答を行う。
第 12 回	個人テーマの報告 (2)	同上。
第 13 回	個人テーマの報告 (3)	同上。
第 14 回	個人テーマの報告 (4)	同上。
第 15 回	地域連携プロジェクトの確認	夏期に実施する地域連携プロジェクトの目的と内容を確認する。
第 16 回	地域連携プロジェクトの検証 (1)	夏期に実施した地域連携プロジェクトについて検証し、後期の共通テーマに反映する知見を共有する。
第 17 回	地域連携プロジェクトの検証 (2)	同上。
第 18 回	共通テーマの調査研究 (1)	本年度の共通テーマについて、担当グループごとの報告、質疑応答、議論を行う。
第 19 回	共通テーマの調査研究 (2)	同上。
第 20 回	共通テーマの調査研究 (3)	同上。
第 21 回	共通テーマの調査研究 (4)	同上。
第 22 回	共通テーマの中間報告	共通テーマに関する調査研究の進捗状況と知見について全体で確認し、本年度の最終成果に向けて調整を行う。

第 23 回	共通テーマの調査研究 (5)	担当グループごとの報告と質疑応答、議論を行う。
第 24 回	共通テーマの調査研究 (6)	同上。
第 25 回	共通テーマの最終成果の共有	共通テーマの最終成果について、全体で確認し共有する。
第 26 回	個人テーマの報告 (1)	個人テーマの調査研究結果に関する報告、質疑応答を行う。
第 27 回	個人テーマの報告 (2)	同上。
第 28 回	個人テーマの報告 (3)	同上。
第 29 回	個人テーマの報告 (4)	同上。
第 30 回	個人テーマの報告 (5)	同上。

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

- ・文献の事前学習、時事問題の情報収集、書評の作成。
- ・共通テーマに関する事前のグループワーク。
- ・個人テーマに関する論文執筆のための調査研究。

## 【テキスト】

開講時の約 1 ヶ月前までに決定し連絡する。

## 【参考書】

適宜、研究会において紹介する。

## 【成績評価基準】

出席（50%）、参加姿勢（30%）、個人テーマへの取り組み（20%）による総合評価とする。演習という性格上、常時、出席して共通テーマについて他者と協働しながら、かつ課題や個人テーマに着実に取り組むことが必要である。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

共通テーマとして特定地域に関するPBL（問題発見・解決型学習）を進めることについて、答えのない問題に取り組む難しさに学生は直面し戸惑いもあるようですが、大学教育としての意義はあると考えています。

## 【その他】

この研究会は、「地域環境コース」に登録した学生を対象としている。したがって、履修にあたって、「地域環境コース」の関連科目とともに、研究会の共通テーマ、個人テーマと関連する科目を人間環境学部のカリキュラム全体から選択し、各人が有意義な履修プログラムを構築することで、研究会との相乗効果を図っていくことが望ましい。このような「戦略的履修」への手がかりや、思わぬ科目との出会いによって知的栄養が得られる「余剰の効用」とのバランスについては、相談に応じるので、積極的に助言をもとめてほしい。

## 【関連の深いコース】

地域環境

## 研究会 (A)

小島 聡

配当年次/単位：2～4年/4単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：金 5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

この研究会の基本的なテーマは、「持続可能な地域社会に向けた公共政策（まちづくり）」である。特に「ソーシャル・イノベーション」といわれるテーマについて、ローカルな視点から理論やケースを検討しながら地域実践を行う。また共通テーマ以外に、各人が個人テーマとして研究会修了論文の執筆に向けた調査研究を行う。

## 【授業の到達目標】

日常の研究会における学習、共通テーマと個人テーマの調査研究、地域実践を通して、以下の点を重視した大学生としての総合的な能力構築を構築することが目標である。

- ・共通テーマ、個人テーマに関する知識の獲得、知見の涵養
- ・論文作成能力の涵養
- ・問題発見力及び対応策の立案能力の涵養
- ・地域実践に関する企画運営能力、チームとしての協働力の涵養
- ・プレゼンテーションや討論をはじめとするコミュニケーション能力の涵養

[]

## 【授業の概要と方法】

この研究会の共通テーマでは、持続可能な地域社会の多面的なとらえ方をふまえながら、「ソーシャル・イノベーション」の主体やプロセスのパターンについて、基礎的な文献を読み、さらにPBL（問題発見・解決型学習）として特定地域との連携による実践・交流を企画運営し、さらに自己評価を通して理解を深めていく。研究会修了論文については各人がそれぞれのテーマに取り組み、成果についてはプレゼンテーションも行う。なお地実践に関する報告書も作成する。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	研究会の運営方針、テーマ、1年間のスケジュールなどを確認する。
第2回	前年度の共通テーマの成果に関する確認	前年度の共通テーマの成果について確認する。
第3回	本年度の共通テーマに関する検討	本年度の共通テーマについて、調査研究の内容、地域連携プロジェクトとの関連性などを検討する。
第4回	文献講読（1）	共通テーマに関する文献について、担当グループによる報告、議論を行う。
第5回	文献講読（2）	同上。
第6回	文献講読（3）	同上。
第7回	地域連携プロジェクトの企画（1）	夏期に実施する地域連携プロジェクトのイメージと素案について検討する。
第8回	文献講読（4）	共通テーマに関する文献について、担当グループによる報告、議論を行う。
第9回	文献講読（5）	同上。
第10回	地域連携プロジェクトの企画（2）	夏期に実施する地域連携プロジェクトの基本設計について検討する。
第11回	地域連携プロジェクトの企画（3）	夏期に実施する地域連携プロジェクトの実施設計について検討する。
第12回	個人テーマの報告（1）	個人テーマ（研究会修了論文）の調査研究計画と進捗状況に関する報告、質疑応答を行う。
第13回	個人テーマの報告（2）	同上。
第14回	個人テーマの報告（3）	同上。
第15回	地域連携プロジェクトの企画（4）	夏期に実施する地域連携プロジェクトの企画内容を調整する。
第16回	後期の方向性の確認	後期の共通テーマの方向性を確認する。
第17回	地域連携プロジェクトの検証（1）	夏期に実施した地域連携プロジェクトについて、成果と知見、課題などについて検証し、今後を展望する。
第18回	地域連携プロジェクトの検証（2）	同上。
第19回	文献講読（1）	共通テーマに関する文献について、担当グループによる報告、議論を行う。
第20回	文献講読（2）	同上。
第21回	文献講読（3）	同上。
第22回	文献講読（4）	同上。
第23回	文献講読（5）	同上。
第24回	文献の総括	文献の内容を総括し、共通テーマに関する知見を共有する。

第25回	個人テーマの報告（1）	個人テーマ（研究会修了論文）の調査研究結果に関する報告、質疑応答を行う。
第26回	個人テーマの報告（2）	同上。
第27回	個人テーマの報告（3）	同上。
第28回	個人テーマの報告（4）	同上。
第29回	個人テーマの報告（5）	同上。
第30回	研究会の総括	1年間の研究会の内容を総括し、成果を共有する。

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

- ・文献の事前学習
- ・地域連携プロジェクトの企画
- ・研究会修了論文執筆のための調査研究

## 【テキスト】

- ・開講時の約1ヶ月前までに決定し連絡する。

## 【参考書】

適宜、研究会において紹介する。

## 【成績評価基準】

出席（50%）、参加姿勢（30%）、研究会修了論文への取り組み（20%）による総合評価とする。演習という性格上、常時出席し共通テーマについて他者と協働しながら、かつ課題や個人テーマに着実に取り組むことが必要である。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

共通テーマに関するPBL（問題発見・解決型学習）として、地域実践とその自己評価、報告書作成に取り組むことは、かなりのエネルギーを使うようですが、チームとして協働しながら、かつ学外の組織や人々と連携する際の責任とは何かということを実感できるようです。

## 【その他】

この研究会は、「地域環境コース」に登録した学生を対象としている。したがって、履修にあたって、「地域環境コース」の関連科目とともに、研究会の共通テーマ、個人テーマと関連する科目を人間環境学部のカリキュラム全体から選択し、各人が有意義な履修プログラムを構築することで、研究会との相乗効果を図っていくことが望ましい。このような「戦略的履修」への手がかりや、思わぬ科目との出会いによって知的栄養が得られる「余剰の効用」とのバランスについては、相談に応じるので、積極的に助言をもとめてほしい。

## 【関連の深いコース】

地域環境

## 研究会 (A)

## ESTHER STOCKWELL

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：月 4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

\* Mass Media Research \*

The media are everywhere in our industrialized world today. One of the important roles of the media is to extend our knowledge of the environment beyond places and events that we can experience directly. The media can determine our perceptions about the facts, norms, and values of society through selective presentation and by emphasizing certain themes. The media can affect audience conceptions of social reality and also help the audience to form their attitudes toward an issue, a thing or a nation. These concepts will be discussed in this subject.

## 【授業の到達目標】

This course gives an introduction to current theoretical and practical debates regarding the role of the mass media in today's society. Some of the topics covered include media businesses, the dual role of the media as information source and entertainment, research into short-term and long-term effects of the media, media audiences, and mass communication models. During the course, students will learn how to question the degree to which the media influence us versus how we use the media to fit our preconceived ideas.

[]

## 【授業の概要と方法】

Classes will consist of a series of short lectures and other visual materials, followed by group and class discussions on the concepts covered in the lectures. In addition, students will be required to prepare for class by reading assigned articles on the topics of the following class. In the first semester, students will mainly learn theory and an overview of the different aspects in mass communication. In the second semester, students will do their own research project regarding mass media effects.

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Orientation	Overview of the course, online activity, and overview of Mass Media Research
第 2 回	Mass Media & Society	Mass communication vs. mass media / Mass media industries
第 3 回	Mass Media & Society	The changing technologies / The new media environment
第 4 回	Theories of Mass Media Studies	General theories of mass media / The role of theories
第 5 回	Theories of Mass Media Studies	The goals of mass media theory / Development of mass media effects theories
第 6 回	Theories of Mass Media Effects	General trends in effects theories / The Bullet Theory / The Limited-Effects Model
第 7 回	Theories of Mass Media Effects	Moderate effects theories / The Powerful Effects Model / Specific theories of mass media effects
第 8 回	Agenda Setting	The Chapel Hill study / The media agenda and reality / Applications of agenda setting
第 9 回	News Media	Effects of news media and political content / Thinking about news / Journalism objectivity
第 10 回	News Media	Effects of news media and political content / Thinking about news / Journalism objectivity
第 11 回	Persuasion in Mass Media	Persuasive effects of the media
第 12 回	Media Stereotypes & Bias	Effects of media stereotypes / Newspaper and foreign affairs / Sex role stereotypes / Racial stereotypes
第 13 回	Children Behavior & Mass Media	The presence of violent content / The causal link between viewing violence and behaving aggressively

第 14 回	Class Presentations and Feedback I	Students give presentations on their selected topics and evaluate their peers' presentations
第 15 回	Class Presentations and Feedback II	Students give presentations on their selected topics and evaluate their peers' presentations
第 16 回	Mass Media Research Method	Quantitative analysis / Qualitative analysis
第 17 回	Mass Media Research Method	Quantitative analysis / Qualitative analysis
第 18 回	Writing Research Paper	Research, understand, and summarise the work of others / Use correct academic referencing
第 19 回	Writing Research Paper	Research, understand, and summarise the work of others / Use correct academic referencing
第 20 回	Literature Review	Library Search / Research, understand, and summarise the work of others
第 21 回	Literature Review	Library Search / Research, understand, and summarise the work of others
第 22 回	Literature Review	Library Search / Research, understand, and summarise the work of others
第 23 回	Method	Data Collection / Entry data
第 24 回	Method	Data Collection / Entry data
第 25 回	Method	Data Collection / Entry data
第 26 回	Analysis of Results	Using statistical software to analyse data
第 27 回	Analysis of Results	Using statistical software to analyse data
第 28 回	Interpretation of Results	Understand the meaning of the results from the data
第 29 回	Class Presentations and Feedback I	Students give presentations on their selected topics and evaluate their peers' presentations. In addition, students will take part in class discussions about each presentation topic.
第 30 回	Class Presentations and Feedback II	Students give presentations on their selected topics and evaluate their peers' presentations. In addition, students will take part in class discussions about each presentation topic.

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

Students are expected to read reference materials for the next class. In addition, they need to write online forum postings after class for review purposes in the first semester. For the second semester, they will need to write a weekly learning journal to keep a record of their research progress.

## 【テキスト】

There is no specified textbook for this course. Handouts will be provided in class.

## 【参考書】

Shirley, Biagi (2009). Media/Impact: An Introduction to Mass Media Wadsworth: Thomson.

## 【成績評価基準】

1st semester: Assessment will consist of in-class participation, a presentation, a take-home exam and a written assignment.

2nd Semester: Assessment will consist of 10 weekly learning journals, a summary of literatures, a group presentation and a group research paper.

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

This subject will be offered in 2012.

## 【その他】

This class is open to students who have taken グローバル コミュニケーション or 'Stockwell'sゼミ B (Human Communication) before.

## 【関連の深いコース】

全てのコース

**研究会 (A)**

後藤 彌彦

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：金 3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業のテーマ】**

テーマ 環境法政策に関する研究  
環境法政策に関して時事問題の討議や、個別分野の研究を行う

**【授業の到達目標】**

環境関連分野を志望している者だけでなく、一般の企業人社会人となる人にとっても必要な環境法政策に関する知識を身につけ、持続可能な社会の実現を目指して自ら行動できる地球市民となる基礎能力を身につける。

[]

**【授業の概要と方法】**

環境法政策に関する手法（規制、計画、情報等）に関する講義と文献購読・討議、新聞記事等による時事問題の討議、個別分野の研究と発表・討議を行う。

[]

[]

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	オリエンテーション
第 2 回	教材による講義	環境法の手法 1
第 3 回	教材による講義	環境法の手法 2
第 4 回	教材による講義	環境法の手法 3
第 5 回	教材による講義	環境法の手法 4
第 6 回	時事問題	学生による発表と討議
第 7 回	時事問題	学生による発表と討議
第 8 回	時事問題	学生による発表と討議
第 9 回	事例発表	学生による発表と討議
第 10 回	事例発表	学生による発表と討議
第 11 回	事例発表	学生による発表と討議
第 12 回	事例発表	学生による発表と討議
第 13 回	事例発表	学生による発表と討議
第 14 回	まとめ	授業の総括
第 15 回	まとめ	授業の総括
第 16 回	教材による講義	テーマに関する講義
第 17 回	教材による講義	テーマに関する講義
第 18 回	教材による講義	テーマに関する講義
第 19 回	教材による講義	テーマに関する講義
第 20 回	時事問題	学生による発表と討議
第 21 回	時事問題	学生による発表と討議
第 22 回	時事問題	学生による発表と討議
第 23 回	レポート発表	学生による発表と討議
第 24 回	レポート発表	学生による発表と討議
第 25 回	レポート発表	学生による発表と討議
第 26 回	レポート発表	学生による発表と討議
第 27 回	レポート発表	学生による発表と討議
第 28 回	レポート発表	学生による発表と討議
第 29 回	まとめ	授業の総括
第 30 回	まとめ	授業の総括

**【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】**

教材を予習する  
事例、レポート発表のために、準備する

**【テキスト】**

文献とプリント

**【参考書】**

その都度 紹介する

**【成績評価基準】**

発表、討議の状況により評価する

**【学生による授業改善アンケートからの気づき】**

2012年度からの新設科目

**【関連の深いコース】**

地域環境、国際環境、環境経営

**研究会 (A)**

関口 和男

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：金 6

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業のテーマ】**

ハンナ・アレント『人間の条件』を通じて、現代社会の実相を理解する。とくに、「現代に生きるとは何か」を参加者と共に追究する。

**【授業の到達目標】**

「自分の言葉で考えること」「自分の考えをきちんと表現し、他者に伝達すること」ができるようにする。

[]

**【授業の概要と方法】**

上記文献の徹底的な精読と質疑応答。毎回、コメンテーターを決め、その人を中心に精読をする。ただし、参加者は、必ず一回は質問することを義務付ける。

[]

[]

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	第一・第二章を概観し、アレントの政治思想の基本構造を理解する。	質疑応答
第 2 回	同上	質疑応答
第 3 回	前年度に引き続き、講読。	質疑応答
第 4 回	文献講読	質疑応答
第 5 回	文献講読	質疑応答
第 6 回	文献講読	質疑応答
第 7 回	文献講読	質疑応答
第 8 回	文献講読	質疑応答
第 9 回	文献講読	質疑応答
第 10 回	文献講読	質疑応答
第 11 回	文献講読	質疑応答
第 12 回	文献講読	質疑応答
第 13 回	文献講読	質疑応答
第 14 回	文献講読	質疑応答
第 15 回	文献講読	質疑応答
第 16 回	夏休み中の学習指示	質疑応答
第 17 回	夏休みの課題の総括	質疑応答
第 18 回	文献講読	質疑応答
第 19 回	文献講読	質疑応答
第 20 回	文献講読	質疑応答
第 21 回	文献講読	質疑応答
第 22 回	文献講読	質疑応答
第 23 回	文献講読	質疑応答
第 24 回	文献講読	質疑応答
第 25 回	文献講読	質疑応答
第 26 回	文献講読	質疑応答
第 27 回	文献講読	質疑応答
第 28 回	文献講読	質疑応答
第 29 回	文献講読	質疑応答
第 30 回	文献講読	質疑応答

**【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】**

新聞やニュースを必ず毎日見ておくこと。

**【テキスト】**

ハンナ・アレント『人間の条件』志水訳、筑摩書房文庫

**【参考書】**

適宜指示する

**【成績評価基準】**

平常点

**【学生による授業改善アンケートからの気づき】**

どんな些細な疑問点も質問するように。

**【関連の深いコース】**

環境教養



## 研究会 (A)

### 武貞 稔彦

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：水 2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

#### 【授業のテーマ】

本研究会では、途上国における最大の課題である「貧困」について、その歴史、現状、対策などを、より深く、先進国の社会の姿と重ね合わせながら議論を行います。

#### 【授業の到達目標】

本研究会では、(ア) 開発と環境保全をめぐる議論を広い視野から捉え、(イ) 自らの意見を持ちそれを人に伝え、(ウ) 将来の持続可能な社会の姿を想像できるようにすることを目標とします。

[]

#### 【授業の概要と方法】

受講者の積極的な提案に基づき、演習の方法等は随時見直しを行います。主に a) 基礎文献の精読 b) 与えられた課題に関するグループ調査とディスカッション、c) 参加者の意見表明の機会、からなります。

英語についても参加者と相談のうえ、何らかの能力強化の方策をとりたいと考えています。

[]

[]

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	メンバー間の自己紹介、研究会の進め方(予定)について概説する。
第 2 回	基礎文献の輪読 (1)	貧困に関する基礎文献を読み、担当グループの発表に基づき意見交換する。
第 3 回	基礎文献の輪読 (2)	貧困に関する基礎文献を読み、担当グループの発表に基づき意見交換する。
第 4 回	基礎文献の輪読 (3)	貧困に関する基礎文献を読み、担当グループの発表に基づき意見交換する。
第 5 回	基礎文献の輪読 (4)	貧困に関する基礎文献を読み、担当グループの発表に基づき意見交換する。
第 6 回	基礎文献の輪読 (5)	貧困における環境問題に関する基礎文献を読み、担当グループの発表に基づき意見交換する。
第 7 回	基礎文献の輪読 (6)	貧困に関する基礎文献を読み、担当グループの発表に基づき意見交換する。
第 8 回	グループディスカッション 課題 1	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、更なる調査事項をまとめる
第 9 回	同上	グループ発表および全体ディスカッション
第 10 回	グループディスカッション 課題 2	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、更なる調査事項をまとめる
第 11 回	同上	グループ発表および全体ディスカッション
第 12 回	グループディスカッション 課題 3	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、更なる調査事項をまとめる
第 13 回	同上	グループ発表および全体ディスカッション
第 14 回	グループディスカッション 課題 4	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、更なる調査事項をまとめる
第 15 回	同上	グループ発表および全体ディスカッション
第 16 回	前期まとめと後期オリエンテーション	後期のとり進め方について意見交換を行う。
第 17 回	英文輪読	英語文献の輪読と意見交換
第 18 回	英文輪読	英語文献の輪読と意見交換
第 19 回	グループディスカッション 課題 5	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、意見をまとめる。
第 20 回	同上	同上
第 21 回	同上	グループ発表および全体ディスカッション
第 22 回	グループディスカッション 課題 6	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、意見をまとめる。
第 23 回	同上	同上
第 24 回	同上	グループ発表および全体ディスカッション
第 25 回	グループディスカッション 課題 7	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、意見をまとめる。

第 26 回	同上	同上
第 27 回	同上	グループ発表および全体ディスカッション
第 28 回	グループディスカッション 課題 8	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、意見をまとめる。
第 29 回	同上	グループ発表および全体ディスカッション
第 30 回	まとめ	1年間を通しての議論をまとめる

#### 【授業外に行うべき学習活動(準備学習等)】

基礎文献、与えられた課題(英文含む)は必ず熟読して演習に臨むこと。関連して紹介された参考書も出来る限り目を通すこと。グループで積極的に集まり課題について議論する機会を設けること

#### 【テキスト】

開講時に指示します

#### 【参考書】

途上国の貧困について考えるうえで、『国際開発論』斎藤文彦著(2004年)日本評論社を一読してから演習に臨むことが望ましい。他は随時紹介します

#### 【成績評価基準】

研究会への出席および議論への貢献、最終レポートを勘案します。

#### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

個々のディスカッション課題に費やすグループディスカッションの時間およびグループ発表後のディスカッション時間の増加を求める意見が散見されたことから、課題の議論のとり進め方に十分な時間をとるように留意することとします。

#### 【関連の深いコース】

国際環境、地域環境

## 研究会 (A)

## 田中 勉

配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：月3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

ローカルな環境問題の社会学

## 【授業の到達目標】

参加者それぞれが個別の課題を設定し研究を行う。地域社会の研究手法および環境問題への社会的アプローチの仕方を学び、それを具体的な事例に適用して考察することを目的とする。文献購読、資料収集、レポート作成、研究発表の順序で段階を追って各自の関心に基づき一年を通じて着実に前進できるようにする。2・3年生は課題を明確にして年度研究論文の作成をめざす。4年生は研究会終了論文の作成が最終目的となる。レポート執筆、個人研究報告などのしかたについてもきちんと身につけることもめざす。

[]

## 【授業の概要と方法】

はじめに文献を読み、社会的な思考法、分析のための概念枠組み、基礎概念などについて学ぶ。次いで各自の研究構想を報告し、参考文献・資料の検索と課題文献を決め、夏期レポートの作成をおこなう。レポートに基づき報告、コメント・質疑などをふまえて年度論文を作成する。前期終了時に個別面談を行い、課題文献の選定をおこなう。課題によっては現地調査に関する指導を行う。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	参加者確定、ガイダンス、文献配布	参加メンバーの確認。ゼミの進め方、ゼミルールの説明。文献を配布し、発表分担を決める。レジュメ作成に関する指示をする。
第2回	文献発表①	担当者による文献発表と討論を行う。
第3回	文献発表②	担当者による文献発表と討論を行う。
第4回	文献発表③	担当者による文献発表と討論を行う。
第5回	文献発表④	担当者による文献発表と討論を行う。
第6回	文献発表⑤	担当者による文献発表と討論を行う。
第7回	文献発表⑥	担当者による文献発表と討論を行う。
第8回	文献発表⑦	個人テーマ記入用紙配布。担当者による文献発表と討論を行う。
第9回	文献発表⑧	担当者による文献発表と討論を行う。
第10回	文献発表⑨	担当者による文献発表と討論を行う。
第11回	個人研究構想発表①	個人テーマに関する研究構想の発表とそれに対する指導。
第12回	個人研究構想発表②	個人テーマに関する研究構想の発表とそれに対する指導。
第13回	個人研究構想発表③	個人テーマに関する研究構想の発表とそれに対する指導。
第14回	個人研究構想発表④	個人テーマに関する研究構想の発表とそれに対する指導。
第15回	個人研究構想発表⑤	個人テーマに関する研究構想の発表とそれに対する指導。前期試験期間中に個別に休暇中の課題文献を指示する。
第16回	個人研究・文献発表①	個人別の課題文献の発表と討論。
第17回	個人研究・文献発表②	個人別の課題文献の発表と討論。
第18回	個人研究・文献発表③	個人別の課題文献の発表と討論。
第19回	個人研究・文献発表④	個人別の課題文献の発表と討論。
第20回	個人研究・文献発表⑤	個人別の課題文献の発表と討論。
第21回	個人研究・テーマ発表①	個人別の研究テーマに関する発表。
第22回	個人研究・テーマ発表②	個人別の研究テーマに関する発表。
第23回	個人研究・テーマ発表③	個人別の研究テーマに関する発表。
第24回	個人研究・テーマ発表④	個人別の研究テーマに関する発表。
第25回	個人研究・テーマ発表⑤	個人別の研究テーマに関する発表。
第26回	個人研究・テーマ発表⑥	個人別の研究テーマに関する発表。
第27回	個人研究・テーマ発表⑦	個人別の研究テーマに関する発表。
第28回	個人研究・テーマ発表⑧	個人別の研究テーマに関する発表。
第29回	研究会終了論文発表①	4年次生の「研究会終了論文」の発表と講評。
第30回	研究会終了論文発表②	4年次生の「研究会終了論文」の発表と講評。

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

個人研究のテーマ選定、文献・資料検索を行う。

社会調査（インタビュー・調査票調査）を行う場合は個別に指導する。

## 【テキスト】

船橋晴俊編「環境社会学」弘文堂  
日本環境社会学会「環境社会学研究」新曜社

## 【参考書】

町村ほか「地域社会学の視座と方法」東信堂  
宮内泰介「自分で調べる技術」岩波書店  
関・中澤ほか「環境の社会学」有斐閣

## 【成績評価基準】

出席をもっとも重視する。  
発表、ディスカッションへの参加度、  
レポートはもちろん評価対象である。  
総合評価で行う。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

レポート作成に関する添削指導の時間を増やす。

## 【その他】

参加者数によって各回の時間配分は変更されることがあります。

## 【関連の深いコース】

地域環境

## 研究会 (A)

### 辻 英史

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：金 5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

#### 【授業のテーマ】

ヨーロッパの市民社会—過去・現在・未来

#### 【授業の到達目標】

1990 年代以降、世界各国でさまざまな社会問題に対処する、民間の非営利団体の活動が活発になってきた。これらの運動は、市民社会という概念のもとでとらえられ、日本でも注目されている。

私たちの生きている社会はどんな問題を抱え、それをどのように解決しようとしているのか。過去や現在のヨーロッパの事例を学ぶことで、日本の問題の解決の手がかりを探ります。

[]

#### 【授業の概要と方法】

ヨーロッパ各国の市民社会について学んでいきます。

毎回の授業は、下記①～③のいずれかを行います。

- ①市民社会について参加者各自が自分の関心を持っている事柄について調べた内容を報告し、質問に答える（一人 30 分程度）。
- ②市民社会に関連する重要な研究文献（日本語および英語）を講読する。
- ③研究会修了論文に向けて、準備状況を報告してもらう。
- ④学期に 1 回程度、課外活動を行う（展覧会訪問、ドキュメンタリー映画鑑賞など）。
- ⑤また、2012 年度は夏期に同志社大学経済学部と合同でのゼミ合宿を予定しています（富山県）。

[]

[]

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	市民社会とは何か？
第 2 回	研究報告（全）	昨年度から引き続き参加している新 4 年生による研究状況報告
第 3 回	研究報告（全）	昨年度から引き続き参加している新 3 年生による研究状況報告
第 4 回	研究報告（全）	今年度からの参加者による研究状況あるいは関心の所在の報告
第 5 回	文献講読	市民社会の理論 1
第 6 回	文献講読	市民社会の歴史 1
第 7 回	研究報告 4-1	4 年生対象の卒論準備報告 1
第 8 回	文献講読	市民社会の理論 2
第 9 回	文献講読	市民社会の歴史 2
第 10 回	研究報告 4-2	4 年生対象の卒論準備報告 2
第 11 回	文献講読	市民社会の理論 3
第 12 回	文献講読	市民社会の歴史 3
第 13 回	研究報告 3-1	3 年生対象の研究報告 1
第 14 回	研究報告 3-2	3 年生対象の研究報告 2
第 15 回	まとめ（全）	全体討論
第 16 回	オリエンテーション	市民社会が可能にすることとは？
第 17 回	研究報告 4-3	4 年生対象の卒論進展状況報告
第 18 回	研究報告 2-1	2 年生対象の研究状況報告
第 19 回	研究報告 3-3	3 年生対象の研究状況報告
第 20 回	文献講読	市民社会と社会福祉 1
第 21 回	文献講読	市民社会と社会福祉 2
第 22 回	研究報告 4-4	4 年生対象の卒論進展状況報告
第 23 回	文献講読	市民社会と多文化共生 1
第 24 回	文献講読	市民社会と多文化共生 2
第 25 回	研究報告 4-5	4 年生対象の卒論進展状況報告
第 26 回	文献講読	市民社会と多文化共生 3
第 27 回	研究報告 2-2	2 年生対象の研究状況報告
第 28 回	研究報告 3-4	3 年生対象の研究状況報告
第 29 回	研究報告 4-6	4 年生対象の卒論進展状況報告
第 30 回	まとめ	全体討論

#### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

ヨーロッパの市民社会に関わる事柄について、各自の関心に即して具体例を見つけ、調査し、ゼミ報告の準備をすること。また、文献講読の際は、必ず事前にテキストを用意し、目を通してここと。

#### 【テキスト】

稲葉陽二、2011 年、『ソーシャル・キャピタル入門』、中公新書。  
植村邦彦、2010 年、『市民社会とは何か』、平凡社新書。  
廣渡清吾、2008 年、『市民社会と法』、放送大学教育振興会。  
ウルリヒ・ベックほか編、2011 年、『リスク化する日本社会』、岩波書店。  
三上剛史、2010 年、『社会の思考』、学文社。  
山脇直司、2011 年、『公共哲学からの応答』、筑摩書房。

ほか、必要に応じて授業中に指示する。

#### 【参考書】

小島・西城戸編著、2012 年、『フィールドから考える地域環境』、ミネルヴァ書房。

ほか、必要に応じて授業中に指示する。

#### 【成績評価基準】

議論への参加（できる限り出席すること）、研究報告、レポート（各学期末）

【学生による授業改善アンケートからの気づき】

特になし

#### 【関連の深いコース】

環境教養、地域環境

## 研究会 (A)

永野 秀雄

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：火 2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント、プロジェクター。

【関連の深いコース】

環境経営、国際環境

## 【授業のテーマ】

この研究会は、環境監査法務の基本を学ぶものです。隔年で CSR 研究と、環境関連の日本法と英文契約を学習します。2012 年度は、日米企業の CSR 報告書を学びます。

## 【授業の到達目標】

このゼミナールは、① 4 年生で必修となる研究会修了論文を書く力をつけること、② 文献読解を中心とした英語力を身につけること、③ 環境法学の基本を学ぶことを目標としています。このほか、基本的な力を得るために、① 実践ビジネス英語の暗誦、② Japan Times1 面の訳、③ 日経新聞「きょうのことば」の記憶、④ 米国の PBS 放送のシャドウイングを毎回の課題としています。また、通常のゼミナールでの学習に加え、水質関係第 1 種公害防止管理者、および、英検準 1 級の資格取得を目標としています。

[]

## 【授業の概要と方法】

ゼミ生が班を編成して、班ごとの発表が行われます。合宿は、春・夏の 2 回で、ディベートとスピーチ訓練、および、3・4 年生による研究論文の発表が行われます。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ゼミの概要説明	ゼミ、サブゼミの内容説明、班編成
第 2 回	サブゼミ課題の導入	サブゼミ課題を 2 年生のために勉強の仕方等を説明
第 3 回	春合宿課題の説明	春合宿の課題の説明、準備、サブゼミ課題の実施
第 4 回	前期本ゼミ発表 (1)	邦語 CSR 文献等の班による発表
第 5 回	前期本ゼミ発表 (2)	邦語 CSR 文献等の班による発表
第 6 回	前期本ゼミ発表 (3)	邦語 CSR 文献等の班による発表
第 7 回	前期本ゼミ発表 (4)	邦語 CSR 文献等の班による発表
第 8 回	前期本ゼミ発表 (5)	邦語 CSR 文献等の班による発表
第 9 回	前期本ゼミ発表 (6)	邦語 CSR 文献等の班による発表
第 10 回	前期本ゼミ発表 (7)	邦語 CSR 文献等の班による発表
第 11 回	前期本ゼミ発表 (8)	邦語 CSR 文献等の班による発表
第 12 回	前期本ゼミ発表 (9)	邦語 CSR 文献等の班による発表
第 13 回	前期本ゼミ発表 (10)	邦語 CSR 文献等の班による発表
第 14 回	前期本ゼミ発表 (11)	邦語 CSR 文献等の班による発表
第 15 回	前期本ゼミ発表 (12)、夏合宿課題の説明	邦語 CSR 文献等の班による発表、夏合宿課題の説明等
第 16 回	後期本ゼミ発表 (1)	日本企業の CSR に関する発表 (1)
第 17 回	後期本ゼミ発表 (2)	日本企業の CSR に関する発表 (2)
第 18 回	後期本ゼミ発表 (3)	日本企業の CSR に関する発表 (3)
第 19 回	後期本ゼミ発表 (4)	日本企業の CSR に関する発表 (4)
第 20 回	後期本ゼミ発表 (5)	欧米企業の CSR に関する発表 (1)
第 21 回	後期本ゼミ発表 (6)	欧米企業の CSR に関する発表 (2)
第 22 回	後期本ゼミ発表 (7)	欧米企業の CSR に関する発表 (3)
第 23 回	後期本ゼミ発表 (8)	欧米企業の CSR に関する発表 (4)
第 24 回	後期本ゼミ発表 (9)	欧米企業の CSR に関する発表 (5)
第 25 回	後期本ゼミ発表 (10)	欧米企業の CSR に関する発表 (6)
第 26 回	後期本ゼミ発表 (11)	欧米企業の CSR に関する発表 (7)
第 27 回	後期本ゼミ発表 (12)	欧米企業の CSR に関する発表 (8)
第 28 回	後期本ゼミ発表 (13)	欧米企業の CSR に関する発表 (9)
第 29 回	後期本ゼミ発表 (14)	欧米企業の CSR に関する発表 (10)
第 30 回	卒論発表会	4 年生による卒論発表会の実施

## 【授業外に行うべき学習活動 (準備学習等)】

ゼミでの発表準備、実践ビジネス英語の暗誦等のサブゼミ課題をこなすこと、英検準 1 級等の資格取得のための勉強を行って下さい。

## 【テキスト】

環境 CSR の日本語テキストと、欧米企業の CSR 報告書 (2 社) を、開講時に指定します。

## 【参考書】

特にありません。

## 【成績評価基準】

平常点のみです。前期・後期とも、3 回以上欠席したり、発表準備・課題を行ってこなかったりした場合には、単位をあげることはできません。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

これからも、学生の努力を応援していきたいと思っています。



## 研究会 (A)

永野 秀雄

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：火 4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

### 【授業のテーマ】

この研究会は、環境監査法務の基本を学ぶものです。隔年で CSR 研究と、環境関連の日本法と英文契約を学習します。2012 年度は、日米企業の CSR 報告書を学びます。

### 【授業の到達目標】

このゼミナールは、① 4 年生で必修となる研究会修了論文を書く力をつけること、② 文献読解を中心とした英語力を身につけること、③ 環境法学の基本を学ぶことを目標としています。このほか、基本的な力を得るために、① 実践ビジネス英語の暗誦、② Japan Times1 面の訳、③ 日経新聞「きょうのことば」の記憶、④ 米国の PBS 放送のシャドウイングを毎回の課題としてします。また、通常のゼミナールでの学習に加え、水質関係第 1 種公害防止管理者、および、英検準 1 級の資格取得を目標としています。

[]

### 【授業の概要と方法】

ゼミ生が班を編成して、班ごとの発表が行われます。合宿は、春・夏の 2 回で、ディベートとスピーチ訓練、および、3・4 年生による研究論文の発表が行われます。

[]

[]

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ゼミの概要説明	ゼミ、サブゼミの内容説明、班編成
第 2 回	サブゼミ課題の導入	サブゼミ課題を 2 年生のために勉強の仕方等を説明
第 3 回	春合宿課題の説明	春合宿の課題の説明、準備、サブゼミ課題の実施
第 4 回	前期本ゼミ発表 (1)	邦語 CSR 文献等の班による発表
第 5 回	前期本ゼミ発表 (2)	邦語 CSR 文献等の班による発表
第 6 回	前期本ゼミ発表 (3)	邦語 CSR 文献等の班による発表
第 7 回	前期本ゼミ発表 (4)	邦語 CSR 文献等の班による発表
第 8 回	前期本ゼミ発表 (5)	邦語 CSR 文献等の班による発表
第 9 回	前期本ゼミ発表 (6)	邦語 CSR 文献等の班による発表
第 10 回	前期本ゼミ発表 (7)	邦語 CSR 文献等の班による発表
第 11 回	前期本ゼミ発表 (8)	邦語 CSR 文献等の班による発表
第 12 回	前期本ゼミ発表 (9)	邦語 CSR 文献等の班による発表
第 13 回	前期本ゼミ発表 (10)	邦語 CSR 文献等の班による発表
第 14 回	前期本ゼミ発表 (11)	邦語 CSR 文献等の班による発表
第 15 回	前期本ゼミ発表 (12)、夏合宿課題の説明	邦語 CSR 文献等の班による発表、夏合宿課題の説明等
第 16 回	後期本ゼミ発表 (1)	日本企業の CSR に関する発表 (1)
第 17 回	後期本ゼミ発表 (2)	日本企業の CSR に関する発表 (2)
第 18 回	後期本ゼミ発表 (3)	日本企業の CSR に関する発表 (3)
第 19 回	後期本ゼミ発表 (4)	日本企業の CSR に関する発表 (4)
第 20 回	後期本ゼミ発表 (5)	欧米企業の CSR に関する発表 (1)
第 21 回	後期本ゼミ発表 (6)	欧米企業の CSR に関する発表 (2)
第 22 回	後期本ゼミ発表 (7)	欧米企業の CSR に関する発表 (3)
第 23 回	後期本ゼミ発表 (8)	欧米企業の CSR に関する発表 (4)
第 24 回	後期本ゼミ発表 (9)	欧米企業の CSR に関する発表 (5)
第 25 回	後期本ゼミ発表 (10)	欧米企業の CSR に関する発表 (6)
第 26 回	後期本ゼミ発表 (11)	欧米企業の CSR に関する発表 (7)
第 27 回	後期本ゼミ発表 (12)	欧米企業の CSR に関する発表 (8)
第 28 回	後期本ゼミ発表 (13)	欧米企業の CSR に関する発表 (9)
第 29 回	後期本ゼミ発表 (14)	欧米企業の CSR に関する発表 (10)
第 30 回	卒論発表会	4 年生による卒論発表会の実施

### 【授業外に行うべき学習活動 (準備学習等)】

ゼミでの発表準備、実践ビジネス英語の暗誦等のサブゼミ課題をこなすこと、英検準 1 級等の資格取得のための勉強を行って下さい。

### 【テキスト】

環境 CSR の日本語テキストと、欧米企業の CSR 報告書 (2 社) を、開講時に指定します。

### 【参考書】

特にありません。

### 【成績評価基準】

平常点のみです。前期・後期とも、3 回以上欠席したり、発表準備・課題を行ってこなかったりした場合には、単位をあげることはできません。

### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

これからも、学生の努力を応援していきたいと思っています。

### 【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント、プロジェクター。

### 【関連の深いコース】

環境経営、国際環境

## 研究会 (A)

## 長峰 登記夫

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：金 5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

職業生活をとらして労働環境を考える。

## 【授業の到達目標】

前期は労働環境を考える際の基本的な知識の習得をめざし、基本文献の読み合わせをする。後期は自分でテーマを設定して勉強し、その成果を授業で発表し、最終レポートにまとめられるようになることをめざす。こうした学習をとらして、私たちが卒業後就職してからかかわる仕事や労働環境のあり方について学ぶと同時に、物事を論理的に考え、作業を計画的に推し進められるようになることをめざす。そこに至る一里塚として、授業内における読み合わせや研究成果の発表、レポートがある。

【】

## 【授業の概要と方法】

前期は基本的な知識習得を目的に、基本文献の読み合わせをする。発表者は学習内容をレジュメにまとめて報告する。後期は自分でテーマを設定して勉強し、レジュメにまとめて発表し、最終的にはレポートにまとめる。したがって、前期と後期、それぞれ一人最低1回ずつはレジュメ作成、それに基づいた発表、最終的なレポート提出が義務づけられる。

【】

【】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	労働環境を考える	労働環境論とは何か、そこではどんなことについて学ぶのか、等について学習する。年間計画についても説明する。
第2回	レジュメ、レポートの書き方1	図書館、インターネット、データベース等を利用した専門的な情報収集の仕方について学ぶ。
第3回	レジュメ、レポートの書き方2	レジュメによる授業内での報告、最終的なレポート作成に必要な方法について学ぶ。
第4回	日本の雇用システム1(終身雇用)	日本の雇用システムの3大特徴とされてきた終身雇用、年功制、企業内組合のうちの終身雇用について学ぶ。
第5回	日本の雇用システム2(年功賃金・昇進)	年功賃金と年功昇進に焦点を当てて、年功制について考える。また、それが近年どう変化してきたかについてもみていく。
第6回	日本の雇用システム3(企業内組合)	日本の雇用慣行のなかでも、企業内組合は最も日本的なシステムだといってよい。企業内組合の組織や機能、海外諸国のそれとのちがい等についてみていく。
第7回	日本の雇用システム4(成果主義的雇用管理)	日本の雇用慣行が変化してきた最大の要因の一つが、成果主義的雇用管理の導入である。ここでは成果主義的な賃金や昇進について考える。
第8回	日本の雇用システム5(雇用とジェンダー)	日本企業の雇用慣行のなかで女性はハンディを負うとされてきた。それには様々な理由があるが、それは何か、また、近年それはどう変化してきたのかについて学ぶ。
第9回	日本の雇用システム6(非正規雇用と格差)	近年、とくに若者の安定雇用が崩れてきているが、その典型として非正規雇用の増大があげられる。ここでは、なぜ非正規雇用が拡大してきたのか、それがいかなるかたちで格差拡大につながっているのかについて考える。
第10回	仕事と労働時間1(労働時間)	日本は先進諸国のなかで労働時間の長さが際立っていた。なぜなのか、その問題はどこに現れているのか、また、それが近年どう変化してきているのか等について学ぶ。
第11回	仕事と労働時間2(長時間労働とメンタルヘルス)	近年、働く人々のメンタルヘルスが大きな問題となっている。それと労働時間が関係あるのか、あるとすればいかに関係しているのかについて考える。
第12回	大学生の就職1(日本の就職の特徴)	日本の大学生の就職にはどのような特徴があり、それは海外諸国の大学生の就職とどう違うのか、基本的なことを学ぶ。

第13回	大学生の就職2(大学生の就職の実態)	現時点で大学生の就職にはどのような問題があるのか、それについて新聞記事や週刊誌の記事等をとらして最新の情報を確認する。
第14回	大学生の就職3(就職と学歴)	大学生の就職において学歴や学校歴が重要だとされている。それは本当なのか、そうだとすると、どういう意味においてそうなのかについて考える。
第15回	レポート提出とコメント	最初の注意事項にしたがってレポートが構成されているか、簡単にコメントをする。
第16回	前期学習の復習1(日本の雇用とは)	前期に行った日本の雇用慣行について総括的なまとめを行い、学生の個別研究につなげる。
第17回	前期学習の復習2(日本の雇用の新たな流れ)	日本の雇用慣行の何がどう変わったのか、あるいは変わりつつあるのかをみて、日本の雇用慣行の現状について確認し、学生の個別研究につなげる。
第18回	学生による研究発表1	学生による研究発表、それに関する質疑応答、議論、意見交換等を行うなかで、発表者の今後の学習の課題をみつけ、最終レポート作成に役立てる。
第19回	学生による研究発表2	上記と同じ
第20回	学生による研究発表3	上記と同じ
第21回	学生による研究発表4	上記と同じ
第22回	学生による研究発表5	上記と同じ
第23回	学生による研究発表6	上記と同じ
第24回	学生による研究発表7	上記と同じ
第25回	学生による研究発表8	上記と同じ
第26回	学生による研究発表9	上記と同じ
第27回	学生による研究発表10	上記と同じ
第28回	レポートの仮提出、チェックと指導	最終提出前にレポートの基本的な形式ができていないか、作成途中のレポートをチェックする。
第29回	学生による研究発表11	第18回と同じ
第30回	学生による研究発表12	上記と同じ

## 【授業外に行うべき学習活動(準備学習等)】

前期は、毎回指定された文献資料を事前に読んでおくこと、後期は、発表予定者が事前に指示した、発表内容に関連した資料を読んで、議論に参加できるように準備しておくこと。

## 【テキスト】

前期は基本的に本の1章や文献資料をコピーして読んでいく。具体的な資料は随時授業で指示する。後期は発表予定者が事前に指示した資料を参考資料とする。ただし、後期の資料について発表者は事前に教員に相談すること。

## 【参考書】

佐藤博樹・佐藤厚編著『仕事の社会学』有斐閣ブックス、神代和欣著『産業と労使』放送大学教育振興会。

## 【成績評価基準】

成績評価は、1. 出席、2. 授業での発表、3. 発表のために作成したレジュメの内容、4. 授業内での議論への参加、5. 最終的に提出されたレポートの内容等を加味して総合的に行う。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

学生が期限内に指示された作業(レジュメ作成や報告、レポート作成等)を終えられるよう、指導する。

## 【関連の深いコース】

地域環境、環境経営

## 研究会 (A)

## 西城戸 誠

配当年次/単位：2～4年 / 4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：火 6

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

環境社会学、地域社会学、都市社会学、農村社会学などの実証的な社会学的研究を講読しながら、実証的な社会学研究を自ら行うためのノウハウを理解する。

## 【授業の到達目標】

本研究会では、環境社会学、地域社会学、都市社会学、農村社会学などの実証的な社会学的研究を集中的に講読し、「環境」「都市」「地域」に対する社会学的なまなざし、アプローチの特徴を学ぶ。また、社会調査の基本的な方法論と実践を踏まえた上で、研究会参加者自らの関心から「自分で調べ」、最終的に研究会修了論文を執筆することを目的とする。

[]

## 【授業の概要と方法】

研究会参加者の関心に従い、環境社会学、地域社会学、都市社会学、農村社会学などの実証的な社会学的研究（国内外）を決定し、全員で講読する。また、自分でテーマを設定し、研究会修了論文を執筆する。なお、研究会修了論文のテーマは、必ずしも環境や環境問題に特化しなくてもかまわない。研究会参加者の問題関心を重要視する。本やインターネットを「カットアンドペースト」してまとめるといった類の「レポート」ではなく、あくまでも「自分で調べる」という営みによって生み出された「論文」を目指す。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	演習内容に関するオリエンテーションの実施。演習の年間計画を立てる。
第 2 回	文献購読 (1)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第 3 回	文献購読 (2)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第 4 回	文献購読 (3)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第 5 回	文献購読 (4)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第 6 回	文献購読 (5)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第 7 回	文献購読 (6)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第 8 回	研究会修了論文中間報告 (1)	演習参加者が執筆する研究会修了論文の構想発表を実施する。
第 9 回	文献購読 (7)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第 10 回	文献購読 (8)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第 11 回	文献購読 (9)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第 12 回	文献購読 (10)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第 13 回	文献購読 (11)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第 14 回	文献購読 (12)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第 15 回	研究会修了論文中間報告 (2)	演習参加者が執筆する研究会修了論文の構想発表を実施する。
第 16 回	文献購読 (13)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。

第 17 回	文献購読 (14)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第 18 回	文献購読 (15)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第 19 回	文献購読 (16)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第 20 回	研究会修了論文中間報告 (3)	演習参加者が執筆する研究会修了論文の構想発表を実施する。
第 21 回	研究会修了論文中間報告 (4)	演習参加者が執筆する研究会修了論文の構想発表を実施する。
第 22 回	文献購読 (17)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第 23 回	文献購読 (18)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第 24 回	文献購読 (19)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第 25 回	文献購読 (20)	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第 26 回	研究会修了論文中間報告 (5)	演習参加者が執筆する研究会修了論文の途中経過を報告し、論文作成に向けた課題を明らかにする。
第 27 回	研究会修了論文中間報告 (6)	演習参加者が執筆する研究会修了論文の途中経過を報告し、論文作成に向けた課題を明らかにする。
第 28 回	研究会修了論文中間報告 (7)	演習参加者が執筆する研究会修了論文の途中経過を報告し、論文作成に向けた課題を明らかにする。
第 29 回	研究会修了論文中間報告 (8)	演習参加者が執筆する研究会修了論文の途中経過を報告し、論文作成に向けた課題を明らかにする。
第 30 回	研究会修了論文中間報告 (9)	演習参加者が執筆する研究会修了論文の途中経過を報告し、論文作成に向けた課題を明らかにする。

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

関連文献の講読。および、研究会修了論文執筆に向けた一連の作業（文献購読、調査、論文執筆等）

## 【テキスト】

田中重好, 2010, 『地域から生まれる公共性』ミネルヴァ書房  
 町村敬志, 2011, 『開発主義の構造と心性—戦後日本がダムでみた夢と現実』御茶ノ水書房  
 町村敬志 (編著), 2006, 『開発の時間開発の空間—佐久間ダムと地域社会の半世紀』東京大学出版会

## 【参考書】

随時、指定する

## 【成績評価基準】

平常点。ただし、社会人学生で 2012 年度から研究会に参加する者は前期、後期にレポートの提出を求める。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

特に改善する点はない。

## 【関連の深いコース】

地域環境

## 研究会 (A)

## 西城戸 誠

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：木 3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

<人>と<環境>との関わり方を見つめ直し、その関係性の再構築を目指すために、市民による実践（市民活動・NPO・ボランティア）に着目した調査研究を実施する。

## 【授業の到達目標】

首都圏近郊（東京都日野市、町田市、埼玉県さいたま市）の都市農業および多摩川流域の市民活動を対象としたフィールド調査により、実証的な研究の手法を学びながら、地域社会における<人>と<環境>のかかわり、その再編の可能性といった実践的な課題解決を探る。

[]

## 【授業の概要と方法】

本授業は 3 つの部分から構成される。

- 1) 文献講読：フィールドや調査テーマに関連した文献を講読する。
- 2) 現地視察：文献講読と閉講しながら、都市農業、河川流域の市民活動の現地視察等を行う。
- 3) グループに分かれての調査研究の実施：テーマの設定、現地調査、報告書・論文の執筆、プレゼンテーションの実施。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	演習内容に関するオリエンテーションを実施する。
第 2 回	文献講読 (1)：前年度の調査研究を振り返る	前年度の調査研究報告書を講読し、調査研究の成果を共有する。
第 3 回	文献講読 (2)：前年度の調査研究を振り返る	前年度の調査研究報告書を講読し、調査研究の成果を共有する。
第 4 回	文献講読 (3)：フィールドに関連する文献講読	調査対象地に関する文献を講読し、フィールドの概要を把握する。
第 5 回	文献講読 (4)：フィールドに関連する文献講読	調査対象地に関する文献を講読し、フィールドの概要を把握する。
第 6 回	文献講読 (5)：フィールドに関連する文献講読	調査対象地に関する文献を講読し、フィールドの概要を把握する。
第 7 回	現地視察	調査地域の視察を実施する。
第 8 回	調査グループの設定、テーマの選定 (1)	調査グループに分かれて、テーマの選定とそのための作業（先行研究の収集）を実施する。
第 9 回	調査グループの設定、テーマの選定 (2)	調査グループに分かれて、テーマの選定とそのための作業（先行研究の収集）を実施する。
第 10 回	グループ中間発表会	グループ別に調査テーマの方向性について報告し合い、議論をする。
第 11 回	調査準備・予備調査 (1)	調査のための準備（文献・資料・データの収集）および、予備調査を実施する。
第 12 回	調査準備・予備調査 (2)	調査のための準備（文献・資料・データの収集）および、予備調査を実施する。
第 13 回	調査準備・予備調査 (3)	調査のための準備（文献・資料・データの収集）および、予備調査を実施する。
第 14 回	調査準備・予備調査 (4)	調査のための準備（文献・資料・データの収集）および、予備調査を実施する。
第 15 回	グループ中間発表会	グループ別に調査の中間報告と今後の方向性について報告し合い、議論をする。
第 16 回	各グループにおける調査 (1)	各グループで現地調査を実施する。適宜、先行研究の収集・参照し、調査テーマを深化させる。
第 17 回	各グループにおける調査 (2)	各グループで現地調査を実施する。適宜、先行研究の収集・参照し、調査テーマを深化させる。
第 18 回	各グループにおける調査 (3)	各グループで現地調査を実施する。適宜、先行研究の収集・参照し、調査テーマを深化させる。
第 19 回	各グループにおける調査 (4)	各グループで現地調査を実施する。適宜、先行研究の収集・参照し、調査テーマを深化させる。

第 20 回	各グループにおける調査 (5)	各グループで現地調査を実施する。適宜、先行研究の収集・参照し、調査テーマを深化させる。
第 21 回	グループ中間発表会	グループ別に調査の中間報告を行い、議論をする。
第 22 回	各グループにおける調査 (6)	各グループで現地調査を実施する。適宜、先行研究の収集・参照し、調査テーマを深化させる。
第 23 回	各グループにおける調査 (7)	各グループで現地調査を実施する。適宜、先行研究の収集・参照し、調査テーマを深化させる。
第 24 回	各グループにおける調査 (8)	各グループで現地調査を実施する。適宜、先行研究の収集・参照し、調査テーマを深化させる。
第 25 回	各グループにおける調査 (9)	各グループで現地調査を実施する。適宜、先行研究の収集・参照し、調査テーマを深化させる。
第 26 回	各グループにおける調査 (10)	各グループで現地調査を実施する。適宜、先行研究の収集・参照し、調査テーマを深化させる。
第 27 回	グループの発表・報告書作成 (1)	調査報告書の作成に向けた作業を実施する。適宜、グループ別で発表し、議論を行う。
第 28 回	グループの発表・報告書作成 (2)	調査報告書の作成に向けた作業を実施する。適宜、グループ別で発表し、議論を行う。
第 29 回	グループの発表・報告書作成 (3)	調査報告書の作成に向けた作業を実施する。適宜、グループ別で発表し、議論を行う。
第 30 回	グループの発表・報告書作成 (4)	調査報告書の作成に向けた作業を実施する。適宜、グループ別で発表し、議論を行う。

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

関連文献の講読、フィールドワーク

## 【テキスト】

宮内泰介, 2004, 『自分で調べる技術』 岩波アクティブ新書

## 【参考書】

随時、指定する

## 【成績評価基準】

出席、参加姿勢（平常点）を重視するが、プレゼンテーション、論文による総合評価を行う。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

特になし。

## 【関連の深いコース】

地域環境



## 研究会 (A)

根崎 光男

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：月 4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

テーマ：環境問題の歴史的アプローチ

歴史史料の読解、古文書の解説、グループ学習、史跡探索、各自の研究発表を通じて、教員と学生が一体となって、環境史研究を進めていきます。

## 【授業の到達目標】

日本歴史上における環境問題や現代の歴史的環境の保全を研究するための文献収集・史料読解・課題解決の能力を養います。このなかで、環境史研究のテーマを自ら見つけ、4年時に研究会修了論文を提出することを目標とします。

[]

## 【授業の概要と方法】

この授業は、調査テーマに関連した歴史史料・古文書の読解、フィールドの探索、各自研究のプレゼンテーション、レポート・論文の執筆といった一連の作業を、演習形式により行います。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	研究会に関するオリエンテーションを実施する
第 2 回	環境史研究の調査と方法	環境史研究の文献探索、調査方法を学習する
第 3 回	史料読解 (1)	歴史史料を読解し、討論を行う
第 4 回	史料読解 (2)	歴史史料を読解し、討論を行う
第 5 回	史料読解 (3)	歴史史料を読解し、討論を行う
第 6 回	古文書読解 (1)	古文書を読解し、討論を行う
第 7 回	史跡探索 (1)	フィールドに出かけ、史跡探索を実施する
第 8 回	絵図読解のグループ学習 (1)	絵図を読解し、グループ別に発表する
第 9 回	絵図読解のグループ学習 (2)	絵図を読解し、グループ別に発表する
第 10 回	特定テーマ中間発表 (1)	各自の研究テーマを発表し、質疑応答を行う
第 11 回	特定テーマ中間発表 (2)	各自の研究テーマを発表し、質疑応答を行う
第 12 回	特定テーマ中間発表 (3)	各自の研究テーマを発表し、質疑応答を行う
第 13 回	特定テーマ中間発表 (4)	各自の研究テーマを発表し、質疑応答を行う
第 14 回	特定テーマ中間発表 (5)	各自の研究テーマを発表し、質疑応答を行う
第 15 回	特定テーマ中間発表 (6)	各自の研究テーマを発表し、質疑応答を行う
第 16 回	研究計画の確認	各自の研究計画を確認し、意見交換を行う
第 17 回	史跡探索 (2)	フィールドに出かけ、史跡探索を実施する
第 18 回	史料読解 (4)	歴史史料を読解し、討論を行う
第 19 回	史料読解 (5)	歴史史料を読解し、討論を行う
第 20 回	史料読解 (6)	歴史史料を読解し、討論を行う
第 21 回	古文書読解 (2)	歴史史料を読解し、討論を行う
第 22 回	特定テーマ研究発表 (1)	各自が研究テーマを深めて発表し、質疑応答を行う
第 23 回	特定テーマ研究発表 (2)	各自が研究テーマを深めて発表し、質疑応答を行う
第 24 回	特定テーマ研究発表 (3)	各自が研究テーマを深めて発表し、質疑応答を行う
第 25 回	特定テーマ研究発表 (4)	各自が研究テーマを深めて発表し、質疑応答を行う
第 26 回	特定テーマ研究発表 (5)	各自が研究テーマを深めて発表し、質疑応答を行う
第 27 回	特定テーマ研究発表 (6)	各自が研究テーマを深めて発表し、質疑応答を行う
第 28 回	特定テーマ研究発表 (7)	各自が研究テーマを深めて発表し、質疑応答を行う
第 29 回	特定テーマ研究発表 (8)	各自が研究テーマを深めて発表し、質疑応答を行う
第 30 回	特定テーマ研究発表 (9)	各自が研究テーマを深めて発表し、質疑応答を行う

## 【授業外に行うべき学習活動 (準備学習等)】

歴史史料・古文書の読解、研究テーマの文献探索・講読。

## 【テキスト】

必要に応じてプリントを配付します。

## 【参考書】

必要に応じて随時紹介します。

## 【成績評価基準】

出席状況、授業時の積極的姿勢を重視するが、プレゼンテーション、レポート・論文を総合的に評価します。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

研究の進捗状況を把握するため、随時面談を行います。

## 【関連の深いコース】

地域環境、環境教養

## 研究会 (A)

長谷川 直哉

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：火 4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

CSR（企業の社会的責任）や Business Ethics（経営倫理）を中心に、サステイナブル社会における企業と社会の関係を学びます。

## 【授業の到達目標】

CSR、企業倫理、社会的責任投資、ソーシャルビジネス、環境会計等の分野で実証的アプローチによる研究を行い、4年生は研究会修了論文、2・3年生は日経ストックリーグレポートを作成します。

[]

## 【授業の概要と方法】

前期は、CSR および Business Ethics に関する文献や論文を輪読し、論文作成に必要な知識を習得しディベート能力も涵養します。後期は、複数のチームを編成し日経新聞と野村証券が主催するストックリーグに参加します。日経ストックリーグでは CSR 情報・財務データの分析や企業訪問によるヒアリング調査を行い、オリジナルの社会的責任投資ファンドを組成しバーチャルトレードを行います。さらに、その成果をレポートにまとめてコンテストにチャレンジします。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス 卒論構想の発表	ゼミの進め方 日経ストックリーグの概要 卒業論文の執筆スケジュール
第 2 回	CSR に関する文献講読①	担当者による報告と全体討議
第 3 回	CSR に関する文献講読②	担当者による報告と全体討議
第 4 回	CSR に関する文献講読③	担当者による報告と全体討議
第 5 回	CSR に関する文献講読④	担当者による報告と全体討議
第 6 回	CSR に関する文献講読⑤	担当者による報告と全体討議
第 7 回	CSR に関する文献講読⑥	担当者による報告と全体討議
第 8 回	経営分析に関する文献講読①	担当者による報告と全体討議
第 9 回	経営分析に関する文献講読②	担当者による報告と全体討議
第 10 回	経営分析に関する文献講読③	担当者による報告と全体討議
第 11 回	経営分析に関する文献講読④	担当者による報告と全体討議 チーム編成
第 12 回	経営分析に関する文献講読⑤	担当者による報告と全体討議 チームの活動報告
第 13 回	経営分析に関する文献講読⑥	担当者による報告と全体討議 チームの活動報告
第 14 回	ストックリーグ活動 ゲストスピーカーによる講話	詳細はガイダンス時に提示
第 15 回	卒業論文の概要発表 ストックリーグ活動	4年生による卒論報告 ファンドテーマの構想発表
第 16 回	卒業論文報告 ストックリーグ活動	卒業論文の進捗状況報告 ファンドテーマの発表
第 17 回	ストックリーグ活動	チームの活動報告
第 18 回	ストックリーグ活動	ユニバースの確定
第 19 回	ストックリーグ活動	経営分析・企業ヒアリング
第 20 回	ストックリーグ活動	経営分析・企業ヒアリング
第 21 回	ストックリーグ活動	経営分析・企業ヒアリング
第 22 回	ストックリーグ活動	経営分析・企業ヒアリング
第 23 回	ストックリーグ活動	ポートフォリオの完成 バーチャルトレードの開始
第 24 回	ストックリーグ活動	レポート作成
第 25 回	卒業論文中間発表	卒業論文の予備報告
第 26 回	ストックリーグ活動	レポート作成
第 27 回	ストックリーグ活動	レポート作成
第 28 回	ストックリーグ活動	レポート作成
第 29 回	ストックリーグレポート発表会	レポートの最終発表
第 30 回	卒業論文発表会	卒業論文の最終発表

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

企業の CSR 活動・財務内容に関する分析や企業に対するヒアリング調査を行うため、サブゼミや企業訪問を研究会の時間外に実施することが多くなります。また、夏季休暇中にゼミ合宿を行います。

## 【テキスト】

研究会の開講前に掲示します。

## 【参考書】

必要に応じて随時紹介します。

## 【成績評価基準】

〔共通評価〕 平常点（ゼミ・サブゼミ・調査への参加態度・貢献度）  
〔個別評価〕 4年生：卒業論文  
2・3年生：ストックリーグのレポート

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

参加者の自主的な取り組みを中心にゼミを行います。

## 【関連の深いコース】

環境経営、国際環境、地域環境

## 研究会 (A)

### 日原 傳

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：木 4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

#### 【授業のテーマ】

中国語文献講読（中国の社会と文化）

#### 【授業の到達目標】

・中国の新聞、雑誌の一般的な記事なら、辞書を引きながら独力で読むことの出来るレベルへの到達を目指す。  
・中国に関するテーマで論文を執筆する。

[]

#### 【授業の概要と方法】

・中国語の基礎を習得した学生を対象に、中国語の文献を読みこなす力を高める訓練をする。  
・最初の時間に中国語の文献を読むために必要な工具書、中国語書籍を扱う書店等について紹介する。以後は毎回テキストを輪読してゆく。6月ごろから、各自が決めた研究テーマについて発表、意見交換する時間も設ける。

[]

[]

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	中国語の文献を読むために	・工具書、中国語書籍を扱う書店の紹介 ・テキストに関する相談
第 2 回	文献講読	テキスト輪読
第 3 回	文献講読	テキスト輪読
第 4 回	文献講読	テキスト輪読
第 5 回	文献講読	テキスト輪読
第 6 回	文献講読	テキスト輪読
第 7 回	文献講読	テキスト輪読
第 8 回	発表、文献講読	発表（論文の構想）、テキスト輪読
第 9 回	発表、文献講読	発表（論文の構想）、テキスト輪読
第 10 回	発表、文献講読	発表（論文の構想）、テキスト輪読
第 11 回	発表、文献講読	発表（論文の構想）、テキスト輪読
第 12 回	発表、文献講読	発表（論文の構想）、テキスト輪読
第 13 回	発表、文献講読	発表（論文の構想）、テキスト輪読
第 14 回	文献講読	テキスト輪読
第 15 回	文献講読	テキスト輪読
第 16 回	文献講読	テキスト輪読
第 17 回	文献講読	テキスト輪読
第 18 回	文献講読	テキスト輪読
第 19 回	文献講読	テキスト輪読
第 20 回	文献講読	テキスト輪読
第 21 回	文献講読	テキスト輪読
第 22 回	文献講読	テキスト輪読
第 23 回	発表、文献講読	発表（論文要旨）、テキスト輪読
第 24 回	発表、文献講読	発表（論文要旨）、テキスト輪読
第 25 回	発表、文献講読	発表（論文要旨）、テキスト輪読
第 26 回	発表、文献講読	発表（論文要旨）、テキスト輪読
第 27 回	発表、文献講読	発表（論文要旨）、テキスト輪読
第 28 回	発表、文献講読	発表（論文要旨）、テキスト輪読
第 29 回	文献講読	テキスト輪読
第 30 回	文献講読	テキスト輪読

#### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

・辞書を引き、次回読む文章を下読みしておく。同時にすらすら音読できるまで繰り返し発音練習を行なう。  
・各自研究テーマを決め、論文執筆のために文献を収集する。  
・論文を執筆する。

#### 【テキスト】

プリントを配布する。

#### 【参考書】

『中日辞典』（小学館）レベルの中国語辞書。

#### 【成績評価基準】

平常点（出席状況、発表内容）

#### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

2011年度在外研究につき該当なし

#### 【関連の深いコース】

地域環境、国際環境

## 研究会 (A)

平野井 ちえ子

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：木 4

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業のテーマ】

地域の文化、主に舞台芸術を切り口として、文化政策・アートマネジメントの現状を考える。

## 【授業の到達目標】

地域に暮らす人々の生活とそれぞれの地に固有の文化活動との関わりを理解する。

[]

## 【授業の概要と方法】

前期は、日本の伝統芸能・民俗芸能・現代演劇・前衛的パフォーマンスの流れに親しむため、文献や映像資料による講義・ディスカッションを行なった後、参加者各自に舞台鑑賞レポートの作成と発表を求める。後期は、文化政策の基本書を輪読しつつ、参加者各自が設定した地域の文化のケーススタディを指導する。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	講義・討論 (能・狂言)	能舞台の構造を説明した後、能と狂言について、それぞれの物語性・演技の型・視聴覚効果の特徴などを講義する。映像資料について意見交換する。
第 2 回	講義・討論 (歌舞伎 1)	歌舞伎の舞台構造を説明した後、「時代物」の特徴を講義する。映像資料について意見交換する。
第 3 回	講義・討論 (歌舞伎 2)	「世話物」・「所作物」について講義する。映像資料について意見交換する。
第 4 回	講義・討論 (文楽)	文楽と歌舞伎を対照的に考察する。映像資料について意見交換する。
第 5 回	最新舞台情報・舞台鑑賞レポート作成指導	舞台情報の探し方を指導。論文・レポートの書き方を、本ゼミのテーマに即して解説する。
第 6 回	講義・討論 (現代演劇 1)	翻訳劇の系譜について講義する。映像資料について意見交換する。
第 7 回	講義・討論 (現代演劇 2)	現代日本の劇作家・演出家について講義する。映像資料について意見交換する。
第 8 回	講義・討論 (前衛)	「アングラ」・「舞踏」につて講義する。映像資料について意見交換する。
第 9 回	舞台鑑賞レポート発表・討論 (1)	発表者の舞台鑑賞レポートに基づき、全員で意見交換する。
第 10 回	舞台鑑賞レポート発表・討論 (2)	発表者の舞台鑑賞レポートに基づき、全員で意見交換する。
第 11 回	舞台鑑賞レポート発表・討論 (3)	発表者の舞台鑑賞レポートに基づき、全員で意見交換する。
第 12 回	舞台鑑賞レポート発表・討論 (4)	発表者の舞台鑑賞レポートに基づき、全員で意見交換する。
第 13 回	舞台鑑賞レポート発表・討論 (5)	発表者の舞台鑑賞レポートに基づき、全員で意見交換する。
第 14 回	後期文献購読のオリエンテーション (1)	『入門文化政策』講読への導入講義。
第 15 回	後期文献購読のオリエンテーション (2)	『シンポジウム・劇場芸術の地平』への導入講義。
第 16 回	文献講読・講義・討論 (『入門文化政策』1)	1. 文化政策の観点からの京都観光 2. 国際観光と文化政策 3. 地域文化資源と文化マネジメント (富山の事例)
第 17 回	文献講読・講義・討論 (『入門文化政策』2)	1. 市民と自治体による文化芸術創造都市づくり (横浜の事例) 2. 中山間地域の文化政策 3. 人材育成と地域ガバナンス
第 18 回	文献講読・講義・討論 (『入門文化政策』3)	1. ライフスタイルのための文化政策 2. 文化政策としてのミュージアム・マネジメント 3. 活動の現場からみた公と民の協働論
第 19 回	文献講読・講義・討論 (『入門文化政策』4)	1. 市民文化の創造環境 2. 公共施設の運営と指定管理者制度 3. 文化創造拠点としての宗教空間
第 20 回	地域文化レポート作成指導	調査方法や論文・レポートの書き方を、本ゼミのテーマに即して解説する。

第 21 回	文献講読・講義・討論 (『シンポジウム・劇場芸術の地平』1)	1. 日本の現代演劇の問題点 2. 「日本的」であることとその超越
第 22 回	文献講読・講義・討論 (『シンポジウム・劇場芸術の地平』2)	1. グローバリゼーションと舞台芸術の関わり 2. 20 世紀演劇の表現と教育・批評との関わり
第 23 回	文献講読・講義・討論 (『シンポジウム・劇場芸術の地平』3)	1. 日本の芸術教育 2. 公共文化施設の創造活動 (公共劇場と美術館の現状)
第 24 回	文献講読・講義・討論 (『シンポジウム・劇場芸術の地平』4)	1. 公共ホールと指定管理者制度 2. 地域と文化創造の未来
第 25 回	地域文化レポート発表・討論 (1)	発表者の地域文化レポートに基づき、全員で意見交換する。
第 26 回	地域文化レポート発表・討論 (2)	発表者の地域文化レポートに基づき、全員で意見交換する。
第 27 回	地域文化レポート発表・討論 (3)	発表者の地域文化レポートに基づき、全員で意見交換する。
第 28 回	地域文化レポート発表・討論 (4)	発表者の地域文化レポートに基づき、全員で意見交換する。
第 29 回	地域文化レポート発表・討論 (5)	発表者の地域文化レポートに基づき、全員で意見交換する。
第 30 回	総括 (ラウンドテーブル)	「地域」と「文化」の関わりについて共に考える。

## 【授業外に行うべき学習活動 (準備学習等)】

文献講読の予習 (発表者はレジュメの準備)  
舞台鑑賞とフィールド調査 (レポート作成)

## 【テキスト】

井口真 (2008) 『入門文化政策 地域の文化を創るということ』ミネルヴァ書房  
舞台芸術財団演劇人会議 (2005) 『シンポジウム・劇場芸術の地平』舞台芸術財団演劇人会議  
ほか。

## 【参考書】

日本放送協会 (2010) 『NHK 日本の伝統芸能 (2010 年度版)』日本放送出版協会  
SPAC (1999) 『劇場とは何か 新しい文化活動の創出に向けて』SPAC  
平野井 (2006) 「小鹿野歌舞伎の現在」『法政大学人間環境論集』第 6 巻第 2 号  
平野井 (2007) 「SPAC の地域性と国際性」『法政大学人間環境論集』第 7 巻第 2 号

## 【成績評価基準】

出席・参加態度、口頭発表、レポートなどから総合的に評価します。口頭発表は、テキスト輪読分とレポート (舞台鑑賞+地域文化のケーススタディ) 分とします。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

2012 年度からの A 研究会です。

## 【学生が準備すべき機器他】

BT0309 教室使用

## 【関連の深いコース】

地域環境、環境教養



**研究会 (A)**

藤倉 良

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：金 4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業のテーマ】**

幅広い図書を前後期と夏休みで10冊以上読みます。図書の購入費は自己負担です。

**【授業の到達目標】**

読書力と作文力を身につける。

[]

**【授業の概要と方法】**

原則として、以下のローテーションで、2週間に1冊を読みます。

- ①第1週金曜日までに読了する。ゼミでは内容に関する質疑応答を行う。
- ②800字～1000字の書評を作成し、第2週水曜日正午までに授業支援システムにアップする。
- ③第2週金曜日のゼミで書評に関する講評、議論等を行う

[]

[]

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	ゼミの進め方についての解説
第2回	質疑応答	『メディアバイアス』
第3回	書評	『メディアバイアス』
第4回	質疑応答	『捕食者なき世界』
第5回	書評	『捕食者なき世界』
第6回	質疑応答	『安全。でも安心できない』
第7回	書評	『安全。でも安心できない』
第8回	質疑応答	『絶対貧困』
第9回	書評	『絶対貧困』
第10回	質疑応答	『環境問題と歴史』
第11回	書評	『環境問題と歴史』
第12回	質疑応答	『科学的とはどういう意味か』
第13回	書評	『科学的とはどういう意味か』
第14回	卒業論文	中間発表会
第15回	課題図書	夏休み課題図書の提示
第16回	書評	夏休み課題図書
第17回	質疑応答	『日本経済の底力』
第18回	書評	『日本経済の底力』
第19回	質疑応答	『もうダメされないための科学講義』
第20回	書評	『もうダメされないための科学講義』
第21回	質疑応答	『ハチはなぜ大量死したのか』
第22回	書評	『ハチはなぜ大量死したのか』
第23回	質疑応答	『生物と無生物の間』
第24回	書評	『生物と無生物の間』
第25回	質疑応答	『未定』
第26回	書評	『未定』
第27回	特別講義	卒業生の体験談
第28回	特別講義	未定
第29回	卒業論文	卒業論文発表会
第30回	総合討論	全体についての討論

**【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】**

指定された図書を読んで、締め切り時刻までに書評をアップしてください。

**【テキスト】**

順次指定します。上記授業計画に示した図書は2011年度の実績です。2012年度はこれとは異なる図書を指定します。

**【参考書】**

使用しません。

**【成績評価基準】**書評の提出状況と内容を中心に評価します。  
4年生は卒業論文か書評提出のいずれかで単位が取得できます。**【学生による授業改善アンケートからの気づき】**

指定図書の候補の選定にあたっては学生からのリクエストも考慮します。

**【その他】**

当研究会は3年生から受講できます。

**【関連の深いコース】**

すべてのコース

**研究会 (A)**

堀内 行蔵

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：月 5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業のテーマ】**

持続可能な社会における企業経営のあり方をテーマにしている。前期では、最近の環境経営をめぐる課題をとりあげ議論する。また、前期では卒業論文のトピックスを選定し、論文完成のための準備的議論を行う。後期では卒業論文を完成させる。

**【授業の到達目標】**

2年生からのゼミの成果をもとにし、学生の自主的な学習を通じ議論を深める。学習の成果が卒業論文に結実する。

[]

**【授業の概要と方法】**

前期では、地球環境問題が今後どのような影響を与えるかを取り上げ、生物多様性や地球温暖化などと企業経営との関連について、さまざまな角度から検討する。毎回数人の発表者の決め、自由で活発な議論を通じゼミでの研究成果の集大成を図る。また、前期では、各自が卒業論文のテーマを発表し議論を開始する。後期では、各自が卒業論文を発表し、全員で議論する。

[]

[]

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	スケジュールの決定	各自、調査テーマを選択し、発表する。
第2回	課題発表（1）	テーマにもとづき2～3名がレジメを発表し、討論する。
第3回	同上（2）	同上
第4回	同上（3）	同上
第5回	同上（4）	同上
第6回	同上（5）	同上
第7回	同上（6）	同上
第8回	同上（7）	同上
第9回	卒論のテーマ発表（1）	卒論のテーマについて、レジメ発表をもとに、討論する。
第10回	同上（2）	同上
第11回	同上（3）	同上
第12回	同上（4）	同上
第13回	同上（5）	同上
第14回	同上（6）	同上
第15回	同上（7）	同上
第16回	スケジュールの決定	各自、卒論の進捗状況を発表する。
第17回	卒論の概要発表（1）	2～3名が、卒論の概要（章立てなど）を発表する。
第18回	同上（2）	同上
第19回	同上（3）	同上
第20回	同上（4）	同上
第21回	同上（5）	同上
第22回	卒論の詳細発表（1）	1～2名が、レポート形式の資料を作成し、説明し、要旨を発表する。
第23回	同上（2）	同上
第24回	同上（3）	同上
第25回	同上（4）	同上
第26回	同上（5）	同上
第27回	同上（6）	同上
第28回	同上（7）	同上
第29回	同上（8）	同上
第30回	同上（9）	同上

**【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】**テーマに合った書籍や論文を集め、読みこなすこと。  
関連する資料、新聞、企業のHPに注意を払うこと。**【テキスト】**

なし

**【参考書】**

適宜指示する。

**【成績評価基準】**出席点と平常点（発言、レジメ・レポート）で評価する。  
無断欠席は厳禁とする。**【学生による授業改善アンケートからの気づき】**

活発な議論となるよう心がける。

**【関連の深いコース】**

環境経営

## 研究会 (A)

## 松本 倫明

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：火 5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

「地球温暖化とその周辺」

地球環境／地球温暖化対策／省エネ／エネルギー問題／エコ技術 など、地球温暖化をキーワードに幅広いテーマを扱います。

## 【授業の到達目標】

地球温暖化とその周辺について理解を深めることができます。  
プレゼンの方法と論文の書き方を学ぶことができます。

[]

## 【授業の概要と方法】

「環境速報」(通年) …環境に関するニュースをレポーターが発表し、みんなで考えます。環境に関する幅広い知見を得ることが目的です。  
「文献輪講」(前期) …地球温暖化に関する文献を輪講します。  
「研究報告」(後期) …個人の研究の進捗状況を発表し、議論します。  
「報告書」(年度末) …1年間の成果をまとめた報告書を提出します。4年生は卒論を提出します。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	打ち合わせ	研究会運営について打ち合わせをします。
第 2 回	環境速報	環境速報と文献輪講を行います。
第 3 回	環境速報 文献輪講	環境速報と文献輪講を行います。
第 4 回	環境速報 文献輪講	環境速報と文献輪講を行います。
第 5 回	環境速報 文献輪講	環境速報と文献輪講を行います。
第 6 回	環境速報 文献輪講	環境速報と文献輪講を行います。
第 7 回	環境速報 文献輪講	環境速報と文献輪講を行います。
第 8 回	環境速報 文献輪講	環境速報と文献輪講を行います。
第 9 回	環境速報 文献輪講	環境速報と文献輪講を行います。
第 10 回	環境速報 文献輪講	環境速報と文献輪講を行います。
第 11 回	環境速報 文献輪講	環境速報と文献輪講を行います。
第 12 回	環境速報 文献輪講	環境速報と文献輪講を行います。
第 13 回	環境速報 文献輪講	環境速報と文献輪講を行います。
第 14 回	環境速報 文献輪講	環境速報と文献輪講を行います。
第 15 回	まとめ	前期のまとめをします。
第 16 回	環境速報 研究報告	環境速報と研究報告を行います。
第 17 回	環境速報 研究報告	環境速報と研究報告を行います。
第 18 回	環境速報 研究報告	環境速報と研究報告を行います。
第 19 回	環境速報 研究報告	環境速報と研究報告を行います。
第 20 回	環境速報 研究報告	環境速報と研究報告を行います。
第 21 回	環境速報 研究報告	環境速報と研究報告を行います。
第 22 回	環境速報 研究報告	環境速報と研究報告を行います。
第 23 回	環境速報 研究報告	環境速報と研究報告を行います。
第 24 回	環境速報 研究報告	環境速報と研究報告を行います。
第 25 回	環境速報 研究報告	環境速報と研究報告を行います。
第 26 回	環境速報 研究報告	環境速報と研究報告を行います。

第 27 回	環境速報 研究報告	環境速報と研究報告を行います。
第 28 回	環境速報 研究報告	環境速報と研究報告を行います。
第 29 回	環境速報 研究報告	環境速報と研究報告を行います。
第 30 回	まとめ	1 年間のまとめをします。

## 【授業外に行うべき学習活動 (準備学習等)】

環境速報・文献輪講・研究報告においてレポーターを担当する学生は事前に準備が必要です。

## 【テキスト】

授業中に指示をします。

## 【参考書】

なし。

## 【成績評価基準】

出席日数、発表と議論の姿勢、年度末報告書にもとづき総合的に判断します。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

なし。

## 【関連の深いコース】

環境教養

**研究会 (A)****宮川 路子**

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：月 3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業のテーマ】**

現代社会を健康に生きていくために

ストレスに満ち溢れた現代社会においては、自殺者の数が 13 年連続で 3 万人を超え、メンタル面での障害を抱えながら生きている人の数も非常に多い。就労形態の多様化、過重労働、ワークライフバランスの問題など、就労環境におけるストレスも移り変わりつつ増加している。不規則な生活などにより生活習慣病に罹っている人の割合も多く、私たちが肉体的、精神的に健康に生きていくためにはさまざまな障壁がある。さらに、めまぐるしく移り変わる医療をめぐる環境においては、氾濫する情報を的確に取捨選択して自己の健康管理を行っていくことが求められる。

**【授業の到達目標】**

テーマは学生により異なるが、担当する学生は、毎回発表において問題提起を行う。いかに的確な問題提起を行うかは研究テーマへの深い理解を必要とする。参加学生全員による積極的なディスカッションを通じてテーマの理解をふかめることを目的としている。また、プレゼンテーションについてのスキル（文献収集や調査、わかりやすいレジュメの作成、パワーポイントの作成、人前での発表、適切な問題提起と他の学生の意見を交えての最終的なコメント提供など）を身につけることが可能となる。

[]

**【授業の概要と方法】**

本研究会では、健康、医療、生命倫理関連のテーマについて幅広く焦点を当て、学生の自主的なテーマの選択、調査研究により発表を行う。1 年に 2 回の発表であるが、同じテーマについて掘り下げて研究し、より完成度の高い調査発表を行い、最終的に卒論としてまとめることを目標としている。

[]

[]

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	発表日程、テーマの決定
第 2 回	図書館ガイダンス	文献検索方法など
第 3 回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション (1)	研究発表とディスカッション
第 4 回	同上 (2)	同上 (2)
第 5 回	同上 (3)	同上 (3)
第 6 回	同上 (4)	同上 (4)
第 7 回	同上 (5)	同上 (5)
第 8 回	同上 (6)	同上 (6)
第 9 回	同上 (7)	同上 (7)
第 10 回	同上 (8)	同上 (8)
第 11 回	同上 (9)	同上 (9)
第 12 回	同上 (10)	同上 (10)
第 13 回	同上 (11)	同上 (11)
第 14 回	同上 (12)	同上 (12)
第 15 回	前期のまとめ	前期のまとめ
第 16 回	ガイダンス	後期の発表日程及びテーマの決定
第 17 回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション (13)	研究発表とディスカッション
第 18 回	同上 (14)	同上 (14)
第 19 回	同上 (15)	同上 (15)
第 20 回	同上 (16)	同上 (16)
第 21 回	同上 (17)	同上 (17)
第 22 回	同上 (18)	同上 (18)
第 23 回	同上 (19)	同上 (19)
第 24 回	同上 (20)	同上 (20)
第 25 回	同上 (21)	同上 (21)
第 26 回	同上 (22)	同上 (22)
第 27 回	同上 (23)	同上 (23)
第 28 回	同上 (24)	同上 (24)
第 29 回	同上 (25)	同上 (25)
第 30 回	1 年のまとめ	1 年のまとめ

**【授業外に行うべき学習活動 (準備学習等)】**

日頃から健康関連のニュースに関心を持ち、新聞を読むこと。気になるテーマがあれば、関連図書を読むこと。

**【テキスト】**

開講時に指定します

**【参考書】**

特になし

**【成績評価基準】**

前期、後期にそれぞれ一回ずつの発表を行う。その際のレジュメ、発表内容、通常の出席および参加態度により評価を行います。

**【学生による授業改善アンケートからの気づき】**

学生の自発的な発言機会を増やすようにしていく。

**【関連の深いコース】**

環境教養

**研究会 (A)****宮川 路子**

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：月 4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業のテーマ】**

現代社会を健康に生きていくために

ストレスに満ち溢れた現代社会においては、自殺者の数が 13 年連続で 3 万人を超え、メンタル面での障害を抱えながら生きている人の数も非常に多い。就労形態の多様化、過重労働、ワークライフバランスの問題など、就労環境におけるストレスも移り変わりつつ増加している。不規則な生活などにより生活習慣病に罹っている人の割合も多く、私たちが肉体的、精神的に健康に生きていくためにはさまざまな障壁がある。さらに、めまぐるしく移り変わる医療をめぐる環境においては、氾濫する情報を的確に取捨選択して自己の健康管理を行っていくことが求められる。

**【授業の到達目標】**

テーマは学生により異なるが、担当する学生は、毎回発表において問題提起を行う。いかに的確な問題提起を行うかは研究テーマへの深い理解を必要とする。参加学生全員による積極的なディスカッションを通じてテーマの理解をふかめることを目的としている。また、プレゼンテーションについてのスキル（文献収集や調査、わかりやすいレジュメの作成、パワーポイントの作成、人前での発表、適切な問題提起と他の学生の意見を交えての最終的なコメント提供など）を身につけることが可能となる。

[]

**【授業の概要と方法】**

本研究会では、健康、医療、生命倫理関連のテーマについて幅広く焦点を当て、学生の自主的なテーマの選択、調査研究により発表を行う。1 年に 2 回の発表であるが、同じテーマについて掘り下げて研究し、より完成度の高い調査発表を行い、最終的に卒論としてまとめることを目標としている。

[]

[]

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	発表日程、テーマの決定
第 2 回	図書館ガイダンス	文献検索方法など
第 3 回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション (1)	研究発表とディスカッション
第 4 回	同上 (2)	同上 (2)
第 5 回	同上 (3)	同上 (3)
第 6 回	同上 (4)	同上 (4)
第 7 回	同上 (5)	同上 (5)
第 8 回	同上 (6)	同上 (6)
第 9 回	同上 (7)	同上 (7)
第 10 回	同上 (8)	同上 (8)
第 11 回	同上 (9)	同上 (9)
第 12 回	同上 (10)	同上 (10)
第 13 回	同上 (11)	同上 (11)
第 14 回	同上 (12)	同上 (12)
第 15 回	前期のまとめ	前期のまとめ
第 16 回	ガイダンス	後期の発表日程及びテーマの決定
第 17 回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション (13)	研究発表とディスカッション
第 18 回	同上 (14)	同上 (14)
第 19 回	同上 (15)	同上 (15)
第 20 回	同上 (16)	同上 (16)
第 21 回	同上 (17)	同上 (17)
第 22 回	同上 (18)	同上 (18)
第 23 回	同上 (19)	同上 (19)
第 24 回	同上 (20)	同上 (20)
第 25 回	同上 (21)	同上 (21)
第 26 回	同上 (22)	同上 (22)
第 27 回	同上 (23)	同上 (23)
第 28 回	同上 (24)	同上 (24)
第 29 回	同上 (25)	同上 (25)
第 30 回	1 年のまとめ	1 年のまとめ

**【授業外に行うべき学習活動 (準備学習等)】**

日頃から健康関連のニュースに関心を持ち、新聞を読むこと。気になるテーマがあれば、関連図書を読むこと。

**【テキスト】**

開講時に指定します

**【参考書】**

特になし

**【成績評価基準】**

前期、後期にそれぞれ一回ずつの発表を行う。その際のレジュメ、発表内容、通常の出席および参加態度により評価を行います。

**【学生による授業改善アンケートからの気づき】**

学生の自発的な発言機会を増やすようにしていく。

**【関連の深いコース】**

環境教養



## 研究会 (A)

安田 章人

配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時間：金 3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

&lt;フィールドワークにもとづく伊豆大島の地域研究&gt;

人間と環境のかかわりをテーマとして、フィールドワークにもとづいた地域研究をおこなう。その過程をとおして、各自の具体的な経験のなから問題意識を練りあげ、実際に自分が取り組むことのできる課題を見いだし、その課題にフィールドワークによってアプローチして、解答をあたえる方法を身につける。フィールドは原則として伊豆大島とするが、他地域との比較研究も推奨する。

## 【授業の到達目標】

年単位でのフィールドワークをおこなうことによって、以下の主要な能力およびそれにもなう姿勢を身につけることを目標とする。

- ・自らトピックをみつけることができるための高い問題発見能力と問題意識
- ・フィールドワークにおいて、地域に入り込み、重厚なデータを収集することができるための情報集積力および、行動力、柔軟性
- ・学術的意義の高い課題を設定し、得られたデータから深い考察をおこなうことができる論理構成力と理論的考察力

[]

## 【授業の概要と方法】

本授業は、授業時間外にフィールドワークを実施することが必須である。授業時間中には、フィールドワークの構想、および調査レポートや論文に関するプレゼンテーションとディスカッションをおこなう。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	オリエンテーション・ガイダンスによって、通年のゼミ計画を討議する
第2回	フィールドワーク準備・計画1	全員で、フィールドに関する二次資料を収集し、基礎的情報を得る。
第3回	フィールドワーク準備・計画2	2年生による、研究関心およびトピックの選定、予備調査計画についてのプレゼンテーションをおこなう
第4回	フィールドワーク準備・計画3	2年生による、研究関心およびトピックの選定、予備調査計画についてのプレゼンテーションをおこなう
第5回	フィールドワーク準備・計画4	2年生による、研究関心およびトピックの選定、予備調査計画についてのプレゼンテーションをおこなう
第6回	フィールドワーク準備・計画5	2年生による、研究関心およびトピックの選定、予備調査計画についてのプレゼンテーションをおこなう
第7回	フィールドワーク準備・計画6	3年生による、研究進展状況および本調査計画についてのプレゼンテーションをおこなう
第8回	フィールドワーク準備・計画7	3年生による、研究進展状況および本調査計画についてのプレゼンテーションをおこなう
第9回	フィールドワーク準備・計画8	3年生による、研究進展状況および本調査計画についてのプレゼンテーションをおこなう
第10回	フィールドワーク準備・計画9	3年生による、研究進展状況および本調査計画についてのプレゼンテーションをおこなう
第11回	フィールドワーク準備・計画10	4年生による、研究会修了論文完成のための予備調査の計画についてのプレゼンテーションをおこなう。
第12回	フィールドワーク準備・計画11	4年生による、研究会修了論文完成のための予備調査の計画についてのプレゼンテーションをおこなう。
第13回	フィールドワーク準備・計画12	4年生による、研究会修了論文完成のための予備調査の計画についてのプレゼンテーションをおこなう。
第14回	フィールドワーク準備・計画13	4年生による、研究会修了論文完成のための予備調査の計画についてのプレゼンテーションをおこなう。
第15回	フィールドワーク準備・計画14	全員で、夏休みにおこなうフィールドワークに関する事務的作業をおこなう
第16回	フィールドワーク報告1	2年生による、予備調査の結果報告と、今後の研究計画についてのプレゼンテーションをおこなう。

第17回	フィールドワーク報告2	2年生による、予備調査の結果報告と、今後の研究計画についてのプレゼンテーションをおこなう。
第18回	フィールドワーク報告3	2年生による、予備調査の結果報告と、今後の研究計画についてのプレゼンテーションをおこなう。
第19回	フィールドワーク報告4	2年生による、予備調査の結果報告と、今後の研究計画についてのプレゼンテーションをおこなう。
第20回	フィールドワーク報告5	3年生による、本調査の結果報告と、全体的な考察に関するプレゼンテーションをおこなう。
第21回	フィールドワーク報告6	3年生による、本調査の結果報告と、全体的な考察に関するプレゼンテーションをおこなう。
第22回	フィールドワーク報告	3年生による、本調査の結果報告と、全体的な考察に関するプレゼンテーションをおこなう。
第23回	フィールドワーク報告	3年生による、本調査の結果報告と、全体的な考察に関するプレゼンテーションをおこなう。
第24回	フィールドワーク報告	4年生による、研究会修了論文の構成に関するプレゼンテーションをおこなう。
第25回	フィールドワーク報告	4年生による、研究会修了論文の構成に関するプレゼンテーションをおこなう。
第26回	フィールドワーク報告	4年生による、研究会修了論文の構成に関するプレゼンテーションをおこなう。
第27回	フィールドワーク報告	4年生による、研究会修了論文の構成に関するプレゼンテーションをおこなう。
第28回	研究成果報告1	4年生による最終研究成果発表会をおこなう
第29回	研究成果報告2	4年生による最終研究成果発表会をおこなう
第30回	研究成果報告3	4年生による最終研究成果発表会をおこなう

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

普段からメディアなどを通して、自身の研究課題およびフィールドに関する情報を収集しておくこと。

## 【テキスト】

研究会中に、適宜指示する。

## 【参考書】

研究会中に、適宜指示する。

## 【成績評価基準】

普段の研究会とフィールドワークにおける研究姿勢および成果から総合的に評価する。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

より活発な議論が展開されるように、ディスカッション進行における工夫をおこなう。

## 【関連の深いコース】

地域環境

**研究会 (A)**

吉田 秀美

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：金 4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業のテーマ】**

途上国の諸問題を掘り下げて考える。

**【授業の到達目標】**

国際協力に関連する分野の卒業論文を執筆することで、これまで学んできた様々な知識を体系的にまとめる能力を身につける。

[]

**【授業の概要と方法】**

論文執筆に関するガイダンスを行なったうえで、各自が卒業論文のテーマを設定して研究を進める。

各回の授業では、研究の進捗を発表し、他の受講者も交えた討論や教員のアドバイスを受けることで、テーマを深めていく。

[]

[]

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	論文の書き方についての説明
第 2 回	文献講読	各自のテーマに合わせた文献を選び講読
第 3 回	文献講読	同上
第 4 回	文献講読	同上
第 5 回	文献講読	同上
第 6 回	文献講読	同上
第 7 回	文献講読	同上
第 8 回	論文テーマ報告会	選定したテーマを報告する
第 9 回	文献講読	報告に基づき、新たな文献を選定して講読
第 10 回	文献講読	同上
第 11 回	文献講読	同上
第 12 回	文献講読	同上
第 13 回	文献講読	同上
第 14 回	文献講読	同上
第 15 回	進捗状況報告会	各自の研究の進捗を報告する
第 16 回	文献講読	同上
第 17 回	文献講読	新たな文献を講読
第 18 回	文献講読	同上
第 19 回	文献講読	同上
第 20 回	文献講読	同上
第 21 回	文献講読	同上
第 22 回	文献講読	同上
第 23 回	進捗状況報告会	各自の進捗を報告する
第 24 回	卒論ドラフト個別指導	ドラフトへのコメント
第 25 回	卒論ドラフト個別指導	同上
第 26 回	卒論ドラフト個別指導	同上
第 27 回	卒論ドラフト個別指導	同上
第 28 回	卒論ドラフト個別指導	同上
第 29 回	卒論ドラフト個別指導	同上
第 30 回	最終報告会	論文の内容を発表する

**【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】**

夏休み期間中に各自で調査・研究を進めること

**【テキスト】**

授業内に適宜紹介

**【参考書】**

授業内に適宜紹介

**【成績評価基準】**

本人の取り組み姿勢と卒業論文

**【学生による授業改善アンケートからの気づき】**

テーマの選定を本人の関心に合わせてしっかり指導していきたいです。

**【関連の深いコース】**

国際環境

## 研究会 (A)

## 松本 倫明

配当年次/単位：2～4 年 / 4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：火 6

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

「科学」そして「技術」の目的と役割は何であるのか？を考察します。具体的な科学技術の例の中からテーマを設定し、調査・報告・討論しながら人間と科学技術の関係性などについて考察を深めます。具体的な調査内容は授業時に相談しながら選定します。

## 【授業の到達目標】

今日我々が抱えている環境問題を科学技術の進歩の結果としてとらえ、その歴史や役割などを考察し、我々のライフスタイルなどを結びつけながら科学技術のあり方を考えます。これによりその将来像を模索します。

[]

## 【授業の概要と方法】

<前期>数名ずつに分かれてグループ研究を行います。その検討結果を発表し合い、お互いの問題意識やそれに関わる知識を全員で共有します。また学外の施設見学や環境展示会などに参加し、そこでの調査内容を報告し検討します。これにより科学技術と人間・社会との関わりを考察します。<後期>個人の研究テーマについて調査・研究を進め、報告と討論を行います。具体事例についてのメリット・デメリット、経済性、環境貢献性などについて多角的に考察を行い、科学技術のもつ限界や可能性などについて検討します。4年生は「研究会修了論文」を提出することを前提としており、その中間発表と最終報告も行います。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	1 年間の授業計画についての打ち合わせを行います
第 2 回	導入ディスカッション (1)	共通テーマをもとに全員で話し合いを行います
第 3 回	導入ディスカッション (2)	共通テーマをもとに全員で話し合いを行います
第 4 回	基礎事項の確認 (1)	科学と技術を考察するのに必要な基礎的事項を学習します
第 5 回	基礎事項の確認 (2)	科学と技術を考察するのに必要な基礎的事項を学習します
第 6 回	環境展示会の参加と検討 (1)	環境展などに参加し、その内容について検討します
第 7 回	環境展示会の参加と検討 (2)	環境展などに参加し、その内容について検討します
第 8 回	グループ研究 (1)	少人数のグループに分かれてそれぞれのテーマについて調査・検討し発表します
第 9 回	グループ研究 (2)	少人数のグループに分かれてそれぞれのテーマについて調査・検討し発表します
第 10 回	グループ研究 (3)	少人数のグループに分かれてそれぞれのテーマについて調査・検討し発表します
第 11 回	グループ研究 (4)	少人数のグループに分かれてそれぞれのテーマについて・調査検討し発表します
第 12 回	グループ研究 (5)	少人数のグループに分かれてそれぞれのテーマについて調査・検討し発表します
第 13 回	個人研究 (1)	個人研究のテーマについて打ち合わせを行います
第 14 回	個人研究 (2)	個人研究のテーマについて打ち合わせを行います
第 15 回	個人研究 (3)	個人研究のテーマについて打ち合わせを行います
第 16 回	個人研究の報告と検討 (1)	個人研究の調査内容について報告し討論します
第 17 回	個人研究の報告と検討 (2)	個人研究の調査内容について報告し討論します
第 18 回	個人研究の報告と検討 (3)	個人研究の調査内容について報告し討論します
第 19 回	卒論の中間報告 (1)	研究会修了論文 (卒論) の中間報告を行います
第 20 回	卒論の中間報告 (2)	研究会修了論文 (卒論) の中間報告を行います

第 21 回	卒論の中間報告 (3)	研究会修了論文 (卒論) の中間報告を行います
第 22 回	卒論の中間報告 (4)	研究会修了論文 (卒論) の中間報告を行います
第 23 回	個人研究の報告と検討 (4)	個人研究の調査内容について報告し討論します
第 24 回	個人研究の報告と検討 (5)	個人研究の調査内容について報告し討論します
第 25 回	総合討論 (1)	共通テーマを設定し総合討論を行います
第 26 回	総合討論 (2)	共通テーマを設定し総合討論を行います
第 27 回	総合討論 (3)	共通テーマを設定し総合討論を行います
第 28 回	卒論の最終報告 (1)	研究会修了論文 (卒論) の最終報告を行います
第 29 回	卒論の最終報告 (2)	研究会修了論文 (卒論) の最終報告を行います
第 30 回	卒論の最終報告 (3)	研究会修了論文 (卒論) の最終報告を行います

## 【授業外に行うべき学習活動 (準備学習等)】

グループ研究テーマあるいは個人研究テーマを進めるための調査、検討、資料作成を行うこととします。

## 【テキスト】

特に使用しません。

## 【参考書】

開講時に紹介します。

## 【成績評価基準】

出席状況、報告内容、討論参加の積極性、レポート内容などをもとに総合的に評価します。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

基礎事項などについては、ゆっくと、わかりやすく説明をするようにします。

## 【関連の深いコース】

環境教養

**研究会 (A)**

高田 雅之

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：金 3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業のテーマ】**

生態系を保全するためのアプローチとその効果について、様々な情報や事例をもとに、探求と議論をとおして考え、取りまとめることをテーマとします。生態系の保全といっても、対象は水域、農地、都市、湿原、森林、特定の生物など様々です。また保全する主体と方法、目指す姿も多様で、研究の組み立てと道のりは決して楽なものではありません。研究会では、各自の問題意識をもとに課題を設定し、卒業論文を目指して研究成果を着実にまとめていきます。

**【授業の到達目標】**

個々の学生において以下の 3 点を目標とします。

- ①自ら設定した課題に関する情報を収集し、理解に基づいて体系化できること
- ②共通する課題について他者と議論し、異なった観点からの意見を整理できること
- ③研究課題に対して自らの力で分析と考察を行い、成果として論文にまとめ、発表できること

[]

**【授業の概要と方法】**

各自の自然環境に対する問題意識に沿って自主的に課題を設定し、情報収集と整理分析、事例研究、フィールドワークなどの調査を行い、分析と考察を経て研究成果として取りまとめ、発表することを基本とします。前期は、共通する課題をもつ人でグループを作り、主にグループ討議をとおして研究技術を身に付け、期末に成果を発表します。後期は個人研究を中心に、最終的な卒業論文作成につながる研究成果を取りまとめ、研究論文を作成し発表します。

[]

[]

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	研究会の進め方、課題の設定
第 2 回	グループ研究	グループ討議と発表
第 3 回	グループ研究	グループ討議と発表
第 4 回	グループ研究	グループ討議と発表
第 5 回	グループ研究	グループ討議と発表
第 6 回	グループ研究	グループ討議と発表
第 7 回	グループ研究	中間まとめ
第 8 回	中間発表	研究成果の発表
第 9 回	グループ研究	グループ討議と発表
第 10 回	グループ研究	グループ討議と発表
第 11 回	グループ研究	グループ討議と発表
第 12 回	グループ研究	グループ討議と発表
第 13 回	グループ研究	グループ討議と発表
第 14 回	グループ研究	グループ成果まとめ
第 15 回	前期成果発表	グループ研究の成果発表
第 16 回	ガイダンス	後期の研究会の進め方
第 17 回	個人研究	研究計画作成と発表
第 18 回	個人研究	情報収集と発表
第 19 回	個人研究	情報収集と発表
第 20 回	個人研究	情報整理と発表
第 21 回	個人研究	調査分析と発表
第 22 回	個人研究	調査分析と発表
第 23 回	中間発表	研究成果の発表
第 24 回	個人研究	調査分析と発表
第 25 回	個人研究	解析・考察と発表
第 26 回	個人研究	解析・考察と発表
第 27 回	個人研究	成果まとめ
第 28 回	個人研究	成果まとめ
第 29 回	年間成果発表	個人研究の成果発表
第 30 回	年間成果発表	個人研究の成果発表

**【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】**

各自または共通の課題に関して、文献及び情報の収集や資料作成、必要なフィールドワークなど、成果に向けた調査研究を着実に行ってください。

**【テキスト】**

特定のものはありません。講義において適宜資料を配布します。

**【参考書】**

講義において随時紹介します。

**【成績評価基準】**

出席点、平常点（議論への参加、学習意欲、自主的な研究など）、研究成果（発表と論文）を総合的に評価します。

**【学生による授業改善アンケートからの気づき】**

特になし

**【その他】**

新たな研究会ですので、新 2 年生と新 3 年生を対象とします。定員は各学年でそれぞれ 8 名とし、応募者が超過した場合は書面（志望理由と問題意識）で選抜します。その際、生態系を研究対象としますので、自然科学（理系）に組み込む意欲のある者を優先します。また、前年度までに「地球環境論」「自然環境政策論」を履修していない学生は、今年度に「自然環境政策論 I（前期）及び II（後期）」を必ず履修してください。

**【関連の深いコース】**

環境教養、地域環境



**研究会 (B)**

井上 奉生

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：金 6

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業のテーマ】**

様々な環境問題について

**【授業の到達目標】**

この研究会では、我々を取り巻いている大なり小なりの環境問題をテーマとし、最終的にはレポート作成まで実施する。

[]

**【授業の概要と方法】**

受講決定次第（5月初旬）までに各自でテーマを設定する。（3・4年生でテーマが決まっている場合はこの限りではない）。レポート作成まで進行可能か否かを徹底討論する。レポート提出の目安は12月最終日とする。なお、各回の発表者は各自それぞれ当日の発表分についてレジュメを一週間前までに全員に配布のこと。

[]

[]

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	研究会活動概要の説明
第2回	討議（1）	テーマ設定の討議
第3回	討議（2）	テーマ設定の討議
第4回	発表（1）	各自のテーマ発表・質疑応答
第5回	発表（2）	各自のテーマ発表・質疑応答
第6回	発表（3）	各自のテーマ発表・質疑応答
第7回	発表（4）	各自のテーマ発表・質疑応答
第8回	発表（5）	各自のテーマ発表・質疑応答
第9回	発表（6）	各自のテーマ発表・質疑応答
第10回	発表（7）	各自のテーマ発表・質疑応答
第11回	発表（8）	各自のテーマ発表・質疑応答
第12回	発表（9）	各自のテーマ発表・質疑応答
第13回	発表（10）	各自のテーマ発表・質疑応答
第14回	発表（11）	各自のテーマ発表・質疑応答
第15回	前期の総括	前期のまとめ・合宿のテーマ等
第16回	発表（12）	各自の夏季休暇中の達成度発表
第17回	発表（13）	各自の夏季休暇中の達成度発表
第18回	発表（14）	各自のテーマ発表・質疑応答
第19回	発表（15）	各自のテーマ発表・質疑応答
第20回	発表（16）	各自のテーマ発表・質疑応答
第21回	発表（17）	各自のテーマ発表・質疑応答
第22回	発表（18）	各自のテーマ発表・質疑応答
第23回	発表（19）	各自のテーマ発表・質疑応答
第24回	発表（20）	各自のテーマ発表・質疑応答
第25回	発表（21）	各自のテーマ発表・質疑応答
第26回	発表（22）	各自のテーマ発表・質疑応答
第27回	発表（23）	各自のテーマ発表・質疑応答
第28回	論文発表（1）	研究会論文発表
第29回	論文発表（2）	研究会論文発表
第30回	総括	一年間のまとめ

**【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】**

夏季休暇中にグループ毎の共通テーマを決めて合宿を実施する。

**【テキスト】**

特になし。

**【参考書】**

各自で学会誌等を検索し参考にする。教員が指示する場合もある。

**【成績評価基準】**

研究会という性格上、出席（8割以上）、レジュメの質、討論、会の運営に対する貢献等は単位取得の重要なポイントとなる。

**【学生による授業改善アンケートからの気づき】**

特になし。

**【その他】**

各回の発表時には活発な質疑応答を希望する。そのためには予習復習を必ずすること。

この研究会は学生主体で実施するので、コンパ・ゼミ合宿等のイベントはその都度決定する。

この研究会は通年（前・後期セメスター継続）で実施するので前期あるいは後期のみの受講は認めない。

**【関連の深いコース】**

地域環境

**研究会 (B)**

岡松 暁子

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：水 2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業のテーマ】**

国際法・国際環境法に関する英語の文献や裁判の判決を講読し、関連する問題についての討論を行う。

**【授業の到達目標】**

専門領域における英語文献を抵抗なく購読できるようになること。

[]

**【授業の概要と方法】**

・参加者の関心のあるテーマについて、英語の文献を全員で講読する。  
\*受講者の人数や関心により、必ずしも計画通りに進行しないことがある。  
\*必要に応じてサブゼミを行う。

[]

[]

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスおよび打ち合わせ	講読文献と鑑賞映画の選定
第2回	文献購読（1）	文献講読と討論
第3回	文献購読（2）	文献講読と討論
第4回	文献購読（3）	文献講読と討論
第5回	文献購読（4）	文献講読と討論
第6回	文献購読（5）	文献講読と討論
第7回	文献購読（6）	文献講読と討論
第8回	映画鑑賞会（1）	映画鑑賞と討論
第9回	判例研究（1）	判例講読と討論
第10回	判例研究（2）	判例講読と討論
第11回	判例研究（3）	判例講読と討論
第12回	判例研究（4）	判例講読と討論
第13回	判例研究（5）	判例講読と討論
第14回	映画鑑賞会（2）	映画鑑賞と討論
第15回	まとめ	まとめ
第16回	ガイダンスおよび打ち合わせ	講読文献と鑑賞映画の選定
第17回	文献購読（7）	文献講読と討論
第18回	文献購読（8）	文献講読と討論
第19回	文献購読（9）	文献講読と討論
第20回	文献購読（10）	文献講読と討論
第21回	文献購読（11）	文献講読と討論
第22回	文献購読（12）	文献講読と討論
第23回	映画鑑賞会（3）	映画鑑賞と討論
第24回	判例研究（6）	判例講読と討論
第25回	判例研究（7）	判例講読と討論
第26回	判例研究（8）	判例講読と討論
第27回	判例研究（9）	判例講読と討論
第28回	判例研究（10）	判例講読と討論
第29回	映画鑑賞会（4）	映画鑑賞と討論
第30回	まとめ	まとめ

**【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】**

毎回の予習

**【テキスト】**

受講者と相談の上、その都度指示する

**【参考書】**

受講者と相談の上、その都度指示する

**【成績評価基準】**

平常点

**【学生による授業改善アンケートからの気づき】**

これまでと同様の方法で進める。

**【関連の深いコース】**

国際環境

## 研究会（B）

岡松 暁子

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：金 6

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

「文化的景観」とエコツーリズム：「文化的景観」という考え方をベースに、地域固有の自然・文化資産を活かしたエコな地域形成・人間形成の可能性について、広義のエコツーリズムや「観光文化」、エコミュージアムなどの視点と結びつけながら、個別の現地訪問を通じて事例研究をおこなう。

## 【授業の到達目標】

「五感尊重の環境教育やまちづくり」「無形の（目に見えない）宝物」などのキーワードを意識しながら、「よい（美しい）景観」とは何か、エコツーリズムとは何か、といったことについて、世間一般の表面的なイメージを越えて、旅の現地調査を通じて考察し、どんな地域でも潜在的に可能性をもつことを実感的につかめること。また、一見「環境」というテーマと関係が薄そうな事柄も、大いにエコにかかわるという柔軟な視野を養えること。

[]

## 【授業の概要と方法】

一年の流れは授業計画参照。現地訪問（各自の関心によりフィールドを決め、ヒアリング調査を必ず含んで自主的に企画する。グループ研究も可）は、都会も含めて身近な地域を選んで構わないし、特定の地域に限定されないテーマ（例えば、日本人とある動物との関わり など）も想定可。訪問期は、夏休み他、通年設定可能。教室では、各自の調査についての発表・披露が中心になるが、「五感」「無形のもの」「目に見えないもの」など、重要なキーワードをめぐって、随時グループワークも行う。例年夏に、親睦をはかるゼミ合宿が企画されている。なお金曜5限 A ゼミとは、卒業時に修了論文を書く資格の有無以外は、レベル・内容に差はない。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス、自己紹介	年間スケジュールの説明等
第 2 回	昨年度の研究成果発表 ①、意見交換	研究発表は 1 人 10～15 分程度、1 回につき 1～2 名。
第 3 回	①に関連するグループワーク（GW）	前回発表の中でのポイントに沿ったテーマ設定。
第 4 回	昨年度の研究成果発表 ②、意見交換	第 2 回と同じ。
第 5 回	②に関連する GW、現地訪問の個別構想情報交換（1）	第 3 回と同じ。
第 6 回	昨年度の研究成果発表 ③、意見交換	第 2 回と同じ。
第 7 回	③に関連する GW	第 3 回と同じ。
第 8 回	昨年度の研究成果発表 ④、意見交換	第 2 回と同じ。
第 9 回	④に関連する GW、現地訪問の個別構想情報交換（2）	第 3 回と同じ。
第 10 回	昨年度の研究成果発表 ⑤、意見交換	第 2 回と同じ。
第 11 回	⑤に関連する GW	第 3 回と同じ。
第 12 回	昨年度の研究成果発表 ⑥、意見交換	第 2 回と同じ。
第 13 回	現地訪問の個別構想情報交換（3）	テーマやフィールドの性格に共通性がある学生同士は互いに協力することを考える。
第 14 回	小フィールドスタディ（神楽坂等の夏の祭事）	90 分以内で学べるフィールドを選ぶ。
第 15 回	ゼミ合宿	個別の現地訪問計画書提出
通年	テーマ	内容
第 16 回	現地訪問成果の中間報告 ①、意見交換	研究発表は 1 人 10～15 分程度、1 回につき 1～2 名。
第 17 回	①に関連する GW	第 3 回と同じ
第 18 回	現地訪問成果の中間報告 ②、意見交換	第 16 回と同じ
第 19 回	②に関連する GW	第 3 回と同じ
第 20 回	現地訪問成果の中間報告 ③、意見交換	第 16 回と同じ
第 21 回	③に関連する GW	第 3 回と同じ
第 22 回	現地訪問成果の中間報告 ④、意見交換	第 16 回と同じ
第 23 回	④に関連する GW	第 3 回と同じ

第 24 回	現地訪問成果の中間報告 ⑤、意見交換	第 16 回と同じ
第 25 回	⑤に関連する GW	第 3 回と同じ
第 26 回	現地訪問成果の中間報告 ⑥、意見交換	第 16 回と同じ
第 27 回	⑥に関連する GW、4 年生による自主就活セミナー	第 3 回と同じ
第 28 回	学年末論文の構想発表（タイトル・要旨・仮目次等）	論文に使用する参考文献リストも合わせて提出。
第 29 回	小フィールドスタディ（年末の街のイベント）	第 14 回と同じ。
第 30 回	一年の総括と年始街歩き	論文作成の最終アドバイス

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

各自、現地訪問の準備にあたる予備知識や現地情報の収集（主に前期）。授業内（教室）以外でのゼミ生相互の有益な情報交換。近場の自主的訪問等。

## 【テキスト】

特に指定なし。

## 【参考書】

授業のなかで紹介します。

## 【成績評価基準】

出席、発表内容、学年末論文、ゼミという組織の中での協調性・貢献度、等々の総合評価。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

特になし。

## 【関連の深いコース】

地域環境、環境教養

## 研究会 (B)

### 北川 徹哉

配当年次/単位：2～4年/4単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：火 5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

#### 【授業のテーマ】

本研究会のテーマは人間生活圏の気象である。

#### 【授業の到達目標】

1. 人の生活・社会と気象とのかかわりを説明できる。
2. 様々な気象の特徴やしきみについて説明できる。
3. 気象に表れる環境問題について説明できる。

【】

#### 【授業の概要と方法】

気象は私たちにとって身近なものであり、私たちが地表で社会生活を営んでいる限りは必然的に付き合っゆく存在である。また、多くの企業ではその収益が気象の影響を受けるなど、気象と経済・経営とも密接な関係がある。本研究会では、これらの気象と社会や経済との関係を念頭に、気象を基礎からゆっくりと勉強する。テキストを2冊ほど選び、各自の担当部分を決めて前期は1冊目を、後期は2冊目を輪読してゆく。各回の担当者は自分の担当部分を理解して内容をまとめて臨み、発表する。

【】

【】

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	テキスト(1)の内容について	輪読するテキスト・資料の内容説明、輪読担当部分の取り決め
第2回	担当部分の発表・質疑応答	1番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第3回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	2番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第4回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	3番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第5回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	4番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第6回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	5番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第7回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	6番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第8回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	7番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第9回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	8番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第10回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	9番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第11回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	10番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第12回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	11番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第13回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	12番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第14回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	13番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第15回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	14番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第16回	テキスト(2)の内容について	輪読するテキスト・資料の内容説明、輪読担当部分の取り決め
第17回	担当部分の発表・質疑応答	1番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第18回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	2番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第19回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	3番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第20回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	4番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第21回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	5番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第22回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	6番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第23回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	7番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第24回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	8番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第25回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	9番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論

第26回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	10番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第27回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	11番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第28回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	12番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第29回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	13番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第30回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	14番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論

#### 【授業外に行うべき学習活動(準備学習等)】

第1～30回：輪読箇所・精読と不明箇所の事前調査、発表用スライドなどの作成、発表の練習

#### 【テキスト】

授業時に指定する。

#### 【参考書】

適宜、紹介する。

#### 【成績評価基準】

発表(50%：スライドなどの良好度、説明の正確さ、質疑応答の適切さ、到達目標1～3への達成度)、議論(50%：説明の正確さ、質疑応答の適切さ、到達目標1～3への達成度)により評価する。

#### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

該当なし。

#### 【その他】

皆で議論をしながら、一緒に勉強してゆきましょう。

#### 【関連の深いコース】

全てのコース

## 研究会 (B)

## ESTHER STOCKWELL

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：月 2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

\* Human Communication \*

Our lives are made up of communication in many different forms. We communicate with people around us not only through verbal language, but also through other forms of communication as well. The ability to communicate effectively is important in university study and in professional life. Differences in culture often have an effect on the way in which we communicate with each other. News and current events are also communicated to us through media such as newspapers, television and the Internet. These concepts will be discussed in this subject.

## 【授業の到達目標】

This course combines both theory and practice, and provides an overview of the different aspects of human communication. We will cover fundamental theories to explain features of interpersonal relationships, groups, organizational relationships, cultural diversity, cultural attitudes, groups and persuasion, mass media, and the effects of the media on receivers. Students will learn to question why some forms of communication work and why others fail. Individual, social and technological aspects of communication are examined from theoretical and practical points of view.

[]

## 【授業の概要と方法】

Classes will consist of a series of short lectures and other visual materials, followed by group and class discussions on the concepts covered in the lectures. In addition, students will be required to prepare for class by reading assigned articles on the topics of the following class.

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Orientation	Overview of the course, online activity, and overview of human communication
第 2 回	Introduction of Communication Studies	Definition of communication / Components of communication / Types of communication
第 3 回	Introduction of Communication Studies	Models of communication / The goal of studying communication
第 4 回	Self, Perception & Communication	What occurs in perception? / How do we perceive others? / What is self-awareness?
第 5 回	Self, Perception & Communication	How does perception affect communication and sense of self?
第 6 回	Verbal Communication	What is language? / Characteristics of language
第 7 回	Verbal Communication	How can language be an enhancement and an obstacle to communication?
第 8 回	Non verbal Communication	What is non-verbal communication? / How are verbal and non-verbal communication related? / What are non-verbal codes?
第 9 回	Non verbal Communication	Why are non-verbal codes difficult to interpret? / How can we improve our non-verbal communication?
第 10 回	Listening & Critical thinking	Misconceptions about listening / The listening process / Four types of listening / Critical listening
第 11 回	Writing Workshop	Planning & writing a short essay
第 12 回	Writing Workshop	Planning & writing an academic paper
第 13 回	Presentation Workshop	Planning & preparing oral presentation / Presentation techniques
第 14 回	Presentation	Students give presentations on their selected topics and evaluate their peers' presentations.

第 15 回	Presentation	Students give presentations on their selected topics and evaluate their peers' presentations.
第 16 回	Fundamental Communication Studies	Overview of the course, online activity, and overview of fundamentals of communication
第 17 回	Interpersonal Communication	The nature of communication in interpersonal relationships
第 18 回	Interpersonal Communication	Essential interpersonal communication behaviour / How to improve interpersonal relationships
第 19 回	Small group Communication	The types & functions of small groups / The role of leadership in small groups
第 20 回	Small group Communication	Theoretical approaches to group leadership / Establishing culture in small groups
第 21 回	Intercultural Communication	Various different cultural patterns / Hofstede's characteristics of culture
第 22 回	Intercultural Communication	Potential problems in intercultural communication / Characteristics of different cultures / Strategies for improving intercultural communication
第 23 回	Organizational Communication	Type of organisations & organisational structures / Communication Network
第 24 回	Organizational Communication	Organisational Assimilation / The dark side of workplace communication
第 25 回	Mass Communication	Synchronous communication / Asynchronous communication / CMC and the communication process
第 26 回	Mass Communication	Mass media organisations / Agenda-setting, Gatekeeping, and Social Reality / Theories of media effects
第 27 回	Communication Research Method	Quantitative analysis / Qualitative analysis
第 28 回	Communication Research Method	Quantitative analysis / Qualitative analysis
第 29 回	Presentation	Students give presentations on their selected topics and evaluate their peers' presentations
第 30 回	Presentation	Students give presentations on their selected topics and evaluate their peers' presentations

## 【授業外に行うべき学習活動 (準備学習等)】

Students are expected to read reference materials for the next class. In addition, they need to write online forum postings after each class for review purposes.

## 【テキスト】

There is no specified textbook for this course. Handouts will be provided in class.

## 【参考書】

Adler, R., & Rodman, G. (2009). Understanding Human Communication (9th Edition). New York: Oxford.

## 【成績評価基準】

Students are expected to participate actively in class. Assessment is based on weekly class participation, presentations and written assignments. Students will not be assessed on their English language skills, but rather on their knowledge of the content of the classes.

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

There were no particular requirements about this course from students. However, I would like this course to enable students to apply what they learnt in class to their daily lives through questioning general phenomena in their lives.

## 【関連の深いコース】

環境教養、国際環境



**研究会 (B)**

後藤 彌彦

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：木 3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業のテーマ】**

テーマ 行政、国会の仕組み

行政法を違う角度から学び、その補完を行うことにより、行政法の克服へ資する。

**【授業の到達目標】**

現代国家に生きるものとして行政に関わる基本的な知識とその応用を習得する。

[]

**【授業の概要と方法】**

行政府（内閣等）と立法府（国会）の仕組みを概観することにより、法律がどのように作られ、どのように執行されるかを学び、「行政法の基礎」とは違った角度からその補完を行う。

したがって、行政法を学びたい者が対象となるが、「行政法の基礎」を受講した者でさらに行政法を学びたい者を優先する。公務員志望者の参加を歓迎する。授業は教材（テキスト、プリント）による講義と学生による事例発表、行政法の個別テーマに関するレポート発表により進める。

[]

[]

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	オリエンテーション
第 2 回	教材による講義	行政①内閣
第 3 回	教材による講義	行政②内閣総理大臣
第 4 回	教材による講義	行政③議院内閣制
第 5 回	教材による講義	行政④行政組織
第 6 回	教材による講義	行政⑤地方公共団体
第 7 回	事例発表	学生による発表と討論
第 8 回	事例発表	学生による発表と討論
第 9 回	事例発表	学生による発表と討論
第 10 回	事例発表	学生による発表と討論
第 11 回	事例発表	学生による発表と討論
第 12 回	事例発表	学生による発表と討論
第 13 回	事例発表	学生による発表と討論
第 14 回	まとめ	授業の総括
第 15 回	まとめ	授業の総括
第 16 回	教材による講義	国会①選挙
第 17 回	教材による講義	国会②任務
第 18 回	教材による講義	国会③政策立案
第 19 回	教材による講義	国会④サポーター
第 20 回	教材による講義	国会⑤政党
第 21 回	教材による講義	国会⑥法律の成立
第 22 回	レポート発表	学生による発表と討論
第 23 回	レポート発表	学生による発表と討論
第 24 回	レポート発表	学生による発表と討論
第 25 回	レポート発表	学生による発表と討論
第 26 回	レポート発表	学生による発表と討論
第 27 回	レポート発表	学生による発表と討論
第 28 回	レポート発表	学生による発表と討論
第 29 回	まとめ	授業の総括
第 30 回	まとめ	授業の総括

**【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】**

教材を予習する

事例、レポート発表のために、準備する

**【テキスト】**

まず、法学ナビゲーション（有斐閣アルマ）を用いる

**【参考書】**

その都度 紹介する

**【成績評価基準】**

発表、討議の状況により評価する

**【学生による授業改善アンケートからの気づき】**

初年時は、人数に応じて、グループによる事例研究を行う。

**【関連の深いコース】**

地域環境、国際環境等

**研究会 (B)**

関口 和男

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：火 6

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業のテーマ】**

仏教とは何か、という素朴な疑問が発せられるほど、私たち日本人は仏教について無知であり、その結果、巷に溢れる多くのいい加減な解説書に振り回される結果となっている。そこで、当研究会では、インド初期仏教の最古層に属する経典をじっくり読んで、本来の仏教の教えとは何かをみにつけるようにする。

**【授業の到達目標】**

仏教の源泉について、しっかり理解できるようになり、そこから、日本仏教などへの正しいアプローチの仕方を習得する。

[]

**【授業の概要と方法】**

毎回の担当者を決めて、じっくり読み、考え、質疑応答していく。

[]

[]

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	前年度までの概説 1	質疑応答
第 2 回	前年度までの概説 2	質疑応答
第 3 回	前年度に引き続き、文献講読	質疑応答
第 4 回	文献講読	質疑応答
第 5 回	文献講読	質疑応答
第 6 回	文献講読	質疑応答
第 7 回	文献講読	質疑応答
第 8 回	文献講読	質疑応答
第 9 回	文献講読	質疑応答
第 10 回	文献講読	質疑応答
第 11 回	文献講読	質疑応答
第 12 回	文献講読	質疑応答
第 13 回	文献講読	質疑応答
第 14 回	文献講読	質疑応答
第 15 回	文献講読	質疑応答
	夏休み中の学習の指示	
第 16 回	文献講読	質疑応答
第 17 回	文献講読	質疑応答
第 18 回	文献講読	質疑応答
第 19 回	文献講読	質疑応答
第 20 回	文献講読	質疑応答
第 21 回	文献講読	質疑応答
第 22 回	文献講読	質疑応答
第 23 回	文献講読	質疑応答
第 24 回	文献講読	質疑応答
第 25 回	文献講読	質疑応答
第 26 回	文献講読	質疑応答
第 27 回	文献講読	質疑応答
第 28 回	文献講読	質疑応答
第 29 回	文献講読	質疑応答
第 30 回	文献講読	質疑応答

**【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】**

世界史・日本史の並行学習。

**【テキスト】**

岩波文庫『ブッダのこころスッタニパーター』中村元訳

岩波文庫『感興のこぼれ』中村元訳

**【参考書】**

適宜指示する

**【成績評価基準】**

平常点

**【学生による授業改善アンケートからの気づき】**

活発な討議を期待する。

**【関連の深いコース】**

環境教養

## 研究会（B）

## 武貞 稔彦

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：木 5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

本研究会では、途上国における開発と環境保全-特に持続可能なエネルギー政策の観点から-をテーマに、先進国の社会の姿と重ね合わせながら議論を行います。

## 【授業の到達目標】

本研究会では、(ア) 開発と環境保全をめぐる議論を広い視野から捉え、(イ) 自らの意見を持ちそれを人に伝え、(ウ) 将来の持続可能な社会の姿を想像できるようにすることを目標とします。

【】

## 【授業の概要と方法】

受講者の積極的な提案に基づき、演習の方法等は随時見直しを行います。主に a) 基礎文献の精読 b) 与えられた課題に関するグループ調査とディスカッション、c) 参加者の意見表明の機会、からなります。

【】

【】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	メンバー間の自己紹介、研究会の進め方（予定）について概説する。
第 2 回	基礎文献の輪読（1）	貧困に関する基礎文献を読み、担当グループの発表に基づき意見交換する。
第 3 回	基礎文献の輪読（2）	貧困に関する基礎文献を読み、担当グループの発表に基づき意見交換する。
第 4 回	基礎文献の輪読（3）	貧困に関する基礎文献を読み、担当グループの発表に基づき意見交換する。
第 5 回	基礎文献の輪読（4）	貧困に関する基礎文献を読み、担当グループの発表に基づき意見交換する。
第 6 回	基礎文献の輪読（5）	貧困における環境問題に関する基礎文献を読み、担当グループの発表に基づき意見交換する。
第 7 回	基礎文献の輪読（6）	貧困に関する基礎文献を読み、担当グループの発表に基づき意見交換する。
第 8 回	グループディスカッション 課題 1	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、更なる調査事項をまとめる
第 9 回	同上	グループ発表および全体ディスカッション
第 10 回	グループディスカッション 課題 2	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、更なる調査事項をまとめる
第 11 回	同上	グループ発表および全体ディスカッション
第 12 回	グループディスカッション 課題 3	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、更なる調査事項をまとめる
第 13 回	同上	グループ発表および全体ディスカッション
第 14 回	グループディスカッション 課題 4	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、更なる調査事項をまとめる
第 15 回	同上	グループ発表および全体ディスカッション
第 16 回	前期まとめと後期オリエンテーション	後期のとり進め方について意見交換を行う。
第 17 回	グループディスカッション 課題 5	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、意見をまとめる。
第 18 回	同上	グループ発表および全体ディスカッション
第 19 回	グループディスカッション 課題 6	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、意見をまとめる。
第 20 回	同上	同上
第 21 回	同上	グループ発表および全体ディスカッション
第 22 回	グループディスカッション 課題 7	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、意見をまとめる。
第 23 回	同上	同上
第 24 回	同上	グループ発表および全体ディスカッション

第 25 回	グループディスカッション 課題 8	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、意見をまとめる。
第 26 回	同上	同上
第 27 回	同上	グループ発表および全体ディスカッション
第 28 回	グループディスカッション 課題 9	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、意見をまとめる。
第 29 回	同上	グループ発表および全体ディスカッション
第 30 回	まとめ	1年間を通しての議論をまとめる

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

基礎文献、与えられた課題（英文含む）は必ず熟読して演習に臨むこと。関連して紹介された参考書も出来る限り目を通すこと。グループで積極的に集まり課題について議論する機会を設けること

## 【テキスト】

開講時に指示します

## 【参考書】

開講時に指示します

## 【成績評価基準】

研究会への出席および議論への貢献、最終レポートを勘案します。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

該当する前年度科目はありませんが、同様の内容である研究会 A のアンケート結果に基づき、グループ内での意見交換の時間、グループ発表後のディスカッション時間の確保のため、議論のとり進め方に十分な時間をとるように留意することとします。

## 【関連の深いコース】

国際環境、地域環境

## 研究会（B）

## 田中 勉

配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：月5

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

## 【授業のテーマ】

千代田区の地域環境政策（CES・千代田エコシステム）研究

## 【授業の到達目標】

このゼミは2006年に法政大学が千代田区と締結した「事業協力協定」に基づき設置された特別の科目です。

千代田区における「個人の環境配慮行動を促進する仕組み」を研究し、実践することを目的としています。

これまで5年間の研究と実践活動の実績をもとに、さらなる改善を目指して進めます。

[]

## 【授業の概要と方法】

まず千代田区の地域特性を把握するために区の統計資料や文献を学び、区の関係者（区役所・企業・NPO）からの聞き取りを行う。平行して、「個人の環境配慮行動」に関わる要因について文献を読み、理解を深める。

このゼミの特徴は、区内の関係者と協働して実践活動を行うことにある。千代田区温暖化対策課やCES推進協議会が開催する環境イベントへの参加などとして「CES・千代田エコシステム」の周知・普及をはかる。またキャンパス内でも活動し、環境へ配慮した行動・生活スタイルの実践を呼びかける。なお、このゼミの運営はゼミ生の計画に基づきゼミ生自身がおこなうのが特徴である。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	メンバー確認、CESについて	ゼミメンバーを確認し、主要な役割分担を相談する。 環境マネジメントシステムとは何か、CESの特色について、説明と質疑。
第2回	ゼミの経過（報告書）講義	2010年度活動報告書について前年度メンバーから説明。
第3回	千代田区の特性①	千代田区の地域特性を資料により理解する。
第4回	千代田区の特性②	全集の説明を受けて、質疑応答を行う。
第5回	区役所担当者による講義	区の環境政策（温暖化対策条例・環境モデル都市など）について講義を受ける。
第6回	CES推進協議会事務局への聞き取り	CES推進協議会の事務局の担当者による協議会の活動内容についての説明と質疑。
第7回	プログラムミーティング①	2011年度の活動プログラムについて、グループ討議を行う。
第8回	プログラムミーティング②	2011年度の活動プログラムについて、グループ討議を行う。
第9回	プログラムミーティング③	プログラムを決定。 実施グループメンバーへの割り振り。
第10回	プログラムミーティング④	各プログラムグループごとの討議。
第11回	プログラムミーティング⑤	各プログラムグループごとの討議。
第12回	文献発表①	個人の環境配慮行動に関する文献の配布と分担。
第13回	文献発表②	グループ別の文献に関する討議。
第14回	文献発表③	グループ討議の結果報告。
第15回	夏期休暇中活動の打ち合わせ	夏期休暇中のイベントについて、日程の確認と参加者の確定、および9月以降のスケジュールについて確認。
第16回	夏期休暇中活動の報告、後期計画	夏期休暇中のイベントについて、参加者より実施報告。スケジュールの確認。
第17回	プログラムミーティング⑥	各プログラムグループごとの討議。
第18回	プログラムミーティング⑦	各プログラムグループごとの討議。
第19回	講演会（講師：未定）	行政・企業・NPOなどの環境への取り組み事例を学ぶ。
第20回	プログラムミーティング⑧	各プログラムグループごとの討議。
第21回	プログラムミーティング⑨	各プログラムグループごとの討議。
第22回	プログラムミーティング⑩	各プログラムグループごとの討議。

第23回	年度活動報告書作成会議①	報告書の構成と原稿執筆の分担、編集委員の決定。
第24回	プログラムミーティング⑪	各プログラムグループごとの討議。
第25回	プログラムミーティング⑫	各プログラムグループごとの討議。
第26回	プログラムミーティング⑬	各プログラムグループごとの討議。
第27回	プログラムミーティング⑭	各プログラムグループごとの討議。
第28回	年度活動報告書作成作業①	報告書原稿の進捗報告。
第29回	年度活動報告書作成作業②	編集作業。
第30回	活動のふり返りと次年度活動へ向けて	各プログラムの実施結果の報告および次年度目標の確認。

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

ゼミ時間以外に、各種イベント参加、区内施設見学やまちあるきなどを実施する。

ただし各自の時間の都合で参加することを原則としているので、他の授業には支障がありません。

## 【テキスト】

千代田区統計・千代田区の歴史

広瀬幸雄編「環境行動の社会心理学」北大路書房

## 【参考書】

杉浦淳吉「環境配慮の社会心理学」ナカニシヤ出版

石原ほか「まちづくりを学ぶ」有斐閣

## 【成績評価基準】

出席および活動参加、役割関与など総合的に評価。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

区内施設見学、外部講師による講演を充実する。

## 【その他】

このゼミは5・6限目の2時限連続で行います。1時限だけの登録はできません。

## 【関連の深いコース】

特に限定しません。

## 研究会 (B)

## 田中 勉

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：月 6

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

千代田区の地域環境政策（CES・千代田エコシステム）研究

## 【授業の到達目標】

このゼミは 2006 年に法政大学が千代田区と締結した「事業協力協定」に基づき設置された特別の科目です。

千代田区における「個人の環境配慮行動を促進する仕組み」を研究し、実践することを目的としています。

これまで5年間の研究と実践活動の実績をもとに、さらなる改善を目指して進めます。

[]

## 【授業の概要と方法】

まず千代田区の地域特性を把握するために区の統計資料や文献を学び、区の関係者（区役所・企業・NPO）からの聞き取りを行う。平行して、「個人の環境配慮行動」に関わる要因について文献を読み、理解を深める。

このゼミの特徴は、区内の関係者と協働して実践活動を行うことにある。千代田区温暖化対策課やCES推進協議会が開催する環境イベントへの参加などとして「CES・千代田エコシステム」の周知・普及をはかる。またキャンパス内でも活動し、環境へ配慮した行動・生活スタイルの実践を呼びかける。なお、このゼミの運営はゼミ生の計画に基づきゼミ生自身がおこなうのが特徴である。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	メンバー確認、CESについて	ゼミメンバーを確認し、主要な役割分担を相談する。 環境マネジメントシステムとは何か、CESの特色について、説明と質疑。
第 2 回	ゼミの経過（報告書）講義	2010 年度活動報告書について前年度メンバーから説明。
第 3 回	千代田区の特性①	千代田区の地域特性を資料により理解する。
第 4 回	千代田区の特性②	全集の説明を受けて、質疑応答を行う。
第 5 回	区役所担当者による講義	区の環境政策（温暖化対策条例・環境モデル都市など）について講義を受ける。
第 6 回	CES推進協議会事務局への聞き取り	CES推進協議会の事務局の担当者による協議会の活動内容についての説明と質疑。
第 7 回	プログラムミーティング①	2011 年度の活動プログラムについて、グループ討議を行う。
第 8 回	プログラムミーティング②	2011 年度の活動プログラムについて、グループ討議を行う。
第 9 回	プログラムミーティング③	プログラムを決定。 実施グループメンバーへの割り振り。
第 10 回	プログラムミーティング④	各プログラムグループごとの討議。
第 11 回	プログラムミーティング⑤	各プログラムグループごとの討議。
第 12 回	文献発表①	個人の環境配慮行動に関する文献の配布と分担。
第 13 回	文献発表②	グループ別の文献に関する討議。
第 14 回	文献発表③	グループ討議の結果報告。
第 15 回	夏期休暇中活動の打ち合わせ	夏期休暇中のイベントについて、日程の確認と参加者の確定、および9月以降のスケジュールについて確認。
第 16 回	夏期休暇中活動の報告、後期計画	夏期休暇中のイベントについて、参加者より実施報告。スケジュールの確認。
第 17 回	プログラムミーティング⑥	各プログラムグループごとの討議。
第 18 回	プログラムミーティング⑦	各プログラムグループごとの討議。
第 19 回	講演会（講師：未定）	行政・企業・NPOなどの環境への取り組み事例を学ぶ。
第 20 回	プログラムミーティング⑧	各プログラムグループごとの討議。
第 21 回	プログラムミーティング⑨	各プログラムグループごとの討議。
第 22 回	プログラムミーティング⑩	各プログラムグループごとの討議。

第 23 回	年度活動報告書作成会議①	報告書の構成と原稿執筆の分担、編集委員の決定。
第 24 回	プログラムミーティング⑪	各プログラムグループごとの討議。
第 25 回	プログラムミーティング⑫	各プログラムグループごとの討議。
第 26 回	プログラムミーティング⑬	各プログラムグループごとの討議。
第 27 回	プログラムミーティング⑭	各プログラムグループごとの討議。
第 28 回	年度活動報告書作成作業①	報告書原稿の進捗報告。
第 29 回	年度活動報告書作成作業②	編集作業。
第 30 回	活動のふり返りと次年度活動へ向けて	各プログラムの実施結果の報告および次年度目標の確認。

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

ゼミ時間以外に、各種イベント参加、区内施設見学やまちあるきなどを実施する。

ただし各自の時間の都合で参加することを原則としているので、他の授業には支障がありません。

## 【テキスト】

千代田区統計・千代田区の歴史

広瀬幸雄編「環境行動の社会心理学」北大路書房

## 【参考書】

杉浦淳吉「環境配慮の社会心理学」ナカニシヤ出版

石原ほか「まちづくりを学ぶ」有斐閣

篠木幹子「環境問題へのアプローチ」多賀出版

## 【成績評価基準】

出席および活動参加、役割関与など総合的に評価。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

区内施設見学、外部講師による講演の機会を充実します。

## 【その他】

このゼミは5・6限目の2時限連続で行います。1時限だけの登録は出来ません。

## 【関連の深いコース】

特に限定しません。



## 研究会 (B)

### 谷本 勉

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：火 2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

#### 【授業のテーマ】

大森荘蔵の科学哲学の研究

#### 【授業の到達目標】

科学的なものの見方、考え方の概略的理解を目指す

[]

#### 【授業の概要と方法】

大森荘蔵の種々の哲学エッセーをそれぞれ担当して読解した後、皆で議論して、理解を深めていく

[]

[]

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方の説明
第 2 回	イントロダクション 1	「夢まぼろし」 「記憶について」
第 3 回	イントロダクション 2	「真実の百面相」 「心の中」
第 4 回	イントロダクション 3	「ロボットの申し分」 「夢見る脳、夢みられる脳」
第 5 回	イントロダクション 4	イントロダクションの総括のための議論と解説
第 6 回	初期大森哲学 1	「哲学的知見の性格」
第 7 回	初期大森哲学 2	「他我の問題と言語」
第 8 回	初期大森哲学 3	「言語と集合」
第 9 回	初期大森哲学 4	初期大森哲学の前半の総括のための議論と解説
第 10 回	初期大森哲学 5	「決定論の論理と、自由」
第 11 回	初期大森哲学 6	「知覚の因果説検討」
第 12 回	初期大森哲学 7	「知覚風景と科学的世界像」
第 13 回	初期大森哲学 8	初期大森哲学の後半の総括のための議論と解説
第 14 回	前期総括 1	それぞれの描く大森哲学 1
第 15 回	前期総括 2	夏休みの課題解説
第 16 回	後期の展望	夏休みの課題の発表と議論
第 17 回	中期大森哲学 1	「ことだま論－言葉と「もの-ごと」」 1
第 18 回	中期大森哲学 2	「ことだま論－言葉と「もの-ごと」」 2
第 19 回	中期大森哲学 3	「ことだま論－言葉と「もの-ごと」」 3
第 20 回	中期大森哲学 4	「科学の畏」
第 21 回	中期大森哲学 5	「虚想の公認を求めて」
第 22 回	中期大森哲学 6	中期大森哲学の総括のための議論と解説
第 23 回	後期大森哲学 1	「過去の制作」
第 24 回	後期大森哲学 2	「ホーリズムと他我問題」
第 25 回	後期大森哲学 3	「脳と意識の無関係」
第 26 回	後期大森哲学 4	「時は流れず－時間と運動の無縁」
第 27 回	後期大森哲学 5	「[後の祭り]を祈る－過去は物語」 「自分と出会う－意識こそ人と世界を隔てる元凶」
第 28 回	後期大森哲学 6	後期大森哲学の総括のための議論と解説
第 29 回	後期総括 1	それぞれの描く大森哲学 2
第 30 回	後期総括 2	科学的なものの見方考え方の実像についてのまとめ

#### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

授業の中で随時指示する

#### 【テキスト】

『大森荘蔵セレクション』（平凡社ライブラリー、2011 年）

#### 【参考書】

授業の進行に応じて適宜紹介する

#### 【成績評価基準】

担当部分の発表の内容と議論への参加の態度に出席を加味して、総合的に評価する

#### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

2012 年度より担当

#### 【関連の深いコース】

環境教養

## 研究会（B）

## 長峰 登記夫

配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：金 2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

職業生活をとらして労働環境を考える。

## 【授業の到達目標】

前期は労働環境を考える際の基本的な知識の習得をめざし、基本文献の読み合わせをする。後期は自分でテーマを設定して勉強し、その成果を授業で発表し、最終レポートにまとめられるようになることをめざす。こうした学習をとらして、私たちが卒業後就職してからかかる仕事や労働環境のあり方について学ぶと同時に、物事を論理的に考え、作業を計画的に推し進められるようになることをめざす。そこに至る一里塚として、授業内における読み合わせや研究成果の発表、レポートがある。

【】

## 【授業の概要と方法】

前期は基本的な知識習得を目的に、基本文献の読み合わせをする。発表者は学習内容をレジュメにまとめて報告する。後期は自分でテーマを設定して勉強し、レジュメにまとめて発表し、最終的にはレポートにまとめる。したがって、前期と後期、それぞれ一人最低1回ずつはレジュメ作成、それに基づいた発表、最終的なレポート提出が義務づけられる。

【】

【】

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	労働環境を考える	労働環境論とは何か、そこではどんなことについて学ぶのか、等について学習する。年間計画についても説明する。
第2回	レジュメ、レポートの書き方1	図書館、インターネット、データベース等を利用した専門的な情報収集の仕方について学ぶ。
第3回	レジュメ、レポートの書き方2	レジュメによる授業内での報告、最終的なレポート作成に必要な方法について学ぶ。
第4回	日本の雇用システム1(終身雇用)	日本の雇用システムの3大特徴とされてきた終身雇用、年功制、企業内組合のうちの終身雇用について学ぶ。
第5回	日本の雇用システム2(年功賃金・昇進)	年功賃金と年功昇進に焦点を当てて、年功制について考える。また、それが近年どう変化してきたかについてもみていく。
第6回	日本の雇用システム3(企業内組合)	日本の雇用慣行のなかでも、企業内組合は最も日本的なシステムだといえる。企業内組合の組織や機能、海外諸国のそれとのちがいをみていく。
第7回	日本の雇用システム4(成果主義的雇用管理)	日本の雇用慣行が変化してきた最大の要因の一つが、成果主義的雇用管理の導入である。ここでは成果主義的な賃金や昇進について考える。
第8回	日本の雇用システム5(雇用とジェンダー)	海外諸国と比較して、日本企業で女性はより大きなハンディを負うとされてきた。それには様々な理由があるが、それは何か、また、均等法施行以来それはどう変化してきたのかについても学ぶ。
第9回	日本の雇用システム6(非正規雇用と格差)	近年、とくに若者の安定雇用が崩れてきているが、その典型として非正規雇用の増大があげられる。ここでは、なぜ非正規雇用が拡大してきたのか、それがいかなるかたちで格差拡大につながっているのかについて考える。
第10回	仕事と労働時間1(労働時間)	日本は先進諸国のなかで労働時間の長さが際立っていた。なぜなのか、その問題はどこに現れているのか、また、それが近年どう変化してきているのか等について学ぶ。
第11回	仕事と労働時間2(長時間労働とメンタルヘルス)	近年、働く人々のメンタルヘルスが大きな問題となっている。それと労働時間が関係あるのか、あるとすればいかに関係しているのかについて考える。

第12回	大学生の就職1(日本の就職の特徴)	日本の大学生の就職にはどのような特徴があり、それは海外諸国の大学生の就職とどう違うのか、基本的なことを学ぶ。
第13回	大学生の就職2(大学生の就職の実態)	現時点で大学生の就職にはどのような問題があるのか、それについて新聞記事や週刊誌の記事等をとらして最新の情報を確認する。
第14回	大学生の就職3(就職と学歴)	大学生の就職において学歴や学校歴が重要だとされている。それは本当なのか、そうだとすると、どういう意味においてそうなのかについて考える。
第15回	レポート提出とコメント	最初の注意事項にしたがってレポートが構成されているか、コメントをする。
第16回	前期学習の復習1(日本の雇用とは)	前期に行った日本の雇用慣行について総括的なまとめを行い、学生の個別研究につなげる。
第17回	前期学習の復習2(日本の雇用の新たな流れ)	日本の雇用慣行の何がどう変わったのか、あるいは変わりつつあるのかをみて、日本の雇用慣行の現状について確認し、学生の個別研究につなげる。
第18回	学生による研究発表1	学生による研究発表、それに関する質疑応答、議論、意見交換等を行うなかで、発表者の今後の学習の課題をみつけ、最終レポート作成に役立てる。
第19回	学生による研究発表2	上記に同じ
第20回	学生による研究発表3	上記に同じ
第21回	学生による研究発表4	上記に同じ
第22回	学生による研究発表5	上記に同じ
第23回	学生による研究発表6	上記に同じ
第24回	学生による研究発表7	上記に同じ
第25回	学生による研究発表8	上記に同じ
第26回	学生による研究発表9	上記に同じ
第27回	学生による研究発表10	上記に同じ
第28回	レポートの仮提出、チェックと指導	最終提出前にレポートの基本的な形式ができていないか、作成途中のレポートをチェックする。
第29回	学生による研究発表11	第18回に同じ
第30回	学生による研究発表12	上記に同じ

## 【授業外に行うべき学習活動(準備学習等)】

前期は、毎回指定された文献資料を事前に読んでおくこと、後期は、発表予定者が事前に指示した、発表内容に関連した資料を読んで、議論に参加できるよう準備する。

## 【テキスト】

前期は基本的に本の1章や文献資料をコピーして読んでいく。具体的な資料は随時授業で指示する。後期は発表予定者が事前に指示した資料を参考資料とする。ただし、後期の資料について発表者は事前に教員に相談すること。

## 【参考書】

佐藤博樹・佐藤厚編著『仕事の社会学』有斐閣ブックス、神代和欣著『産業と労使』放送大学教育振興会。

## 【成績評価基準】

成績評価は、1. 出席、2. 授業での発表、3. 発表のために作成したレジュメの内容、4. 授業内での議論への参加、5. 最終的に提出されたレポートの内容等を加味して総合的に行う。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

学生が期限内に指示された作業(レジュメ作成や報告、レポート作成等)を終えられるよう、指導する。

## 【関連の深いコース】

地域環境、環境経営

## 研究会（B）

根崎 光男

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：月 5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

テーマ：環境問題の歴史的アプローチ

歴史史料の読解、古文書の解読、グループ学習、史跡探索、各自の研究発表を通じて、教員と学生が一体となって、環境史研究を進めていきます。

## 【授業の到達目標】

日本歴史上における環境問題や現代の歴史的環境の保全を研究するための文献収集・史料読解・課題解決の能力を養います。このなかで、環境史研究のテーマを自ら見つけ、研究レポートを提出することを目標とします。

[]

## 【授業の概要と方法】

この授業は、調査テーマに関連した歴史史料・古文書の読解、フィールドの探索、各自研究のプレゼンテーション、研究レポートの執筆といった一連の作業を、演習形式により行います。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	研究会に関するオリエンテーションを実施する
第 2 回	環境史研究の調査と方法	環境史研究の文献探索、調査方法を学習する
第 3 回	史料読解（1）	歴史史料を読解し、討論を行う
第 4 回	史料読解（2）	歴史史料を読解し、討論を行う
第 5 回	史料読解（3）	歴史史料を読解し、討論を行う
第 6 回	古文書読解（1）	古文書を読解し、討論を行う
第 7 回	史跡探索（1）	フィールドに出かけ、史跡探索を実施する
第 8 回	絵図読解のグループ学習（1）	絵図を読解し、グループ別に発表する
第 9 回	絵図読解のグループ学習（2）	絵図を読解し、グループ別に発表する
第 10 回	特定テーマ中間発表（1）	各自の研究テーマを発表し、質疑応答を行う
第 11 回	特定テーマ中間発表（2）	各自の研究テーマを発表し、質疑応答を行う
第 12 回	特定テーマ中間発表（3）	各自の研究テーマを発表し、質疑応答を行う
第 13 回	特定テーマ中間発表（4）	各自の研究テーマを発表し、質疑応答を行う
第 14 回	特定テーマ中間発表（5）	各自の研究テーマを発表し、質疑応答を行う
第 15 回	特定テーマ中間発表（6）	各自の研究テーマを発表し、質疑応答を行う
第 16 回	研究計画の確認	各自の研究計画を確認し、意見交換を行う
第 17 回	史跡探索（2）	フィールドに出かけ、史跡探索を実施する
第 18 回	史料読解（4）	歴史史料を読解し、討論を行う
第 19 回	史料読解（5）	歴史史料を読解し、討論を行う
第 20 回	史料読解（6）	歴史史料を読解し、討論を行う
第 21 回	古文書読解（2）	古文書を読解し、討論を行う
第 22 回	特定テーマ研究発表（1）	各自が研究テーマを深めて発表し、質疑応答を行う
第 23 回	特定テーマ研究発表（2）	各自が研究テーマを深めて発表し、質疑応答を行う
第 24 回	特定テーマ研究発表（3）	各自が研究テーマを深めて発表し、質疑応答を行う
第 25 回	特定テーマ研究発表（4）	各自が研究テーマを深めて発表し、質疑応答を行う
第 26 回	特定テーマ研究発表（5）	各自が研究テーマを深めて発表し、質疑応答を行う
第 27 回	特定テーマ研究発表（6）	各自が研究テーマを深めて発表し、質疑応答を行う
第 28 回	特定テーマ研究発表（7）	各自が研究テーマを深めて発表し、質疑応答を行う
第 29 回	特定テーマ研究発表（8）	各自が研究テーマを深めて発表し、質疑応答を行う
第 30 回	特定テーマ研究発表（9）	各自が研究テーマを深めて発表し、質疑応答を行う

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

歴史史料・古文書の読解、研究テーマの文献探索・講読。

## 【テキスト】

必要に応じて配付します。

## 【参考書】

必要に応じて随時紹介します。

## 【成績評価基準】

出席状況、授業時の積極的姿勢を重視するが、プレゼンテーション、レポート・論文を総合的に評価します。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

研究の進捗状況を把握するため、随時面談を行います。

## 【関連の深いコース】

地域環境、環境教養

**研究会（B）**

長谷川 直哉

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：火 5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業のテーマ】**

CSR（企業の社会的責任）や Business Ethics（経営倫理）を中心に、サステイナブル社会における企業と社会の関係を学びます。

**【授業の到達目標】**

CSR、企業倫理、社会的責任投資、ソーシャルビジネス、環境会計等の基礎知識を習得し、日経新聞・野村証券主催のストックリーグに参加して企業評価とバーチャルトレードを経験します。その成果を基にレポートを作成してコンテストにチャレンジします。

[]

**【授業の概要と方法】**

前期は、CSR および Business Ethics に関する文献や論文を輪読し、ストックリーグに必要な知識を習得します。後期は、チームを編成しストックリーグに参加します。ストックリーグでは CSR 情報・財務データの分析や企業訪問によるヒアリング調査を行い、オリジナルの社会的責任投資ファンドを組成しバーチャルトレードを行います。

[]

[]

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ゼミの進め方 日経ストックリーグの概要
第 2 回	CSR に関する文献講読①	担当者による報告と全体討議
第 3 回	CSR に関する文献講読②	担当者による報告と全体討議
第 4 回	CSR に関する文献講読③	担当者による報告と全体討議
第 5 回	CSR に関する文献講読④	担当者による報告と全体討議
第 6 回	CSR に関する文献講読⑤	担当者による報告と全体討議
第 7 回	CSR に関する文献講読⑥	担当者による報告と全体討議
第 8 回	経営分析に関する文献講読①	担当者による報告と全体討議
第 9 回	経営分析に関する文献講読②	担当者による報告と全体討議
第 10 回	経営分析に関する文献講読③	担当者による報告と全体討議
第 11 回	経営分析に関する文献講読④	担当者による報告と全体討議 チーム編成
第 12 回	経営分析に関する文献講読⑤ ストックリーグ活動	担当者による報告と全体討議 チームの活動報告
第 13 回	経営分析に関する文献講読⑥ ストックリーグ活動	担当者による報告と全体討議 チームの活動報告
第 14 回	ゲストスピーカー講和	詳細はガイダンス時に提示
第 15 回	ストックリーグ活動	ファンドテーマの構想発表
第 16 回	ストックリーグ活動	ファンドテーマの発表
第 17 回	ストックリーグ活動	チームの活動報告
第 18 回	ストックリーグ活動	チームの活動報告 ユニバース発表
第 19 回	ストックリーグ活動	経営分析・企業ヒアリング
第 20 回	ストックリーグ活動	経営分析・企業ヒアリング
第 21 回	ストックリーグ活動	経営分析・企業ヒアリング
第 22 回	ストックリーグ活動	経営分析・企業ヒアリング
第 23 回	ストックリーグ活動	ポートフォリオ発表
第 24 回	ストックリーグ活動	バーチャルトレード
第 25 回	ストックリーグ活動	レポート作成
第 26 回	ストックリーグ活動	レポート作成
第 27 回	ストックリーグ活動	レポート作成
第 28 回	ストックリーグ活動	レポート作成
第 29 回	ストックリーグ活動	レポート作成
第 30 回	スピーチ	全員による 3 分間スピーチ

**【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】**

企業の CSR 活動・財務内容に関する分析や企業に対するヒアリング調査を行うため、サブゼミや企業訪問を研究会の時間外に実施することが多くなります。また、夏季休暇中にゼミ合宿を行います。

**【テキスト】**

研究会の開講前に掲示します。

**【参考書】**

必要に応じて随時紹介します。

**【成績評価基準】**

〔共通評価〕 平常点（ゼミ・サブゼミ・調査への参加態度・貢献度）  
〔個別評価〕 ストックリーグのレポート

**【学生による授業改善アンケートからの気づき】**

参加者の自主的な取り組みを中心にゼミを行います。

**【関連の深いコース】**

環境経営、国際環境、地域環境



**研究会 (B)****堀内 行蔵**

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：月 4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業のテーマ】**

持続可能な社会における企業経営のあり方をテーマにする。かつての公害が問題になった時代から、現在の環境経営は大きく進化している。地球環境問題の解決のために、21 世紀の企業経営はどうなるか、洞察力を身につけよう。

**【授業の到達目標】**

企業の理念を活かす環境経営を考える。持続可能性について理解し、社会に出てから変革のリーダーシップがとれるように、知識と思考法を身につける。

[]

**【授業の概要と方法】**

前期は、テキストを輪読する。毎回、全員がレジメを提出し議論する。後期は、グループに分かれ、テーマを設定し、調査レポートを提出する。グループをつくって、対応する。

[]

[]

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	スケジュールの決定	テキストの紹介と進め方を決める。3 年生と 2 年生で 1 グループをつくる。
第 2 回	テキスト輪読 (1)	1～2 グループが要約を発表する。各自は、レジメにもとづき議論する。
第 3 回	同上 (2)	同上
第 4 回	同上 (3)	同上
第 5 回	同上 (4)	同上
第 6 回	同上 (5)	同上
第 7 回	同上 (6)	同上
第 8 回	同上 (7)	同上
第 9 回	同上 (8)	同上
第 10 回	同上 (9)	同上
第 11 回	同上 (10)	同上
第 12 回	同上 (11)	同上
第 13 回	同上 (12)	同上
第 14 回	同上 (13)	同上
第 15 回	同上 (14)	同上
第 16 回	スケジュールの決定	グループ分けを決める。各グループは調査テーマを討論する。
第 17 回	調査テーマの発表 (1)	2～3 グループが調査の概要を発表する。
第 18 回	同上 (2)	同上
第 19 回	同上 (3)	同上
第 20 回	同上 (4)	同上
第 21 回	同上 (5)	同上
第 22 回	調査の詳細発表 (1)	調査レポートを作成し、グループで発表する。
第 23 回	同上 (2)	同上
第 24 回	同上 (3)	同上
第 25 回	同上 (4)	同上
第 26 回	同上 (5)	同上
第 27 回	同上 (6)	同上
第 28 回	同上 (7)	同上
第 29 回	同上 (8)	同上
第 30 回	同上 (9)	同上

**【授業外に行うべき学習活動 (準備学習等)】**

企業のHPを見て、実際の環境対策を理解しておくこと。

**【テキスト】**

J. コリンズ・J. ボラス『ビジョナリー・カンパニー』日経BP 出版

I. シュイナード『社員をサーフィンに行かせよう』東洋経済新報社

**【参考書】**

堀内行蔵・向井常雄『実践環境経営論』東洋経済新報社

**【成績評価基準】**

出席点と平常点 (発言、レジメ、レポート) で評価する。無断欠席は厳禁とする。

**【学生による授業改善アンケートからの気づき】**

議論が活発になるように工夫する。

**【関連の深いコース】**

環境経営

**研究会 (B)****吉田 秀美**

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：金 3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業のテーマ】**

途上国の抱える課題を理解し、様々なアクターによる取り組みの可能性を考える。

**【授業の到達目標】**

国際協力や国際交流に関心のある学生が、ゼミでのディスカッションや自主的な課外活動に取り組み、互いに刺激しあう機会を設け、自ら考えて行動する能力を培う。

プレゼンテーション、論理的な文書作成、論理的思考、英文読解などのスキルを向上させる。

[]

**【授業の概要と方法】**

特定の地域の課題 (教育、ジェンダー、貧困、環境など) に関して、深く学んだ上で、援助機関や企業など各分野のアクターによる取り組みについて、先行事例を学んだり、自分たちで事業を企画する。

それらの過程で、各スキルを向上させる題材や方法を取り入れる。

[]

[]

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	概要紹介
第 2 回	グループワーク	討議による受講者同士の相互理解
第 3 回	グループワーク	討議による受講者同士の相互理解
第 4 回	文献講読と討議	各分野の基礎知識を深める
第 5 回	文献講読と討議	各分野の基礎知識を深める
第 6 回	文献講読と討議	各分野の基礎知識を深める
第 7 回	文献講読と討議	各分野の基礎知識を深める
第 8 回	グループ分け	各自でテーマを出し合い、テーマごとにグループ分けを行う
第 9 回	グループ作業	課題についての調査作業を進める
第 10 回	グループ作業	課題についての調査作業を進める
第 11 回	グループ作業	課題についての調査作業を進める
第 12 回	グループ作業	課題についての調査作業を進める
第 13 回	プレゼンテーション	各班の調査結果発表
第 14 回	プレゼンテーション	各班の調査結果発表
第 15 回	プレゼンテーション	各班の調査結果発表
第 16 回	グループ分け	特定地域・分野の課題を選び、グループ分けを行う
第 17 回	グループワーク	各課題について掘り下げて調査を行い、解決策を考案する
第 18 回	グループワーク	各課題について掘り下げて調査を行い、解決策を考案する
第 19 回	グループワーク	各課題について掘り下げて調査を行い、解決策を考案する
第 20 回	プレゼンテーション	グループワークの成果発表
第 21 回	プレゼンテーション	グループワークの成果発表
第 22 回	ゲストスピーカー	関連分野のゲストに話を聞く
第 23 回	グループワーク	報告書の執筆作業
第 24 回	グループワーク	報告書の執筆作業
第 25 回	グループワーク	報告書の執筆作業
第 26 回	グループワーク	報告書の執筆作業
第 27 回	プレゼンテーション	報告書の内容発表
第 28 回	プレゼンテーション	報告書の内容発表
第 29 回	プレゼンテーション	報告書の内容発表
第 30 回	卒業論文報告会	卒論執筆者の報告を聞く

**【授業外に行うべき学習活動 (準備学習等)】**

テキストや参考資料は必ず予習すること。グループ活動には積極的に参加してください。

**【テキスト】**

授業内で紹介します。

**【参考書】**

授業内で適宜紹介します。

**【成績評価基準】**

出席と平常点：50%

発表・レポート：各 25%

**【学生による授業改善アンケートからの気づき】**

昨年度以上に、アウトプット重視で行きたいと思います。

**【関連の深いコース】**

国際環境

**研究会（B）**

高田 雅之

配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：金 4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業のテーマ】**

生態系保全を取り巻く様々な課題について知識と理解を深め、それに基づいて様々な情報や事例を収集整理し、探求と議論をとおして考え、取りまとめることをテーマとします。生態系の保全といっても、対象は水域、農地、都市、湿原、森林、特定の生物など様々です。また保全する主体と方法、目指す姿も多様で、限られた時間で効果的に学習し成果を取りまとめることが求められません。研究会では、設定した課題を考究し、研究成果を着実にまとめていきます。

**【授業の到達目標】**

個々の学生において以下の3点を目標とします。

- ①設定した課題に関する知識と理解を深め、その要点を説明できること
- ②研究課題に関する情報を収集し、理解に基づいて体系化できること
- ③研究課題に対する他者との議論をとおして分析と考察を行い、成果としてまとめ、発表できること

[]

**【授業の概要と方法】**

生態系保全に関する課題を設定し、背景と現状の理解、情報収集と整理分析、事例研究などを行い、議論と分析評価を経て研究成果として取りまとめ、発表することを基本とします。前期は、設定課題に対する知識を深めることを通して基礎力を高め、期末に各自の学習成果を発表します。後期は主にグループ討議をとおして研究技術を身に付け、年次末に研究成果を取りまとめ発表します。

[]

[]

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	研究会の進め方
第2回	課題研究	設定課題に関する研究と発表
第3回	課題研究	設定課題に関する研究と発表
第4回	課題研究	設定課題に関する研究と発表
第5回	課題研究	設定課題に関する研究と発表
第6回	課題研究	設定課題に関する研究と発表
第7回	課題研究	設定課題に関する研究と発表
第8回	中間発表	研究成果の発表
第9回	課題研究	設定課題に関する研究と発表
第10回	課題研究	設定課題に関する研究と発表
第11回	課題研究	設定課題に関する研究と発表
第12回	課題研究	設定課題に関する研究と発表
第13回	課題研究	設定課題に関する研究と発表
第14回	課題研究	設定課題に関する研究と発表
第15回	前期成果発表	課題研究成果の発表
第16回	ガイダンス	後期の研究会の進め方
第17回	グループ研究	グループ討議と発表
第18回	グループ研究	グループ討議と発表
第19回	グループ研究	グループ討議と発表
第20回	グループ研究	グループ討議と発表
第21回	グループ研究	グループ討議と発表
第22回	グループ研究	グループ討議と発表
第23回	中間発表	研究成果の発表
第24回	グループ研究	グループ討議と発表
第25回	グループ研究	グループ討議と発表
第26回	グループ研究	グループ討議と発表
第27回	グループ研究	グループ討議と発表
第28回	グループ研究	成果まとめ
第29回	年間成果発表	研究の成果発表
第30回	年間成果発表	研究の成果発表

**【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】**

設定した課題に関して、文献及び情報の収集や資料作成、必要なフィールドワークなど、成果に向けた調査研究を着実に行ってください。

**【テキスト】**

特定のものは使用しません。講義において適宜資料を配布します。

**【参考書】**

講義において随時紹介します。

**【成績評価基準】**

出席点、平常点（議論への参加、課題の履行、自主的な研究など）、研究成果（レポートと発表）を総合的に評価します。

**【学生による授業改善アンケートからの気づき】**

特になし

**【その他】**

新たな研究会ですので、新2年生と新3年生を対象とします。定員は各学年でそれぞれ8名とし、応募者が超過した場合は書面（志望理由と問題意識）で選抜します。その際、生態系を研究対象としますので、自然科学（理系）に取り組む意欲のある者を優先します。また、前年度までに「地球環境論」「自然環境政策論」を履修していない学生は、今年度に「自然環境政策論Ⅰ（前期）及びⅡ（後期）」を必ず履修してください。

**【関連の深いコース】**

環境教養、地域環境

## 研究会 (B)

### 岡本 義行

配当年次/単位：2～4年/4単位

開講セメスター：年間授業 | 曜日・時限：火 1、火 2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

#### 【授業のテーマ】

本授業は、学生が中小企業等のコンサルティング（問題解決）を実際に体験することで、社会が必要とされる、課題解決能力、コミュニケーションとチームマネジメントの能力、プレゼンテーションの能力などを修得することを目的としています。

#### 【授業の到達目標】

具体的には、上野、浅草といった主に東京都台東区内の中小企業、商店街、組合、NPOなどの経営問題を解決しながら、下記のスキルや手法を身につけます。本授業に参加した学生が身につけるべき能力は、以下の5点です。

1. 問題を発見し分析できる力<気づき、考える>
2. 課題を設定し実践可能な解決策を提案できる力<創り、伝える>
3. 解決策を実践できる力<一緒にやってみる>
4. コミュニケーションとチームマネジメントの能力<話し合う>
5. プレゼンテーションの能力<見せる>

#### 【】

#### 【授業の概要と方法】

毎年、中小企業と浅草などの商店街からコンサルティングの依頼があり、6学期に渡る約50名の学生がチームに分かれて、経営課題の「発見 → 分析 → 提案 → 実践 → 発見・・・」というコンサルティングプロセスを体験します。その成果として、学生が提案したアイデアを商品化して売り出した企業もありますし、学生の提案により店舗を移転し内装をまったく変え、訪問客を増やした企業もあります。あるチームは、企業の企画会議に定期的に参加し、社員とともに広告戦略の重要媒体であるチラシのデザインを一新しました。商店街のプロモーションビデオを作成し関係者から絶賛されたチーム、産直市の企画運営に尽力し商店街の方々に表彰されたチームもあります。ネット販売の仕組みを提案して採用されたチームもあります。中には乞われて就職した学生もいます。

授業の最終回には、経営者全員や関係者を多数集めて、正式な提案・展示を行う報告会を実施します。この報告会は、司会進行も含め学生自身が企画運営しますが、社長や経営陣、および地域の各セクターの方々に対するプレゼンテーションと位置づけています。また、千代田区内のNPOの相談にのったこともあります。

昨年度は夏休みに能登半島の七尾市でインターンシップ、栃木県益子町で地域活性化のための調査と提案を行い、多くの履修生が参加し、年度末には現地での報告会を実施しました。

本授業は全学的な取組みとなっており、学部や学年を越えて様々な学生が参加しています。既習者の多くから「異なる分野を専門としている他学部生との交流から得られるものも大きく、何より楽しい」という声が聞かれました。前期は“発見と分析”に、後期は“提案と実践”に重点を置き、授業を進めていきます。そして、一年間を通じて地域の企業（商店を含む）やNPO、まちづくり組織などの各セクターとコラボレーションを実施することにより、社会貢献、地域貢献および、課題解決のための実践的能力が身につく授業内容となっています。

具体的には、プロのコンサルタント、経営者によるレクチャー、Eラーニング教材による学習、学生によるワークショップ、グループワーク、プレゼンテーション、現場でのフィールドワーク等から構成されています。

#### 【】

#### 【】

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	説明と質問
第2回	レクチャー・アイスブレイク	コンサルティングの進め方 グループ編成・紹介・全員と話す
第3回	フィールドワーク	浅草を歩く
第4回	ワークショップ	浅草の課題発見
第5回	レクチャー	コンサルティングの実際（その理論と実践）（ゲスト講師）
第6回	レクチャー・ワークショップ	当プロジェクトを進める上で必要な見方・考え方（発見・分析・実践）
第7回	チーム別面談	担当クライアントの決定と今後の方針
第8回	グループワーク	クライアントとの初顔合わせ&台東サテライトオフィス訪問
第9回	レクチャー	コンサルタントになるためのスキル（ゲスト講師）
第10回	プレゼンテーション	クライアントの紹介と今後の方針（仮ゴール設定）
第11回	グループワーク	クライアント訪問・フィールドワーク
第12回	プレゼンテーション	クライアントの抱える問題を発見する
第13回	チーム別面談	クライアントの抱える問題を発見する（クライアント訪問も可）

第14回	プレゼンテーション	前期成果報告会のための直前練習・役割分担
第15回	プレゼンテーション	前期成果報告会（場所：市ヶ谷キャンパス ボアソナードタワー 26階 スカイホール）
第16回	チーム別面談	前期の振り返り・事中評価と後期の方針（クライアント訪問も可）
第17回	グループワーク	プレゼンテーションの準備（クライアント訪問も可）
第18回	プレゼンテーション	中間成果報告
第19回	レクチャー	パワーポイントの効果的な活用方法（ゲスト講師）
第20回	チーム別面談	進捗状況の確認とディスカッション（クライアント訪問も可）
第21回	グループワーク	プレゼンテーションの準備（クライアント訪問も可）
第22回	プレゼンテーション	中間成果報告
第23回	チーム別面談	進捗状況の確認とディスカッション（クライアント訪問も可）
第24回	グループワーク	プレゼンテーションの準備（クライアント訪問も可）
第25回	プレゼンテーション	中間成果報告
第26回	チーム別面談	進捗状況の確認とディスカッション（クライアント訪問も可）
第27回	グループワーク	プレゼンテーションの準備（クライアント訪問も可）
第28回	プレゼンテーション	教室における最終成果報告
第29回	プレゼンテーション	最終成果報告会のための直前練習・役割分担
第30回	プレゼンテーション	最終成果報告会（場所：市ヶ谷キャンパス ボアソナードタワー 26階 スカイホール）

#### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

プレゼン資料の作成、フィールドワーク、クライアント訪問に加えて、Eラーニング教材の独習など、具体的には毎回授業内で指示します。

#### 【テキスト】

特に使用しません。

#### 【参考書】

履修者は、法政大学地域研究センターが提供しているEラーニング教材（課題発見・解決教育、クリティカルシンキング、マーケティング、コンサルティング手法等）を利用できます。授業と並行して、これらのコンテンツを自習することにより、予備知識の無い学生でも基礎的な知識、スキルを身につけることができます。

#### 【成績評価基準】

詳細は、初回授業の際に説明しますが、出席50%、フィールドワーク25%、プレゼンテーション25%とし、総合的に評価します。

#### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

学部も学年も違うメンバーの混成チームでプロジェクトを進めるため、メンバー間のスケジュール調整の難しさに履修生は直面します。そこで、授業時間内なるべくグループワーク・クライアント訪問の時間を設けるよう工夫しています。

#### 【学生が準備すべき機器他】

特に使用しません。

#### 【その他】

予備知識は特に必要ありませんが、熱心に取り組む意欲のある（＝多くの時間を割く覚悟のある）学生の受講を希望します。とりわけフィールドワークに対する積極的参加が不可欠です。

昨年度の受講生の言葉やこれまでの実績など、詳細は、以下のホームページを参照してください。

<http://www.hosei-hurin.net/tri/kadai/index.html>

定員は50名程度。定員を超えた場合には、選抜することもあります。履修予定者は初回の授業（ガイダンス）には必ず出席してください。どうしても出席できない場合は、必ず地域研究センターにメールにてお問い合わせください。

※この科目は「社会貢献・課題解決教育」という名称の学部横断開設科目で、様々な学部の学生が受講します。人間環境学部生は「研究会B」として登録し、受講することができます。2時限連続の通年科目ですが、修得できる単位は4単位です。人間環境学部生の受講は、2012年度まで可能となります。

#### 【関連の深いコース】

地域環境、環境経営

**研究会 (B)**

永野 秀雄

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：金 4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業のテーマ】**

本研究会では、英語で書かれた基本的な契約書（英米法に基づくもの）を読むための勉強をします。英文契約書の英語は、特殊なものです。そのための基本的な用語や文例を学んでいきます。

**【授業の到達目標】**

受講者の皆さんが、社会に出て国際的に活躍されるときに遭遇する英文契約を読む基礎力を身につけることを目標とします。

[]

**【授業の概要と方法】**

担当教員が、初歩的な教科書をもとに、英文契約の基本を解説していきます。授業の途中で何回か、教科書にでてくる用語や文例を覚えて頂き、確認する小テストを行います。教科書を終えたのち、現実に用いられている英文契約書（プリント）を用いて、皆さんに読んで頂きます。受講生何名かで構成される班による発表形式を取りたいと思います。難しい箇所は、担当教員が解説いたします。

[]

[]

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	英文契約書の背景 (1)	国際契約書と英語等
第 2 回	英文契約書の背景 (2)	仲裁、準拠法、国際裁判管轄等
第 3 回	契約書の英語 (1)	接続詞、助動詞等
第 4 回	契約書の英語 (2)	特殊な用語法 (1)、小テスト
第 5 回	契約書の英語 (3)	特殊な用語法 (2)、小テスト
第 6 回	契約書の英語 (4)	特殊な用語法 (3)、小テスト
第 7 回	契約書の英語 (5)	特殊な用語法 (4)、小テスト
第 8 回	契約書の英語 (6)	売買契約書 (1)、小テスト
第 9 回	契約書の英語 (7)	売買契約書 (2)、小テスト
第 10 回	契約書の英語 (8)	売買契約書 (3)、小テスト
第 11 回	英文契約の読解 (1)	実際の英文契約読解 (班による発表)
第 12 回	英文契約の読解 (2)	実際の英文契約読解 (班による発表)
第 13 回	英文契約の読解 (3)	実際の英文契約読解 (班による発表)
第 14 回	英文契約の読解 (4)	実際の英文契約読解 (班による発表)
第 15 回	英文契約の読解 (5)	実際の英文契約読解 (班による発表)

**【授業外に行うべき学習活動 (準備学習等)】**

教科書で指定された小テストの箇所 (一定の長さの条文や単語) を覚えて来て下さい。また、実際の英文契約書の訳を班ごとに発表するときに和訳や説明をしたレジュメの準備をお願いします。

**【テキスト】**

宮野準治・飯泉恵美子著『英文契約書の基礎知識』(ジャパンタイムズ社、1997年)、配布プリント。

**【参考書】**

特にありません。

**【成績評価基準】**

平常点のみです。小テストの結果、班の発表等で評価します。なお、3回以上欠席したり、小テストの勉強や発表準備をしてこなかったりした場合には、単位をあげることはできません。

**【学生による授業改善アンケートからの気づき】**

新規科目につき、該当なし。

**【学生が準備すべき機器他】**

特になし。

**【関連の深いコース】**

環境経営、国際環境

**研究会 (B)**

日原 傳

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：金 3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業のテーマ】**

俳句実作講座

**【授業の到達目標】**

- ・俳句の実作を通して言葉に関する感覚を磨く。
- ・日本の伝統のなかではぐくまれてきた季語の豊かさを認識する。

[]

**【授業の概要と方法】**

俳句の実作をする授業である。毎回、句会形式で授業を進める。参加者は毎回俳句を3句ほど用意して投句する。清記、選句、披講のあと、投句された作品を対象に討議する。随時「題詠」も行なう。

[]

[]

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	句会	句会を体験する (題詠)、歳時記の紹介
第 2 回	句会	当季雑詠、「切字」、俳句鑑賞 (高濱虚子・河東碧梧桐)
第 3 回	句会	当季雑詠、「取り合わせ」、俳句鑑賞 (夏目漱石・芥川龍之介)
第 4 回	句会	当季雑詠、俳句鑑賞 (飯田蛇笏・久保田万太郎)
第 5 回	句会	当季雑詠、俳句鑑賞 (水原秋櫻子・高野素十)
第 6 回	句会	当季雑詠、俳句鑑賞 (山口青邨・山口誓子)
第 7 回	句会	当季雑詠、俳句鑑賞 (三橋鷹女・星野立子)
第 8 回	句会	当季雑詠、俳句鑑賞 (阿波野青畝・中村草田男)
第 9 回	句会	当季雑詠、俳句鑑賞 (西東三鬼・加藤楸邨)
第 10 回	句会	当季雑詠、俳句鑑賞 (高柳重信・永田耕衣)
第 11 回	句会	当季雑詠、俳句鑑賞 (石田波郷・三橋敏雄)
第 12 回	句会	当季雑詠、俳句鑑賞 (飯田龍太・森澄雄)
第 13 回	句会	当季雑詠、俳句鑑賞 (川崎展宏・大木あまり)
第 14 回	句会	当季雑詠、俳句鑑賞 (金子兜太・有馬朗人)
第 15 回	句会	当季雑詠、俳句鑑賞 (青春俳句)

**【授業外に行うべき学習活動 (準備学習等)】**

- ・毎回俳句を3句ほど作って持参する。
- ・歳時記の世界に親しむ。

**【テキスト】**

テキストは使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

**【参考書】**

小林恭二『俳句という遊び』『俳句という愉しみ』(以上、岩波新書)  
山本健吉『新版 現代俳句 (上・下)』(角川選書)  
「歳時記」(授業のなかでいくつか紹介する)

**【成績評価基準】**

平常点 (出席状況・提出作品)

**【学生による授業改善アンケートからの気づき】**

2011年度在外研究につき該当なし

**【関連の深いコース】**

環境教養



**研究会 (B)**

板橋 美也

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：月 5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業のテーマ】**

Rachel Carson, Silent Spring を英語で読む

**【授業の到達目標】**

1962 年に発表され、世界的な環境保護運動を巻き起こすきっかけとなった Rachel Carson の Silent Spring (『沈黙の春』) を英語で読み、それについてディスカッションすることを通して、専門分野に関連した英語文献の読解力を身につけると同時に、英語で自分の考えを述べる力を身につけます。

[]

**【授業の概要と方法】**

基本的に、英語のリーディングとスピーキングの授業です。毎回、テキストの指定された範囲を輪読し、書かれている内容をつかんだ後で、それについて英語で話し合います。参加者の人数が多い場合は、分担で発表をしてもらいます。指定された範囲の内容について、自分の意見を英語でメモするなど事前準備をしておくことで、怖がらずにディスカッションに参加してください。

[]

[]

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の内容と進め方について相談
第 2 回	文献購読 (1)	内容の理解とディスカッション
第 3 回	文献購読 (2)	内容の理解とディスカッション
第 4 回	文献購読 (3)	内容の理解とディスカッション
第 5 回	文献購読 (4)	内容の理解とディスカッション
第 6 回	文献購読 (5)	内容の理解とディスカッション
第 7 回	文献購読 (6)	内容の理解とディスカッション
第 8 回	文献購読 (7)	内容の理解とディスカッション
第 9 回	文献購読 (8)	内容の理解とディスカッション
第 10 回	文献購読 (9)	内容の理解とディスカッション
第 11 回	文献購読 (10)	内容の理解とディスカッション
第 12 回	文献購読 (11)	内容の理解とディスカッション
第 13 回	文献購読 (12)	内容の理解とディスカッション
第 14 回	文献購読 (13)	内容の理解とディスカッション
第 15 回	文献購読 (14) とレポートの説明	内容の理解とディスカッション、その後レポートについて説明します

**【授業外に行うべき学習活動 (準備学習等)】**

毎週、テキストの指定された範囲を精読しておいてください。また、指定された範囲の内容について自分の意見を英語で言えるように準備をしておいてください。

**【テキスト】**

Rachel Carson, Silent Spring (Boston: Houghton Mifflin, 2002)  
Mariner Books の Anniversary 版です。

**【参考書】**

授業中に随時指示します。

**【成績評価基準】**

出席、授業への取り組み、レポートから総合的に判断します。

**【学生による授業改善アンケートからの気づき】**

新規担当につき該当なし

**【関連の深いコース】**

環境教養、国際環境

**研究会 (B)**

谷本 有美子、小島 聡

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：火 4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業のテーマ】**

基本テーマは「自治体で働くということ」です。卒業後に自治体で公共政策の担い手となることを目指す学生のために、筆記試験対策とは異なる観点からキャリアデザインを支援します。

**【授業の到達目標】**

第 1 に自治体職員のキャリアイメージを形成すること、第 2 に自治体職員になるための目的意識を涵養すること、第 3 に市民性を備え、広い視野を持って地域課題に対応できる能力について理解を深めることです。

[]

**【授業の概要と方法】**

自治体職員に関する基礎的知識を学ぶ講義や、時事問題から政策課題を発見するテーマ討論、文献購読やゲストスピーカーからの聞き取りによるケース分析、学生が自ら選んだ地域の課題と政策動向に関する調査などを組み合わせながら、主体的に学ぶ機会を提供します。

[]

[]

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	研究会の進め方についての説明と討論形式で自治体職員のミッションについて考える
第 2 回	講義「自治体職員に共通するしくみと使命」	公務員制度や自治体の役割など全国に共通するしくみ及び自治体職員の使命について概説
第 3 回	自治体の政策課題の発見 (1)	最近の報道から自治体に関連しそうな課題を抽出し、受講者がレポート、その対策アイデアを検討
第 4 回	自治体の政策課題の発見 (2)	第 3 回の続き
第 5 回	ケース分析「自治体職員の仕事 (1)」	テキストの事例を題材に自治体職員の仕事について受講者がレポート
第 6 回	ケース分析「自治体職員の仕事 (2)」	第 5 回の続き
第 7 回	自治体職員 (ゲストスピーカー) に関く	現職の自治体職員をゲストスピーカーとして招き、職務の実際について聞き取り
第 8 回	自治体職員のキャリア形成を考える	ゲストスピーカーからの聞き取り内容と文献からのケース分析を比較しながら、キャリア形成に焦点を当てて討議
第 9 回	自治体管理職 (ゲストスピーカー) に関く	自治体の管理職をゲストスピーカーとして招き自治体職員に求められる資質や能力について聞き取り
第 10 回	政策形成思考のトレーニング (1)	各自が関心を持った自治体の総合計画等を持ち寄りレポート、それらを題材に重点施策と地域特性との関係に焦点を絞って討議
第 11 回	政策形成思考のトレーニング (2)	第 10 回の続き
第 12 回	政策形成思考のトレーニング (3)	第 10・11 回の続き
第 13 回	実践「市民との対話」	自治体現場の事例をもとに職員と市民との対話の場を模擬体験
第 14 回	現地体験	フィールド調査と役所訪問 (予定)
第 15 回	総括討論	学習した内容を振り返りつつ、自治体職員の役割・あるべき像などについて総括的に討論

**【授業外に行うべき学習活動 (準備学習等)】**

・テーマ討論や講義内容に関する事前学習  
・ゲストスピーカーからの聞き取りのための事前学習  
・関心を持った自治体の政策や地域資源等についての情報収集

**【テキスト】**

稲継裕昭『現場直言！ プロ公務員の変革力—成功をもたらす7つの力』(学陽書房)

**【参考書】**

授業内で適宜指示します。

**【成績評価基準】**

出席、課題の履行と提出、参加姿勢による総合評価とします。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

2012 年度より担当

## 【関連の深いコース】

地域環境

## 研究会修了論文

## 人間環境学部教員

配当年次／単位：4 年／2 単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

Aタイプ研究会を、原則として2年間または3年間継続して履修した成果をまとめた論文を作成する。  
(詳細については「履修の手引き」参照)

## 【授業の到達目標】

研究会修了論文の執筆。

[]

## 【授業の概要と方法】

研究会修了論文の作成の方法と手順について、各A研究会の中で指導していく。問題意識とテーマ設定、先行研究の調査、データ分析、論文完成に至る作業プロセスなど、具体的に指導する。  
なお、下記の授業計画は、あくまで一例であるので、各指導教員の指示に従うこと。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	論文の書き方	基本的な論文の書き方を学ぶ。
第2回～	テーマの設定と構成	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第4回		論文に関連する資料を収集する。
第5回～	資料の収集	
第9回		
第10回	情報の整理	収集した情報を整理する。
～		
第12回		
第13回	執筆	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
～		
第15回		

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

研究会修了論文は基本的に課外学習として行うので、各教員の指示にしたがい、計画的に進めること。

## 【テキスト】

各教員が指示するとおり。

## 【参考書】

小笠原喜康,2009,「大学生のためのレポート・論文術」講談社  
戸田山和久,2002,「論文の教室: レポートから卒論まで」日本放送出版協会  
澤田昭夫,1977,「論文の書き方」講談社  
等、適宜紹介する。

## 【成績評価基準】

構成、参考文献など、論文としての体裁が整っていることが最低条件。さらに内容の独創性に応じて評価を行う。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

## 【その他】

- ・Bタイプ研究会受講者は登録できない。
- ・各自のテーマに従って、関連する論文や文献についてよく研究し、計画的に進めること。
- ・研究会修了論文は後期科目であるため、「後期履修登録期間」に登録を忘れないように注意すること。

## 人間環境セミナーⅠ

長谷川 直哉、國則 守生、堀内 行蔵

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：前期授業 | 曜日・時限：土3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

環境経営の最前線

## 【授業の到達目標】

環境経営に関する最近の動向を紹介し、持続可能な社会を構築するためのキープレイヤーである企業とNPOの役割について理解を深めることを目標としています。

[]

## 【授業の概要と方法】

本セミナーでは、企業やNPOで環境経営に取り組まれている方を講師としてお招きし、それぞれの活動内容についての講演を聴講します。各講師の豊かな知見や実務経験に触れることで、受講者の視野が広がることを期待しています。

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス セミナー	セミナーのねらいと進め方 各回講師と講演タイトル紹介 外部講師による講義
第2回	セミナー	外部講師による講義
第3回	セミナー	外部講師による講義
第4回	セミナー	外部講師による講義
第5回	セミナー	外部講師による講義
第6回	セミナー	外部講師による講義
第7回	セミナー	外部講師による講義
第8回	セミナー	外部講師による講義
第9回	セミナー	外部講師による講義
第10回	セミナー	外部講師による講義
第11回	セミナー	外部講師による講義
第12回	セミナー	外部講師による講義
第13回	セミナー	外部講師による講義
第14回	セミナー	外部講師による講義
第15回	試験	これまでの講義内容について、筆記試験を実施します。

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

各回で配布されたプリントを復習してください。

企業が発行する環境（CSR）報告書や環境経営に関する新聞記事、書籍を読むように心がけてください。

## 【テキスト】

テキストは使用しません。外部講師が必要に応じて資料を配布します。

## 【参考書】

参考書は、外部講師が必要に応じて紹介します。

## 【成績評価基準】

成績評価の基準は、出席50%、期末試験50%です。

出席は毎回とります。

10分以上遅れて入室することは認められず、欠席扱いとします。

4回以上の欠席はD評価となります。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

学生が興味を持ち、自主的に学習できるようなテーマを選びます。

## 【学生が準備すべき機器他】

プロジェクター

## 【関連の深いコース】

環境経営

## 人間環境セミナーⅡ

宮川 路子、朝比奈 茂

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：後期授業 | 曜日・時限：土3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業のテーマ】

現代社会を健康に生きるために

## 【授業の到達目標】

現代社会における健康関連の問題に着目し、最先端の知識を身につけ、健康に生きていくためのすべを学ぶことを目標としています。

[]

## 【授業の概要と方法】

本セミナーでは、学外からそれぞれの専門分野の講師をお招きして、各テーマについての講演を聴講します。各講師の豊かな講義と経験に触れることで、皆さんの視野が広がることを期待しています。

担当者：朝比奈、宮川

[]

[]

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	セミナーのねらいと進め方について 各回の講師と講演タイトルについては、4月以降、決定次第揭示します。
第2回	セミナー	外部講師による講義
第3回	セミナー	外部講師による講義
第4回	セミナー	外部講師による講義
第5回	セミナー	外部講師による講義
第6回	セミナー	外部講師による講義
第7回	セミナー	外部講師による講義
第8回	セミナー	外部講師による講義
第9回	セミナー	外部講師による講義
第10回	セミナー	外部講師による講義
第11回	セミナー	外部講師による講義
第12回	セミナー	外部講師による講義
第13回	セミナー	外部講師による講義
第14回	セミナー	外部講師による講義
第15回	試験	これまでの講義内容につき、筆記試験を実施します。

## 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

各回で配布されたプリントを復習してください。また、日ごろから健康に関連した新聞記事や本を読むように心がけてください。

## 【テキスト】

テキストは使用しません。外部講師が、必要に応じて資料を配布します。

## 【参考書】

参考書は、外部講師が、必要に応じて紹介します。

## 【成績評価基準】

評価の比重は出席50%、期末テスト50%です。出席は毎回とります。10分以上遅れて入室することは認められず、欠席扱いとします。4回以上の欠席はD評価となります。

期末テストでは、各講義で紹介されたキーワードのような基礎的な事項に関する試験（マークシート式）を行う予定です。

## 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

学生が興味を持ち、自主的に学習できるようなテーマを選びます。

## 【関連の深いコース】

環境教養

## インターンシップ

### 人間環境学部教員

配当年次／単位：3～4年／2単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

#### 【授業のテーマ】

就業体験を通じたキャリア形成

#### 【授業の到達目標】

在学中に企業・行政組織・NPOなどで短期の就業を体験することでキャリア形成への意識を高め、卒業後の進路選択に資することを目標とする。

[]

#### 【授業の概要と方法】

大学外での就業体験であるため通常の授業と異なり、実習先での学習と就業体験が主たる内容となります。そのため、大学では準備のための指導および実習後の指導を行います。実習機関によって内容が異なりますので担当教員による個別指導が中心となります。なお、実習は、通常の大学での学習を阻害しないことが条件となります。詳しくは、「履修の手引き」を参照してください。

[]

[]

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	インターンシップ説明会 (前・後期セメスターで各一回行います)	履修を希望する場合必ず出席しなければなりません。 出席者の名簿が「履修希望者名簿」となり、この名簿に記載されていない場合、科目履修はできません。
第2回	「インターンシップ申込書」の提出	担当教員による面接で実習期間や実習内容について審査し、科目登録の可否を通知します。
第3回	「インターンシップ実習計画書」の提出	履修が許可された場合、実習受け入れ機関や実習プログラムに関する所定の項目を記入し提出する。これと同時に「インターンシップ保険」の手続きを行いません。保険料は不要です。「キャリアセンター」で手続きをします。これは科目履修の必須条件です。
第4回～ 第13回	実習	上記の第1回～第3回の手続きを終えた後、実習を行います。
第14回	実習終了後「インターンシップ実習報告書」の作成	作成に当たっては担当教員の指導を受けなければなりません。
第15回	インターンシップ実習報告会(実習終了後のセメスターに開催)	実習終了後のセメスターに開催される「インターンシップ実習報告会」で口頭発表を行います。

#### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

実習機関の検索と選択は各自が自主的に行わなければなりません。実習先の業種・業務の特色など、担当教員の指導により、事前の情報収集(参考文献や資料)を行い実習の効果を高めることが望まれます。

#### 【テキスト】

特になし。

#### 【参考書】

個別に指導します。

#### 【成績評価基準】

この科目は通常の成績評価は行わず、「単位認定」をおこないます。

この科目はGPAの対象科目とはなりません。

#### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

非実施科目につき該当なし

#### 【その他】

履修・単位登録に関する注意事項

- ①登録時期：実習終了後のセメスター登録時に行います。
- ②履修手続き、書類の配布、提出はすべて学務窓口です。「説明会」において手続きに関する文書を配布します。
- ③履修上限は4単位です、ただし1セメスターの登録は2単位までです。

## フィールドスタディ

### 人間環境学部教員

配当年次／単位：1～4年／2単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

#### 【授業のテーマ】

・「人間環境学」に関連するさまざまな現場(自然環境や社会環境)を訪れ、現地で生起している問題に対するとりくみについて実習する。  
・社会との交流・連携を重視するこの学部のカリキュラムの特色を体現する教育プログラムである。

#### 【授業の到達目標】

教室での講義や文献から学んだ事柄を、「現場」における実体験を通じて検証し、改めて啓発を受けて自らの問題意識を高められること。

[]

#### 【授業の概要と方法】

各コースでは、実施テーマに応じて事前学習を行う。それに基づいて現地での観測・観察や調査、施設での実習などを行う。現地学習終了後は事後の学習や報告会、小テストなどを行う。各コースの構成はそれぞれ異なるので、掲示に注意すること。また「履修の手引き」も参照すること。

[]

[]

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	事前オリエンテーション	フィールドスタディの概略を把握する。
第2回～ 第4回	事前講義	各分野(自然環境保護、廃棄物処理・リサイクル、社会福祉、農業、まちづくり)について講義を行う。
第5回～ 第11回	現地実習・観察	現地での観測・観察や調査、施設での実習などを行う。なお、実習の日程はコースによって異なる。基本は3泊4日であるが、国内遠距離地域や海外でのフィールドスタディは1週間から10日前後に及ぶこともある。
第12回	報告会	現地実習について担当教員が総括的な説明を行うとともに、学生による報告や反省および討論等を行い、あるいはコースによっては試験を行う。
第14回		与えられたテーマについてレポートを作成し、提出する。
第15回	レポート提出	

#### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

コースに応じ、オリエンテーションなどで適宜指示する。

#### 【テキスト】

コースに応じ、オリエンテーションなどで適宜指示する。

#### 【参考書】

コースに応じ、オリエンテーションなどで適宜指示する。

#### 【成績評価基準】

コースに応じ、オリエンテーションなどで適宜指示する。

#### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

非実施科目につき該当なし

#### 【その他】

- ・参加確定後は原則としてキャンセルを認めない。
- ・参加には交通機関や宿泊施設など別途費用がかかるので、注意すること。自分の都合でキャンセルした場合、原則として費用は返還されない。